千葉県教育振興財団調査報告第545集

流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書1

― 流山市市野谷宮尻遺跡 ―

平成18年3月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書1

― 流山市市野谷宮尻遺跡 ―

SI027竪穴住居跡出土墨書土器

赤外線写真

序　文

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年９月１日付で名称変更）は，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県教育振興財団調査報告第545集として，独立行政法人都市再生機構の流山新市街地地区土地区画整理事業に伴って実施した流山市市野谷宮尻遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代前期の多くの竪穴住居跡とともに，多量の土器が検出され，特に竪穴住居跡から出土した墨書土器は，全国的にも注目されており，この地域の古墳時代前期の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，本書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年３月

財団法人　千葉県教育振興財団
理事長　佐　藤　健太郎

凡　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構による流山新市街地地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県流山市西初石５丁目54ほかに所在する市野谷宮尻遺跡（遺跡コード220－046）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，独立行政法人都市再生機構の委託を受け，財団法人千葉県文化財センター（平成17年９月１日付で財団法人千葉県教育振興財団と名称変更）が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆・編集は，主席研究員　栗田則久が担当した。

6　墨書土器の釈文及び赤外線撮影については，大学共同利用機関法人　人間文化機構国立歴史民俗博物館長平川　南氏の御指導，御協力を得た。なお，巻首図版の赤外線写真は，同氏から提供を受けた。

　また，松阪市埋蔵文化財センター　和氣清章氏，長浜市教育委員会歴史文化課　西原雄大氏，安城市埋蔵文化財センター　川崎みどり氏，金沢市埋蔵文化財センター　小西昌志氏に資料の実見などで御協力，御教示を得た。

7　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構及び流山市教育委員会の御指導，御協力を得た。

8　本書で使用した地形図は以下のとおりである。

　第２図　国土地理院発行　1/25,000地形図「流山」（N1－54－25－1－2）

9　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和48年撮影のものを使用した。

10　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北であり，測量値は日本測地系による。

挿図目次

第 1 図　グリッド名称例……3
第 2 図　遺跡の位置と周辺の遺跡……5
第 3 図　調査区域と周辺の地形……7
第 4 図　確認調査設定図……8
第 5 図　遺構分布図……9
第 6 図　旧石器時代出土石器 ……10
第 7 図　SI064 ……11
第 8 図　SI098 ……12
第 9 図　SK070・SK096 ……13
第10図　グリッド出土縄文土器（1）……15
第11図　グリッド出土縄文土器（2）……16
第12図　グリッド出土縄文土器（3）……17
第13図　グリッド出土縄文土器（4）……18
第14図　グリッド出土縄文土器（5）……19
第15図　グリッド出土縄文土器（6）……20
第16図　グリッド出土石器（1）……21
第17図　グリッド出土石器（2）……22
第18図　SI001 ……24
第19図　SI002（1）……25
第20図　SI002（2）……26
第21図　SI003 ……27
第22図　SI004 ……28
第23図　SI005（1）……29
第24図　SI005（2）……30
第25図　SI006 ……31
第26図　SI007 ……32
第27図　SI008 ……33
第28図　SI009 ……34
第29図　SI010（1）……35
第30図　SI010（2）……36
第31図　SI011 ……37
第32図　SI012 ……38
第33図　SI013 ……39
第34図　SI014 ……40
第35図　SI015 ……41
第36図　SI016 ……42
第37図　SI017 ……43
第38図　SI018 ……44
第39図　SI019 ……45
第40図　SI020 ……46
第41図　SI021 ……47
第42図　SI022（1）……48
第43図　SI022（2）……49
第44図　SI023 ……50
第45図　SI024（1）……51
第46図　SI024（2）……52
第47図　SI025 ……54
第48図　SI026 ……55
第49図　SI027（1）……56
第50図　SI027（2）……57
第51図　SI028（1）……58
第52図　SI028（2）……59
第53図　SI028（3）……60
第54図　SI029 ……61
第55図　SI030（1）……62
第56図　SI030（2）……64
第57図　SI031 ……65
第58図　SI032 ……66
第59図　SI033 ……67
第60図　SI034（1）……68
第61図　SI034（2）……69
第62図　SI035（1）……70
第63図　SI035（2）……71
第64図　SI036 ……71
第65図　SI037 ……72
第66図　SI038 ……73
第67図　SI039 ……74
第68図　SI040 ……75

第69図　SI041 ……76
第70図　SI042 ……77
第71図　SI043 ……78
第72図　SI044（1）……80
第73図　SI044（2）……81
第74図　SI044（3）……82
第75図　SI045 ……83
第76図　SI046 ……84
第77図　SI047 ……85
第78図　SI048 ……87
第79図　SI049 ……88
第80図　SI050 ……89
第81図　SI051 ……90
第82図　SI052 ……91
第83図　SI053 ……93
第84図　SI054（1）……94
第85図　SI054（2）……95
第86図　SI055 ……96
第87図　SI056 ……97
第88図　SI058 ……98
第89図　SI059 ……99
第90図　SI060 ……100
第91図　SI062・069 ……101
第92図　SI063 ……102
第93図　SI065 ……103
第94図　SI066 ……104
第95図　SI067 ……105
第96図　SI068 ……106
第97図　SI071 ……107
第98図　SI073 ……109
第99図　SI074 ……110
第100図　SI075 ……111
第101図　SI076 ……112
第102図　SI077 ……114
第103図　SI078 ……115
第104図　SI079（1）……116
第105図　SI079（2）……117
第106図　SI079（3）……118
第107図　SI080（1）……119
第108図　SI080（2）……120
第109図　SI081（1）……121
第110図　SI081（2）……122
第111図　SI082 ……124
第112図　SI083 ……125
第113図　SI085 ……126
第114図　SI086 ……127
第115図　SI087 ……128
第116図　SI088 ……129
第117図　SI089 ……130
第118図　SI090 ……131
第119図　SI091 ……132
第120図　SI092（1）……134
第121図　SI092（2）……135
第122図　SI092（3）……136
第123図　SI093 ……137
第124図　SI094 ……138
第125図　SI099 ……139
第126図　竪穴住居跡出土鉄器……141
第127図　SK057・061・084・100 ……141
第128図　グリッド出土遺物（1）……142
第129図　グリッド出土遺物（2）……143
第130図　グリッド出土遺物（3）……144
第131図　遺構外出土土器 ……145
第132図　出土土器変遷図（1）……148
第133図　出土土器変遷図（2）……149
第134図　県内出土北陸系装飾器台集成図……150
第135図　集落変遷図……151
第136図　時期別主軸方向分布図……153
第137図　時期別長軸長分布図……153
第138図　土器片使用炉集成図……153
第139図　釈文候補文字……155
第140図　ひたちなか市武田西塙遺跡墨書土器…155
第141図　弥生～古墳時代前期墨書・刻書資料…158

表目次

第1表　周辺遺跡一覧表 ……6
第2表　旧石器・縄文時代石器属性表……22
第3表　竪穴住居跡一覧表 ……159
第4表　古墳時代出土土器観察表 ……161

図版目次

巻頭図版　墨書土器
図版1　遺跡周辺航空写真
図版2　調査前風景
　　航空写真
図版3　SI064
　　SI098
　　SK070
　　SK096
図版4　SI001
　　SI001遺物出土状況
　　SI001貯蔵穴
　　SI002
　　SI002遺物出土状況
　　SI002出土土器
図版5　SI003
　　SI003遺物出土状況
　　SI004
　　SI004遺物出土状況
　　SI004炉セクション
図版6　SI005
　　SI006
　　SI007
図版7　SI008
　　SI008遺物出土状況
　　SI008出土土器
　　SI009
　　SI010遺物出土状況
　　SI010出土土器
図版8　SI010
　　SI010貯蔵穴内土器
　　SI010炉
　　SI011・SK057
　　SI011遺物出土状況
　　SI011炉
図版9　SI012
　　SI012出土土器
　　SI012ピット内出土土器
　　SI013
　　SI013出土土器
　　SI013炉
図版10　SI014
　　SI014礫集中
　　SI015遺物出土状況
　　SI015
　　SI015出土土器
図版11　SI016
　　SI017
　　SI017ピット内出土土器
　　SI018
図版12　SI019
　　SI019ピット内出土土器
　　SI020
　　SI021
　　SI021ピット内出土土器
図版13　SI022
　　SI022遺物出土状況

SI022出土土器
SI023・SK061
SI024出土土器
SI024遺物出土状況
図版14 SI024
SI025
SI025出土土器
SI026
SI026出土土器
図版15 SI027
SI027墨書土器出土状況
SI028
SI028遺物出土状況
SI029
図版16 SI030
SI030出土土器
SI031
SI032
SI032出土土器
図版17 SI033
SI033遺物出土状況
SI034
SI034遺物出土状況
SI034炉
SI034出土土器
SI035出土土器
図版18 SI035
SI036
SI036出土土器
SI038出土土器
図版19 SI037
SI037遺物出土状況
SI038
SI039
図版20 SI040
SI041
SI042
図版21 SI043
SI044
SI044出土土器
SI044ピット内出土土器
図版22 SI045
SI045出土土器
SI046
SI046出土土器
SI047
図版23 SI048
SI048出土土器
SI048遺物出土状況
SI049
SI049勾玉出土状況
SI049出土土器
図版24 SI050
SI050出土土器
SI051
SI051遺物出土状況
SI052
SI052出土土器
図版25 SI053
SI053遺物出土状況
SI054
SI054出土土器
SI056
図版26 SI058
SI059
SI059出土土器
SI060
SI060出土土器
図版27 SI062
SI063
SI063ピット内出土土器
SI063出土土器
SI063遺物出土状況
図版28 SI065
SI065出土土器
SI066
SI067
SI067遺物出土状況
図版29 SI068
SI068遺物出土状況

SI069
SI071
図版30 SI071遺物出土状況
SI071礫出土
SI073
SI073ピット内出土土器
SI073遺物出土状況
SI074
図版31 SI074出土土器
SI075
SI075出土土器
SI076
図版32 SI076出土土器
SI076遺物出土状況
SI077
SI077遺物出土状況
SI077出土土器
SI078
図版33 SI078遺物出土状況
SI078出土土器
SI079
SI079遺物出土状況
SI080
SI080出土土器
図版34 SI081
SI081遺物出土状況
SI082
SI083
図版35 SI085
SI085遺物出土状況
SI085ピット内出土土器
SI086
SI086出土土器
SI087出土土器
SI087遺物出土状況
図版36 SI087
SI087土製勾玉
SI088
SI088出土土器
SI089
SI089遺物出土状況
図版37 SI090
SI091
SI092
SI092遺物出土状況
図版38 SI093
SI094
SI099
SI099ピット内粘土
図版39 竪穴住居跡出土縄文土器
図版40 グリッド出土縄文土器（1）
図版41 グリッド出土縄文土器（2）
図版42 グリッド出土縄文土器（3）
図版43 グリッド出土縄文土器（4）
図版44 グリッド出土縄文土器（5）
図版45 グリッド出土石器
図版46 竪穴住居跡出土土器（1）
図版47 竪穴住居跡出土土器（2）
図版48 竪穴住居跡出土土器（3）
図版49 竪穴住居跡出土土器（4）
図版50 竪穴住居跡出土土器（5）
図版51 竪穴住居跡出土土器（6）
図版52 竪穴住居跡出土土器（7）
図版53 竪穴住居跡出土土器（8）
図版54 竪穴住居跡出土土器（9）
図版55 竪穴住居跡出土土器（10）
図版56 竪穴住居跡出土土器（11）
図版57 竪穴住居跡出土土器（12）
図版58 竪穴住居跡出土土器（13）
図版59 竪穴住居跡出土土器（14）
図版60 竪穴住居跡出土土器（15）
図版61 竪穴住居跡出土土器（16）
図版62 竪穴住居跡出土土器（17）
図版63 竪穴住居跡出土土器（18）・グリッド出土土器（1）
図版64 グリッド出土土器（2）
図版65 グリッド出土土器（3）

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

独立行政法人都市再生機構は，常磐新線（つくばエクスプレス）に関連して，流山新市街地地区土地区画整理事業を計画した。実施にあたって，独立行政法人都市再生機構から用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会あてに提出され，その取り扱いについて，千葉県教育委員会との慎重な協議が重ねられた。その結果，現状保存が困難な地点については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることで協議が整い，財団法人教育振興財団が発掘調査を実施することとなった。発掘調査は，平成12年度から平成14年度にわたって行われた。

調査は，平成12年12月に市野谷野尻遺跡（１）の確認調査から開始された。その後，同遺跡（２）～（５）の確認調査と本調査を実施した。対象面積73,296㎡に対して，上層6,962㎡，下層2,390㎡の確認調査を行った結果，上層については29,065㎡を対象に本調査を実施した。下層については，広がりが認められないため，確認調査で終了した。平成15年２月にすべての発掘調査が終了した。

整理作業は，平成15年度から平成17年度にかけて行った

発掘調査及び整理作業に関わる各年度の組織・担当職員及び作業内容は以下のとおりである。

（１）発掘調査

平成12年度（１）

調査期間：平成12年12月１日～平成13年３月27日

内容：（上層）確認調査　6,000㎡のうち720㎡

本調査　1,830㎡

（下層）確認調査　6,000㎡のうち272㎡

本調査　なし

組織：西部調査事務所長　及川淳一

担当者：副所長　岡田誠造　　上席研究員　織田良昭　立石圭一

平成13年度（２・２－１・３）

（２）

調査期間：平成13年４月５日～平成13年９月28日

内容：（上層）確認調査　28,012㎡のうち2,802㎡

本調査　1,145㎡

（下層）確認調査　28,012㎡のうち1,204㎡

本調査　なし

組織：西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：上席研究員　角谷敏昭

（2－1）

調査期間：平成13年8月1日～平成13年9月28日

内容：（下層）確認調査　5,311㎡のうち106㎡

本調査　　なし

組織：西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：上席研究員　角谷敏昭

（3）

調査期間：平成14年2月1日～平成14年2月28日

内容：（上層）確認調査　2,773㎡のうち320㎡

本調査　　1,820㎡

（下層）確認調査　2,773㎡のうち116㎡

本調査　　なし

組織：西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：副所長　岡田誠造

平成14年度（4・5）

（4）

調査期間：平成14年5月1日～平成14年12月20日

内容：（上層）確認調査　28,500㎡のうち2,850㎡

本調査　　22,020㎡

（下層）確認調査　28,500㎡のうち636㎡

本調査　　なし

組織：西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：上席研究員　木下圭司

（5）

調査期間：平成14年11月1日～平成15年2月27日

内容：（上層）確認調査　2,700㎡のうち270㎡

本調査　　2,250㎡

（下層）確認調査　2,700㎡のうち56㎡

本調査　　なし

組織：西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：上席研究員　木下圭司

（2）整理作業

平成15年度

内容：水洗注記から実測の一部まで

組織：調査部副部長兼整理課長　深澤克友　　西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：副所長兼主席研究員　高橋博文　主席研究員　栗田則久

平成16年度

内容：実測の一部

組織：調査部整理課長　及川淳一　　西部調査事務所長　田坂　浩

担当者：主席研究員　栗田則久

平成17年度

内容：実測の一部から刊行まで

組織：調査部整理課長　加藤修司

担当者：整理課長　加藤修司　　主席研究員　栗田則久

2　調査の方法と概要

調査にあたっては，国土方眼座標（第Ⅸ座標系）に基づいたグリッドの設定を行っている。新市街地地区内に所在する遺跡群全体に調査対象範囲を覆うように，20×20mの方眼網を設定し，これを大グリッドとした。大グリッドの名称は，南北方向を北から１，２，３…，東西方向は西からA，B，C…とし，この数字とアルファベットを組み合わせて大グリッド名とした。本遺跡の調査範囲が含まれるグリッドは，東西方向にL～S，南北方向に23～32である（第３図）。この大グリッドを２×２mの小グリッドに100分割し，北から00～90，西から00～09とした。この大グリッドと小グリッドを組み合わせて，例えば26M－20というように呼称した（第１図）。

上層の確認調査は，まず調査対象面積の10%について，トレンチ及び一部グリッドを設定して遺構の種類や時期及び遺構の広がりを確認するために行った。このトレンチは，調査地の地形や調査範囲にあわせて東西方向に設定し，状況に応じて拡張しながら全体の把握に努めた。その結果，古墳時代中期の竪穴住居跡などを多数検出した。確認調査の結果を受けて，年度ごとに本調査範囲を決定し，順次本調査を実施した。

本調査にあたっては，各遺構に種別ごとの通し番号を付した。各遺構の種別については，アルファベットの略称で，竪穴住居跡にはSI，土坑にはSKを冠し，これに通し番号を付けた。なお，年度ごとに001から番号を付けており，遺跡内で同一番号の遺構が生じてしまうため，整理段階で平成14年度の５次調査を基本に遺構番号を付け替えた。

上層の本調査終了後，調査対象面積の４%について２×２mのグリッドを設定し，下層の確認調査を行った。その結果，まとまった遺物の出土が確認されなかったため，本調査は行わず，部分的に拡張し，確認調査で終了とした。

00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

0　(1/80)　40m

第１図　グリッド名称例

第２節　遺跡の位置と環境（第２図）

1　遺跡の位置

市野谷宮尻遺跡の所在する流山市は，千葉県の北西部，東京湾に流入する江戸川の東側，河口からは約30km北側に入る。近年，常磐自動車道流山インターチェンジ周辺の大規模な区画整理や常磐新線（つくばエクスプレス）の開通に伴う開発など，急激な都市化が進んでいる。

市野谷宮尻遺跡は，流山市のほぼ中央，江戸川の支流によって開析された小支谷に面する標高約20mの台地上に所在する。台地上はほぼ平坦であるが，東側と西側に谷が入り，平坦面は約350mの幅で南北に細長い形状を呈している。

2　遺跡の歴史的環境

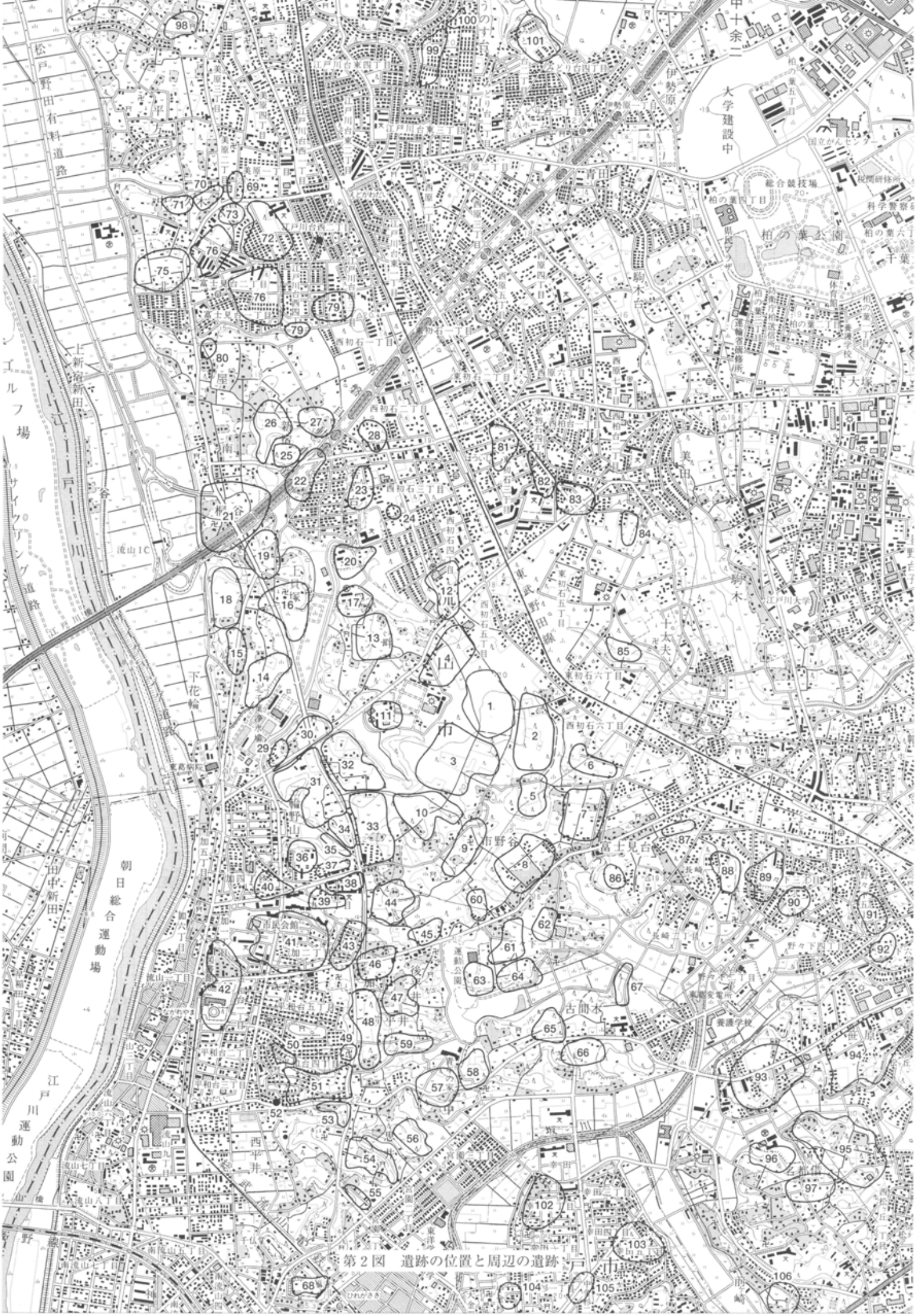
市野谷宮尻遺跡の所在する江戸川東岸には数多くの遺跡が確認されている。ここでは，本遺跡に関係する縄文時代から平安時代の主な遺跡を取り上げることとする。なお，遺跡の名称等については，『千葉県埋蔵文化財分布地図（1）－東葛飾・印旛地区（改訂版）』に従っている。

縄文時代の遺跡はきわめて多い。早期では，三輪野山第Ⅲ遺跡で鵜ヶ島台式の竪穴住居や炉穴が調査されている。他に，加地区遺跡群でも炉穴がみられる。前期になると，多くの遺跡で集落が調査されている。松戸市の幸田貝塚では関山式期を主体とした竪穴住居が多数検出された。流山市内では，三輪野山遺跡群で良好な資料がみられる。若葉台遺跡では，黒浜式期の竪穴住居が10軒検出され，内1軒には貝層が含まれている。この貝層を伴う竪穴住居は三輪野山道六神遺跡でも多数調査されている。黒浜式期の竪穴住居は三輪野山北浦遺跡でも検出されている。諸磯式期では，長崎遺跡のやはり貝層を伴う竪穴住居から良好な資料が出土している。中期では，後半に多くの遺跡が見られる。中野久木谷頭遺跡では，中峠式期から加曽利E式前半期にかけての大規模な環状集落が形成されている。後期の遺跡も中期に引き続き多くの遺跡が所在する。江戸川台第1遺跡や花山東遺跡などで集落が検出されている。貝塚も多く形成され，三輪野山貝塚や上新宿貝塚・上貝塚は大規模な環状貝塚として知られている。晩期中頃までは資料が確認されているが，以降はほとんどみられなくなる。

弥生時代の遺跡は，縄文時代晩期を受け継ぐように少ない。集落としては，現在のところ，加村台遺跡で中期後半の竪穴住居が5軒検出された程度である。この他に，平方向原遺跡・桐ヶ谷新田第Ⅰ遺跡・下花輪荒井前遺跡・三輪野山道六神遺跡で弥生時代の土器片が確認されているのみである。

古墳時代になると一変して多くの遺跡が出現してくる。前期の集落では，本遺跡が圧倒的に規模の大きな集落となっているが，三輪野山北浦遺跡では小面積の調査ながら12軒の竪穴住居が検出されており，台地全体を考えればやはり大きな集落となろう。東深井第Ⅰ遺跡では，7軒の竪穴住居と方形周溝墓が調査されている。他に，大畦台遺跡や三輪野山第Ⅲ遺跡などで数軒の竪穴住居が検出されている。中期になると，再び遺跡数が減少してくる。桐ヶ谷新田第Ⅰ遺跡から2軒，三輪野山北浦遺跡，三輪野山八重塚遺跡で各1軒確認された程度である。ただ，市野谷宮尻遺跡と同一台地上に隣接する西初石五丁目遺跡からは多くの竪穴住居が調査されており，宮尻遺跡の集落変遷を考える上で重要な遺跡である。現在整理中であり，その成果が注目される。後期になると，再び遺跡数が増加してくる。上貝塚遺跡・上貝塚Ⅱ遺跡・谷遺跡などで集落が調査されており，加遺跡群では比較的大規模な集落もみられる。

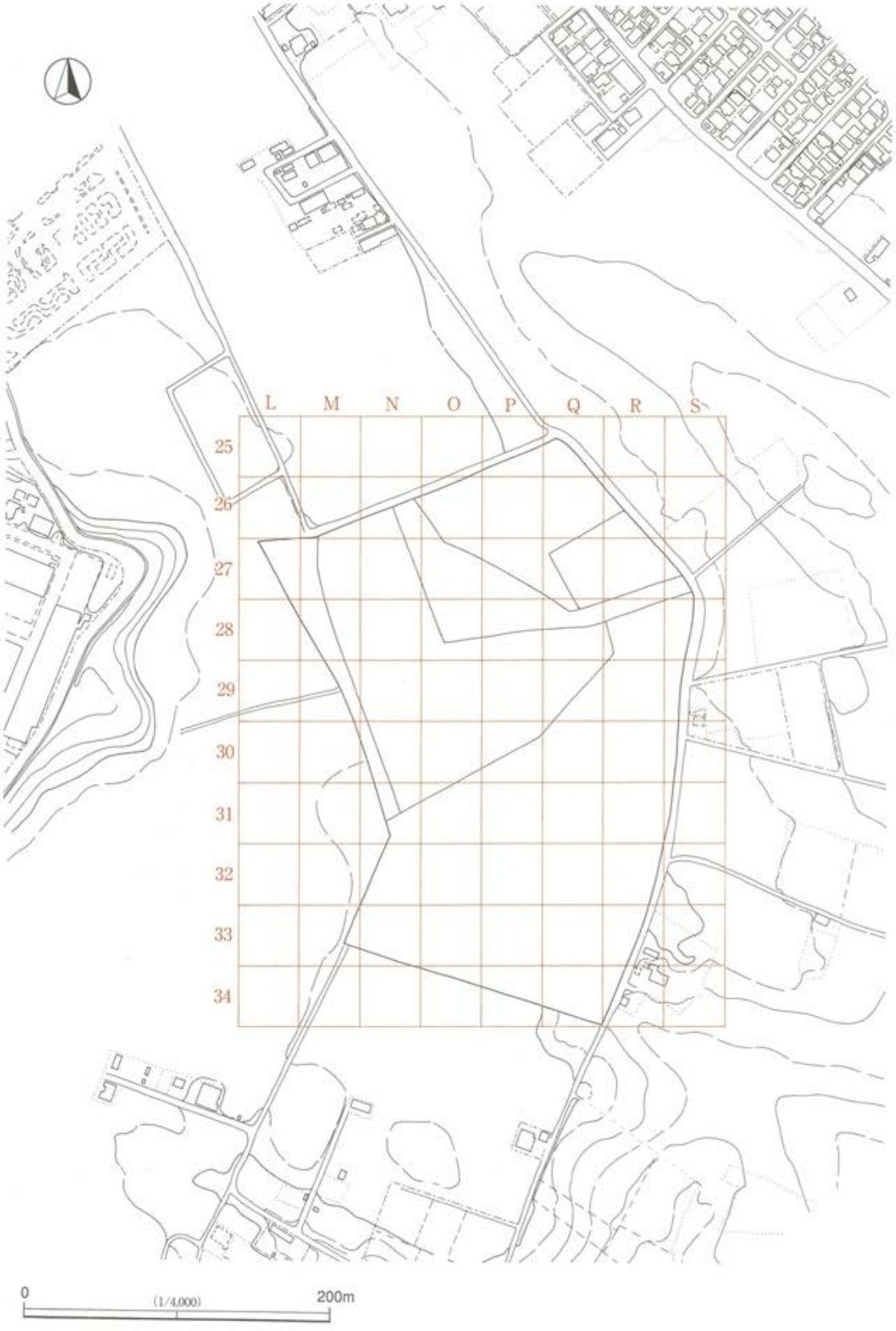
奈良・平安時代では，やはり加遺跡群で集落が検出されている。



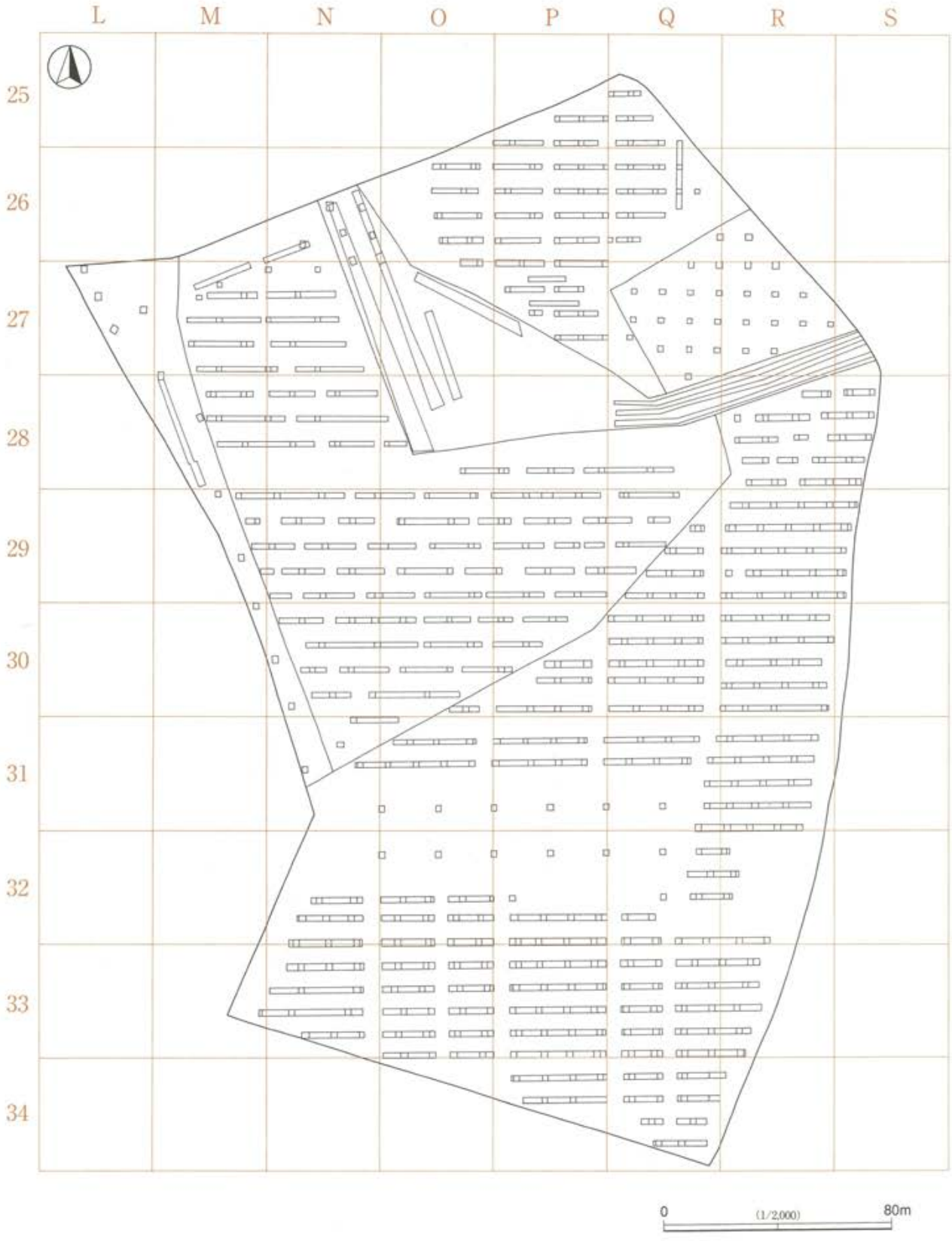
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第1表　周辺遺跡一覧表

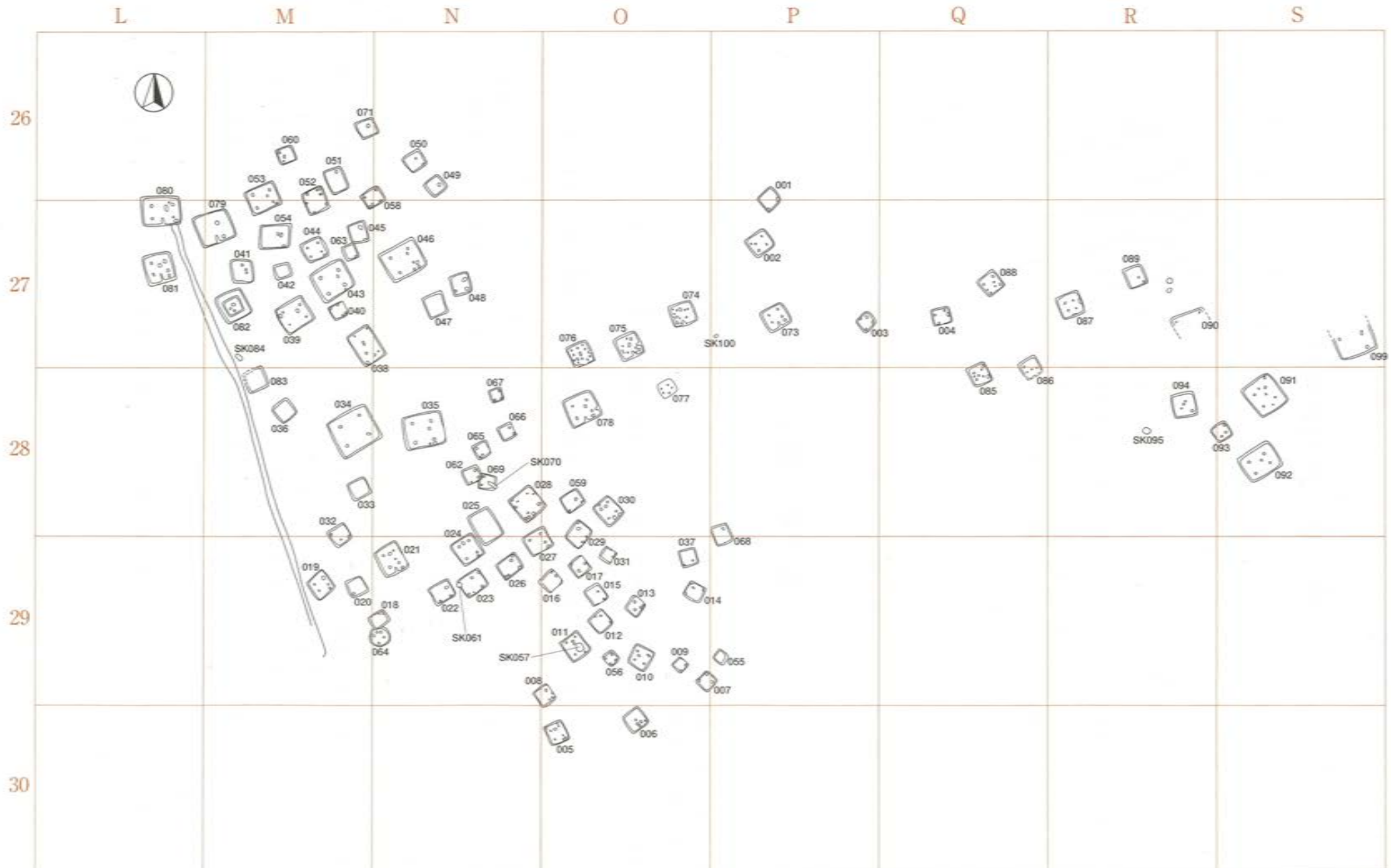
番号	県分布図番号	遺　　跡　　名	時　　代	番号	県分布図番号	遺　　跡　　名	時　　代
1	218	市野谷宮尻遺跡	古墳（後），奈良，平安	54	169	思井堀ノ内遺跡	縄文（中），平安
2	210	市野谷入台遺跡	古墳（前）	55	193	思井鷹の見遺跡	縄文（早・前），古墳，近世
3	219	市野谷芋久保遺跡	縄文（早）	56	229	思井上ノ内遺跡	古墳（後），奈良・平安
4	202	西初石5丁目遺跡	縄文	57	167	中中屋敷遺跡	縄文(前・中・後)，平安
5	222	市野谷二反田遺跡	縄文（前）	58	36	古間木三王第Ⅰ遺跡	縄文（前），平安
6	221	大久保遺跡	縄文（前）	59	226	前平井堀米遺跡	古墳（後），奈良・平安
7	223	市野谷立野遺跡	縄文（前），古墳（後）	60	40	市野谷梶内第Ⅰ遺跡	縄文（前・中），古墳（中・後）
8	39	市野谷向山遺跡	縄文（前・中），古墳（後）	61	41	野々下山中遺跡	縄文（前），平安
9	156	市野谷中島遺跡	縄文（前・中），平安	62	81	野々下貝塚	縄文（前・中・後・晩）
10	220	市野谷宮後遺跡	縄文	63	42	野々下西方遺跡	縄文（前・中）
11	208	三輪野山向原古墳	縄文（前），弥生，古墳（前）	64	43	野々下大屋敷遺跡	縄文（後），平安
12	203	花山東遺跡	旧石器，縄文，奈良，平安	65	138	古間木芳賀殿第Ⅰ遺跡	縄文（前・中），平安
13	152	大畔中ノ割遺跡	縄文(早・前・中)，平安	66	159	芝崎大囲遺跡	縄文（前・中），古墳，平安
14	29	下花輪荒井前遺跡	弥生，古墳，平安	67	82	古間木茱萸木谷遺跡	縄文（早・前・後）
15	209	下花輪西山遺跡	縄文，古墳，中世	68	33	鰭ヶ崎貝塚	縄文(早・中・後)，平安
16	28	桐ヶ谷浅間後遺跡	旧石器，縄文（前・後），平安	69	198	美原2丁目遺跡	縄文（前・中），近世
17	80	大畔台遺跡	縄文（前），古墳，中世	70	17	中野久木貝塚	縄文(早・前・中)
18	27	上貝塚大門遺跡	縄文（前・後），平安	71	114	中野久木日暮第Ⅰ遺跡	縄文（後）
19	26	上貝塚貝塚	縄文（前・中・後）	72	75	中野久木谷頭遺跡	縄文（中），古墳
20	136	西初塚窪遺跡	縄文(前・中・後)，近世	73	123	中野久木囲ノ内遺跡	縄文（前・中），平安
21	24	桐ヶ谷南割遺跡	旧石器，縄文，古墳（中），平安	74	18	中野久木遺跡	縄文(早・前・中・後)，古墳（中）
22	130	若葉台遺跡	旧石器，縄文（前・中）	75	139	中野久木米の台遺跡	縄文(前・中・後)，平安
23	135	桐ヶ谷新田第Ⅰ遺跡	旧石器，縄文，平安	76	20	富士見台第Ⅱ遺跡	奈良・平安
24	195	西初石3丁目遺跡	縄文（前・中・後・晩）	77	205	中野久木谷頭古墳	古墳
25	129	上新宿向宿遺跡	縄文（前・中）	78	137	江戸川台第Ⅰ遺跡	縄文(後)，中近世
26	23	上新宿貝塚	縄文（後・晩）	79	21	小谷貝塚	縄文（中），平安
27	127	上新宿宿後遺跡	縄文（前・後），平安	80	201	小屋神明脇遺跡	縄文（前・後），近世
28	134	西初石2丁目遺跡	縄文(中・後)	81	119	東初石3丁目第Ⅱ遺跡	縄文（晩）
29	79	三輪野山第Ⅲ遺跡	縄文，古墳（後），平安，近世	82	120	東初石3丁目第Ⅲ遺跡	縄文（早），古墳（後），平安
30	78	三輪野山北浦遺跡	旧石器，縄文（前・後），古墳，平安，近世	83	121	東初石3丁目第Ⅲ遺跡	縄文（早），平安，近世
31	211	三輪野山道六神遺跡	縄文，古墳，平安，近世	84	122	十太夫第Ⅲ遺跡	縄文（前），平安，近世
32	154	三輪野山宮前遺跡	縄文（前），古墳（後），平安，近世	85	145	十太夫第Ⅰ遺跡	縄文(中・後)，平安，近世
33	153	三輪野山八幡前遺跡	縄文，古墳，平安，近世	86	164-1	富士見台（Ⅰ）遺跡	不明
34	31	三輪野山貝塚	旧石器，縄文（前・中・後・晩）	87	164-2	富士見台（Ⅱ）遺跡	縄文（中・後）
35	213	三輪野山低地遺跡	縄文（後・晩）	88	149	長崎五牧割遺跡	縄文（前・中），平安
36	185	三輪野山八重塚	縄文，古墳，平安	89	51	長崎遺跡	縄文（早・前・中・後）
37	197	三輪山八重塚Ⅱ遺跡	縄文（早），平安	90	55	野々下長田遺跡	縄文（早・前・中・後）
38	190	加若宮第Ⅱ遺跡	縄文，平安	91	57	野々下御成堤遺跡	縄文（前・中）
39	188	加北谷津第Ⅰ遺跡	旧石器，縄文，平安	92	58	野々下金クソ遺跡	縄文（前・中）
40	189	加北谷津第Ⅱ遺跡	旧石器，縄文，平安	93	168-1	笹原（Ⅰ）遺跡	縄文（中），弥生，古墳
41	186	加町畑遺跡	縄文，古墳，奈良，平安	94	168-2	笹原（Ⅱ）遺跡	縄文（中）
42	90	加村台遺跡	弥生（中），古墳（後），平安，近世	95	66	名都借並木遺跡	縄文（中）
43	187	加若宮第Ⅰ遺跡	旧石器，縄文，平安	96	162	清流院前遺跡	縄文（前），平安，近世
44	215	市野谷地蔵谷ッ遺跡	古墳（後），平安	97	67	名都借笹堀込遺跡	縄文（前・中），平安
45	224	市野谷梶内第Ⅱ遺跡	縄文	98	109	西深井一の割第Ⅰ遺跡	旧石器，縄文，奈良，平安，中近世
46	212	加東割遺跡	縄文（前），中近世	99	98	こうのす台第Ⅳ遺跡	縄文（早・前・中・後）
47	225	後平井中道遺跡	古墳（後），奈良・平安	100	200	鴻ノ巣遺跡	縄文（早・前・中・後）
48	32	前平井遺跡	縄文（前・中），平安	101	191	蔵ノ尻遺跡	縄文（早）
49	204	宮本遺跡	縄文（早），平安	102	1	幸田貝塚	旧石器，縄文（前・中・後），古墳
50	184	大原神社遺跡	縄文（早），古墳（後），平安	103	2	中芝遺跡	弥生（後），古墳（前・中・後）
51	170	平和台遺跡	縄文（中），古墳，平安，中近世	104	4	道六神遺跡	縄文（早・前・中・晩）弥生（後），奈良・平安
52	47	流山廃寺遺跡	奈良	105	3	木戸口（中金）遺跡	縄文（前），古墳（中）
53	228	西平井二階畑遺跡	縄文，古墳（後），奈良・平安	106	69	前ヶ崎貝塚	縄文（前・中・後）



第３図　調査区域と周辺の地形



第4図　確認調査設定図



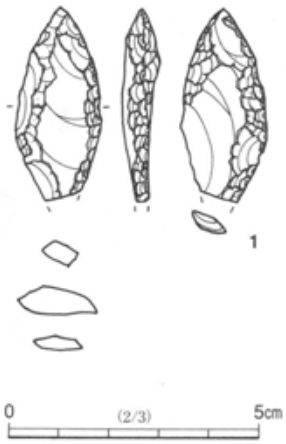
第５図　遺構分布図

0　(1/1200)　40m

第２章　旧石器時代

旧石器時代石器（第６図，第２表，図版45）

１は槍先形尖頭器で，上層確認グリッドから出土した。幅広の縦長剥片もしくは横長剥片を素材とし，右側縁は背面側から，左側縁は腹面側から主に調整加工を施す。調整加工は両側縁とも基部から先端の全体にわたっている。先端側は特に肉厚になっており，右側縁は背腹両面から調整が施される。基部はわずかに欠損する。



第６図　旧石器時代出土石器

第３章　縄文時代

第１節　竪穴住居跡

本遺跡から検出された縄文時代の遺構は，竪穴住居跡１軒と埋甕炉１基のみである。

SI064（第７図，図版３・39）

集落の南側，29N－50グリッドに所在する。北側で古墳時代のSI－018と重複するが，削平はほとんど認められない。規模は，長径4.8m，短径4.6m，床面積9.0㎡を測り，略円形を呈する。確認面からの深さ0.3m前後と比較的浅い。床面はほぼ平坦で比較的堅緻である。柱穴は床面中央に寄って４本規則的に配置される。径約0.5m，深さ0.2～0.4mを測る。炉は北東側の柱穴間に掘り込まれる。被熱により，底面が赤く硬化している。覆土は自然堆積の様相を呈する。

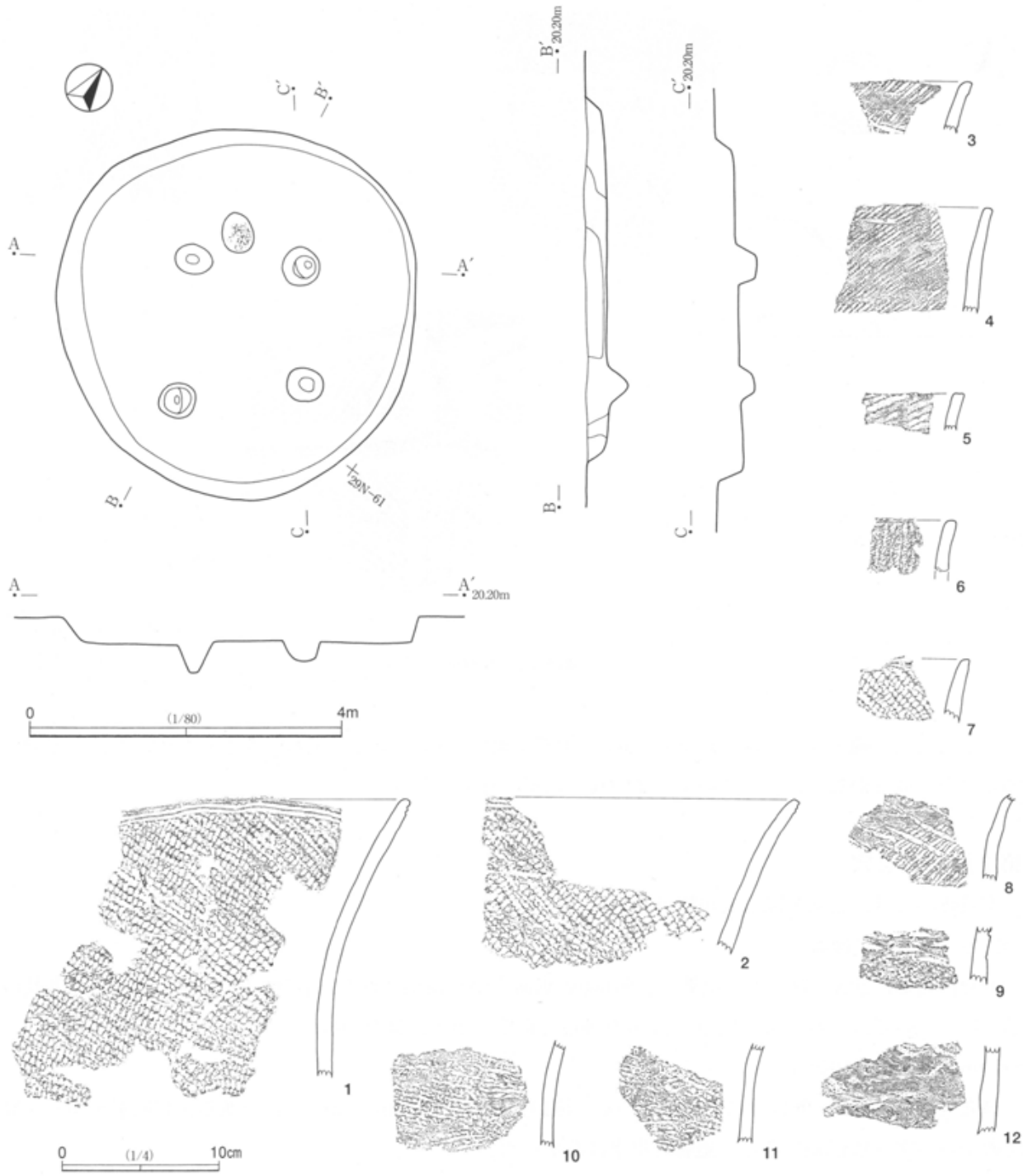
遺物は，覆土中からの出土がほとんどである。

出土遺物

１～７は繊維を多く含む口縁部片である。１・２は同一個体と思われ，口縁部に２条の沈線が巡る。RLの単節縄文が全体に施される。内面は丁寧にナデ調整される。２～６には無節の縄文がみられる。７は１と同一個体になる可能性がある。８～12は胴部片である。８は無節の縄文を地文とし，その上に附加条３種を加える。９には竹管による押し引きがみられる。10・11は同一個体であろう。12はナデにより無節の縄文を磨り消している。黒浜式期の土器群である。

SI098（第８図，図版３・39）

集落南端，31R－52グリッド付近に位置する埋甕炉である。掘り方は径0.7mの円形を呈し，円錐状の断

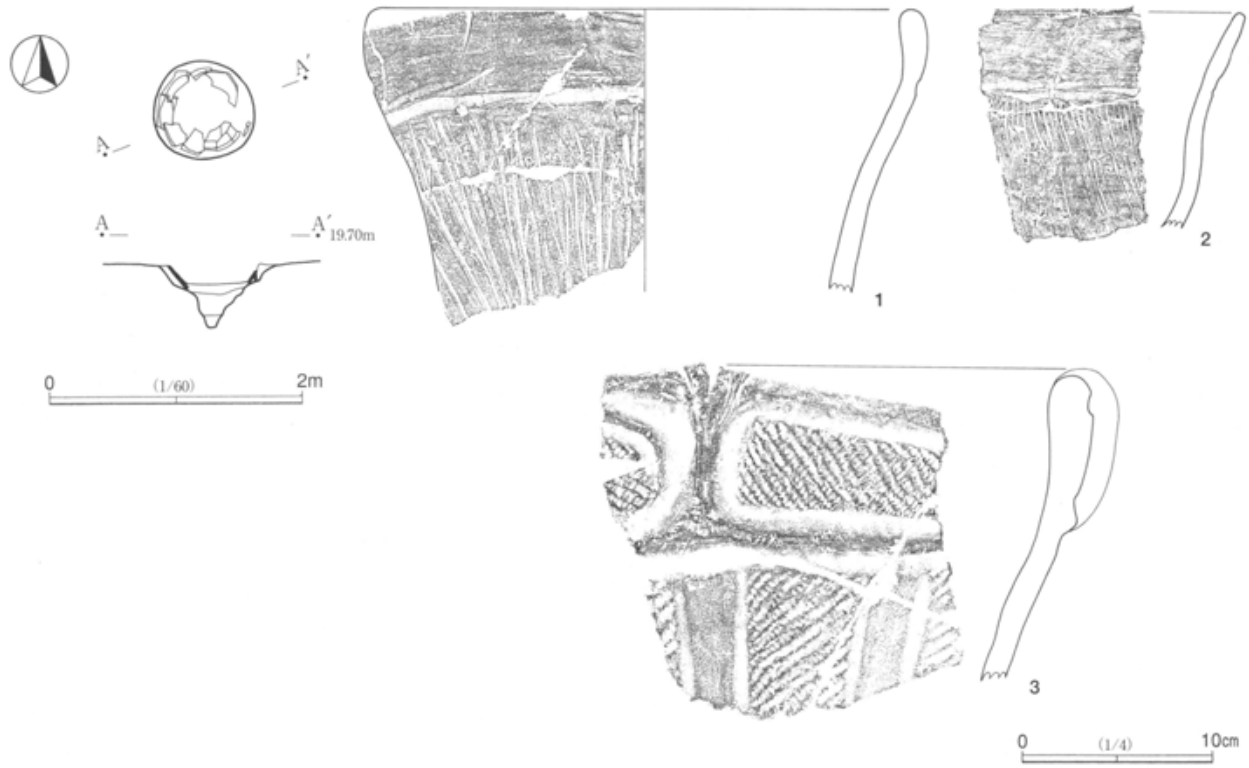


第7図　SI064

面となる。確認面からの深さ0.34mを測る。掘り方上部に裏込めを施し，土器の口縁部を巡らしている。再利用した土器は1個体ではなく，数個体分の口縁部を用いているようである。覆土中には焼土が含まれるが，それほど多い量ではない。

出土遺物

1は口縁下に太沈線を巡らし，以下に乱雑な集合沈線を施す。2も1とほぼ同様の文様構成となるが，沈線の幅が狭く，櫛歯状となる。3は口縁部を隆帯により区画し，隆帯に沿って内部に磨り消し沈線が配



第８図　SI098

される。地文の縄文は，口縁部が横位のRL，胴部が縦位のRLである。図示しなかったが，他に３と同一個体となる破片が数点出土している。加曽利Ｅ式期の所産である。

第２節　陥し穴

本遺跡からは，２基の陥し穴が検出された。

SK070（第９図，図版３）

調査区西側，28N－76付近に位置し，SI069の床面下から検出された。長径2.4m，短径0.7mの隅丸長円形を呈し，確認面からの深さ1.1m～1.3mを測る。遺物の出土ははなかった。

SK096（第９図，図版３）

調査区東側，32N－96付近に位置している。開口部は，長径3.3m，短径1.6mを測る長楕円形を呈し，確認面からの深さは1.9mである。遺物の出土はなかった。

第３節　グリッド出土縄文土器（第10～15図，図版40～44）

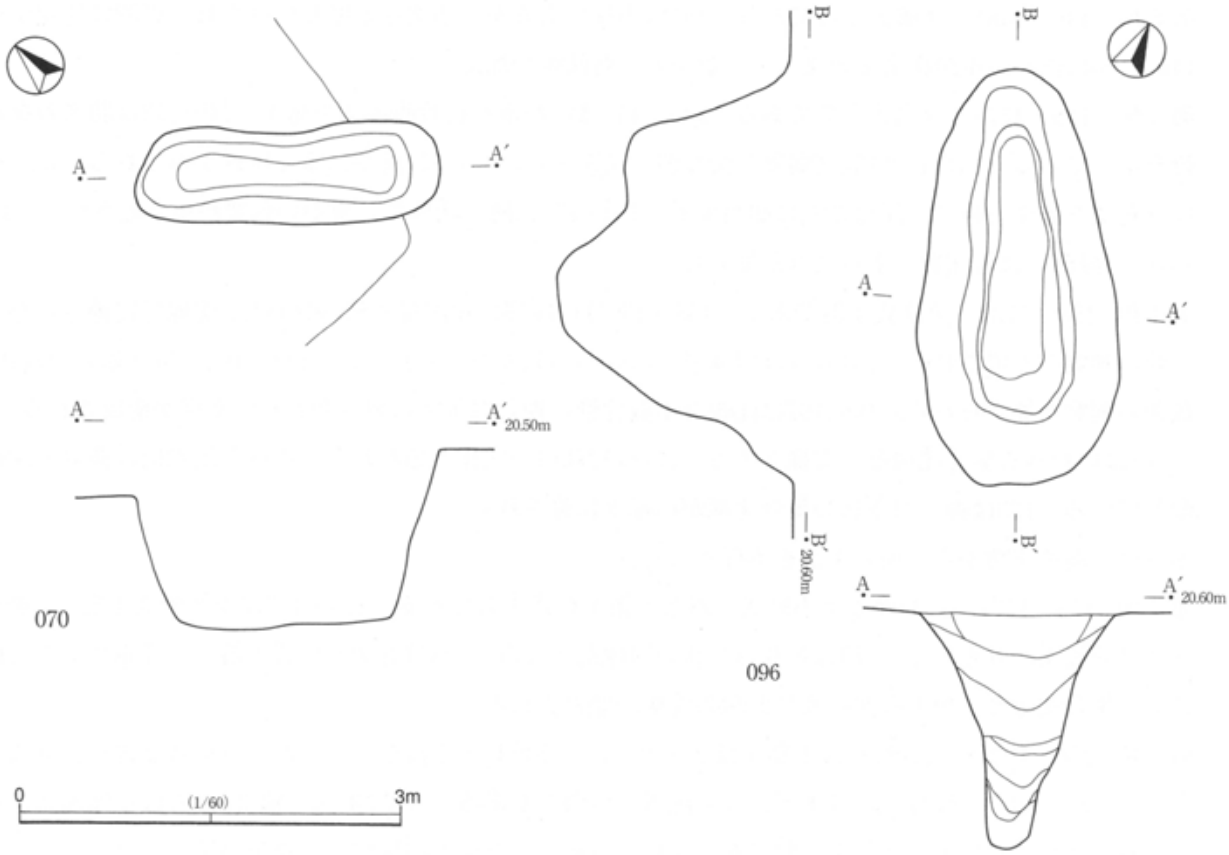
本遺跡からは，前期を主体として，早期から後期までの土器が確認される。

第Ⅰ群土器（１・２）

早期の土器である。１は沈線文系の田戸下層式土器で，横位の太沈線上に弧状の太沈線が配される。２は条痕文系土器である。胎土中に繊維を多く含む。

第Ⅱ群土器

本遺跡出土縄文土器の主体を占める前期の土器を本群とした。



第９図　SK070・SK096

第１類（３～144）　本遺跡で最も出土量の多い黒浜式土器を本類とした。全体の縄文土器片総量の64％を占める。

第１種（３～109，134）　縄文を主文様とする一群である。縄文には，単節・無節・附加条と多種のものがみられる。３・６は単節縄文とループ文が併用される。関山期の可能性もある。14～16は同一個体で，小波状の口縁部を呈する。附加状縄文を菱形状に施している。72～74も同一個体で，施文方法は14と同様である。107・108の口唇部には間隔の粗い刻みがみられる。109には格子状の沈線が加えられる。

第２種（110～119，135・136）　半截竹管による平行沈線を主文様とする。文様には，山形・波形・菱形などがみられる。111・112・135・136は集合沈線の部類に入るものかもしれない。135・136は植房式の可能性もある。

第３種（120～125，132・133・137）　半竹管による押し引き文を主体とする。120・121は大きな波状口縁を呈し，口縁に沿って２条の平行な押し引き文が配される。124は竹管の刺突，125には２条の連続爪形文が施される。

第４種（126・127）　集合沈線により文様が構成される。地文となる縄文は認められない。127は肋骨文の構成をとる。

第５種（128～131）　無文となる一群であるが，129・131には僅かに条線がみられる。

第６種（138）　後続する浮島式にみられるような貝殻腹縁文が浅く施文される。

第７種（140～144）　本群に含まれる底部片を一括した。

第２類（145～148）　諸磯式土器である。145は小片であるが，小突起が貼り付けられ，周囲に沈線が巡る。146～148は細かい単節縄文を地文とし，数条の平行沈線が加えられる。

第３類（149～157）　浮島式土器である。149～152はいわゆる貝殻腹縁文を施す。149･152は肋脈のない貝殻を用いている。151･152は施文間隔の密な波状文を呈し，151には沈線による区画がみられる。153～157は三角文を施す一群で，浮島Ⅲ式に相当する。154・155は同一個体で，細かい刺突が多条施される。156・157の口縁部には短沈線による刻みが加えられる。

第４類（158～173）　興津式土器である。158～160は口縁部に短沈線の刻みを施し，沈線で区画された半截竹管の刺突が充填される。161もほぼ同様で，口縁部の刻みがみられない。162・163は折り返し口縁状で，数条の刺突が加えられる。166･167は沈線と半截竹管の押し引き文の組み合わせで文様が構成される。168～171はいわゆる集合沈線を主文様とする。171･172は同一個体と思われる。平行な沈線間に曲線の沈線を配している。173は押し引き状の集合沈線が口縁下に施される。

第Ⅲ群　前期末葉から中期の土器を本群とした。

第１類（174～177）　いわゆる下小野式土器と五領ヶ台式土器である。175～177は下小野式土器で，無節縄文と結節縄文がみられる。175は折り返し状の口縁部となる。174は五領ヶ台式土器で，隆帯の上下に櫛歯による集合沈線と三角形の沈線及び曲線の沈線が認められる。

第２類（178～192）　加曽利Ｅ式土器がほとんどで，一部曽利式土器を含む。178～183は加曽利ＥⅢ式期である。178～180の口縁部下にはナデにより沈線状の凹みが巡る。178は無節の縄文，以外は単節縄文を地文とする。184～187は加曽利ＥⅣ式期である。184～186は，無文の口縁部下に隆帯が巡り，以下に単節縄文を施す。189・190は縄文のみで構成される。192は加曽利ＥⅣ式期，193は曽利式期の底部片である。

第Ⅲ群　後期の土器を本群とした。

第１類（194～200）　称名寺式土器で，すべて２式に含まれる。幾何学的な細沈線と刺突の組み合わせで文様が構成される。

第２類（201～218）　堀ノ内式土器である。201～216は１式で，217・218は２式であろう。201・202は細沈線で施文される。203～206は単節縄文を地文とし，口縁下に沈線を巡らす。胴部には懸垂文や平行沈線がみられる。207・208は胴部片で，蛇行する懸垂文が施される。209～212は細集合沈線により文様を構成する。213～216は地文を無文とし，隆帯や沈線が施される。217は菱形状の集合沈線で，細かい単節縄文が充填されるものであろう。218には弧状の沈線がみられる。

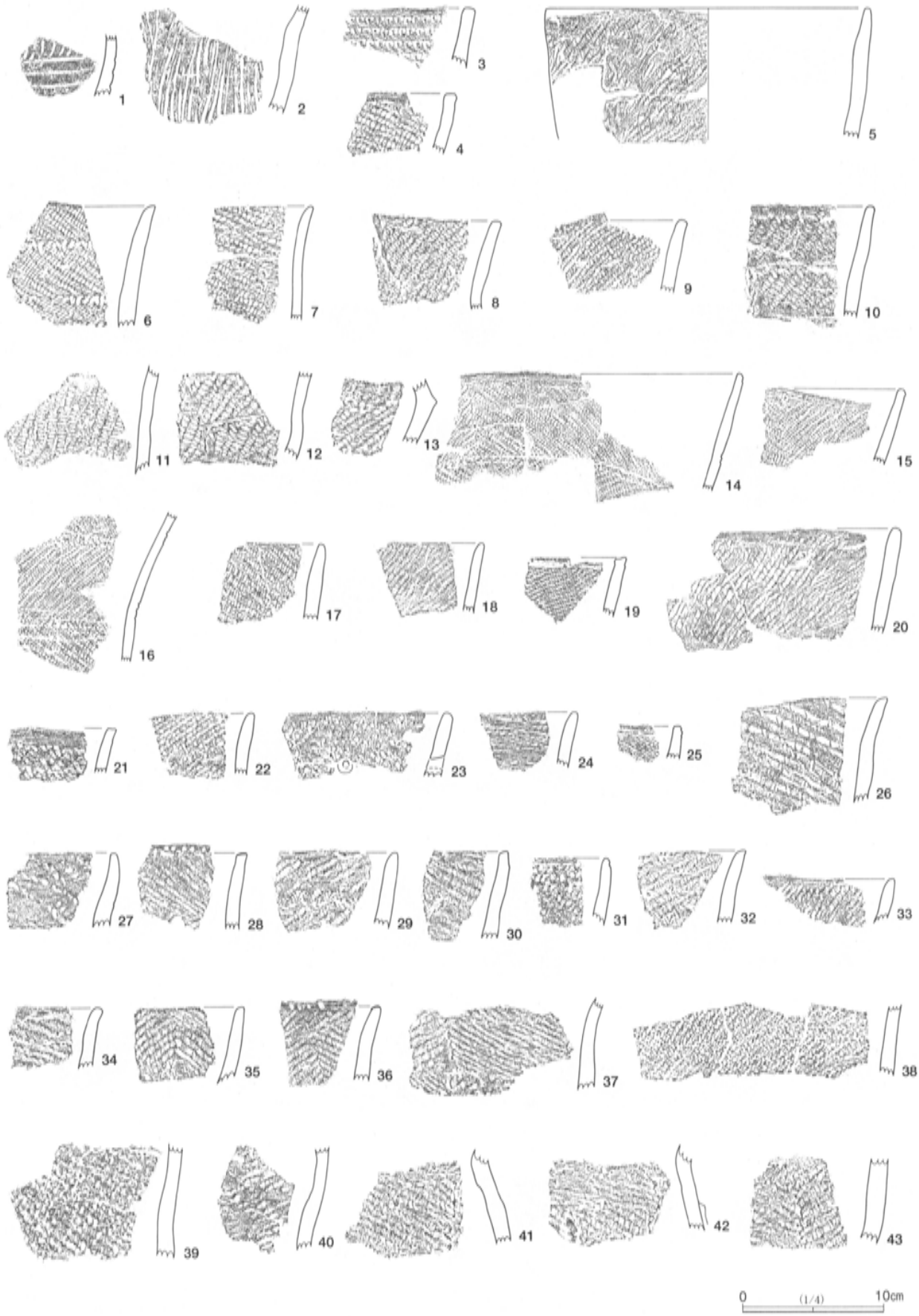
第３類（219～236）　加曽利Ｂ式土器である。221～223には口縁部に刻みを有し，以下に浅い条線文が施される。224～227には格子状の沈線がみられる。229～236は加曽利Ｂ３式期になろう。磨消縄文部と縄文部を楕円あるいは弧状の沈線により区画する。口縁部と括れ部に刻み目状の連続刺突を巡らす。

第４類（237～244）　安行１・２式土器である。237～241は１式で，口縁部下の刻みと条線で構成される。240・241の刻み下には細沈線が巡る。242～244は２式で，243・244には弧状の沈線がみられる。

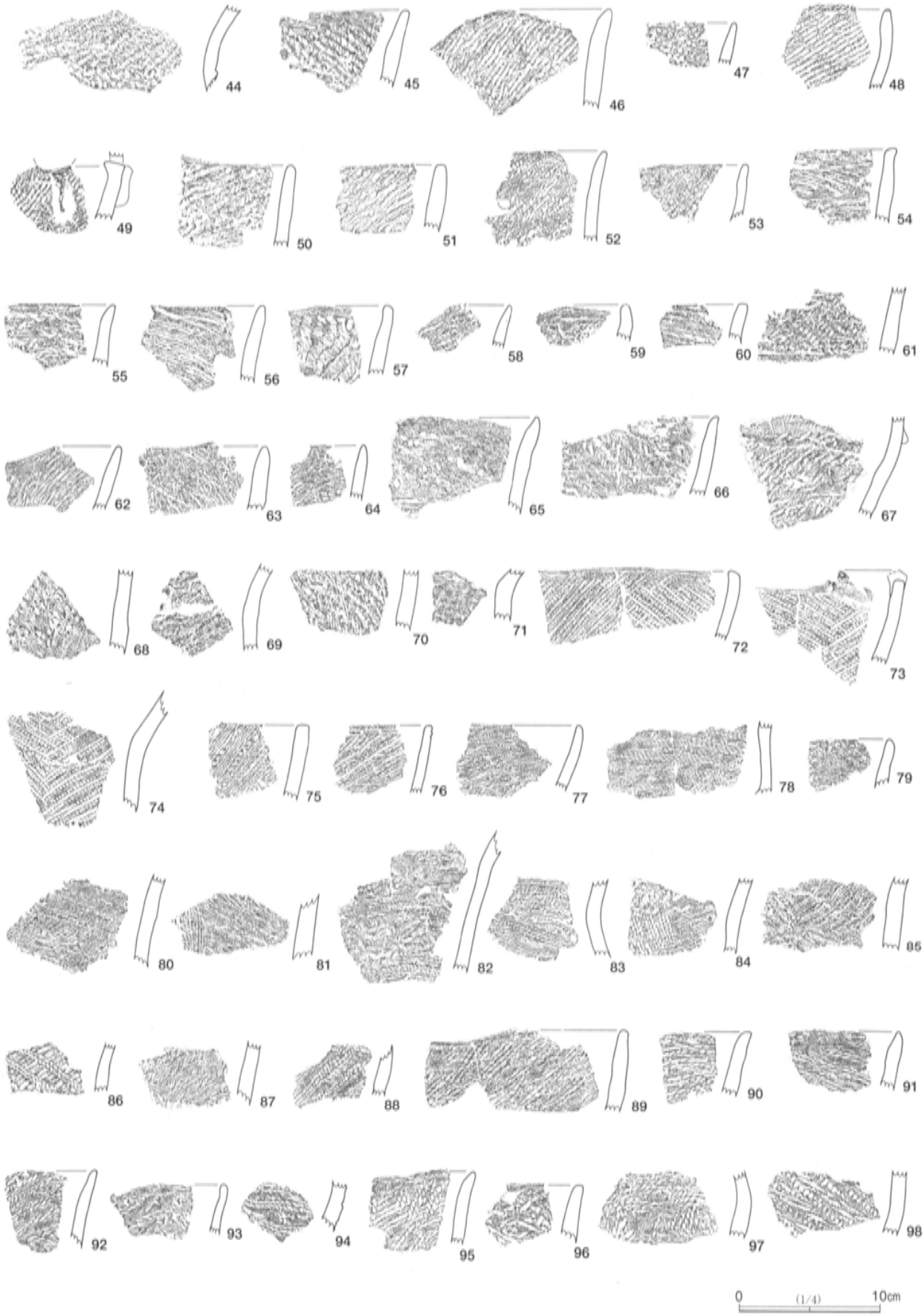
第Ⅳ群　晩期の土器を本群とした。

第１類（245～258）　安行３式の土器である。245～247は3aであろう。248～257は3bで，縄文・沈線・条線など様々な文様構成をする。258は3cと思われる。

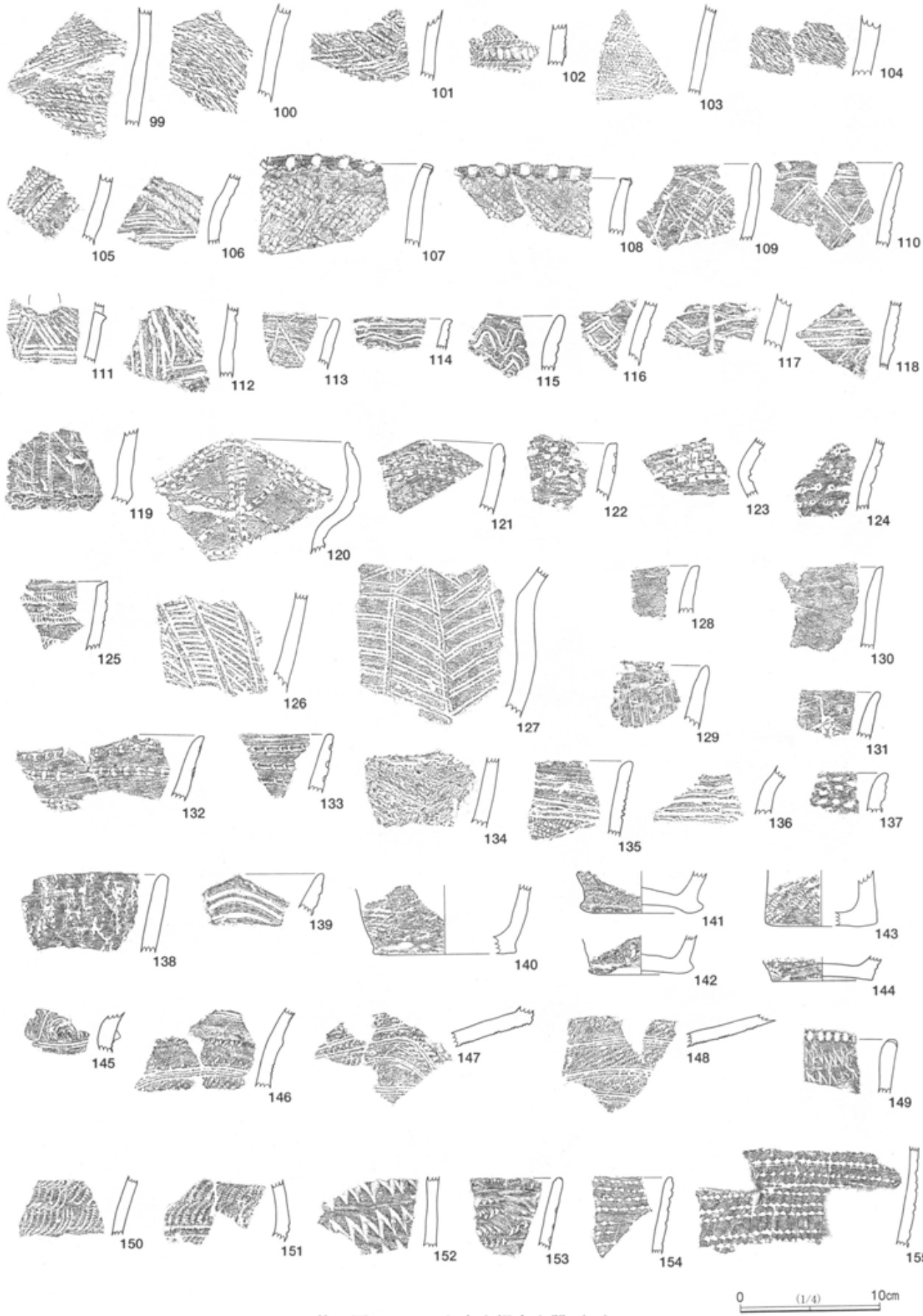
第２類（259）　晩期と思われるが形式を特定できない土器を一括した。



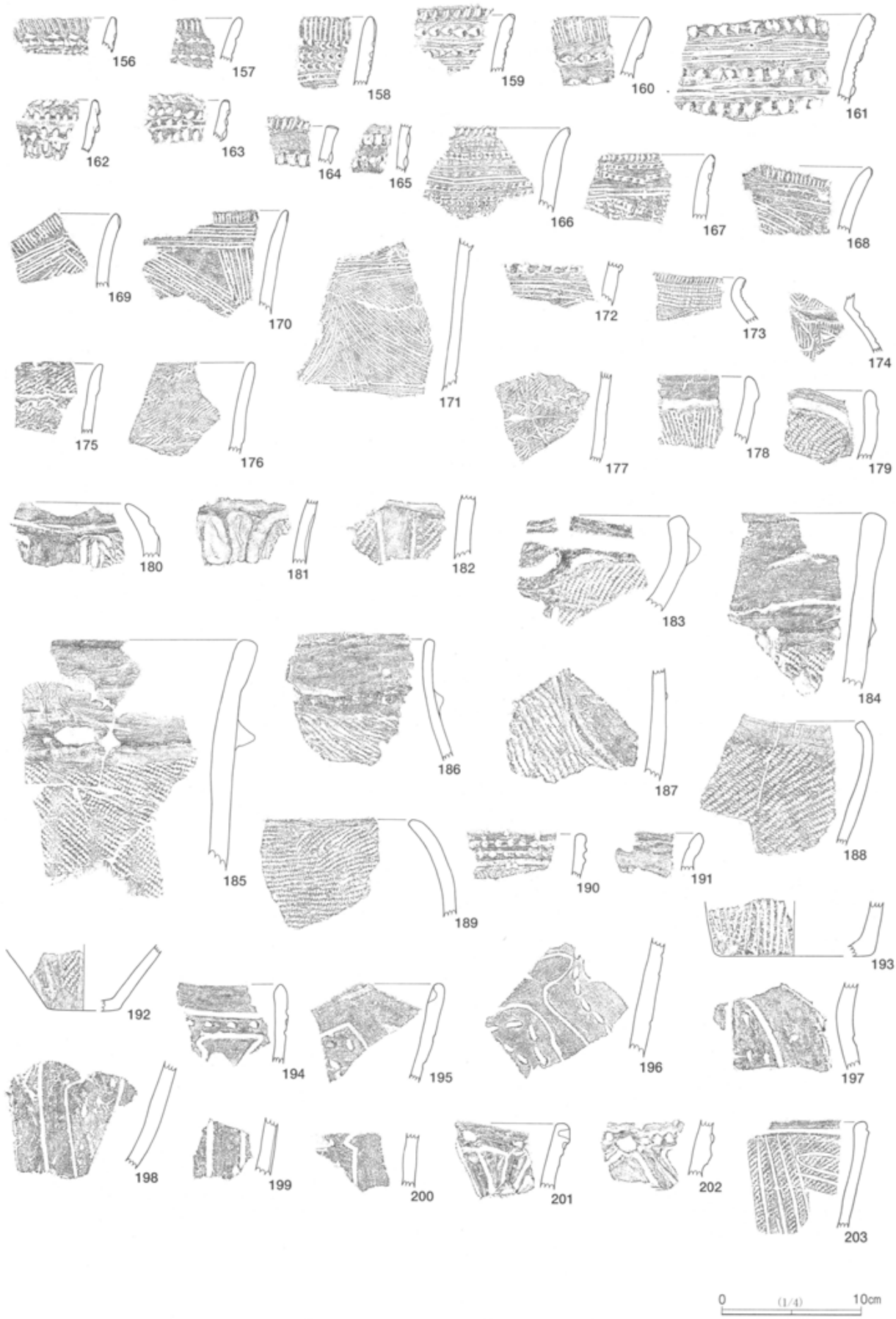
第10図　グリッド出土縄文土器（1）



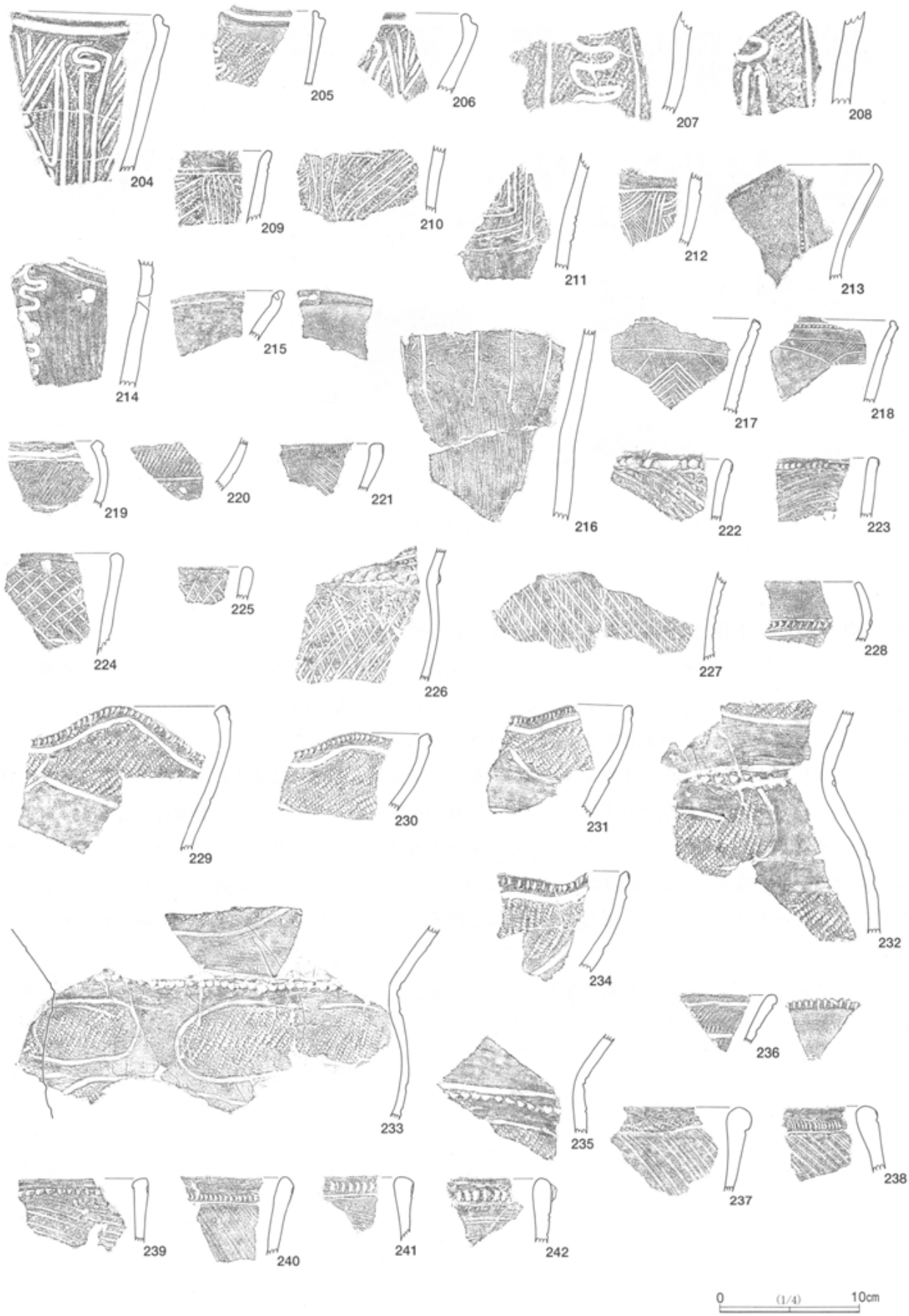
第11図　グリッド出土縄文土器（2）



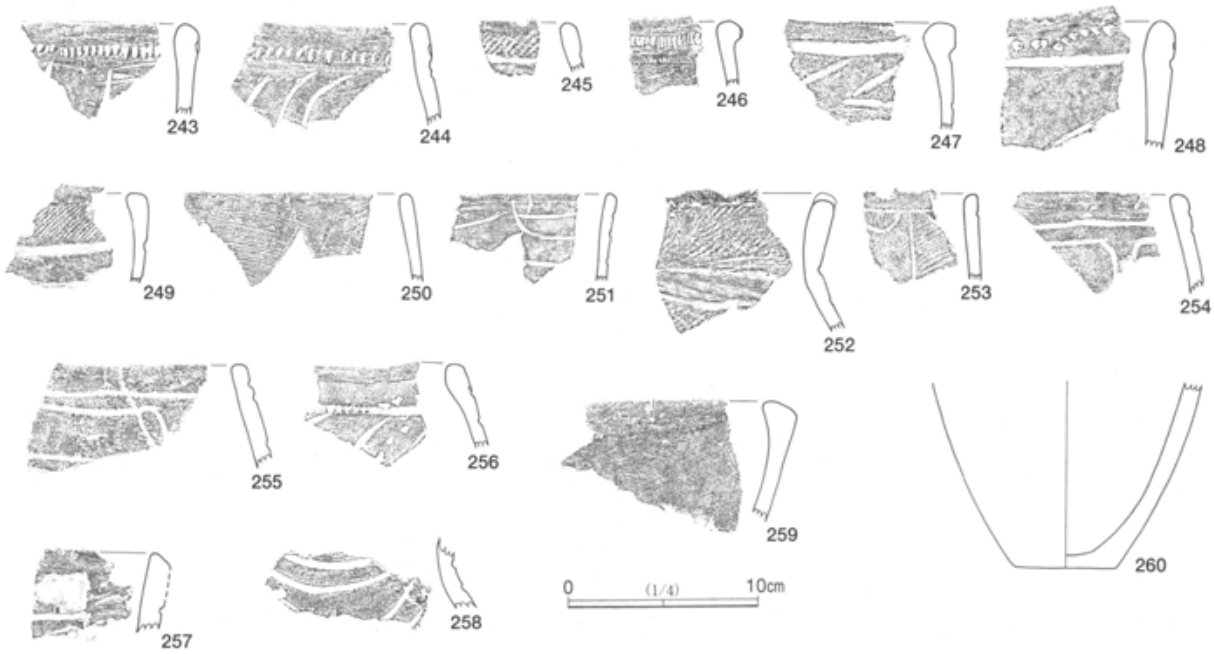
第12図　グリッド出土縄文土器（3）



第13図　グリッド出土縄文土器（4）



第14図　グリッド出土縄文土器（5）

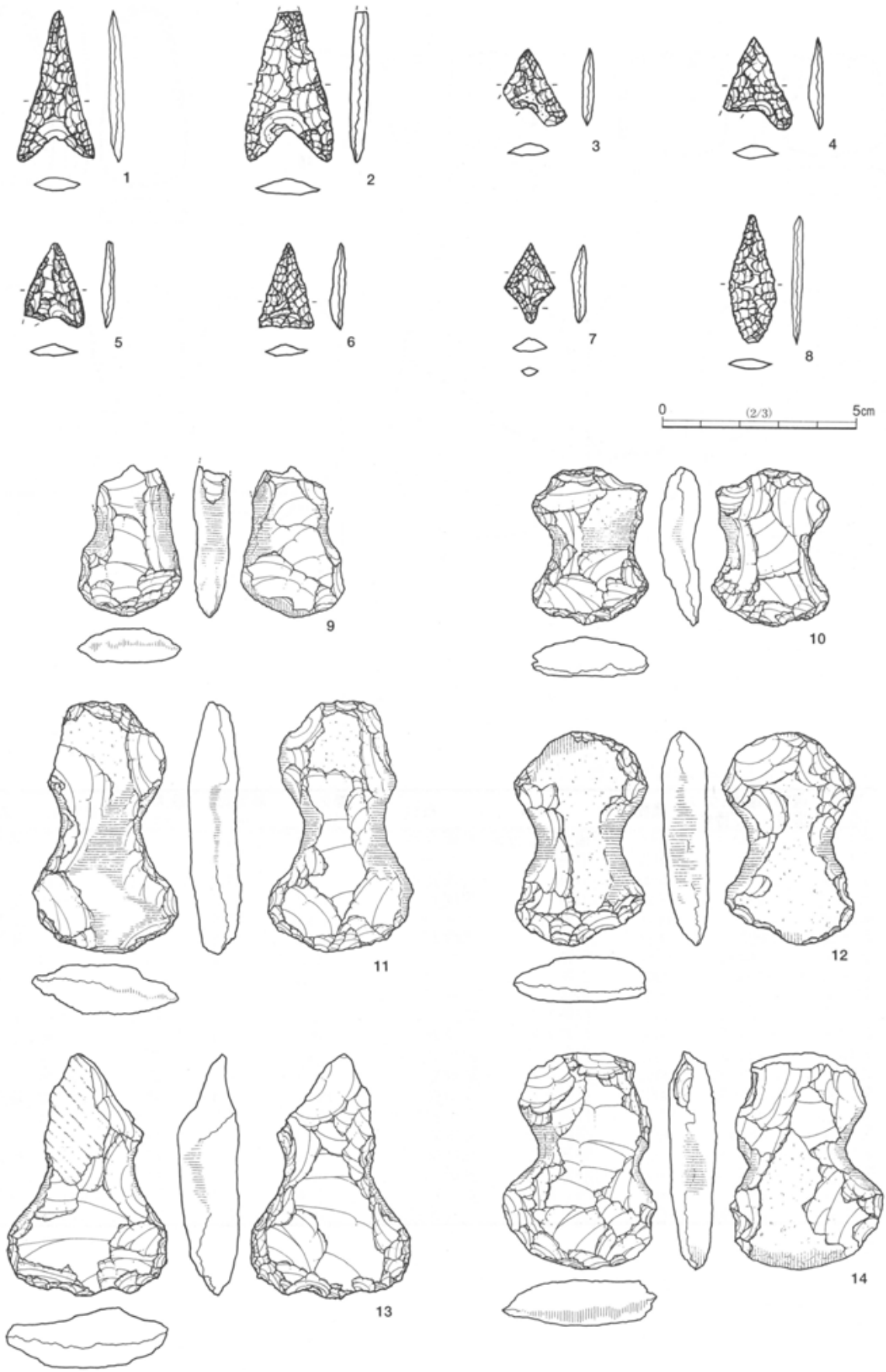


第15図　グリッド出土縄文土器（6）

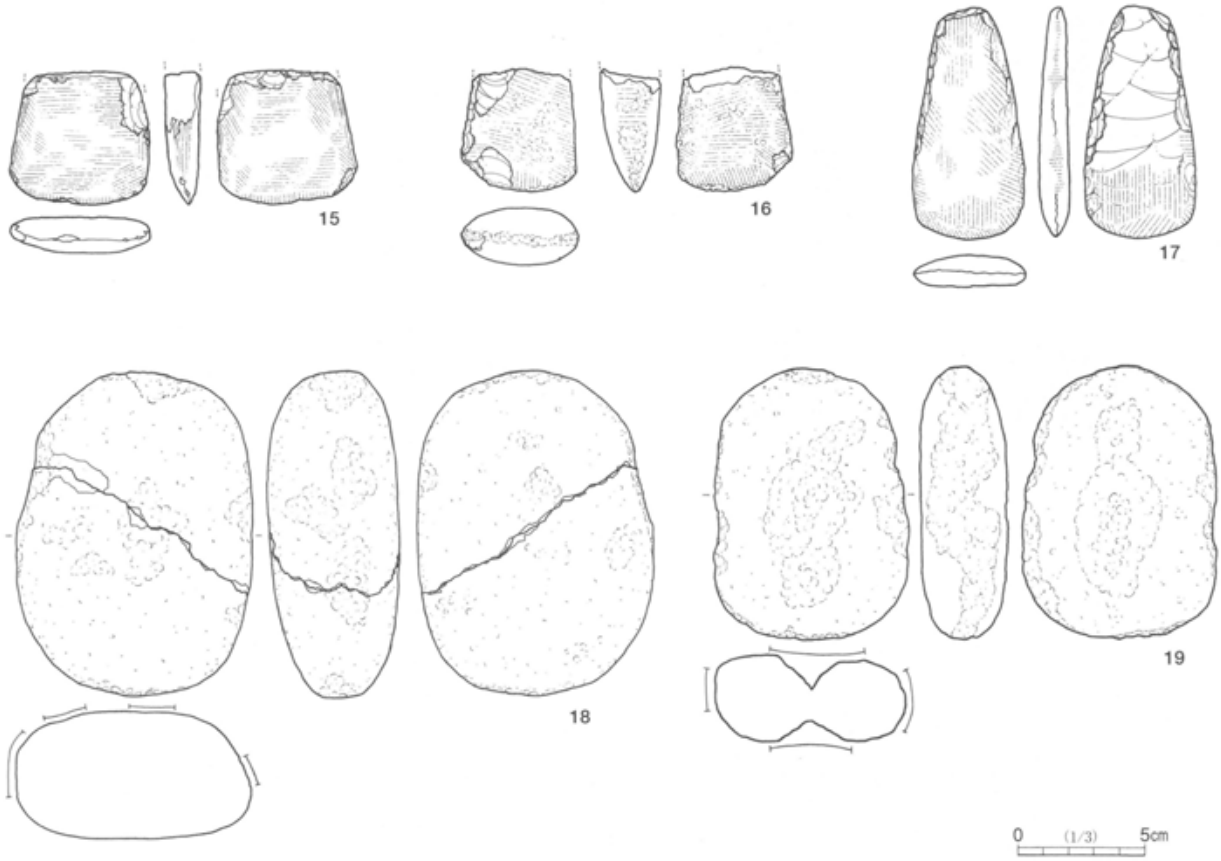
第4節　グリッド出土石器（第16・17図，第2表，図版45）

縄文時代の石器は全てグリッド出土であり，縄文時代の遺構からは出土しなかった。1～8は石鏃である。1～5は凹基，6は平基，7・8は尖基である。2は先端欠損部直下に肉厚な部分が残されており，加工の最終段階で欠損した可能性がある。8は表裏とも中央部に研磨が認められる。9～14は打製石斧である。いずれも分銅形を呈し，中央くびれ部には柄への装着痕，刃部には使用によるとみられる摩滅が観察される。11の表側中央はかなり平滑化しており，使用痕跡であろう。15～17は磨製石斧である。17は表側が全面研磨されているのに対し，裏面は成形剥離痕を残す。18・19は磨石類である。18は上下面と両側面に敲打痕を多く残す。表面に線状の擦痕が多くみられるが，新しいものと判断したため実測しなかった。19は表裏とも中央部が大きく窪んでおり，いわゆる凹石とされるものである。上下面と両側面にも敲打痕を多く残す。

これらの石器の時期について判断は難しいが，本遺跡から土器が多数出土している縄文時代前期前葉に位置づけるのが妥当と考えられる。



第16図　グリッド出土石器（1）



第17図　グリッド出土石器（2）

第２表　旧石器・縄文時代石器属性表

挿図番号	遺物番号	遺構・グリッド番号	遺物番号	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	欠損
第６図	1	28M-42	0002	槍先形尖頭器	珪質頁岩	39.0	17.7	8.0	4.18	基部
第16図	1	013	0022	石鏃	チャート	39.0	20.0	3.6	1.54	
第16図	2	T18-e	0002	石鏃	珪質頁岩	38.8	23.0	4.2	3.10	先端部
第16図	3	082	0023	石鏃	黒曜石	20.0	16.5	3.0	0.60	基部左
第16図	4	083	0016	石鏃	チャート	24.0	17.8	3.8	0.90	基部左
第16図	5	007	0011	石鏃	黒曜石	22.7	15.8	3.2	0.71	基部左
第16図	6	T01-d	0002	石鏃	チャート	23.0	14.0	4.0	0.74	
第16図	7	T03-c	0002	石鏃	チャート	20.7	13.0	4.0	0.66	
第16図	8	004	0008	石鏃	チャート	33.2	12.3	2.9	0.85	
第16図	9	T25-d	0001	打製石斧	安山岩	76.2	52.5	18.8	84.33	基部
第16図	10	30N-52	0001	打製石斧	安山岩	80.5	59.0	21.3	95.91	
第16図	11	T17-e	0002	打製石斧	緑色凝灰岩	128.0	74.0	27.0	277.00	
第17図	12	29N-92	0002	打製石斧	流紋岩	109.8	67.5	23.3	196.20	
第17図	13	30N-52	0001	打製石斧	安山岩	124.3	80.5	31.0	265.32	基部
第17図	14	054	0026	打製石斧	ホルンフェルス	111.0	78.0	25.0	242.44	
第17図	15	5I-21	0026	磨製石斧	粘板岩	53.0	55.3	14.5	73.15	基部
第17図	16	30N-52	0001	磨製石斧	緑色凝灰岩	49.0	45.7	24.0	83.13	基部
第17図	17	27N-75	0001	磨製石斧	緑泥片岩	91.0	44.5	12.5	76.95	
第17図	18	083	0017	磨石類	安山岩	129.0	94.0	53.0	1,035.00	中央部
第17図	19	28L-09	0001	磨石類	多孔質安山岩	106.8	77.5	35.0	315.20	

第４章　古墳時代

第１節　竪穴住居跡

SI001（第18図，図版４・46）

調査区北東側，26P－93グリッド付近に位置する。規模は，4.4m×4.4m，確認面からの深さ44.3cm～33.4cmを測り，やや歪んだ正方形を呈する。主軸方向は，N－43°－Eを指し，床面積は9.7㎡を測る。床面は平坦で北側にハードロームで硬く絞まった硬化面が認められる。壁溝は南西側半部に巡り，幅8.0cm，深さ6.7cm程度である。柱穴は対角線上に３本確認されている。深さ33.4cm～31.4cmである。北東コーナーに貯蔵穴が認められ，長軸50cm，短軸34cmの長方形を呈している。炉は北寄りに位置する。長径82cm，短径60cmの楕円形を呈する。遺物は住居全体に散乱しているものの，やや炉周辺に集中する傾向にある。床面直上または若干浮いた位置からの出土が多い。

出土遺物

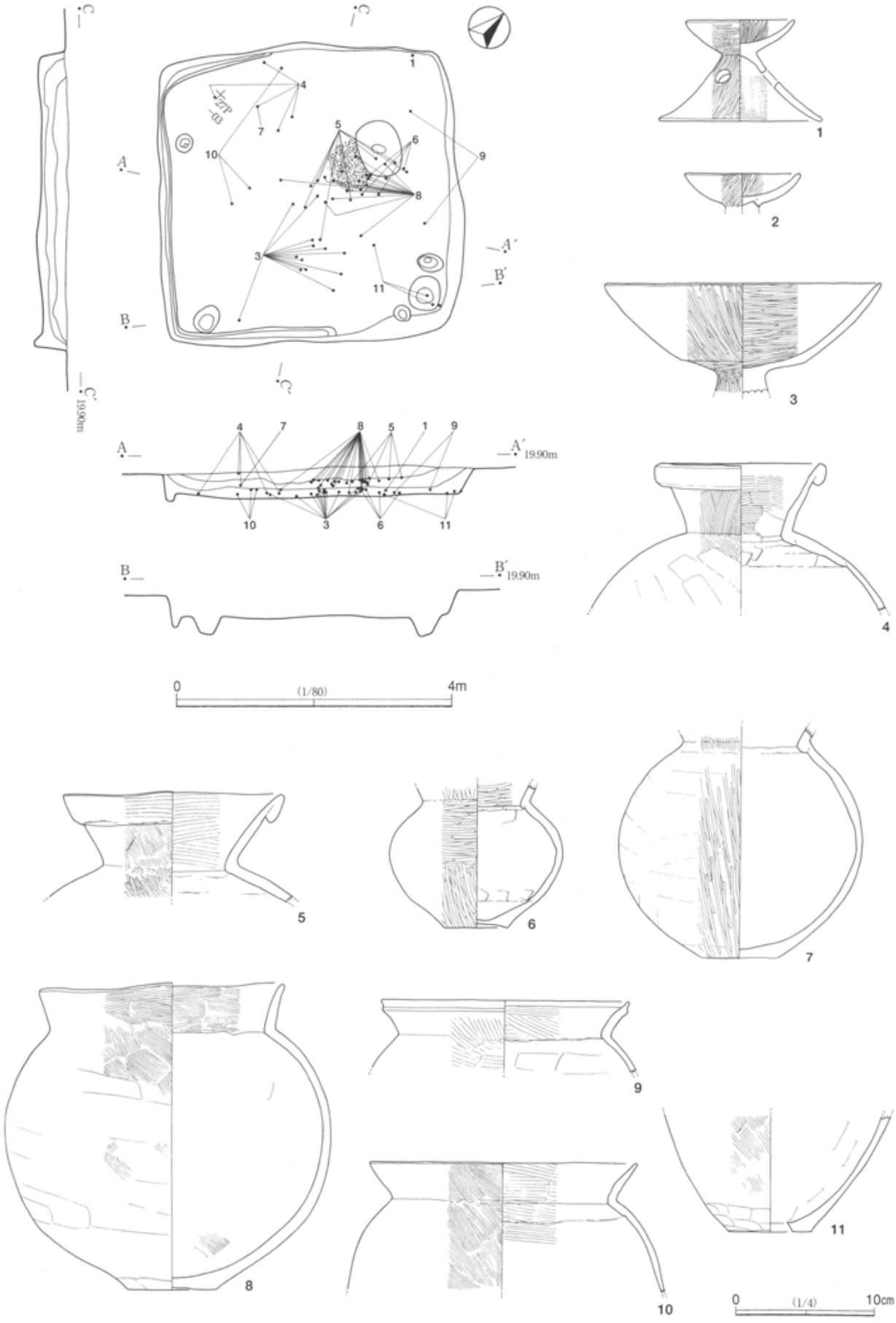
１・２は器台である。１はほぼ完形で透孔は３か所，内外面ハケの後丁寧なミガキが施されている。３は高杯の杯部から脚部の一部である。内外面丁寧なミガキが施されている。４・５は壺の口縁で，両者とも折り返し口縁となる。外面は縦方向，内面は横方向のハケ調整を施している。ハケは内面が間隔の粗く，外面は間隔が密である。６は小形の壺である。口縁内面と外面に細かいミガキが施される。７～11は甕である。７はヘラケズリ後縦方向の丁寧なミガキ，８は口縁部がほぼ直線的にやや外方向に傾く器形である。10は甑である。

SI002（第19・20図，図版４・46）

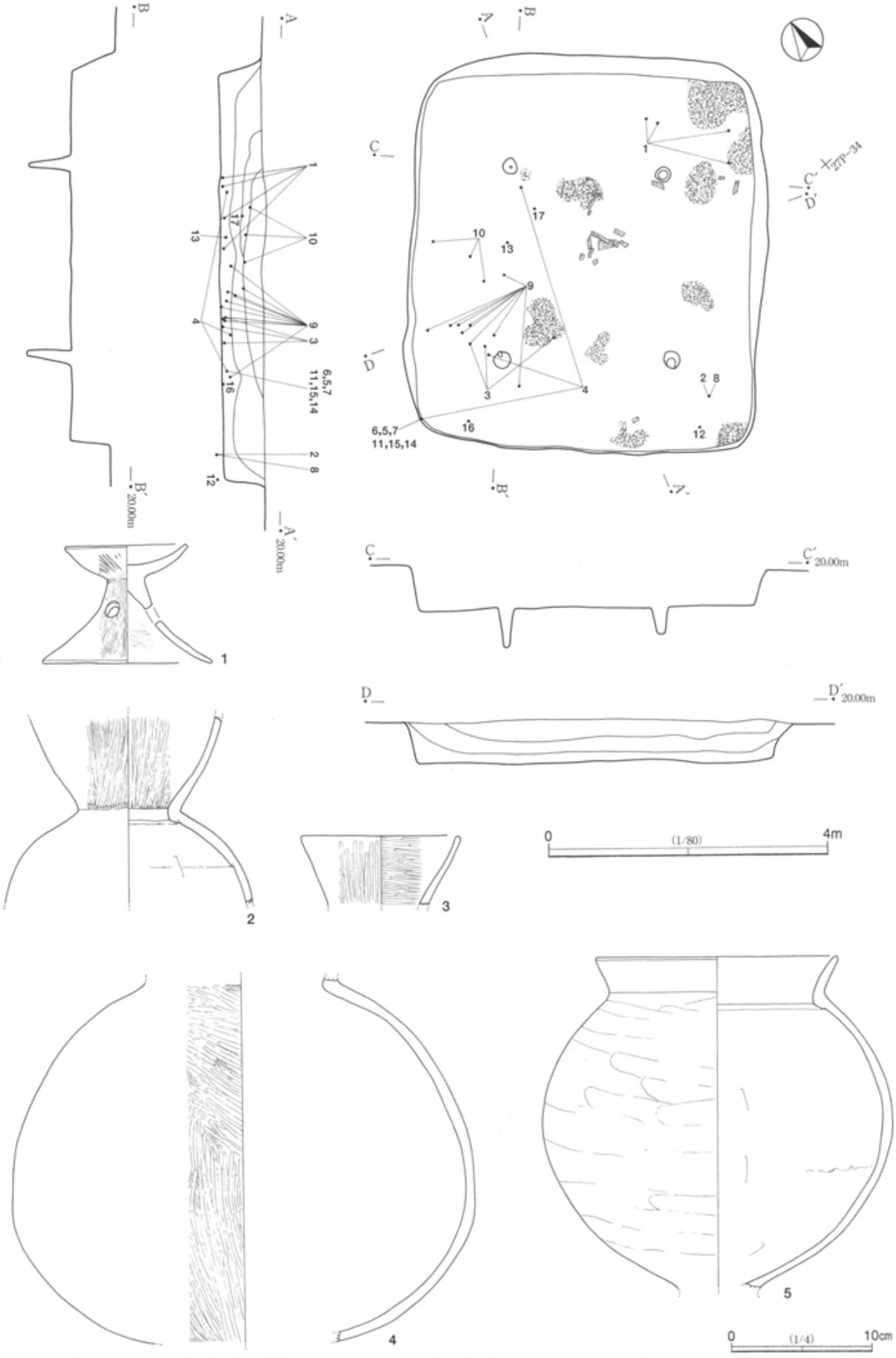
調査区北東，27P－24グリッド付近に位置する。規模は5.7m×5.2m，確認面からの深さ68.8cm～49.3cmを測る長方形を呈する。主軸方向は，N－45°－Eを指し，床面積は15.7㎡を測る。床面は平坦であるが，壁溝は確認されなかった。覆土は自然堆積の様相を示している。柱穴は対角線上に４本確認され，深さ61.4cm～43.5cmである。住居の西寄りに炉が検出された。長径69.0cm，短径38.0cmを測る。遺物の出土状況は北側に集中し，床面近くからの出土がほとんどである。全体に焼土と炭化物がみられることから，焼失住居と考えられる。

出土遺物

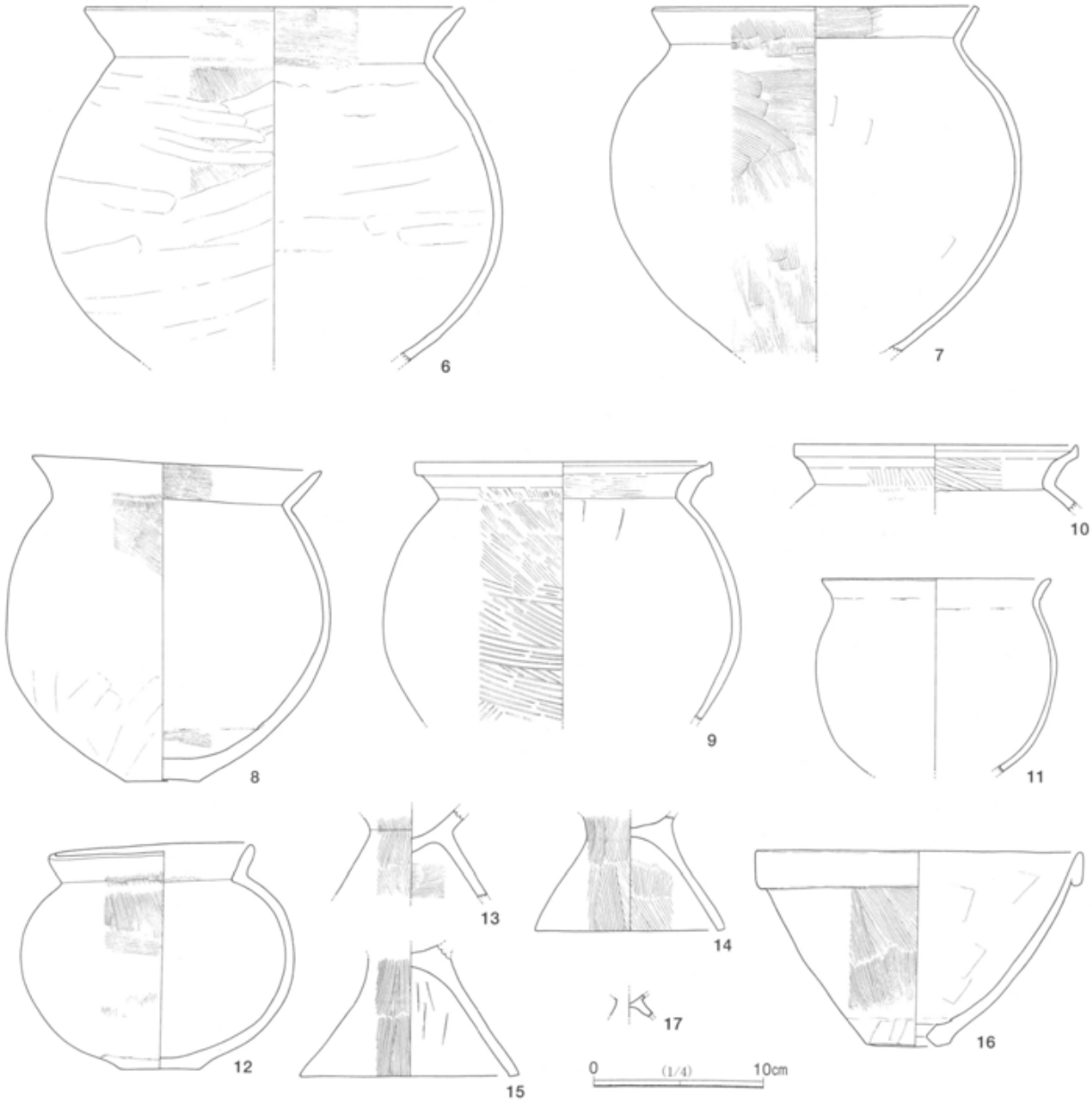
１は器台である。器受け部は内外面ともミガキが施され，外面には櫛歯状工具による調整痕が見られる。２・３は坩である。２の口縁部内面は丁寧なミガキ，外面はハケ後丁寧なミガキが施される。４～12は甕である。４は胴部のみの遺存で球形を呈し，下膨れの器形である。内面はナデで，外面はハケ後丁寧にミガキが施される。５は台部を欠損した台付甕である。口縁部は緩やかに外反し，胴部中位に最大径を有する。６は口縁部がくの字状に外反し，胴部中位に最大径を有する。口縁部内面から胴部外面にかけてハケ調整が施されている。７は台付甕で台部を欠く。口縁部は短くくの字に外反し，最大径は胴部のやや上位にある。口縁部内面から外面にハケ調整が施されている。８は胴部中位に最大径を持つ球形の胴部の甕である。口縁部は直線的にくの字に外反する。内面は口縁部と胴部下位にハケ目が残る。外面は頸部から胴部にハケ調整の後ナデが施され，下位は斜位のヘラケズリが加えられる。９は胴部中位に最大径を有する



第18図　SI001



第19図　SI002（1）

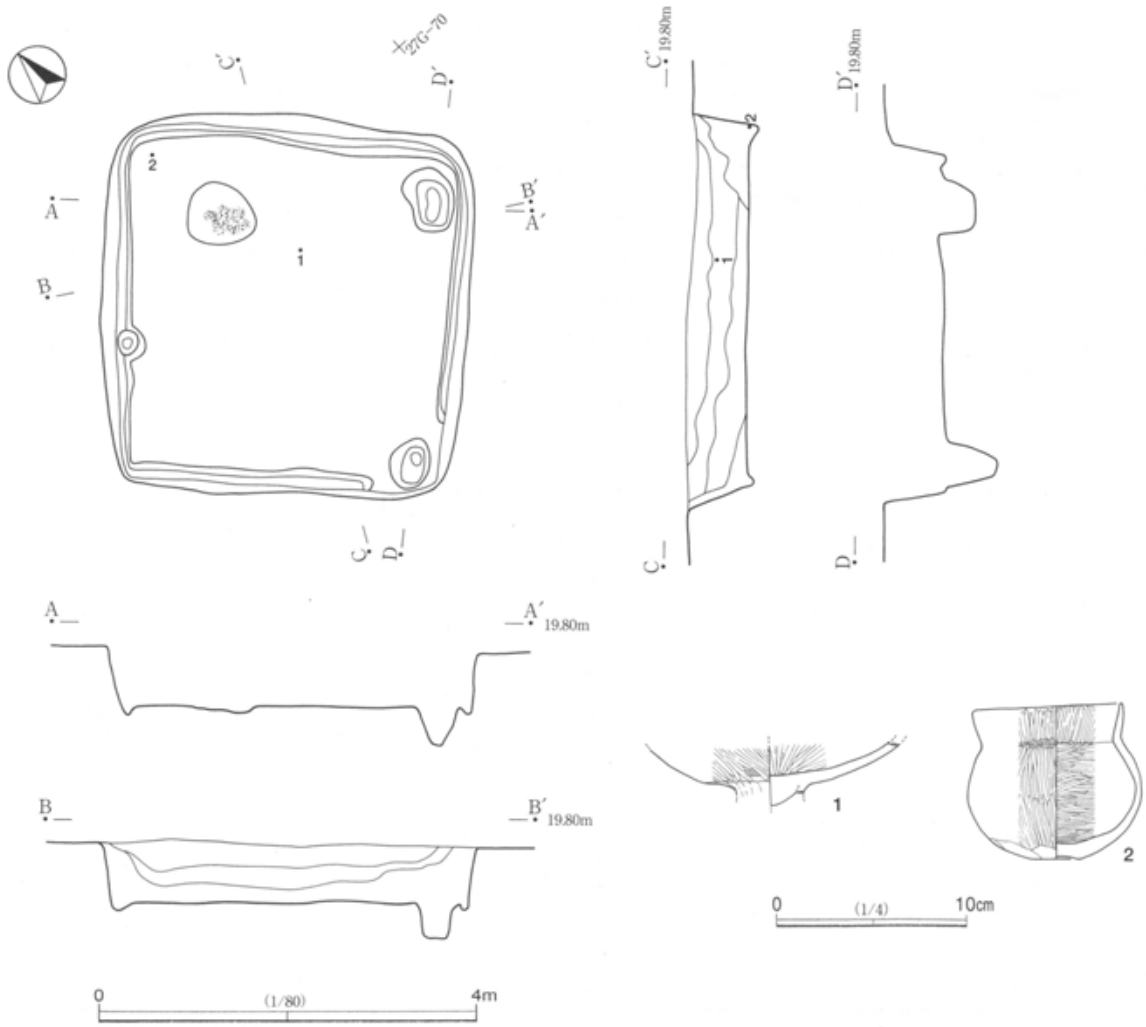


第20図　SI002（2）

球形の胴部で口唇部が上位に摘み上げられる。口縁部内面と胴部外面にハケが施されている。10は口縁部で，内外面に粗いハケ調整が施されている。口唇部は9と同様の作りである。11は小形の甕で，胴部中位に最大径を持ち底部を欠損している。口縁部は緩やかに外反する。12も小形の甕で，やや扁平な器形を呈する。口縁部はくの字に外反する。口縁部内面から胴部外面にハケ目が一部残る。13～15は台付甕の台部のみの遺存である。16は甑で，口縁部は折り返され，底部に向かってやや内湾しながら窄まる。底部には約2.5cmの孔が一つ開けられている。17は器台のミニチュア土器である。

SI003（第21図，図版5・46）

調査区の東端に，27Q－70グリッド付近に位置する。規模は4.4m×4.4m，確認面からの深さ64.1cm～55.8cmを測り，ほぼ正方形に近い形状を呈する。主軸方向は，N－55°－Eを指し，床面積は7.8㎡を測る。床



第21図　SI003

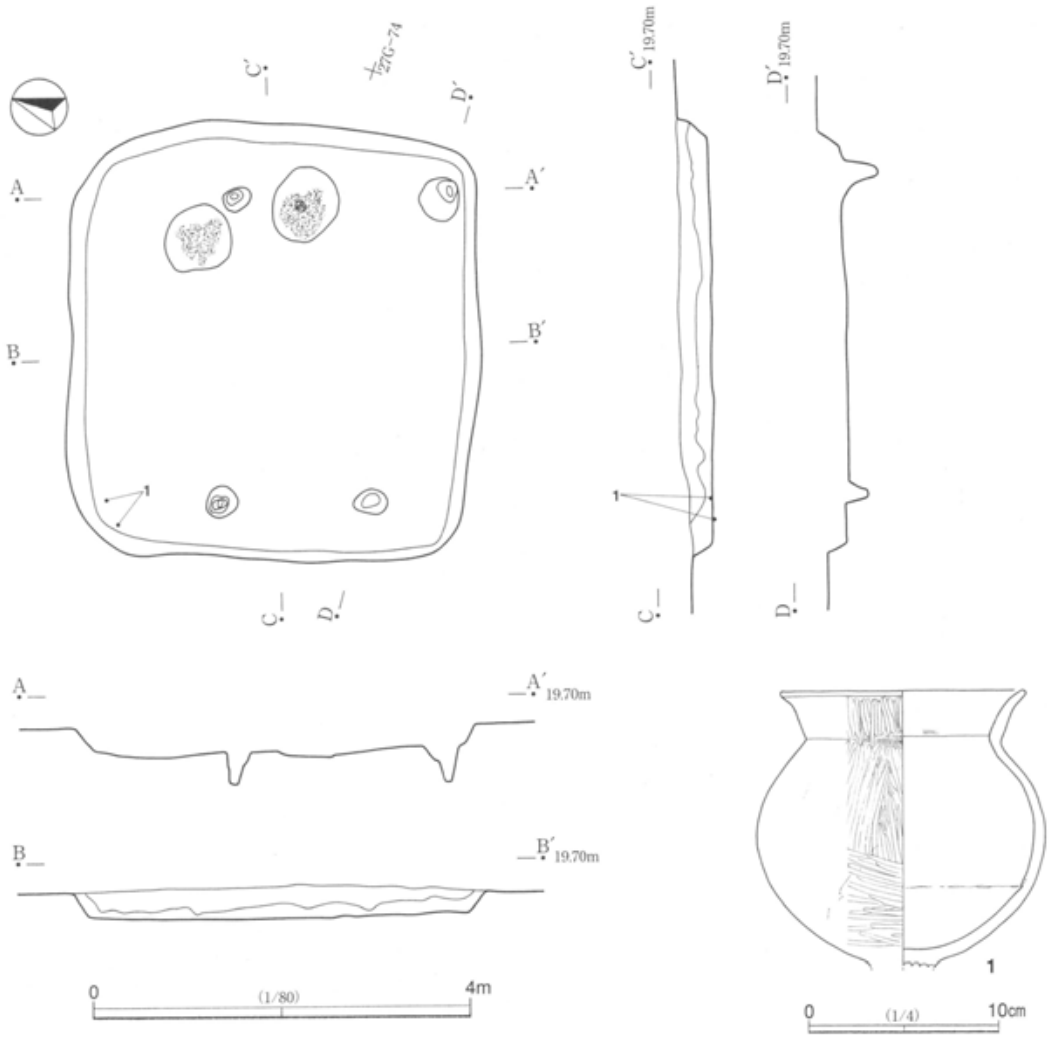
面は平坦で，壁溝が全周している。幅16.0cm，深さ12.0cm程でしっかりとしたものである。柱穴は南東壁両コーナー付近に２本確認される。深さ63.9cm～39.6cmと深い。北西壁ほぼ中央の小ピットは入り口に伴うものと考えられる。炉は北寄りに位置する。長径74.0cm，短径66.0cmの楕円形を呈している。遺物の出土は少ない。北東壁の北コーナーから甕が出土しており，床面直上である。

出土遺物

１は高杯で，杯部の底部と台部との接合部分の遺存である。ホゾが残る。内外面ともにハケ後丁寧なミガキが施される。２はほぼ完形の小形壺で，小さな底部が形成されており，胴部中位に最大径を有する。

SI004（第22図，図版５・46）

調査区最東端，27Q－74グリッド付近に位置する。規模は4.6m×4.3m，確認面からの深さ31.2cm～19.3cmを測り，ほぼ正方形に近い形状を呈する。主軸方向は，N－74°－Eを指し，床面積は10.1㎡を測る。床面は平坦で，壁溝は確認されなかった。覆土は粘性があり，床面近くにはローム粒が多く認められる。柱穴はほぼ対角線上に４本確認され，深さ39.2～23.1cmである。炉は東端近くに２か所確認された。中央の炉は長径79.0cm，短径68.0cmの楕円形を呈し，北よりの炉は長径70.0cm，短径68.0cmでやや歪んだ円形を呈す



第22図　SI004

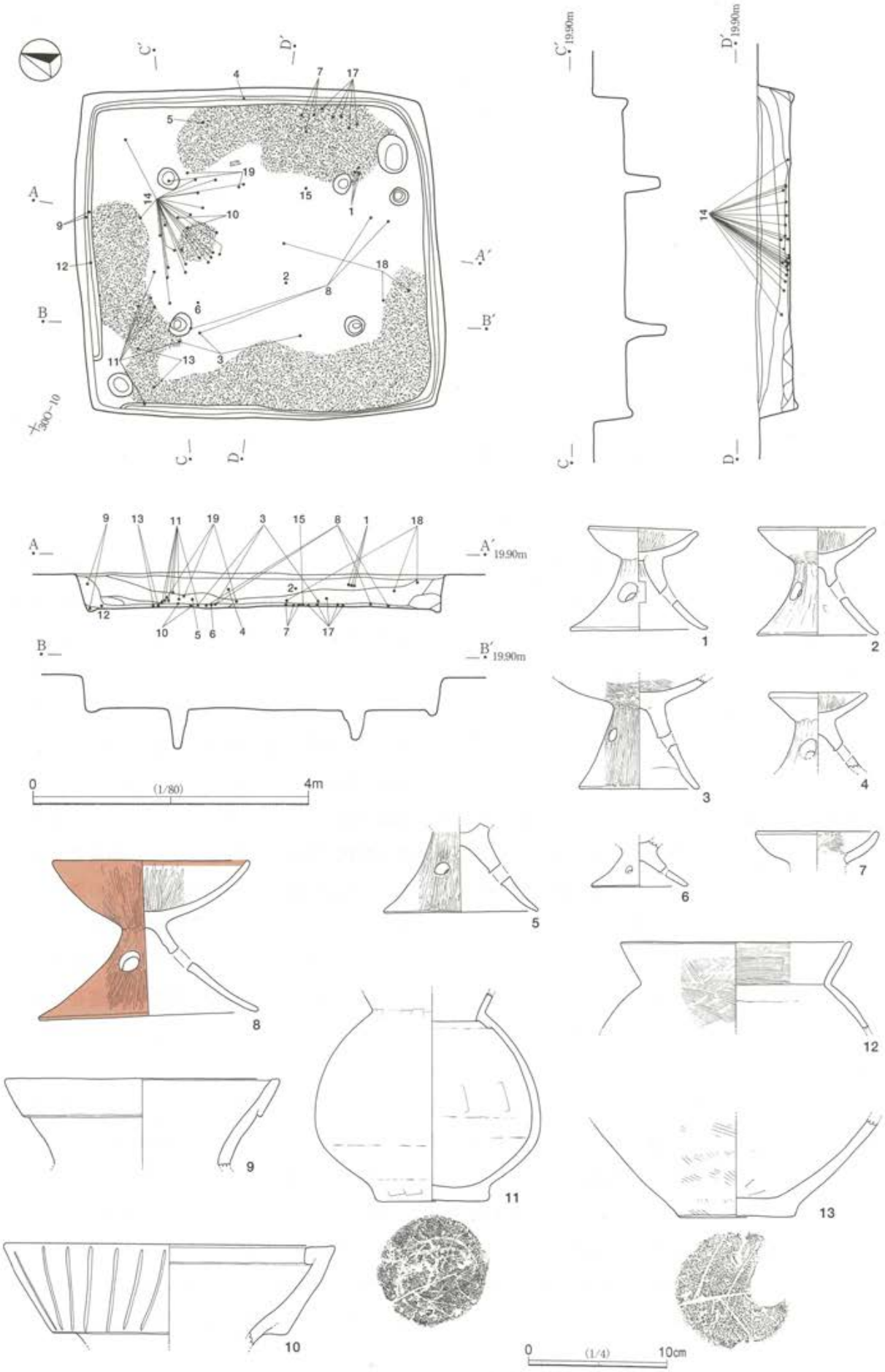
る。北西コーナーから台付甕が出土しており，床面直上である。

出土遺物

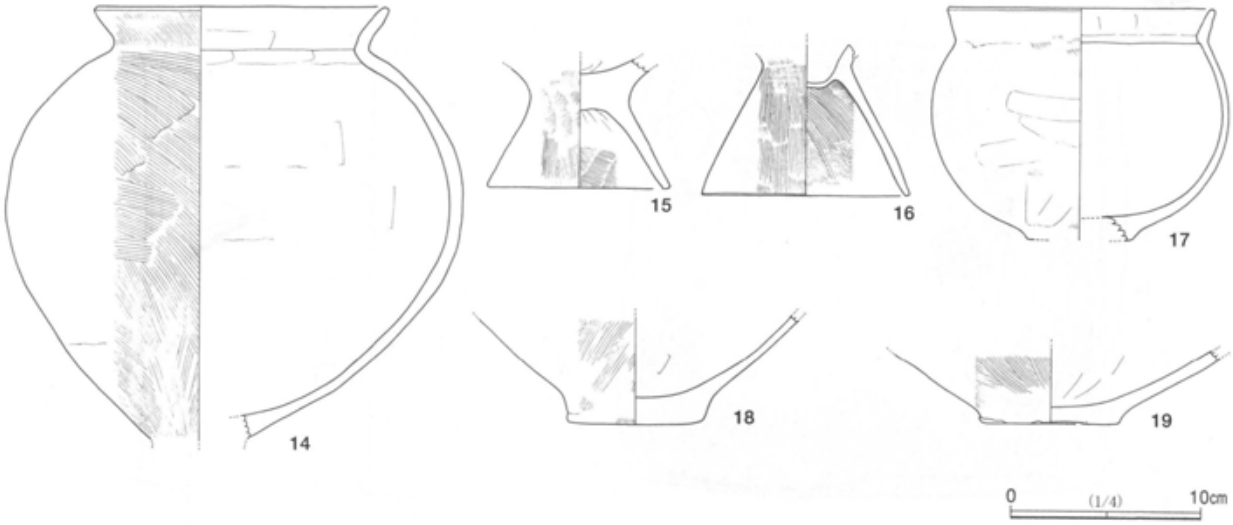
1は台部を欠く台付甕である。胴部中位に最大径を有し，口縁部はくの字状に外反する。外面はハケの後丁寧なミガキが施されている。

SI005（第23・24図，図版6・46）

調査区最南端，27Q－83グリッド付近に位置する。規模は5.2m×4.8m，確認面からの深さ58.9cm～42.0cmを測り，ほぼ正方形に近い形状を呈する。主軸方向は，N－23°－Wを指し，床面積は12.9㎡を測る。床面は若干の凸凹が認められる。壁溝は北西コーナーを除き全周する。柱穴は対角線上に4本確認され，深さ58.7～29.3cmである。炉は主軸よりやや北東に偏った位置に存在する。長径57.0cm，短径53.0cmの正円に近い形状である。焼土の堆積が認められる。南東コーナーのピットは貯蔵穴と思われる。中央部分を除き壁際に沿って厚さ5～11cmで焼土が，中央よりやや東寄りで炭化材が検出されている。焼失住居と考えられる。遺物は多量に出土しているが，床面全体に散在しており，床面または床面直上が多い。



第23図　SI005（1）



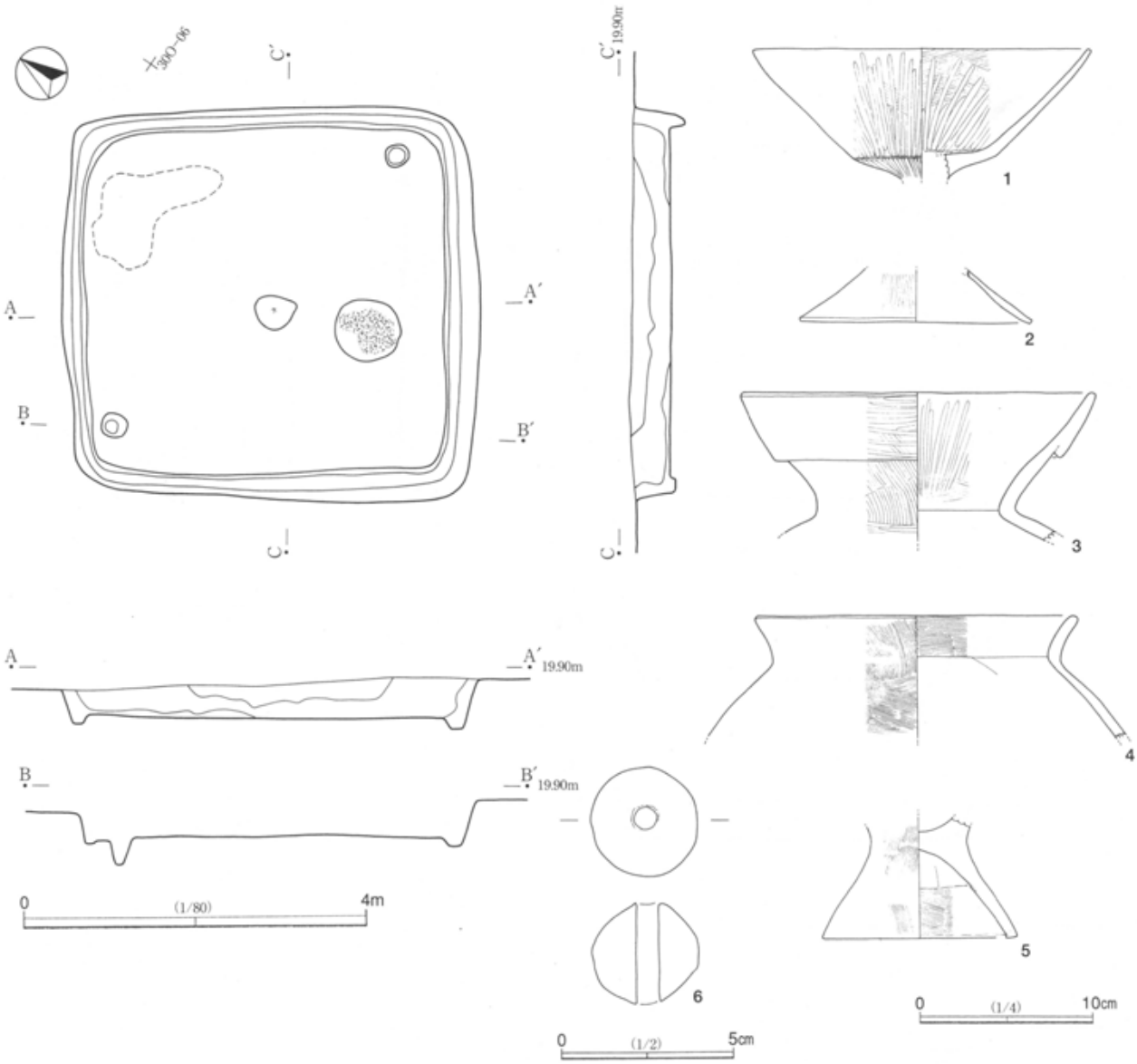
第24図　SI005（2）

出土遺物

1～8は器台である。1・2は遺存が良く，類似した器形で器受け部は稜を持たず，若干内湾しながら外方向に広がり，台部はハの字状に開く。4は器受け部から台部中位までの遺存で，器受け部は底部からほぼ直線的に外方向に伸びる。5はハの字状にカーブを描きながら開き，縦方向の丁寧なミガキが施される。8は比較的大形である。器受け部は緩やかに内湾しながら外上方に伸びる。台部はやや外反しながらハの字状に開く。3か所の透孔は台部の上位に位置する。内外面ともに縦方向の丁寧なミガキが施され，赤彩がみられる。9～11は壺で，9は折り返し口縁である。10は他の土器と比べると胎土が明らかに異なっており，黒色・白色小石や砂粒を多く含みザラついた明るい褐色を呈している。口縁部内面が折り返され，明瞭な段が形成される。また，外面に縦方向の粗い沈線が施されていることから，大廓式土器になると思われる。11は最大径を胴部下位に有し，底部が突出する形状である。口縁部を欠くが頸部でくの字に屈曲している。12・13，17～19は甕，14～16は台付甕である。12は口縁から胴部上位の一部の遺存で，内外面にハケが施される。13は甕の底部片で，若干底部が突出する。ハケ後ヘラナデ調整で，僅かにハケ目が残る。底部には木葉痕がみられる。14は台付甕の台部を欠く。胴部中位に最大径を有し，口縁部は小さくくの字状に外反する。外面には縦または斜位のハケ目が明確に残る。15・16は台部のみの遺存である。18・19は底部片で，18は底部が突出する。

SI006（第25図，図版6・46）

調査区南端，30Q－15グリッド付近に位置する。規模は5.9m×4.6m，確認面からの深さ46.1cm～18.8cmを測る長方形を呈する。主軸方向は，N－33°－Wを指し，床面積は10.5㎡を測る。床面は平坦で，覆土はロームブロックを多く含み，自然堆積の様相を呈している。壁溝は，幅14.0cm，深さ7.0cm程度で全周する。ピットは南東コーナーと北西コーナーに2本確認された。北西コーナーのピットは深さ32.8cmで柱穴と思われるが，南東コーナーは柱穴とは考えにくい。炉は中央及び南側に2基存在する。中央の炉は長径49.0cm，短径40.0cmを測るが，焼土は希薄である。南側に位置する炉は長径68.0cm，短径62.0cmで，中央の炉より一回り大きい。遺物は床面全体に散在しているが，南西コーナーに集中する傾向がある。



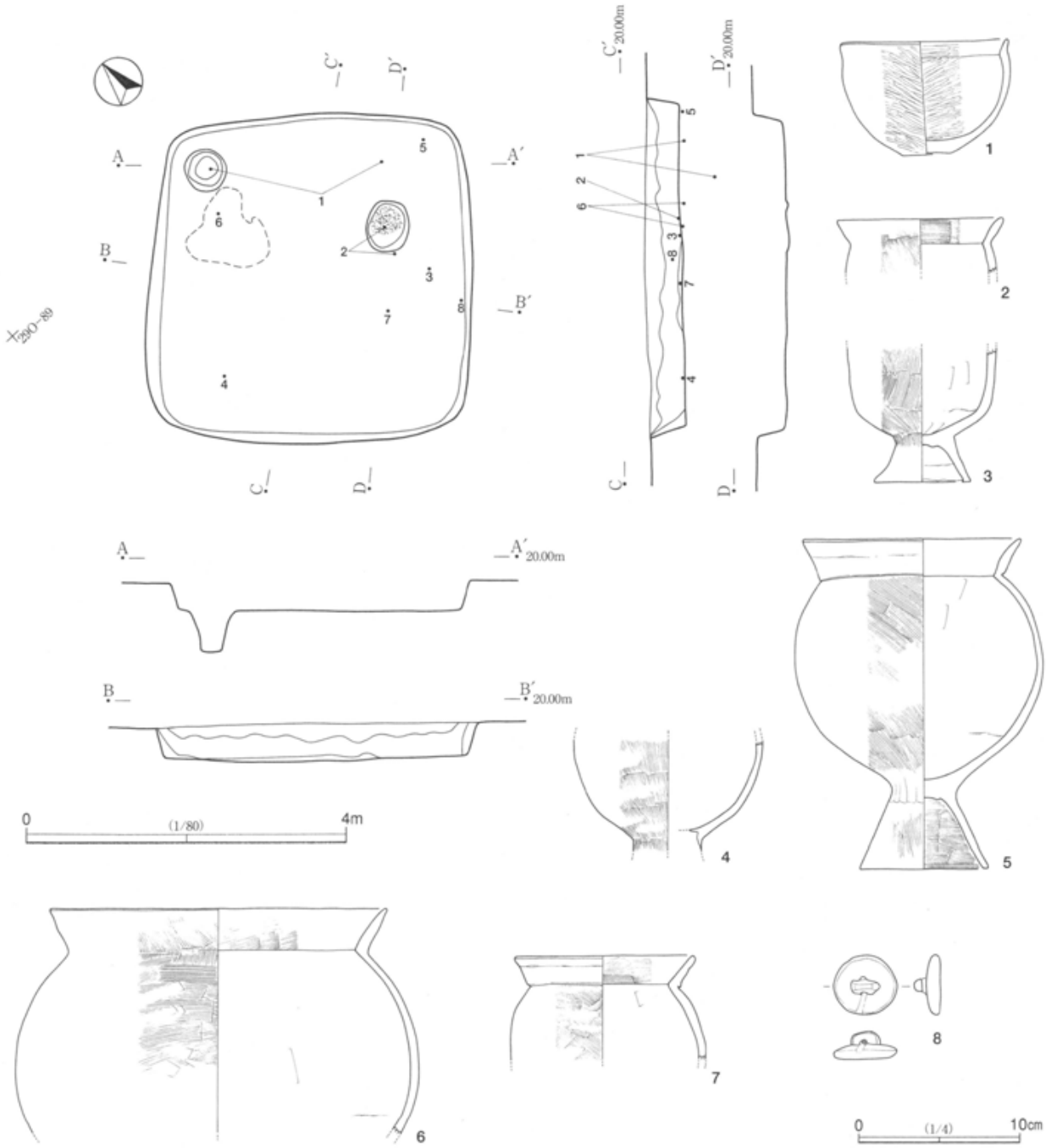
第25図　SI006

出土遺物

1は高杯である。杯部のみの遺存で，口縁部は直線的に外上方向に開き，明瞭な稜が形成される。内外面ともにハケ調整後縦方向のミガキが施される。3は壺の口縁部で，折り返し口縁となる。内外面ともにハケ調整後ミガキが施される。4は甕で，口縁部は小さく緩やかに外反し，口縁部内面から外面にハケ調整が施される。5は台付甕の台部で，内外面にハケ目が若干残る。6は土玉の完形品である。

SI007（第26図，図版6・46）

調査区南側，29P－99グリッド付近に位置する。規模4.2m×4.0m，確認面からの深さ41.9cm～28.9cmを測る。主軸方向はN－44°－Eを指し，床面積は9.6㎡を測る。床面はほぼ平坦で，北コーナー近くに部分的な硬化面がみられる。壁溝・柱穴は検出されなかった。炉は東側に寄って位置する。長径64.0cm，短径53.0cmを測り，北側半分が良く焼けている。北コーナーに掘り込まれたピットは貯蔵穴であろう。深さ50cmほどの断面逆台形を呈する。覆土中にソフトローム及びロームブロックが含まれており，人為的な埋め戻しの可能性もある。遺物は全体に散在するが，ほとんど床面直上の状態である。



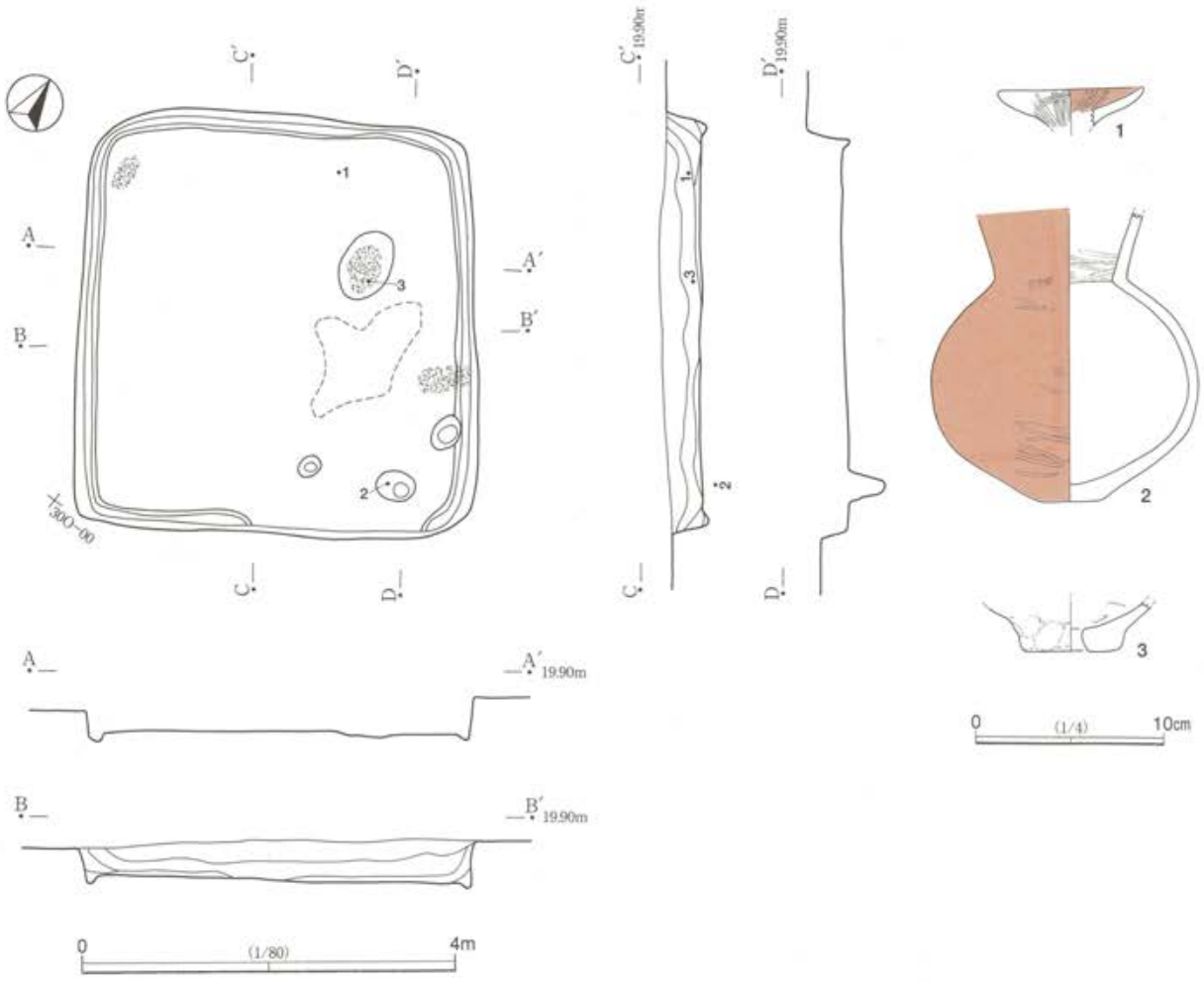
第26図　SI007

出土遺物

1は鉢で，口縁部が外方向に小さく摘み上げられる。内外面ともに横方向のミガキが丁寧に施される。2は小形甕の口縁部で，内外面にハケ調整が施されている。3は小形の台付甕で，胴部が特徴的でコップ状を呈している。器形からすると東海の影響が伺われる。5はほぼ完形の台付甕で，口縁部はくの字状に直線的に開き，胴部は中位に最大径を持つ。台部はハの字状に直線的に開く。胴部外面と台部内外面にハケ調整が施される。6は甕で，球形胴に短くくの字状に伸びる口縁部を有する。口縁部内面から外面にハケ目が残る。8は鏡形の土製模造品であろう。

SI008（第27図，図版7・47）

調査区南側，29O－90グリッドに位置する。規模は4.5m×4.2m，確認面からの深さ45.2cm～28.7cmを測



第27図　SI008

るほぼ正方形の形状を呈する。主軸方向はN－35°－Wを指し，床面積9.8㎡を測る。床面は木根が多いため硬化面は一部しか検出されなかった。壁溝は南東壁の一部を除き全周する。幅11.0cm，深さ9.0cm程度を測る。ピットは3本確認されたが，主柱穴ではないと思われる。東コーナーにあるピットは貯蔵穴であろう。炉は北に偏って存在する。長径80.0cm，短径54.0cm，深さ6.3cmを測り，焼土の堆積がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ない。

出土遺物

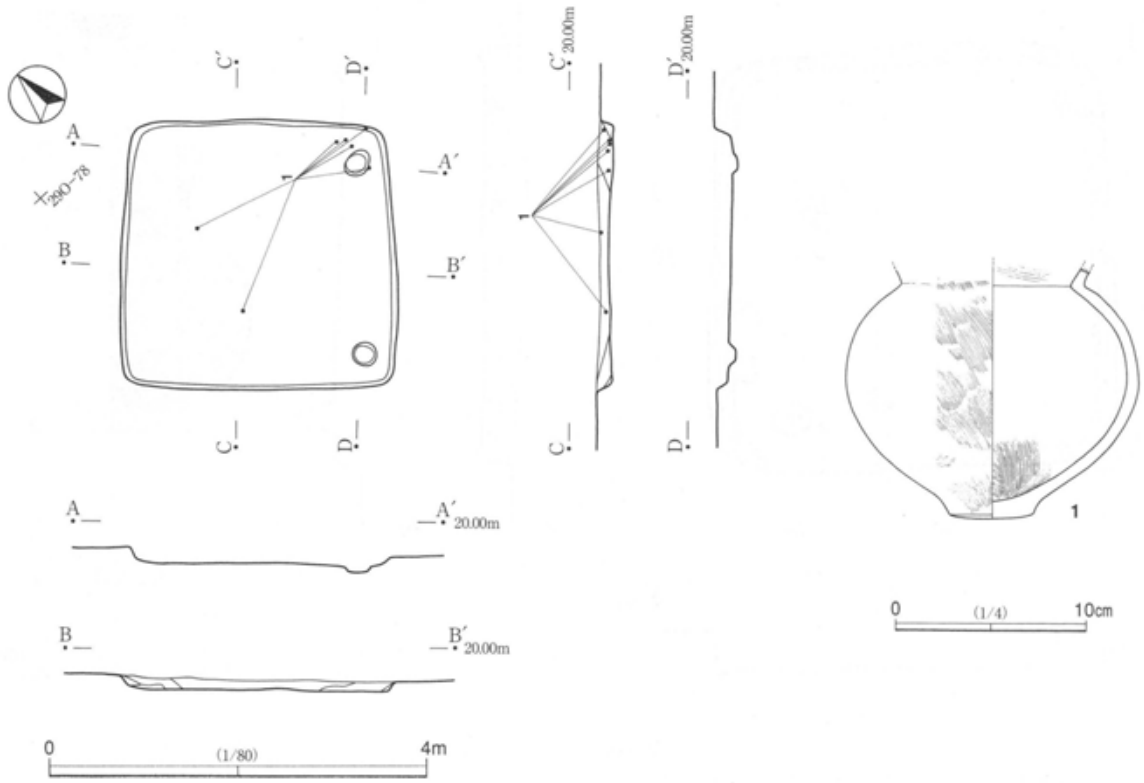
1は器台の器受け部である。内外面ミガキ調整され，赤彩が施される。2は壺である。胴部のやや下位に最大径を有し，口縁部の開きは少ない。外面にはハケ後ミガキが施され，赤彩される。3は焼成前の底部穿孔の壺であろうか。

SI009（第28図，図版7・47）

調査区南側，29O－88グリッド付近に位置する。規模は3.0m×2.8m，確認面からの深さ12.8cm～9.8cmを測り，掘り込みの浅いほぼ正方形の形状を呈する。主軸方向はN－35°－Wを指し，床面積は9.8㎡を測る。ピットは2本確認されたが，柱穴ではないと思われる。炉は検出されなかった。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は少ないが，東コーナーのピット付近で甕が出土している。

出土遺物

1は甕である。底部は突出し，球形胴を呈する。全体にハケ後ナデ調整される。



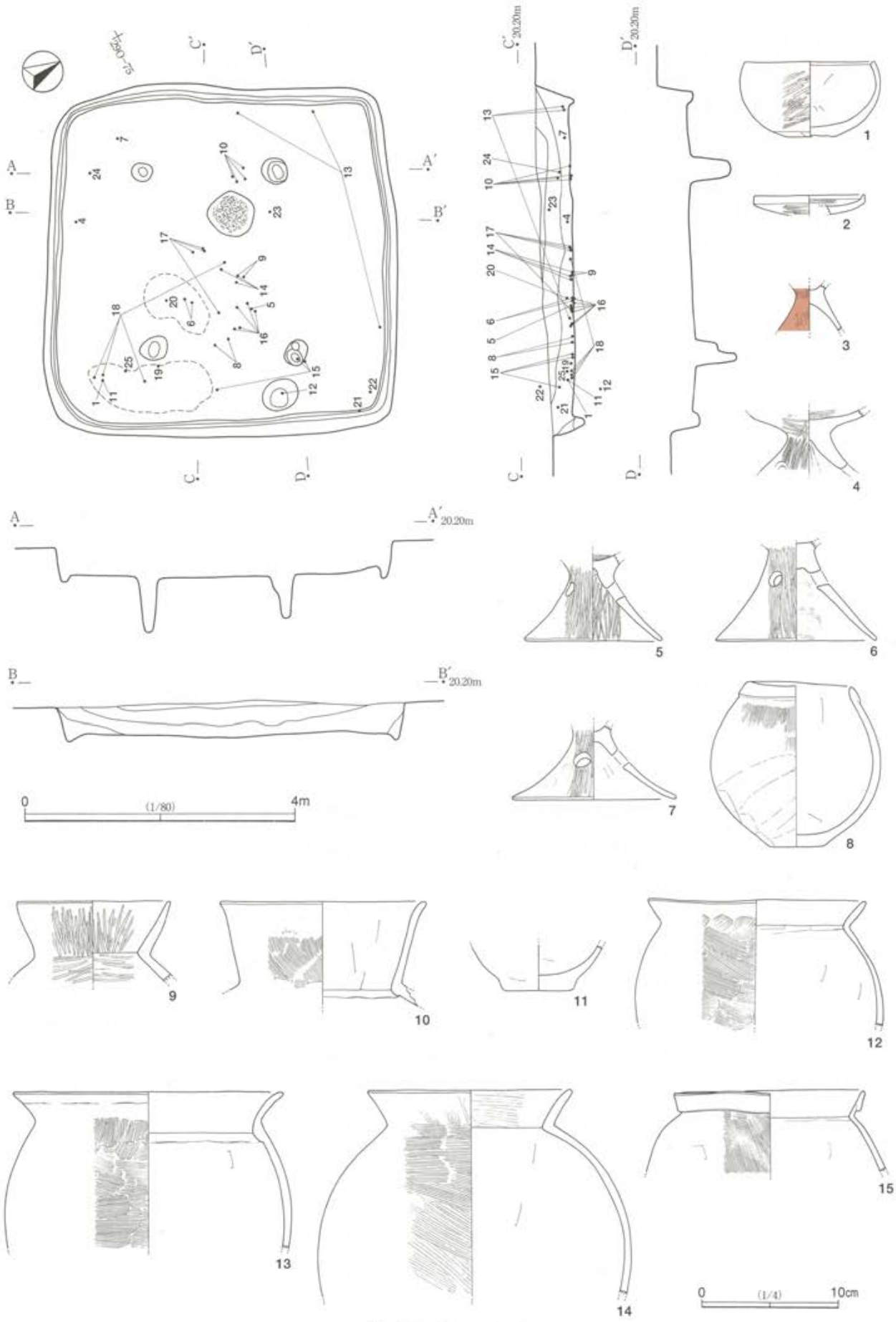
第28図　SI009

SI010（第29・30図，図版７・８・47）

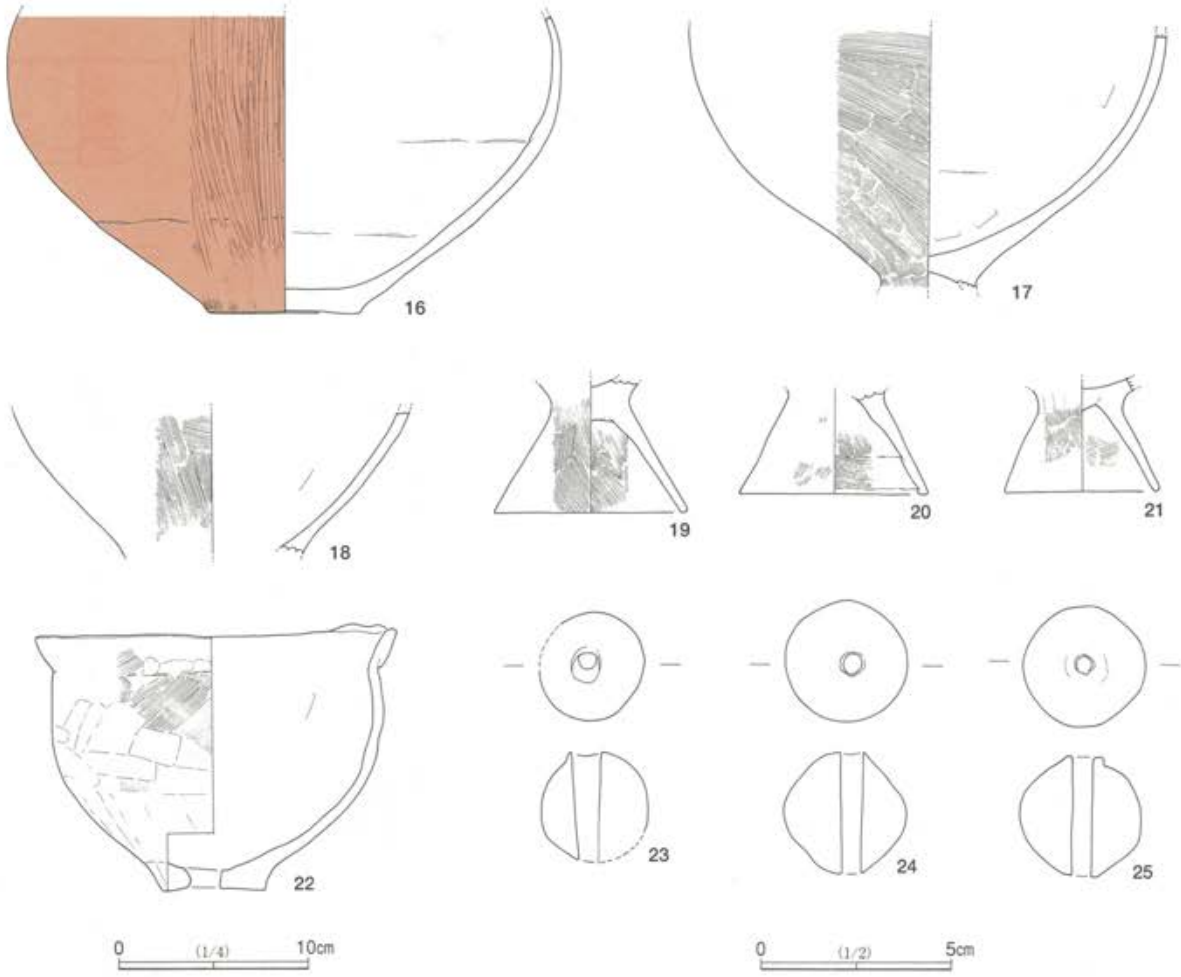
調査区南側，29O－76グリッドに位置する。規模は5.2m×5.2m，確認面からの深さ47.4cm～36.8cmを測る正方形の形状を呈する。主軸方向は，N－60°－Wを指し，床面積は13.7㎡を測る。床面は平坦で，部分的な硬化面が南側に認められた。壁溝は，幅12.0cm，深さ10.0cm程度で全周する。柱穴は対角線上に４本検出された。深さ72.2cm～53.0cmと深い。北側の柱穴掘り方が２段になっていることから，柱が抜き取られた可能性がある。炉は主軸上の北西に偏って検出された。長径68.0cm，短径62.0cm，深さ9.4cmを測る。南東壁に接するピットは貯蔵穴となろう。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は住居跡の南西に集中する傾向にある。出土状況は床面または直上からが圧倒的に多い。

出土遺物

１は椀で，小さな平底を有し，全体に半球状を呈する。口唇部は丁寧に面取りされる。粗いミガキが施される。２～７は器台である。２は器台の器受け部である。浅い皿状の器形を呈し，口縁部が上方に短く屈曲する。内外面ともに粗いミガキが施される。３～７は台部である。３は小形で，外面赤彩される。５・６はほぼ同様な形状で，直線的にハの字状に裾部まで伸びる。３か所の透孔は脚部の上位に穿たれている。ミガキ調整を主とする。７は裾部が外反しながら大きく広がる。８～11は壺である。８は無頸壺で，胴部中位に最大径を有し，口縁は折り返される。胴部外面はハケ調整後中位から下位に斜位のヘラケズリを施す。９の口縁部は直線的にくの字状に屈曲する。丁寧なミガキ調整である。10の口縁部は直立気味となり，口唇部で若干外反する。外面にハケ目が残る。11は手捏ね状である。12～21は甕である。12～14はくの字状に外反する口縁部を呈し，外面には頸部に縦方向，胴部には横方向の細かいハケ目が残される。15は折り返し口縁となる。16は大形の壺で，上半部を欠く。最大径を中位に有し，外面赤彩される。縦方向の丁



第29図　SI010（1）



第30図　SI010（2）

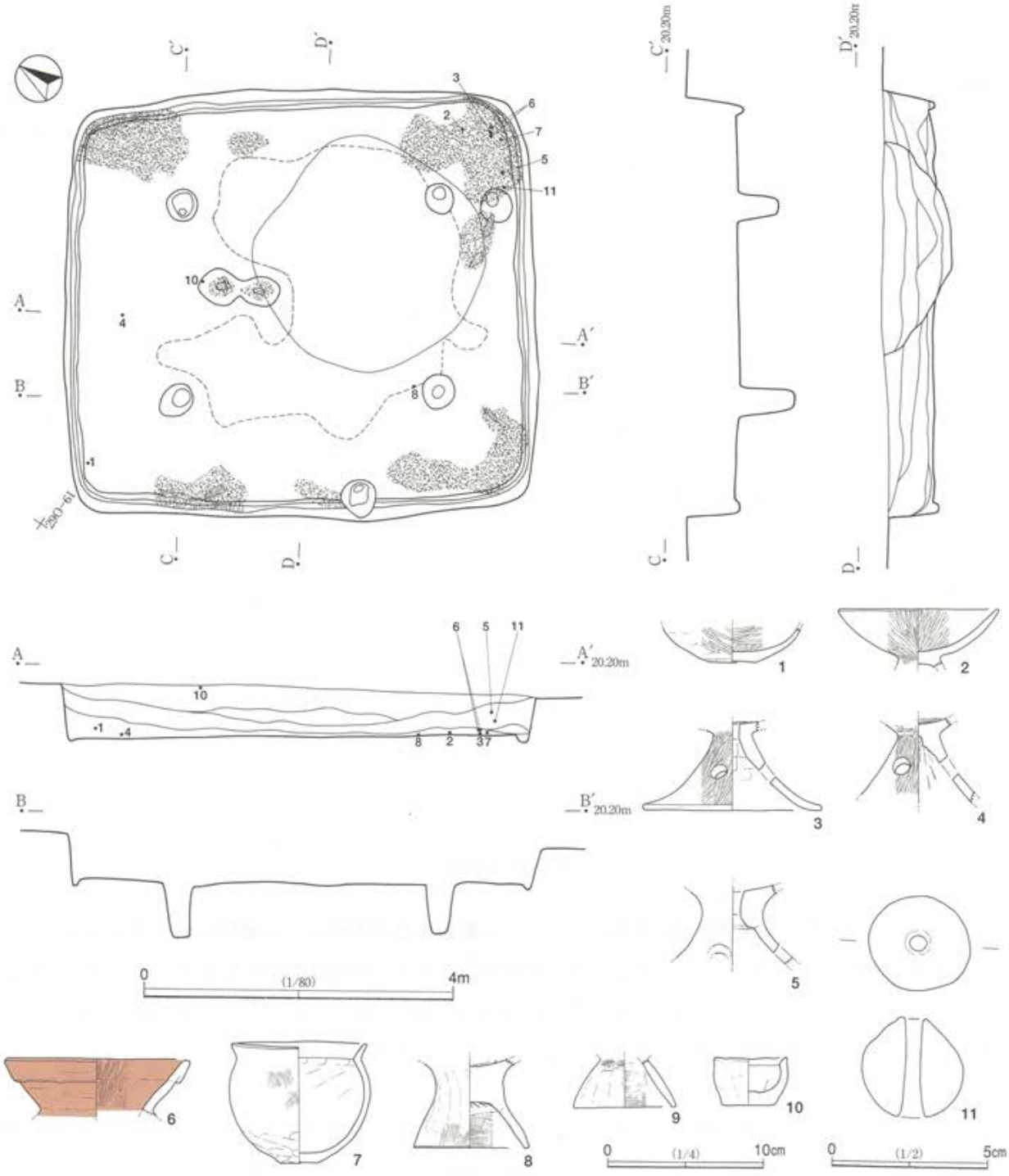
寧なミガキが施される。17・18は台付甕の胴部片である。外面には細かいハケ目がみられる。19～21は台付甕の台部で，直線的にハの字状に開く。内外面ともにハケ目が確認できる。23～25は土玉である。

SI011（第31図，図版8・47）

調査区南側，29O－72グリッドに位置する。SK057が床面を切って掘り込まれる。規模は6.1m×5.5m，確認面からの深さ68.2cm～48.0cmを測り，掘り込みの深い長方形の形状を呈する。主軸方向はN－34°－Wを指し，床面積は17.7㎡を測る。床面は平坦で，硬化面は柱穴間に良好に確認された。壁溝は，幅6.8cm，深さ10.0cm程度で全周する。柱穴は対角線上に4本検出された。深さ72.2cm～4.8cmを測る。炉は主軸上に南北に2基検出された。北側は長径58.0cm，短径46.0cm，深さ5.4cmの楕円形を呈し，南側に土器片を立てている。南側の炉は長径45.0cm，31.5cm，深さ2.8cmを測る。壁際に焼土が多く検出されており，焼失住居と思われる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は南東コーナーに集中する。

出土遺物

1は坩であろうか。内外面ともにヘラケズリの後粗いミガキが施される。2～5は器台である。2は器台の器受け部で，内外面とも丁寧なミガキである。3～5は台部である。3は透孔が3か所穿たれ，器受け部との接合部は中空となる。外面には丁寧なミガキが施される4には非常に密なミガキが認められる。6は複合口縁となる壺である。内面に縦方向の粗いミガキが施され，内外面赤彩される。7は小形甕で，

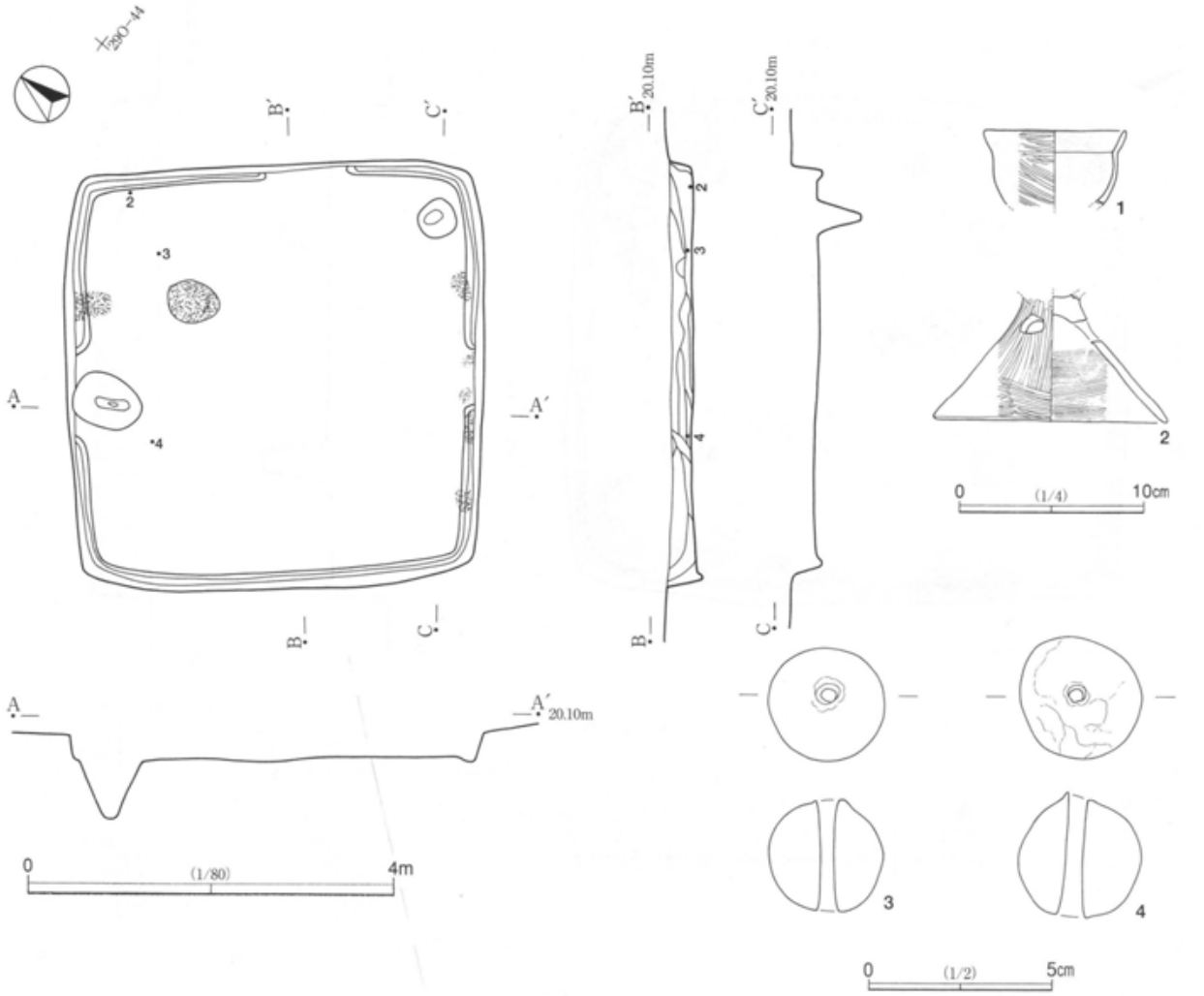


第31図　SI011

口縁部と胴部最大径がほぼ同様である。胴部下端にヘラケズリが加えられる。8・9は台付甕の台部であろう。内外面ともハケ目が僅かに残る。10は手捏ね土器で，口縁部内面に稜を有する。11は土玉である。

SI012（第32図，図版9・47）

調査区南側，29O－44グリッド付近に位置する。規模は4.6m×4.6m，確認面からの深さ34.6cm～25.6cmと正方形の形状を呈する。主軸方向はN－38°－Wを指し，床面積は11.0㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，硬化面は認められない。壁溝は北西壁中央と南東壁中央を除いて幅12.0cm，深さ5.0cmで全周する。ピ



第32図　SI012

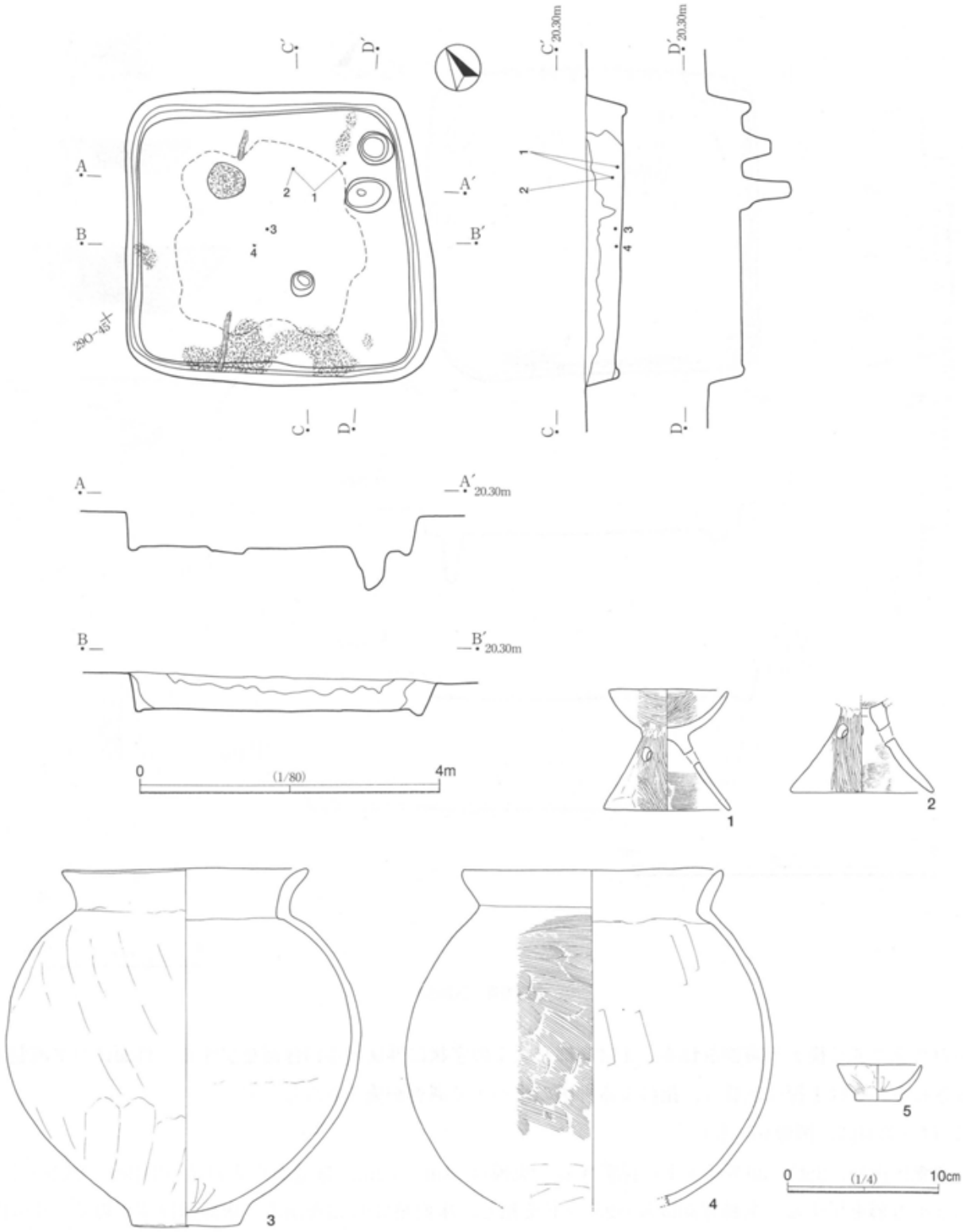
ットは２本確認された。北西壁中央に位置するピットは貯蔵穴と思われる。長軸43.0cm，短軸40.0cmの円形で，深さ58.8cmを測る。南東コーナーのピットは性格不明である。柱穴は検出されなかった。炉は主軸より北東に偏り，炉床の南側に土器片が立てられる。長径59.0cm，短径45.0cm，深さ7.9cmを測る。覆土は自然堆積で，北西壁と南東壁際に焼土の堆積が認められる。遺物の出土は少ない。

出土遺物

１は広口の坩である。外面に粗いミガキがみられる。２は高杯の脚部であろう。ハの字状に直線的に開き，透孔は脚部上位に位置する。内外面ともハケ調整される。３・４は土玉である。

SI013（第33図，図版９・47）

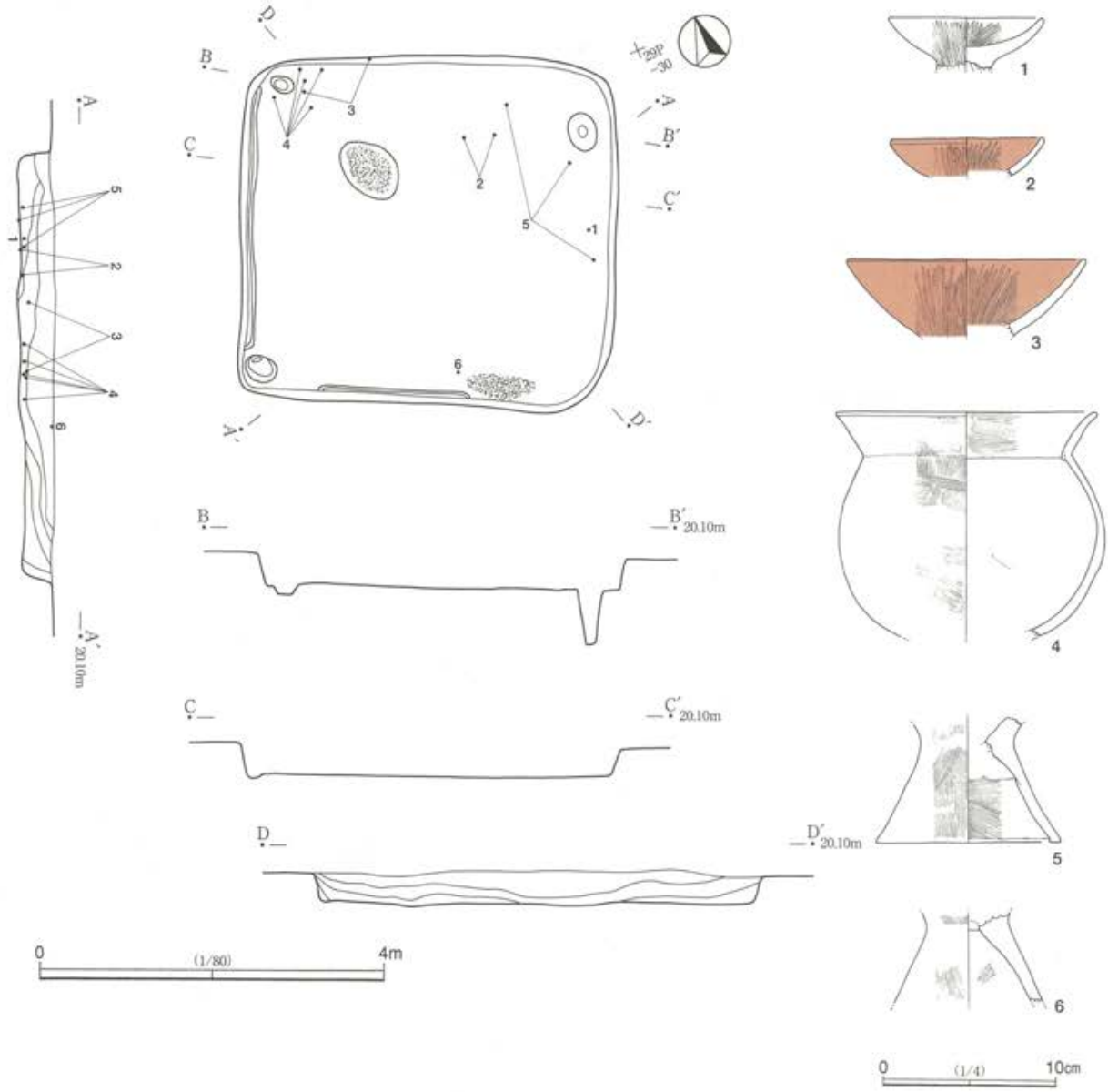
調査区南側，29O－45グリッド付近に位置する。規模は3.9m×3.9m，確認面からの深さ47.7cm～40.9cmとやや隅丸の正方形状を呈する。主軸方向はN－34°－Eを指し，床面積は7.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で中央部に硬化面が認められる。壁溝は，深さ14.0cm～7.0cmで全周する。ピットは３か所確認された。北東コーナーのピットは貯蔵穴と思われる。長軸47.0cm，短軸42.0cm，深さ41.0cmのほぼ正円である。他のピットは性格不明である。柱穴は検出されなかった。炉は主軸より北に偏る。炉床に甕片が埋め込まれた状態で出土した。南西壁付近に厚さ４～５cmの焼土のまとまった堆積が認められ，炭化材も出土した。遺物は少なく，散漫に出土している。



第33図　SI013

出土遺物

1・2は器台である。1は遺存状態が良く，器受け部は緩やかに内湾しながら立ち上がり，台部はハの字状に直線的に開く。透孔は3か所で台部の上位に穿たれている。2の台部は外反しながら開く。3・4は甕である。3は完形品で，底部が突出し，口縁部はコの字状に近い。胴部中位に最大径を有する。縦方



第34図　SI014

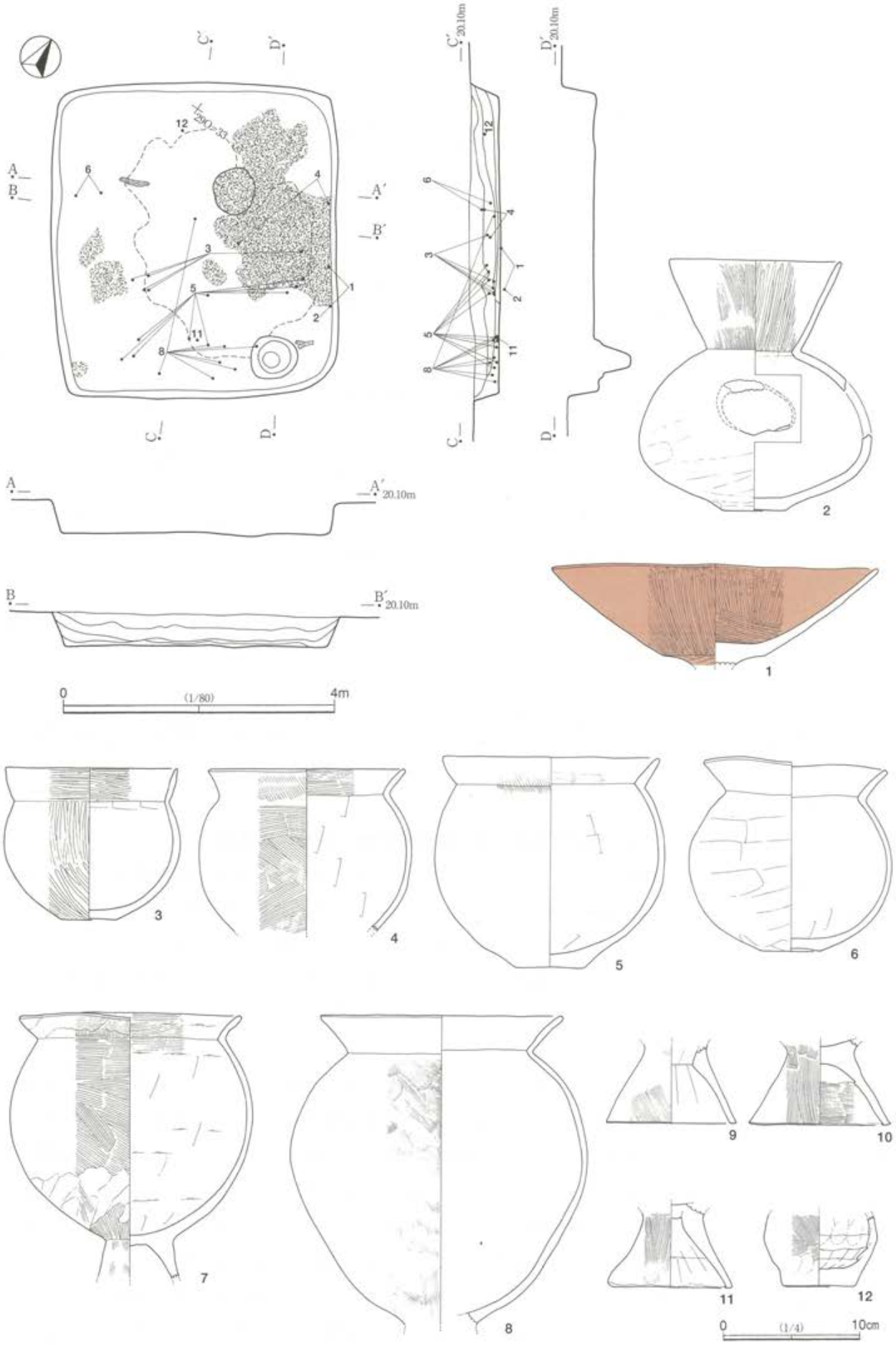
向のヘラケズリ後ナデ調整される。4は底部を欠くの字状に外反する口縁部を呈する。外面にハケ調整が施される。5は手捏ね土器で，指による押圧の後ハケで調整が施こされる。

SI014（第34図，図版10・47）

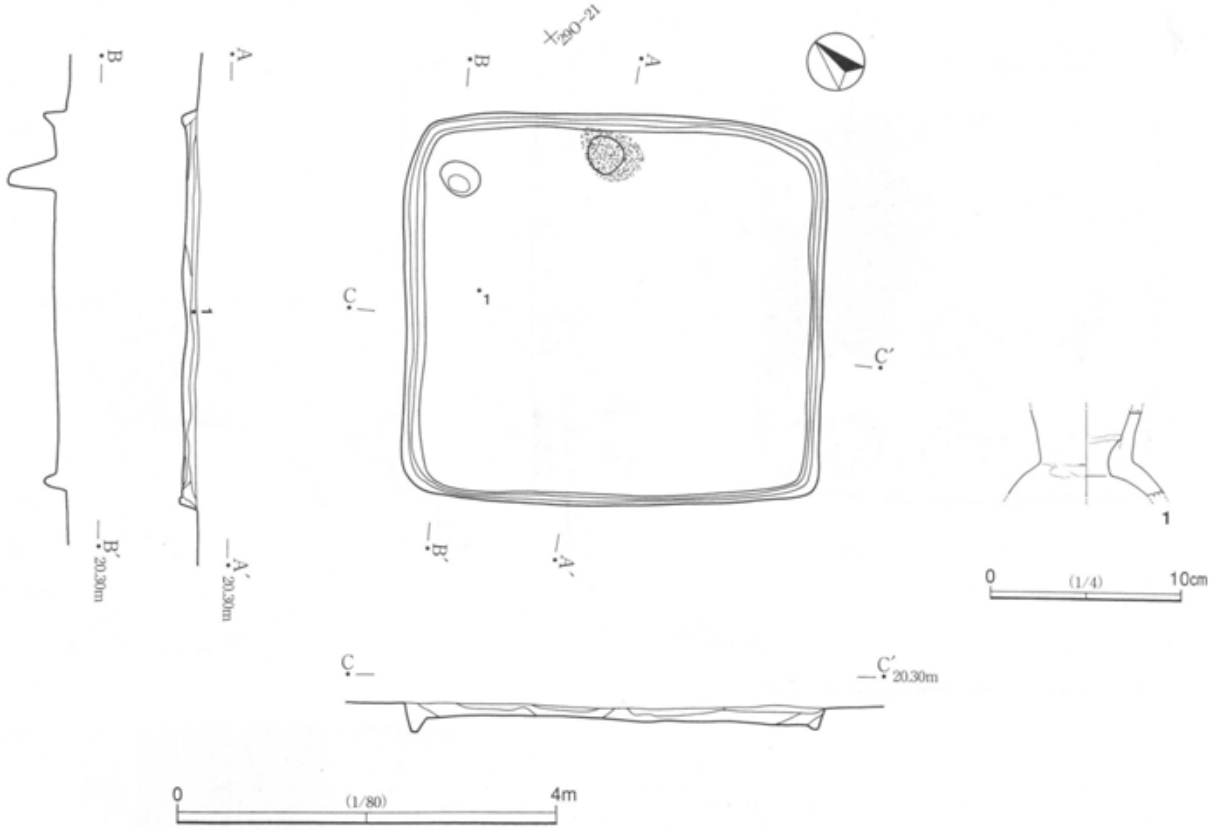
調査区南側，29O－39グリッドに位置する。規模は4.4m×4.0m，確認面からの深さ36.2cm～28.1cmで，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－25°－Eを指し，床面積は9.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。壁溝は北西壁と南西壁の一部に，幅8.0cm，深さ2.5cmで検出された。ピットは3本確認されたが，性格不明である。炉は主軸より北に寄って掘り込まれる。長軸79.0cm，短軸35.0cm，深さ2.3cmを測る。焼土の堆積が僅かにみられる。遺物は少ないが，北側に集中し，床面または床面直上から出土している。

出土遺物

1・2は器台である。器受け部のみの遺存で，内外面縦方向のミガキが施される。2には赤彩が認められる。3は高杯の杯部片で，僅かに内湾しながら大きく開く。内外面ともに縦方向に丁寧なミガキが施さ



第35図　SI015



第36図　SI016

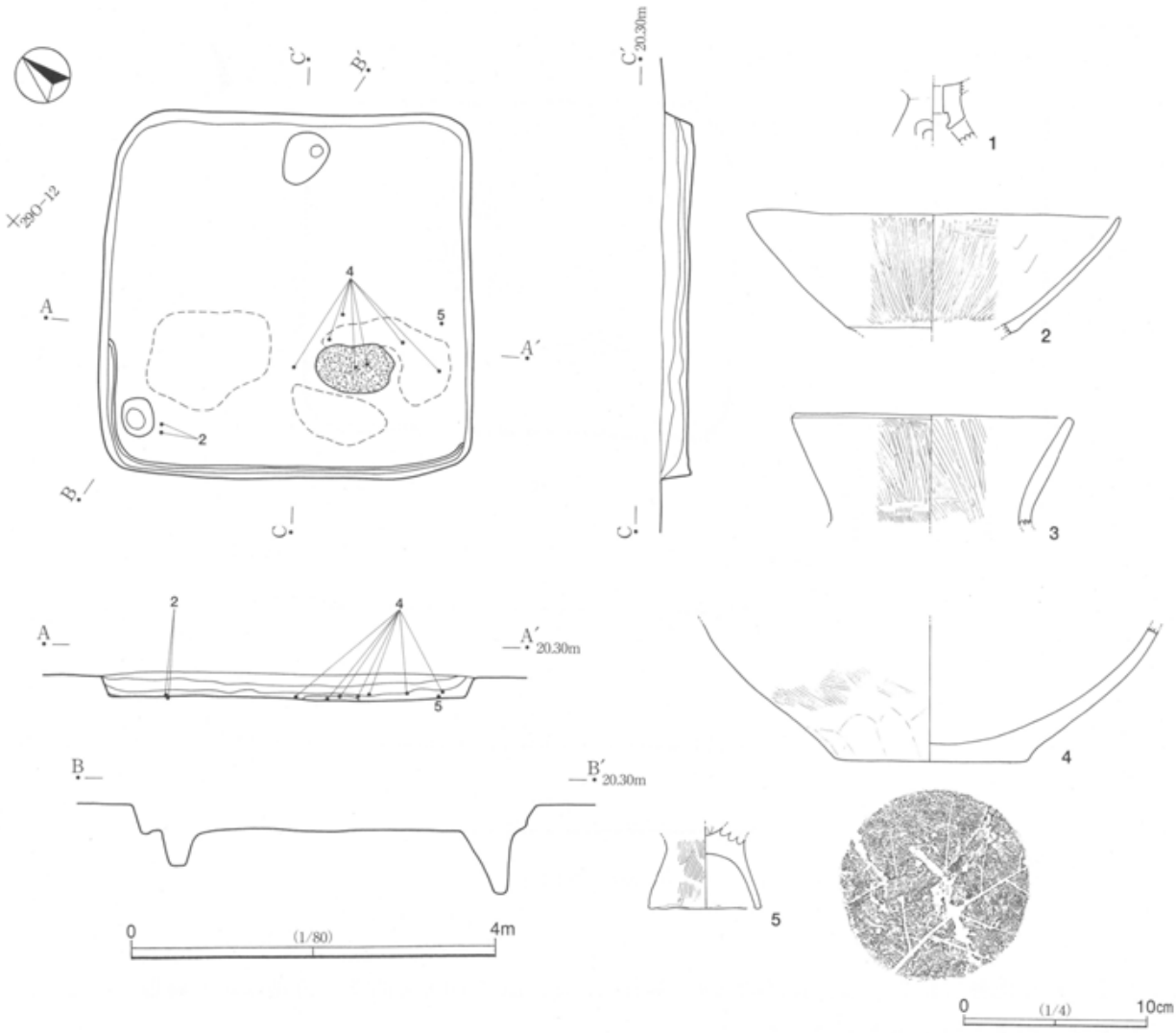
れる。やはり赤彩される。４～６は甕である。４は台付甕であろう。口縁部は比較的長い。口縁部内面から胴部外面に僅かにハケ目が残る。５・６は台部で，６はやや内湾する。内外面にハケ目が施される。

SI015（第35図，図版10・48）

調査区南側，29O－33グリッド付近に位置する。規模は4.7m×4.2m，確認面からの深さ46.4cm～36.0cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－30°－Wを指し，床面積は10.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で硬化面が中央に広がっている。柱穴は検出されなかった。南東コーナーのピットは貯蔵穴と思われる。長軸72.0cm，短軸66.0cmの円形で，深さ51.9cmを測る。炉は主軸より北東側に位置する。長径68.0cm，短径60.0cm，深さ1.8cmを測る。東壁から炉にかけてと西壁付近に焼土の堆積が認められる。遺物は床面南側に集中する傾向にある。

出土遺物

１は高杯の杯部で，内外面ともにハケ後丁寧なミガキが施され，赤彩される。２は瓢形の胴部に直線的に開く口縁部を有する壺である。胴部上位に焼成後の大きな孔が穿たれる。口縁部外面には縦方向のハケ目が残り，内面には丁寧なミガキが施される。胴部はヘラケズリの後ナデが加えられる。３～11は甕である。３は小形で，胴部最大径を上位に有する。口縁部は直立気味となる。内外面ともミガキ調整される。４は薄手の作りで，口縁部内面から胴部外面にハケ調整が施される。５も４と同様の形態で，ハケ目が若干みられる。６は小さい上げ底の底部で，球形胴を呈し，壺に近い形状である。調整はヘラケズリである。７・８は台付甕である。くの字状の口縁で，７は口縁上半がやや肥厚する。口縁部内面から胴部外面にハケ目がみられる。部分的にヘラナデを加える。８の胴部はつくりが粗雑なためかやや歪みがある。９～11は台



第37図　SI017

部片で，11は裾部で若干内湾気味になる。

SI016（第36図，図版11）

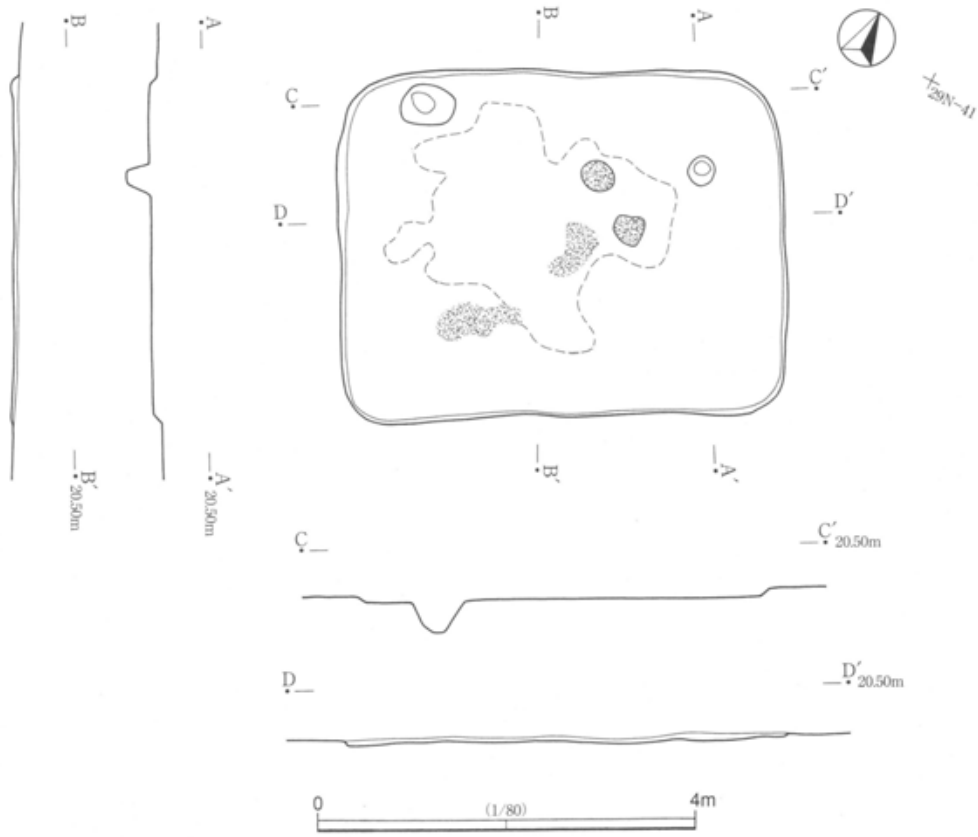
調査区南側，29O－31グリッドに位置する。規模は4.4m×4.2m，確認面からの深さ20cm前後を測る正方形を呈する。主軸方向はN－45°－Eを指し，床面積は10.4㎡を測る。床面は平坦で，硬化面は認められない。壁溝は，幅7.9cm，深さ10.0cm程で全周する。ピットは性格不明である。柱穴は検出されなかった。炉は北東壁際の中央に位置し，長径40.0cm，短径38.0cm，深さ1.2cmを測る。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は手捏ね状の壺片である。作りが粗雑で，頸部外面には粘土の貼り付け痕，口縁部内面には接合痕が残る。

SI017（第37図，図版11）

調査区南側，29O－22グリッドに位置する。規模は4.1m×4.0m，確認面からの深さ33.4cm～22.3cmを測る正方形を呈する。主軸方向はN－41°－Wを指し，床面積は9.0㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は南側に部分的に確認された。壁溝は南西壁のみ幅8.0cm，深さ2.5cmで掘り込まれる。2本のピットは性格不



第38図　SI018

明である。炉は南側に位置する。長径83.0cm，短径51.0cm，深さ3.6cmを測る。遺物は炉の周辺で出土した。出土状況は床面または床面直上である。

出土遺物

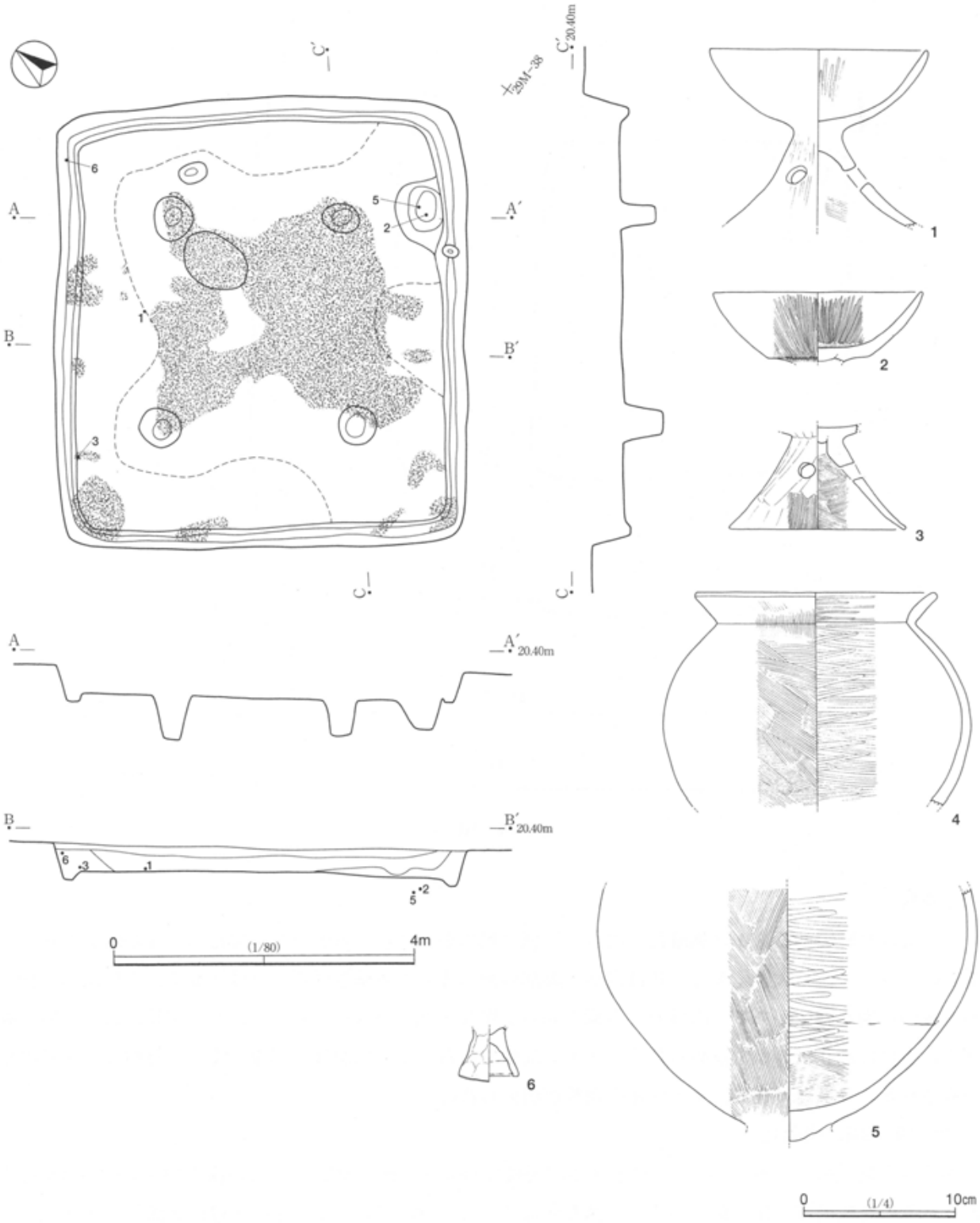
1は中空の小形器台片である。2は大形高杯の杯部で，内外面とも縦方向の丁寧なミガキが施されている。3は壺の口縁部片で，内外面ハケ調整後ミガキが加えられる。4は壺の底部片であろう。5は小形台付甕の台部である。内湾気味にハの字状に開く。

SI018（第38図，図版11）

調査区南側，29N－50グリッド付近に位置する。規模は4.2m×3.6m，確認面からの深さ9.0cm～1.7cmと非常に浅い長方形を呈する。主軸方向はN－60°－Eを指し，床面積は10.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は中央部分で確認された。ピットは2本確認されたが，東側は柱穴と考えられる。炉は2基検出された。北東の1基は長径35.3cm，短径32.5cm，深さ1.3cmの円形である。東寄りの1基は長径32.5cm，短径32.0cmを測り，掘り込みはほとんど確認されなかった。床面上に焼土が部分的に検出された。図示できるような遺物はなかった。

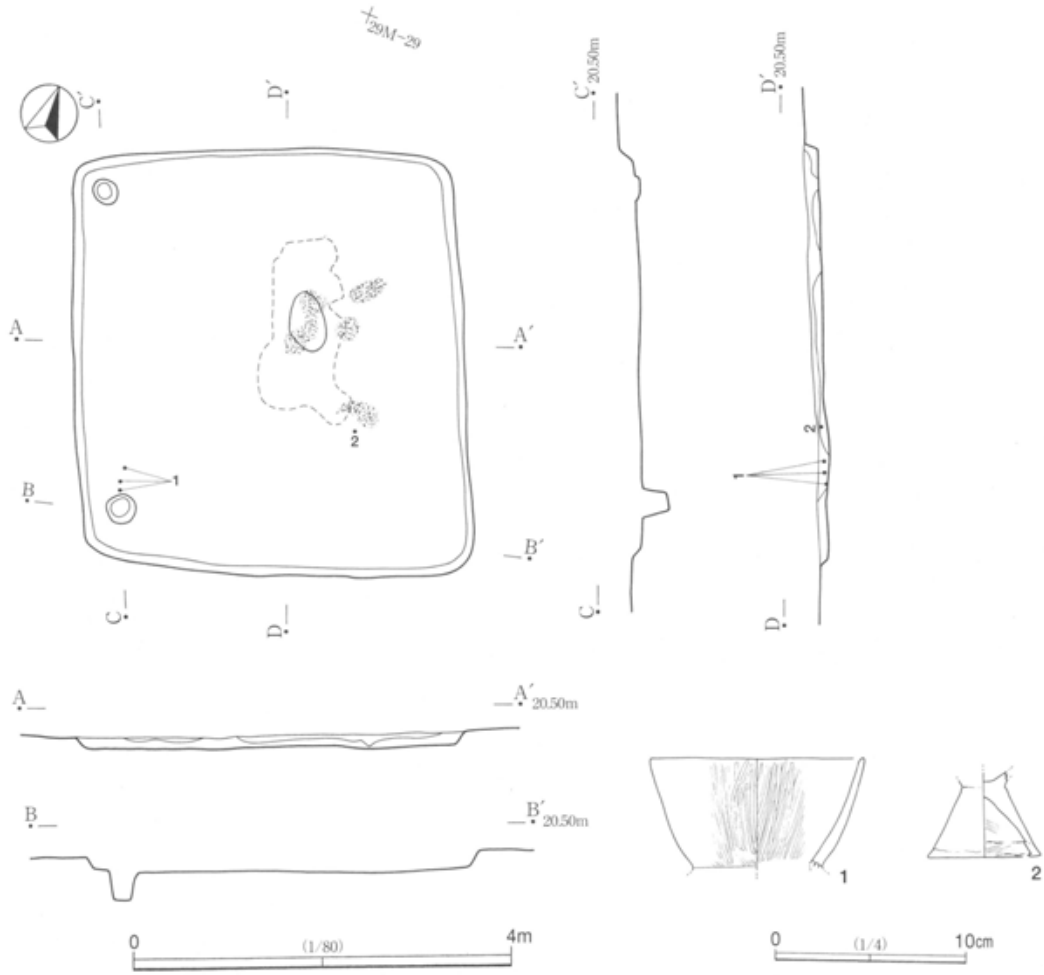
SI019（第39図，図版12・48）

調査区南側，29M－37グリッドに位置する。規模は6.0m×5.5m，確認面からの深さ44.3cm～33.6cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－55°－Eを指し，床面積は27.0㎡を測る。床面はほぼ平坦で，ほぼ全面に硬化面が広がっている。壁溝は，幅9.6cm，深さ10.0cmで全周する。柱穴は対角線上に4本検出された。



第39図　SI019

深さ59.0cm～48.0cmである。南東コーナー近くのピットは貯蔵穴と考えられる。炉は中央より北寄りに位置し，長径94.0cm，短径66.0cm，深さ4.9cmの楕円形を呈する。焼土が中央部分を中心に広く確認されたことから，焼失住居と思われる。遺物は少ないが，貯蔵穴内より出土している。



第40図　SI020

出土遺物

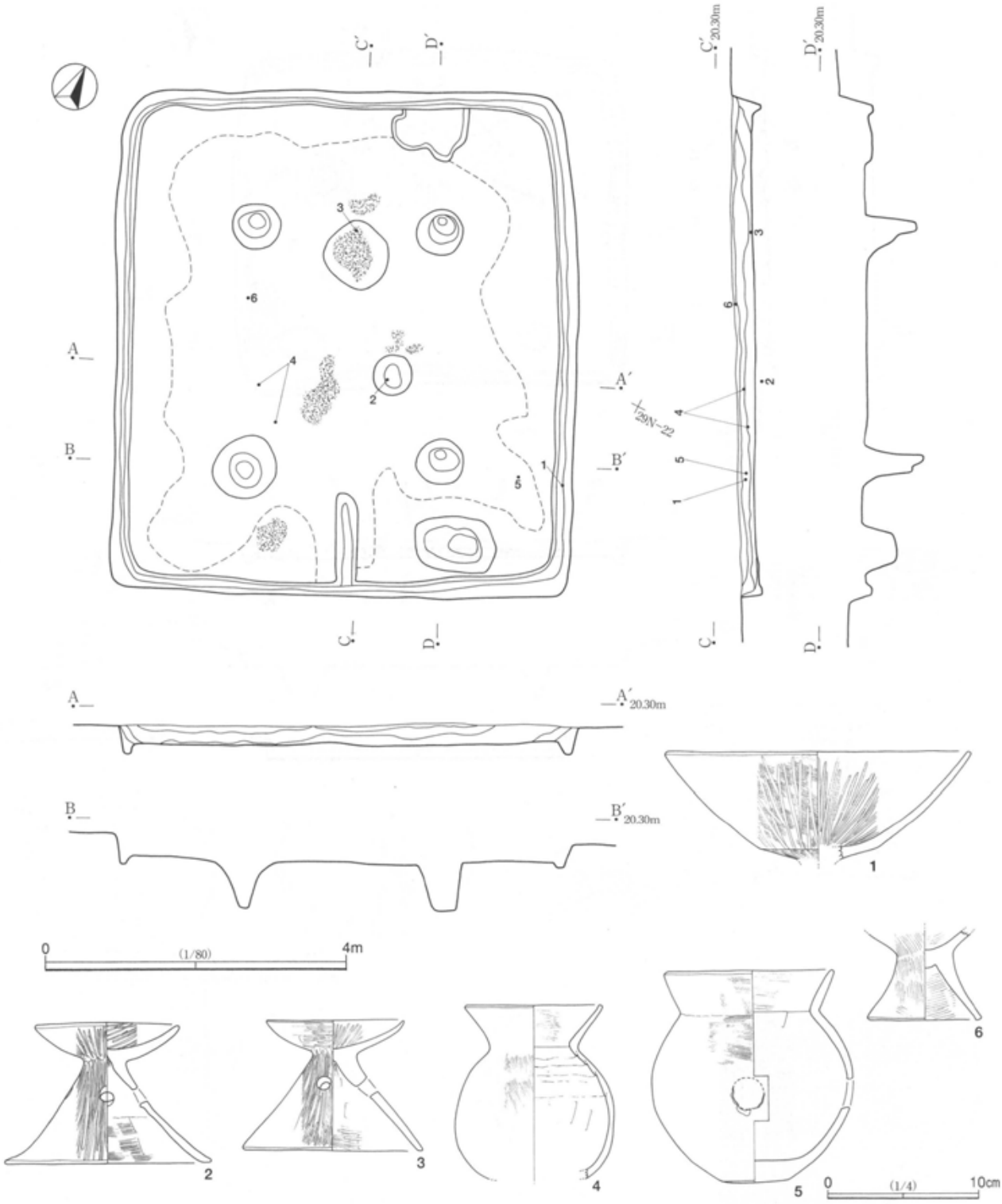
1～3は高杯である。1は裾端部を欠き，杯部は椀状を呈する。脚部の上位に透孔が3か所穿たれる。裾部は外反しながら大きく開く。杯部内面と脚部外面にミガキが施される。2は杯部で，1に比べて体部が直線的に開く特徴がある。内外面とも縦方向の丁寧なミガキがみられる。3はハの字状に大きく開く脚部で，上位に透孔が3か所認められる。4・5は甕である。4の内面は丁寧なミガキ，外面はハケ目調整が施される。5は台付甕で，4と同様の調整が加えられる。

SI020（第40図，図版12）

調査区南側，29N－39グリッドに位置する。規模は4.6m×4.2m，確認面からの深さ13.8cm～9.0cmを測る掘り込みの比較的浅い住居跡である。主軸方向はN－21°－Wを指し，床面積は16.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は炉の周囲に確認された。ピットは2本検出されたが柱穴となろう。炉は床面やや東寄りに位置し，長径64.0cm，短径30.0cm，深さ2.9cmの楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

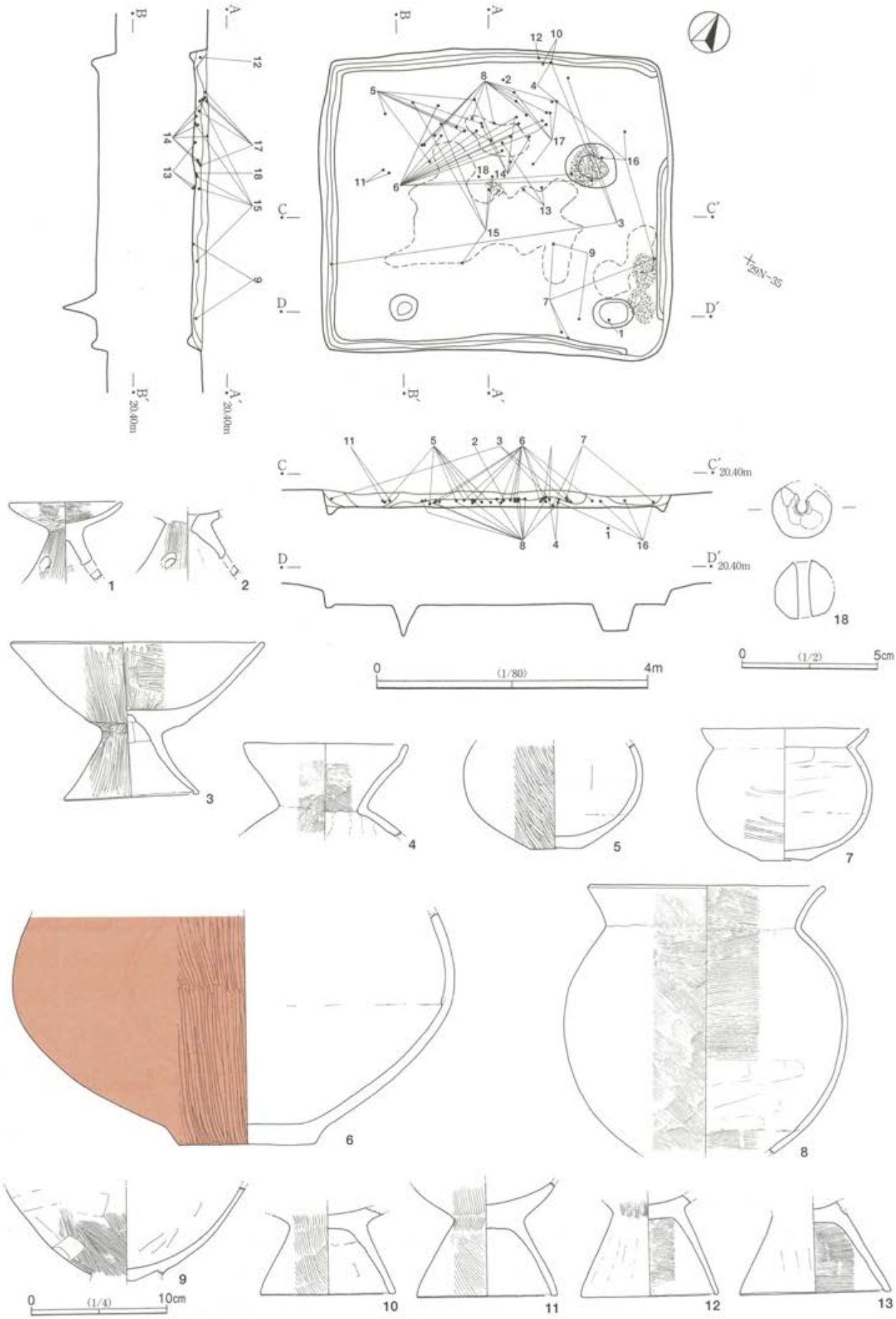
1は壺の口縁部で，やや受け口状となる。内外面とも縦方向の丁寧なミガキ施される。2は台付甕の台部である。内面に粗いハケが認められる。



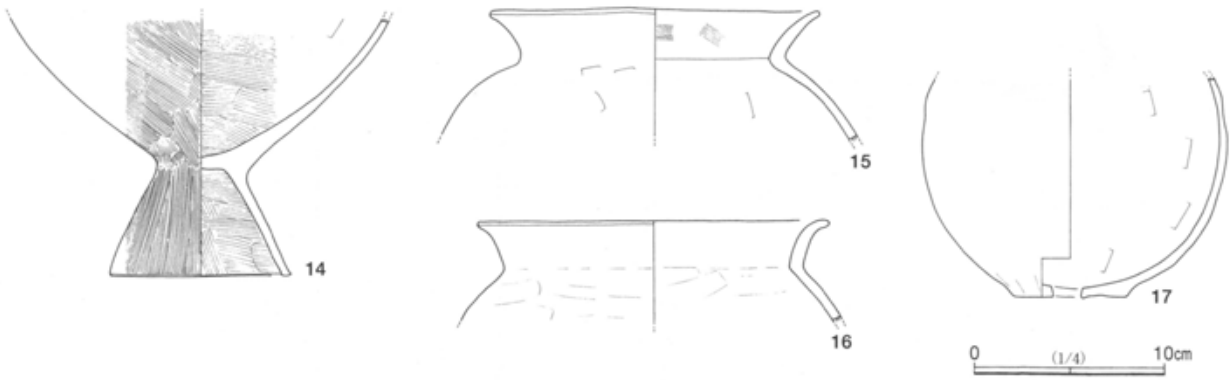
第41図　SI021

SI021（第41図，図版12・48）

調査区南側，29N－34グリッドに位置する。規模は6.7m×6.2m，確認面からの深さ34.5cm～20.4cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－26°－Eを指し，床面積は21.9㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面はほぼ全面に広がる。壁溝は，幅12.0cm，深さ8.0cmで全周する。南側の壁溝から床面中央に延びる溝



第42図　SI022（1）



第43図　SI022（2）

は間仕切りの痕跡であろう。柱穴は対角線上に4本掘り込まれる。径0.6m～0.8m，深さ0.7m前後と大規模である。南東コーナーに位置するピットは貯蔵穴と思われる。長軸1.1m，短軸0.7m，深さ0.5mを測る。炉は北側の柱穴間に位置する。長径0.7m，短径0.6mで，底面に焼土が堆積する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は全体に散在し，覆土中が多い。

出土遺物

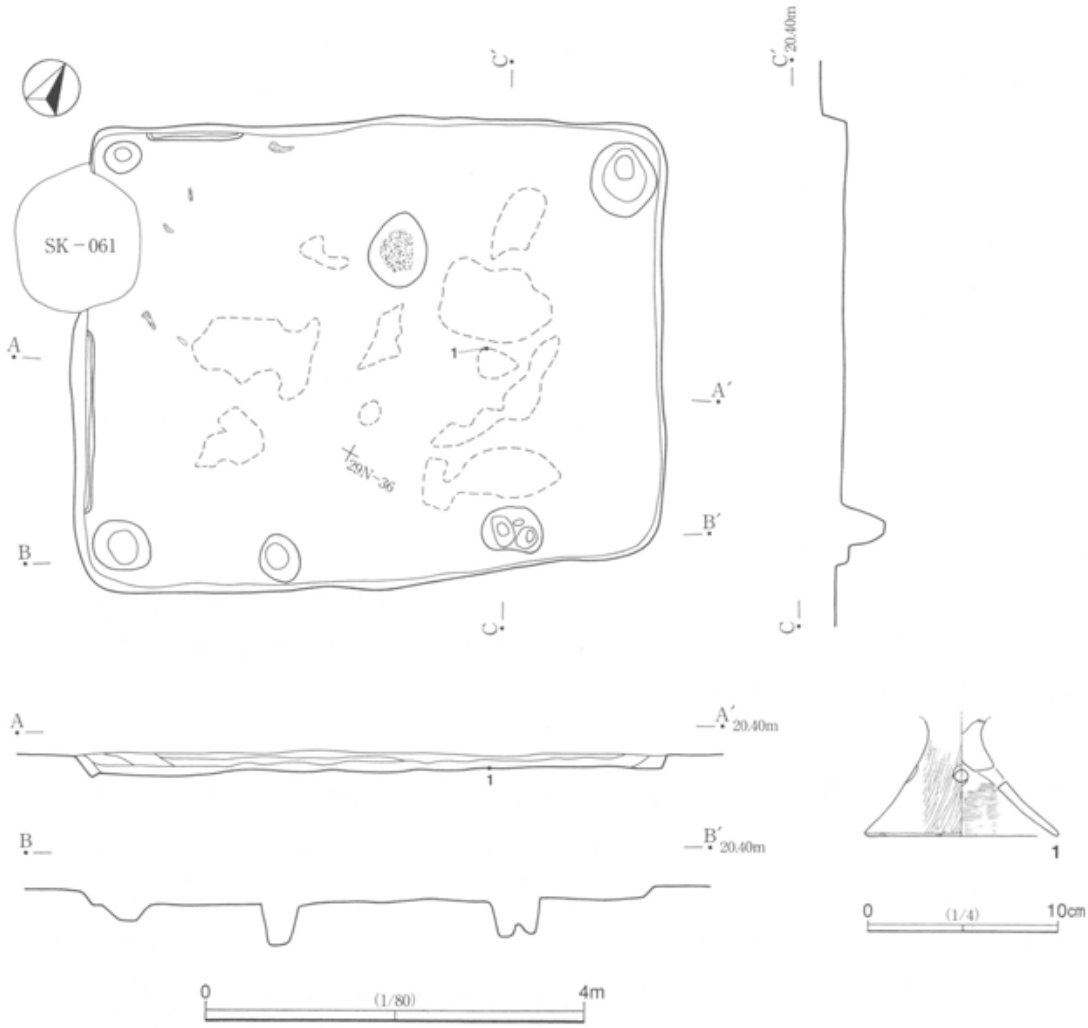
1は大形高杯の杯部で，体部は僅かに内湾気味に大きく開く。内面は丁寧な縦方向のミガキ，外面は斜位のハケの後粗いミガキが施される。2・3は器台である。器受け部は浅い皿状を呈し，台部の透孔は3か所穿たれる。脚部はハの字状に大きく開くが，2は外反気味，3は内湾気味となる。内外面ともに丁寧なミガキが施され，台部内面には横方向のハケがみられる。4は胴部下位に最大径を有する壺である。口縁部が長いのが特徴である。5・6は甕である。5はハケ後ナデ調整が加えられ，胴部中位に焼成後の孔が穿たれる。6は台付甕の台部である。内外面ともにハケ目が認められる。

SI022（第42・43図，図版13・48）

調査区南側，29N－44グリッド付近に位置する。規模は5.2m×4.5m，確認面からの深さ23.5cm～14.3cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－64°－Eを指し，床面積は12.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は中央部分と東南側に確認された。壁溝は，幅17.0cm，深さ7.0cmで，一部を除き巡っている。ピットは2か所確認された。西側は柱穴，東側は貯蔵穴と推測される。炉は北東側に位置し，径0.8m前後の略円形を呈する。底面には被熱による赤化がみられる。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は北側に集中して出土している。

出土遺物

1・2は器台である。1は器受け部が小さく，台部中位に3か所の透孔が認められる。内外面とも丁寧にミガキが施される。3は高杯である。脚部に比して杯部が大きい。杯部は直線的に，脚部は外反気味にハの字状に開く。杯部内面はハケ後粗いミガキ，外面全体には縦方向の丁寧なミガキが施される。4～7は壺である。4の口縁部は，上部で有段状を呈する。5は小形，6は大形壺の下半部である。外面には丁寧に縦方向のミガキが施され，6の外面には不鮮明ながら赤彩がみられる。8～16は甕である。8は薄手で丁寧な作りである。内外面ともに細かいハケ目がみられる。9は台付甕で，ハケ後ヘラケズリが加えられる。接合部にはホゾが残る。10～13は台付甕の台部で，直線的にハの字状に開くが，11・12はやや内湾気味である。14は丁寧な作りで，台部は直線的にハの字に開き，内外面とも細かいハケ目が認められる。



第44図　SI023

15・16は甕の口縁部で，16はコの字状に近い形状である。17は底部に焼成前の穿孔が開けられる。甑となろうか。作りはやや粗雑である。

SI023（第44図，図版13・49）

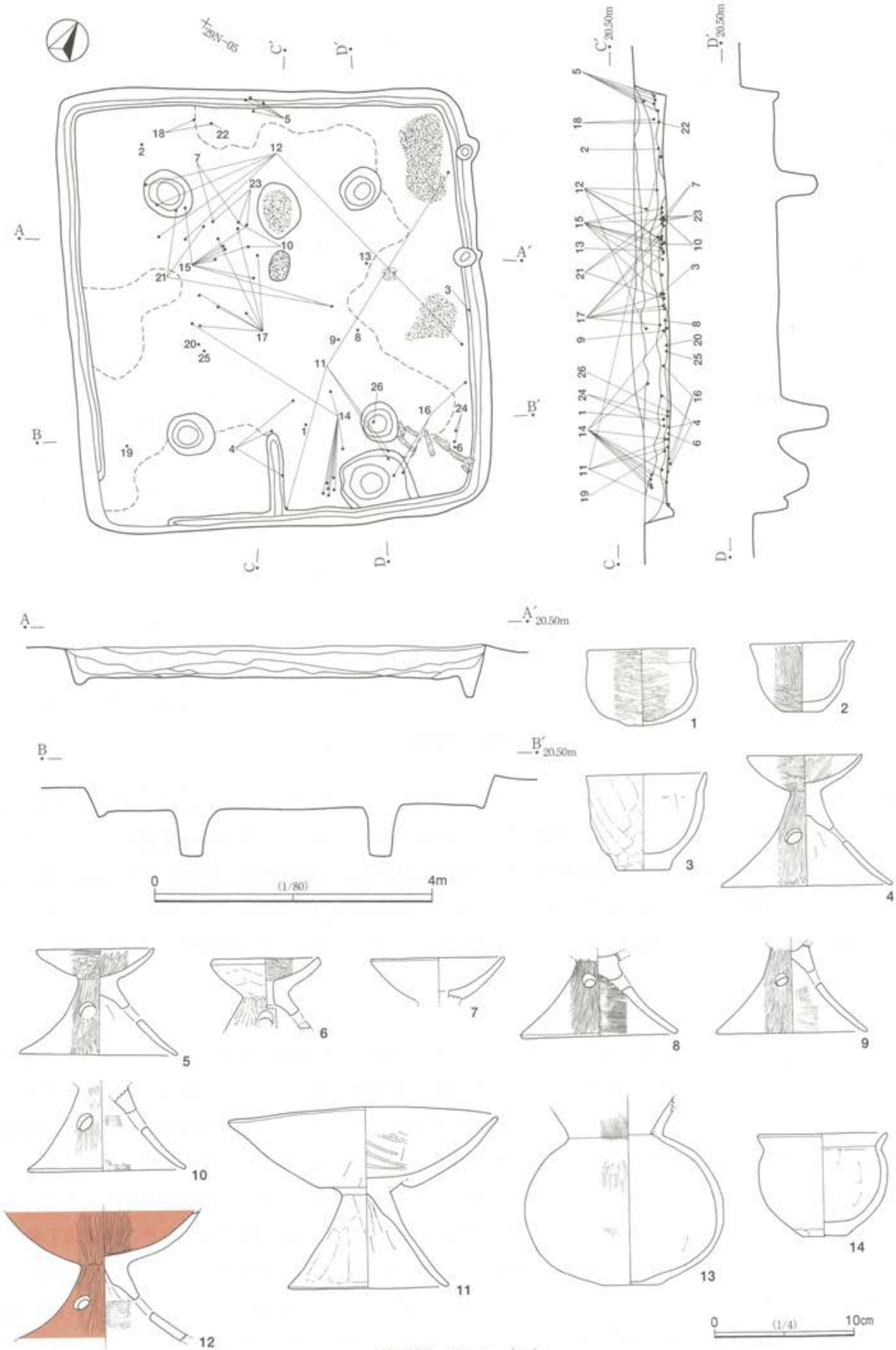
調査区南側，29N－36グリッドに位置する。北西壁をSK061が切る。規模は6.0m×4.9m，確認面からの深さ20.9cm～12.3cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－60.5°－Eを指し，床面積は17.6㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は部分的に確認された。壁溝は僅かに認められる。ピットは5か所確認された。明確ではないが，北コーナー部が貯蔵穴，他は柱穴と考えられる。炉は北側に位置し，長径0.8m，短径0.5mを測る。覆土は自然堆積の様相を示す。出土遺物は少ない。

出土遺物

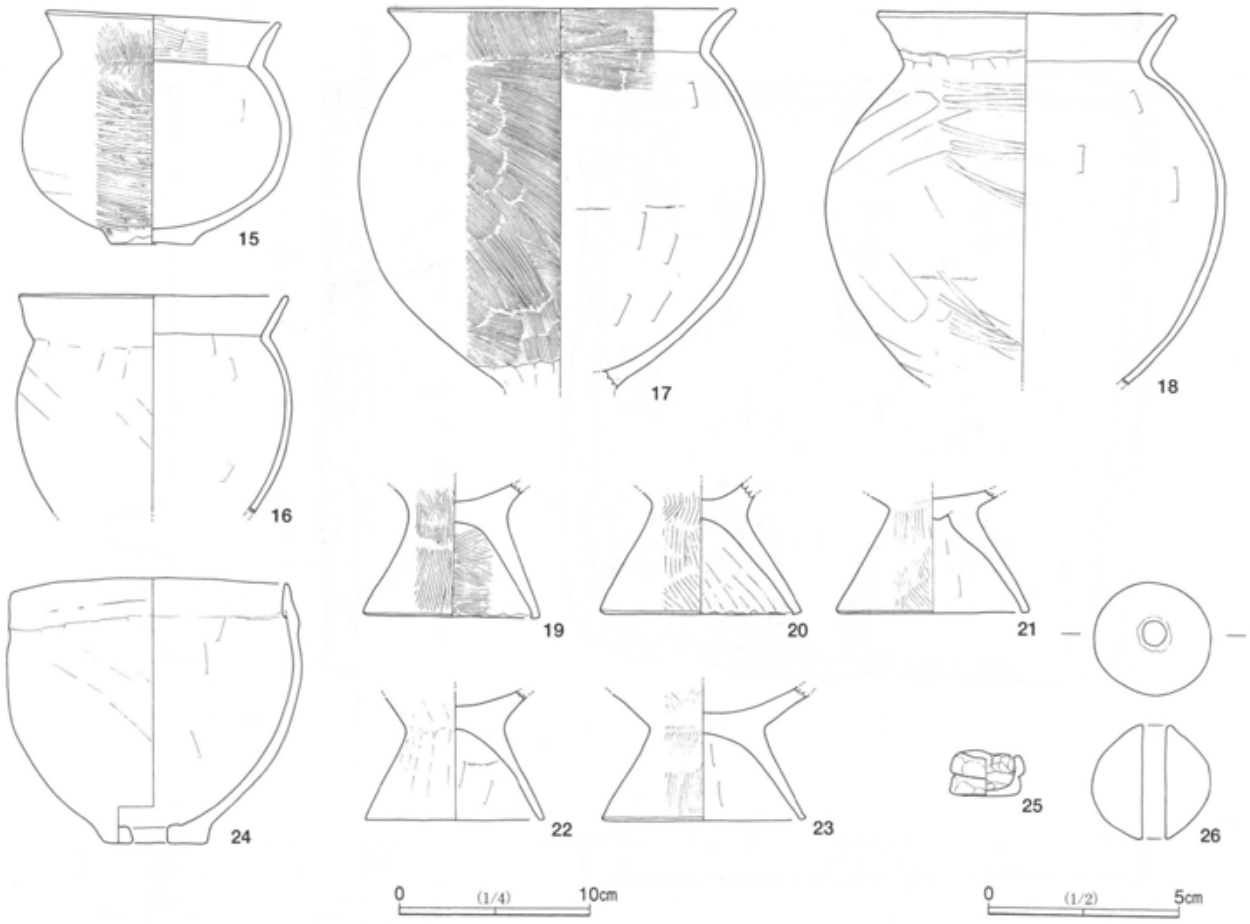
1は器台の台部である。透孔は4か所穿たれ，内面は横方向のハケ，外面は縦方向の丁寧なミガキが施される。

SI024（第45・46図，図版13・14・49）

調査区中央付近，29N－16グリッドに位置する。北東壁の一部がSI025の南西コーナーを切る。規模は6.3m×6.0m，確認面からの深さ52.6cm～33.1cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－44°－Wを指し，床面積は19.6㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面はほぼ全面に認められる。壁溝は，幅13.0cm，深さ4.5



第45図　SI024（1）



第46図　SI024（2）

cmでほぼ全周する。柱穴は対角線上に4本確認された。深さ0.7m前後としっかりした掘り込みである。南東コーナーに位置するピットは貯蔵穴と思われる。長軸1.0m，短軸0.8m，深さ0.4mを測り，2段に掘り込まれる。炉は北側の柱穴間に2基検出された。北側は長径0.8m，短径0.6m，南側は長径0.5m，短径0.3mで，いずれも被熱による赤化が顕著である。南壁中央には間仕切りと思われる溝が検出された。覆土は自然堆積の様相を示す。出土遺物は多く，全体に散在しているが，床面または床面直上の状態がほとんどである。

出土遺物

1～3は小形の椀あるいは鉢である。1は小さな底部を形成し，口縁部は直立する。内外面ともミガキ調整される。2・3は口縁部が外傾する。2は丁寧な作りで外面に細かいミガキが施される。3は作りがやや粗雑で，器肉も分厚い。ヘラケズリされる。4～10は器台である。4・5は器受け部が小さく，脚部が外反気味に大きく開く。透孔は中位に3か所穿たれる。内外面とも丁寧なにミガキが施される。6・7は中空の器台である。6は厚手の作りで，器受け部端部が平坦に面取りされる。透孔は4か所である。8～10は台部である。透孔は3か所設けられ，外反気味に大きく開く。内面は横方向のハケ，外面は丁寧なミガキが施される。11・12は高杯である。11は作りが全体的に粗雑で，歪みがみられる。脚部との接合痕も明瞭に残る。調整はヘラ状工具によるナデである。12は椀状の杯部に脚部は外反しながら大きく開く脚部を有するタイプである。透孔は脚部上位に3か所認められる。脚部内面以外に赤彩される。13はやや下

膨らみの壺である。外面にハケ後ミガキの施された痕跡が若干残る。14～23は甕である。14は小形で，最大径を口縁部に有する。15は球形胴で底部が突出するタイプである。胴部外面はハケ後粗いミガキが加えられる。16は胴部最大径と口径がほぼ同じで，口縁部は直線的にくの字に屈曲する。17は台付甕で，胴部中位に最大径を有する。口縁部内面から胴部外面に細かいハケ目が認められる。胴部下端は，台部との接合のために縦方向にヘラナデが施される。18も17と同様の器形を呈するが，調整が粗雑で，頸部にはヘラ痕が明瞭に残る。外面はヘラケズリ後非常に粗いミガキが施される。19～23は台付甕の台部で，基本的にはほぼ直線的にハの字状に開く器形を呈する。24は甑である。焼成前に径1.8cmほどの孔が穿たれる。口縁部は内面に折り返した痕跡が残る。25は接合痕の明確な非常に粗雑な作りの手捏ね土器である。26は土玉である。

SI025（第47図，図版14・50）

調査区南側，29N－07グリッドに位置する。南西壁の一部をSI－024に切られる。規模は8.0m×6.7m，確認面からの深さ28.2cm～14.7cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－34°－Wを指し，床面積は約30.7㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，それほど締まっていない。柱穴・壁溝は検出されなかった。炉は南東側に位置するが，それほど使い込まれていない。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物はで南西コーナー付近にみられる。

出土遺物

1～5は器台である。1は皿状の器受け部で，内外面ともに丁寧なミガキが施される。2～5は台部のみの遺存で，上位に透孔が3か所穿たれる。2～4は外反気味に開くが，5は直線的となる。6～8は甕である。6は胴部上方に最大径を有し，底部が若干突出する。作りがやや粗く，接合部分の凹凸が目立つ。内外面とも細かいハケ調整後横方向のヘラナデが施される。7・8はほぼ同様な器形で，内外面にハケ目が認められる。

SI026（第48図，図版14・50）

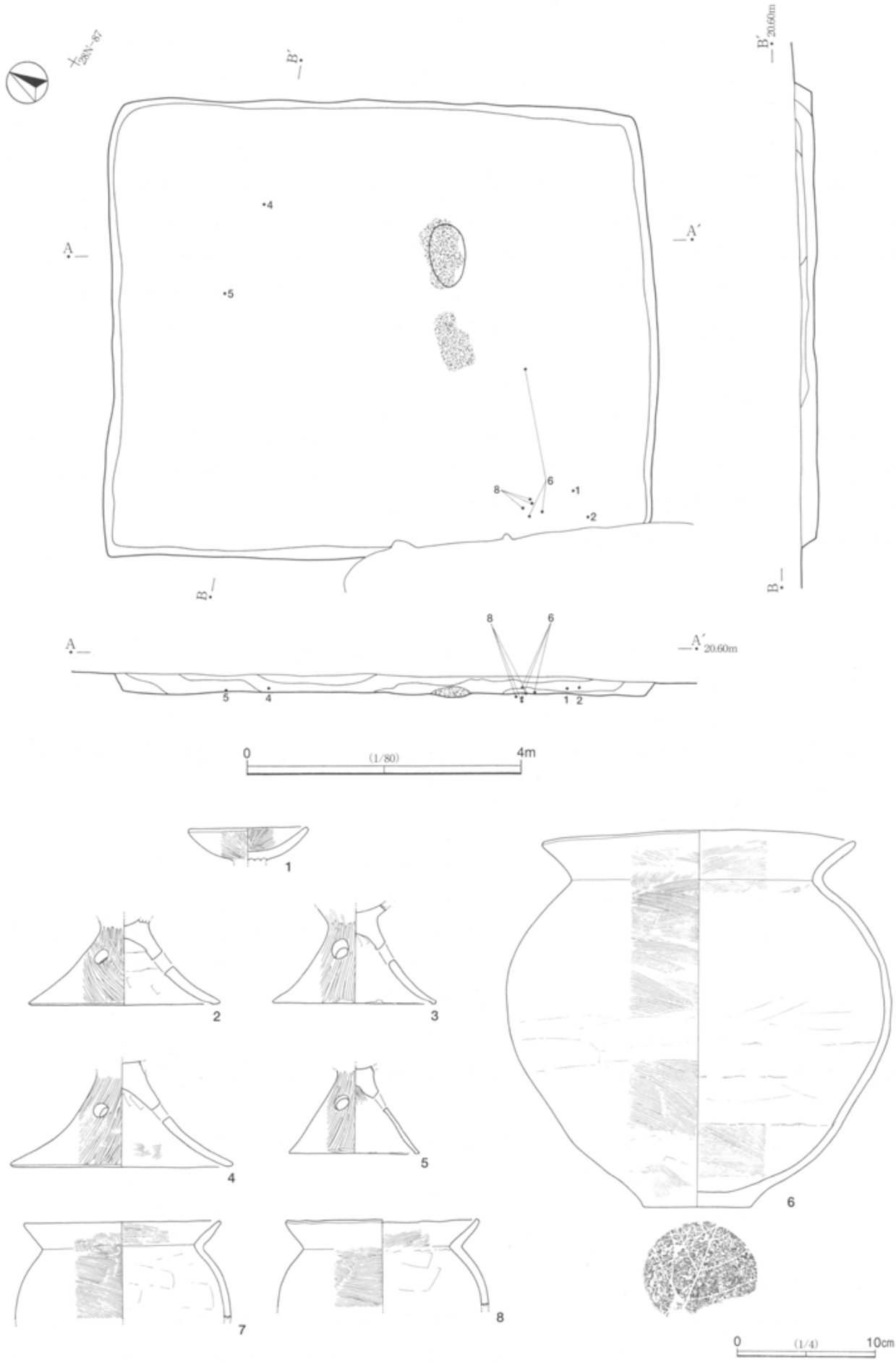
調査区中央付近，29N－28グリッドに位置する。規模は5.4m×4.3m，確認面からの深さ31.2cm～22.6cmを測る長方形を呈する。主軸方向はN－54°－Eを指し，床面積は12.5㎡を測る。床面はほぼ平坦である。壁溝は，幅15.0cm，深さ3.5cmで南西コーナーを除き巡る。ピットは4本確認された。対角線上に位置する2本が柱穴であろう。南東コーナーに位置するピットは貯蔵穴と思われる。1辺0.6m，深さ0.3mを測る。炉は北東寄りに位置し，長径0.9m，短径0.7mの楕円形で，底面全体が赤化する。焼土が主に壁際に分布し，焼土下には汚れたロームが堆積している。焼土の厚さは2～10cmで，壁方向に向かって厚くなる。この状況から，土屋根の存在が想定できる。覆土は自然堆積の様相を示す。出土遺物は少ない。

出土遺物

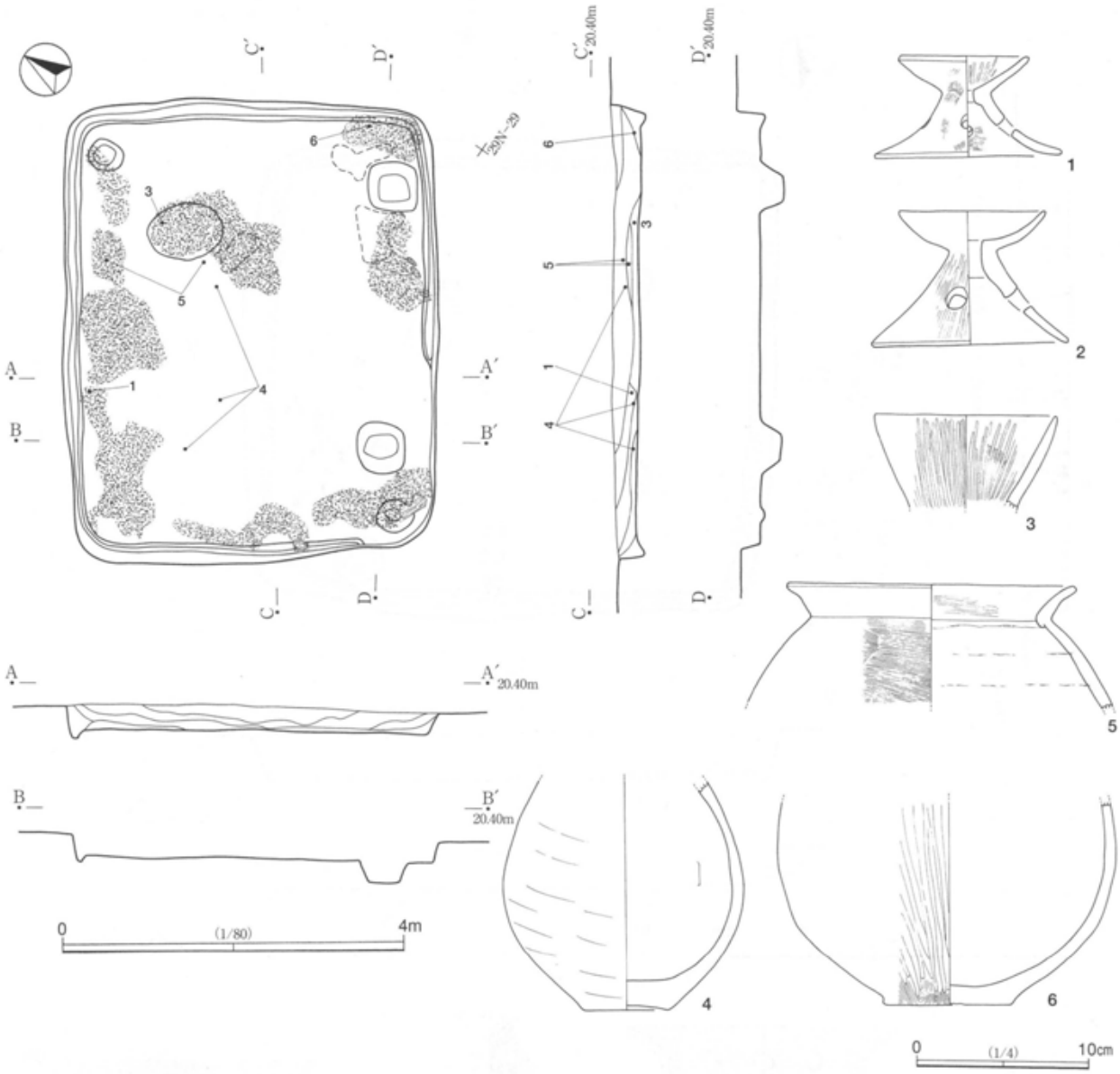
1・2は中空の器台である。脚部は外反気味に開くが，器受け部は，1がほぼ直線的に，2が内湾気味に立ち上がる。透孔は1が4か所，2が3か所穿たれている。3は壺の口縁部である。内外面ともに縦方向に丁寧なミガキが施される。4～6は甕である。4は小形で，下膨れ気味の器形を呈する。5は口縁端部を摘み出している。口縁部内面と胴部外面にハケ目が認められる。

SI027（第49・50図，図版15・50）

調査区中央付近，29O－09グリッドに位置する。規模は6.3m×5.7m，確認面からの深さ69.7cm～47.3cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－61.5°－Eを指し，床面積は17.2㎡を測る。床面はほぼ平坦



第47図　SI025

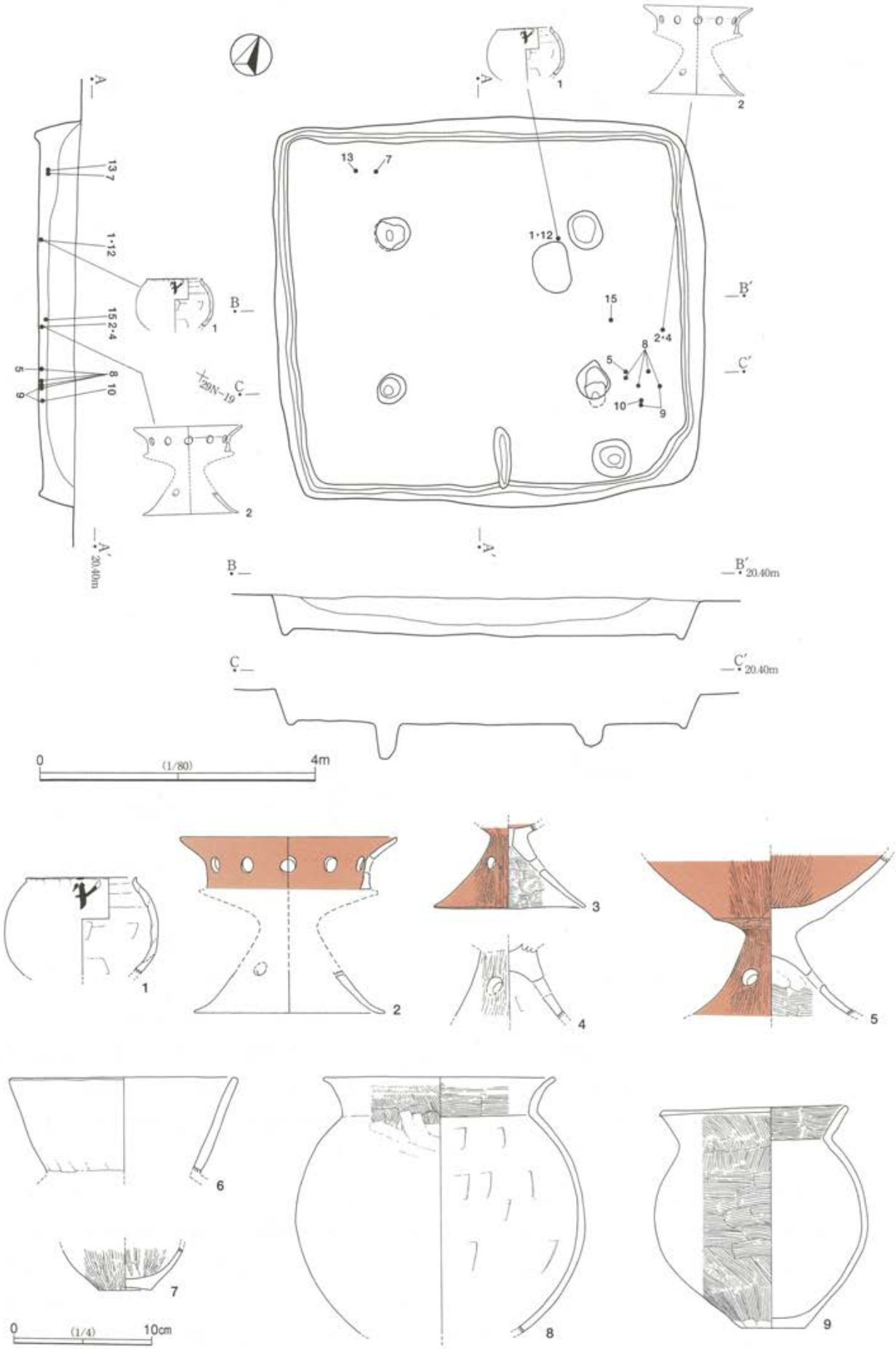


第48図　SI026

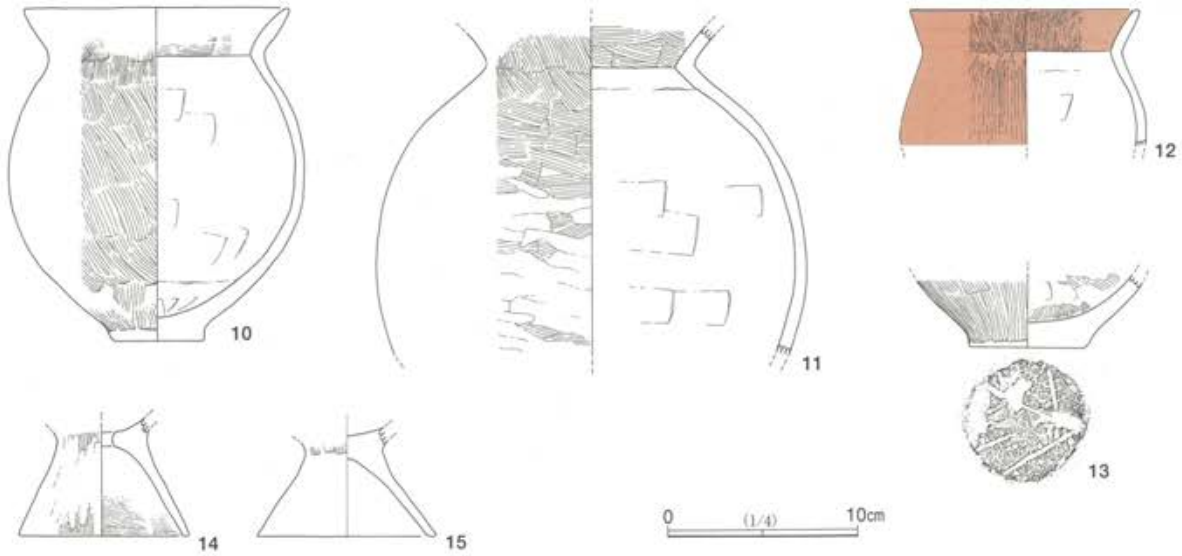
で，比較的堅緻である。壁溝は，幅14.0cm，深さ6.0cmで全周する。柱穴は対角線上に４本確認された。深さ0.7m～0.4mである。南東コーナーに位置するピットは貯蔵穴と思われる。１辺0.5m前後，深さ0.6mの略方形を呈する。南東壁中央に間仕切りの溝が掘り込まれる。炉は北東の柱穴に近接して設けられる。長径0.9m，短径0.7mを測り，壺の胴部片が立てられている。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は南東コーナー付近に集中し，床面または床面直上である。墨書土器は炉の北側に接するような状態で検出された。

出土遺物

１は小型の無頸壺である。底部を欠くが，小さな平底を呈すると思われる。口縁部は小さく摘み上げられ，内外面ともナデ調整が施されるが，全体にやや雑である。内面には成形時の輪積み痕が明瞭に残る。口唇部から胴部上位にかけて墨書され，口縁部内面にも墨痕がみられる。墨書土器の詳細については後章で検討する。２は装飾器台である。口縁部及び裾部の一部の遺存であるため，図上で復元した。口縁部は上位で大きく外反し，中位に円形の透し孔が開けられており，径から復元すると推定13～14個になると思



第49図　SI027（1）



第50図　SI027（2）

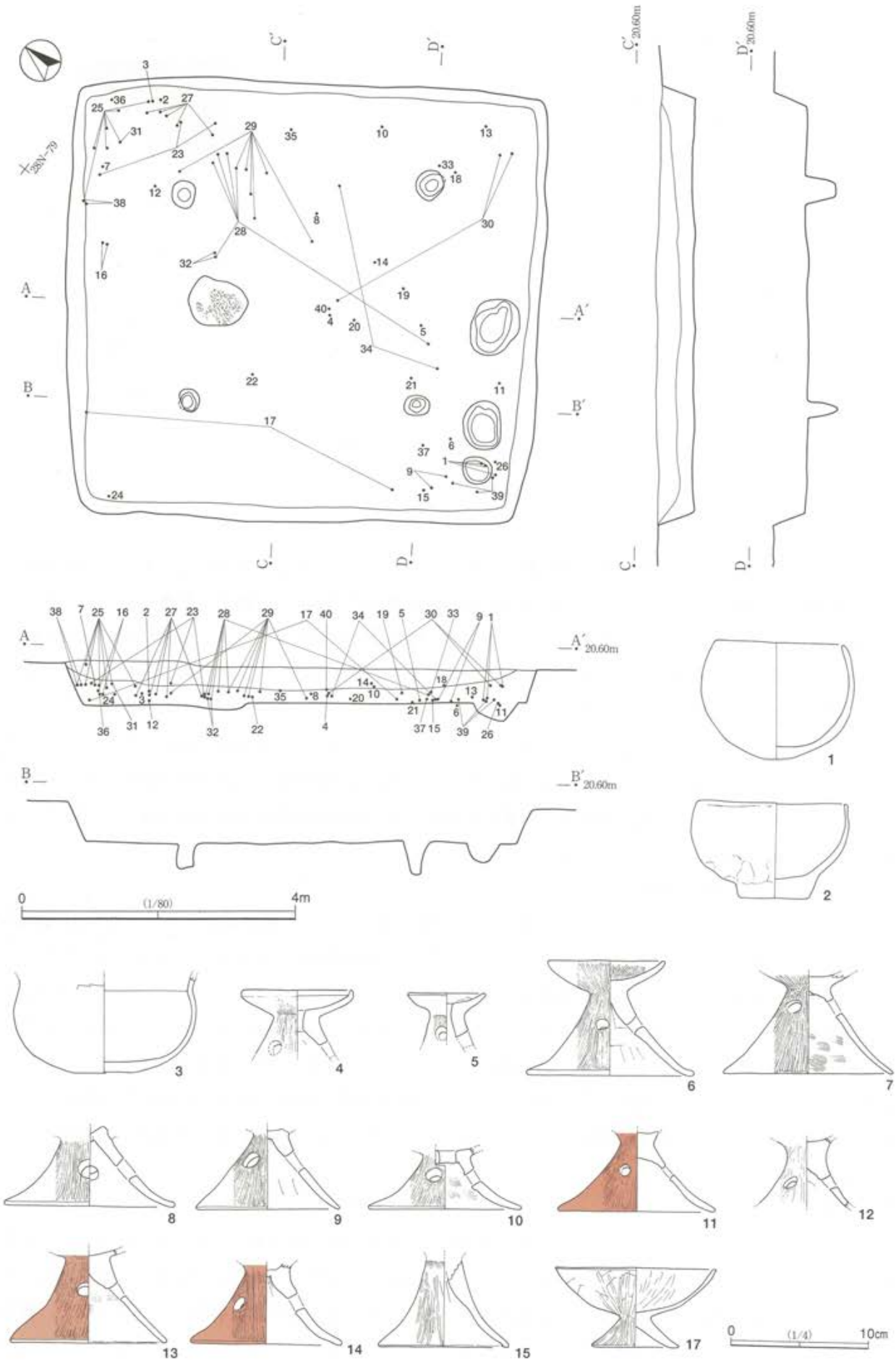
われる。器面が荒れているため調整は不明瞭であるが，部分的にミガキが観察される。また，口縁部内外面に不鮮明ながら赤彩が確認される。いわゆる北陸系の装飾器台であろう。胎土は在地のものとは異なり，やや赤み及び砂質を帯びるが，北陸産ではない。3・4は器台の台部であろう。3は透し孔が3個認められ，台部内面以外に赤彩される。5は元屋敷系の高杯である。脚部内面ハケ，以外は丁寧なミガキが施される。透し孔は3か所開けられ，赤彩が加えられる。6は壺の口縁部，7は小型壺の底部であろう。12は広口の壺であろうか。被熱による器面の剥離がみられるが，丁寧なミガキと赤彩が認められる。8～11は甕である。9・10はほぼ同様な形態を示し，胴部外面のハケ目は9が斜位，10が横位である。10の底部は大きく突出する。13は甕の底部であろう。木葉痕が残る。14・15は台付甕の台部であるが，14の底部には焼成前の穿孔がみられる。

SI028（第51・52・53図，図版15・50・51）

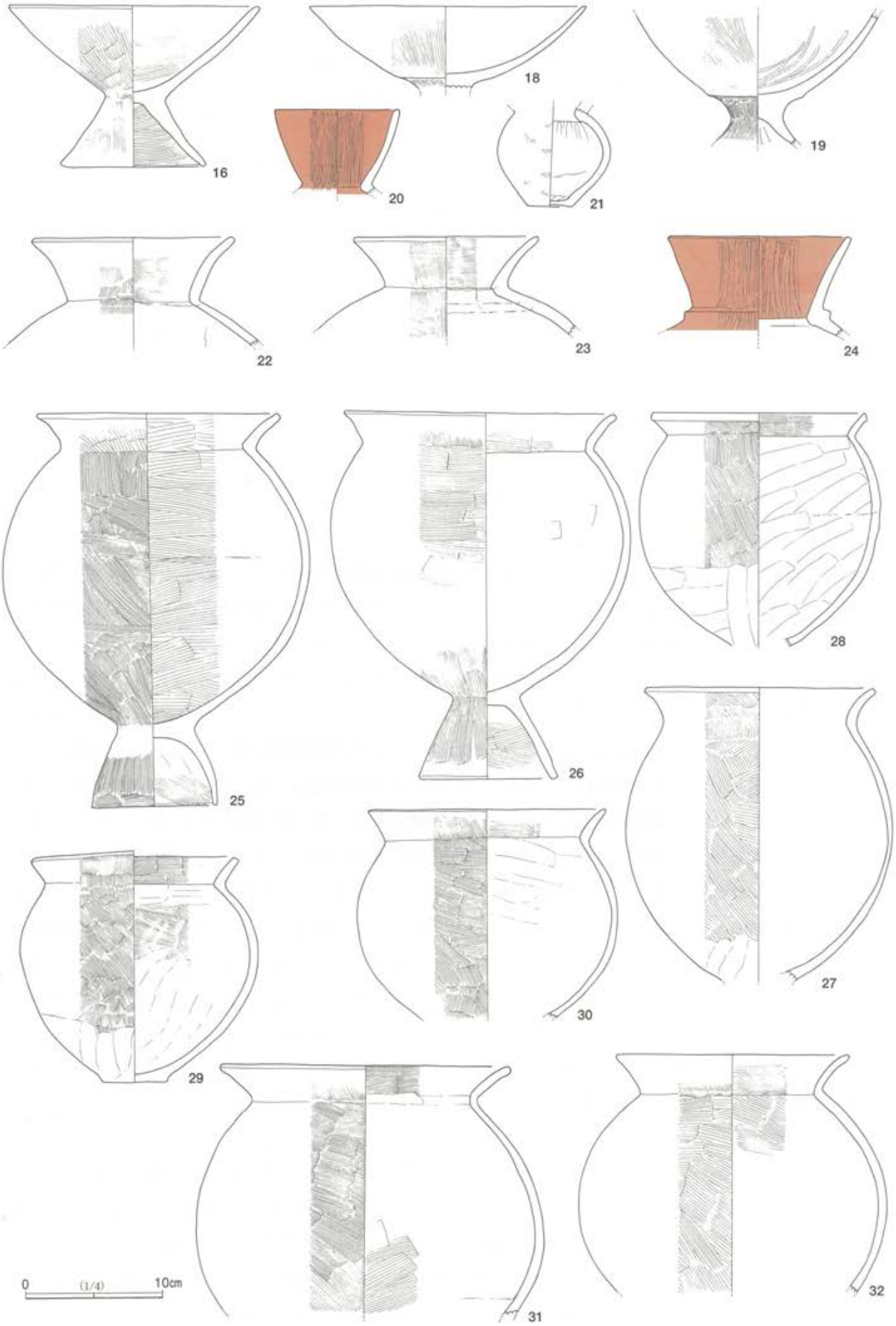
調査区中央付近，28N－89グリッドに位置する。規模は6.9m×6.4m，確認面からの深さ68.7cm～44.5cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－37.0°－Eを指し，床面積は24.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体的に比較的堅緻である。柱穴は対角線上に4本確認された。規模は小さいが，深さは48.0cm～39.4cmを測る。南コーナーに位置するピットは貯蔵穴と思われる。長軸0.7m，短軸0.6m，深さ0.2mを測る長方形を呈する。南東壁中央に位置するピットは，規模は大きいものの，入り口に伴うものと考えられる。炉は北側柱穴間に設けられる。長径0.9m，短径0.7m，深さ0.2mを測る。底面は被熱による赤化が顕著である。覆土は人為的な埋め戻しの様相が伺える。出土土器はかなり多い。住居全体に散在するが，床面直上から覆土中層にかけてみられる。

出土遺物

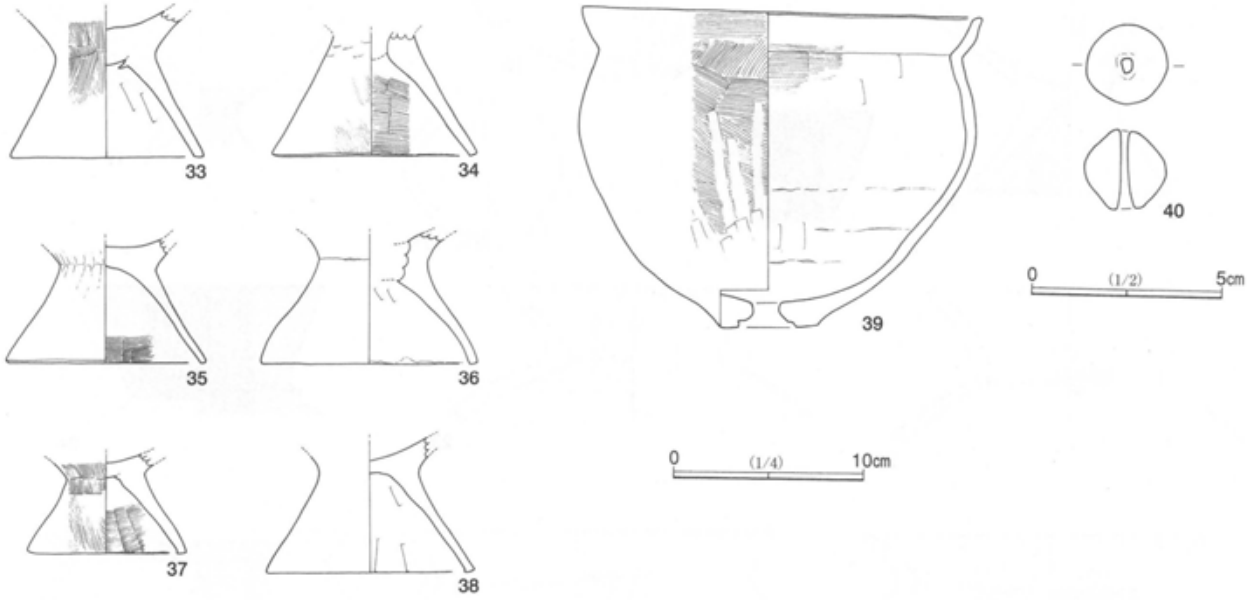
1～3は椀及び鉢である。1は小さな底部に半球形状の体部が付く椀である。2は手捏ね状に作りが粗雑である。体部下位にはナデの際の調整痕が残る。4～14は器台である。6はほぼ完形で，器受け部が小さく，台部は直線的にハの字状に開き，裾部端部で小さく外反する内面には放射状の丁寧なミガキ，外面にはハケの後丁寧なミガキが施される。4・5も皿状の小さな器受け部であるが，中空となり，4の口縁



第51図　SI028（1）



第52図　SI028（2）

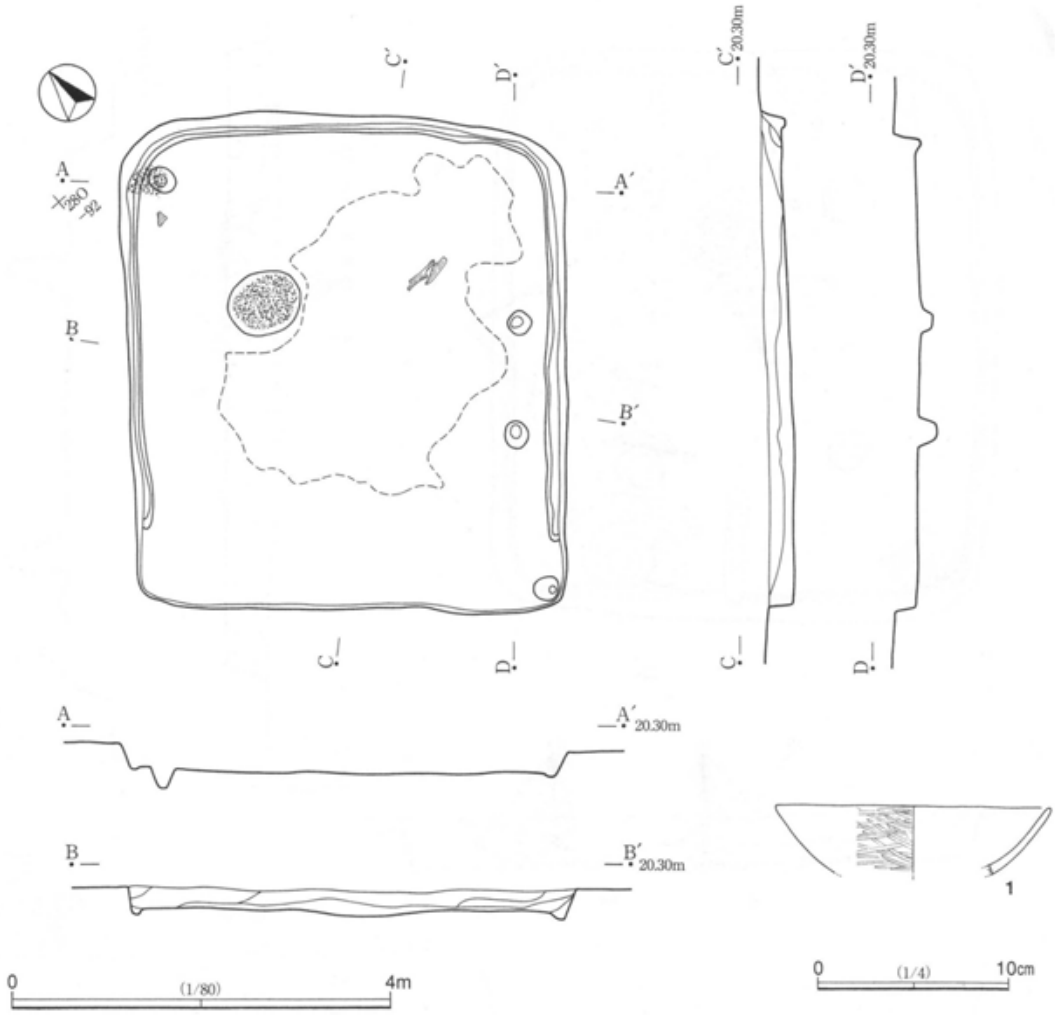


第53図　SI028（3）

部は上方に摘み上げられる。7～14は台部である。透孔は基本的に3か所で，ハの字状に開くが，外反するもの（8・10・11・14）と直線的なもの（7・9・13）に分けられる。15は透孔がなく，細長い形状を呈する。高杯の脚部の可能性がある。16～18は高杯である。16は杯部も脚部も直線的に開く形状を呈し，内外面ともにハケ目が認められる。17は小形の高杯である。杯部は浅い椀状を呈し，脚部は小さく直線的にハの字に開く。18は杯部のみの遺存で，外面には若干ハケ目が残る。19はミガキが施された深い体部に小さな脚部が付くものである。高杯であろうか。20は坩の口縁部で内外面赤彩される。21～24は壺である。24は小形壺で，胴部上位に最大径を有し，外面には僅かにハケ目が残る。22～24は口縁部片である。24は頸部に段が形成され，ハケ調整後縦方向の粗いミガキが施される。25～38は甕である。25・26は台付甕で，胴部中位に最大径を持つ球形胴を呈する。台部は25が内湾，26が直線的に開く。内外面にはハケ目調整が施される。27・28は台部を欠く。28の口縁部は短くくの字状に屈曲し，口唇部外面が面取りされる。口縁部内面には横方向のハケ，胴部内面にはヘラナデ痕が明瞭である。外面はハケ後下位にヘラナデが加えられる。29は胴部やや上位に最大径を有する。底部はやや突出する。内外面ともにハケの後ヘラナデが施される。30は胴部中位に最大径のある球形胴を呈する。31・32は胴部中位に最大径のある形状を呈しており，内外面にハケ目が明瞭に残る。33～38は台付甕の台部である。33～36は直線的，37・38はやや内湾しながらハの字状に開く。39は甑である。口縁部が特徴的で，受け口状となる。口縁部内面から胴部中位にかけてハケ目が認められる。40は土玉である。

SI029（第54図，図版15）

調査区中央付近，28O－02グリッドに位置する。規模は5.2m×4.7m，確認面からの深さ25.7cm～21.7cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－41.0°－Eを指し，床面積は13.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が中央から広がっている。壁溝は，幅13.0cm，深さ6.0cmで南西壁を除いて検出された。ピットは4本確認されたが，柱穴とは断定できない。炉は北東方向に偏って検出された。長径0.9m，短径0.7mを測り，被熱による赤化が顕著である。覆土は自然堆積の様相を示す。土器の出土量は少ない。



第54図　SI029

出土遺物

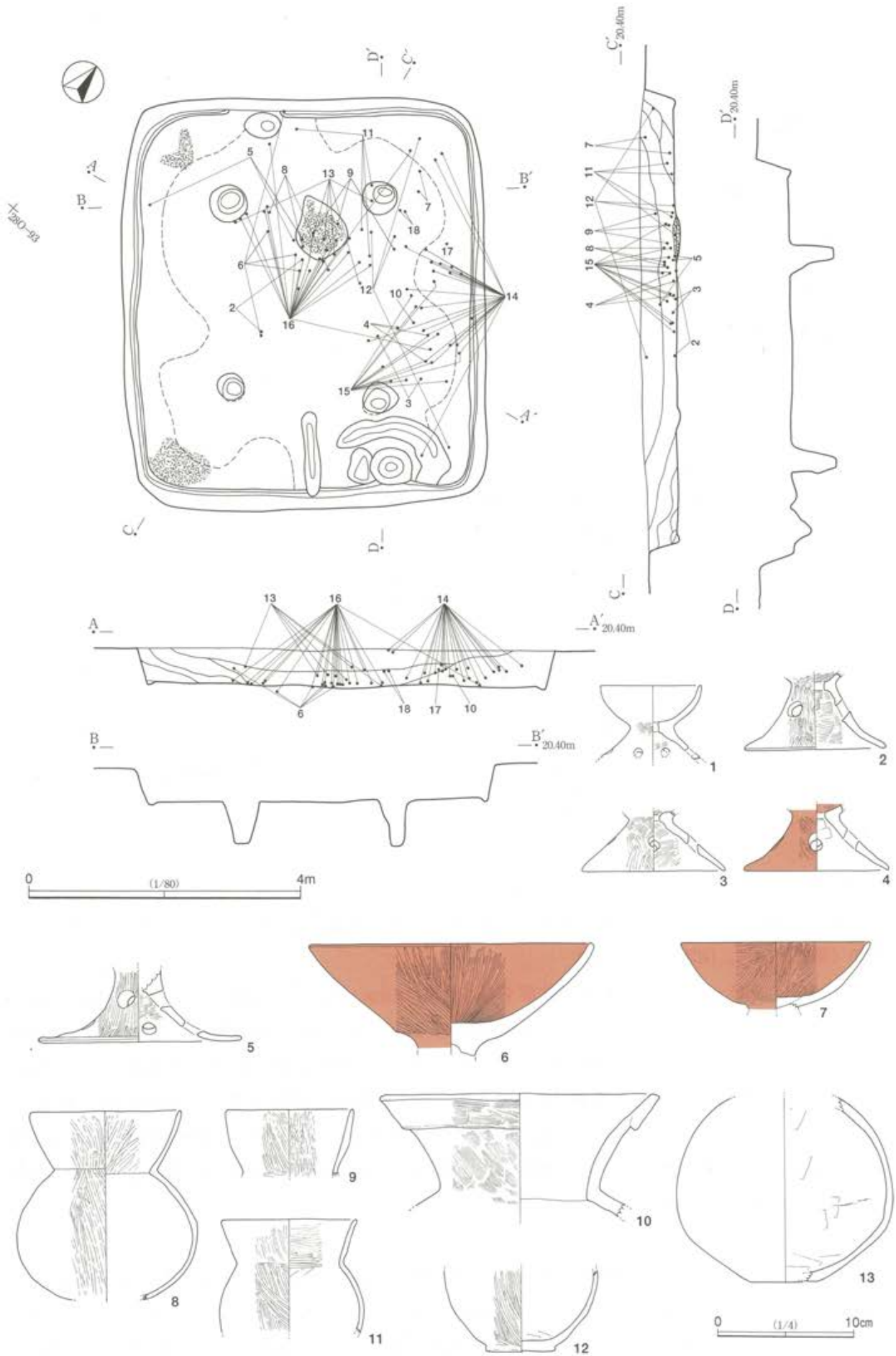
1は高杯の杯部であろうか。内外面丁寧にナデられており，外面は後に粗いミガキを施している。

SI030（第55・56図，図版16・51・52）

調査区中央，28O－84グリッド付近に位置する。規模は6.0m×5.3m，確認面からの深さ66.0cm～42.0cmを測り，長方形の深い掘り込みである。主軸方向はN－43.0°－Wを指し，床面積は16.3㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面はほぼ全面に認められる。壁溝は全周する。柱穴は対角線上に4本検出された。0.7m～0.6mと比較的深く，しっかりした掘り込みである。炉は北側の柱穴間に位置し，長径91.0cm，短径75.0cmの楕円形を呈する。東コーナーに近いピットは貯蔵穴と考えられ，溝が廻る。東側の溝は間仕切りであろう。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土量は多く，炉の周辺と東側半分に集中している。床面直上から覆土中層までみられる。

出土遺物

1～5は器台である。1～4は中空のタイプで，1の器受け部は半球状を呈する。透孔は台部中位に4か所開けられる。2～4は台部のみである。2は裾部で大きくハの字に開き，3・4はほぼ直線的に開く形態である。透孔は台部中位に4か所である。5は高杯の脚部となる可能性もある。透孔が上下二段に交



第55図　SI030（1）

互に３か所，合計６か所穿たれている。６，７は高杯の杯部である。６は大形で直線的に開くが，７は半球形状を呈している。内外面ともミガキが丁寧に施され，赤彩が加えられる。８・９は坩である。９は胴部中位に最大径を有し，口縁部は長く僅かに内湾しながら立ち上がる。口縁部内面と外面全面に縦方向の丁寧なミガキが施される。10～13は壺であるが，バラエティーがある。10は折り返し口縁で，折り返し部分には横方向の，以下には斜位のハケ目が残される。11は小形で胴部中位に最大径を持つ。口縁部内面から胴部外面には縦方向の丁寧なミガキが施される。12は底部が若干突出し，やや粗い作りである。外面はハケ後縦方向のミガキが密に施される。13は下膨れの形状を呈する。赤彩の可能性があるが，二次的に火を受けているために詳細は不明である。14～19は甕である。14は胴部中位に最大径を有し，やや粗いハケ目がみられる。内面には粘土の接合痕が明瞭に観察される。15は台部を欠く台付甕である。口縁部は短く屈曲し，胴部の形状は14と同様である。ハケ目は比較的細かい。16は胴部のやや上位に最大径を有し，口縁部は直立気味である。ハケ後ヘラケズリが施される。17～19は台付甕の台部である。

SI031（第57図，図版16・52）

調査区中央，29O－14グリッド付近に位置する。規模は3.4m×3.6m，確認面からの深さ25.2cm～15.5cmを測り，正方形を呈する。主軸方向はN－18.0°－Eを指し，床面積は6.1㎡を測る。床面はほぼ平坦であり，硬化面は住居跡の中心から四方に伸びる。壁溝は全周するが，柱穴は検出されなかった。東コーナーに近い位置にあるピットは貯蔵穴と考えられる。炉は北西方向に位置し，長径41.0cm，短径33.0cmの楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は床面直上からの出土が多い。

出土遺物

１～３は器台である。１はほぼ完形で器受け部は皿状で小さい。台部は中位に透孔が３か所確認できる。裾部まで外反気味に広がる。外面に赤彩が施されるが，器面の荒れが著しく調整は不明である。２・３は中空タイプである。２の器受け部は半球形を呈し，口唇部で外方向に摘み上げられる。台部は直線的に大きく開く。透孔は台部中位に４か所認められる。３は裾部で大きく開き，高杯となる可能性もある。４～７は甕である。４の口縁部は直線的にくの字に屈曲するが，中位に稜が形成される。５～７は台付甕の台部で，７は僅かに内湾しながら開く。

SI032（第58図，図版16）

調査区中央，29M－08グリッド付近に位置する。規模は4.3m×4.3m，確認面からの深さ23.2cm～8.6cmを測り，正方形の形状を呈する。主軸方向はN－57.0°－Eを指し，床面積は11.0㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，硬化面は認められない。検出されたピット３本のうち南東コーナーのピットは貯蔵穴となろう。炉の掘り込みはなかったが，北側で確認された焼土部分が炉となるかもしれない。

出土遺物

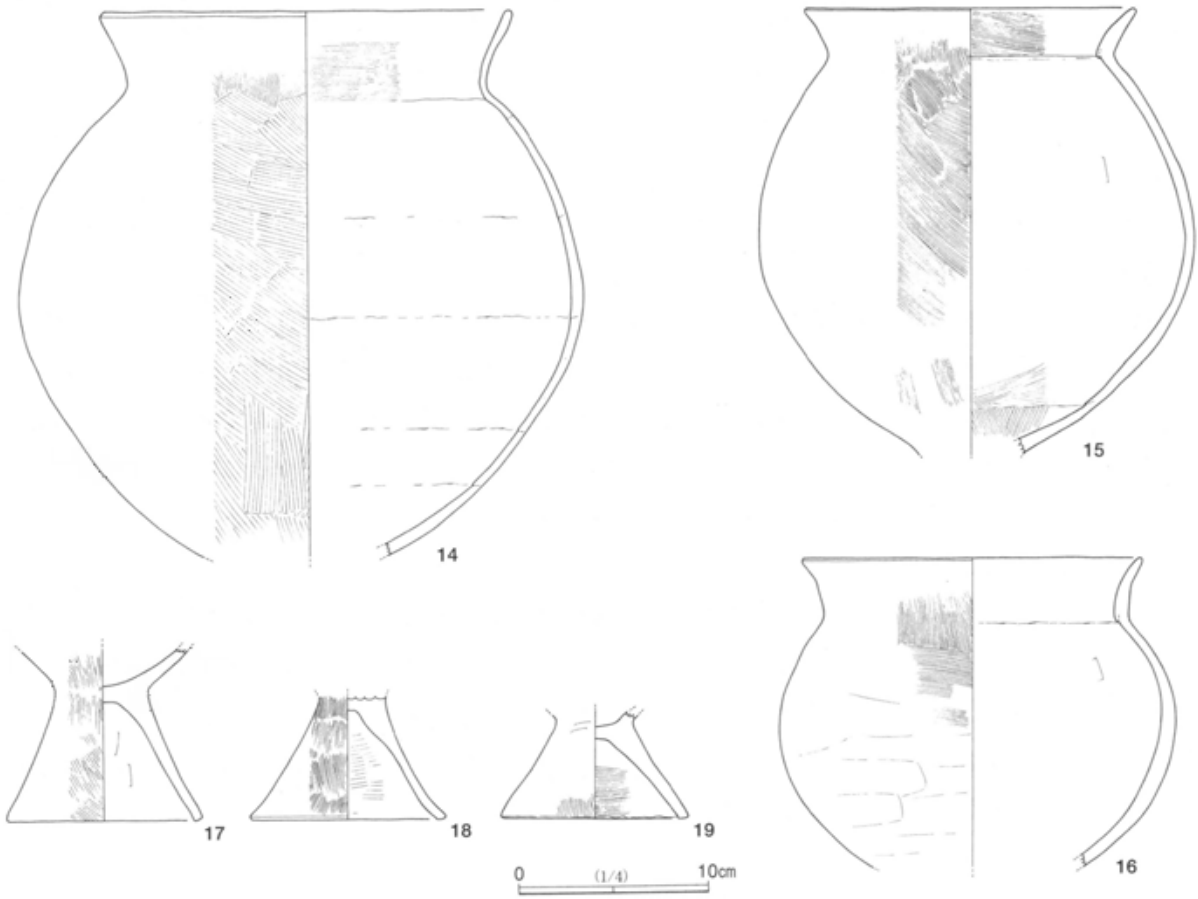
１は複合口縁の壺である。内外面ともにハケ調整の後ナデが施されている。

SI033（第59図，図版17・52）

調査区中央，29N－72グリッド付近に位置する。規模は4.6m×4.2m，確認面からの深さ29.5cm～25.7cmの正方形の形状を呈する。主軸方向はN－72.5.0°－Eを指し，床面積は10.4㎡を測る。炉など内部施設は検出されなかった。遺物は覆土上層からの出土である。

出土遺物

１は高杯の杯部で，体部は直線的に開く。内外面ともに縦方向のミガキが施される。２は胴部中位に最



第56図　SI030（2）

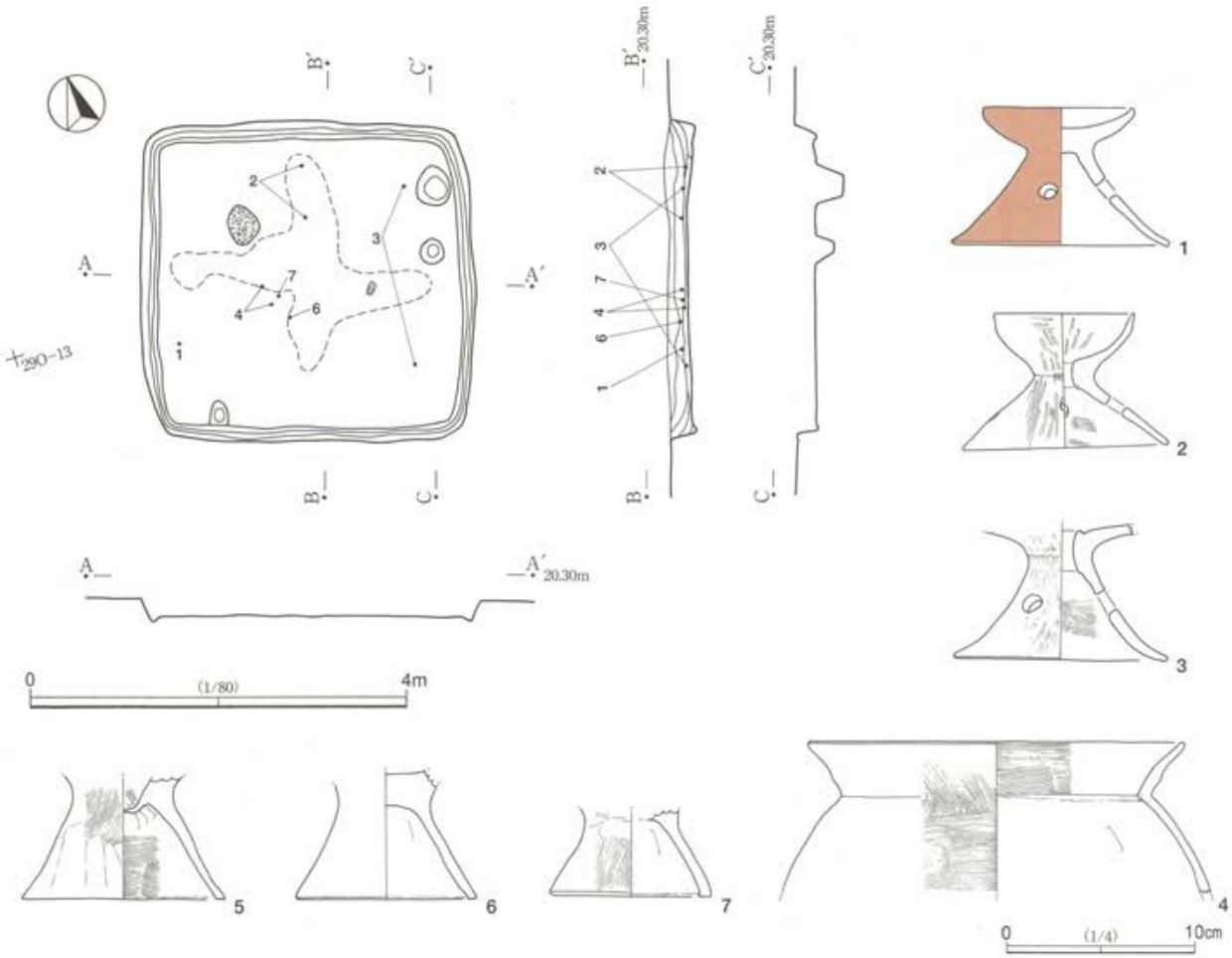
大径を有する坩である。口縁部はやや受け口状を呈する。口縁部外面はハケ後丁寧なミガキが施される。胴部内外面ともにヘラケズリの痕跡が認められる。

SI034（第60・61図，図版17・52）

調査区西側，28M－39グリッドに位置する。規模は11.1m×9.8m，確認面からの深さ64.4cm～43.0cmを測り，大形の長方形状を呈する。主軸方向はN－24.5°－Wを指し，床面積は58.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。柱穴は対角線上に4本確認された。深さ100.5cm～58.0cmとバラツキがある。壁際には壁柱穴と思われる小ピットが多数掘り込まれる。南壁近くのピットは貯蔵穴と考えられる。長軸30.1cm，短軸28.0cm，深さ40.0cmとやや小規模である。壁溝は，幅20.0cm前後で全周する。南壁の中央には間仕切りと思われる溝が中央に向かって伸びている。炉は中心より北に偏って位置する。長径107.70cm，短径72.0cmの楕円形で，深さ11.0cmを測る。炉の長軸を二つに分けるように土器片が立てられている。壁際には多くの焼土が検出されたが，覆土は自然堆積の様相を呈している。遺物は住居全体に散在して検出された。

出土遺物

1・3はいわゆる坩である。1は小さな上げ底の底部からヘルメット状に体部が開き，口縁部が僅かに内湾する。内面は丁寧なミガキ，外面には斜位のハケ目が認められる。3は器肉が分厚く，扁平な胴部を呈する。外面は丁寧なミガキが施される。2・4は小形の壺である。胴部中位に最大径を有し，2はミガキ，4はハケ目調整が加えられる。2の口縁部内面から胴部外面に赤彩がみられる。5～10は器台及び高

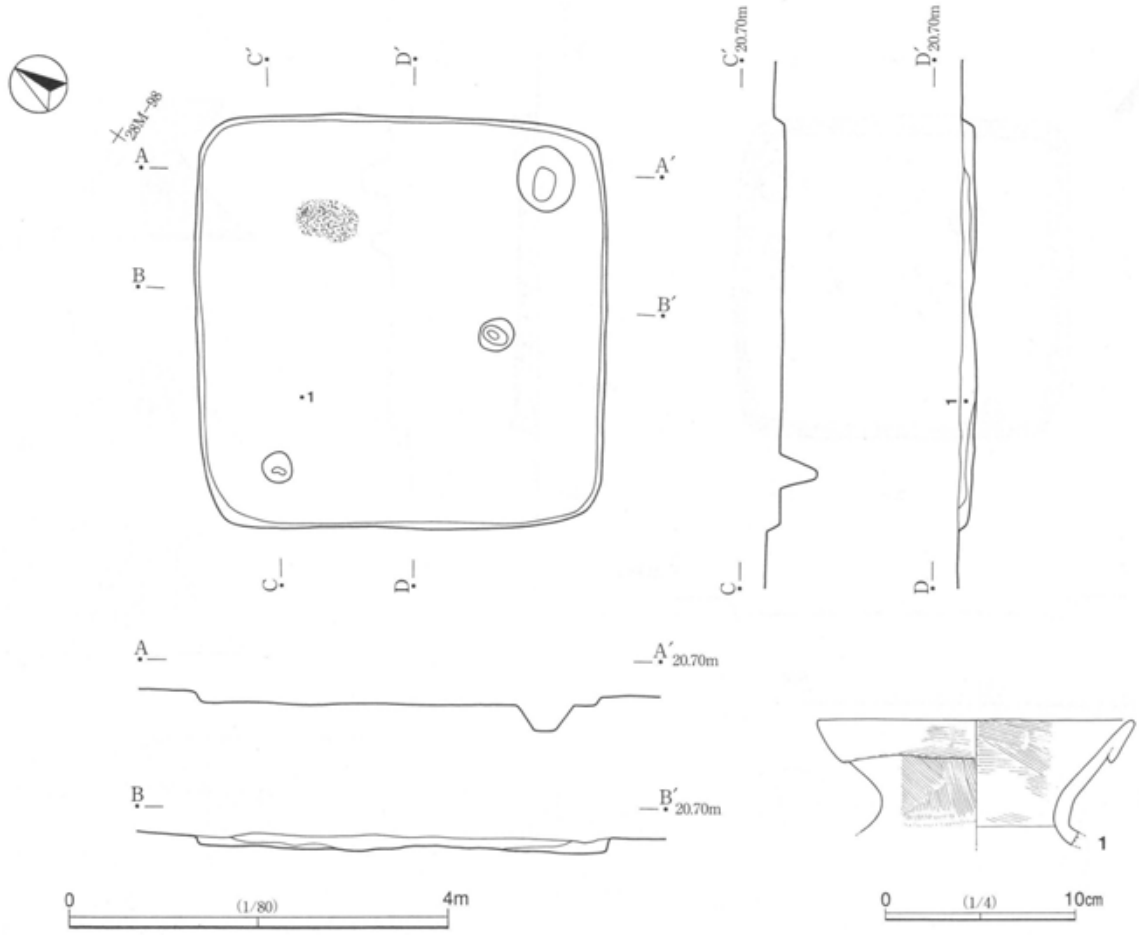


第57図　SI031

杯の脚部である。8，9は裾端部を欠損しているものの，5，6，8，9は外反しながらハの字状に大きく開くタイプである。8は上下二段で4孔ずつ，8個の透孔が確認された。その他は3孔である。7はやや外反しながら伸びるが裾部は短い。透孔は3孔である。11～15は甕である。11は胴部の上位に最大径を持つタイプで，内外面ともに粗いハケ目が施される。12の口縁部は短くくの字に屈曲し，口唇部には棒状工具によるキザミが加えられる。13は大形の甕の底部片で，内外面ともにハケ後ヘラナデ調整される。14・15は台付甕の台部で，2点とも直線的に開く。16は甑の底部であろうか。1.5cmほどの焼成前の孔が穿たれている。17～19はミニチュア土器である。17は底部が突出し，外面にはハケがみられる。18・19は作りが雑で，指頭痕が明確に残る。21は土玉である。

SI035（第62・63図，図版17・18・52）

調査区中央，28N－43グリッドに位置する。規模は8.9m×8.0m，確認面からの深さ50.9cm～42.1cmを測り，掘り込みの深いやや長方形に近い大形住居跡である。主軸方向はN－77.0°－Eを指し，床面積は39.5㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。柱穴は対角線上に4本確認された。深さ63.1cm～39.4cmである。北東コーナー近くにあるピットは貯蔵穴と考えられる。長軸99.0cm，短軸66.0cm，深さ79.2cmを測り，長方形を呈する。壁溝は，幅15.0cm，深さ14.0cmで全周する。炉はやや北西側に位置し，長径67.0cm，短径66.0cmの円形で，深さ2.9cmを測る。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は住居全体に散在し，床面

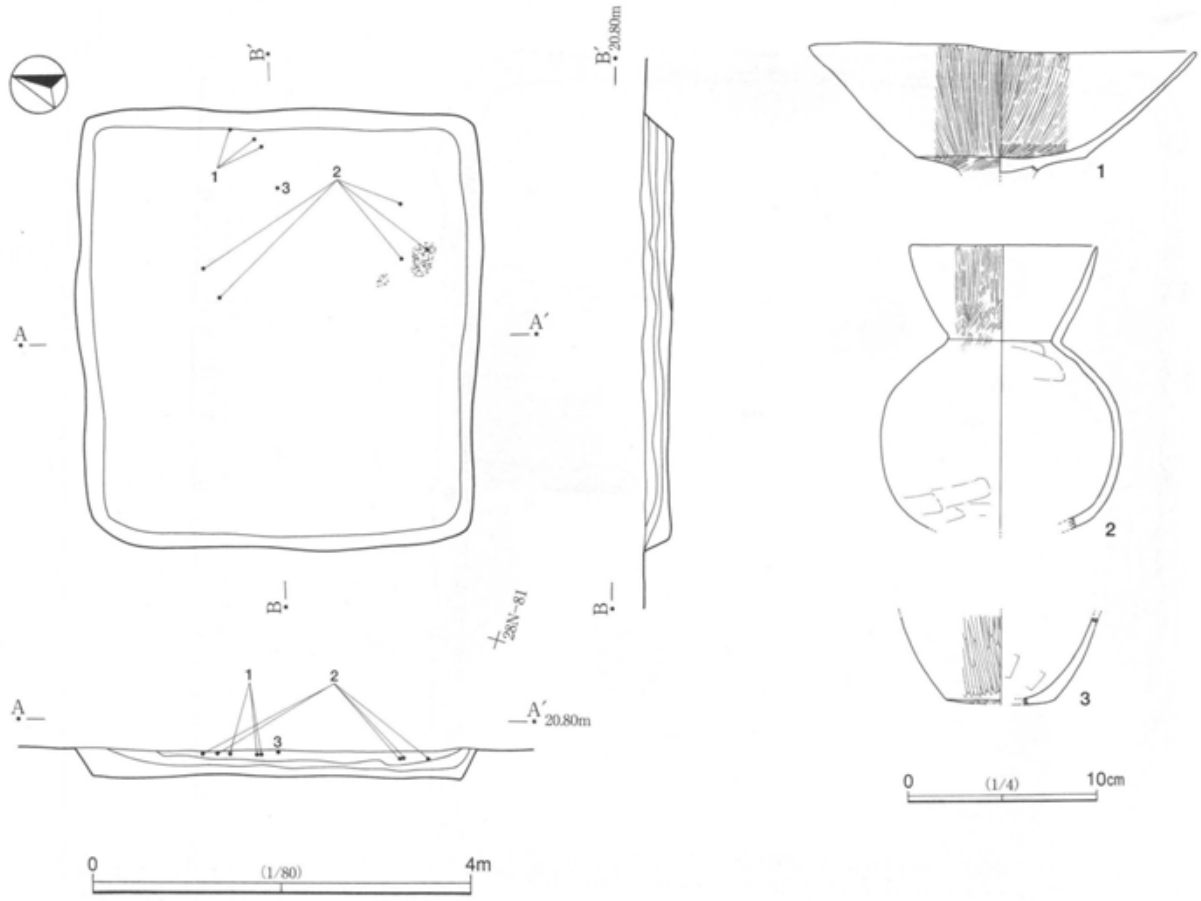


第58図　SI032

または床面直上の状況である。

出土遺物

1～7は器台である。1・2は皿状の器受け部で，1はナデ，2はミガキ調整される。3～7は台部のみの遺存であるが，3・6は高杯の脚部の可能性がある。4，5は2点とも透孔が台部上位に3か所穿たれる。8～11は高杯である。8・9はほぼ同形で大形となる。体部が直線的に開き，ハケ調整の後丁寧なミガキが施される。8は内外面ともに赤彩がみられる。10・11も同様の杯部で，半球形状となる。11は内外面に若干のハケ目が残る。12～15は壺である。12は折り返し口縁となり，折り返し部分は横方向，以下は縦方向の細かいハケ目が認められる。13は有段口縁で，外面には丁寧なミガキが施される。14は小さい上げ底の底部を持ち，胴部中位に最大径を有している。口唇端部を面取りしている。外面は横方向のミガキ後，胴部中位以下をヘラナデ調整する。15～19は甕である。15は胴部中位に最大径を持つがやや長胴で，細かいハケ調整が施される。16も胴部中位に最大径を持つ。口縁部内面はハケ目が認められ，胴部には指頭痕が目立つ。外面は全体にハケ調整が施されている。17は底部を欠くものの台付甕になると思われる。器肉が厚く，口縁内部には粗い目のハケ調整が施される。18・19は台付甕の台部で，直線的にハの字状に開く。20は鉢である。口縁部が短く開き，内面に折り返された稜を作っている。21はミニチュア土器であろうか。22は土玉である。



第59図　SI033

SI036（第64図，図版18・53）

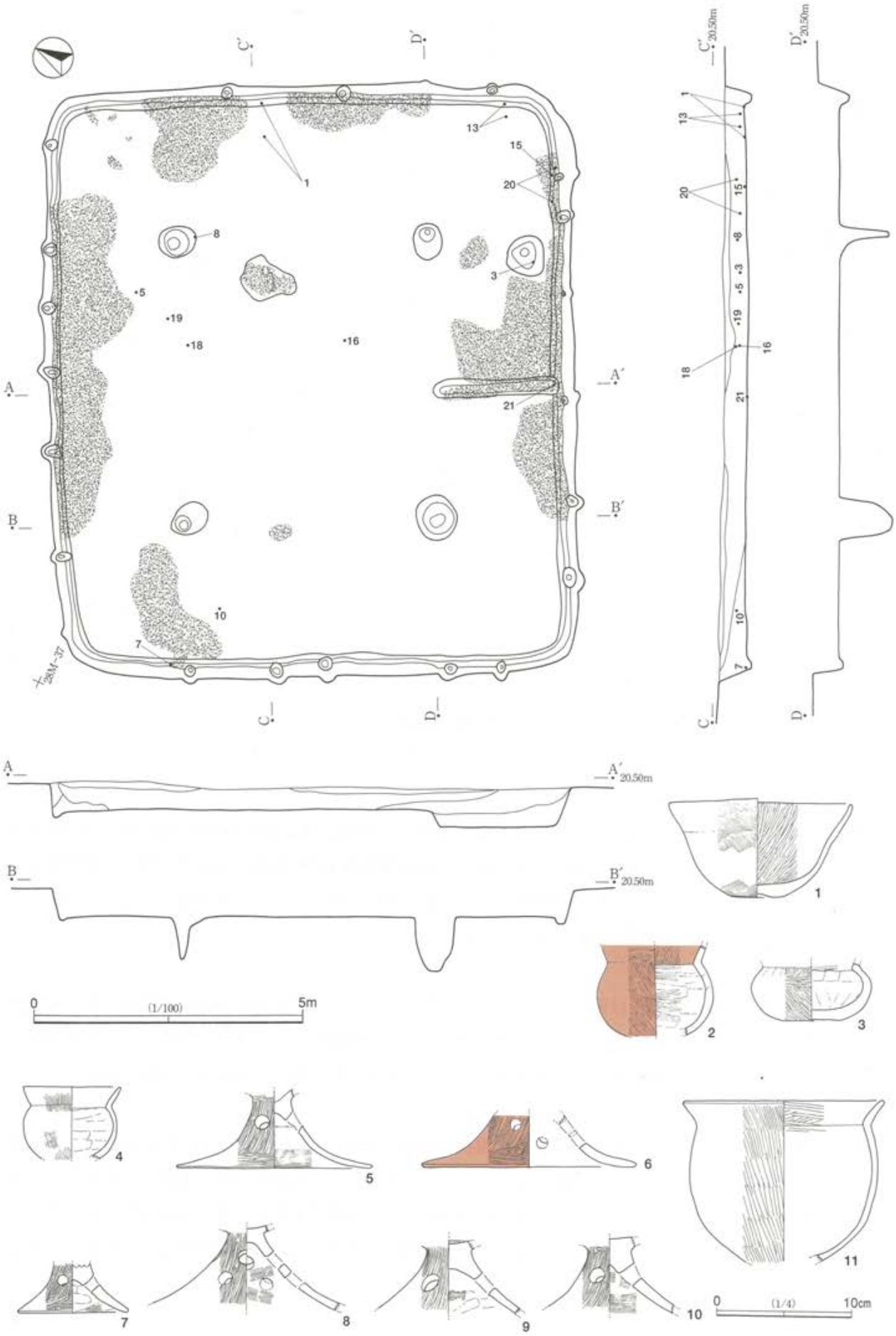
調査区西側，28M－35グリッドに位置する。規模は4.7m×4.7m，確認面からの深さ29.7cm～13.6cmを測り，正方形となる。主軸方向はN－36.0°－Wを指し，床面積は12.1㎡を測る。床面は平坦で，硬化面は中央部分から広く広がる。柱穴等は検出されなかった。焼土が住居跡の中央に3か所認められたが，炉とは断定できない。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ない。

出土遺物

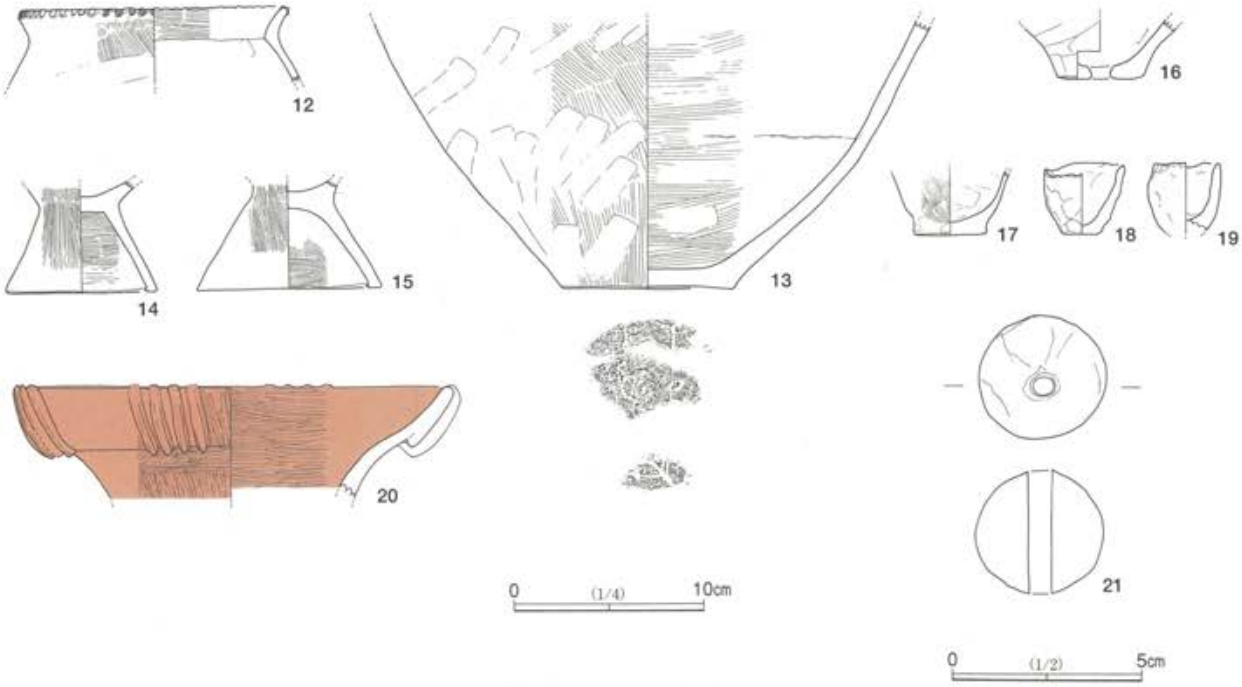
1は器台である。皿状の器受け部で，台部は若干内湾しながらハの字状に広がる。透孔は3か所で台部上位に位置する。3・4は甕である。3の口縁部はやや長く，直線的にくの字状に屈曲する。横位のハケがみられる。4は台部のみの遺存で，内湾気味に開く。5は手捏ね土器で，指頭痕が明瞭に残る。

SI037（第65図，図版19・53）

調査区南側，28O－19グリッドに位置する。規模は4.1m×4.1m，確認面からの深さ54.8cm～37.9cmを測り，掘り込みの深い正方形である。主軸方向はN－16.0°－Wを指し，床面積は9.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面は認められなかった。ピットは1か所検出されたが性格不明である。炉は南東方向に位置し，長径62.0cm，短径36.0cmの楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は少なく，床面直上からの出土である。



第60図　SI034（1）



第61図　SI034（2）

出土遺物

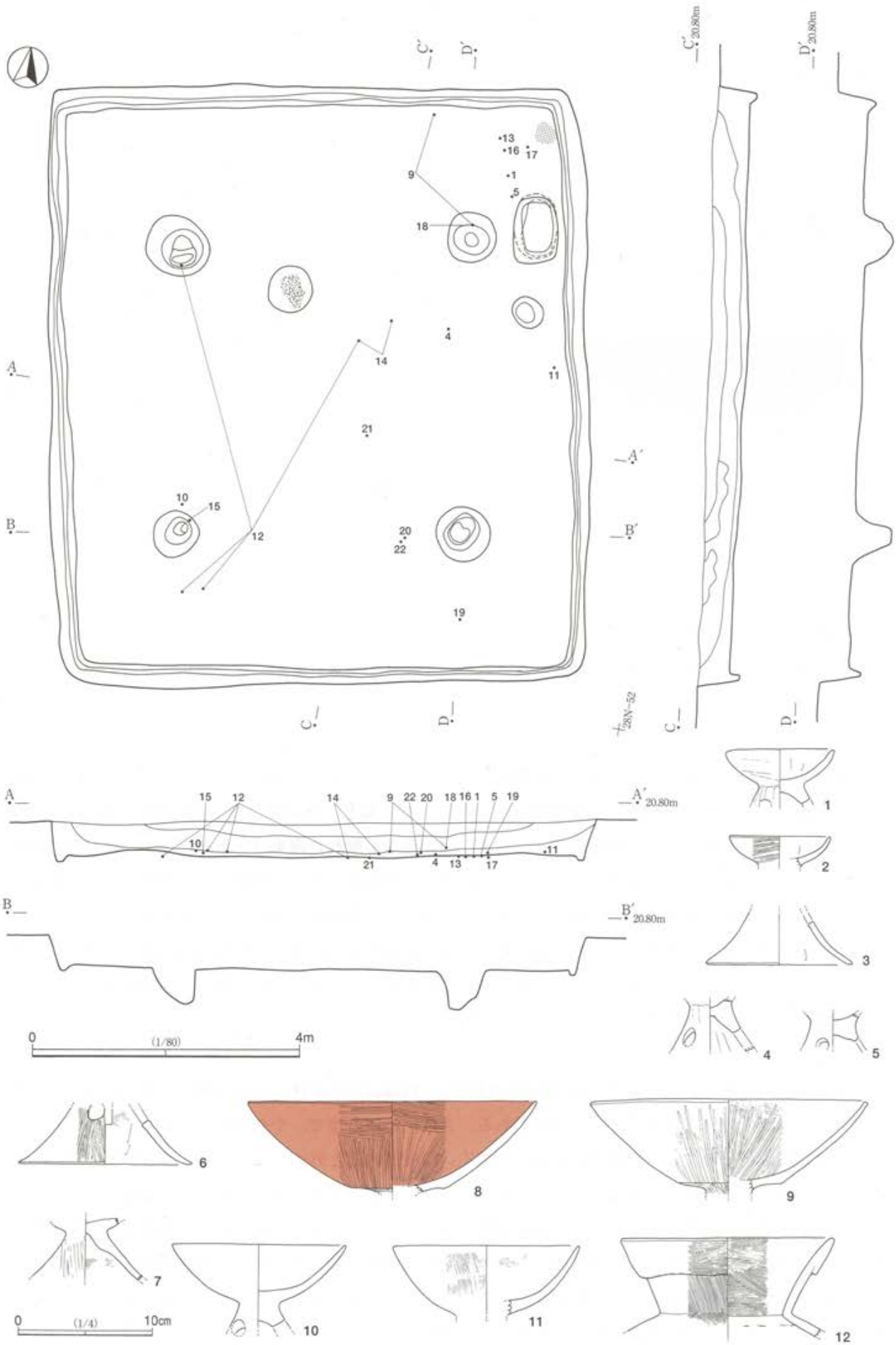
1は口縁部が大きく歪んだ甕である。全体にヘラナデ調整が施されるが，部分的にハケ目が残る。2はミニチュア土器である。外面はハケ目調整される。

SI038（第66図，図版18・19・53）

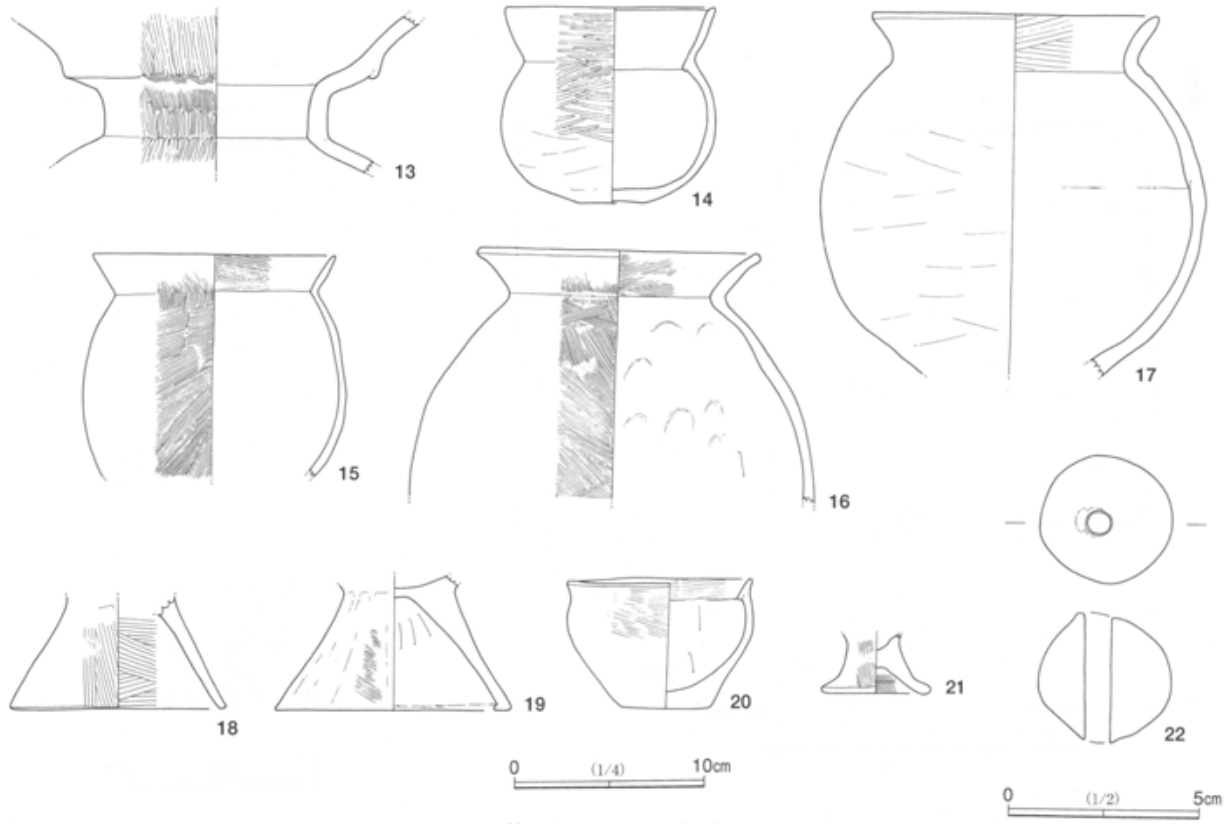
調査区中央，28N－00グリッド付近に位置する。規模は8.6m×6.2m，確認面からの深さ43.0cm～31.6cmを測り，縦長の長方形を呈する。主軸方向はN－31.5°－Wを指し，床面積は28.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。柱穴は北壁近くに2本，壁から少し離れた南東コーナーに1本，南西壁の東側の1本の合計4本確認された。深さ29.7cm～15.5cmと浅い。南西コーナーに位置する方形のピットは貯蔵穴と考えられる。長軸75.0cm，短軸65.0cm，深さ42.7cmを測る。南壁中央の壁から若干離れたピットは入り口に伴うものと思われる。壁溝は，幅15.0cm，深さ8.0cmで全周する。炉はやや北西方向に掘り込まれ，長径140.0cm，短径86.6cm，深さ3.6cmを測る。炉の南側に土器片が立てられている。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は住居全体に散在し，床面から覆土上層までの出土である。

出土遺物

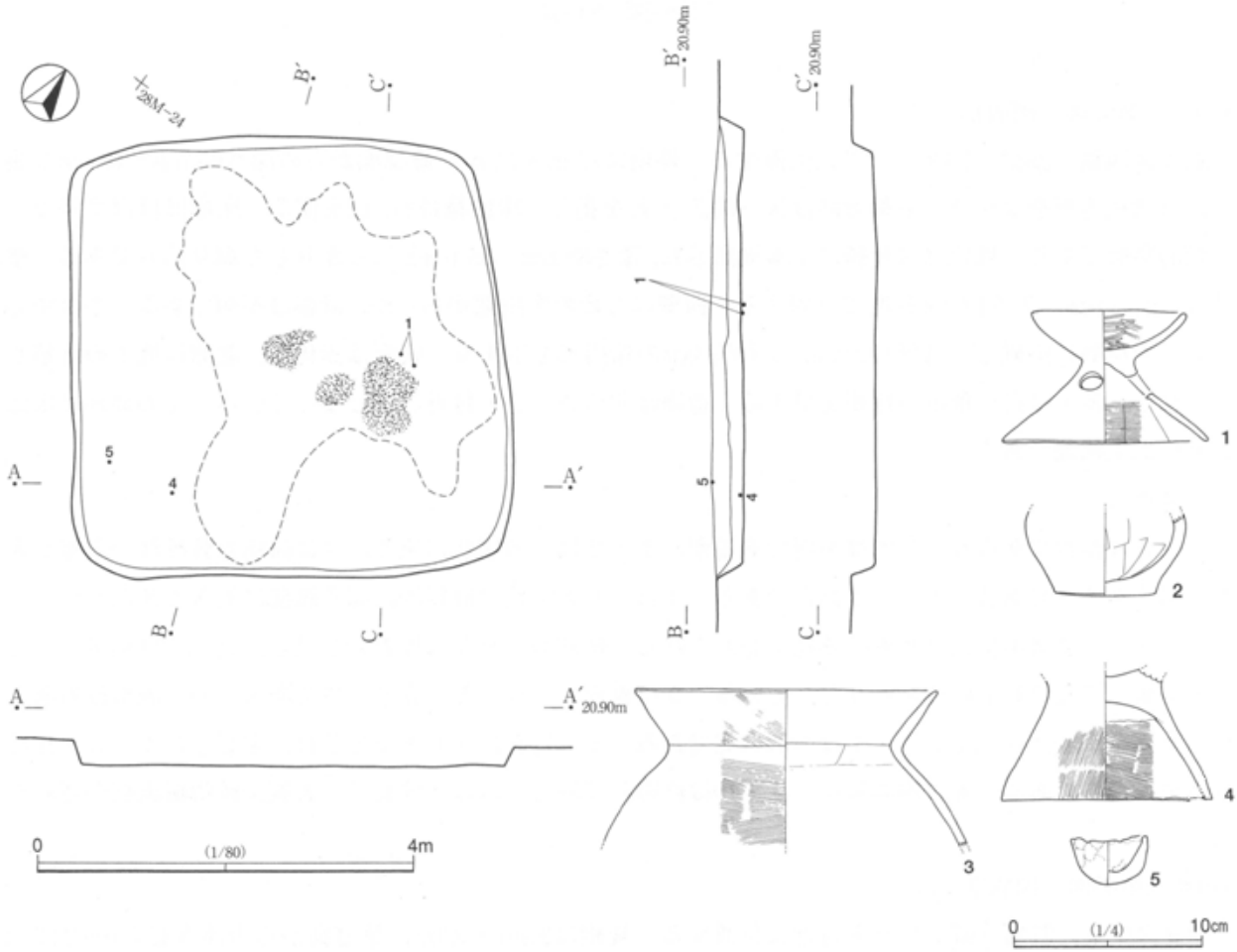
1，2は器台である。1は小さい皿状の器受け部で，台部はハの字状に大きく開くと思われる。台部中位に透孔が3か所確認された。3～8は壺である。3はいわゆる坩で，やや突出した小さな底部を持ち，胴部中位に最大径を有する。口縁部は直線的に開く。口縁部内面と外面には丁寧なミガキが施される。4は小形の広口壺で，口縁部内面はハケ後ミガキ，外面は丁寧なミガキがみられる。5は胴部上位に最大径のある小形の壺で，内外面ともヘラナデ痕が明瞭である。7は折り返し口縁となり，横方向及び縦方向の細かいハケ調整が施される。9～12は甕である。9は胴部中位に最大径を有し，口縁部は緩やかに外反する。口縁部内面から胴部外面にハケ調整が認められる。10の内面には粗いミガキ，外面には丁寧なハケが施されている。11・12は直線的に開く台付甕の台部である


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
C′ 20.80m
D′ 20.80m
A′ 20.80m
B′ 20.80m
28N-52
0
(1/80)
4m
0
(1/4)
10cm

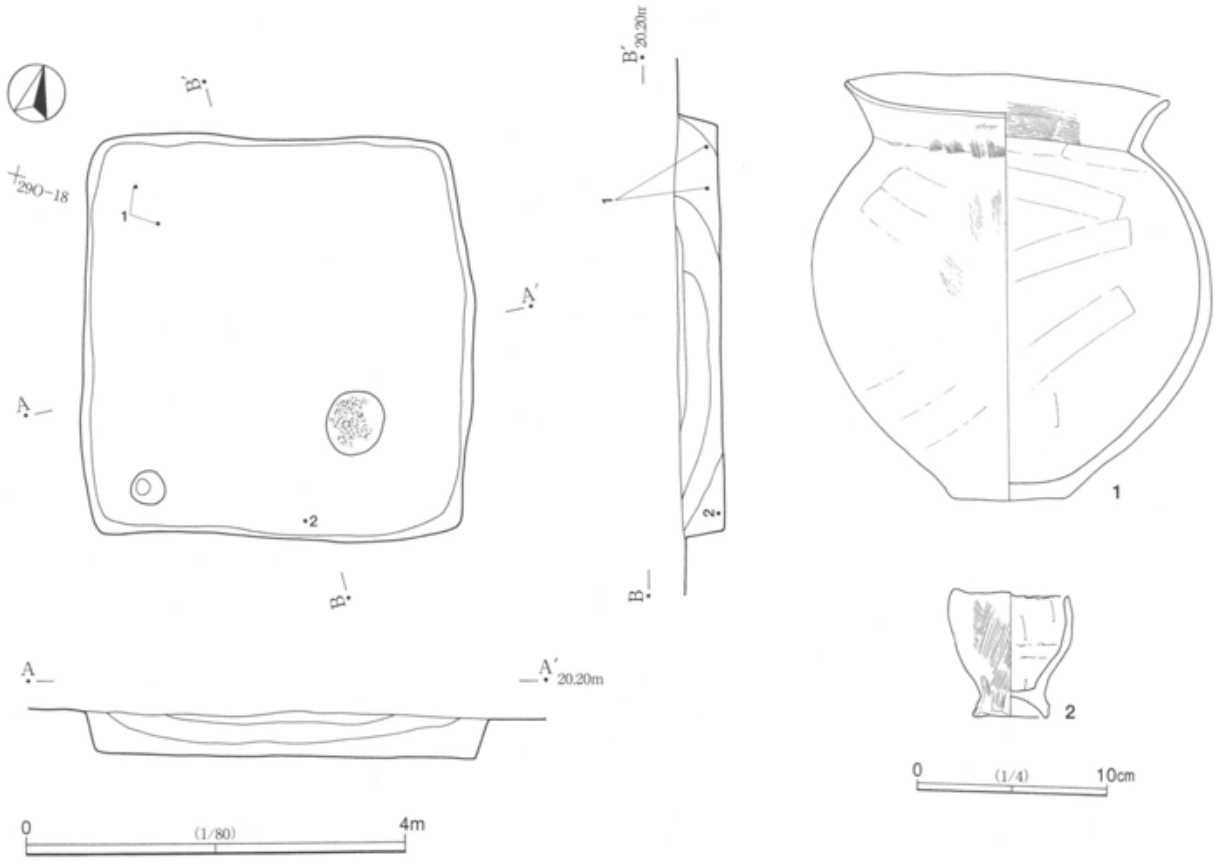
第62図　SI035（1）



第63図　SI035（2）



第64図　SI036



第65図　SI037

SI039（第67図，図版19・53）

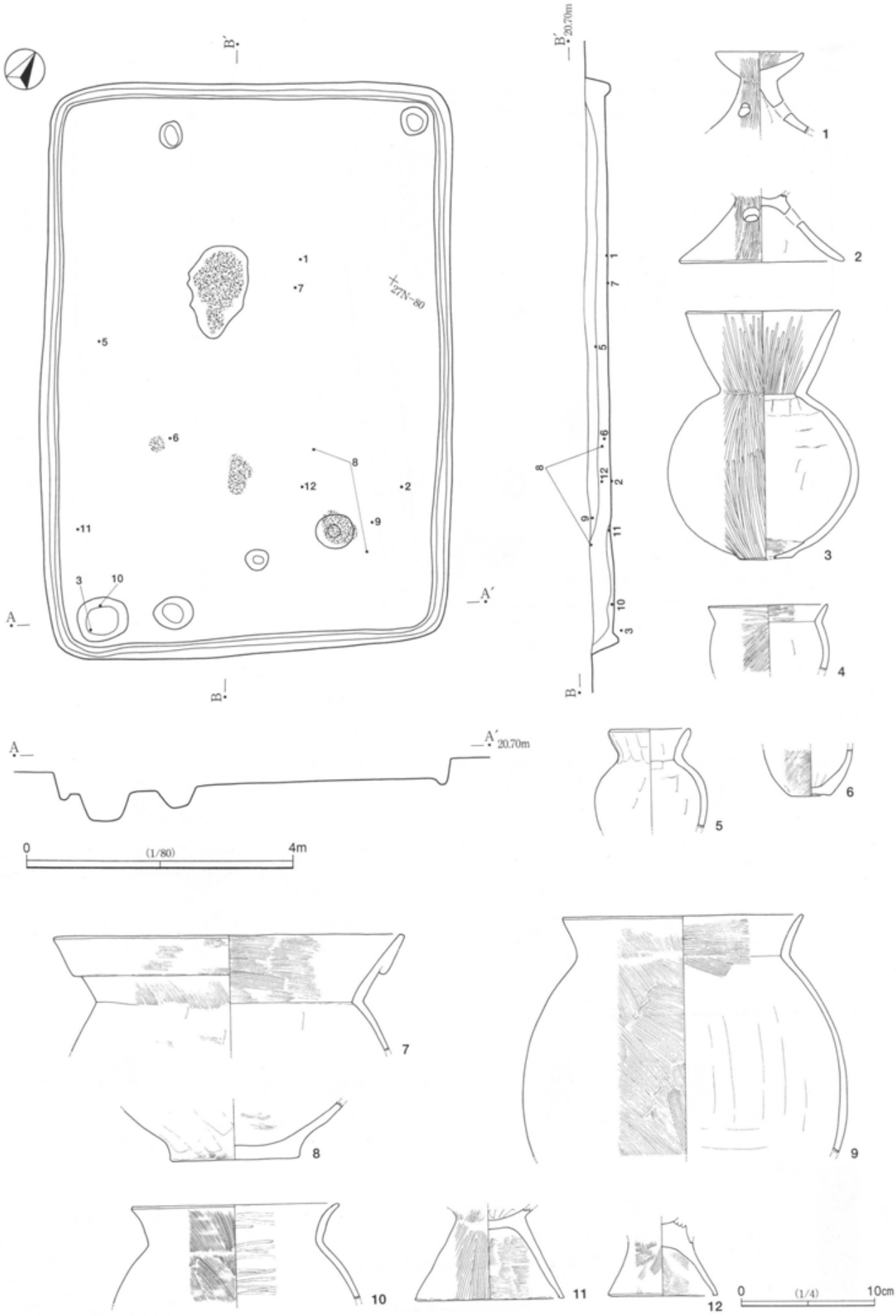
調査区西側，28M－75グリッドに位置する。規模は7.7m×7.2m，確認面からの深さ65.7cm～48.4cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－60.5°－Eを指し，床面積は24.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。柱穴は対角線に4本検出され，深さ81.1cm～55.4cmとしっかりした掘り込みである。壁溝は，幅23.0cm，深さ12.0cm程度で全周する。西壁に方形の突出部があるが，詳細は不明である。炉は中心よりやや東側に位置し，長径102.0cm，短径78.0cmの楕円形を呈する。底面は赤化し，北側に焼土の堆積がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は北西コーナー付近にまとまっている。4の高杯は床面直上の出土状況である。

出土遺物

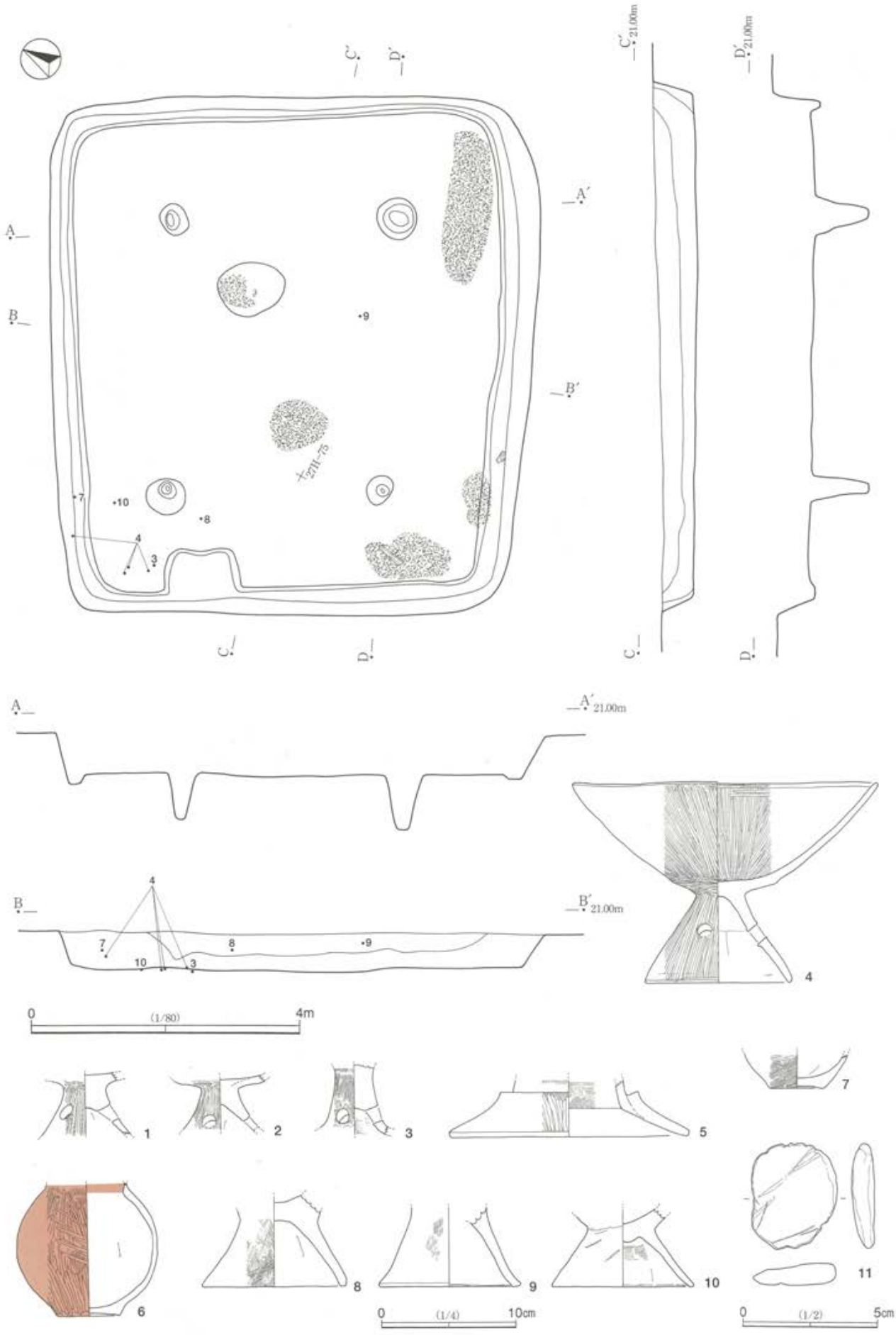
1～3は器台であろう。全形は不明であるが，1・2はハの字状に開き，3は筒状の脚柱部から裾が大きく開くタイプである。4・5は高杯である。4は，ハの字状に直線的に開く脚部に大きな杯部が付くタイプである。脚部中位に3か所の透孔が認められる。杯部のミガキは放射状を呈し，底部には横方向のミガキを施すことで若干の稜を作りだしている。5は裾部で，有段となるタイプである。ハケ調整後外面に粗いミガキが加えられる。6・7は小形の壺である。6は外面にミガキが施され，赤彩される。8～10は台付甕の台部である。8は内湾気味，9・10は直線的に開く。11は土製品で，表裏に植物繊維痕が認められる。

SI040（第68図，図版20・53）

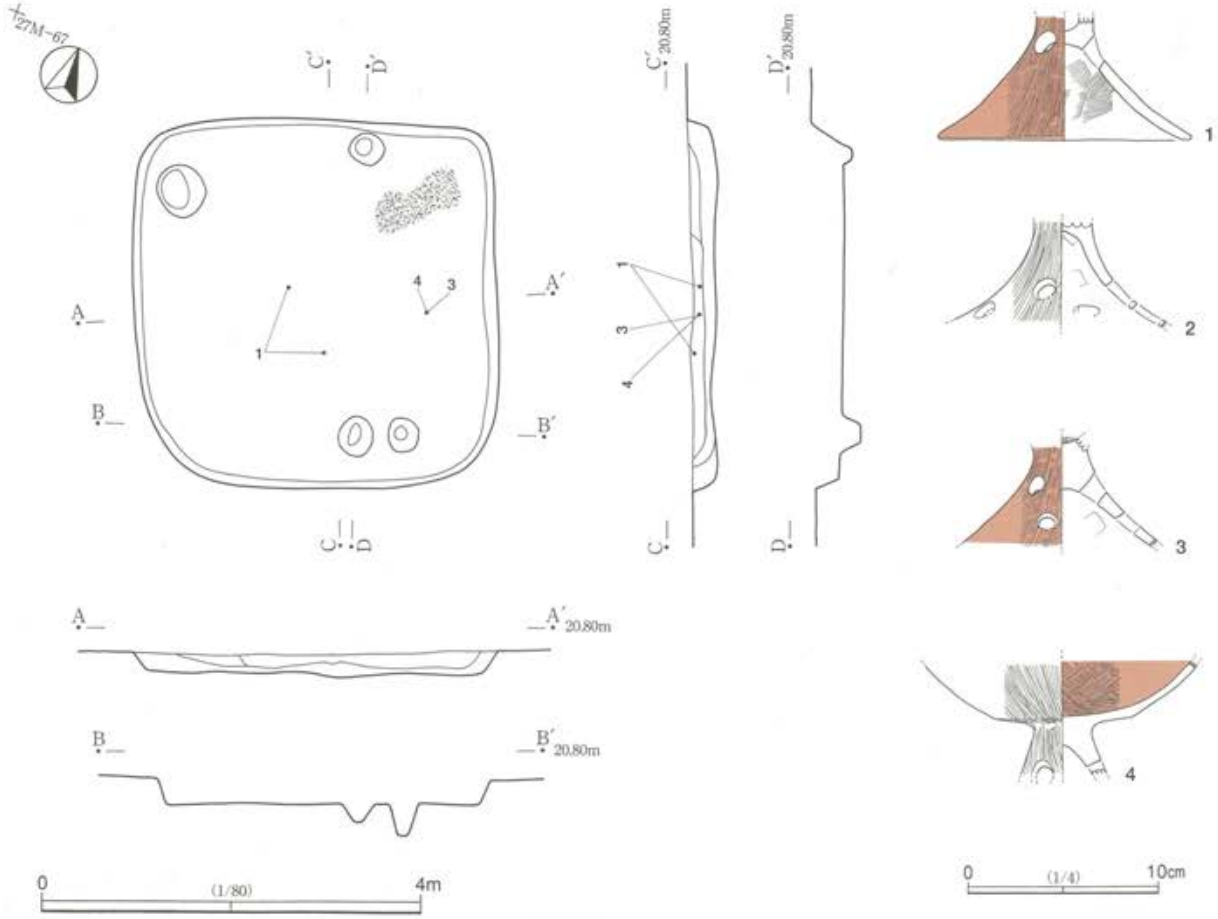
調査区中央，27M－67グリッド付近に位置する。規模は3.9m×3.9m，確認面からの深さ32.7cm～23.7cm



第66図　SI038


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
21.00m
21.00m
21.00m
21.00m
21.00m
SI039
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
0
(1/80)
4m
0
(1/4)
10cm
0
(1/2)
5cm

第67図　SI039



第68図　SI040

を測り，隅丸の正方形を呈する。主軸方向はN－31.5°－Wを指し，床面積は8.3㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，それほど締まっていない。ピットは4本検出されたが，性格不明である。北西コーナーに焼土が認められたが，炉に相当する掘り込みは確認できなかった。覆土は自然堆積の様相を呈している。遺物の出土は少なく，覆土上層からがほとんどである。

出土遺物

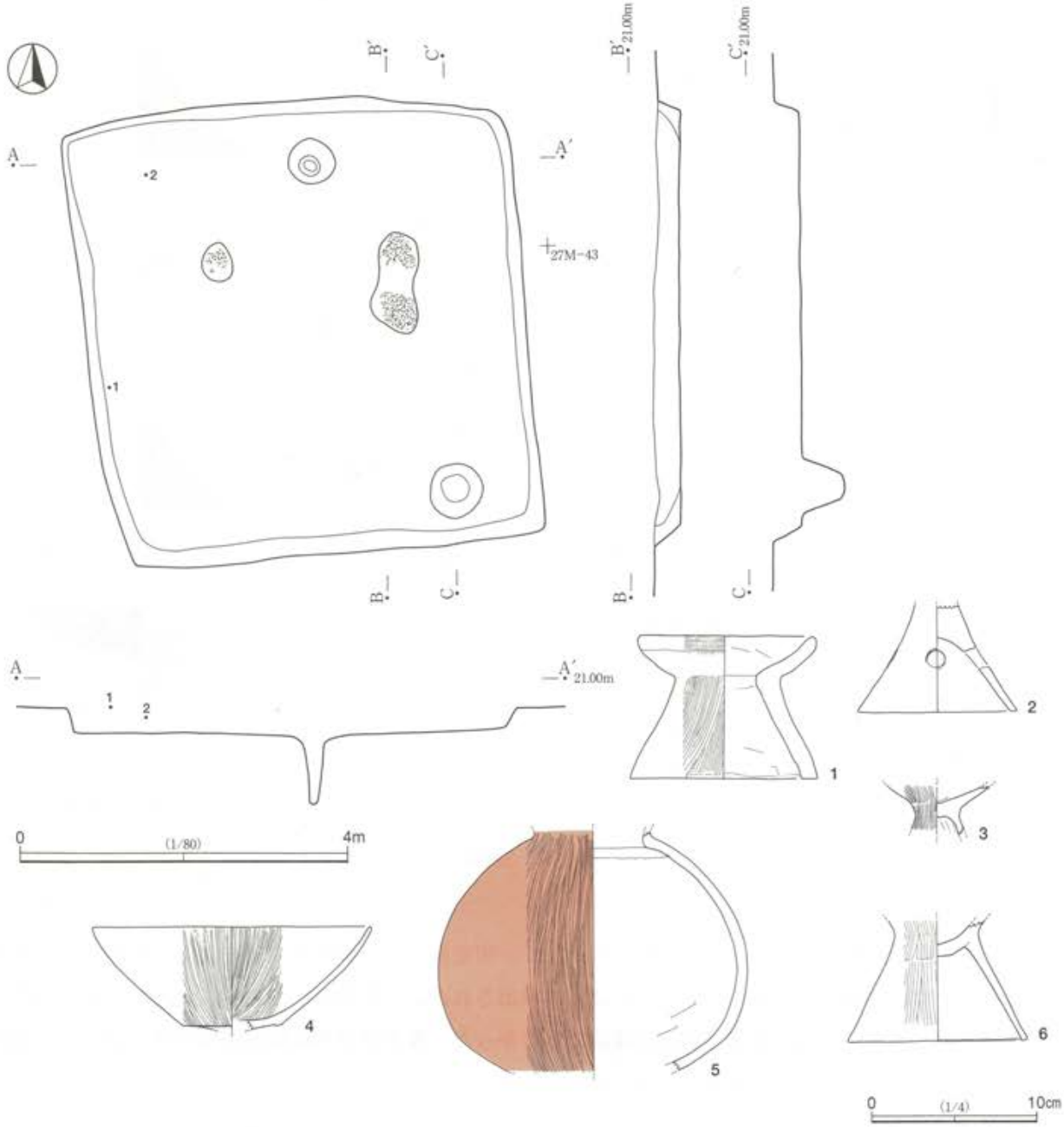
1～3は器台であろう。いずれも外反気味に大きく開く形状で，1は台部上位に3孔，2・3は中位と裾部に二段で交互に3孔，合計6孔の透孔が認められる。1・3の外面に赤彩がみられる。4は脚部に比して杯部が大きな高杯である。杯部は内外面とも丁寧な放射状のミガキが施され，内面赤彩される。

SI041（第69図，図版20・53）

調査区西側，27M－42グリッドに位置する。規模は5.6m×5.4m，確認面からの深さ31.0cm～28.0cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－5.0°－Wを指し，床面積は25.7㎡を測る。床面はほぼ平坦である。ピットは2本検出された。北側は柱穴，南側は貯蔵穴となる可能性がある。炉はやや北東側に位置し，長径120.0cm，短径56.0cmの瓢箪形を呈するが，掘り込みはほとんど確認されなかった。遺物は少なく，覆土上層からの出土である。

出土遺物

1～3は器台であろう。1は中空で，器肉が厚く，本遺跡では類例のない資料である。形状は炉器台に

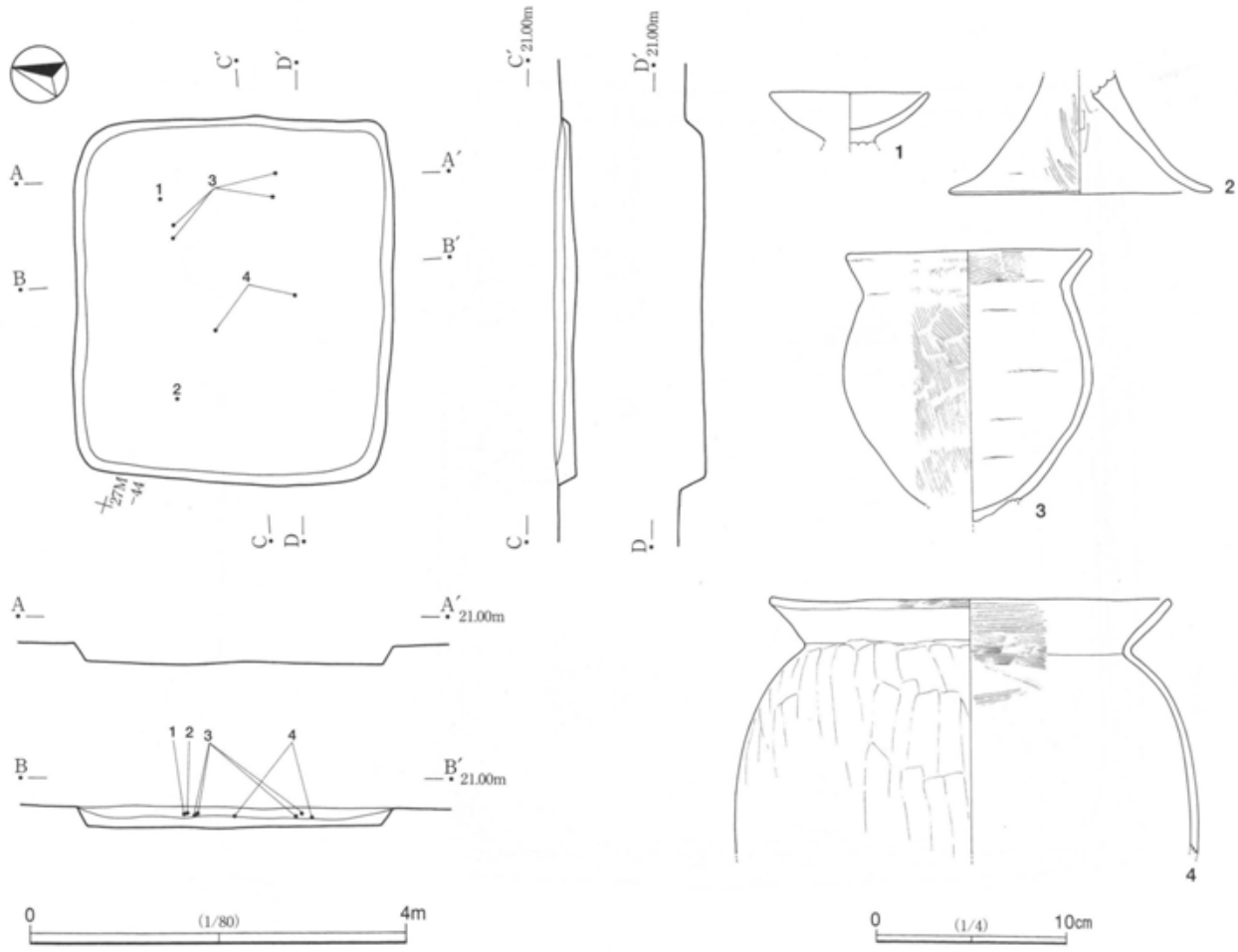


第69図　SI041

近いものである。外面にハケ目が施される。2は台部が直線的に開く形状で，透孔が台部中位に4か所穿たれる。4は高杯の杯部である。内外面とも放射状の丁寧なミガキが施される。5は外面赤彩の壺である。下膨らみの球形胴を呈し，細かいミガキが加えられる。6は台付甕の台部である。

SI042（第70図，図版20・53）

調査区西側，27M－45グリッドに位置する。規模は3.9m×3.4m，確認面からの深さ20.9cm～12.6cmを測り，やや隅の丸い正方形の住居跡である。主軸方向は，N－75.0°－Eを指し，床面積は11.4㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，それほど堅緻ではない。柱穴等は検出されなかった。覆土は自然堆積の様相を示し，遺物は覆土上層からの出土である。



第70図　SI042

出土遺物

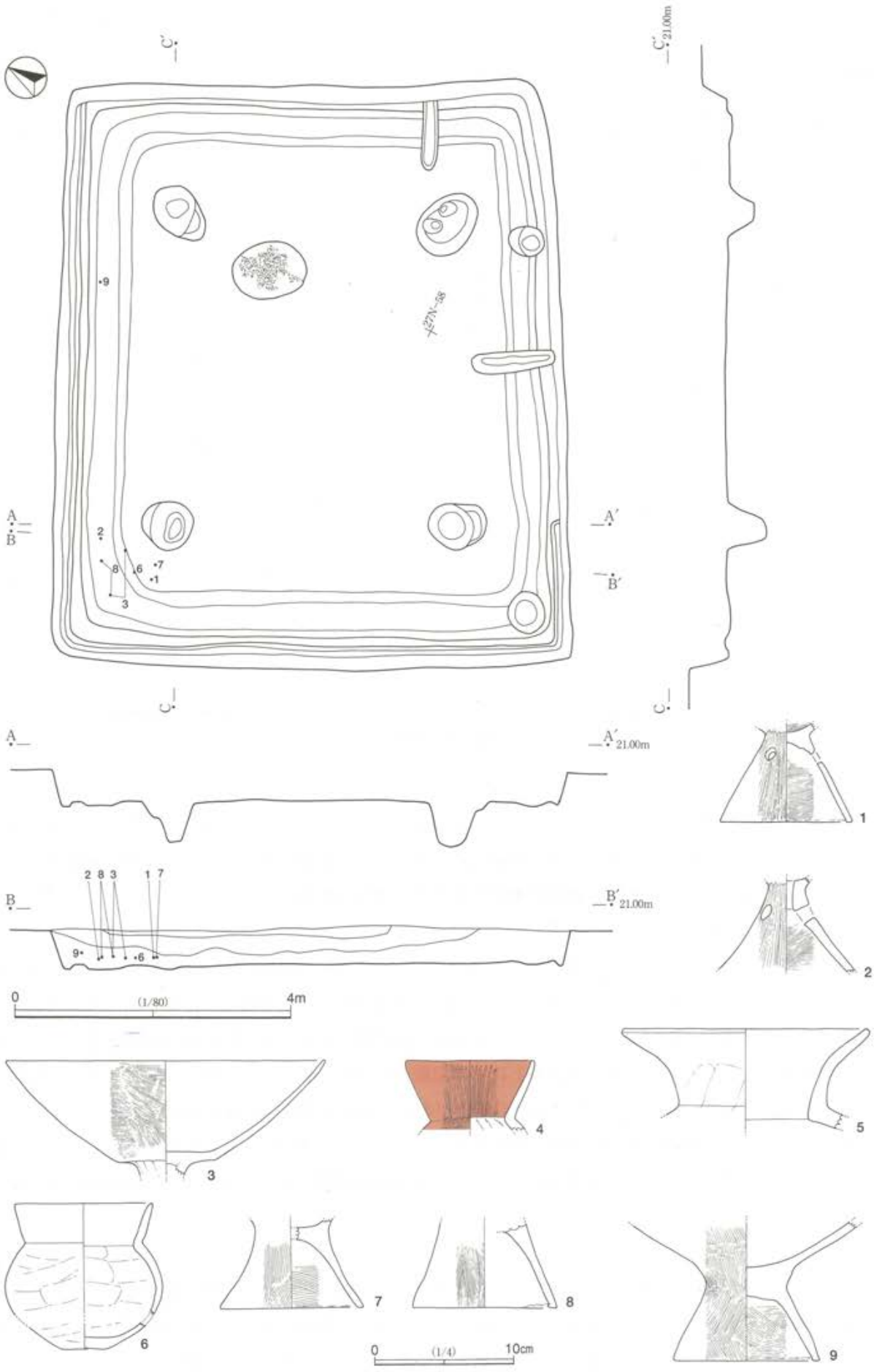
1は器台の器受け部で，小さな皿状を呈する。器面が粗く，調整は不明である。2は高杯の脚部であろう。3は台付甕で台部を欠く。胴部の中位に最大径を有し，やや長胴気味となる。4は肩の張る甕で，長胴となろう。口縁部内面にハケ目，胴部外面にヘラケズリがみられる。

SI043（第71図，図版21・53）

調査区北側，27M－58グリッドに位置する。規模は8.5m×7.3m，確認面からの深さ60.0cm～51.0cmを測り，長方形を呈する。主軸方向はN－61.5°－Eを指し，床面積は28.8㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅8.0cm，深さ12.0cmで北壁から西壁側に巡る。壁内側に幅広の溝が巡っているが，拡張前の壁溝かもしれない。柱穴は対角線上に4本配置され，径0.7m～0.9mと大きい。3か所に二段の掘り方が認められており，抜き取りが行われた可能性がある。東壁と南壁下に長さ約1.2mの間仕切りと思われる溝が検出された。炉は東側の柱穴間に位置する。長径110.0cm，短径75.0cmと大形の楕円形を呈し，深さ8.1cmを測る。被熱による赤化が顕著である。覆土は自然堆積の様相を呈する。多くの遺物は，西コーナーの床面から若干浮いた状態で出土している。

出土遺物

1・2は器台の台部で，上位に透孔が3か所確認された。内面ハケ，外面ミガキ調整が施されている。3は高杯の杯部である。大形で，体部が内湾気味に大きく開く。外面にはハケ目が明瞭に残る。4～6は壺である。4はやや受け口状の口縁部で，内外面ともに縦方向のミガキが丁寧に施され，赤彩される。5



第71図　SI043

は器肉が厚く，口縁上部が受け口状に外傾する特徴的な形状である。６は小形の壺で，口縁部は直立気味に開く。内外面ともヘラナデが加えられる。７～９は台付甕の台部である。内外面にハケ調整が施される。

SI044（第72・73・74図，図版21・53・54）

調査区北側，27M－37グリッドに位置する。規模は5.9m×5.2m，確認面からの深さ65.0cm～49.0cmを測り，掘り込みの深い正方形状を呈する。主軸方向はN－22.0°－Wを指し，床面積は25.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が全体的に広がっている。柱穴は対角線上に４本配置され，径20cm～30cmと小さい。南壁近くに位置するピットは貯蔵穴と思われる。炉は北東側に偏って構築され，長径78.0cmの略楕円形状を示す。焼土や炭化材が多く検出されており，焼失住居と思われる。覆土中にローム粒を多く含み，人為的な埋め戻しの可能性がある。遺物の出土は多く，床面直上から覆土上層までみられる。

出土遺物

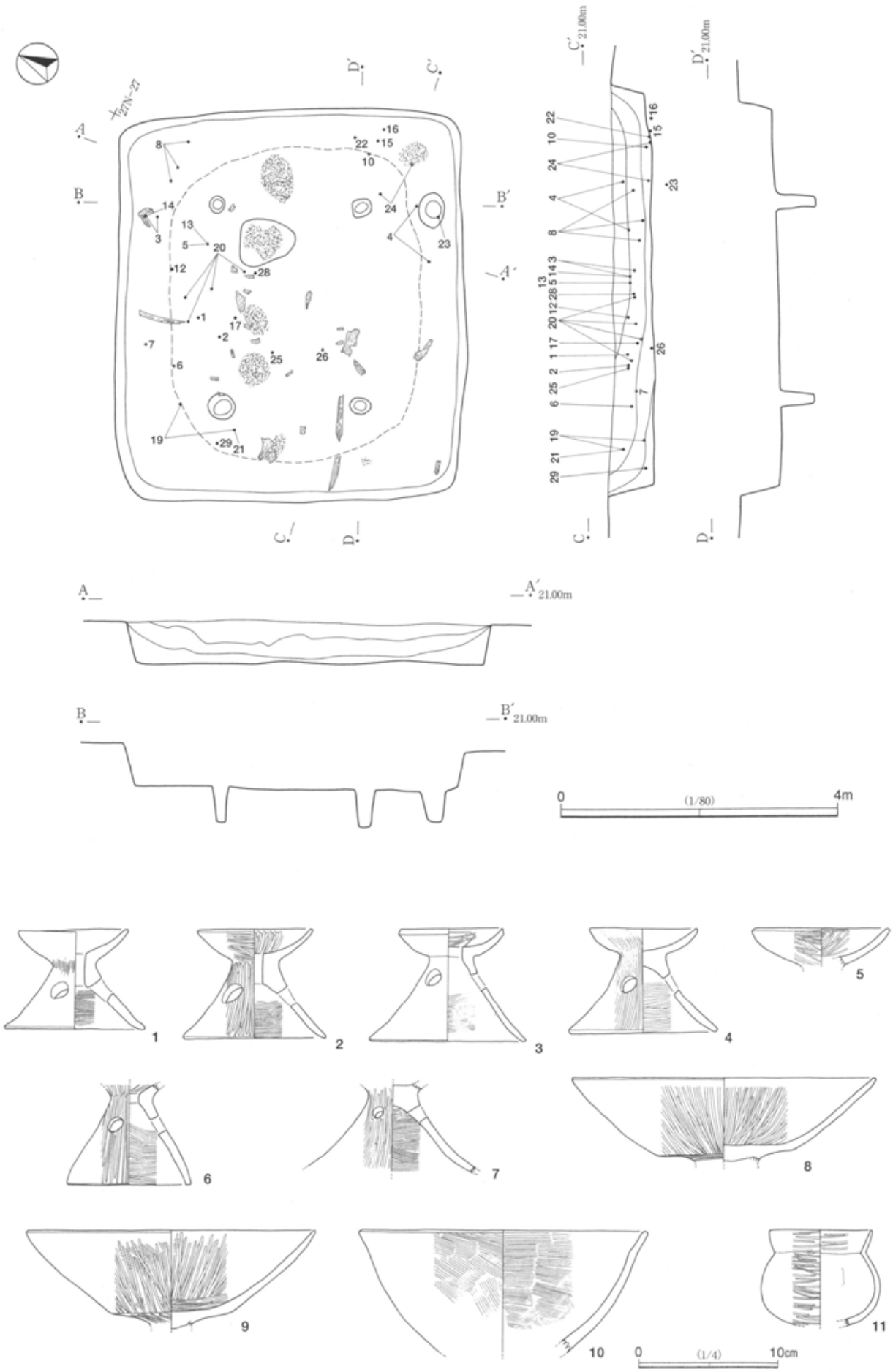
１～７は器台である。１～３・６は中空のタイプで，器受け部は皿状を呈し，台部はほぼ直線的に開くが，２・３は外反気味，６は内湾気味である。いずれも台部内面ハケ目，以外はミガキ調整である。４・５もほぼ同様の形状で，５の器受け部が若干大きくなる。８・９は高杯の大形杯部で，口径に比して器高がやや浅くなる。８は内外面ともミガキ，９はハケ調整後ミガキが施される。10は大形の鉢であろう。口縁部が受け口状に外反する特徴を有する。内外面ともハケ調整される。11～14は壺である。11は小形で，胴部下位に最大径を有する。12の胴部は瓢形を呈する。内外面粗いミガキが施される。13は折り返し口縁，14は有段口縁となる。ハケ調整が明らかである。15～23は甕である。15は胴部中位に最大径を持つ球形の胴部で，台付甕になると思われる。内外面ハケ調整される。16は底部の突出した小形甕で，口縁部がくの字状に強く屈曲する。内外面細かいハケ目がみられる。17～19は下半部を欠く。ハケ調整後ナデが加えられる。19の口縁部には，接合痕と指頭による押さえ痕が明瞭に残る。20は球形胴を呈する小形甕である。内外面ハケ調整され，底部には木葉痕が残る。21～26は台付甕である。21・23は胴部上位に最大径を有し，23の台部は内湾気味に開く。22，24は胴部中位に最大径があり，器高が深くなる。台部の開きは直線的である。球形の胴部にくの字状に外反する。台部は22が外反気味，23が内湾気味にハの字状に開く。24の内外面にはハケ調整が明瞭に観察される。27は底部穿孔の壺であろうか。28・29はミニチュア土器で，ハケ後ナデ調整される。30は不明土製品であるが，焼き試しのような感を受ける。

SI045（第75図，図版22・54）

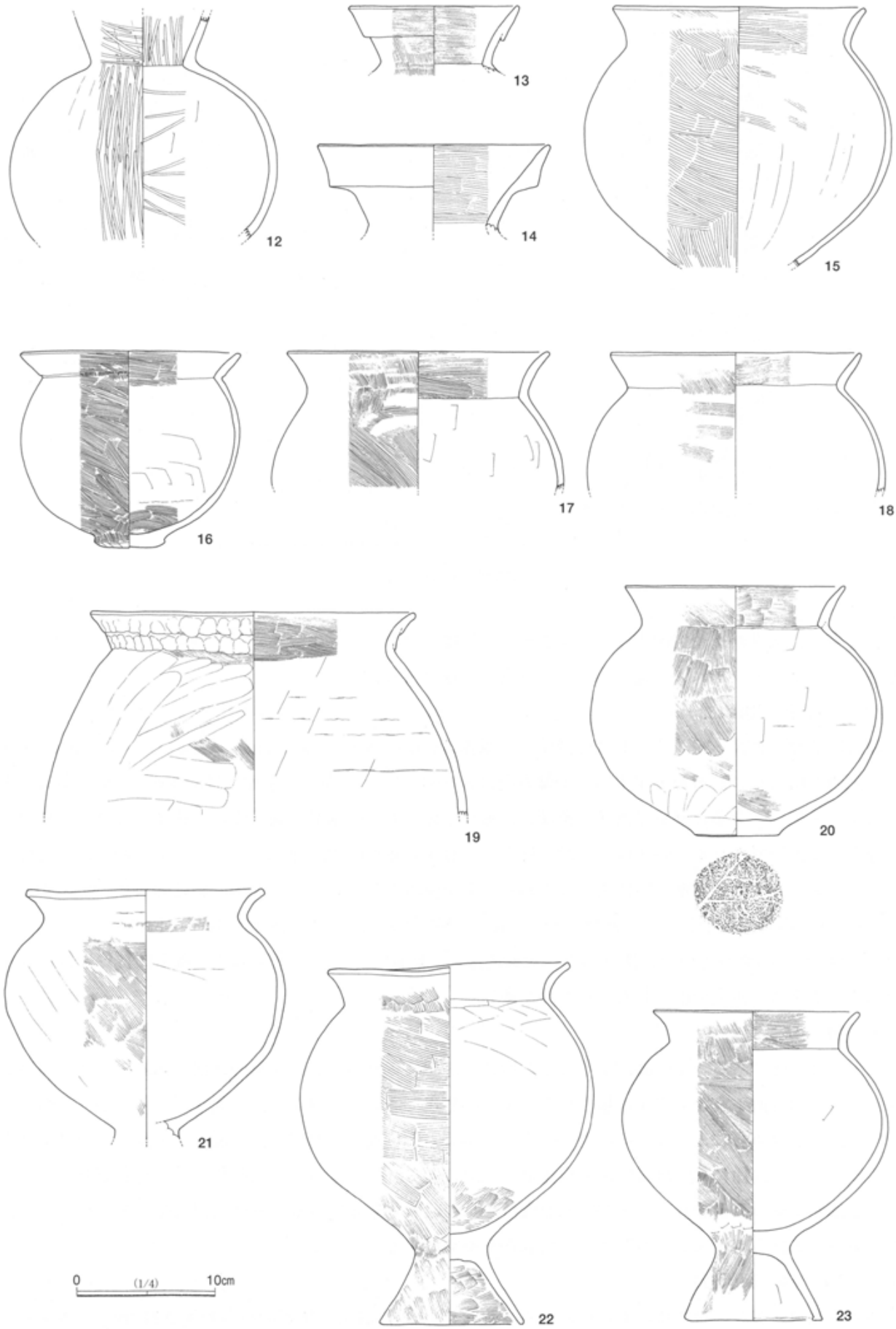
調査区北側，27M－29グリッドに位置する。南コーナー部でSI063を切る。規模は4.8m×4.1m，確認面からの深さ70.0cm～48.0cmを測り，掘り込みの深い長方形状を呈する。主軸方向は，N－14.8°－Wを指し，床面積は14.3㎡を測る。床面はほぼ平坦で，西側半分に硬化面が確認された。壁溝は，幅18.0cm，深さ4.0cmで全周する。ピットは南東コーナーに１か所掘り込まれる。径55cm前後の貯蔵穴と思われる。炉は北東側に偏って構築される。長径55.0cm，短径50.0cmのほぼ円形で，深さ6.0cmを測る。底面の赤化が認められる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ないが，床面からの出土が多い。

出土遺物

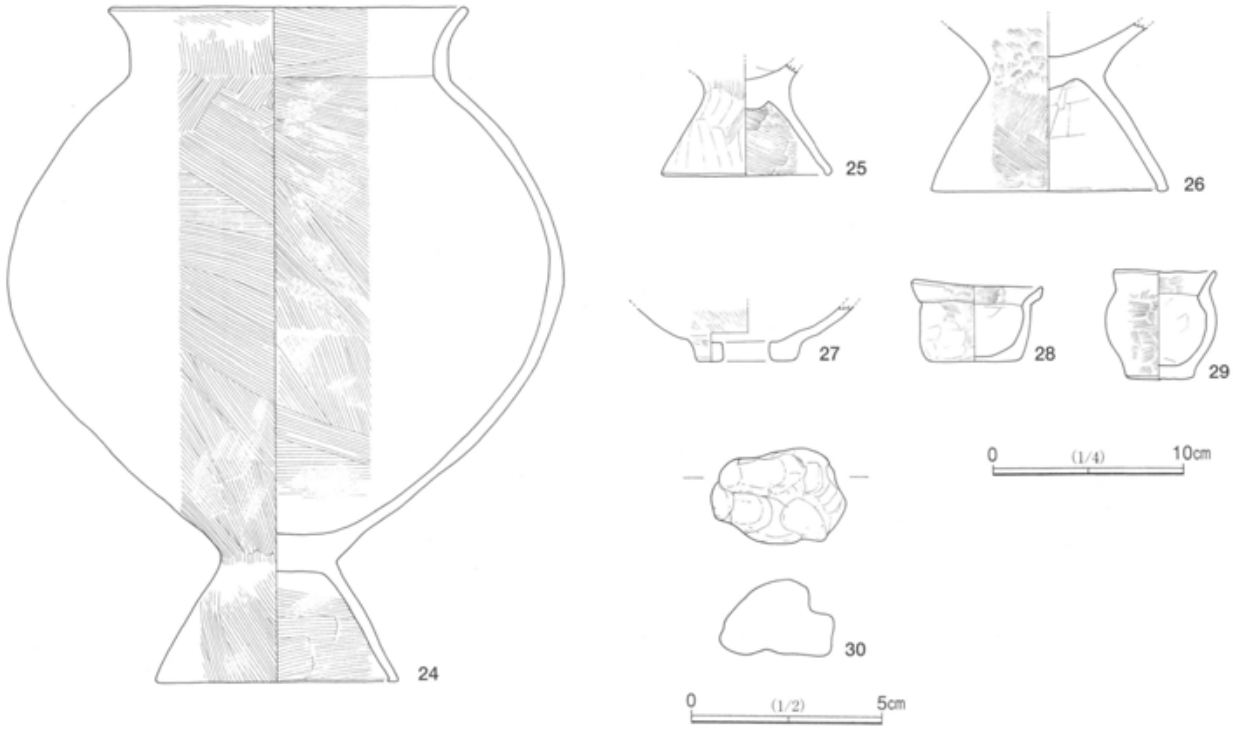
１は器台片である。透孔は３か所と思われる。２～４は壺である。２は小形の広口壺で，やや上げ底となる。口縁部にハケ目，胴部にミガキが施される。３は胴部中位に最大径を有するが，やや縦長となる。口縁部は内湾気味に開く。口縁部内面は縦方向のミガキ，外面はハケ後粗いミガキが施され，口縁部肉面から胴部外面に赤彩が加えられる。４には粗いミガキがみられる。５・６は甕である。５は胴部上位に最



第72図　SI044（1）



第73図　SI044（2）



第74図　SI044（3）

大径を有し，底部がやや突出する。6は小形で，口縁部は直立気味となる。ハケ後ナデ及びヘラケズリ調整される。7はミニチュア土器である。折り返し口縁となる。

SI046（第76図，図版22・55）

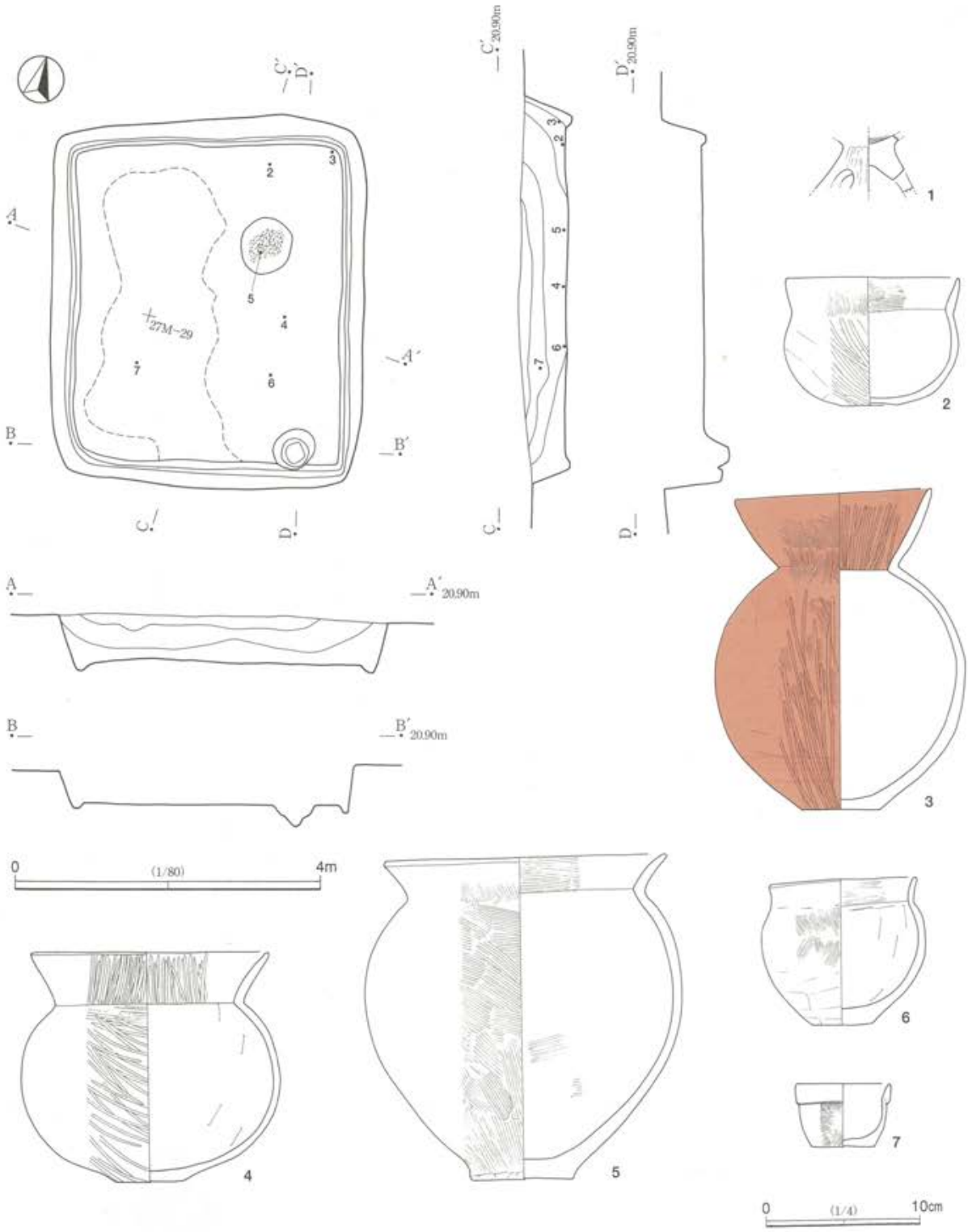
調査区北側，27N－32グリッドに位置する。規模は9.9m×8.0m，確認面からの深さ53.0cm～38.0cmを測り，東西方向に長い長方形を呈する。主軸方向はN－64.5°－Eを指し，床面積は32.3㎡と大形である。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅10.2cm，深さ8.0cmで東側を除いて確認された。柱穴は対角線上に4本配置される。いずれも2段の掘り方を有する規模の大きな柱穴である。抜き取りが行われた可能性がある。南壁と東壁に間仕切りと思われる溝が検出された。その空間内に長軸59.0cm，短軸49.0cm，深さ35.6cmを測る長方形のピットが位置し，貯蔵穴と想定される。炉は北東柱穴付近に位置する。長径59.0cm，短径49.0cmの略長方形で，掘り込みは比較的深い。底面の赤化は顕著である。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は，覆土中層に含まれるものが多い。

出土遺物

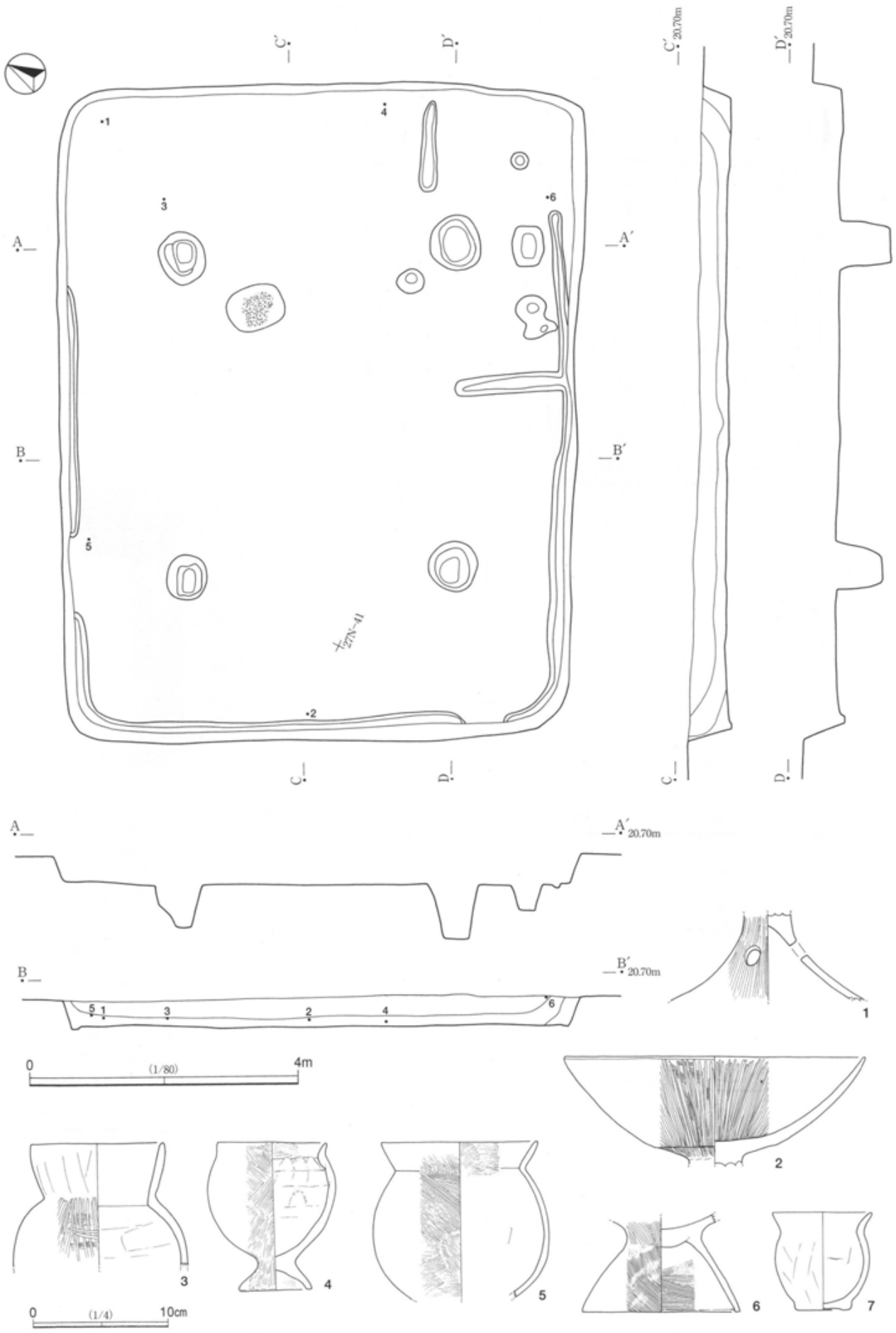
1・2は高杯である。1の脚部上位に3か所透孔が認められる。2は大形の杯部である。体部は内湾気味に開く。内外面丁寧なミガキが施される。3は小形壺である。口縁部は直立気味に立ち上がり，胴部外面にミガキが認められる。4～6は甕である。4小形の台付甕で，胴部上位に最大径を持ち，口縁部は小さく屈曲する。内面に粘土紐接合痕と指頭痕が明瞭に残る。外面はハケ目調整で，煤の付着がみられる。5は胴部が下膨らみとなり，二次的に火を受け，煤の付着も確認できる。6は内湾気味に開く台付甕の台部である。7はミニチュア土器である。底部がやや突出する。

SI047（第77図，図版22）

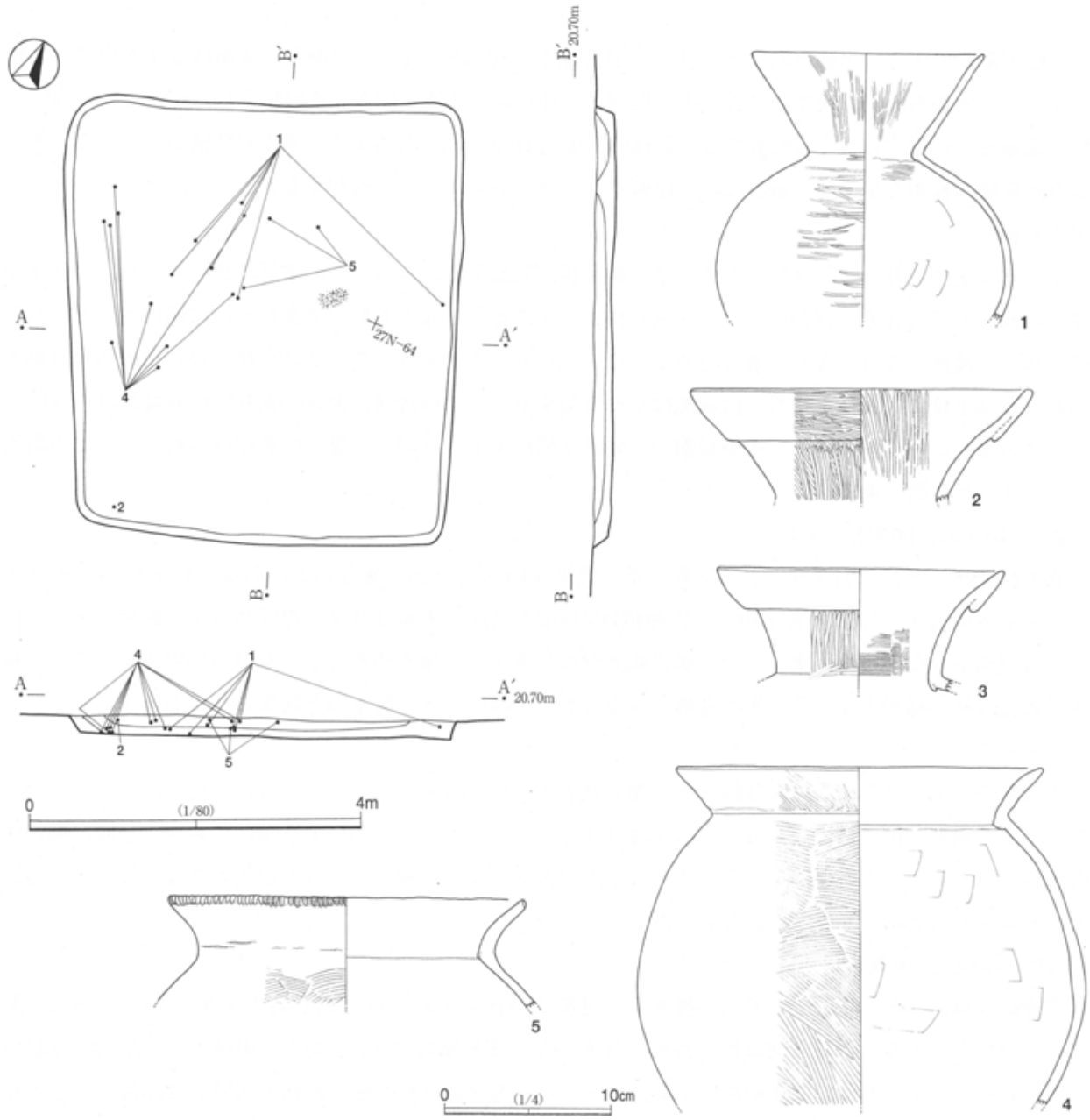
調査区北側，27N－64グリッドに位置する。規模は6.6m×4.7m，確認面からの深さ21.0cm～23.8cmを測


A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
27M-29
A′ 20.90m
B′ 20.90m
C′ 20.90m
D′ 20.90m
0
(1/80)
4m
0
(1/4)
10cm

第75図　SI045



第76図　SI046



第77図　SI047

り，長方形状を呈する。主軸方向はN－20.0°－Wを指し，床面積は22.5㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，比較的柔らかい。柱穴等は確認できなかった。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は西側に集中するが，覆土中層から上層が多い。

出土遺物

1～3は壺である。1は球形胴で，口縁部は直線的に長く伸びる。赤彩の可能性もあるが，二次的に火を受けて器面が荒れているため，調整等も不明である。2・3は折り返し口縁となり，丁寧なミガキ調整が主体である。3は被熱し，煤の付着もみられる。4・5は甕である。4は球形の胴部から口縁部が強く屈曲する。被熱しているが，外面には粗いハケ目が残る。

SI048（第78図，図版23・55）

調査区北側，27N－55グリッドに位置する。規模は5.1m×4.9m，確認面からの深さ40.0cm～32.0cmを測

り，長方形を呈する。主軸方向はN－18.0°－Wを指し，床面積は19.8㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に柔らかい感があるが，硬化面が柱穴間に広がる。柱穴は北西側を除き3本検出されたが，全体に浅い。炉は北東柱穴に接するように位置する。長径97.0cm，短径82.0cmの長方形で，焼土の堆積がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は，床面直上から覆土中層にかけて散在する。

出土遺物

1～4は壺である。2・3は小形で，2の最大径は胴部上位にある。3の胴部は球形を呈し，口唇部が僅かに摘み上げられる。細かいハケ目がみられる。4は複合口縁の大形壺であろう。口縁部内外面にハケ目が残る。被熱により，煤の付着も認められる。5～8は甕である。5・6は台部を欠く小形の台付甕である。胴部上位に最大径を持ち，口縁部はやや外傾する。7は口縁部に歪みがあり，口唇部にはヘラ状工具による細かいキザミが巡る。やや長胴で，底部は突出する。外面には煤の付着がみられる。9は小皿状のミニチュア土器である。

SI049（第79図，図版23・55）

調査区北側，26N－94グリッドに位置する。規模は4.1m×4.0m，確認面からの深さ43.0cm～31.6cmを測る。主軸方向はN－36.0°－Wを指し，床面積は13.8㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，軟質である。柱穴等は検出されなかった。東コーナー側に確認された焼土は，掘り込みはないものの炉の跡であろう。覆土は自然堆積の様相を呈する。出土遺物は少ないが，ミニチュアや勾玉など特殊なものが含まれる。

出土遺物

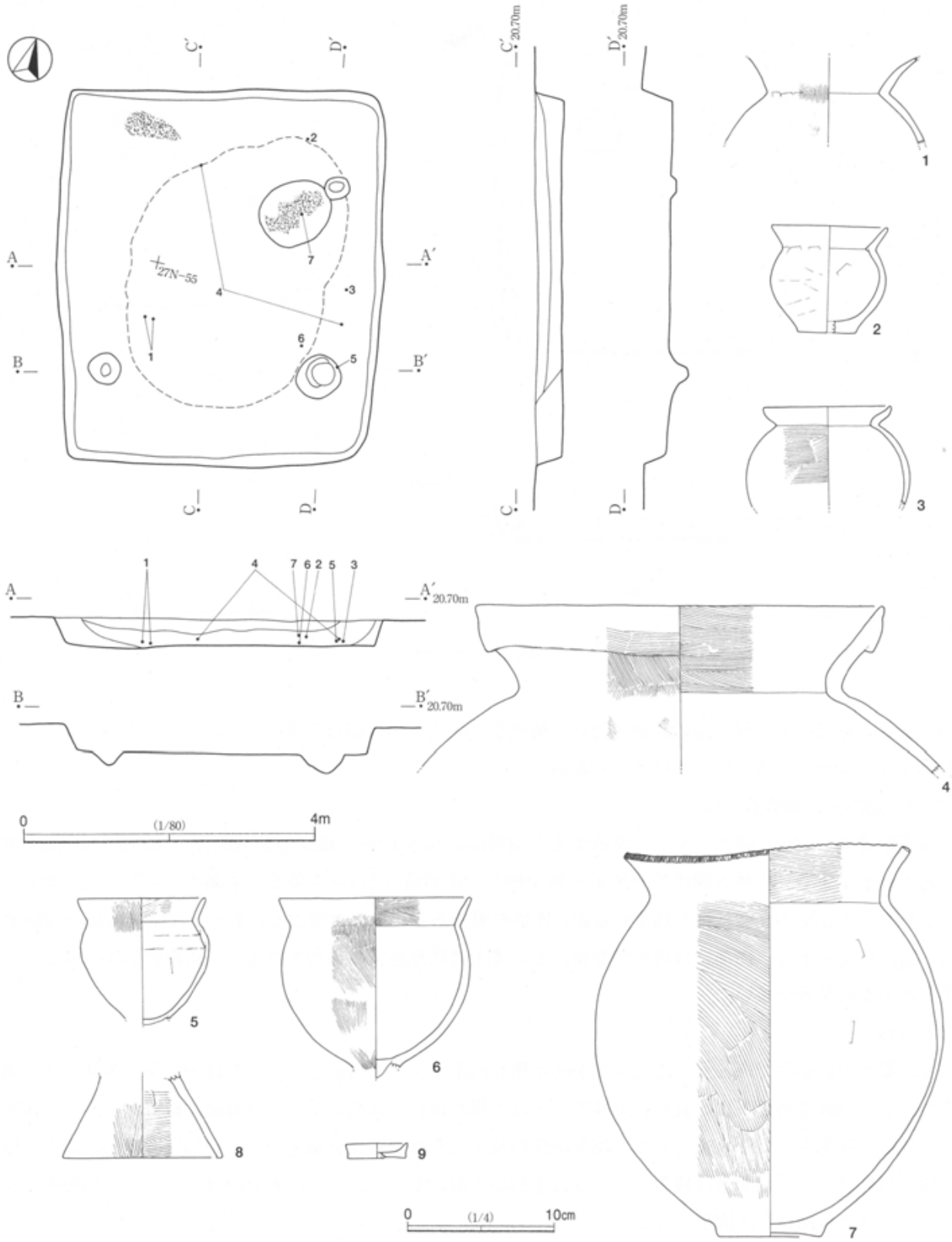
1は器台の器受け部で，口縁部内外面に煤の付着が帯状にみられる。2・3は台付甕である。2は台部を欠くが，胴部上位に最大径を有し，口縁部は短く立ち上がる。二次的に火を受けており，全面に煤の付着がみられる。4は丁寧な作りのミニチュア土器である。全体に細かいミガキが施される。5は土製の勾玉，6は土玉である。2点とも完形品である。

SI050（第80図，図版24・55）

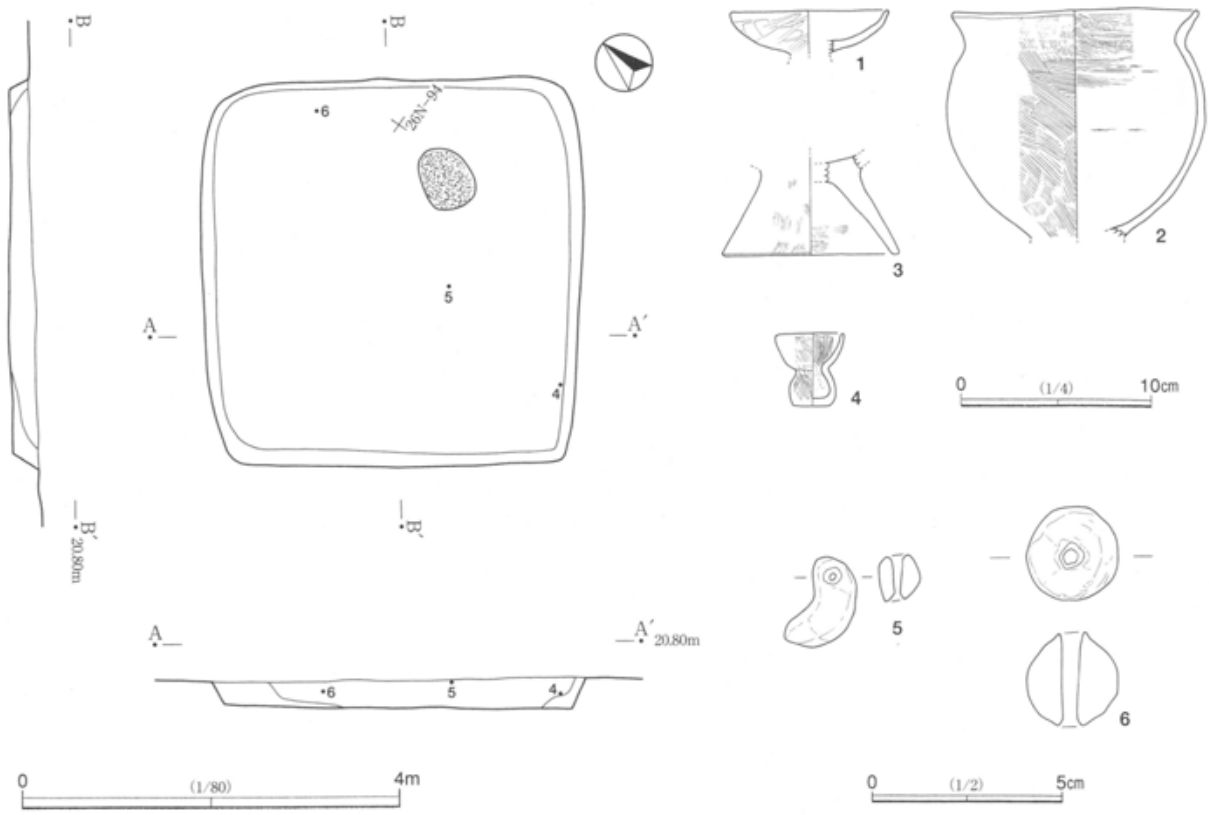
調査区北側，26N－82グリッドに位置する。規模は4.5m×4.3m，確認面からの深さ51.0cm～37.0cmを測り，正方形を呈する。主軸方向はN－29.8°－Wを指し，床面積は15.3㎡を測る。床面には一部凸凹な部分がみられるが，中央部分に硬化面が広がる。ピットは1本確認されたが，性格不明である貯蔵穴かもしれない。長軸70.0cm，短軸54.0cm，深さ25.7cmである。炉は北側に位置し，長径78.0cm，短軸50.0cmを測る。焼土や炭化物が北壁から南壁まで中央部分を中心に広がり，焼失の可能性がある。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は住居跡全体に散在し，床面から覆土中層まである。

出土遺物

1は中空の器台である。中空部分が長いため，全体に鼓形状を呈する。透孔は3か所の確認でき，台部は外反気味に大きく開く。被熱を受けているため，明瞭ではないが，器受け部内面から台部外面に赤彩が施されているようである。2は特異な形状であり，器形は特定できない。3～5は壺である。3は小さい底部を持ち，胴部中位に最大径を有する。比較的粗いミガキがみられる。5の口縁部内面外面に赤彩が施される。6～11は甕である。6は小形の台付甕で，口縁部に最大径を有する。台部の開きは小さく，内湾気味となる。二次的に火を受けている。7の作りは丁寧で，口唇部は面取りされる。やはり被熱している。8はほぼ完形で，胴部上位に最大径を持つ。台部は内湾しながらハの字状に開く。ハケ調整が主体である。9～11は直線的に開く台部である。10・11は二次的に火を受けており，10には煤の付着もみられる。12は



第78図　SI048



第79図　SI049

甑である。底部中央に径３cmの孔が穿たれ，被熱している。13は器台を模したミニチュア土器である。穿孔は４か所開けられる。14・15は土玉である。

SI051（第81図，図版24・55）

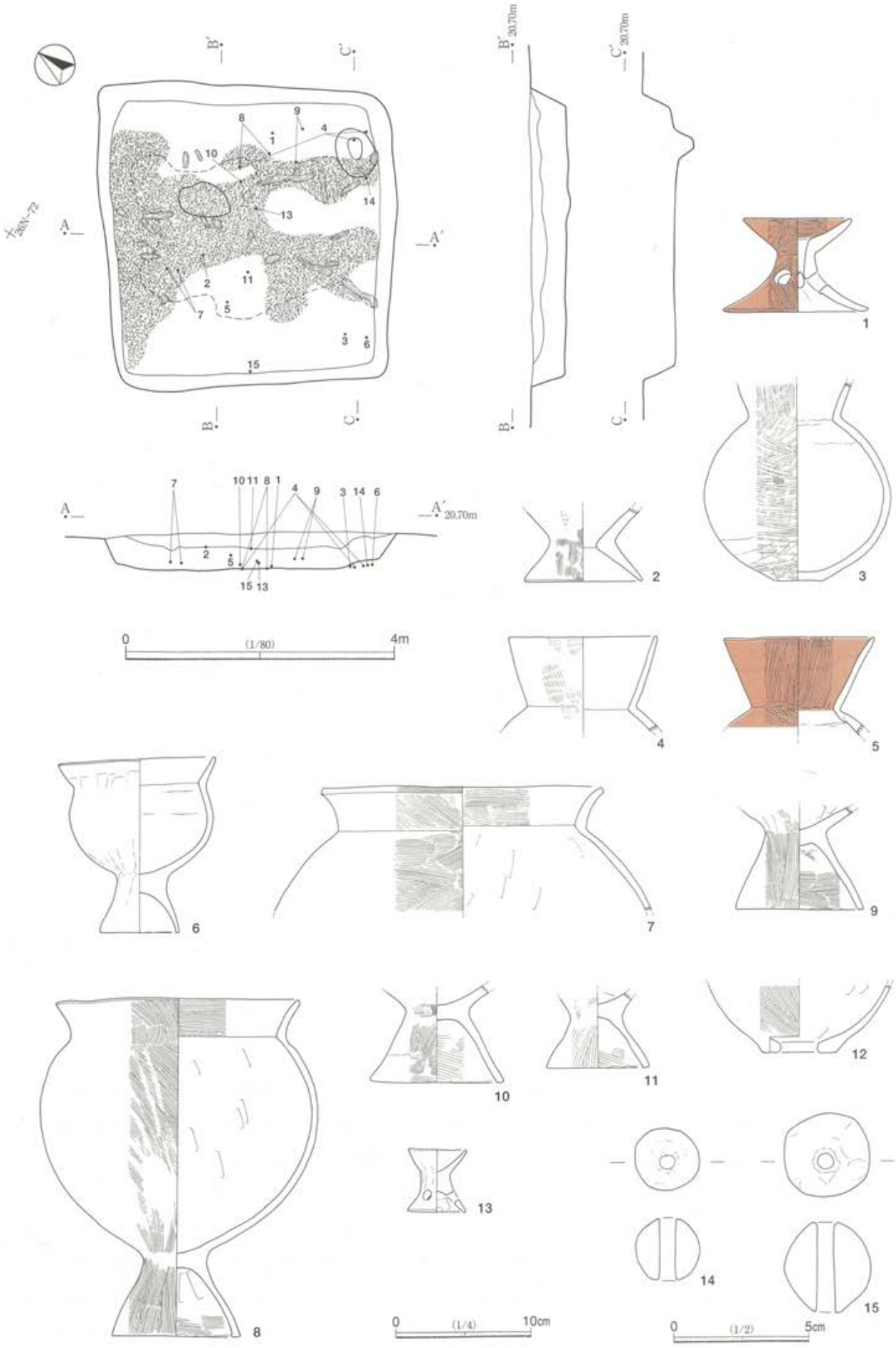
調査区北側，26N－98グリッドに位置する。規模は6.0m×4.2m，確認面からの深さ18.0cm～10.0cmを測る長方形を呈する。主軸方向はN－21.5°－Wを指し，床面積は23.1㎡を測る。床面にはやや凸凹が認められる。ピットは炉の北側に掘り込まれるが，性格不明である。炉は北壁近くにあり，長径61.0cm，短軸60.0cmの略円形を呈する。内部には焼土が堆積する。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ないが，手捏ね土器の割合が多い。

出土遺物

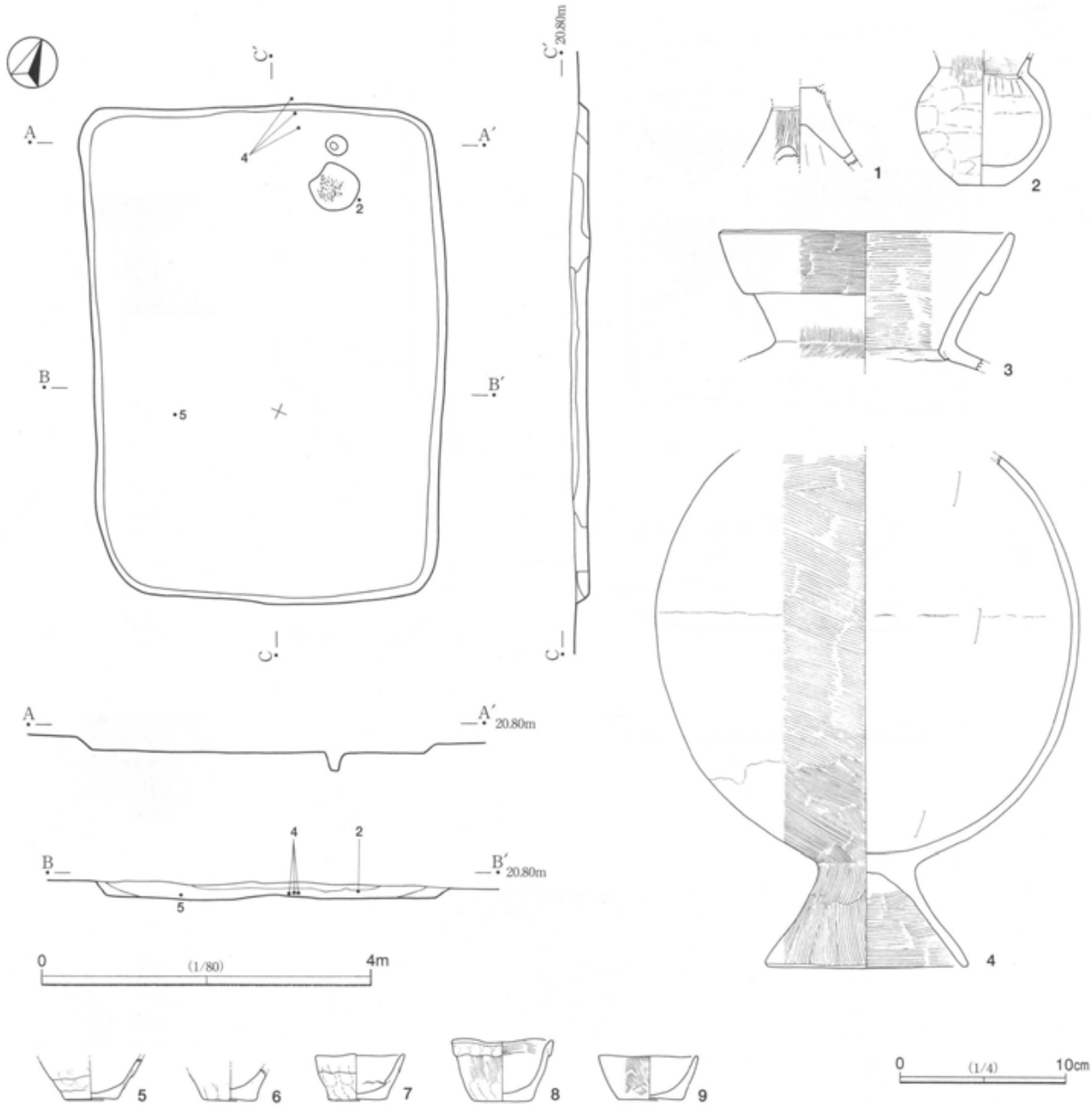
１は器台の台部片であろう。透孔は３か所と思われる。２・３は壺である。２は小形で，全体にナデ調整される。口縁部内面下には絞り目が残る。３は大形の複合口縁部である。内外面に横方向のハケ目が残る。４は口縁部を欠く台付甕である。胴部中位に最大径を有する球形胴を呈し，台部は直線的に開く。胴部内面以外にハケ目が明瞭に残る。５～９は手捏ね土器である。８は折り返し口縁，７・９は箱形を呈する。８・９の外面はハケ調整される。

SI052（第82図，図版24・56）

調査区北側，27M－07グリッドに位置する。規模は6.2m×5.5m，確認面からの深さ40.0cm～32.0cmを測り，長方形状を呈する。主軸方向はN－22.2°－Wを指し，床面積は28.4㎡を測る。壁溝は南東コーナーに部分的に検出された。柱穴間を結ぶ幅広の溝は性格不明であるが，間仕切りの可能性もあろう。柱穴はほ



第80図　SI050

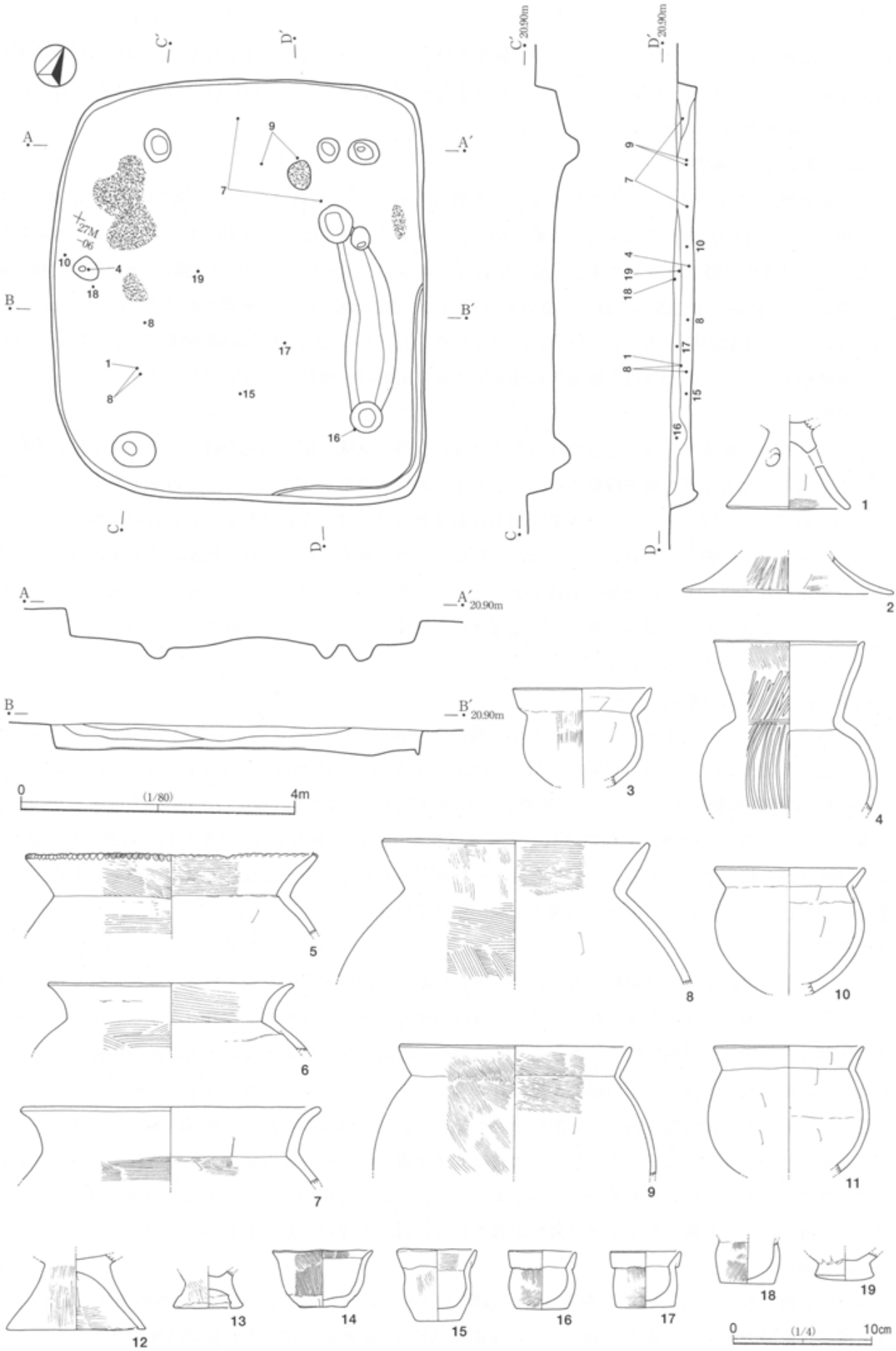


第81図　SI051

ぼ対角線上に４本配置されるが，深さ22.9cm～18.2cmと浅い。他のピットも補助柱穴と思われる。掘り込みはないものの，北側の柱穴間に位置する焼土部が炉跡であろう。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は多いが，床面からのものは少ない。SI051同様手捏ね土器が多く含まれる。

出土遺物

１は器台の台部，２は高杯の裾部である。２の透孔は３か所確認できる。３・４は壺である。３は小形の広口壺で，口縁部がやや肥厚する。４は長い口縁部を有し，口唇部が内削ぎ状となる。外面に粗いミガキがみられる５～13は甕である。５～７は口縁部片で，５の口唇部にはハケ状工具によるキザミが施される。８・９は上半部である。内外面ともにハケ目調整が施される。10・11は台部を欠く小形の台付甕であ



第82図　SI052

ろう。口縁部は短くくの字状に屈曲し，10は胴部上位に，11は中位に最大径を有する。13は小形台付甕の台部であろう。作りは若干粗雑である。14～19は手捏ね土器である。16～18はほぼ同形で，折り返し口縁となる。15も折り返し口縁であろう。

SI053（第83図，図版25・56）

調査区北側，27M－04グリッドに位置する。規模は7.5m×5.9m，確認面からの深さ62.0cm～59.0cmを測り，掘り込みの深い長方形を呈する。主軸方向はN－70.0°－Eを指し，床面積は22.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅30.0cm，深さ8.0cmで全周する。周溝の内側に，SI043と同様の幅広の溝が巡る。拡張前の壁溝の痕跡の可能性がある。柱穴は対角線上に4本配置されるが，深さ18.0cm～12.0cmと浅い。炉は東側の柱穴間に近い位置に設けられる。長径46.0cm，短径35.0cmの略長方形で，底面には焼土の堆積がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は，壁際に沿って分布している。

出土遺物

1～3は器台である。1は小さな皿状の器受け部に，外反気味に開く台部が付く。透孔は上位に3個穿たれる。内外面ともミガキ痕が観察される。2も1と同様の器形となろう。4～8は壺である。4は口縁部が長く伸びるタイプであろう。口縁部内面から胴部外面にかけて赤彩される。5は底部が僅かに突出しており，胴部中位に最大径を有する。外面は丁寧なミガキが縦方向に施され，底部に木葉痕が残る。外面に赤彩がみられる。7・8は同様の形状を呈する小形の壺である。やや上げ底となり，胴部中位に最大径を有する。9は甕である。器肉が薄く，口縁部は直立気味に開く。10は，平面形が楕円形状を呈する。内外面とも丁寧にミガキが施される。

SI054（第84・85図，図版25・56）

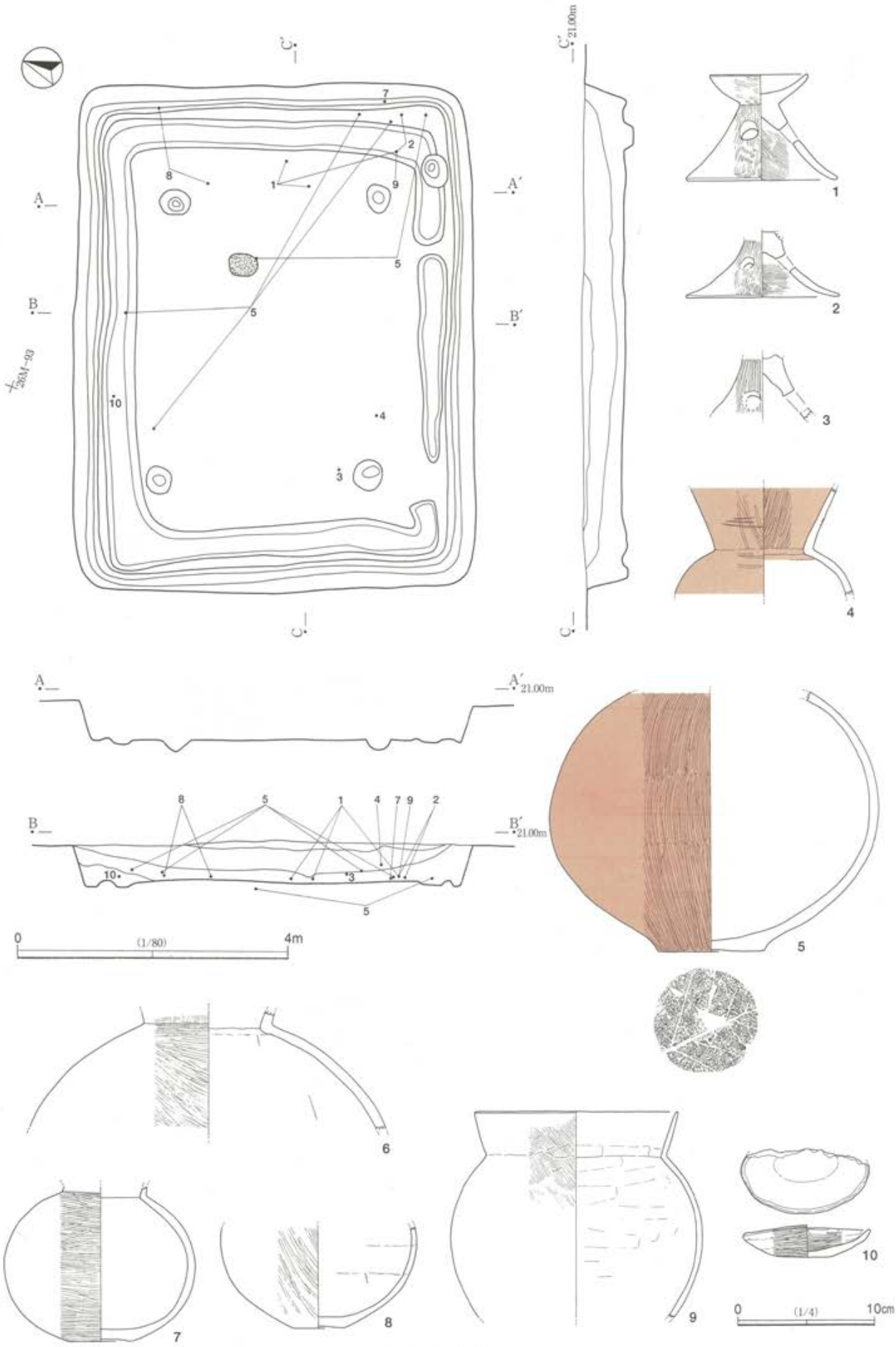
調査区北側，27N－23グリッドに位置する。規模は6.9m×5.5m，確認面からの深さ36.0cm～21.0cmを測り，横長の長方形状を呈する。主軸方向はN－88.5°－Eを指し，床面積は22.4㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に比較的堅緻である。ピットは壁際に3本検出された。深さ49.1cm～33.0cmの柱穴となろう。炉は東側に寄った位置に2基並んで検出された。東側は長軸108.0cm，短軸41.0cmの瓢箪形，西側は，長軸72.0cm，短軸42.cmの楕円形を呈する。いずれも焼土の堆積がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。出土遺物はそれほど多くないが，床面から覆土中層にかけて散在する。

出土遺物

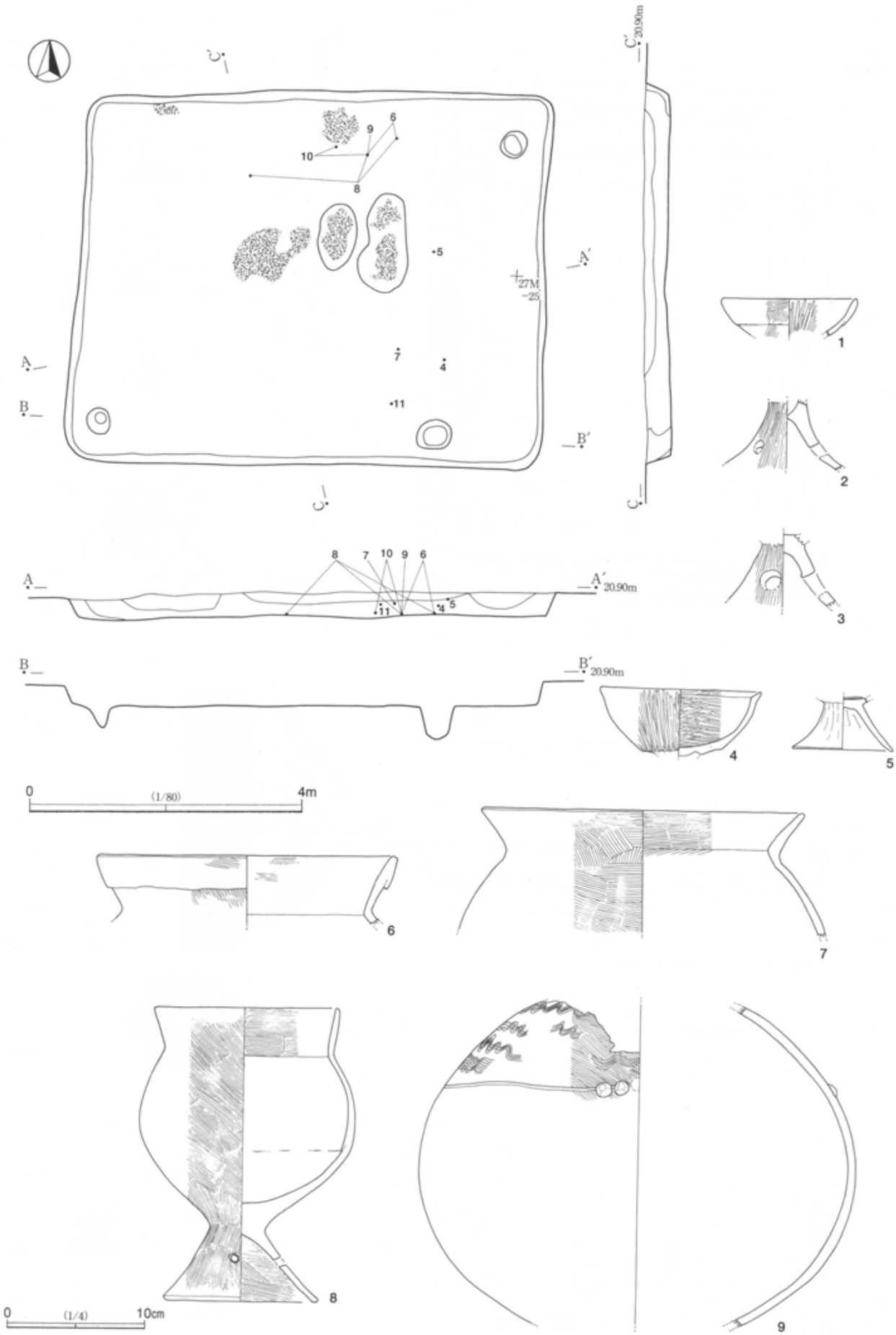
1～3は器台である。1は皿状の器受け部と思われるが，口縁部を折り返す特異な成形が施される。外面にハケ目，内面にミガキがみられる。2・3は台部片で，透孔が3か所穿たれる。4・5は高杯である。4は杯部で，口唇部が外側に短くつまみ出されるため，面取り状に平坦となる。東海系の高杯の模倣であろう。6は折り返し口縁の壺の口縁部と思われる。7・8は甕である。8は胴部中位に最大径を有し，口縁部がほぼ直立する台付甕である。台部には小さな穿孔が3か所開けられる。胴部内面以外に細かいハケ目が明瞭に残る。9・10は壺であるが，9は波状文と沈線上の3個一組の貼付文が付されており，本遺跡の中では類例がみられない。他地域の土器であろう。10は底部が僅かに突出する大形の壺である。内面にはハケ，外面にはハケ後丁寧なミガキ調整が施される。11は手捏ね土器である。

SI055（第86図）

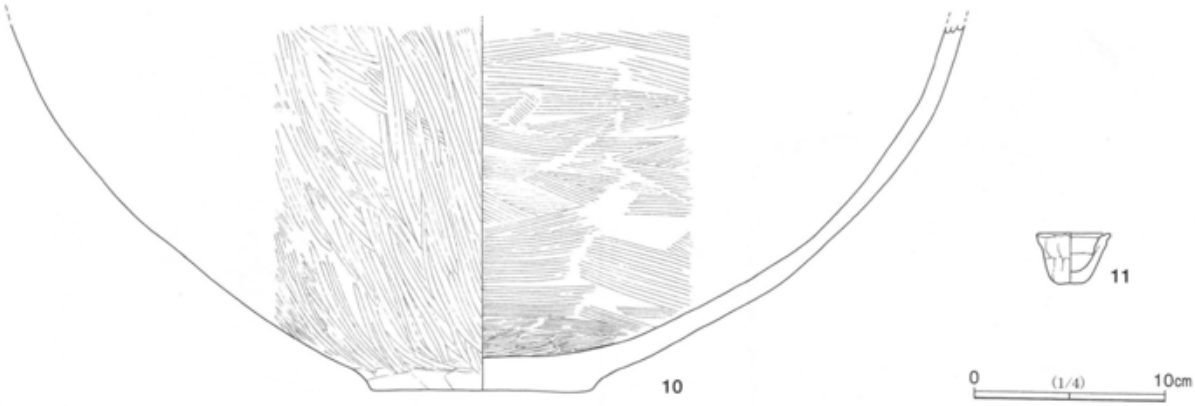
調査区北側，29P－71グリッドに位置する。規模は3.4m×3.2mと小形で，確認面からの深さ14.0cm～10.0cmを測る。主軸方向はN－50.2°－Wを指し，床面積は11.5㎡を測る。柱穴等の施設は検出されなかった。



第83図　SI053



第84図　SI054（1）



第85図　SI054（2）

遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は中空の器台片である。透孔が3か所穿たれ，外面に赤彩される。2は口縁部が長く伸びる甕である。二次的に火を受け，煤が比較的厚く付着する。

SI056（第87図，図版25・56）

調査区南側，29O－74グリッドに位置する。規模は3.1m×3.0mと小形で，確認面からの深さ18.0cm～4.0cmを測る。主軸方向はN－38.5°－Wを指し，床面積は11.2㎡を測る。床面ほぼ平坦であるが，比較的軟質である。壁溝は検出されなかった。ピットは3本確認され，柱穴に相当すると思われる。北コーナー近くに検出された焼土の堆積は，掘り込みがないものの炉跡と思われる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土量は少ない。

出土遺物

1は台付甕の下半部である。台部内面と外面全面に僅かにハケ目が認められる。2は甑である。底部に径1.3cm程度の穿孔が穿たれる。口縁部が貼り付けで成形されているのが観察される。作りが粗雑である。

SI058（第88図，図版26）

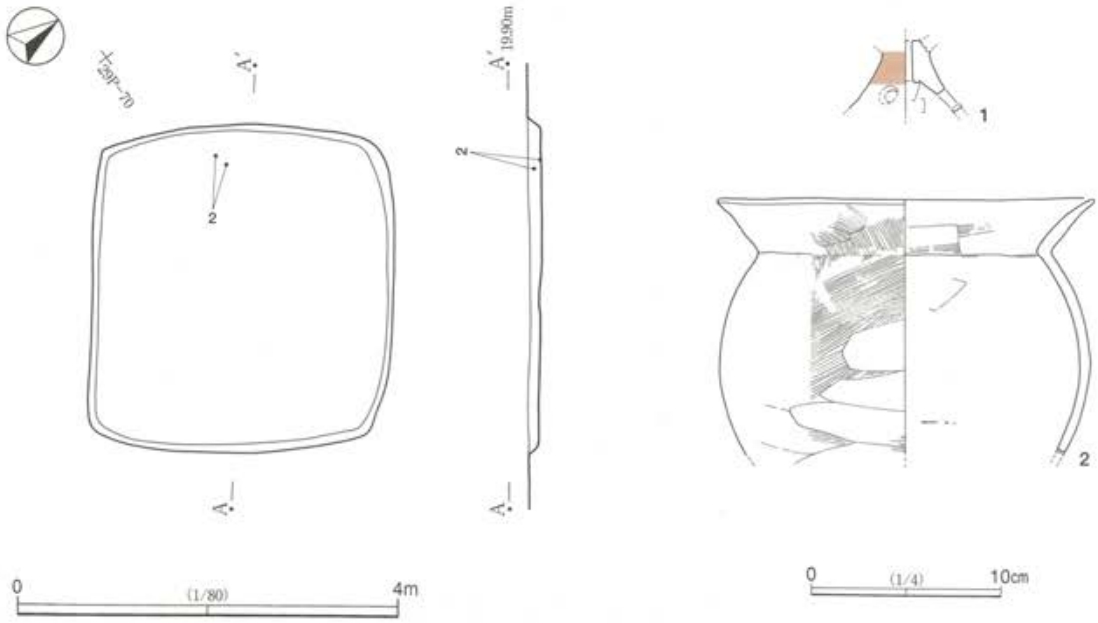
調査区北側，27N－00グリッドに位置する。規模は4.3m×3.6m，確認面からの深さ30.0cm～12.0cmを測り，横長の長方形を呈する。主軸方向はN－59.5°－Eを指し，床面積14.5㎡を測る。床面は平坦であるが，硬化面は確認できない。柱穴は壁際に4本確認されたが，深さ22.3cm～6.0cmと浅い。北東側に検出された焼土が炉の痕跡かもしれない。炭化材も部分的に遺存する。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は器台の台部片で，外反気味に大きく開く。2は口縁部が内湾気味に立ち上がる壺である。ミガキ調整が施される。3は甕の口縁部である。

SI059（第89図，図版26・56）

調査区中央，28O－82グリッドに位置する。規模は5.0m×4.7m，確認面からの深さ38.9cm～18.0cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－58.0°－Eを指し，床面積は12.5㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。壁溝は，幅10.0cm，深さ6.9cmで北壁を除いて巡る。柱穴はほぼ対角線上に4本検出されたが全体に浅い。炉は北側に寄った位置に掘り込まれる。長径94.0cm，短径74.0cmの楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は北東柱穴付近に集中し，床面直上からの出土である。



第86図　SI055

出土遺物

1～3は甕である。1は作りがやや粗雑で，胴部は下膨れの形状である。口縁部は小さくくの字に強く屈曲する。2は球形胴で，口縁部は長く伸びる。口縁部内面から胴部外面にハケ調整が施される。3はS字口縁の口縁部片である。胴部外面にハケ目が確認できる。

SI060（第90図，図版26・56）

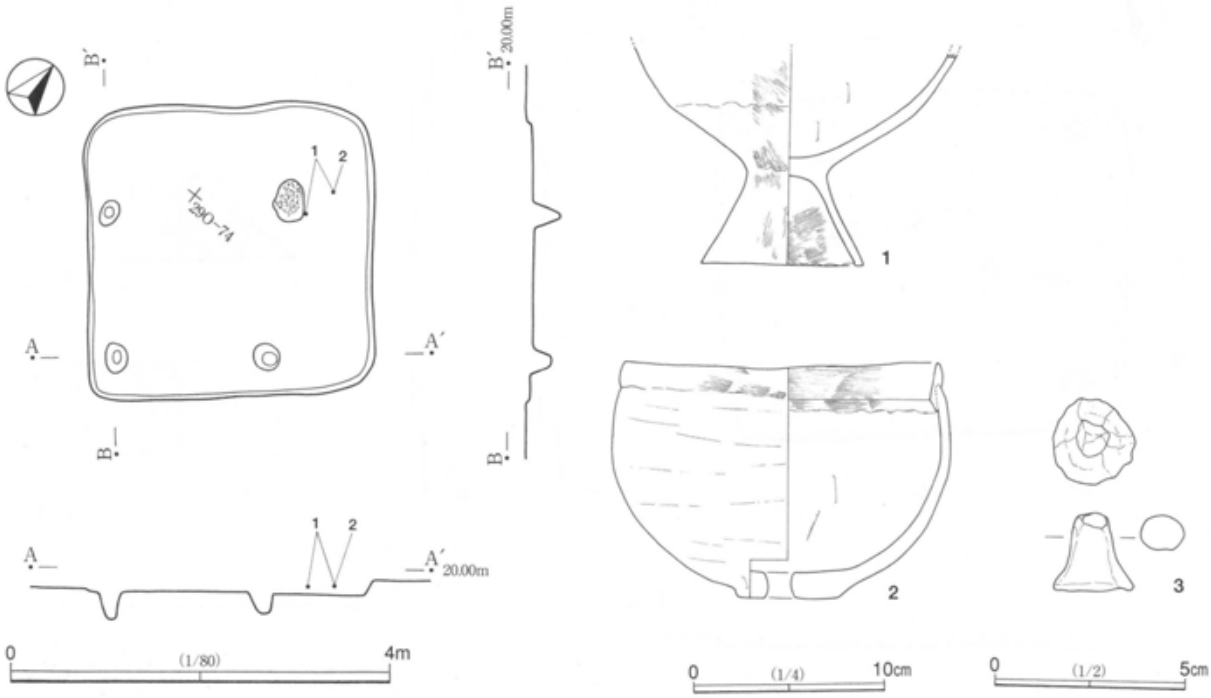
調査区北端，26H－75グリッドに位置する。規模は4.8m×4.9m，確認面からの深さ42.5cm～29.8cmを測る。主軸方向はN－27.0°－Wを指し，床面積は12.8㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，比較的軟質である。ピットは2本検出され，南コーナーのピットは貯蔵穴であると思われる。長軸102.0cm，短軸83.0cm，深さ7.2cmを測る。炉は東側に掘り込まれ，長径102.0cm，短径74.0cmの瓢箪形に近い形状である。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は器台の台部，2は高杯の脚部である。1は直線的に開き，内外面丁寧なミガキが施される。透孔は中位に4か所である。2は裾部が大きく広がるタイプで，透孔は3か所上位に穿たれる。内面ハケ，外面ミガキ調整され，外面に赤彩が加えられる。3は折り返し口縁の壺である。内外面ともハケ目が確認できる。4は台付甕の台部で，内湾気味に開く。

SI062（第91図，図版27）

調査区中央，28N－76グリッドに位置する。南東コーナーでSI069を切る。規模は3.9m×3.9m，確認面からの深さ68.4cm～51.6cmを測り，掘り込みの深い小形の正方形を呈する。主軸方向はN－25.0°－Wを指し，床面積は6.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が床面全体に広がる。壁溝は，幅15.0cm，深さ7.8cmでほぼ全周する。ピットは3本検出されたが，柱穴と判断できるものはない。南東コーナーのピットは，土手状の高まりに囲まれた貯蔵穴と思われる。炉は北東コーナーに近い位置に設けられる。長径67.0cm，短径55.0cmの略円形を呈し，底面に被熱による赤化がみられる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物の



第87図　SI056

出土は少なく，覆土中層が主体である。

出土遺物

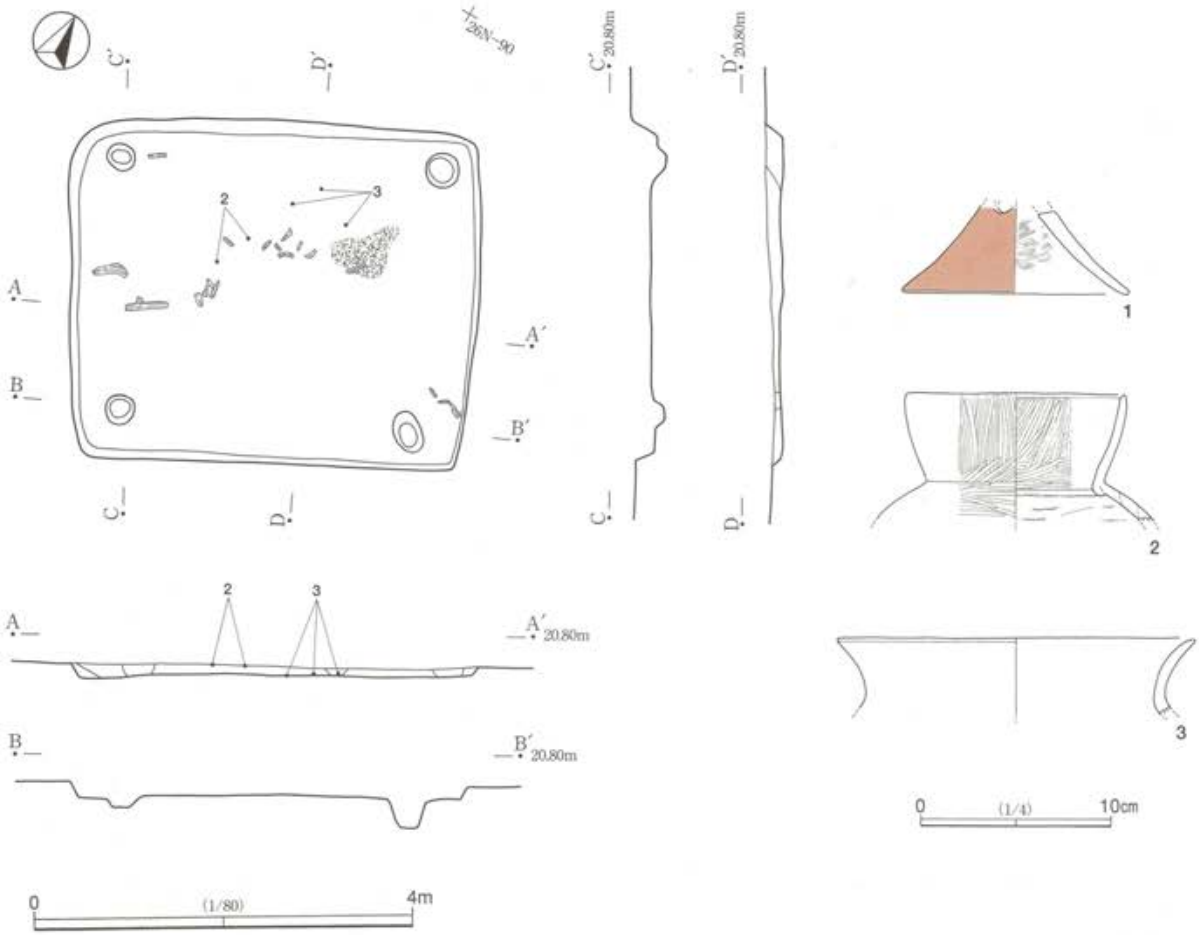
1・2は器台である。1は直線的に開き，透孔が上位に3か所穿たれる。内面ハケ，外面ミガキが認められる。3・4は甕である。3の口縁部は小さくくの字状に屈曲し，外面ハケ後粗いミガキが施される。4は台付甕の台部で，やや中膨らみとなる。

SI063（第92図，図版27・57）

調査区北側，27M－38グリッドに位置する。北東コーナーをSI045に切られる。規模は3.7m×3.6m，確認面からの深さ48.6cm～31.7cmを測る。主軸方向はN－11.0°－Eを指し，床面積は約6.1㎡と小形である。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。検出されたピットは貯蔵穴であろう。長軸70.cm，短軸62.0cm，深さ29.1cmを測る。炉は北東方向に偏って位置し，底面に被熱による赤化がみられる。部分的に焼土や炭化材が遺存しており，焼失住居の可能性もある。遺物は床面全体に散在している。

出土遺物

1～3は脚部に比して杯部が大きい高杯である。杯部は直線的に開き，内外面とも丁寧なミガキが施される。透孔は，1・3は上位に3か所，2は上位に2か所，中位に4か所の合計6か所穿たれる。2の脚部内面以外に赤彩される。4・5は壺である。4は折り返しの口縁部，5は下膨らみの胴部から底部である。5の外面に赤彩が認められる。6～8は甕である。6は胴部上位に最大径があり，口縁部は折り返される。口縁部外面には整形時の指頭痕が残る。8は胴部中位に最大径を有する台付甕である。内外面ともハケ調整される。9は鉢状の甑である。底部に径9㎜ほどの孔が5か所穿たれ，内外面ともハケ目調整が丁寧に施される。



第88図　SI058

SI065（第93図，図版28・57）

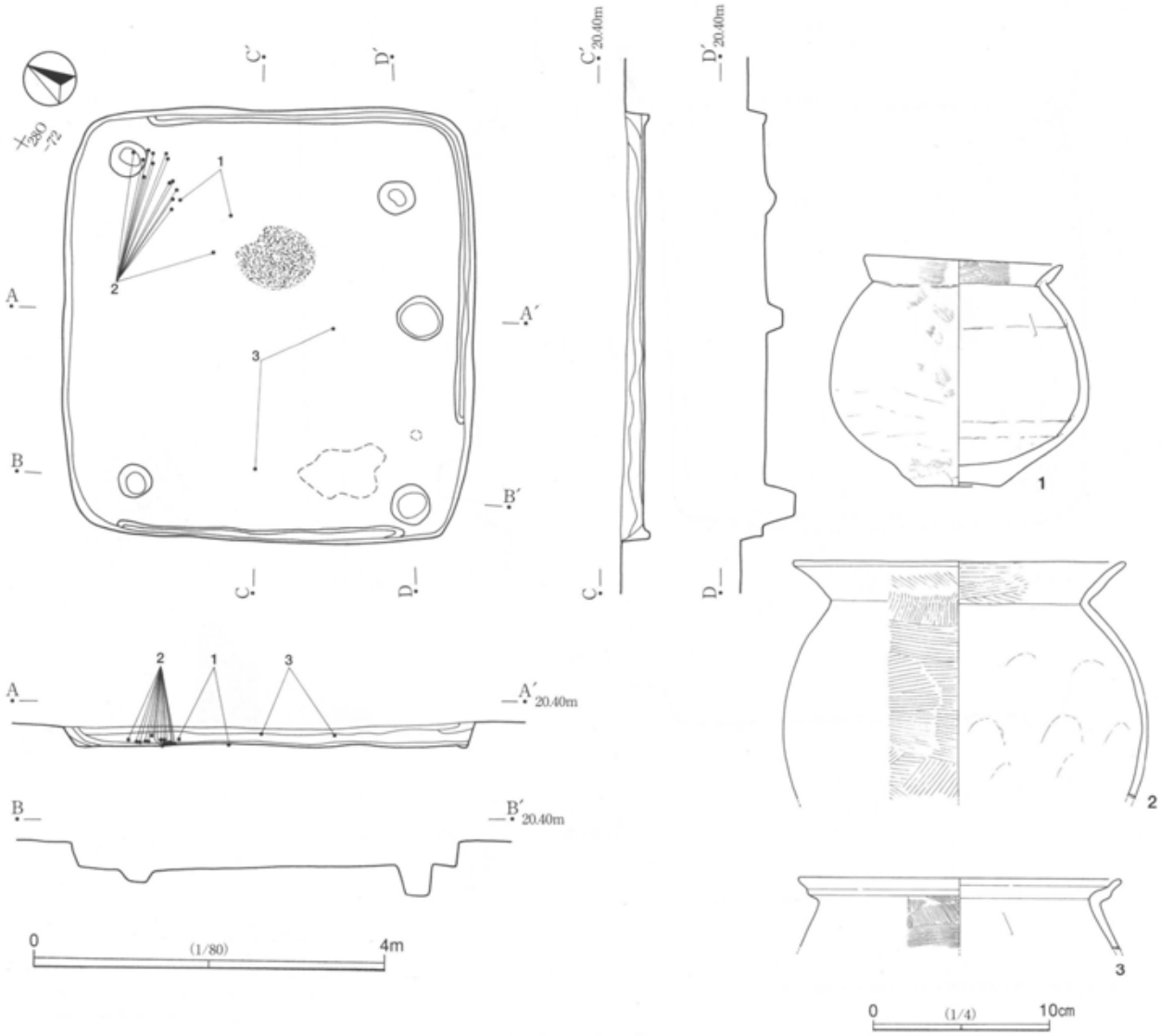
調査区中央，28N－56グリッドに位置する。規模は3.5m×3.5mと小形で，確認面からの深さ56.5cm～49.2cmを測る。主軸方向はN－28.0°－Wを指し，床面積約6.0㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が西側を中心に広がっている。壁溝は，幅12.0cm，深さ5.3cmで南コーナーの一部を除いて巡る。ピットは南側に3本検出したが，南コーナーのピットが貯蔵穴となる可能性がある以外は不明である。炉は，北西コーナー近くに位置し，長径68.0cm，短径65.0cmの円形を呈する。底面には赤化がみられる。遺物は覆土中が多い。

出土遺物

1は装飾器台である。体部下端に明瞭に突出した稜を有し，逆台形状の透孔が穿たれる。2か所現存するが，おそらく4孔と思われる。内外面丁寧なミガキが施され，土器の形状から北陸系の装飾器台となろう。2は内外面赤彩の大形の杯部を有する高杯である。杯部は直線的に立ち上がり，内外面縦方向のミガキが丁寧に施される。脚部には3か所の透孔がみられる。3・4は壺である。3は口縁部のみで，若干内湾しながら立ち上がる。外面にハケ目が僅かに残る。4は底部が突出し，胴部中位に最大径を持つ。5～7は甕である。5はやや受け口状となり，口唇部に平坦面が形成される。

SI066（第94図，図版28・57）

調査区中央，28N－48グリッドに位置する。規模は3.6m×3.5m，確認面からの深さ61.4cm～64.0cmを測り，掘り込みが深い。主軸方向はN－21.0°－Wを指し，床面積は約6.1㎡と小形である。床面はほぼ平坦で，硬化面が中央部に広がっている。壁溝は，幅10.0cm，深さ4.4cmで部分的に検出された。1か所確認された



第89図　SI059

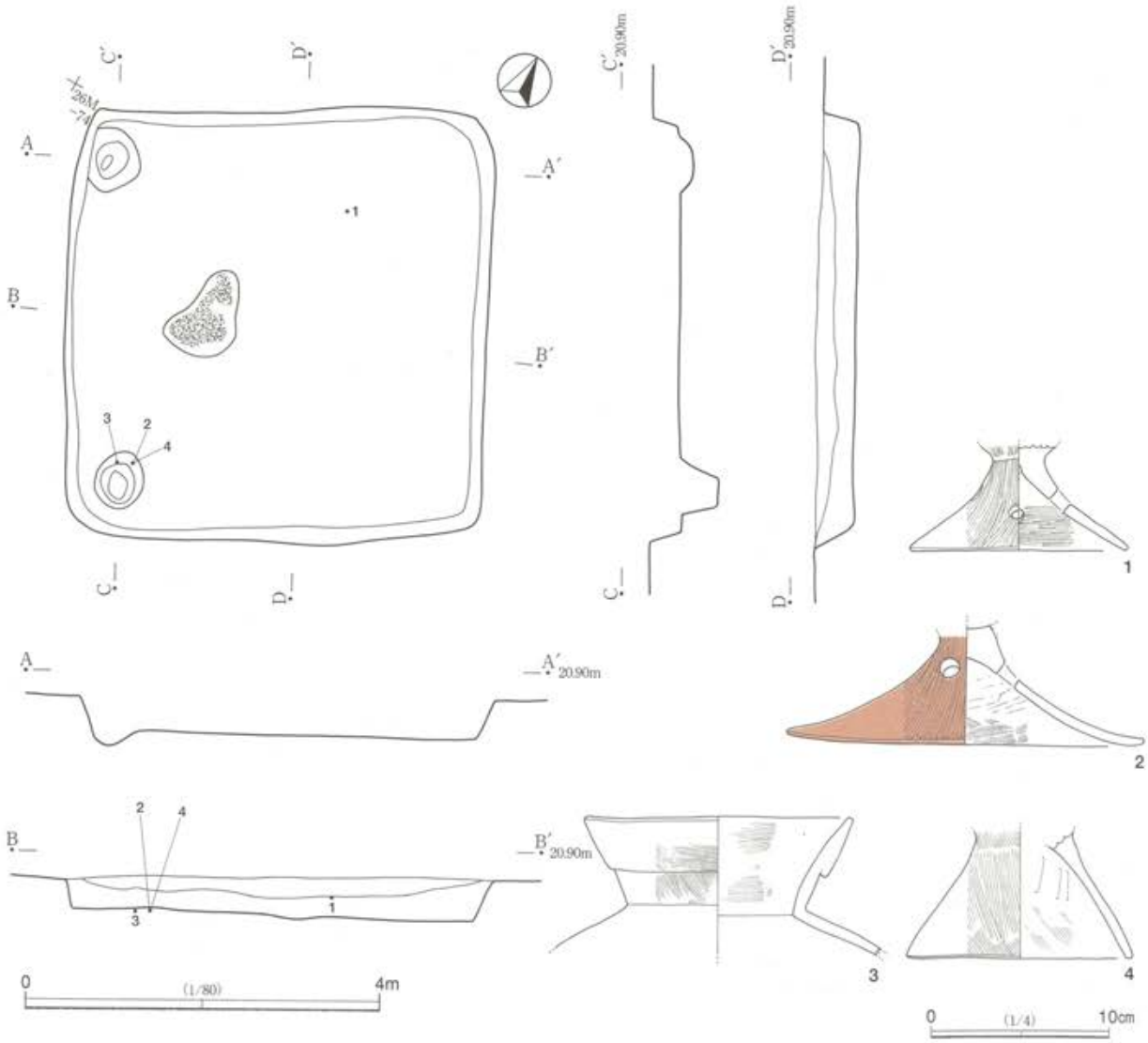
ピットは性格不明である。炉は北東コーナー近くに位置する。長径80.0cm，短径48.0cmの略楕円形を呈する。焼土・炭化材が遺存から，焼失住居になると思われる。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1・2は胴部下位及び中位に最大径を有する壺である。粗いミガキが観察される。3は大形台付甕の台部である。内外面にハケ目が認められる。4は手捏ね土器で，外面に赤彩が施される。

SI067（第95図，図版28・57・58）

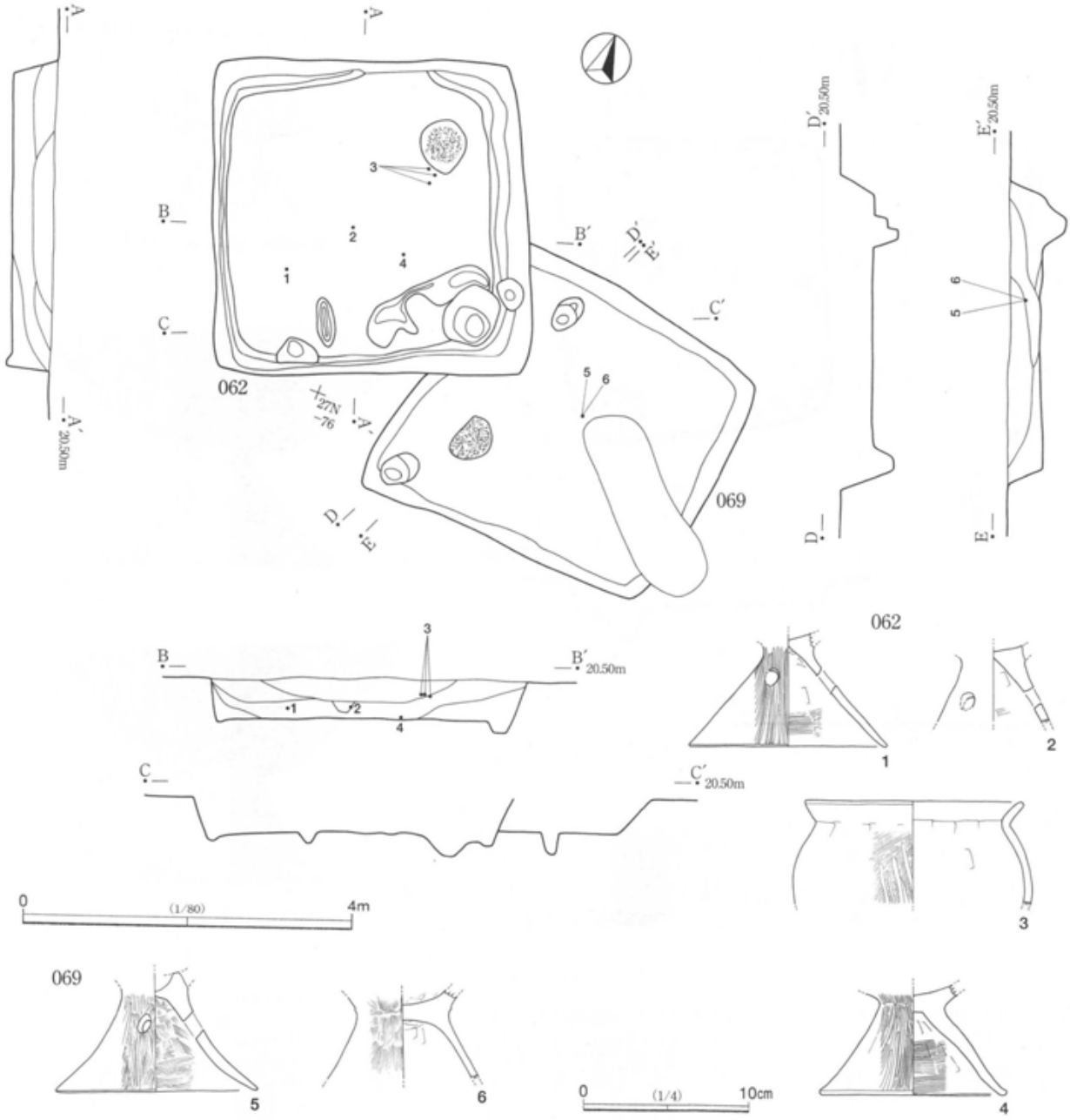
調査区中央，28N－28グリッドに位置する。規模は3.0m×2.9mと小形で，確認面からの深さ46.5cm～41.5cmを測る。主軸方向はN－15.0°－Wを指し，床面積は約4.4㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に比較的堅緻である。ピットは3本検出されており，東壁際の2本は浅い柱穴，南西コーナーのピットは貯蔵穴と思われる。長軸43cm，短軸28cm，深さ12cmを測る。炉は確認されなかった。覆土は自然堆積の様相を示す。検出された遺物は多く，床面から覆土中層にかけての出土である。



第90図　SI060

出土遺物

1・2は内外面赤彩される鉢である。1は小さな上げ底の底部を有し，口縁部が若干外反する。2は口縁部が明瞭に開く。いずれもミガキ調整が主体となる。3～8は器台である。3は皿状の器受け部で，口縁部が直線的に開く。台部上位に3か所の透孔が穿たれる。4は器受け部の形状が特徴的で，口縁部がほぼ垂直に立ちあがる。透孔は3か所である。いずれも丁寧なミガキが施される。5は上下3か所ずつ，合計6か所の透孔が穿たれる。8は調整に特徴があり，外面はミガキではなくヘラケズリ，内面はヘラナデ調整が施される。高杯の脚部かもしれない。9は高杯の杯部で，口縁部はほぼ直線的に立ち上がり，脚部との接合部分にはホゾが残る。内外面縦方向の丁寧なミガキが施される。10は複合口縁の壺である。内面ハケ後ミガキ，外面ハケ後ヘラナデされる。11～13は小形の甕である。11はやや受け口状の口縁部を呈し，外面に粗いミガキが加えられる。12は口縁部に最大径を有し，底部がやや突出する。外面に粗いハケ目がみられる。13の胴部外面には比較的丁寧なミガキが観察される。14は器肉が薄く，底部が上げ底となる。胴部上位に最大径を有し，口縁部は小さく折り返される。15は大形の甕で，口唇部に棒状工具によるキザミが巡る。17～19は直線的に開く台付甕の台部である。17の内面には粘土の充填が明瞭にみられる。



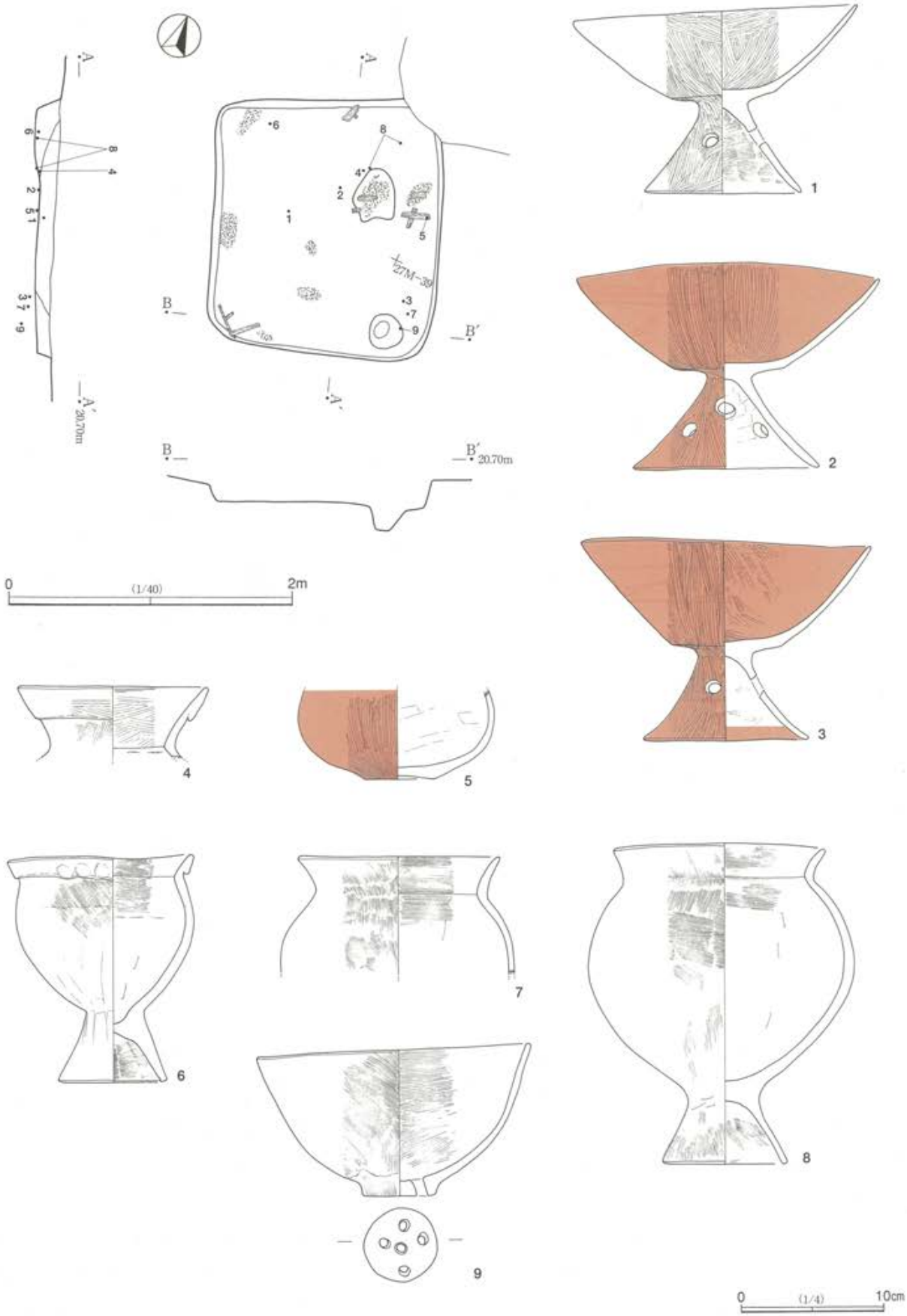
第91図　SI062・069

SI068（第96図，図版29・58）

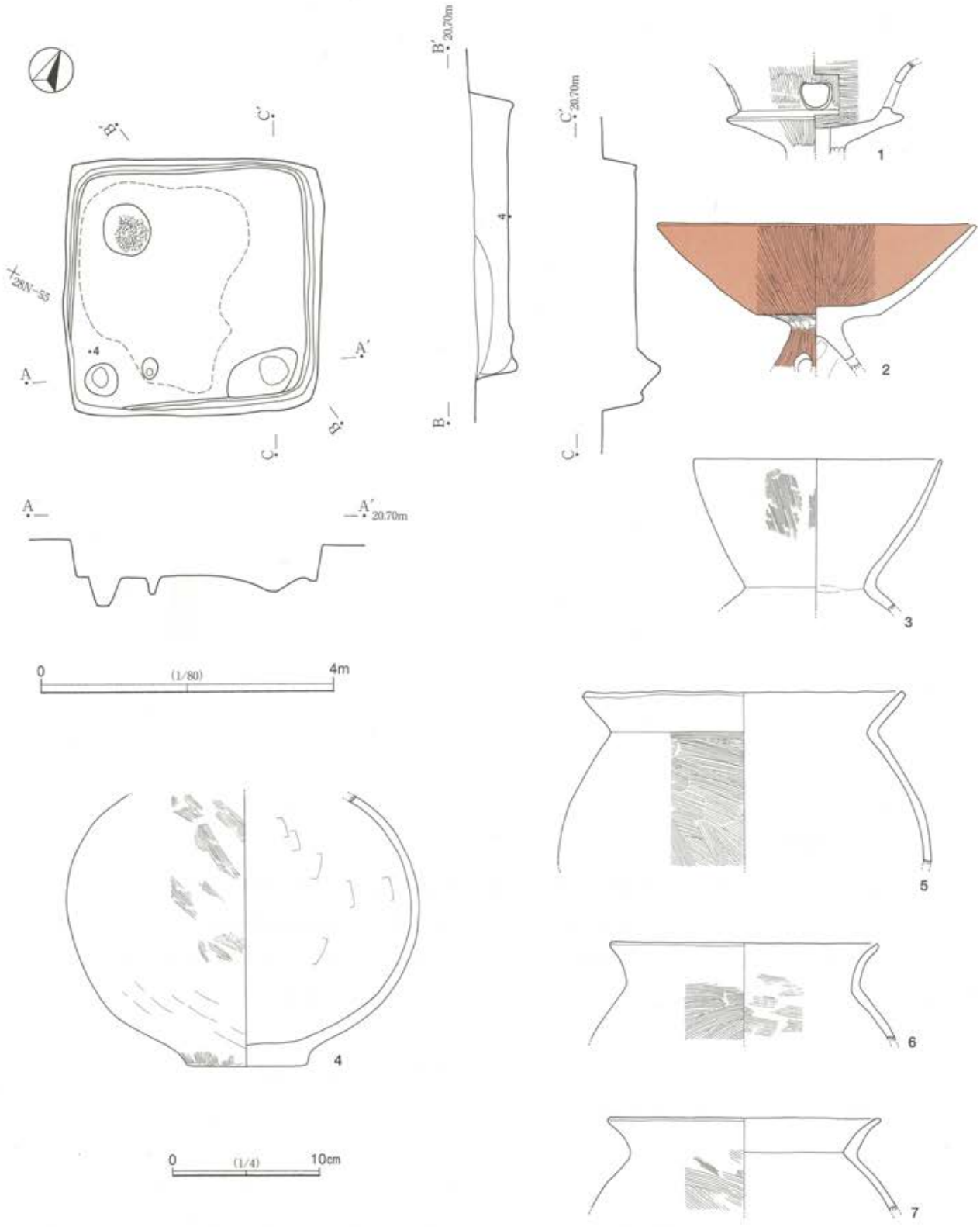
調査区東側，29P－11グリッド付近に位置する。規模は4.4m×4.2m，確認面からの深さ13.3cm～5.7cmを測る。主軸方向はN－25.0°－Wを指し，床面積は10.5㎡を測る。内部施設は炉のみ検出された。長径71.0cm，短径68.0cmの楕円形で，深さ16.6cmを測る。底面には被熱による赤化が顕著である。

出土遺物

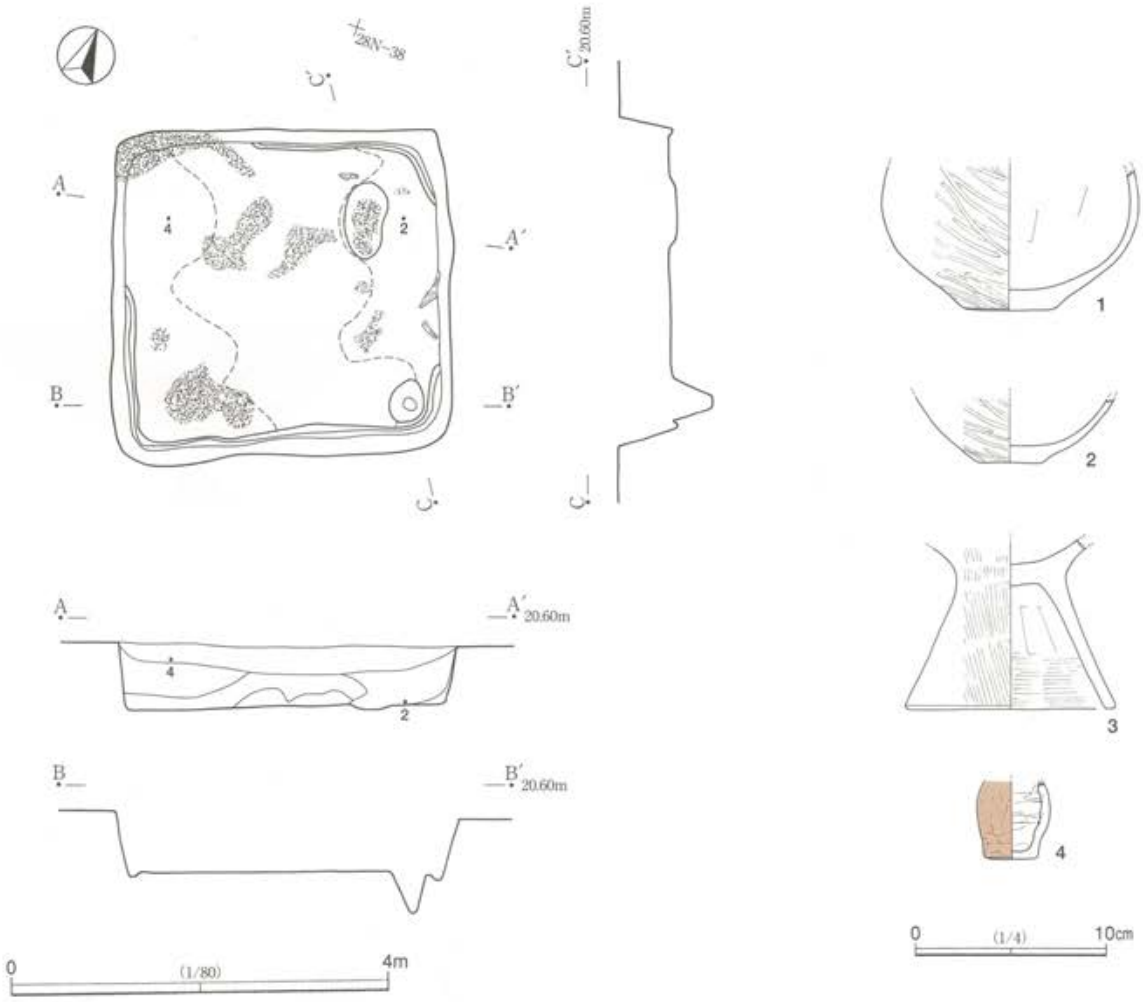
1は器台である。皿状の小さな器受け部に，外反する脚部が付く。台部上位に3か所透孔が穿たれ，器受け部内面はミガキ，外面はヘラナデ調整される。2大形の壺であろう。3は台付甕である。胴部上位に最大径を有し，台部が内湾気味に開く。全体にハケ調整されるが，胴部外面にはヘラケズリが部分的に加えられる。4は甕，5は広口坪であろうか。5の外面には，丁寧に縦方向のミガキがみられる。



第92図　SI063



第93図　SI065



第94図　SI066

SI069（第91図，図版29・58）

調査区中央，28N－77グリッドに位置し，西コーナーをSI062に切られる。規模は3.7m×3.6m，確認面からの深さ48.6cm～31.7cmを測る。主軸方向はN－11.0°－Eを指し，床面積は約6.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，比較的堅緻である。ピットは2本検出されており，柱穴となろう。焼土が南西部に確認されており，掘り込みはないものの炉であろう。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

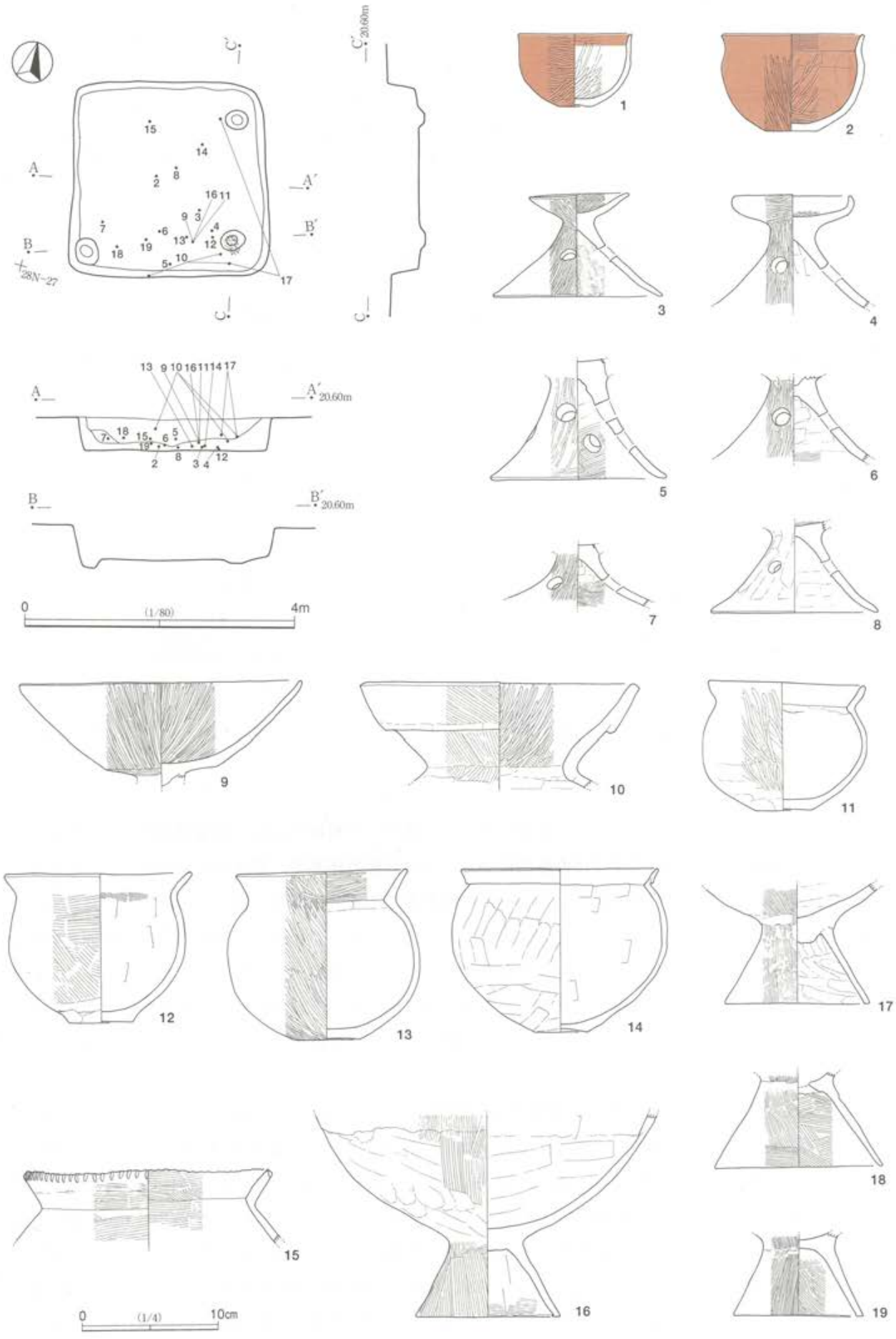
5は器台の台部で，上位に透孔が3か所認められる。内外面にハケ調整が施される。6は台付甕の台部である。直線的にハの字状に開くと思われる。

SI071（第97図，図版29・30・58）

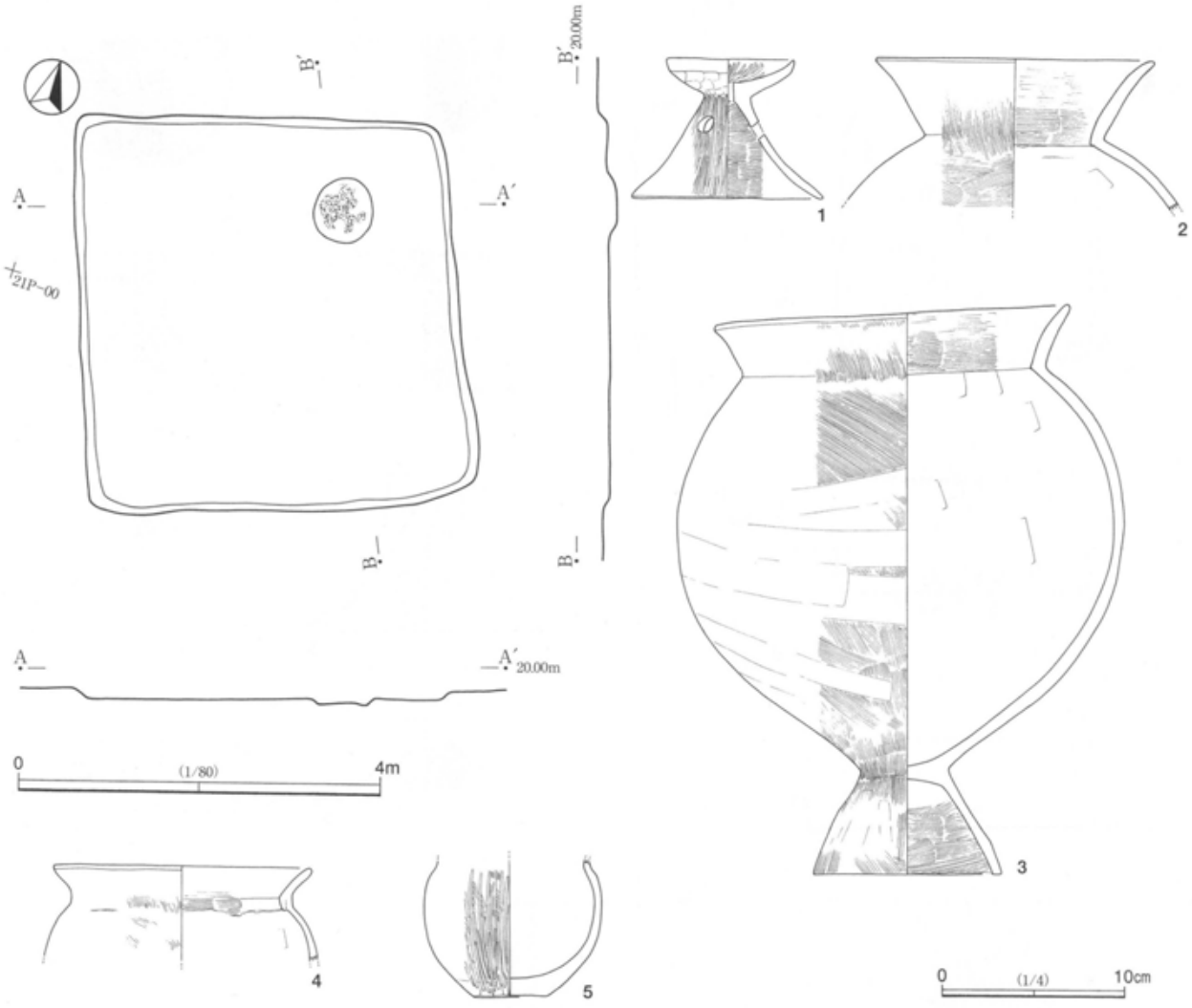
調査区最北端，26M－59グリッド付近に位置する。規模は5.7m×4.8m，確認面からの深さ26.5cm～11.9cmを測り，長方形状を呈する。主軸方向はN－60.0°－Eを指し，床面積は約14.6㎡を測る。床面はほぼ平坦である。内部施設は炉のみの検出である。北コーナー側に設けられ，長径72.0cm，短径42.0cmの略楕円形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は炉の周辺に集中し，床面直上の出土状況である。

出土遺物

1・2は器台である。1は中空で，器受け部は浅い皿状を呈し，台部中位に3か所の透孔が穿たれる。



第95図　SI067

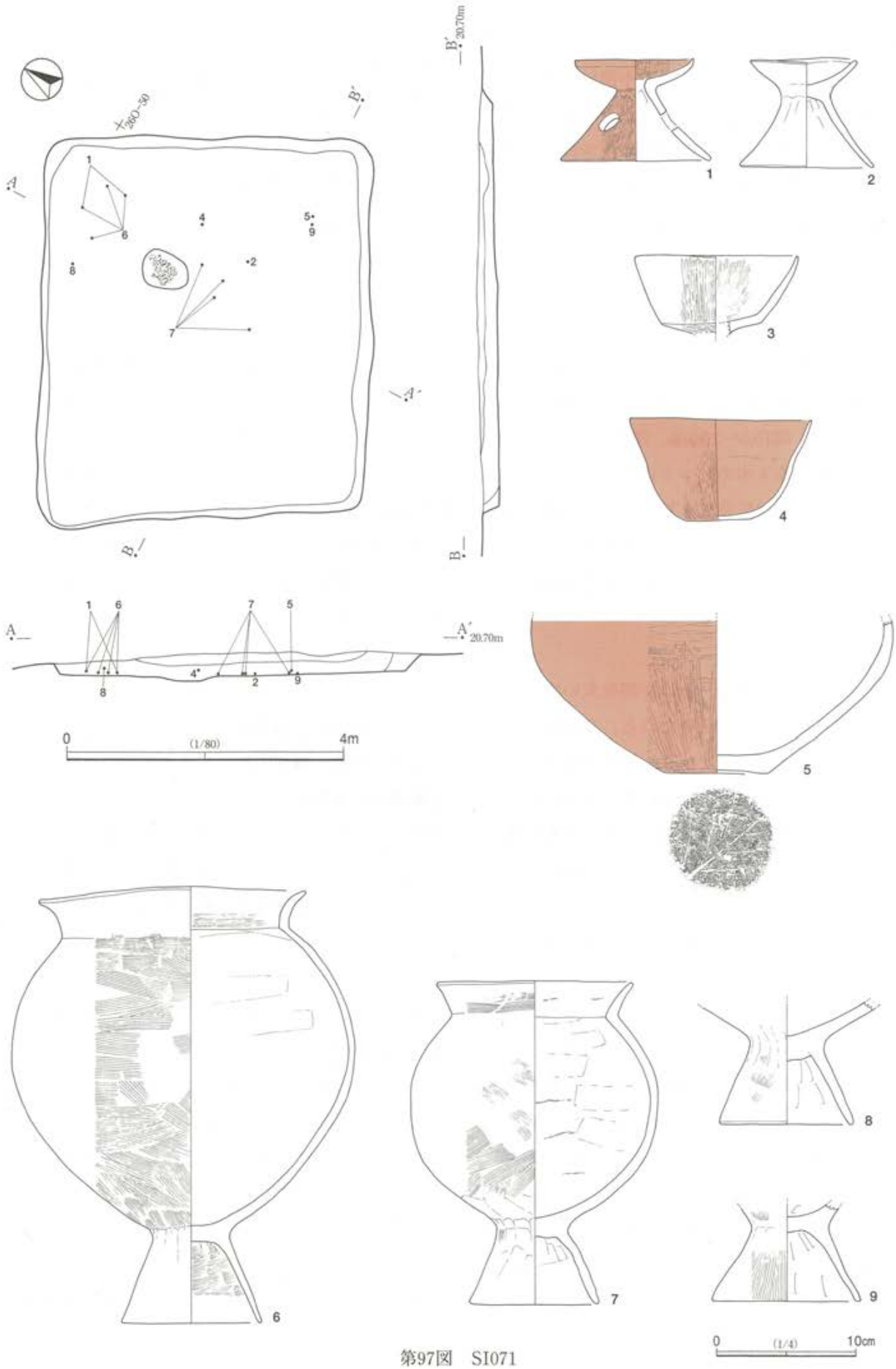


第96図　SI068

台部は外反気味に開く。台部内面以外に赤彩される。2は作りが粗雑である。器受け部の口唇部内面にヨコナデの際の稜線が残る。台部はほぼ直線的に開く。3は高杯の杯部で，器高の深い箱形に近い形状を呈する。外面に丁寧なミガキが施される。4は広口の小形壺である。口縁部は僅かに内湾しながら外傾する。調整は不明であるが，内外面赤彩される。5は壺の下半部である。ハケ後ミガキ調整され，外面赤彩が認められる。底部には木葉痕が残る。6～9は台付甕である。6は胴部上位に最大径を有し，7は中位に最大径のある球形胴となる。台部は6が直線的，7が内湾気味である。いずれも，ハケ調整後ナデが加えられる。8・9は台部のみの遺存で，2点とも台部内面にヘラの当り痕が目立つ。

SI073（第98図，図版30・58）

調査区東側，27P－75グリッド付近に位置する。規模は6.2m×5.5m，確認面からの深さ63.8cm～53.0cmを測り，横長の長方形状を呈する。主軸方向はN－28.0°－Wを指し，床面積は約15.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅16.0cm，深さ6.9cmで全周し，南壁の中央に間仕切りと思われる溝が掘り込まれている。柱穴は対角線上に4本検出され，径は小さいものの，深さ72.4cm～57.6cmと深い。南東コーナー近くに位置するピットは貯蔵穴と思われる。長軸60.0cm，短軸50.0cm，深さ53.8を測る。炉は北側の柱穴間に位置し，長径53.0cm，短径42.0cmを測る。覆土は自然堆積の様相を呈する。壁際を中心に焼土や炭化材が遺存しており，焼失住居と思われる。遺物は，貯蔵穴内及び壁際の床面から出土している。



第97図　SI071

出土遺物

1・2は器台である。1はやや深い皿状の器受け部で，内外面丁寧なミガキが施される。台部上位には4か所の透孔がみられる。裾部がやや外反する。2は1と同様の台部である。3～6は壺である。3は作りが丁寧で，細かいミガキ調整が施される。球形胴で，小さな上げ底の底部を持ち，口縁部は直立気味となる。4も丁寧な作りである。球形胴で，上げ底の小さな底部を持ち，口縁部は長く直線的に伸びる。内外面ともにハケ後ミガキが施される。5は大形壺の下半部で，底部が突出する。被熱のため器面は荒れているが，外面にハケ後ミガキの調整痕が認められる。6は，折り返し口縁に穿孔を施した棒状浮文が貼り付けられる。破片のため単位は不明である。

SI074（第99図，図版30・31・58・59）

調査区中央付近，27O－77グリッド付近に位置する。規模は5.7m×5.4m，確認面からの深さ53.9cm～45.0cmを測る。主軸方向はN－20.0°－Wを指し，床面積は14.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅10.0～25.0cm，深さ8.0cm前後で全周する。ピットは9か所検出された。中央に寄って対角線上に位置する4本のピットは，規模も小さく，深さ23.8cm～15.9cmと浅いが，柱穴となろう。南西コーナーにあるピットは貯蔵穴と思われる。長軸60.0cm，短軸50.0cm，深さ41.0cmの長方形を呈する。この貯蔵穴を囲むように，南壁と西壁から間仕切りと思われる溝が掘り込まれている。炉は北側の中央間やや西側に寄って設けられる。長径84.0cm，短径53.0cm，深さ6.5cmを測る。遺物は床面全体に散在するが，壁際が主体である。

出土遺物

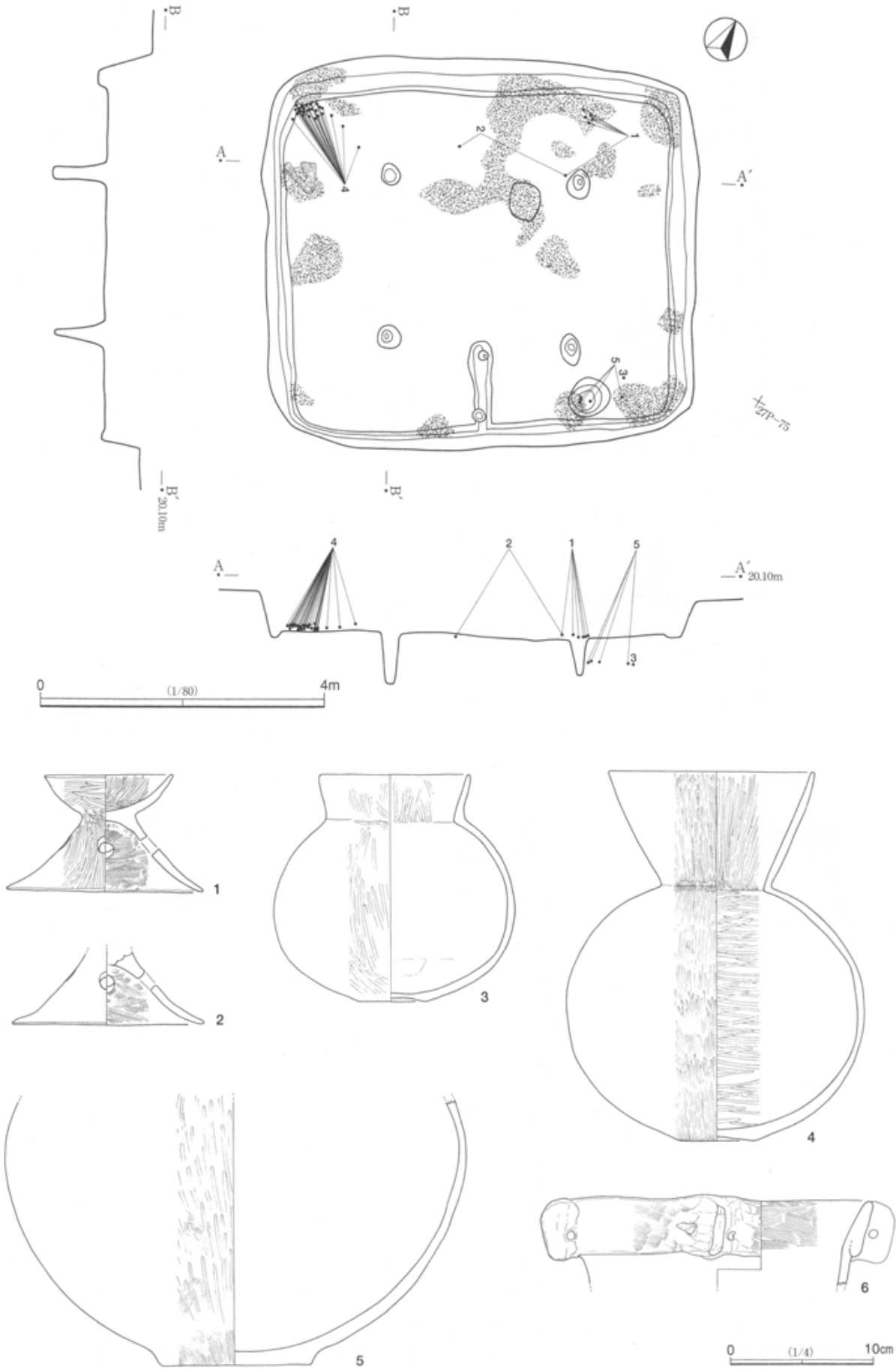
1～3は高杯である。1は杯部を欠いており，脚部が直線的に開くことから，器台となる可能性もある。台部中位に透孔が3か所穿たれる。2は裾部が大きく外反し，裾端部に最大径を有するタイプである。杯部は内湾しながら立ち上がり，透孔が脚部上位に3か所認められる。脚部内面はハケ目が明確に残り，以外は丁寧なミガキ調整が施される。3は杯部で，小さな脚部に大きな杯部が付くタイプであろう。脚部上位に透孔の上端が確認される。全体に丁寧な横または斜位のミガキが施される。4は特異な器形で，広口の小形坩となろうか。口縁下の内面が肥厚し，平底状となる。内外面丁寧なミガキである。5は瓢形の壺で，底部が大きく突出する。口縁部内外面にハケ調整が施され，後に胴部外面に縦方向のミガキが加えられる。7は径1.2cmの穿孔が穿たれる甑である。

SI075（第100図，図版31・59）

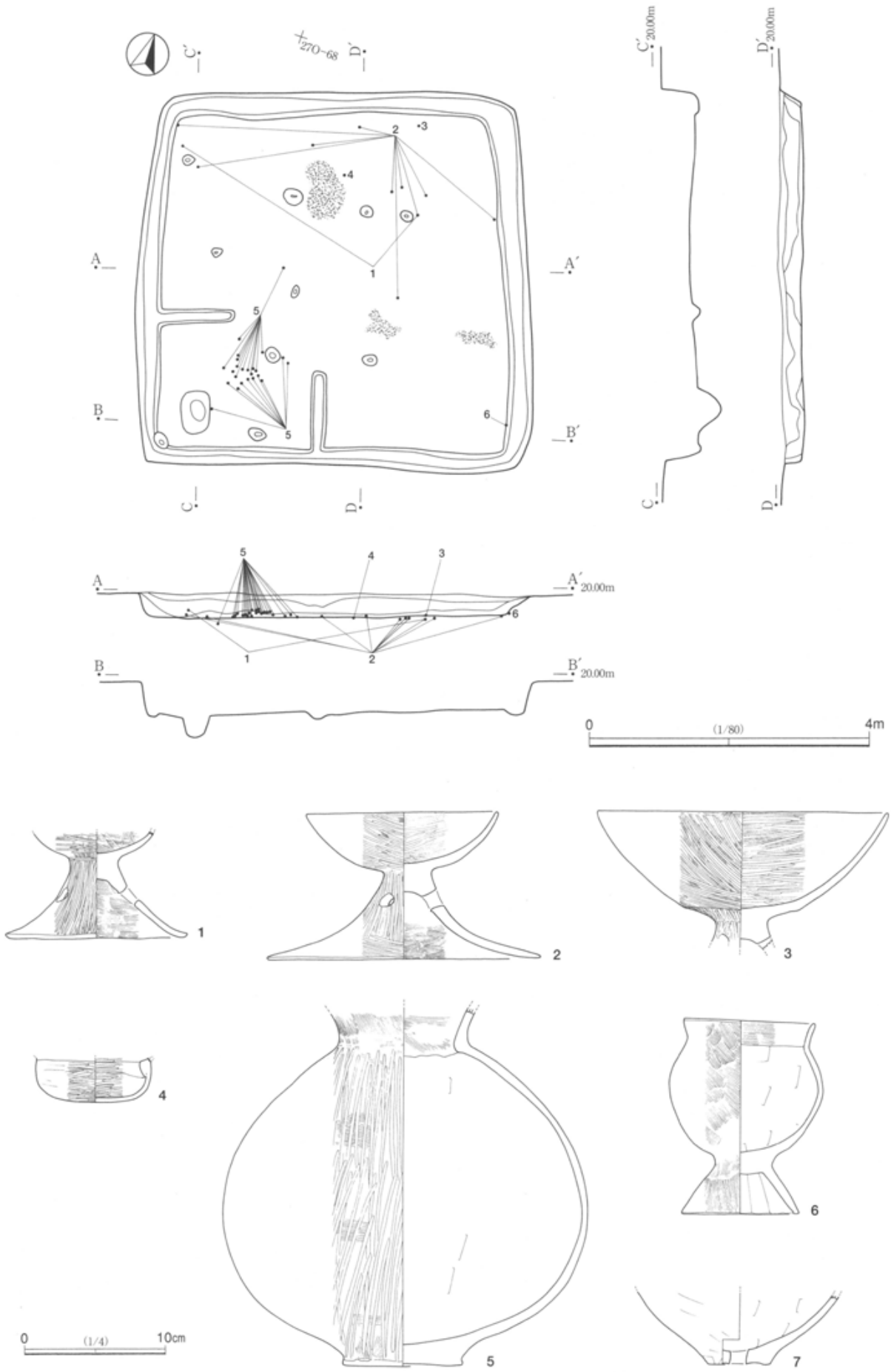
調査区中央付近，27O－86グリッド付近に位置する。規模は5.8m×5.5m，確認面からの深さ48.2cm～39.2cmを測る。主軸方向はN－70.0°－Eを指し，床面積は約13.5㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に比較的堅緻である。壁溝は，幅27.0cm，深さ8.9cmで全周する。ピットは10か所検出されたが，南東コーナーに位置するピットが貯蔵穴と思われる以外は不明である。貯蔵穴は，長軸44.0cm，短軸36.0cm，深さ30.2cmの長方形状を呈し，SI074と同様に東壁と南壁から伸びる間仕切りと思われる溝が認められた。炉は中央よりやや北東に寄って掘り込まれる。長径70.0cm，短径47.0cm，深さ4.8cmの楕円形を呈し，被熱による赤化が顕著である。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は少なく，覆土中層からの出土である。

出土遺物

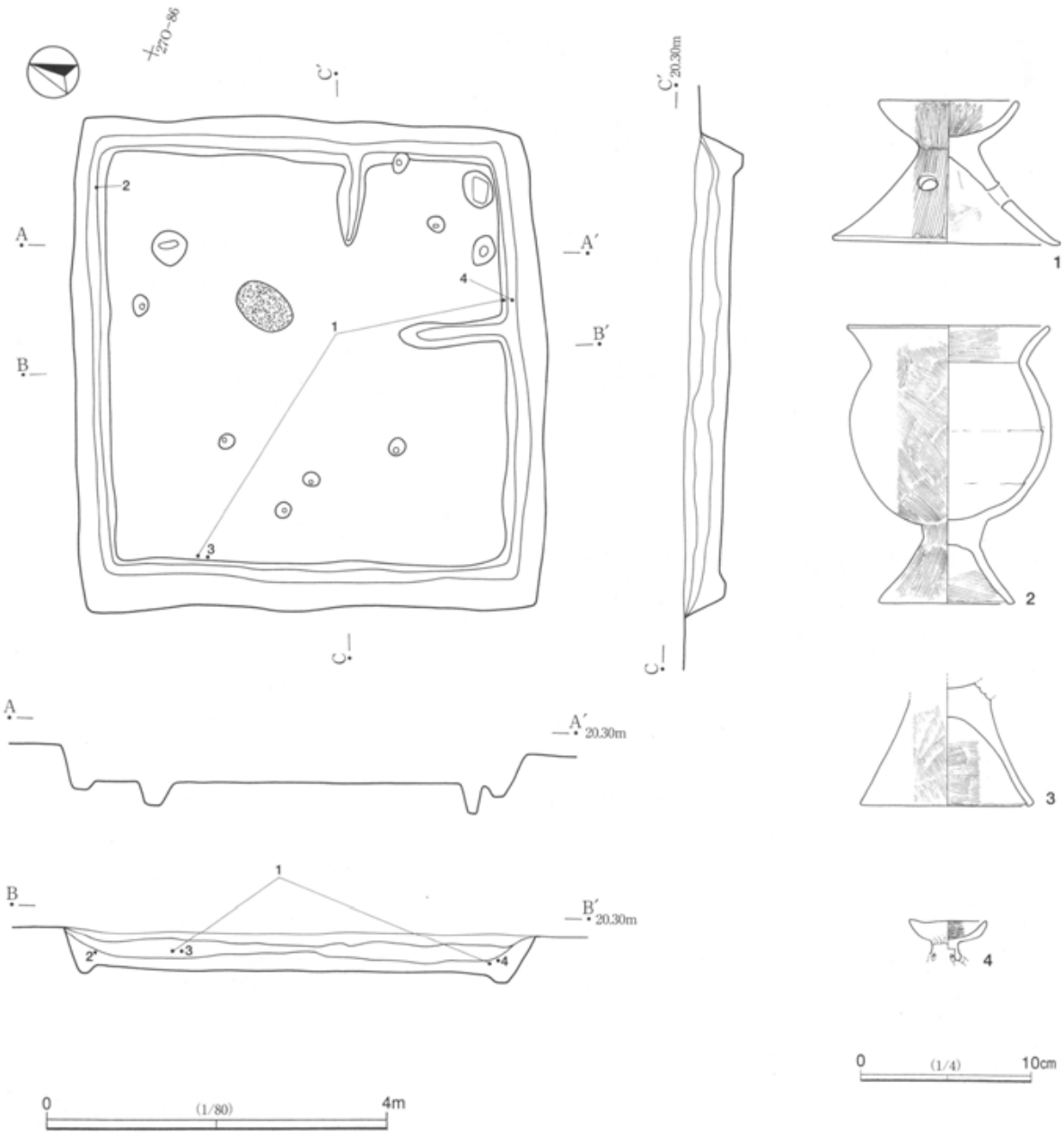
1は器台である。皿状の器受け部にほぼ直線状に開く台部を有する。台部上位に3か所の透孔が認められ，器受け部は丁寧なミガキ，台部はハケ後ナデである。2・3は台付甕である。2は小形で，球形胴を



第98図　SI073



第99図　SI074

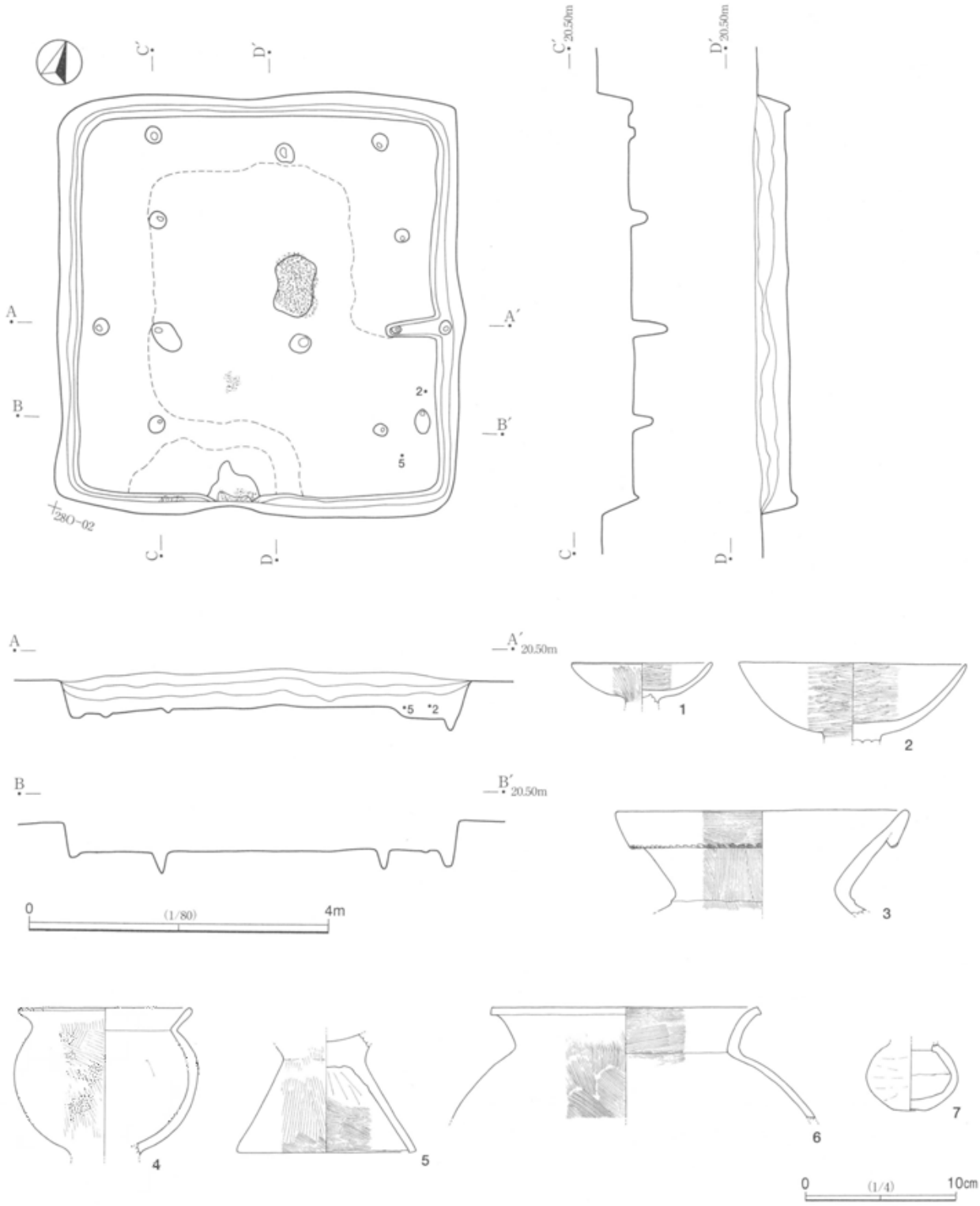


第100図　SI075

呈し，口縁部に最大径を有する。台部は外反気味に開く。胴部内面小貝に細かいハケ目が認められる。3は2より大形の台付甕の台部である。4は器台のミニチュア土器である。全体に歪みがあるが，台部には透孔が5か所穿たれている。

SI076（第101図，図版31・32・59）

調査区中央付近，28O－03グリッド付近に位置する。規模は5.7m×5.5m，確認面からの深さ52.2cm～46.0cmを測る。主軸方向はN－19.0°－Wを指し，床面積は約14.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，中央付近を中心に硬化面が検出された。壁溝は幅20.0cm，深さ7.3cmで全周し，東壁中央から間仕切りと思われる溝が伸びる。ピットは11か所検出された。規模は小さいものの，ほぼ対角線上に位置する4本が柱穴となろう。深さ30.1cm～13.8cmを測る。他は補助柱穴であろうか。炉ほぼ中央に位置する。長径82.0cm，短径50.0cmの楕円形を呈し，底面には被熱による赤化がみられる。覆土は自然堆積の様相を示す。床面から出土した遺



第101図　SI076

物は2点のみで，他は覆土中である。

出土遺物

1は器台の器受け部である。内面は横方向のミガキ，外面は縦方向のミガキが丁寧に施される。2は高杯の杯部で，半球形状を呈する。内外面とも丁寧にミガキ調整される。3は複合口縁の壺で，口縁下端に棒状工具を用いたキザミが巡る。4～6は甕である。4は台部を欠く小形台付甕で，胴部上位に最大径を

有する。外面にハケ目が認められる。5は直線的に開く台部である。6は内外面ハケ調整であるが，外面には幅の粗いものと細かいものの2種類が使われている。口唇部が平坦に面取りされる。7は壺のミニチュア土器で，若干上げ底となる。

SI077（第102図，図版32・59）

調査区中央付近，28O－08グリッド付近に位置する。規模は3.9m×3.8m，確認面からの深さ29.8cm～21.1cmを測り，やや隅丸の正方形を呈する。主軸方向はN－35.0°－Wを指し，床面積は7.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。柱穴はほぼ対角線上に4本認められ，深さ37.5cm～28.8cmを測る。南壁に近いピットは入り口に伴うものと思われる。炉は検出されなかった。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は，覆土上層から出土している。

出土遺物

1は壺で，小さな上げ底を有し，やや扁平な球形胴を呈する。口縁部から胴部外面にかけてハケ後粗いミガキが施される。2～4は甕である。2・3は台付甕で，2は内外面とも細かいハケ調整が明瞭に残る。胴部中位に最大径を有し，直線的な台部の開きは小さい。3も胴部中位に最大径を有するが，台部は内湾気味に開く。全体にハケ調整されるが，内面は粗いミガキが加えられる。4は口縁部片である。

SI078（第103図，図版32・33・59）

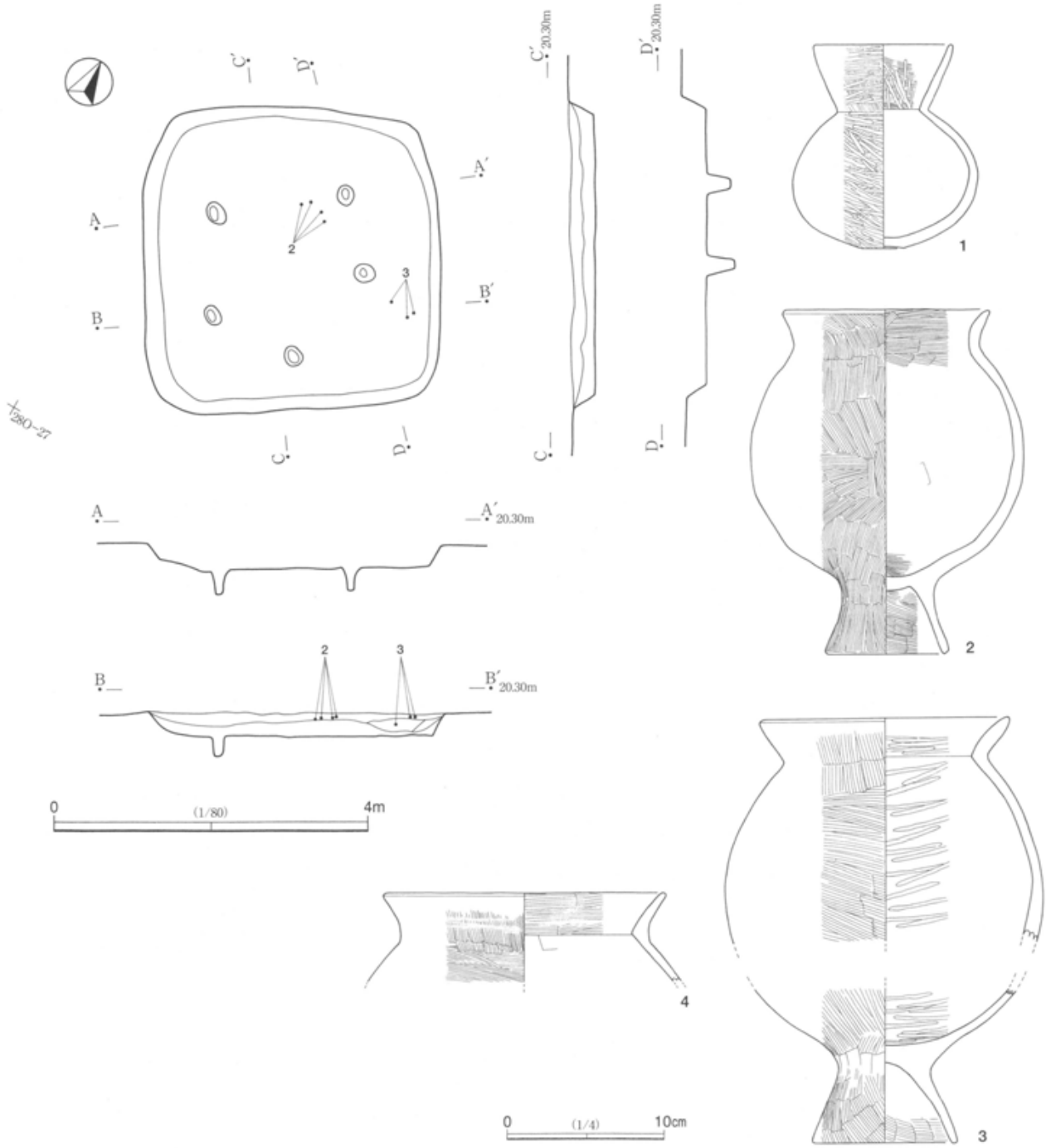
調査区東側，28O－24グリッド付近に位置する。規模は7.6m×7.2m，確認面からの深さ58.0cm～40.5cmを測り，掘り込みが深い。主軸方向はN－71.0°－Eを指し，床面積は約28.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，幅13.0cm，深さ6.5cmで全周する。柱穴はほぼ対角線上に4本配置される。深さ84.6cm～79.5cmを測り，2段堀の深いしっかりしたものである。南壁東側に接して掘り込まれたピットは貯蔵穴であろう。長軸78.0cm，短軸60.0cm，深さ70.0cmを測る。南壁中央及び東壁南側から，貯蔵穴を囲むように間仕切りと思われる溝が伸びる。炉はほぼ東側の柱穴間に位置する。長径78.0cm，短径60.0cm，深さ13.5cmのほぼ円形を呈し，周囲を土器片で囲んでいる。底面は被熱による赤化が顕著である。遺物の出土は多くないが，床面直上の状態が主体である。貯蔵穴脇の床面直上からは，朱色の顔料を検出した。

出土遺物

1は皿状の器受け部を有する器台である。台部は外反気味にハの字状に開き，上位に透孔が4か所認められる。内外面とも丁寧にミガキ調整される。2～4は壺である。2は広口で，胴部上位に最大径を有し，口縁部は内湾気味にほぼ直立する。外面ナデ調整される。3は複合口縁の口縁部片で，内面の剥離が著しい。3本1単位の棒状浮文が貼り付けられる。全体からみると，5単位ではないかと思われる。4は下半部で，外面はハケ後粗い縦方向のミガキが施され，内面は器面の荒れが顕著なため調整は不明瞭である。外面赤彩される。5～7は甕である。5は器形の歪みが顕著であるが，丁寧なナデ調整が施されるため，器面は平滑である。6は折り返し状に頸部に明瞭な稜線がみられ，口縁部内面から胴部外面にハケ目が認められる。7は直線的に開く台付甕の台部片である。内外面ともハケ目が残る。

SI079（第104・105・106図，図版33・59・60）

調査区の北西側，27M－20グリッド付近に位置する。規模は8.3m×7.4m，確認面からの深さ84.8cm～49.6cmを測り，掘り込みの深い長方形状を呈する。主軸方向はN－73.0°－Eを指し，床面積は30.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，中央部を中心に硬化面が広がる。壁溝は，幅20.0cm，深さ17.4cmで全周する。南壁中央には間仕切りと思われる溝が伸びる。柱穴と思われるピットは確認されなかった。南壁のほぼ中央にある

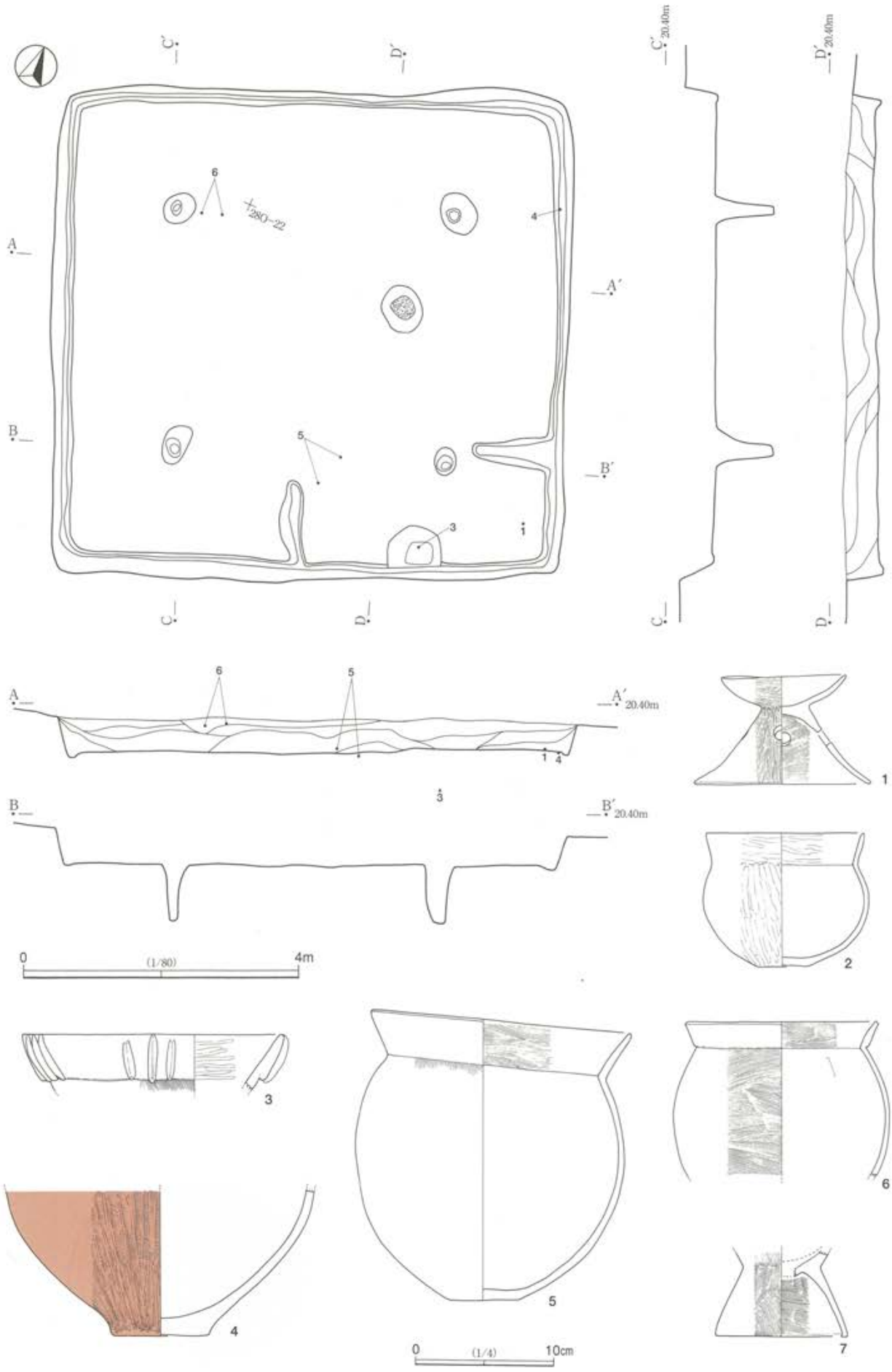


第102図　SI077

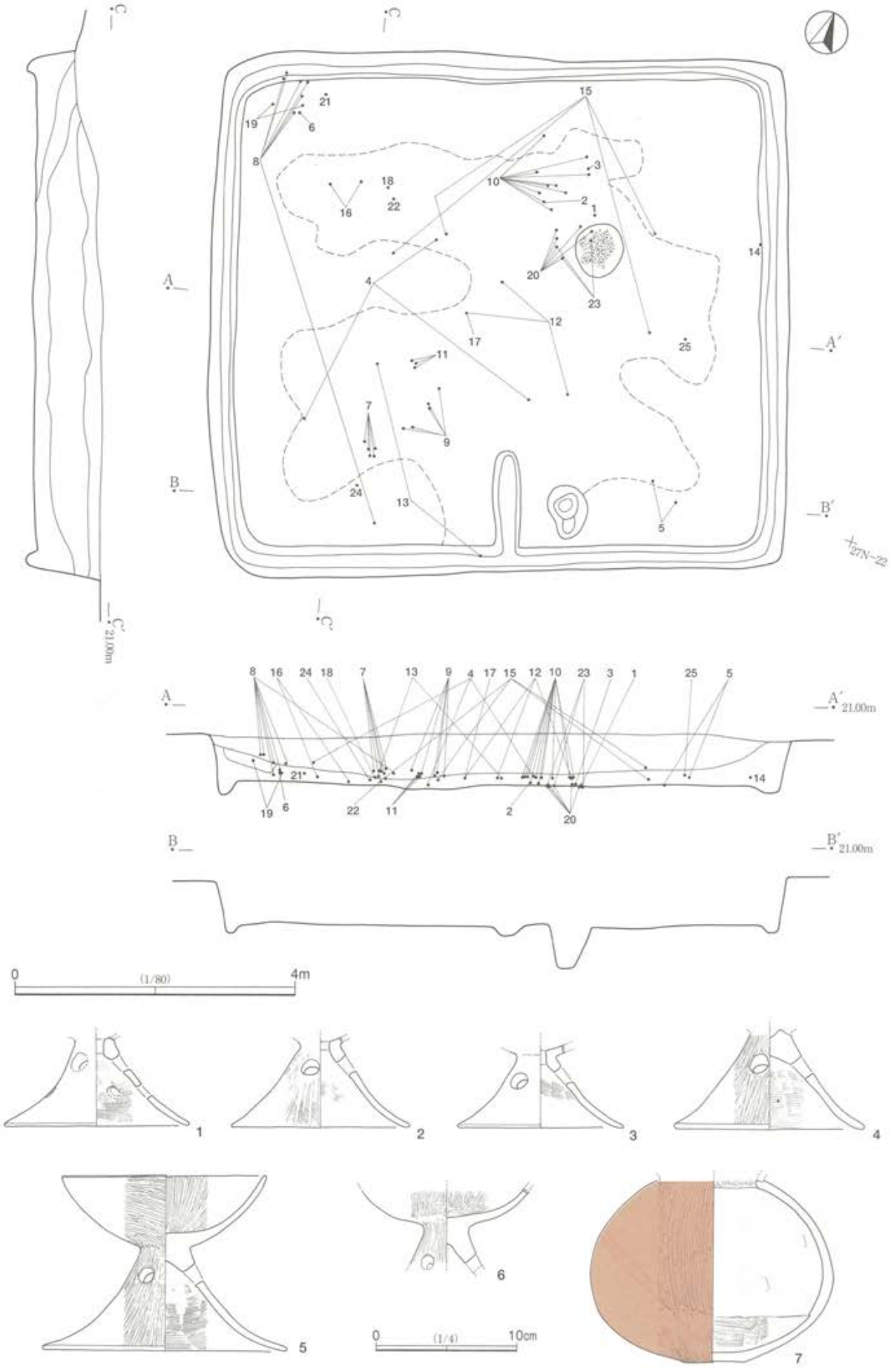
1本のピットは貯蔵穴であろう。長軸79.1cm，短軸46.0cm，深さ54.2cmを測る。炉は北東側に位置する。長径77.0cm，短径68.0cmの略円形を呈し，底面には赤化がみられる。遺物は全面に多くみられ，床面から覆土中層にかけての出土である。

出土遺物

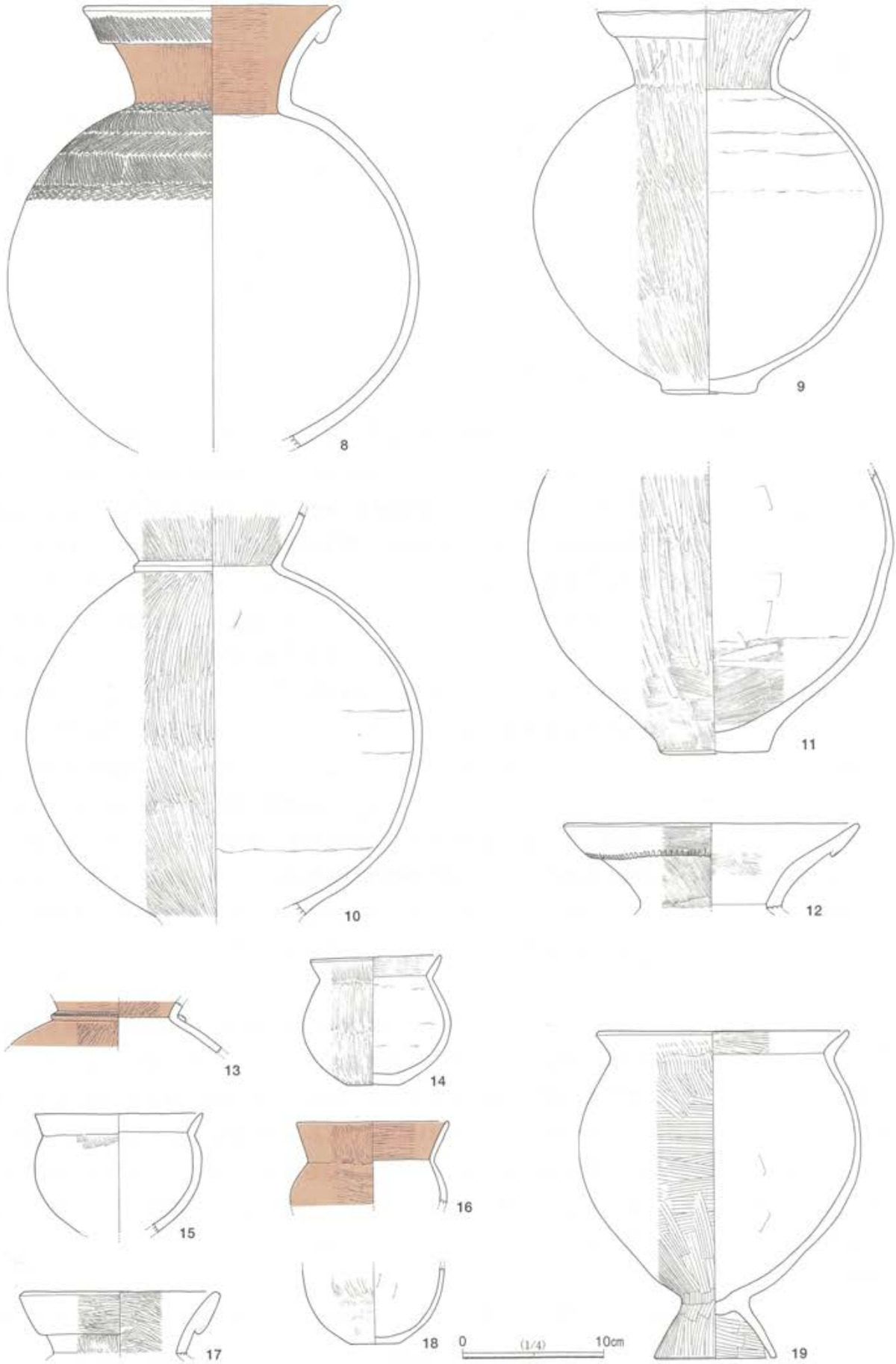
1～4は器台の台部で，外反気味にハの字状に開く。1～3は中空タイプとなり，1は上下3孔ずつ合計6か所の透孔が穿たれる。2・3は上位に3か所透孔が確認される。1・3は器面の荒れが著しく，調整は不明である。5・6は高杯である。5の杯部は半球形状を呈し，脚部は裾部で大きく外反する。脚部



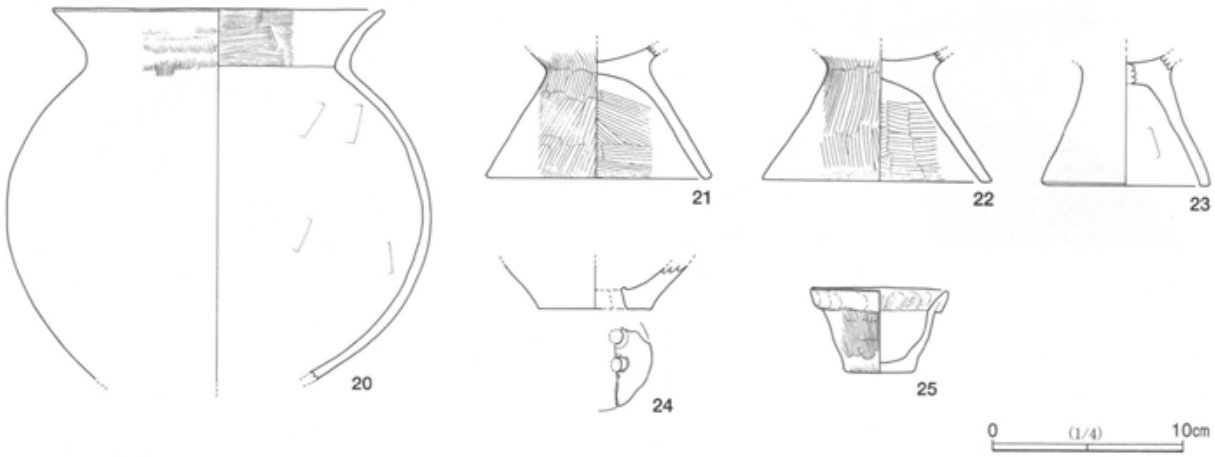
第103図　SI078



第104図　SI079（1）



第105図　SI079（2）



第106図　SI079（3）

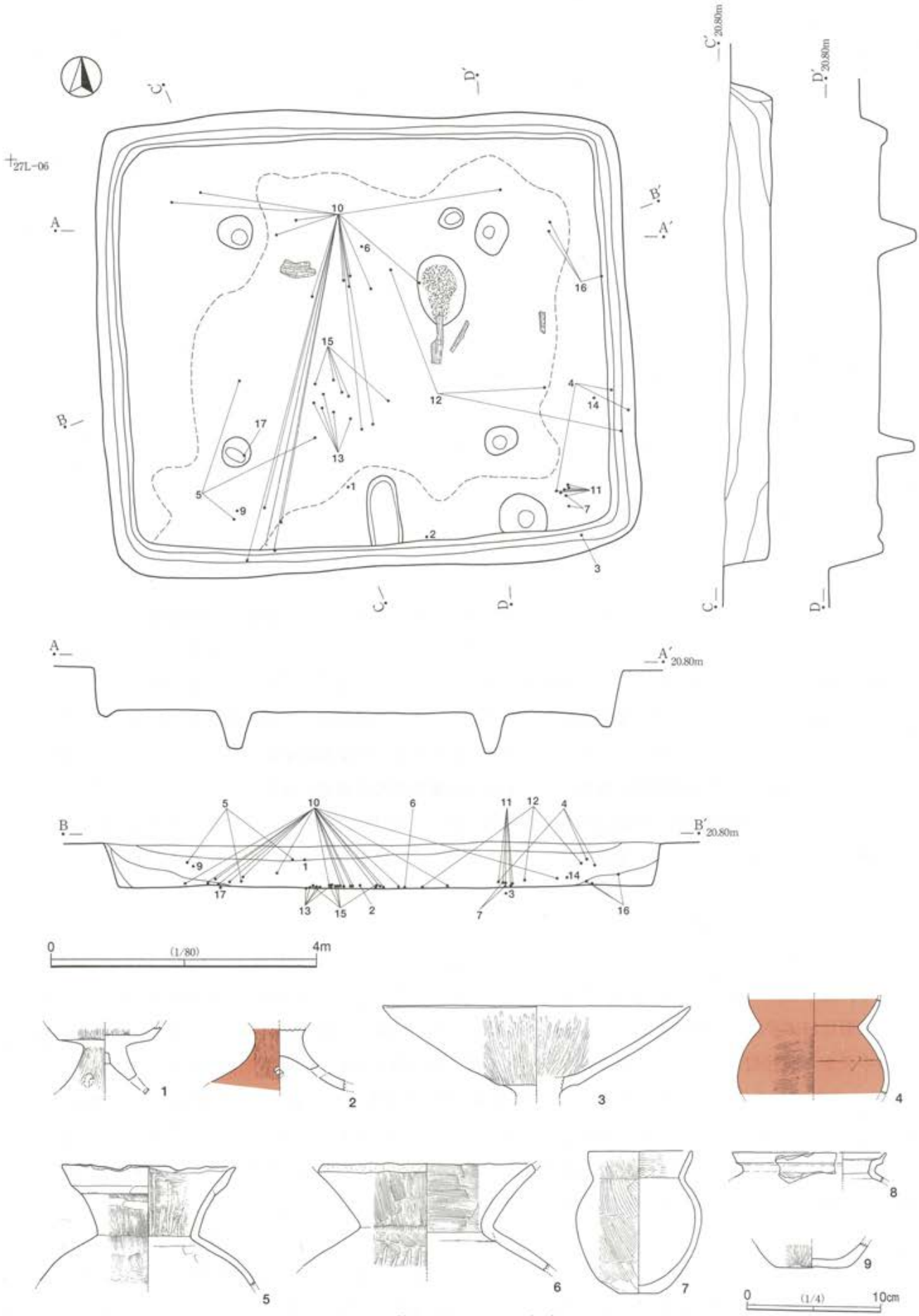
上位に3か所透孔が確認できる。杯部外面ハケ調整後外面全面と杯部内面に丁寧なミガキが施される。7～18は壺である。7は小さな上げ底の底部を有しやや扁平な球形胴となる。外面にはミガキが施され，赤彩が加えられる。8は複合口縁となり，口縁部にRLの単節縄文，胴部上位には，結節文間に，3段の斜縄文が施文される。口縁部内面と頸部外面には赤彩が施される。胴部外面は器面が荒れており，赤彩の有無は不明である。9は胴部中位に最大径を有し，底部が突出する。口縁部は折り返され，全体に丁寧なミガキが施されているが，内外面ともに器面の荒れが目立つ。10は胴部下位に最大径を有するため，下膨れの形状を呈する。頸部には断面三角形の突帯が形成され，全体に丁寧なミガキが施される。11は長胴気味となり，外面はハケ後粗いミガキが加えられる。12の折り返し口縁下端には，ハケ状工具によるキザミが巡る。13は10同様に頸部に突帯が巡るが，突帯上にはヘラ状工具によるキザミが施される。口縁部内外面と胴部外面に赤彩がみられる。14は胴部中位に最大径を有する小形壺である。ハケ後ミガキ調整が加えられる。16は丁寧なミガキ後赤彩が加えられる。17は折り返し口縁で，内外面丁寧なミガキが施される。19～23は甕である。19は台付甕で，胴部上位に最大径を有する。台部は短く，ほぼ直線的にハの字状に開く。胴部内面以外に粗い目のハケ調整が施される。20は球形の胴部で底部を欠く。21～23は台付甕の台部である。24は甑の底部片で，現状では2か所の穿孔が確認されるが，多孔式となろう。25は鉢形の手捏ね土器で，折り返し口縁となる。口縁部には指頭痕，胴部にはハケ目が認められる。

SI080（第107・108図，図版33・60）

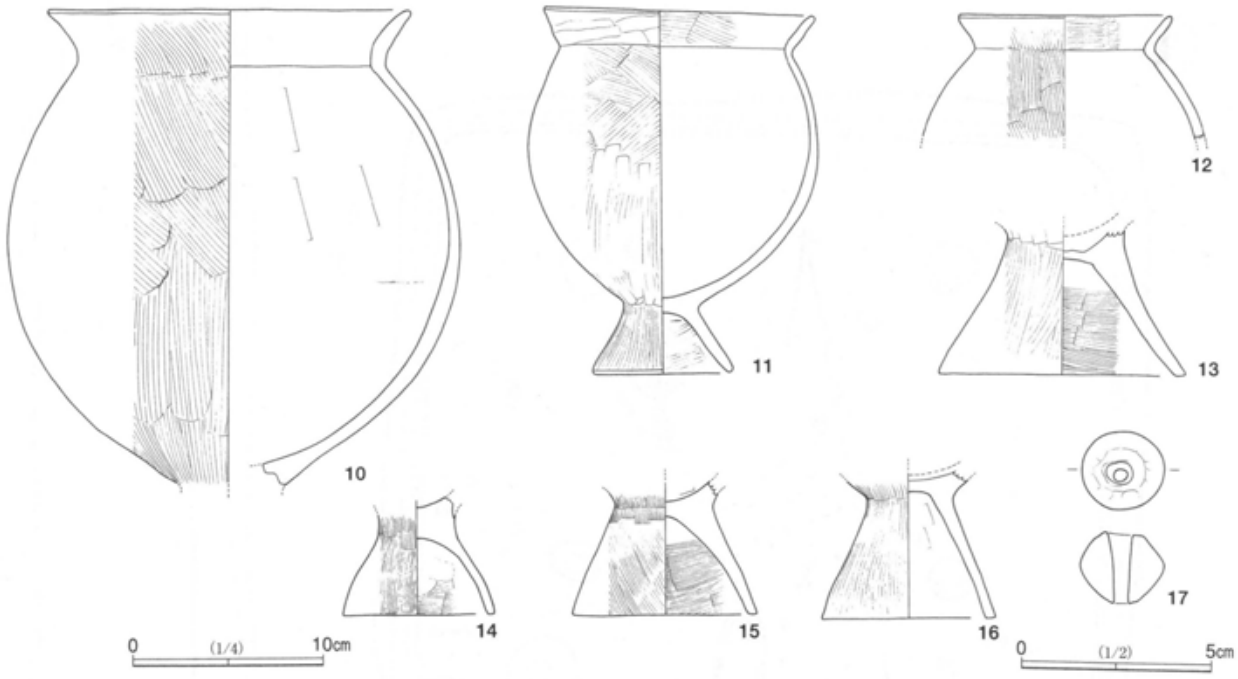
調査区北西，最西端，27L－06グリッド付近に位置する。規模は8.0m×6.8m，確認面からの深さ91.3cm～71.0cmを測り，掘り込みの深い横長の長方形を呈する。主軸方向はN－87.0°－Eを指し，床面積は27.4㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が壁際を除き確認される。壁溝は，幅17.0cm，深さ13.2cmで全周する。南壁中央には，間仕切りと思われる溝が伸びる。長さは106.0cmである。柱穴はほぼ対角線上に4本認められる。深さ58.9cm～52.7cmを測る。南壁東側に掘り込まれたピットは貯蔵穴であろう。長軸71.0cm，短軸53.0cm，深さ89.9cmを測る。炉は北東柱穴近くに位置する。長径77.0cm，短径68.0cmと比較的大きく，囲いの土器片が検出されている。遺物は多く散在し，床面上の出土主体である。

出土遺物

1・3は高杯である。1は体部下端に明瞭な稜を有，体部が直線的に立ち上がるタイプと思われる。脚部には透孔が3か所穿たれる。3は大形の杯部で，体部が直線的に大きく開く。内外面とも縦方向の丁寧



第107図　SI080（1）



第108図　SI080（2）

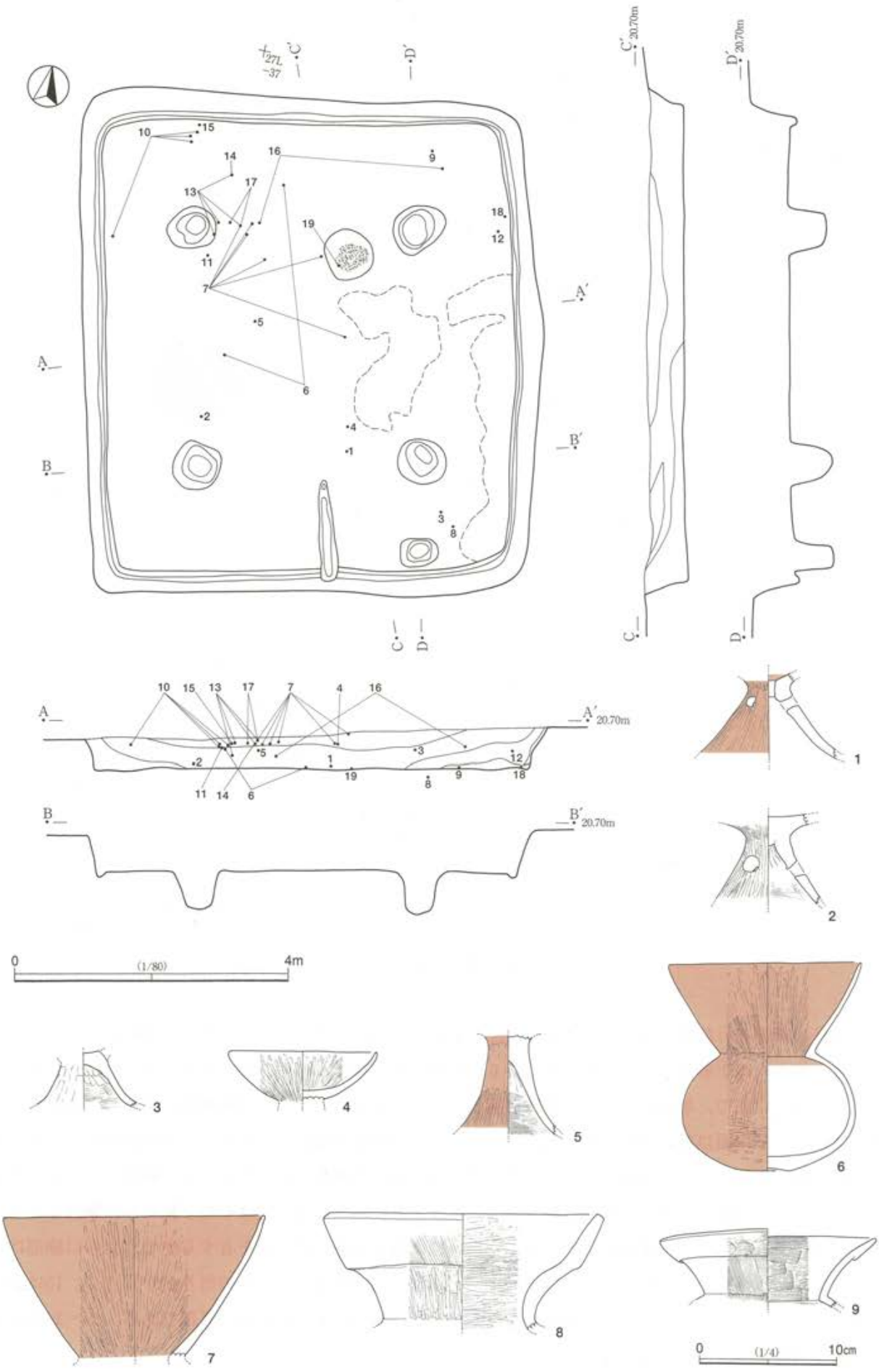
なミガキが施される。4～6は壺である。4は胴部中位に最大径を有し，口縁部が内湾気味に長く立ち上がる。5は折り返し口縁状を呈し，口唇部は平坦に面取りされる。6は，口唇部が磨滅した状態である。内外面に細かいハケ目がみられる。7～16は甕である。7は小形の甕で，胴部上位に最大径があり，やや長胴となる。口縁部は若干内湾しながら小さく開く。8はS字口縁部片で，口唇部が直立気味に摘み上げられるタイプである。胎土も異なっており，東海産と思われる。10は胴部中位に最大径を有する台付甕で，台部を欠く。外面のハケ目は明瞭に観察され，下位には煤の付着が認められる。11はほぼ完形の台付甕である。胴部上半に最大径を有し，台部は小さく直線的に開く。13～16は台部である。13はやや外反気味に，14・15は僅かに内湾しながら，16は直線的に開く。17は算盤玉状を呈する土玉で，ナデにより丁寧に仕上げられる。

SI081（第109・110図，図版34・60）

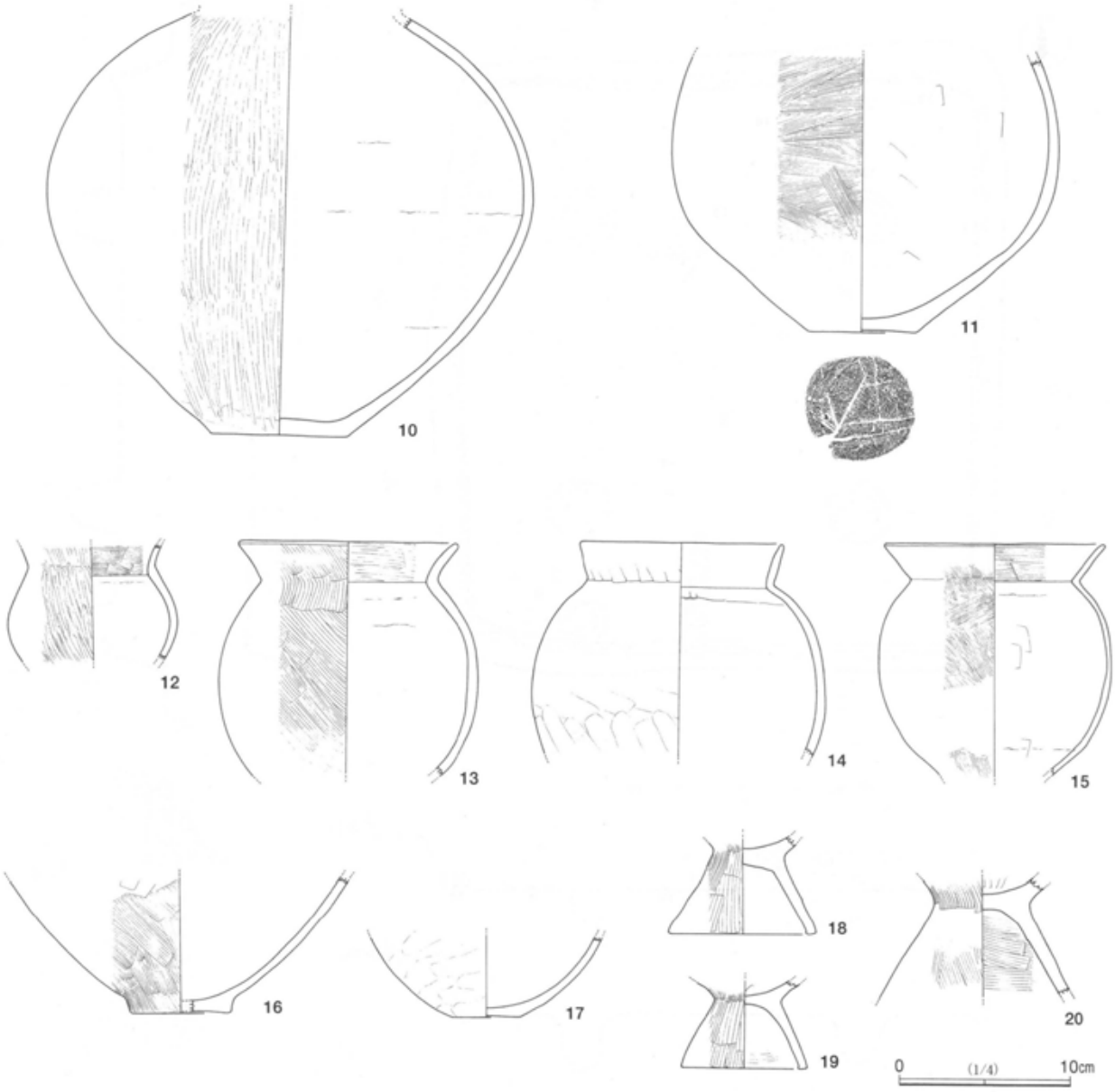
調査区北西側，27L－37グリッド付近に位置する。規模は7.3m×6.8m，確認面からの深さ70.2cm～54.0cmを測り，掘り込みの深い縦長の長方形を呈する。主軸方向はN－13.0°－Wを指し，床面積は約24.5㎡を測る。床面はほぼ平坦で，東側に部分的な硬化面がみられる。壁溝は，幅15.0cm，深さ11.0cmで全周する。南壁の中央から間仕切りと思われる溝が伸びている。柱穴はほぼ対角線上に4本配置される。深さ63.5cm～52.3cmと比較的深く，2段の掘り形を示す。南壁東側のピットは貯蔵穴であろう。長軸56.0cm，短軸40.0cm，深さ53.8cmの長方形を呈する。炉は北側の柱穴間やや東寄りに位置する。，長径75.0cm，短径68.0cm，深さ4.8cmのほぼ円形を呈し，東側約半分が土器片で囲まれる。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は北西側に集中する傾向があるが，床面から覆土上層まで分布している。

出土遺物

1～3は器台である。1は中空タイプで，上位に3孔の透孔が認められる。器受け部内面と台部外面に赤彩が施される。2は胴部中位に3か所透孔が穿たれる。外面に丁寧なミガキがみられる。3は透孔がな



第109図　SI081（1）



第110図　SI081（2）

く，高杯の脚部の可能性もある。4・5は高杯である。4の杯部は小さく，内湾しながら立ち上がる。内外面とも縦方向の丁寧なミガキが施される。5は長脚の脚柱部で，外面赤彩される。6～12は壺である。6は小さな上げ底で，胴部はやや扁平な球形胴となる。口縁部は大きくほぼ直線的に開き，上端部でやや内湾する。胴部内面以外に赤彩が施される。7は6とほぼ同様な形状と思われる。内外面赤彩である。8は有段口縁，9は折り返し口縁で，8はミガキ調整，9はハケ調整が主である。10は胴部中位に最大径を有する大形壺で口縁部を欠く。外面は縦方向のミガキが密に施される。11はやや下膨らみの胴部となり，外面ハケ調整，底部には木葉痕が認められる。13～15は胴部中位に最大径を有する甕で，14の口縁部はほぼ直立気味，以外はくの字状となる。13・15はハケ調整，14の頸部にはヘラの当り痕が目立つ。15は器肉が薄く，台付甕の可能性がある。16は底部突出の甕，17は僅かに上げ底の壺の底部である。18～20は直線的に開く台付甕の台部である。

SI082（第111図，図版34・61）

調査区北西側，27M－52グリッド付近に位置する。内側に溝が巡っており，拡張住居と思われる。規模は7.3m×7.1m，確認面からの深さ70.0cm～65.0cmを測り，掘り込みの深い住居跡である。でほぼ正方形を呈している。主軸方向は，N－13.0°－Wを指し，床面積27.4㎡を測る。拡張前の規模は5.4m×5.3mを測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。中央部に3基の炉が検出された。おそらく，拡張に伴って炉を作り替えたものと思われる。覆土は自然堆積の様相を呈する。遺物は住居跡全体に散在しており，床面から覆土上層までみられる。

出土遺物

1は高杯の杯部遺存で，半球形状の形態を呈し，器肉が厚いのが特徴である。内外面丁寧なミガキが施され，赤彩も認められる。2～7は甕である。2の口縁部は肥厚し，3の口縁部は直線的に開く。4～7は台付甕の台部である。内面は全て横方向のヘラナデ調整がされ，外面は4～6はハケ調整，7はヘラケズリが施される。

SI083（第112図，図版34・61）

調査区北西側，28M－13グリッドに位置し，北西側が撹乱される。規模は5.6m×5.5m，確認面からの深さ26.0cm～17.0cmを測る。主軸方向はN－31.0°－Wを指し，床面積は約12.2㎡を測る。床面はほぼ平坦であるが，硬化面は認められない。柱穴等は確認されなかった。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

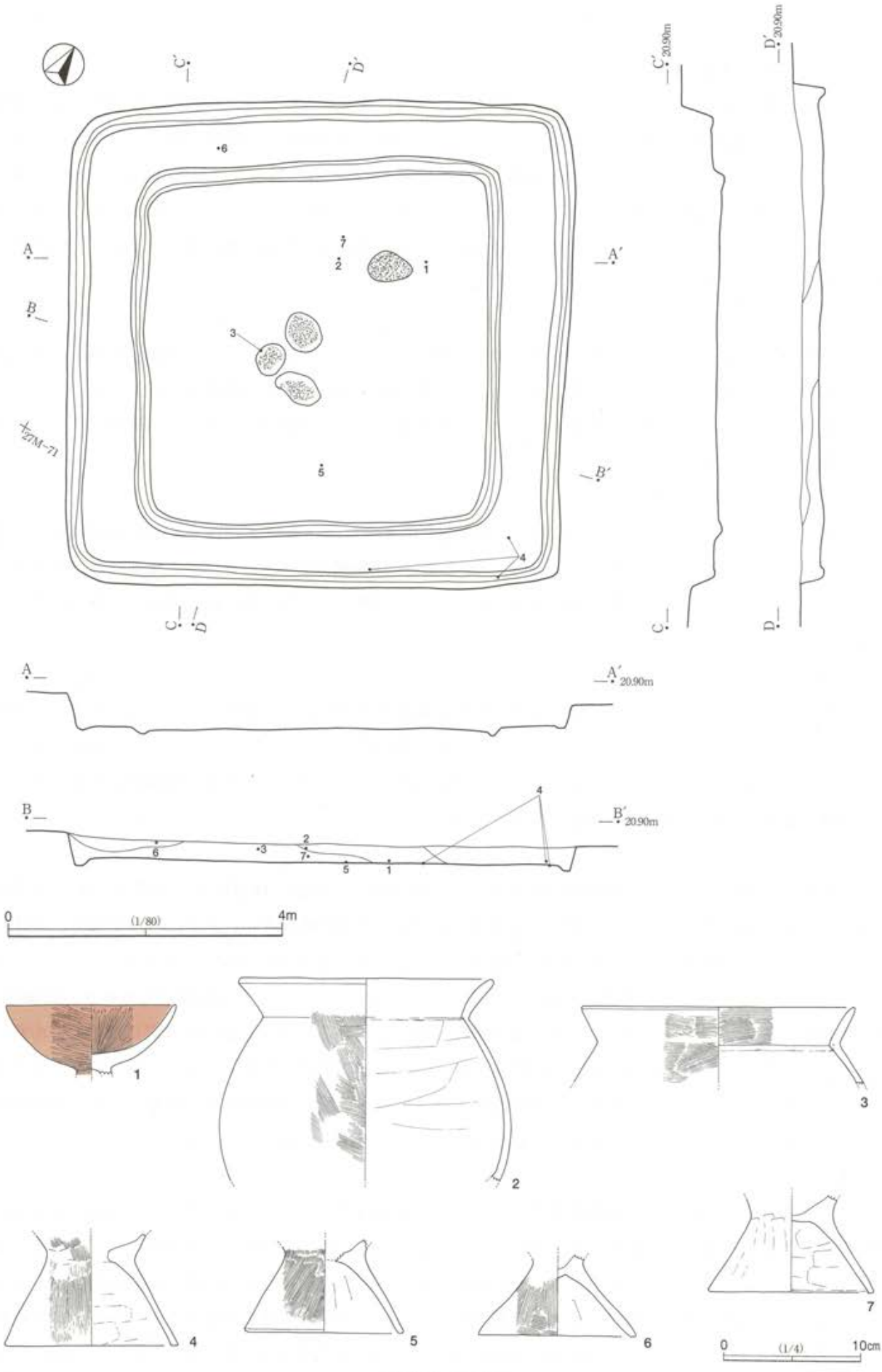
1は無頸壺であろう。小さな上げ底で，体部上位に最大径を有し，口縁部は短く直立して収まる。内外面ヘラナデの痕が残る。2・3は器台片である。2は台部中位に，3は台部上位に3か所の透孔を有する。4は複合口縁の壺である。5は手捏ね土器で，台付甕を意識したものであろうか。指頭痕が明瞭に残る。6は不明土製品で，籾や繊維痕が確認できる。

SI085（第113図，図版35・61）

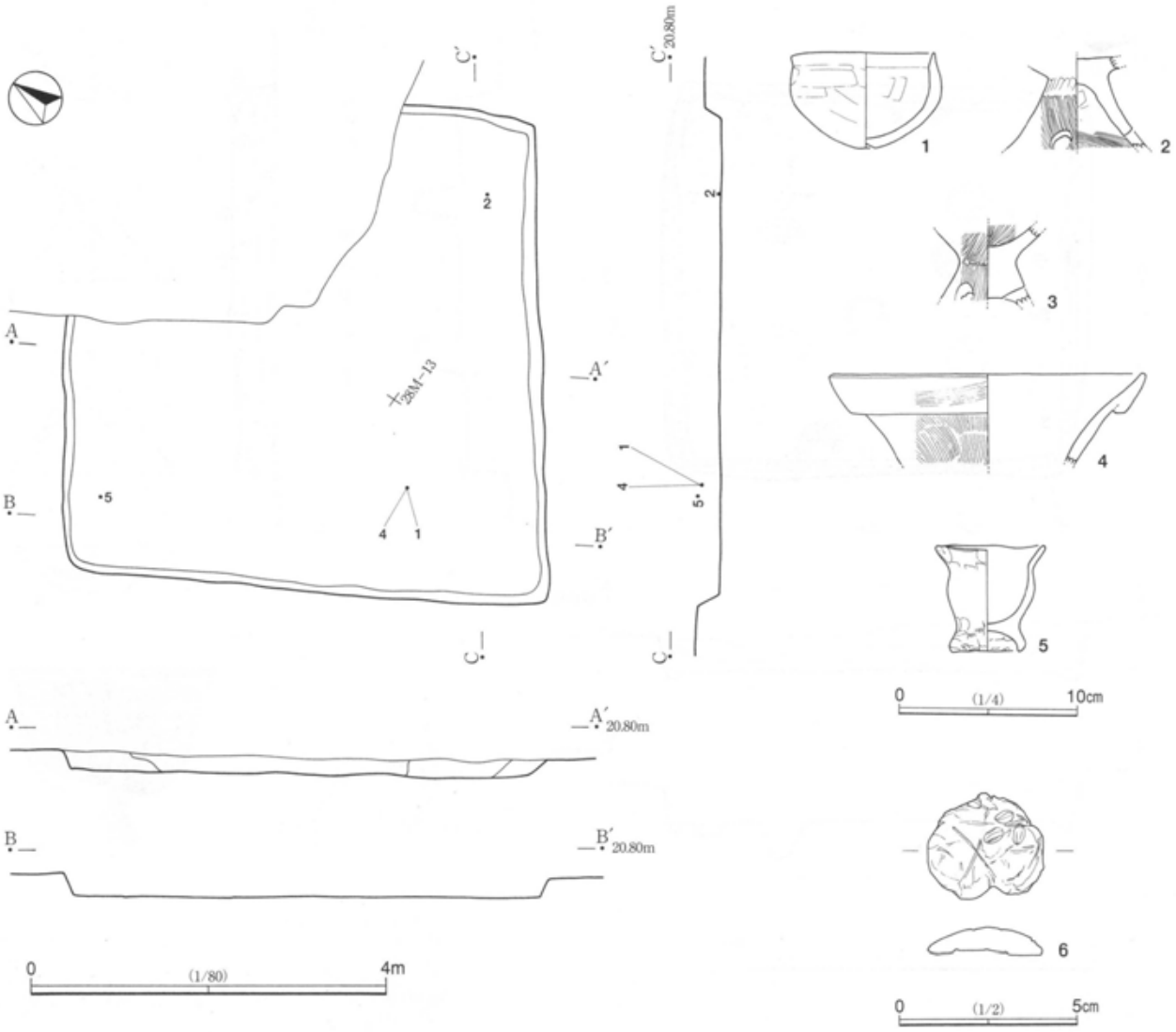
調査区東側，28Q－05グリッド付近に位置する。規模は4.8m×4.3m，確認面からの深さ64.0cm～43.2cmを測る。主軸方向はN－22.0°－Wを指し，床面積は約10.8㎡と比較的小さい。床面はほぼ平坦で，全体に比較的堅緻である。壁溝は幅12.0cm，深さ56.0cmで全周する。柱穴はほぼ対角線上に4本認められるが，深さ50.2cm～14.0cmとバラツキがある。を測り，南東コーナーに位置するピットは貯蔵穴であろう。長軸69.0cm，短軸52.0cm，深さ34.6cmを測り，完形の甕が横位で出土している。炉は北側の柱穴間に位置し，南側に土器片が立てられていた。長径75.0cm，短径68.0cm，深さ4.8cmのほぼ円形を呈する。床面がかなり焼けており，炭化材も出土していることから，焼失住居と考えられる。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は炉の周囲及び壁際に多くみられる。床面あるいは床面直上からの出土がほとんどである。

出土遺物

1は鉢であろう。外面にハケ調整が施される。2～5は器台で，2・5は中空タイプである。2はやや深目の鉢状の器受け部に，直線的に開く短い台部が付く。台部上位に4か所の透孔が穿たれ，丁寧なミガキが施される。3は浅い小さな器受け部に長い台部が付く。台部上位に3か所の透孔が認められる。4は器受け部で，口唇部が平坦に面取りされる特徴がある。5には4か所の透孔が確認された。6・7は高杯で，6は特徴的な形状を呈する。杯部は深い鉢状を呈し，口縁部は内湾気味に短く開き，内面に明瞭な稜が



第111図　SI082

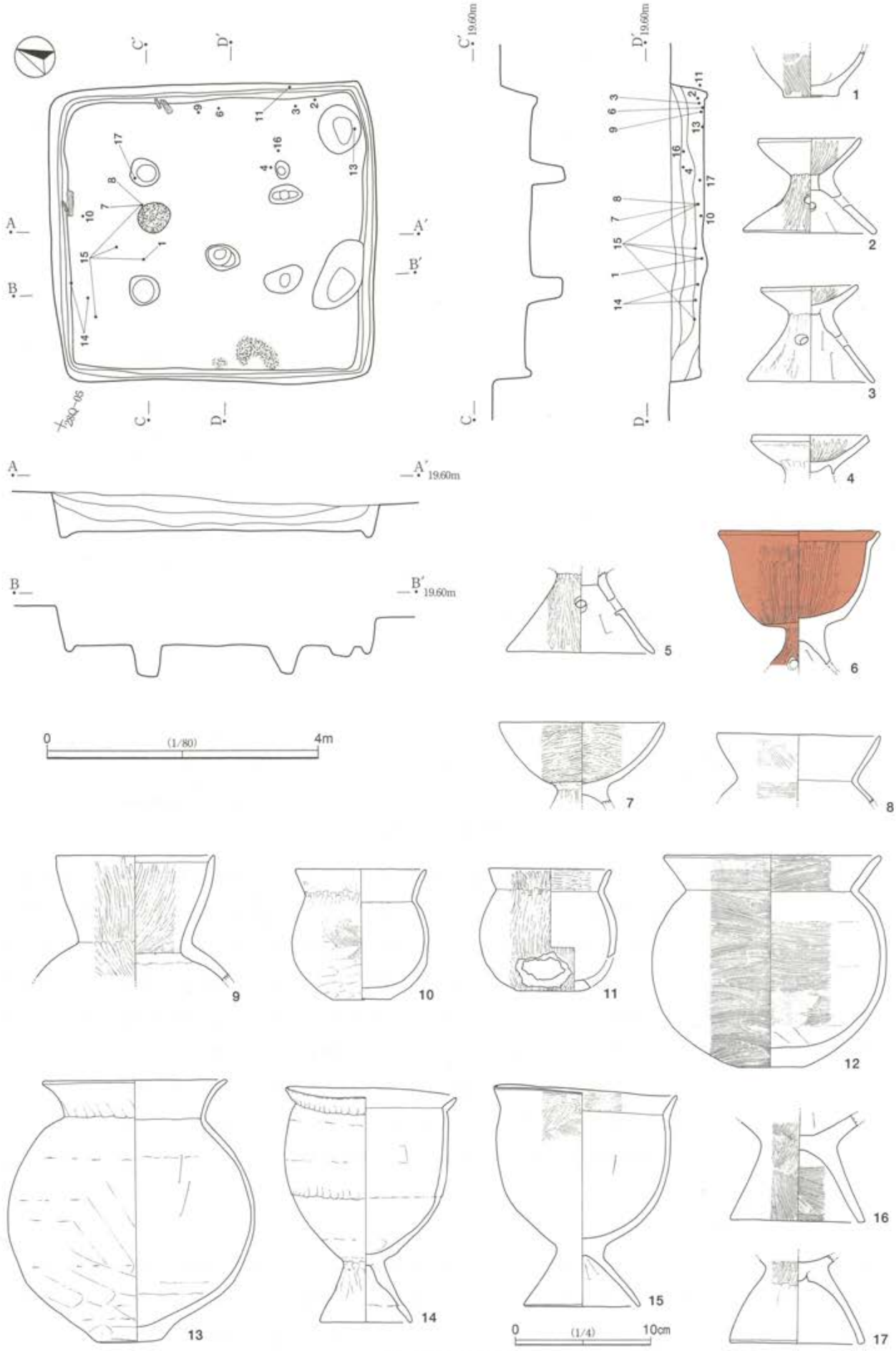


第112図　SI083

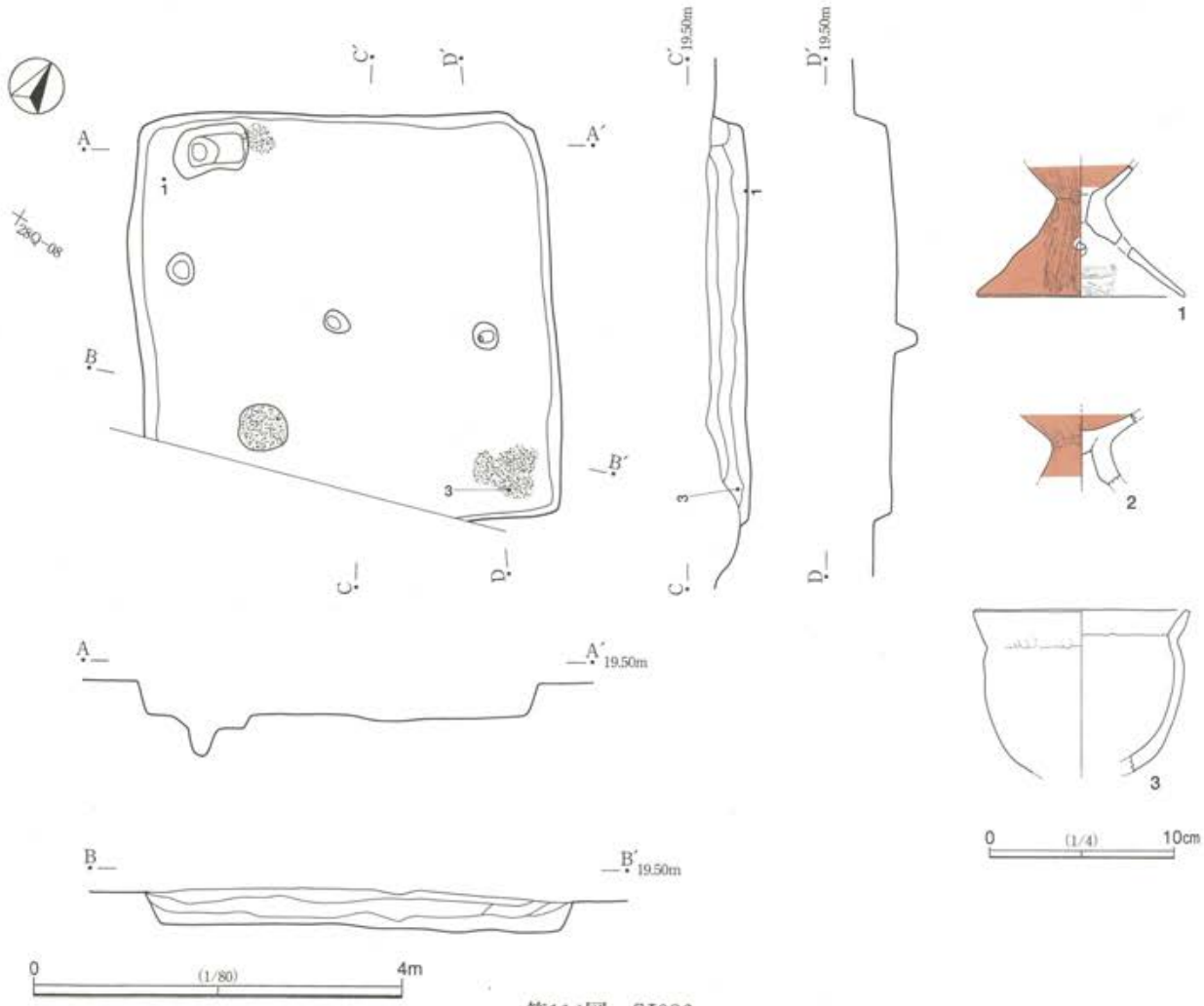
形成される。脚部は短いものであろう。内面は縦方向のミガキ，外面はハケ調整後縦方向のミガキが施される。杯部内外面と脚部外面に赤彩が確認できる。7は半球形状を呈する杯部片である。横方向の丁寧なミガキが施される。8・9は壺の口縁部片である。9の口縁部は内湾気味に長く立ち上がり，口唇部は内削ぎ状となる。内外面ともにミガキが施される。10～15は甕である。10・11は小形で，胴部中位に最大径を有する。11の胴部下位に，焼成後の内面からの打撃による穿孔がみられる。12は胴部中位に最大径がある球形の胴部で，口縁部は直線的にくの字状に屈曲する。内外面細かいハケ調整が施される。13には全体に歪みがある。頸部にはヘラの当り痕が明瞭で，胴部には粘土紐接合痕が部分的にみられる。14・15は口縁部に最大径を有する台付甕である。14は胴部中位に接合痕が明瞭に残り，口縁部は短く開く。台部は直線的にハの字状に開くが，調整は粗雑である。15も14とほぼ同様の形状であるが，台部の開きが大きくなる。

SI086（第114図，図版35・61）

調査区東側，28Q－09グリッドに位置するが，南側一部が攪乱される。規模は4.6m×4.4m，確認面からの深さ36.0cm～17.0cmを測る。主軸方向はN－30.0°－Wを指し，床面積は約11.8㎡を測る。床面は若干凸凹があり，比較的軟質である。東西壁近くの2本のピットが柱穴であろうか。北西コーナーに位置するピッ



第113図　SI085



第114図　SI086

トは貯蔵穴である。長軸82.0cm，短軸48.0cm，深さ48.0cmを測る長方形を呈する。炉は床面南西側に位置する。長径49.0cm，短径42.0cm，深さ4.3cmのほぼ円形を呈し，被熱による赤化が顕著である。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

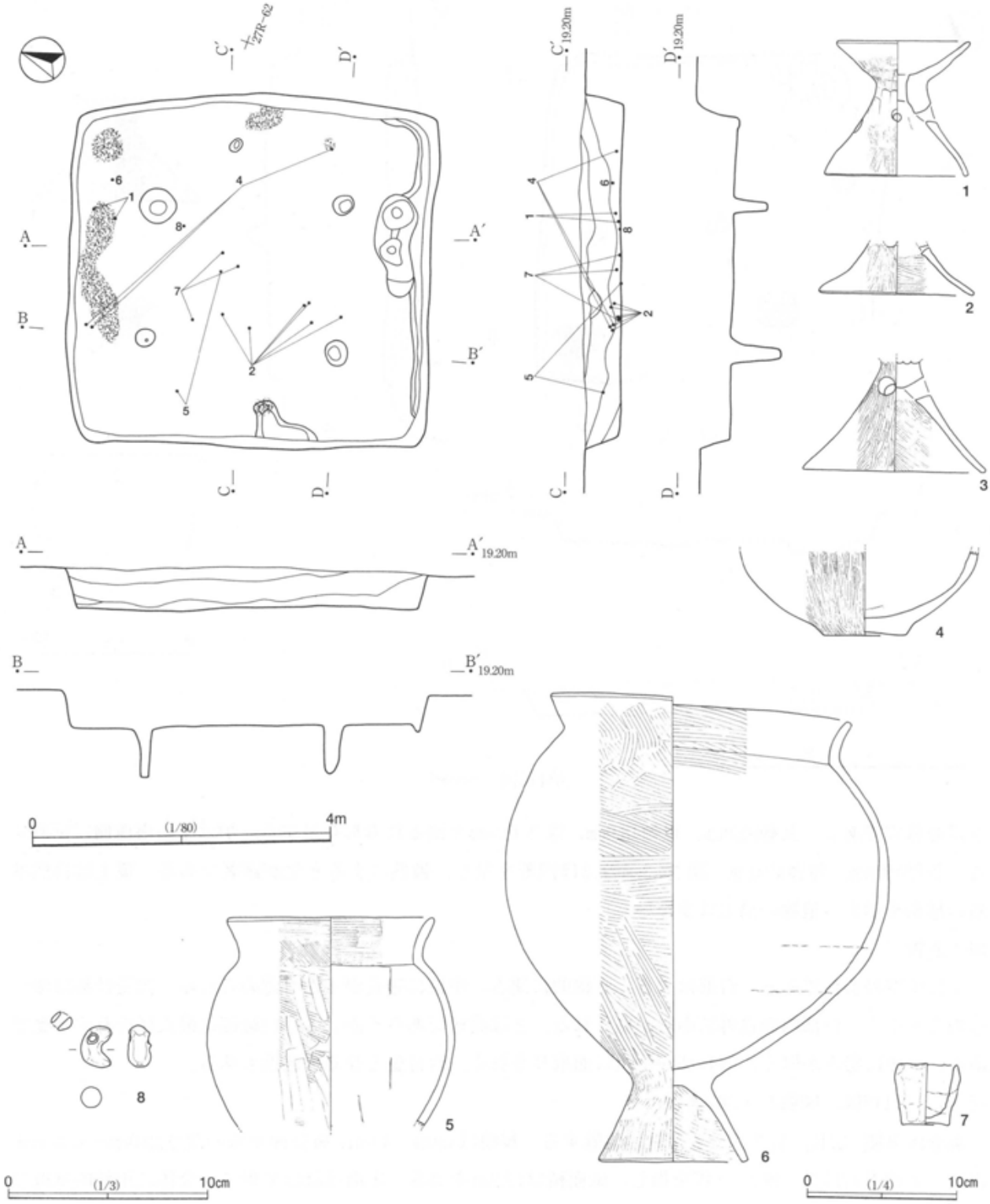
1は中空の器台である。台部は大きく直線的に開き，中位に透孔が4か所認められる。器受け部は深いものであろう。台部内面以外に赤彩が施される。2は高杯であろうか。3は口縁部に最大径を有する甕である。全体に器肉が厚く，口唇部が平坦に面取りされる。台付甕となる可能性もある。

SI087（第115図，図版35・36・61）

調査区東側，27R－51グリッド付近に位置する。規模は4.9m×4.6m，確認面からの深さ49.0cm～45.0cmを測る。主軸方向はN－20.0°－Wを指し，床面積は12.2㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に比較的堅緻である。壁溝は南壁のみに確認される。柱穴は対角線上に4本検出された。径0.3m前後と小さいが，深さは0.5m前後と比較的深い。北壁から東壁の壁際の中層から下層にかけて焼土が多量に混入し，炭化物も検出された。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物は中央に集中する傾向があり，床面直上からの出土がほとんどである。

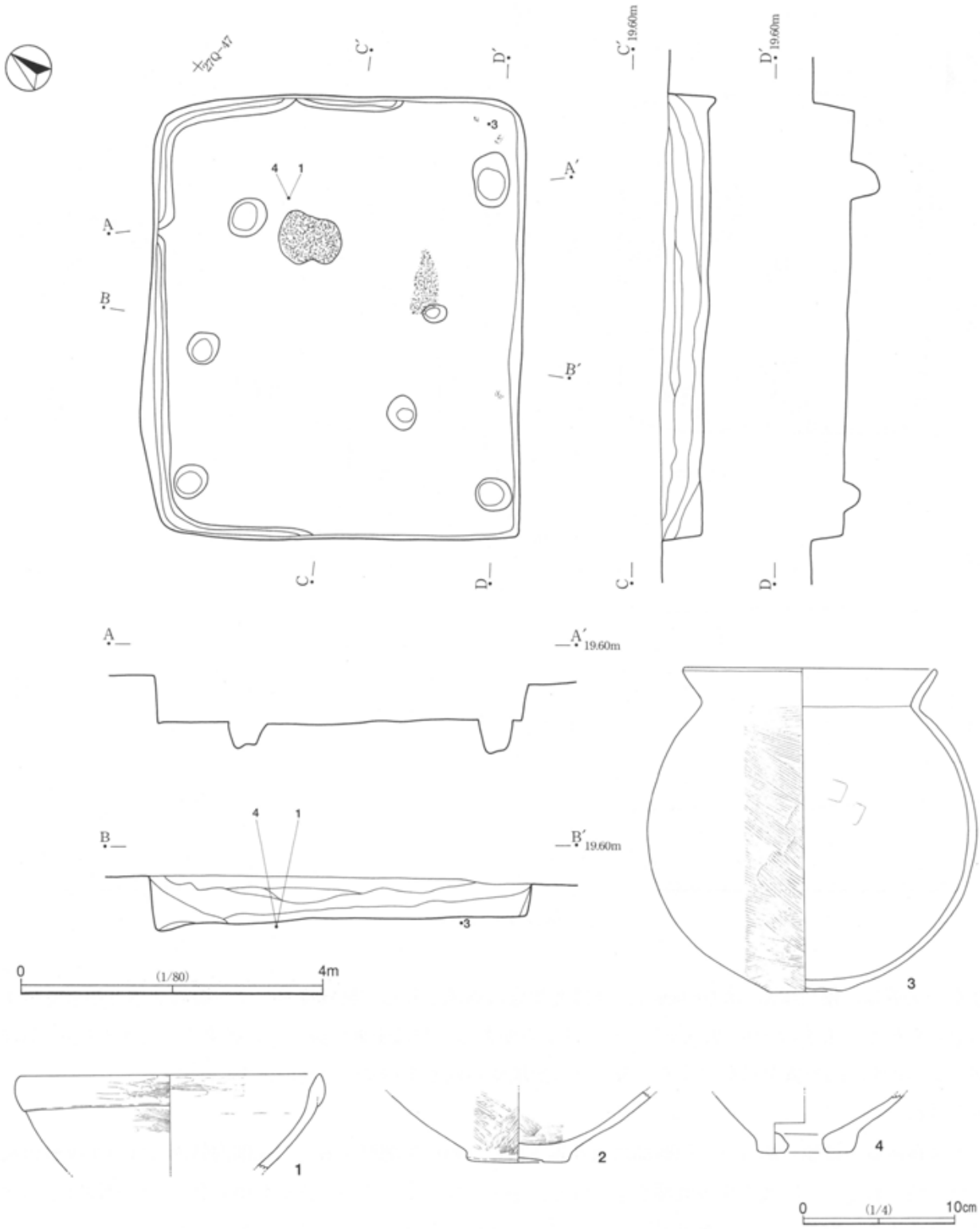
出土遺物

1～3は器台である。1は中空のタイプで，口径と裾形がほとんど同様である。器受け部は鉢状を呈し，



第115図　SI087

台部は長く，内湾しながら開く。上位に4か所の透孔が確認された。2・3は台部片で，3孔の透孔がある。2は外反気味，3は直線的に開く。4は底部が若干突出した壺で，下膨れの胴部となろう。外面はハケ後ミガキ調整が施される。5・6は甕である。5は胴部上位に最大径があり，胴部外面に粗いハケ目後粗いヘラナデを施す。6も胴部上位に最大径を有する台付甕である。口縁部及び台部の開きは少ない。口

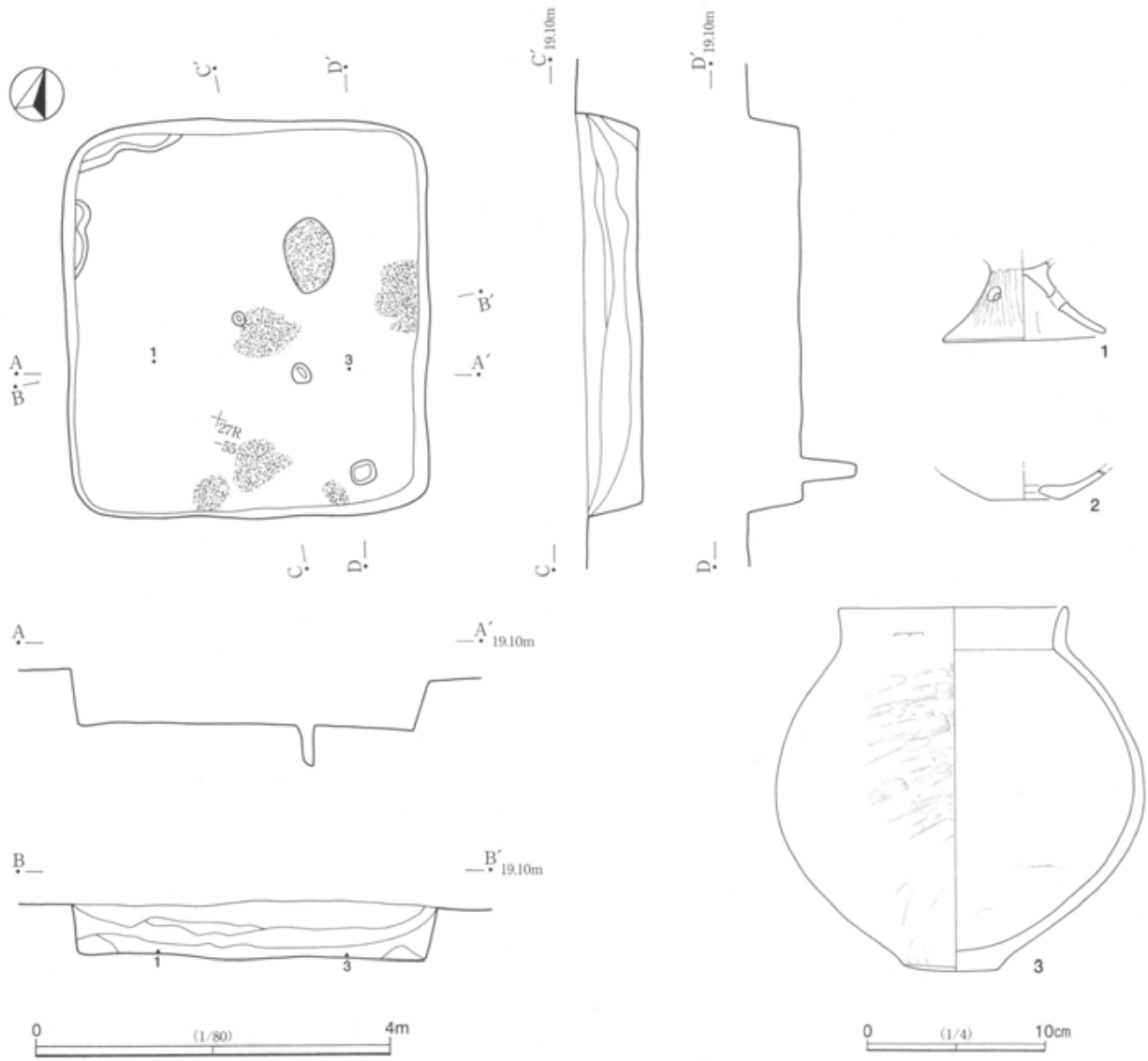


第116図　SI088

縁部内面と外面全面に粗いハケ調整が施される。7は鉢形を呈する手捏ね土器で，全体にナデ調整される。8は土製勾玉である。全体に作りは粗雑である。

SI088（第116図，図版36・62）

調査区東側，27Q－47グリッド付近に位置する。規模は5.8m×5.0m，確認面からの深さ56.0cm～39.0cmを測る。主軸方向はN－37.0°－Wを指し，床面積は約16.1㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体が硬化面と



第117図　SI089

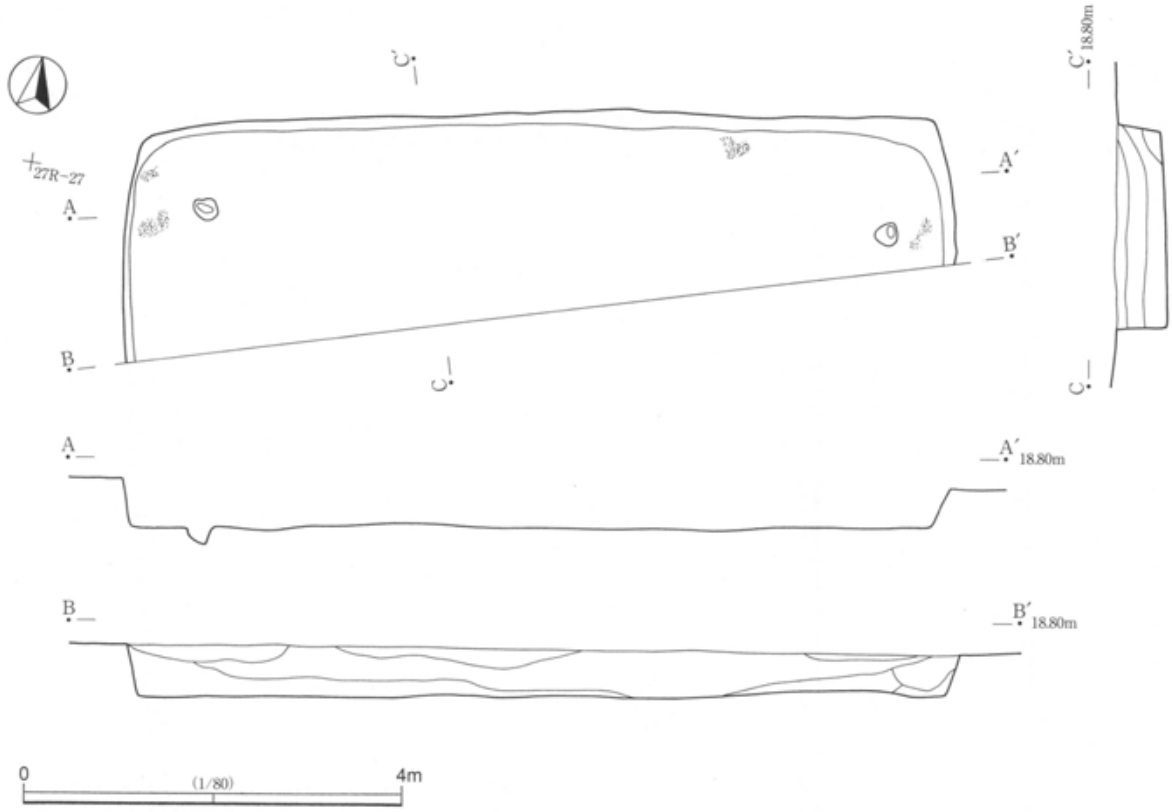
なる。壁溝は，幅13.0cm，深さ6.0cmで，ほぼ北半分に確認される。柱穴はコーナー際に３本と炉近くに１本認められる。深さ43.0cm～21.5cmとややバラツキがある。炉は北東に偏って位置する。長径39.0cm，短径36.0cm，深さ4.2cmの瓢箪形を呈する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

１は鉢あるいは甑であろう。口縁部は折り返されるためやや肥厚する。口縁部内外面にはハケ調整の後ナデが施される。２は突出する底部をもつ壺で，中央が窪んでいる。３は球形胴の甕で，口縁部はくの字状に屈曲する。胴部外面のハケ目が明瞭で，煤の付着が見られる。４は甑の底部である。

SI089（第117図，図版36・62）

調査区東側，27R－56グリッド付近に位置する。規模は4.5m×4.1m，確認面からの深さ62.0cm～54.0cmを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－20.0°－Wを指し，床面積は9.8㎡を測る。床面はほぼ平坦で，ほぼ全面が非常に良く締まった硬化面である。ピットは３本検出されたが性格不明である。炉は北東側に偏って位置する。長径84.0cm，短径57.0cm，深さ3.8cmの楕円形を呈し，被熱による赤化が顕著である。覆土は自然堆積の様相を呈すが，厚さ５cm～10cmの焼土を多く含む層があり，床面直上にも焼土ブロックが



第118図　SI090

検出された。焼失家屋であろう。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は器台の台部で，中位に透孔が3か所認められる。外反気味に大きく開く。2は焼成前の底部穿孔の壺であろう。3は，胴部中位に最大径を有する甕で，口縁部はほぼ直立する。外面はハケ後粗いヘラナデが施される。

SI090（第118図，図版37）

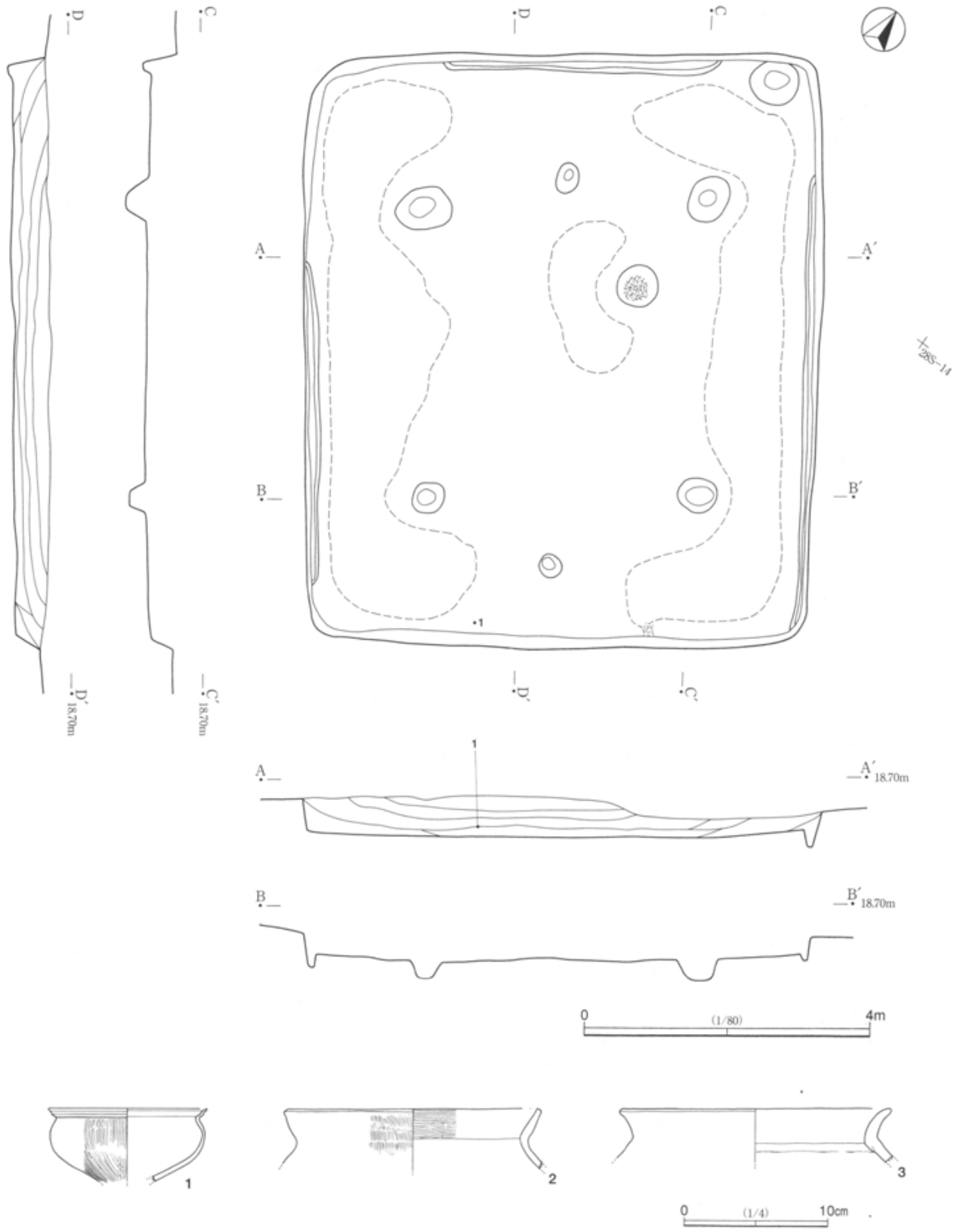
調査区東側，27R－77グリッド付近に位置する。北側一部のみの確認であるが，1辺8.8mを測る比較的大形の住居である。確認面からの深さ52.8cm～44.0cmを測る。主軸方向はN－10.0°－Wを指す。床面はほぼ平坦で，比較的硬質である。ピットは2本検出され，位置的には柱穴の可能性もあるが，径・深さとも小さく，特定できない。壁際の床面から10cm～15cm浮いた状態で焼土ブロックが数か所確認された。図示できる遺物の出土はなかった。

SI091（第119図，図版37・62）

調査区東端，28S－23グリッドに位置する。規模は8.4m×7.2mと大形で，縦長の長方形を呈する。確認面からの深さ64.0cm～28.0cmを測る。主軸方向はN－34.0°－Wを指し，床面積は33.8㎡を測る。床面はほぼ平坦で，硬化面が炉周辺と北東壁際と南西壁際で確認された。柱穴は対角線上に4本検出され，深さ42.6cm～28.4cmとバラツキがある。南東壁中央付近のピットは入り口に伴うものと思われる。炉は北東側に寄った位置で検出された。長径58.0cm，短径56.0cm，深さ5.8cmのほぼ円形を呈し，底面が被熱している。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1～3は甕である。1は小形のS字甕で，全体に扁平である。器肉は薄く仕上げられ，口縁部の開きは



第119図　SI091

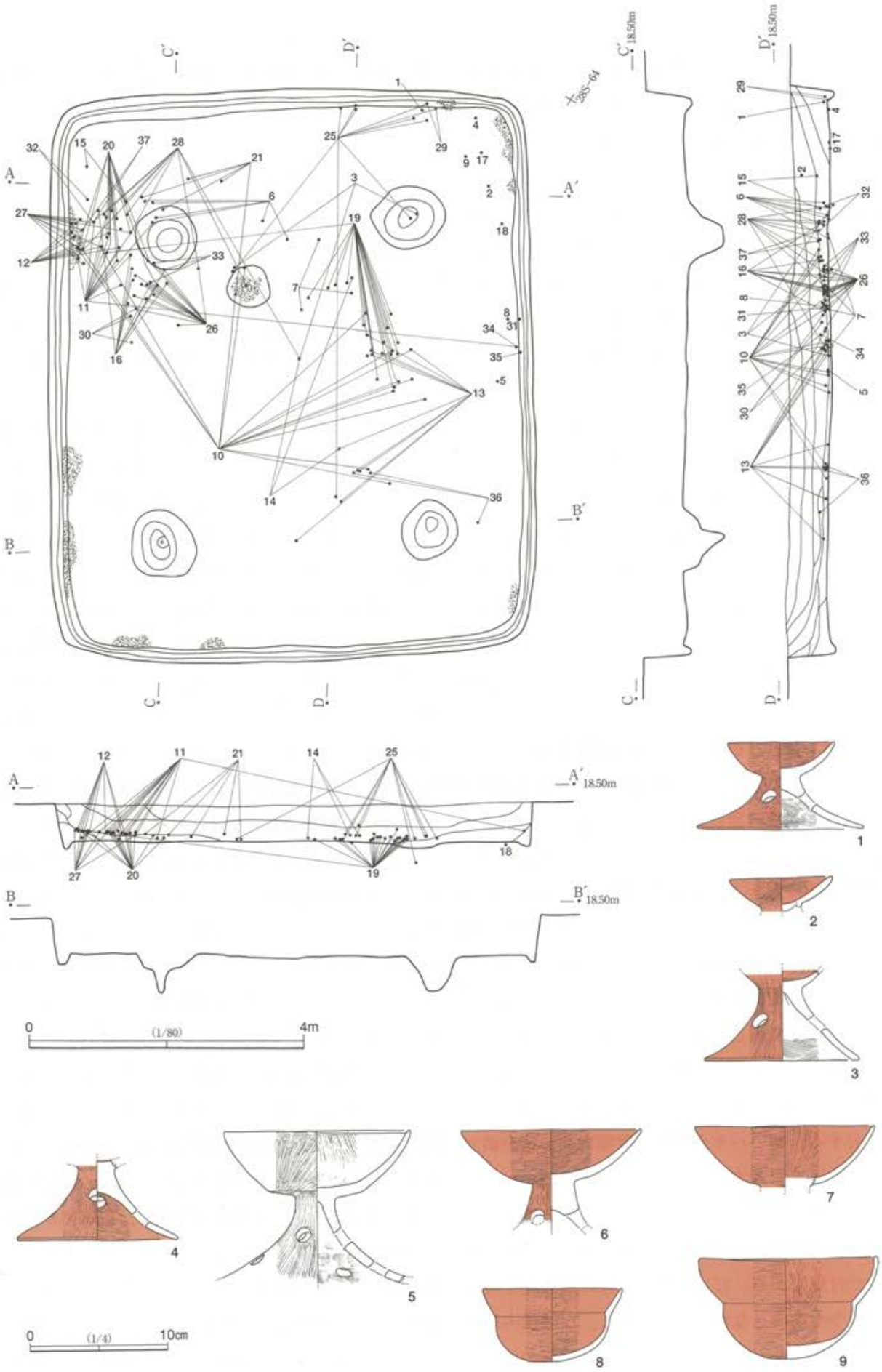
大きい。外面は丁寧にハケ調整される。在地の甕とは胎土が異なり，東海産と思われる。２・３は口縁部片である。２はやや受け口状となり，口唇部が平坦に面取りされる。３は外反気味に大きく開く。

SI092（第120・121・122図，図版37・62・63）

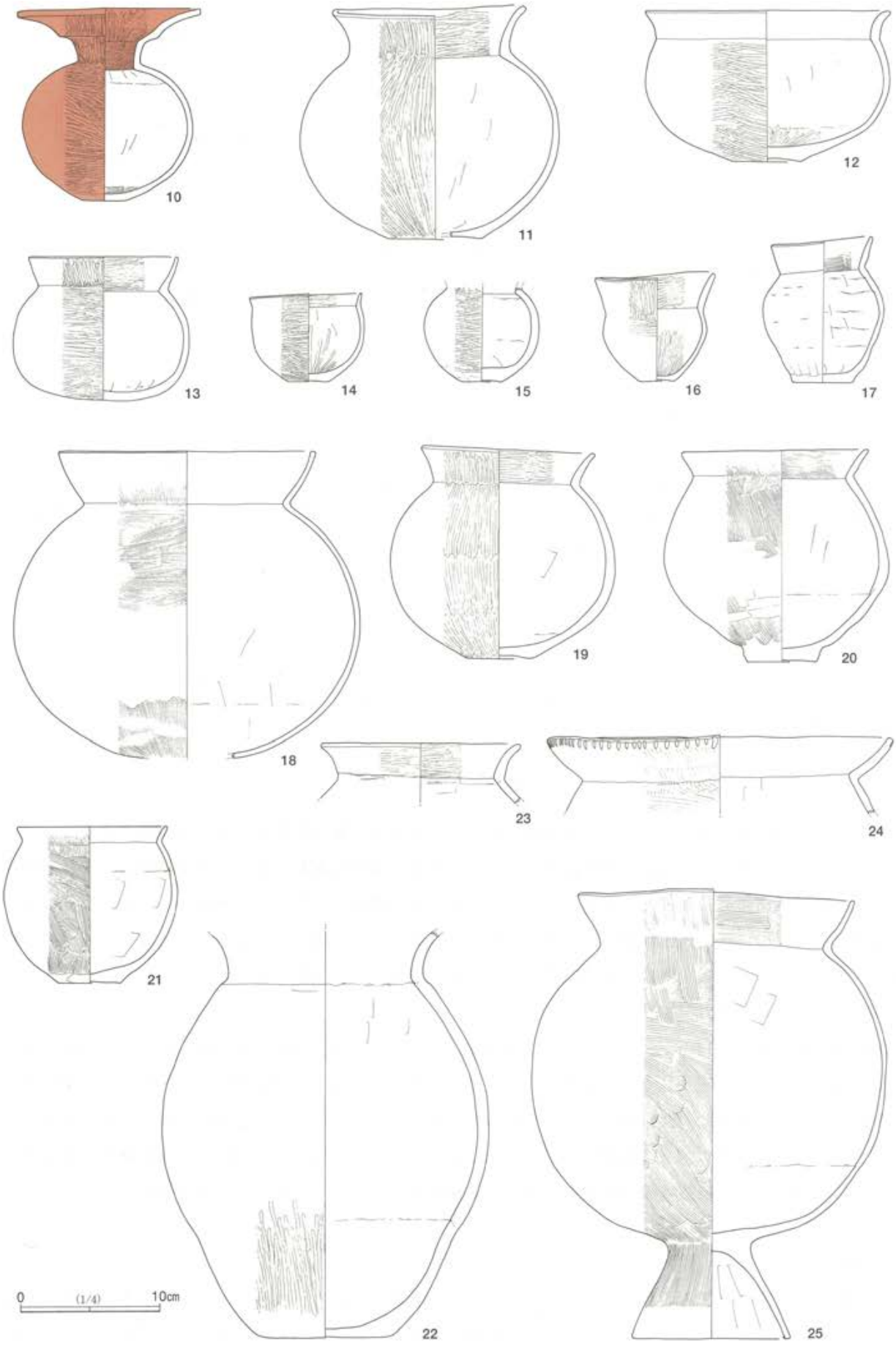
調査区東側，28S－62グリッドに位置する。規模は8.3m×7.1m，確認面からの深さ77.0cm～60.0cmを測り，掘り込みの深い縦長の長方形を呈する。主軸方向はN－56.0°－Eを指し，床面積は31.7㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全面が硬化面となる。柱穴は対角線上に４本検出された。径90cm前後，深さ59.5cm～47.3cmと大形で，２段掘りされる。炉は北柱穴付近に設けられる。長径63.0cm，短径60.0cm，深さ1.9cmを測り，底面がよく焼けている。壁面下に焼土ブロックが点在する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土はきわめて多く，北東側に集中する傾向がある。出土状況は，床面または床面直上からがほとんどである。

出土遺物

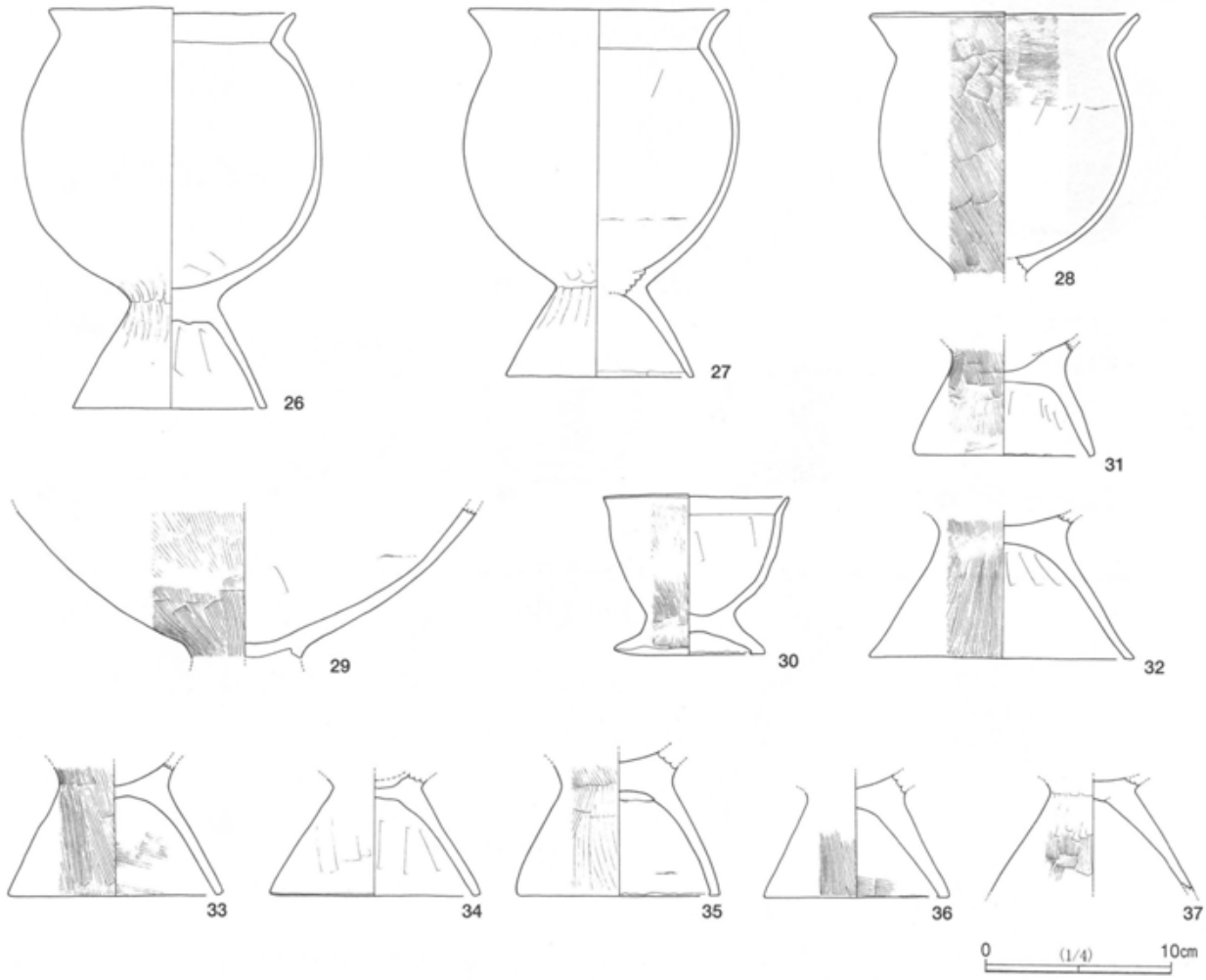
１～４は器台で，いずれも赤彩が施される。１は皿状の器受け部で，台部は外反しながら大きく開く形状である。台部上位に透孔が３か所穿たれ，内外面とも丁寧にミガキ調整される。２の器受け部は，１より直前的になる。台部との接合部分でホゾが残る。３・４は台部である。３は台部中位に透孔が３か所認められ，台部の開きは１より小さく，直線的になる。４は台部上位に４か所の透孔が認められ，１とほぼ同様の形状である。５～７は高杯で，５以外に赤彩が認められ，丁寧なミガキが加えられる。５の杯部は平らな底部から内湾気味に開くのに対し，６・７は浅い半球形状に開くタイプである。５の脚部は外反しながら大きく広がり，上位と下位に交互の位置で３か所ずつ計６か所透孔が穿たれる。８～19は壺である。８の口縁部は直線的に外傾するのに対し，９は明瞭に内湾しながら開くタイプである。いずれも内外面丁寧にミガキ調整され，内外面赤彩される。10は有段口縁の壺である。小さな底部に胴部中位に最大径を持つ球形胴が付き，口縁部は明瞭な稜を形成して大きく外反する。口唇部は平坦に面取りされる。全体に丁寧なミガキ調整が施され，胴部内面以外に赤彩が認められる。11は胴部中位に最大径を有するが，やや扁平となる。胴部内面以外に丁寧なミガキが施される。12は口径と胴部最大径がほぼ同様の形状で，扁平である。口縁部は小さく僅かに外反する。胴部外面にミガキが施される。13は特異な形状を呈する。口縁部は内湾気味に開き，胴部下半に最大径を有するため，扁平な下膨れの胴部となる。外面はハケ調整後ミガキが施される。14～17は小形の壺で，それぞれ形状が異なる。14は広口で，口縁部が小さく外傾する。15は器肉が厚く，球形胴となる。16は口縁部が歪み，胴部上位に最大径を有する。17は作りが粗雑で器形も歪む。胴部上位に最大径のある長胴となり，内外面とも接合痕が目立つ。18は器肉が薄く仕上げられ，丁寧な作りの壺である。胴部中位に最大径を有し，口縁部は内湾しながら立ち上がるため，受け口となる。外面に細かいハケ目が観察される。近江系と思われる。19は上げ底の底部で，胴部下位に最大径を有する。胴部内面以外に丁寧なミガキが施される。20～37は甕である。20は底部が大きく突出し，胴部下位に最大径を有する。粗いハケが残り，胴部内面に接合痕が明瞭に観察される。21は胴部中位に最大径を有し，口縁部は小さく屈曲する。外面のハケ目は細かい。22は特異な形状で，歪んだ長胴となる。器面の荒れが激しいが，胴部下半にミガキが認められる。23・24は口縁部片である。24は特徴的な形状で，口縁部が受け口状に内湾する。口唇部にヘラ状工具による刻みが巡り，粗いハケ目がみられる。近江系であろう。25～28は台付甕である。25は，胴部中位に最大径を有する球形胴となり，口縁部はやや受け口の形態を示す。台部はやや内湾しながら小さく開く。口縁部内面から胴部外面には明瞭なハケ目が残る。26～28は小形となる。26はやや下膨れ胴部に小さな口縁部が付く。台部は若干内湾気味に長く開く。27は胴部上位に最大



第120図　SI092（1）



第121図　SI092（2）



第122図　SI092（3）

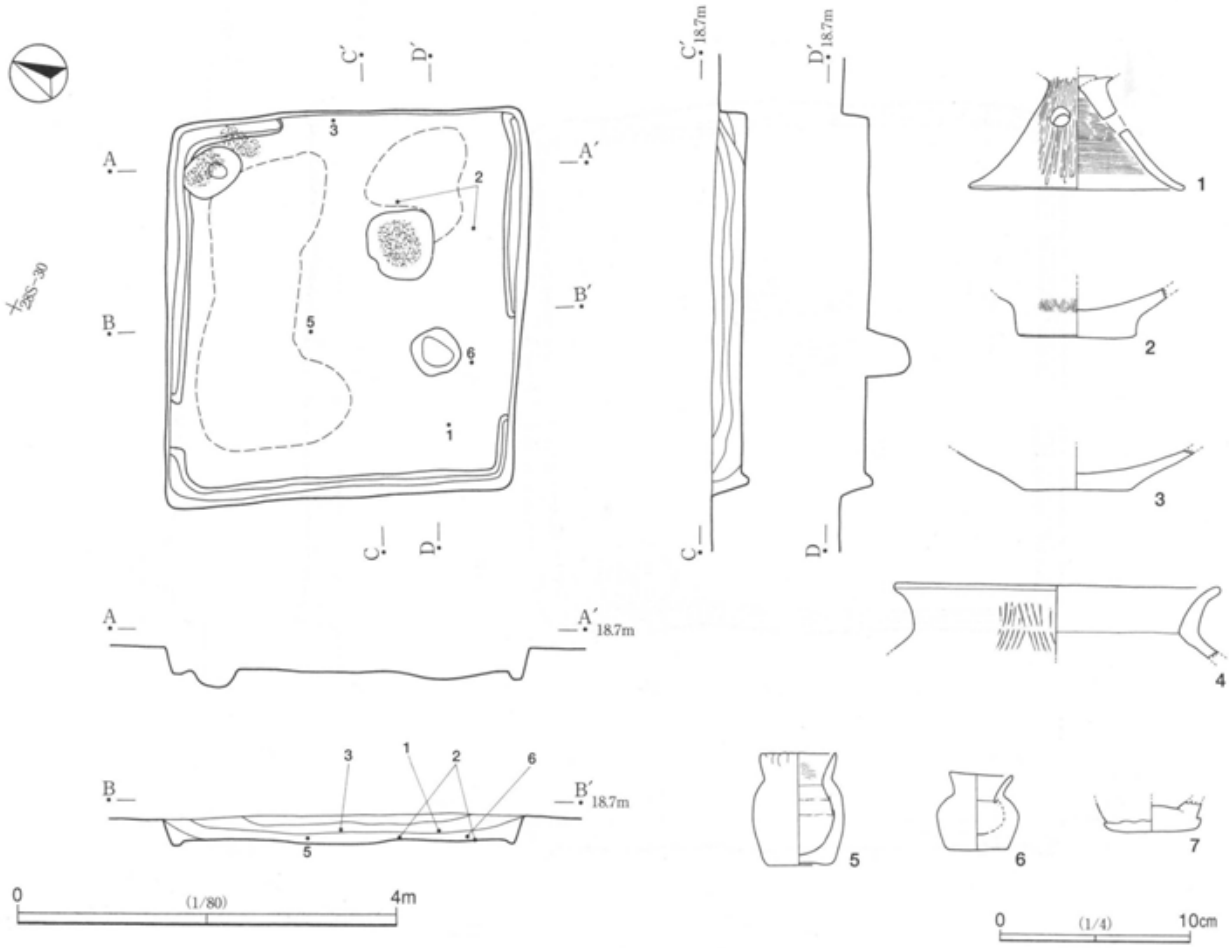
径があり，台部は26と同様の形状で，やや短くなる。2点とも丁寧に内外面へラナデが施される。28は台部を欠く。器肉が薄く，口縁部に最大径を有する。口縁部内面から胴部外面にかけて細かいハケ目が確認できる。29は外面に縦方向のハケが施され，胴部は輪積みの部分で欠損する。30はコップ状の胴部に短い台部が付く特異な形状で，口縁部が短く外屈する。ミニチュアを意識しているかもしれない。31～37は台部で，35・37が内湾気味，他は直線的に開く。34を除いて外面ハケ調整である。

SI093（第123図，図版38・63）

調査区東側，28S－40グリッドに位置する。規模は4.1m×3.8m，確認面からの深さ43.0cm～28.0cmを測る。主軸方向はN－64.0°－Eを指し，床面積は7.9㎡と小形である。床面はほぼ平坦で，炉の東側と北側に硬化面が確認された。壁溝は，部分的に途切れながらもほぼ全周する。ピットは2本検出されたが，性格は特定できない。炉は南東に偏った位置に設けられる。長径72.0cm，短径70.0cm，深さ5.0cmを測り，底面がよく焼けている。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物量は少ないが，ミニチュア土器が底面近くから出土している。

出土遺物

1は器台の台部片である。裾部で外反し，上位に3か所穿孔される。内面ハケ，外面丁寧なミガキが施される。2・3は壺の底部であろう。4は甕の口縁部片で，口唇部で外方向に摘み出される。5～7はミ



第123図　SI093

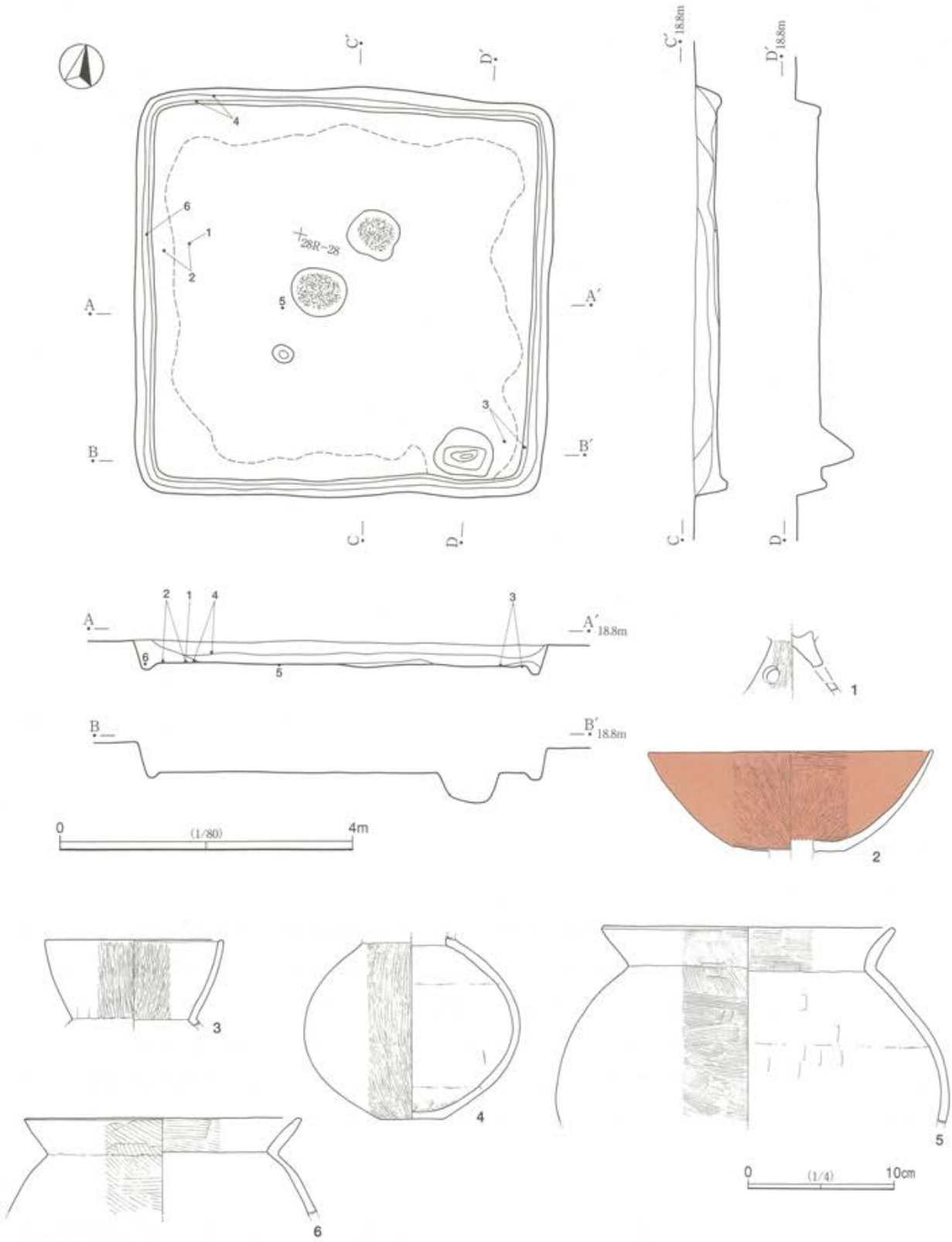
ニチュア土器である。

SI094（第124図，図版38・63）

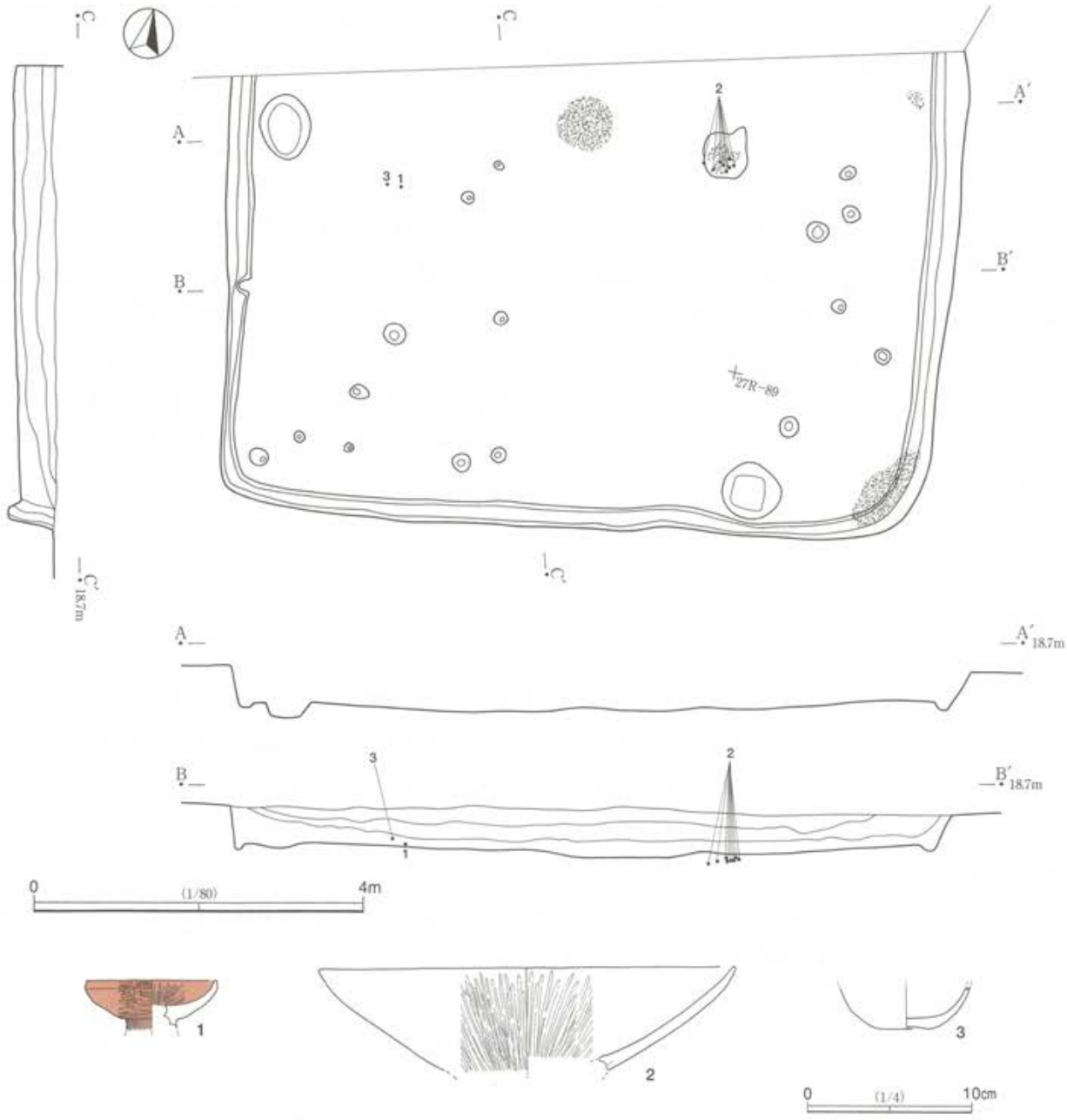
調査区東側，28R－28グリッドに位置する。規模は5.7m×5.5m，確認面からの深さ44.8cm～34.8cmを測る。主軸方向はN－13.0°－Wを指し，床面積は16.3㎡を測る。床面はほぼ平坦で，壁際を除いて硬化面が広がる。壁高は，幅15cm前後で全周する。ピットは2か所確認された。南東コーナーのピットは貯蔵穴であろう。長軸50.0cm，短軸46.0cm，深さ21.0cmを測る。炉は中央とやや北東側の2か所で検出された。中央は，長径77.0cm，短径64.0cm，深さ2.2cmを測り，北東側は，長径77.0cm，短径65.0cm，深さ9.7cmを測る。いずれも底面がよく焼けており，作り替えられたものと思われる。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土はは少ないが，床面からがほとんどである。

出土遺物

1は器台片である。台部上位に透孔が3か所穿たれる。2は高杯の大形杯部である。杯部は内湾気味に大きく開き，内外面ともミガキが施され，赤彩される。ただし，二次的に火を受けているため器面の荒れが著しく遺存状態は良くない。3・4は壺である。3の口縁部は僅かに内湾しながら立ち上がるり，内外面丁寧なミガキが施される。4は胴部中位に最大径を有し，底部内面にハケ目が認められる。外面は丁寧にミガキ調整される。5・6は甕である。5は球形の胴部と思われ，口縁部内面から胴部外面に細かいハケ調整が施される。6の口唇部は平坦に面取りされ，粗いハケ目が認められる。



第124図　SI094



第125図　SI099

SI099（第125図，図版38）

調査区東端，27S－70グリッド付近に位置する。北側2/3程が調査区域外となるが，東西長8.9mを測る大形の住居である。確認面からの深さ56.4cm～20.6cmを測り，主軸方向はN－74.0°－Eを指す。床面はほぼ平坦で，現存部分はすべて硬化面である。ピットは多数検出されたが，小規模のピットが柱穴となる可能性がある。南壁東側のやや大きなピットは貯蔵穴かもしれない。炉は中央より北に偏った位置に設けられる。長径63.0cm，短径60.0cm，深さ1.9cmのほぼ円形を呈し，内部に焼土が堆積する。覆土は自然堆積の様相を示す。遺物の出土は少ない。

出土遺物

1は器台である。小さな皿状の器受け部で，丁寧なミガキが施され，赤彩される。2は大形の高杯の杯

部片である。直線的に大きく開き，端部で僅かに摘み上げられる。内面ミガキ，外面ハケ後ミガキ調整が認められる。3は上げ底の壺で，内面の摩耗が著しい。

第2節　竪穴住居跡出土鉄器（第126図）

本遺跡からは，点数は多くないものの鎌などの鉄製品が出土している。出土遺構の分布は比較的限定され，便宜的に分割したA区・B区に集中し，時期的にはⅡ期からⅢ期がほとんどである（第135図参照）。

1は完形の直刃鎌で，SI099からの出土である。全長12.4cm，基部での最大幅3.6cmを測る。基部の折り返しは小さい。全体に薄手の造りで，研ぎ返しによる刃部の減りは少なく，それほど使用されていないようである。2は鎌の先端部であろうか。SI044からの出土である。1とは形状が若干異なる。3はSI039，4はSI081からの出土であるが，全容は不明である。鎌の一部の可能性もある。5はSI024出土の鉄鏃である。平根の三角形鏃で，抉りは深く，翼部が大きく広がる形状である。全体に薄手の造りで，鏃身部が両丸造りとなる。6は刃子の身部片である。全体に細身で薄い。7～9は幅の小さい板状の鉄製品で，用途は不明である。7は先端部が細くなっており，茎の部分かもしれない。

第3節　土坑

SK057（第127図）

調査区中央，29N－52に位置し，SI011の掘削中に検出された。径2.9mの隅丸方形を呈しており，確認面からの深さ0.9mである。住居の床面に本遺構の覆土として，黒褐色および暗褐色土が検出された。土坑の壁および底面は硬質化したロームである。壁が底部にかけて，緩やかに傾斜している。遺物の出土はない。

SK061（第127図）

調査区中央，29N－45付近に所在する。径1.2mの隅丸方形を呈している。確認面からの深さは，0.4mを測る。SI023を検出中に本遺構を検出した。出土遺物はない。

SK084（第127図）

調査区西端，28M－00付近に所在する。長径1.1m，短径0.5mを測る，瓢箪型を呈している。確認面からの深さ0.3mを測る。出土遺物はない。

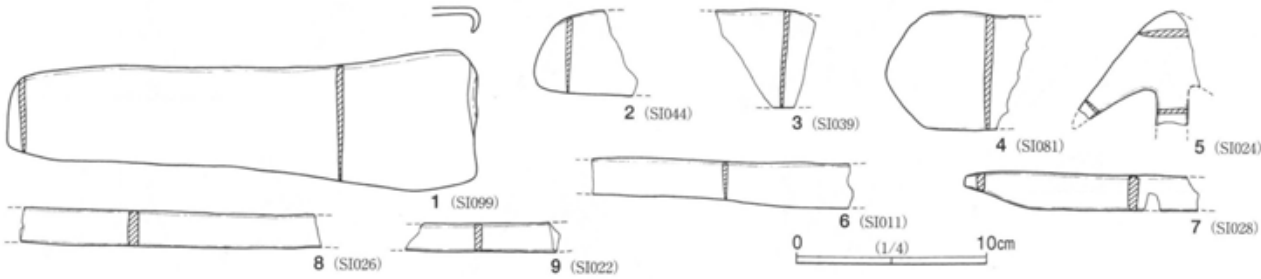
SK100（第127図）

調査区中央，28P－00付近に所在する。長径1.7m，短径1.3mの方形を呈している。確認面からの深さ0.9mを測る。遺物の出土はなかった。

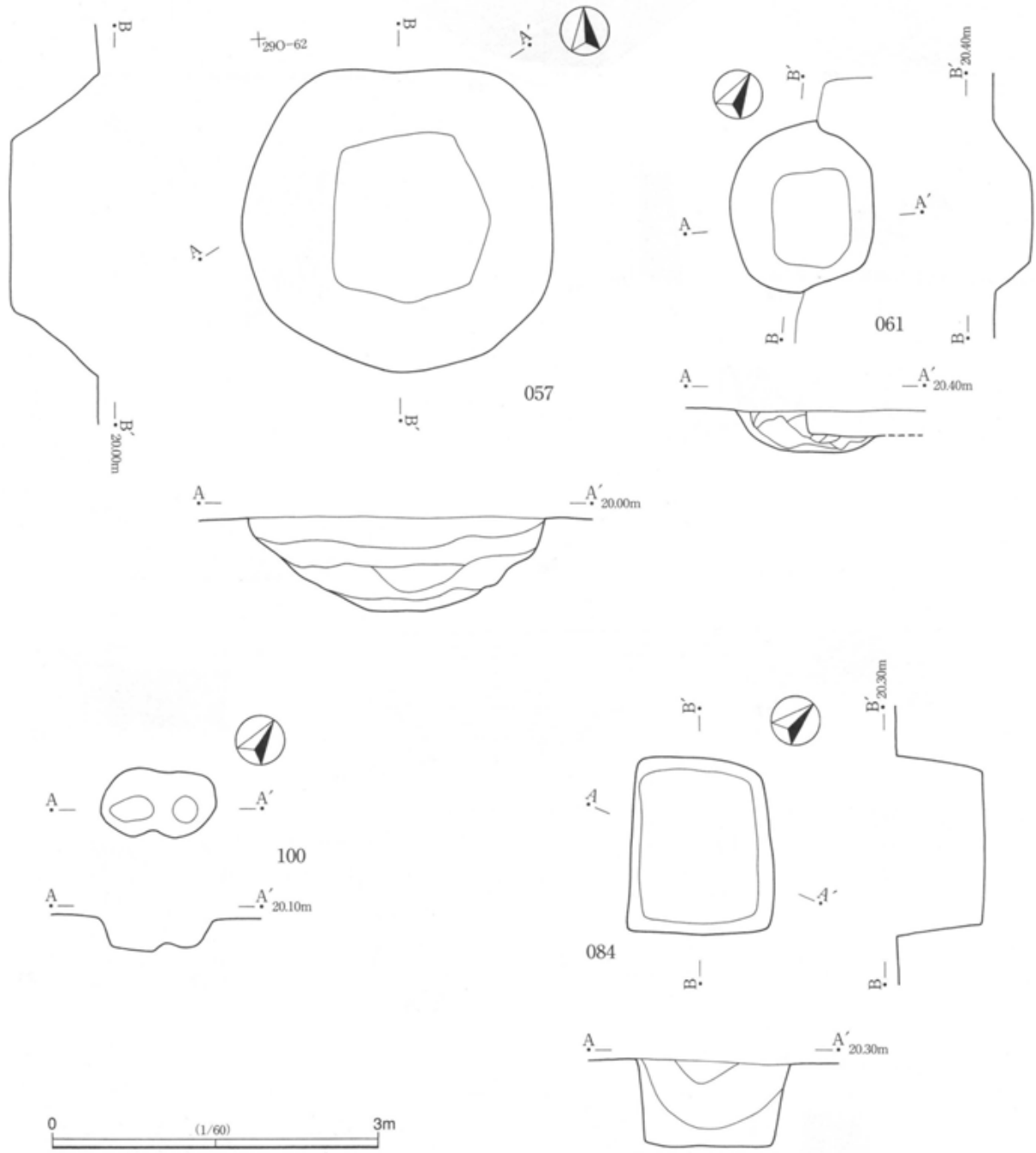
第4節　遺構外出土遺物（第128・129・130図，図版63・64・65）

遺構外から多くの土器が出土しているが，特に27N－74グリッドを中心にミニチュア土器や手捏ね土器が集中して検出されており，祭祀的な行為が行われたものと思われる。現地で分布図が図化されていないためここでは図示できなかった。

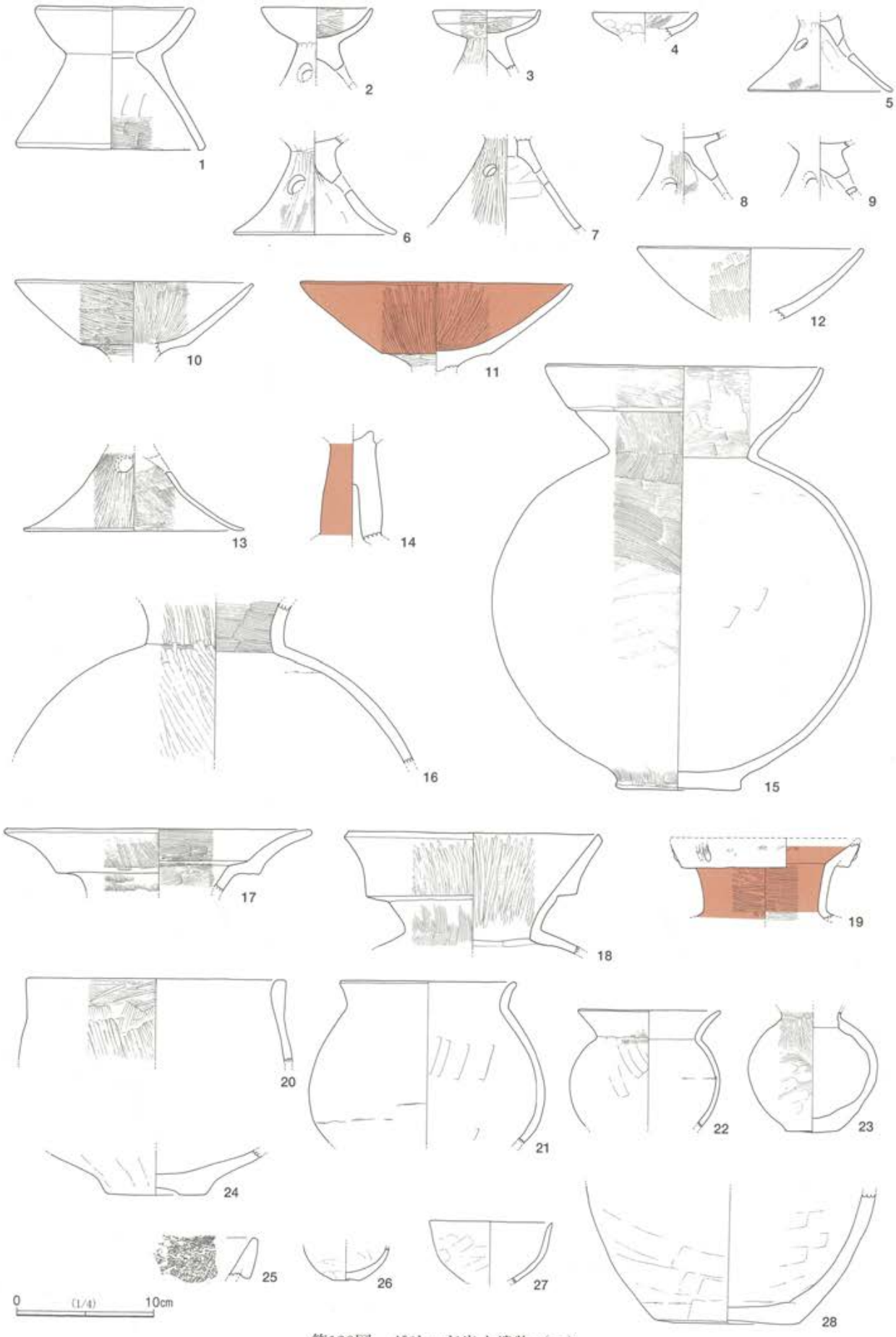
1～4は器台，5～9は器台及び高杯の脚部である。1は中空の器台で，全体にナデ調整されるが，裾部内面にはハケ目が残る。2～4は器受け部の形状が異なり，1は椀状，2・3は口縁部が短く直立する。それぞれミガキ調整される。5～9には3か所の透し孔が開けられる。10～14は高杯の杯部及び脚部であ



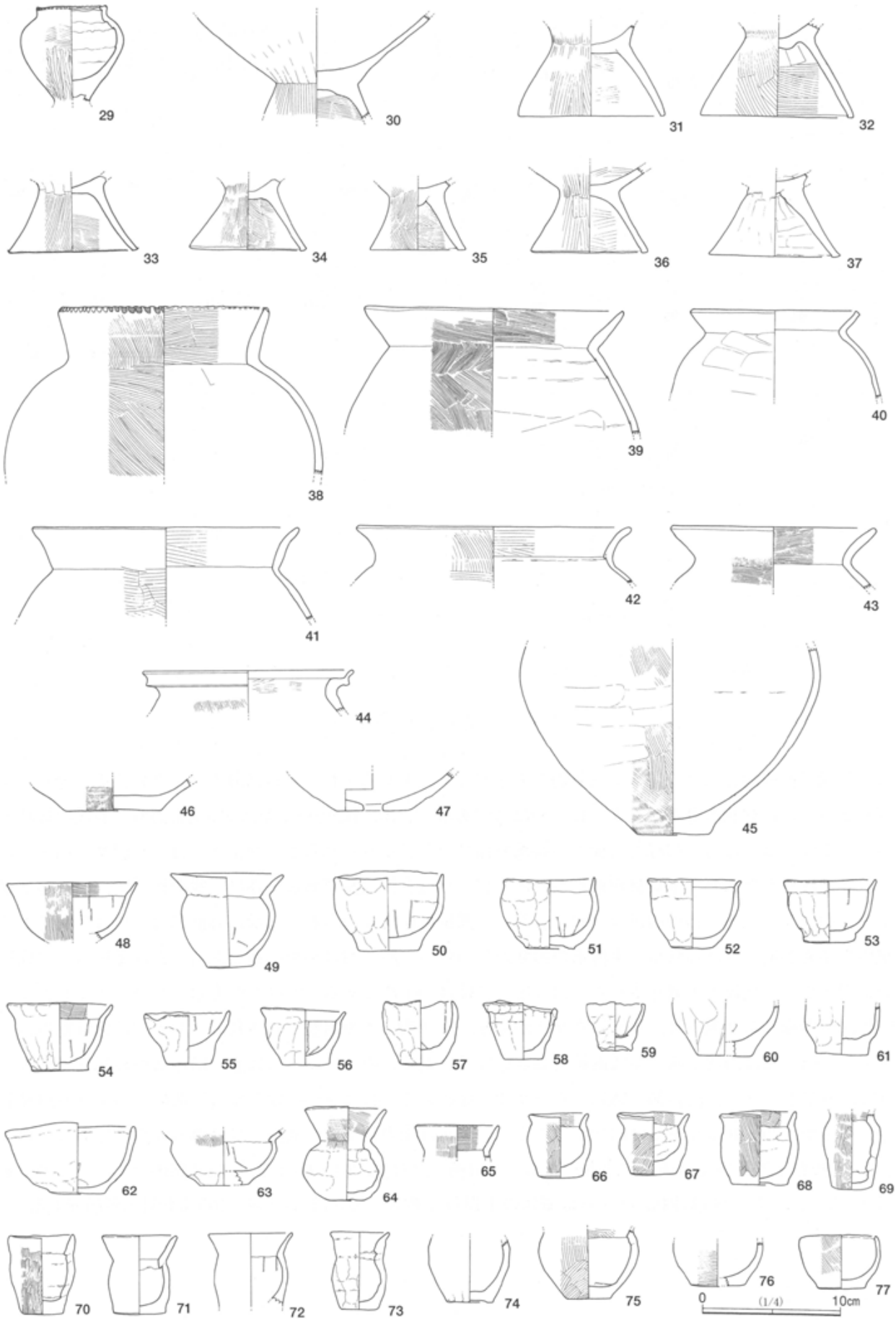
第126図　竪穴住居跡出土鉄器



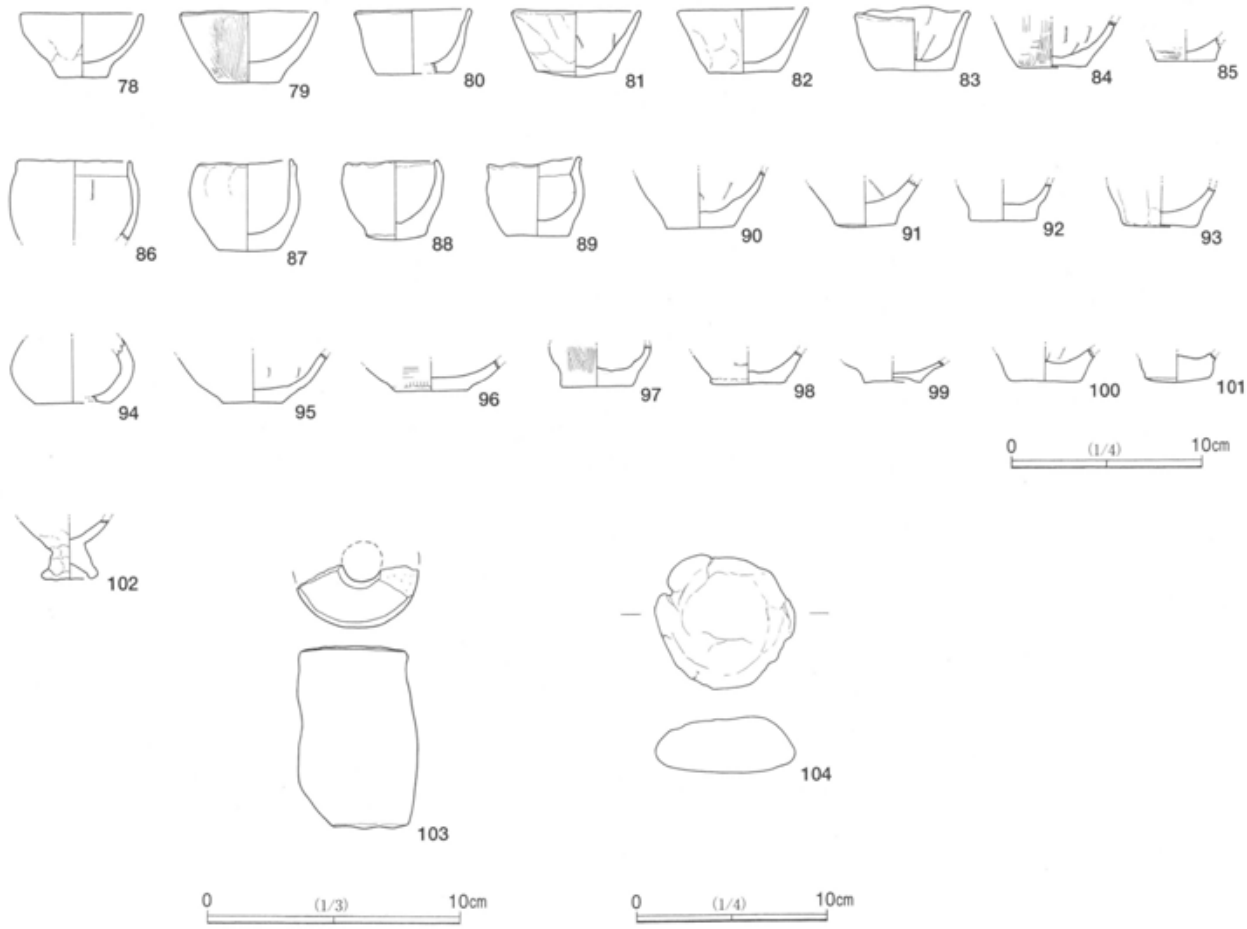
第127図　SK057・061・084・100



第128図　グリッド出土遺物（1）



第129図　グリッド出土遺物（2）



第130図　グリッド出土遺物（3）

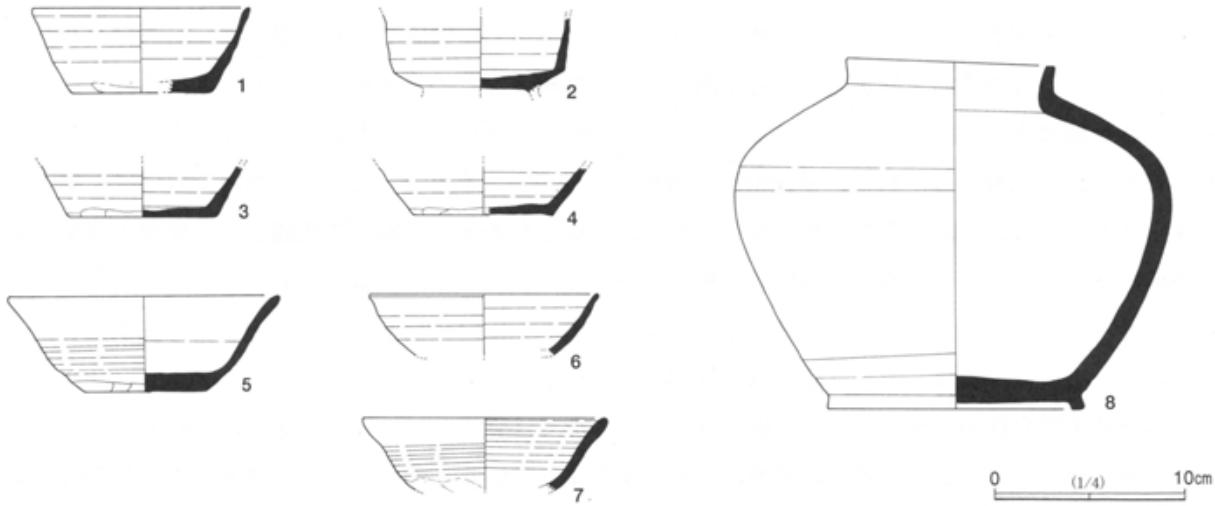
る。体部は直線的に大きく開き，内外面とも丁寧なミガキが施される。13は薄手で，高い位置に透し孔が存在する。14は柱状の脚部である。15～19は壺である。15は口径20.0cm，器高30.8cmを測る。有段口縁状を呈し，受け口状となる。口縁部内面から胴部外面にハケ目がみられるが，胴部下半はナデ調整が加えられる。底部はやや突出し，木葉痕が観察される。17～19は有段口縁である。18は丁寧な作りで，口唇端部が平坦に面取りされる。19の口縁部外面と肩部には櫛描波状文が施され，口縁部外面には単位は不明であるが棒状浮文が貼り付けられる。東海系の影響が伺われる。21～23は小形の壺である。23は手捏ね状で成形が雑である。ハケ後ナデ調整される。24は坩，25は鉢の小片である。29は台付甕のミニチュアであろう。口唇部が内面に折り返され，頂部にキザミが巡る。ハケ後ミガキ調整が施される。30～37は台付甕の台部である。31・32は内湾気味，他は直線的あるいは外反気味に開く。38～44は甕の口縁部から胴部である。38は口縁部が直立し，口唇部に縄によるキザミが施される。44はS字口縁となる。他はくの字状の口縁形態であるが，39・40はやや受け口状を呈する。45・46は甕の胴部から底部，47は甑の底部片である。49～103は手捏ね土器及びミニチュア土器である。49は椀，50は甕，64・65は壺，103は高杯のミニチュアであろう。51～63，77～90は鉢状，66～74は壺状の手捏ねである。103は管状土錘，105は不明土製品である。

第４章　奈良・平安時代

本遺跡からは当該期の遺構は検出されなかった。

第１節　遺構外出土土器（第131図，図版65）

すべて須恵器である。１は高台付の杯で，箱形を呈する。２～４は底径の大きな杯で，体部が直線的に開くタイプである。５・６は口縁部がやや肥厚して外反するタイプで，ロクロ目が明瞭に残る。８は完形の短頸壺で，口径10.8cm，器高18.6cmを測る。胴部下端から底部にかけて回転ヘラケズリが施され，口縁部から肩部にかけて自然釉が観察される。蔵骨器と思われ，出土グリッドが同一の５の杯を蓋として利用したものと推測される。



第131図　遺構外出土土器

第5章　まとめ

第1節　　出土土器と集落の変遷

本遺跡からは，90軒の竪穴住居跡より多くの土器が出土している。古墳時代前期のみの大規模な集落であるため，出土土器の変化が乏しく，時期的な変遷を明確に呈示することは難しいが，各器種の形態的変化や竪穴住居跡の分布状況などから総合的に判断し，宮尻遺跡Ⅰ期からⅣ期に分類した。以下で，土器や集落構成の変化を追いながら概観し，そこから本集落の特徴を呈示してみる。

なお，竪穴住居分布については，視覚的にみえる集中範囲を説明の都合上A～D群に分ける。

宮尻Ⅰ期

竪穴住居：004・007・010・022・028・039・041・054・085・088　合計10軒

この時期の基本的なセットとしては，東海の影響を受けた小型器台，小さな脚部が付く元屋敷系の高杯，スカート状の脚部が付く高杯に，台付甕及び複合口縁の壺などで構成される。壺には，SI054やSI079のように弥生時代からの系譜を継承していると思われる羽状縄文などの文様帯がみられ，Ⅱ期以降には存在しない。弥生時代からの系譜という点では，SI007やSI085に含まれる高杯も同様である。あまり類例のない器形であるが，系統からすれば，愛知県川原遺跡で分類された高杯Rに近い[1]。報告では川原上層Ⅰ－2～Ⅲ－1期にみられるが，かなり形骸化しており，宮尻Ⅰ期の他の土器の年代観から，廻間Ⅰ式後半からⅡ期前半と考えたい。元屋敷系の高杯は，脚部が小さく，内湾気味か直線的に開く。小型広口壺も当初からセットとして含まれる。台付甕にはバリエーションがあり，口縁部が直立するものや外反するものが認められる。小型台付甕は，短く外傾する口縁部に最大径を有する。

この時期の竪穴住居の分布はA～C群にみられ，A群では集中して3軒，B群では2軒ずつセットのような状態で分布している。C群では東側に3軒がまとまっている。弥生時代の系譜を有する壺を出土する竪穴住居はA群にあり，本群の竪穴住居の規模が他の群よりも大きいことから，Ⅰ期の中心的な群はA群にあったものと思われる。本遺跡の北側には西初石五丁目遺跡が調査されており，まだ未整理であるが本遺跡と同一の集落と考えられる。

宮尻Ⅱ期

竪穴住居：002・003・005・006・008・013・015・017・020・023・026・030・032・033・034・035・043・046・050・051・053・056・058・063・065・073・074・075・077・078・080・083・086・087・089　合計35軒

この時期になると，新たに小型丸底坩が僅かながら姿をみるようになる。外来形の土器をあげてみると，SI005から出土した大廓式土器は，口縁部片のみであるが，渡井・竹内分類による2類，口縁部等のB類に相当すると思われる[2]。その年代観は，大廓式土器が広く波及するようになる大廓Ⅲ式期と考えられる。SI080のS字口縁甕も小片であるが，赤塚編年B類[3]の新相，廻間Ⅱ式3～4段階に相当しよう。北陸系の装飾器台は，全容が明らかではないが，逆三角形状に近い透し孔を有し，口縁部下の突出部が明瞭であることから，北陸の古府クルビ古相，田嶋編年の漆町7群段階[4]に相当する。草刈編年ではⅠ期後半の時期に当たり[5]，県内では，市原市辺田古墳群・御林跡遺跡130号遺構（竪穴住居跡）からほぼ同様の形状を示

す器台が出土している。また，口唇部内面に稜を有して受け口状となる甕は，近江系というより，伊勢湾周辺のいわゆる受け口状口縁甕のプロポーションに近似する。比田井氏分類によるC3類[6]の新相に近いがさらに形骸化する口縁形態であり，廻間Ⅱ式後半頃であろう。

器台では，Ⅰ期に比べて脚部が相対的に大きくなり，裾部でやや大きく外反するタイプが多くなる。元屋敷系高杯は，脚部がⅠ期に比べると若干大きくなり，外反傾向となる。この時期になると，元屋敷系高杯に加えて裾径が口径より大きくなる，いわゆる小型高杯が出現してくる。壺では，複合口縁壺に加えて，いわゆる坩状を呈する素口縁の壺がセットに含まれてくる。無台の甕及び台付甕は，Ⅰ期に比べてやや長胴となり，口縁部もくの字状に屈曲するタイプがセットとして存在してくる。また，小型台付甕は，口縁部がやや長くなり，胴部に最大径を有するようになる。甑は，鉢状・広口壺状・Ⅰ期にみられた甕状とタイプが異なる。

竪穴住居数はⅠ期に比べて急激に増加する。分布は，Ⅰ期のA～C群に数多くみられるようになる。

宮尻Ⅲ期

竪穴住居：001・009・011・014・016・019・021・024・027・032・036・037・038・040・044・047・049・052・055・059・060・066・067・068・069・071・076・079・081・092・093・094　合計31軒

この時期は，基本的にⅡ期の傾向を踏襲している。器台は，台部の長大化傾向がさらに進み，元屋敷系の高杯の占める割合が少なくなる。一方，小型高杯は器台同様脚部が相対的に大きくなるようである。小型丸底壺は，前期に比べて口縁部と体部の変換点が明瞭となる。甕類の形状はⅡ期とそれほど変わらないが，口縁部のくの字化が主体を占めるようになる。小型台付甕は，前期までは大型台付甕と異なる系譜であったものが，この時期には大型と相似形になる。外来系の土器もいくつか認められる。S字口縁甕は，口縁部の外傾角度がさらに大きくなり，赤塚編年C類，廻間Ⅱ式4段階からⅢ式2段階頃までの資料と思われる。北陸系の装飾器台は，判断に苦しむ資料であるが，小見川町阿玉台北2期に類似した資料があり，草刈Ⅱ期前半と併行関係になる。北陸編年の古府クルビ新相，漆町8群となろう。SI092出土の丸底の甕は，内湾する口縁部を有しており，胴部上位に横位のハケ目，内面ヘラケズリ調整の特徴から布留甕として捉えることができる。形態的には完全な球形胴を呈していることから，米田編年の布留Ⅰ期[7]に相当すると考える。

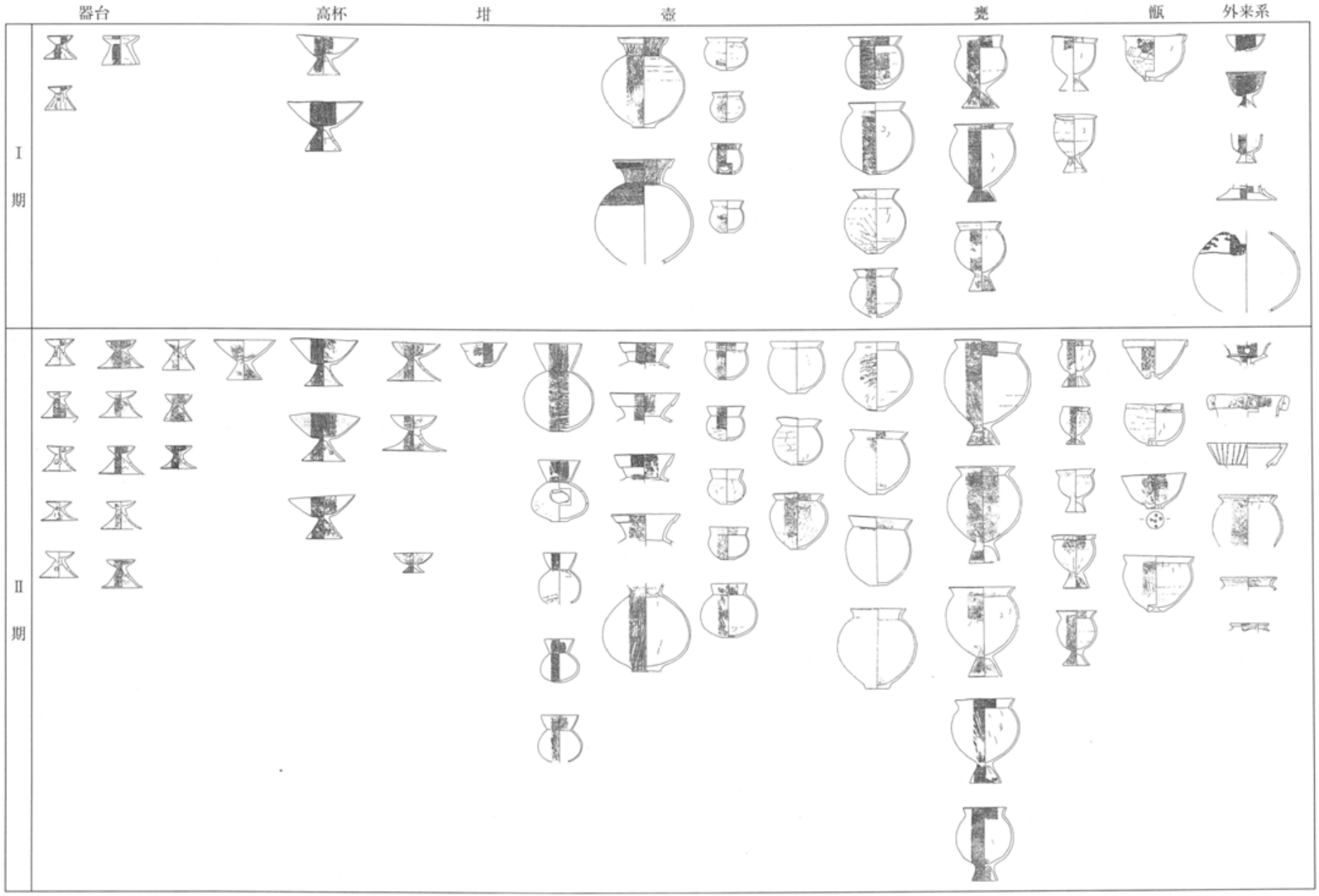
竪穴住居数はⅡ期とほぼ同様の多くの軒数が存在するが，D群に3軒分布するようになる。

宮尻Ⅳ期

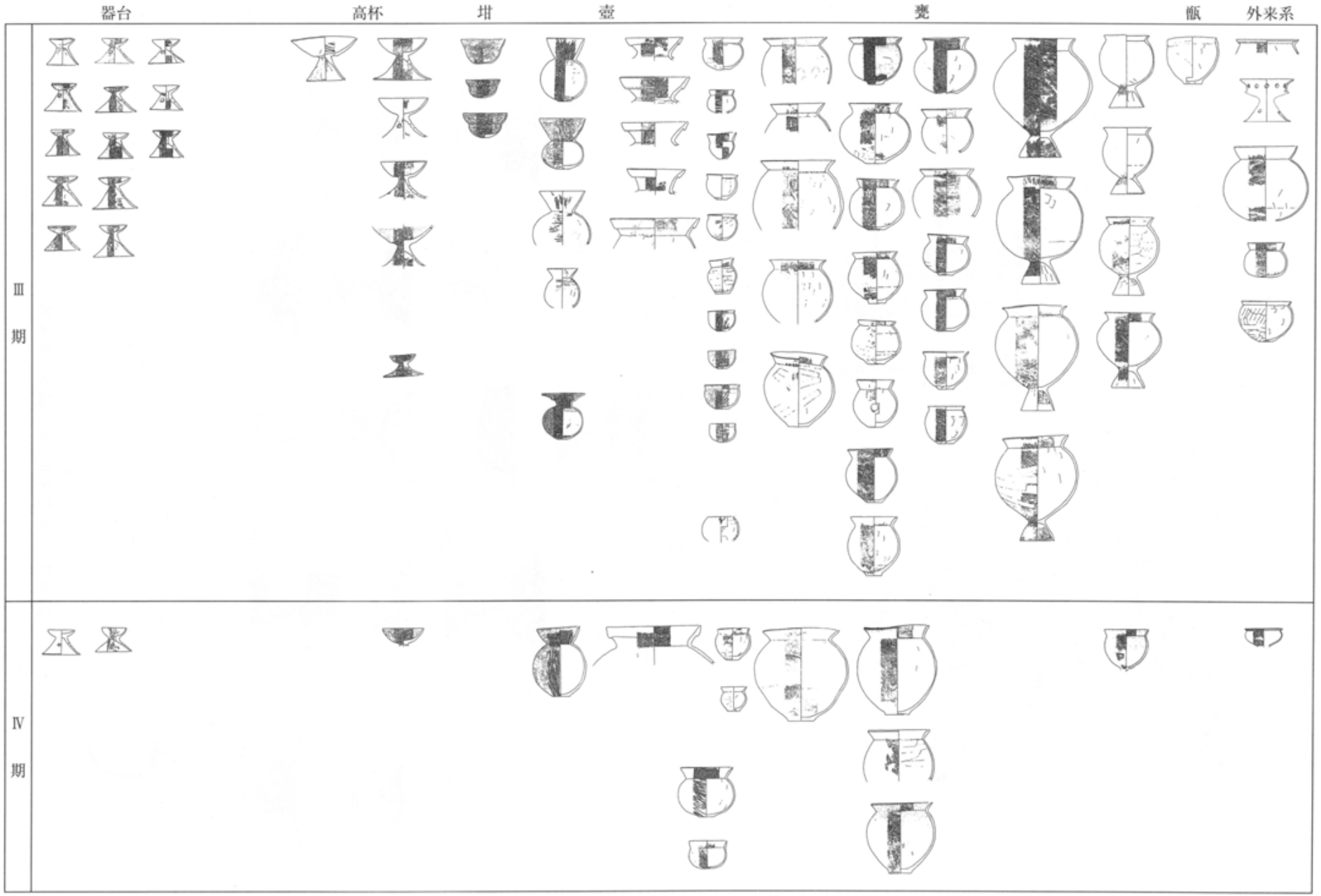
竪穴住居：012・025・029・031・042・045・048・062・082・091・099　合計11軒

軒数の減少とともに資料数も少なくなる。前期までみられた元屋敷系の高杯が姿を消し，主体的な存在であった台付甕も減少してくる。ただ，本期以降にみられる柱状脚部をもつ高杯は出現していない。前期との形状の変化が認められるのは無台の甕で，球形胴がなくなり，長胴化してくる。外来系の土器も少なく，SI091から出土したS字口縁の甕がみられるのみである。鉢状の扁平な器形で，口縁部の外傾度がⅢ期にくらべてさらに強くなる。S字甕C類となり，廻間Ⅲ式の2段階前後と考えられる。

竪穴住居はⅢ期の分布を継承するようにA・B群にみられ，軒数的にはB群に5軒と最も多いが，A群も含めて小規模な竪穴住居が主体である。一方，D群の軒数は2軒と少ないが，いずれもかなり大型で，規模からすると中心的な群と考えられる。整理中ではあるが，本遺跡の南東側で調査された同一台地上の市野谷入台遺跡では，古墳時代前期後半から中期にかけての集落が調査されており，集落が東側に向かっ

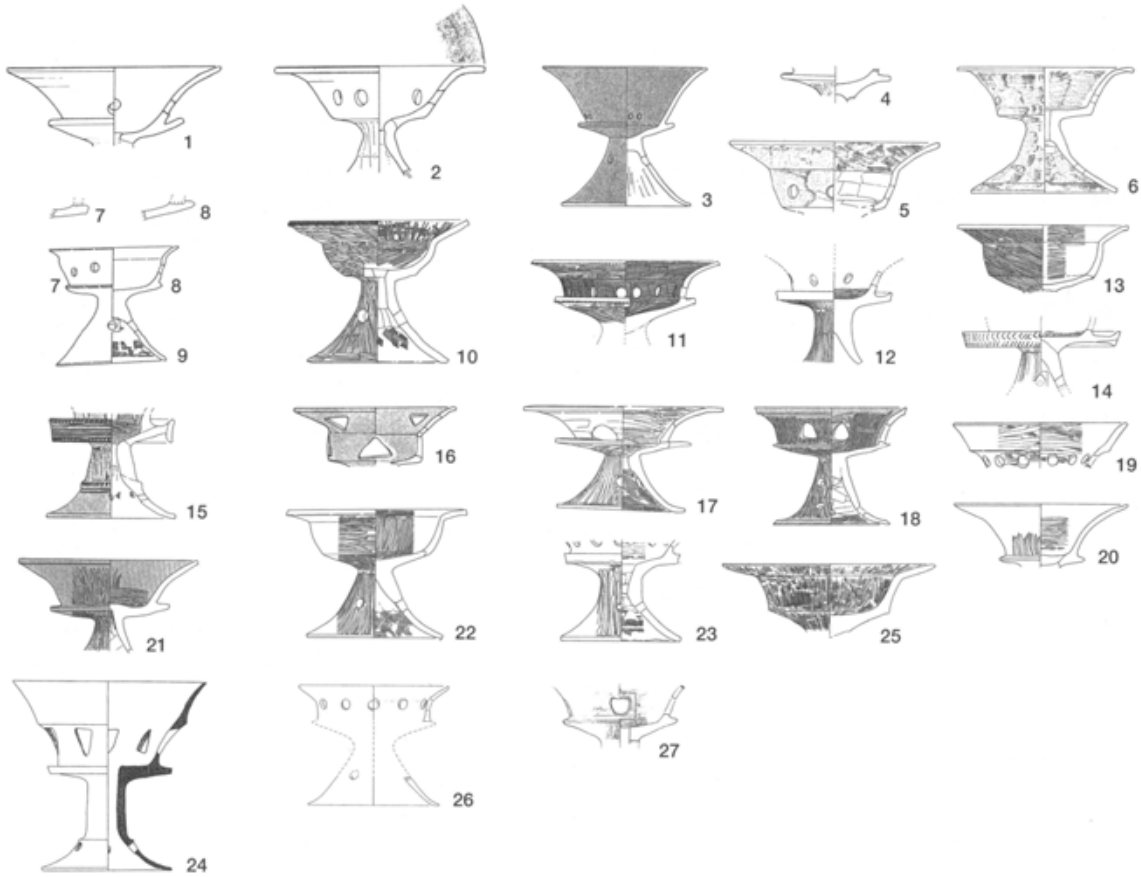


第132図　出土土器変遷図（1）

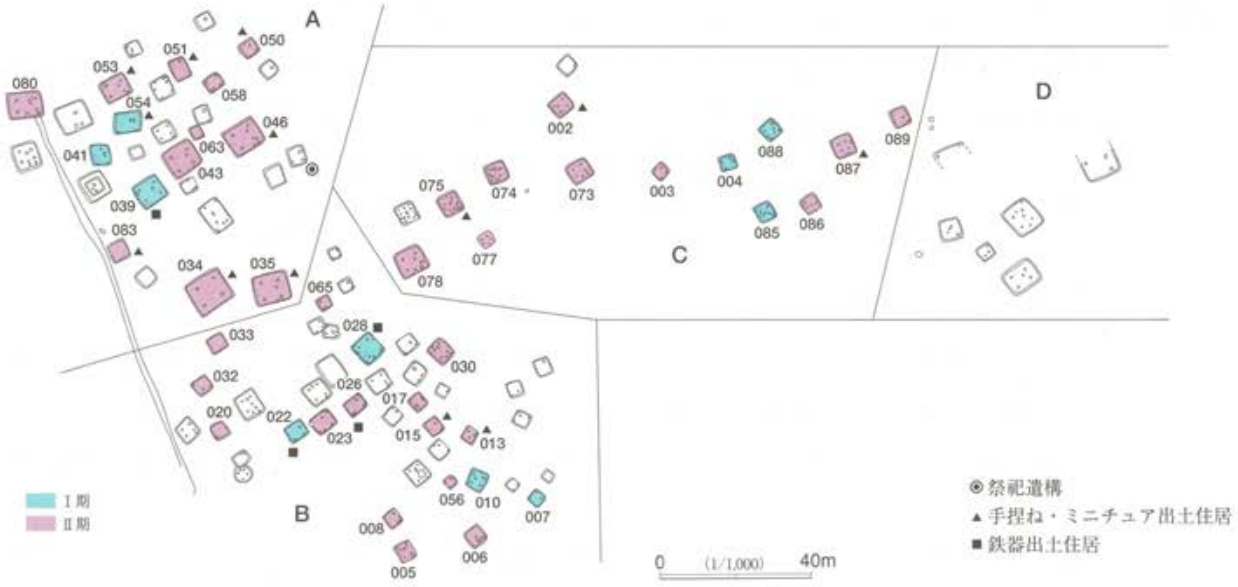


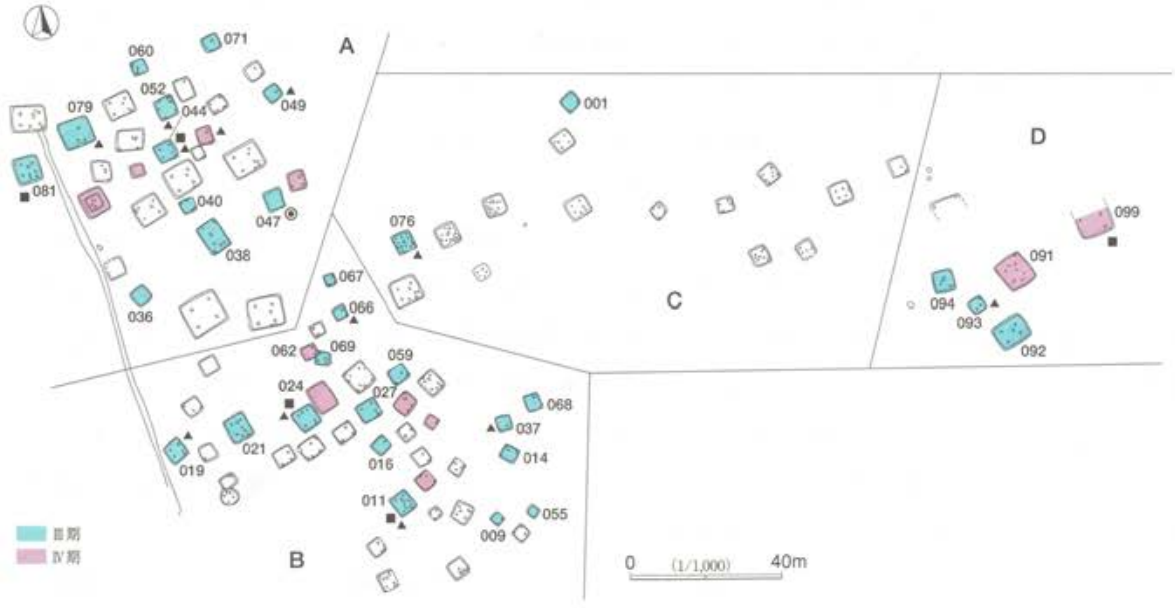
第133図　出土土器変遷図（2）

1.	流山市	市野谷宮尻遺跡	(26, 27)
2.	小見川町	阿玉台北遺跡	(1, 2)
3.	成田市	公津原遺跡	(3, 4)
4.	印旛村	平賀遺跡群（一ノ台遺跡）	(5, 6)
5.	沼南町	北ノ作２号墳	(7, 8)
6.	柏市	高野台遺跡隣接地	(9)
7.	柏市	戸張一番割遺跡	(10～14)
8.	佐倉市	大崎台遺跡	(15)
9.	千葉市	城の腰遺跡	(16)
10.	千葉市	草刈遺跡　D区	
11.	市原市	根田代遺跡	(17)
12.	市原市	辺田古墳群	(18)
13.	茂原市	国府関遺跡	(19～23)
14.	富津市	大堀遺跡	(24)
15.	富津市	打越遺跡	(25)



第134図　県内出土北陸系装飾器台集成図


A
B
C
D
Ⅰ期
Ⅱ期
◉祭祀遺構
▲手捏ね・ミニチュア出土住居
■鉄器出土住居
0 (1/1,000) 40m


A
B
C
D
Ⅲ期
Ⅳ期
0 (1/1,000) 40m

第135図　集落変遷図

て移動していったことが考えられる。その動きの中でC群に主体が移っていったのであろう。

本遺跡が出現する3世紀中頃は，比田井氏が指摘しているように，「西暦250年前後，古墳時代前期Ⅰ段階からはじまる集団移動の再開」[8]の時期に相当する。また，杯部に対して小さく取りつく脚部をもつ無文の高杯と祭祀用土器である小型器台，小さな杯部とスカート状に開く脚部をもつ小型高杯といった三種の土器が東海西部に系譜をもって波及定着する状況がまさに，市野谷宮尻遺跡の成立に大きく関わっている。

第2節　屋外祭祀と屋内祭祀

本遺跡で検出された遺構のなかで注目されるものに，A群南側の宮尻Ⅱ期の竪穴住居に囲まれたような空間に位置する手捏ね土器を多量に使用した祭祀遺構があげられる。分布図がないため，詳細に検討できないのが残念であるが，古墳時代前期の祭祀は県内でもあまり類例がなく，屋内ではなく屋外となるとさらに少ない。

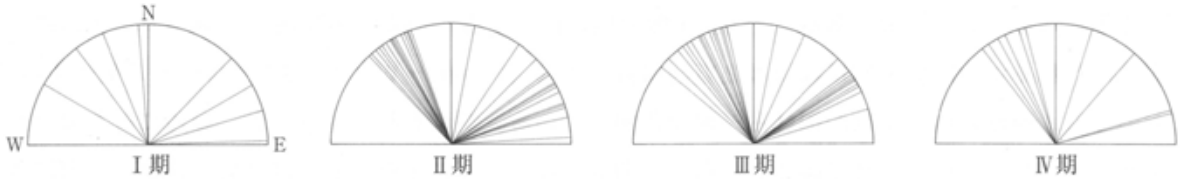
比較的狭い範囲に，第128・129図に示した55点の手捏ね土器やミニチュア土器が出土している。この状況には，廃棄場所として利用したか集落内の共同的な祭祀行為を示すものかの両方が考えられる。前者では，集中範囲を囲むように手捏ね土器やミニチュア土器を伴う竪穴住居が集中し，屋内祭祀を行った後に中央部に廃棄したとする考えができるが，果たして廃棄場所として中央広場を利用するであろうか。むしろ，広場を神聖な領域として捉え，屋内祭祀とともに共同的な祭祀を執り行ったとする後者の考え方の方が妥当性があるように思われる。また，集中範囲に掘り込まれた遺構が存在しないため，埋納ではなく，オープンな状態での祭祀行為と考えられる。

一方，屋内祭祀としてとらえられる竪穴住居内出土の手捏ね土器やミニチュア土器は，第134図に示したように，Ⅰ期に2軒，Ⅱ期に12軒，Ⅲ期に10軒，Ⅳ期に1軒みられる。本遺跡の最盛期であるⅡ・Ⅲ期に，集中群単位ではA群に集中する傾向が強い。屋外祭祀の手捏ね土器の年代を比定することは難しいが，比田井氏の「小形壺」の時期編年[9]に当てはめると，Ⅰ段階（新）と考えられ，宮尻遺跡ではⅡ期に相当する。この時期は，集落内の屋内祭祀が活発化する段階で，先述したようにⅡ期の竪穴住居に囲まれたような位置関係からも，共同の神聖な区域と捉えられたのであろう。屋内祭祀とともに集落内構成員の精神的紐帯を強化するような目的で祭祀行為が行われたと考えられる。

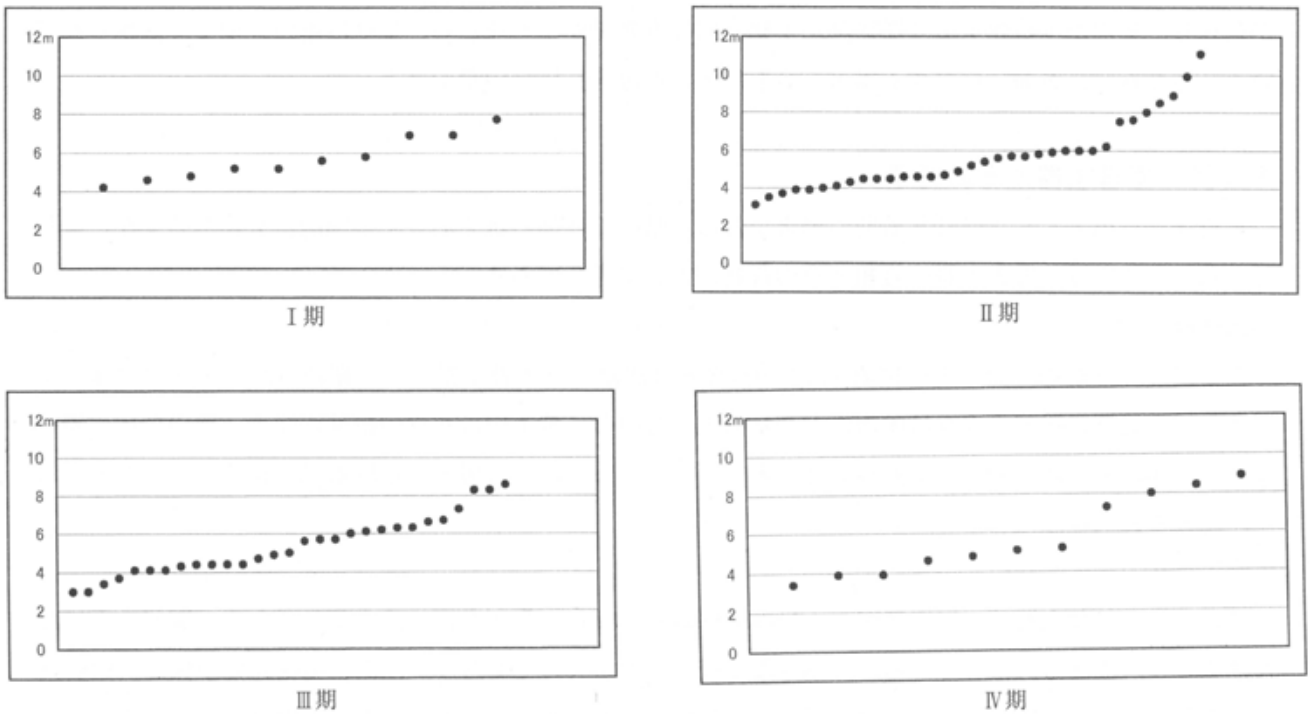
屋外祭祀の県内の例としては，中期では石製模造品を含むような祭祀遺構が多くみられるが，前期となるとほとんど類例がない。白浜町小滝涼源寺遺跡では，宮尻遺跡とほぼ同時期と思われる祭祀遺構が調査されている。ただ，この遺跡は全体が祭域の場として規制された大規模な祭祀場であるため，集落内祭祀と思われる本遺跡との直接的な比較は困難である。宮尻遺跡の集落の成立に西方の集団移動が考えられるならば，移住元の祭祀形態を考慮する必要もあろう。

第3節　竪穴住居の形状と属性

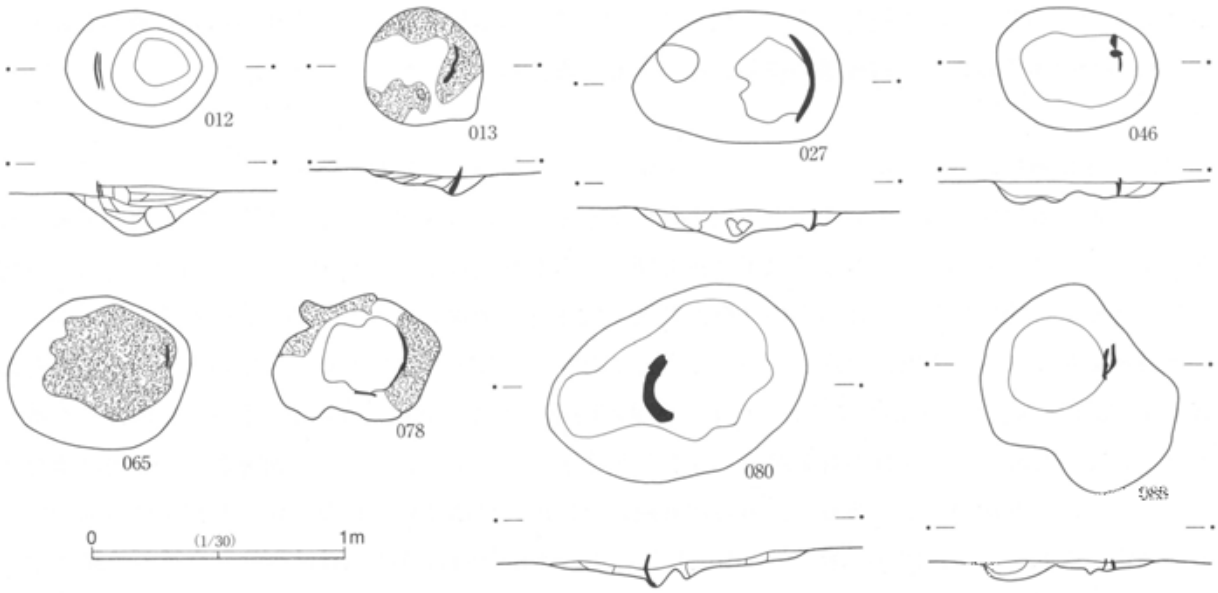
本遺跡から検出された竪穴住居は90軒で，平面形はすべて方形を基本とし，隅の丸い平面形は存在しない。方形とした中でも，大型住居を中心に長方形状になるタイプが多く，本遺跡の特徴でもある。長軸と短軸の差が0.5m以上となる竪穴住居を長方形とすると，検出された90軒の竪穴住居の内39軒が該当し，その割合は43%となる。手賀沼西側の柏市戸張一番割遺跡でも同様の傾向がみられ，全体規模が明らかな竪穴住居46軒中23軒が該当し，50%が長方形となる。本遺跡での長方形住居は各期にみられ，大型住居はす



第136図　時期別主軸方向分布図



第137図　時期別長軸長分布図



第138図　土器片使用炉集成図

べて長方形になるという特徴がある。一方，主軸方向に注目すると，第135図に示したように，Ⅰ期はバラツキが認められるが，Ⅱ期・Ⅲ期にはほぼ2方向に統一され，N－60°－WとN－30°－E付近に集中する。Ⅳ期においても，前期の西に主軸が振れる一群を踏襲している。炉にも特徴がみられ，縁辺に打ち欠いた土器片を立て並べている例が8軒で確認される。時期別には，Ⅰ期に2軒，Ⅱ期に3軒，Ⅲ期・Ⅳ期に各1軒である。

このようにみていくと，大型住居と中型・小型住居に階層差があるとすれば，集落成立当初からこの差が存在し，集落が本格化するⅡ期以降，主軸方向にも規制が生じながら，最終段階のⅣ期まで継承されている。ちなみに，後節で検討する墨書土器を出土した竪穴住居は中型である。

第4節　墨書土器とその背景

本遺跡から出土した古墳時代前期の墨書土器は，県内では初の例であり，全国的にも類例の少ない資料である。ここでは，墨書土器の様相とその背景について考えてみる。

出土状況

集落区分のB群のほぼ中央に位置するSI027竪穴住居跡より墨書土器が1点確認され，床面北東側に位置する炉の北側に接するように床面直上から出土している。覆土中に後世の攪乱がなく，他の供伴土器もほとんど床面直上からの出土であることを考えると，明らかに本住居の廃絶段階に存在していたものであり，後世の混入は想定できない。

土器と年代

墨書が書かれた土器は，口唇部が若干摘み上げられるいわゆる無頸壺で，小型品である。胴部中央に最大径を有し，底部を欠損しているが，小さな平底を呈するものであろう。内面に輪積み痕が残る。口唇部が三角形状に尖っているが，若干欠損するものの使用による摩耗はほとんどみられず，日常的に使われたものではないと思われる。また，胎土を観察すると，他の小型壺などと同様であり，他地域から持ち込まれたのではなく，在地産であることは明白である。古墳時代前期のこのようなタイプの小型壺はあまりみられないものであるため，本資料のみで年代を想定することは困難であるが，供伴する元屋敷形高杯や北陸系装飾器台の年代観から，宮尻Ⅲ期段階に相当すると考えられる。

文字

墨書は，無頸壺の口唇部に接するようにやや斜位に書かれている。また，筆が口唇部の上端に当たったためか，内面にも墨が付着している。近年出土例が増えてきている弥生時代から古墳時代前期の墨書土器に関しては，文字であるのか，あるいは墨や筆を使って書かれたものであるのか大きな問題である。本例における墨や筆の使用に関しては，墨の分析が現状では非常に困難であるため科学的根拠は呈示できないが，赤外線撮影によって明瞭に浮かび上がってきたことから，墨の可能性が高いと思われる。また，巻頭図版や第139図をみても明らかなように，起筆と終筆が明瞭である。詳細にみると，筆の毛先の割れや筆先が揃っていないためか，1画目の終筆部分がかなり細く延びている。このような状況から，本例は筆を使用して書かれたことが明らかである。古墳時代前期の筆は国内では認められないが，朝鮮半島南部の慶尚南道義昌郡に所在する茶戸里1号墓[10]から出土している。木棺墓の墓坑底に設けられた小坑の竹籠の中から，木製の軸に黒漆が塗られた筆が5本検出されている。現在見るような筆とは異なり，両端が筆先となるいわゆる両頭の筆である。この墓の年代は紀元前1世紀代とされ，この頃には既に朝鮮半島南部で文字

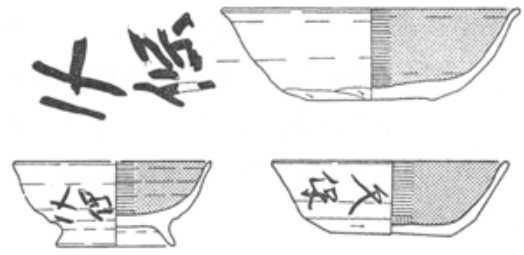
が使用されていたことを示している。この筆のもつ意味は，弥生時代から古墳時代前期の墨書土器を理解する上で重要な鍵を握っており，研究者によって度々紹介されている。本遺跡でも同様のことが考えられ，その点については，背景の中で若干触れてみたい。

文字の釈文については，いくつかの解釈が考えられる。候補としては，第138図に示したように，「久」・「父」・「文」の３種があげられる。古墳時代前期の同様の文字が認められないため，他例と比較することはできないが，ここでは，『書道大字典』をもとに考えてみる。第139図の①・②・③の字形はきわめて類似する。本例と比較すると，いずれとも読むことが可能であるが，あえて違いをあげるならば，「父」は１画目と２画目の頭が水平位置にあり，「久」・「文」は１画目が高く，２画目が低くなる。出土文字資料としては，９世紀代の資料であるが，茨城県ひたちなか市武田西塙遺跡[11]から出土した墨書土器「久保」の「久」をみると，字形的にも本遺跡の墨書土器ときわめて似ている。この書き方は古代では一般的にみられる。以上のような点を総合的に判断すると，現時点では「久」あるいは「文」と読むことがより妥当と考えられる。

文字出現の背景

古墳時代前期の流山地域に文字資料が存在していたことに関しては，どのような背景で集落が成立したのかを考えることが重要である。まず本遺跡の成立時期を考えてみる。前節で呈示したように，弥生時代の集落がなく，３世紀中頃に突如大きな集落が形成される点が大きな特徴である。本遺跡周辺の遺跡を概観してみても，古墳時代になって集落が開始する遺跡が多く，弥生時代の集落はほとんどない状況である。このことから，本遺跡のような大規模集落が出現する背景には，他地域からの集団の移植を考えることがより妥当と思われる。その根拠として，本遺跡から出土した外来系土器の存在があげられる。地域ごとにみると，東海を中心に，北陸・畿内・駿河の影響がみられる。東海系としては，定着した元屋敷系の大形高杯，数量的には少なく客体的な存在のＳ字甕などがある。北陸系土器は装飾器台に限定して２点，畿内系は布留甕１点，駿河系土器は大廓式の壺１点である。千葉県内における北陸系土器の出土遺跡分布をみると，東京湾東岸，手賀沼西岸から江戸川東岸及び茂原地域に集中する。本遺跡周辺では，柏市戸張作遺跡で類例が認められる。北陸系土器の千葉県への流入経路については，比田井氏によりすでに指摘され[12]，北陸系土器は北陸から近江・東海西部を経由して太平洋岸沿いに東京湾に入ってくるルートが想定されている。同氏

第139図　釈文候補文字
（書道大字典1995より転載）



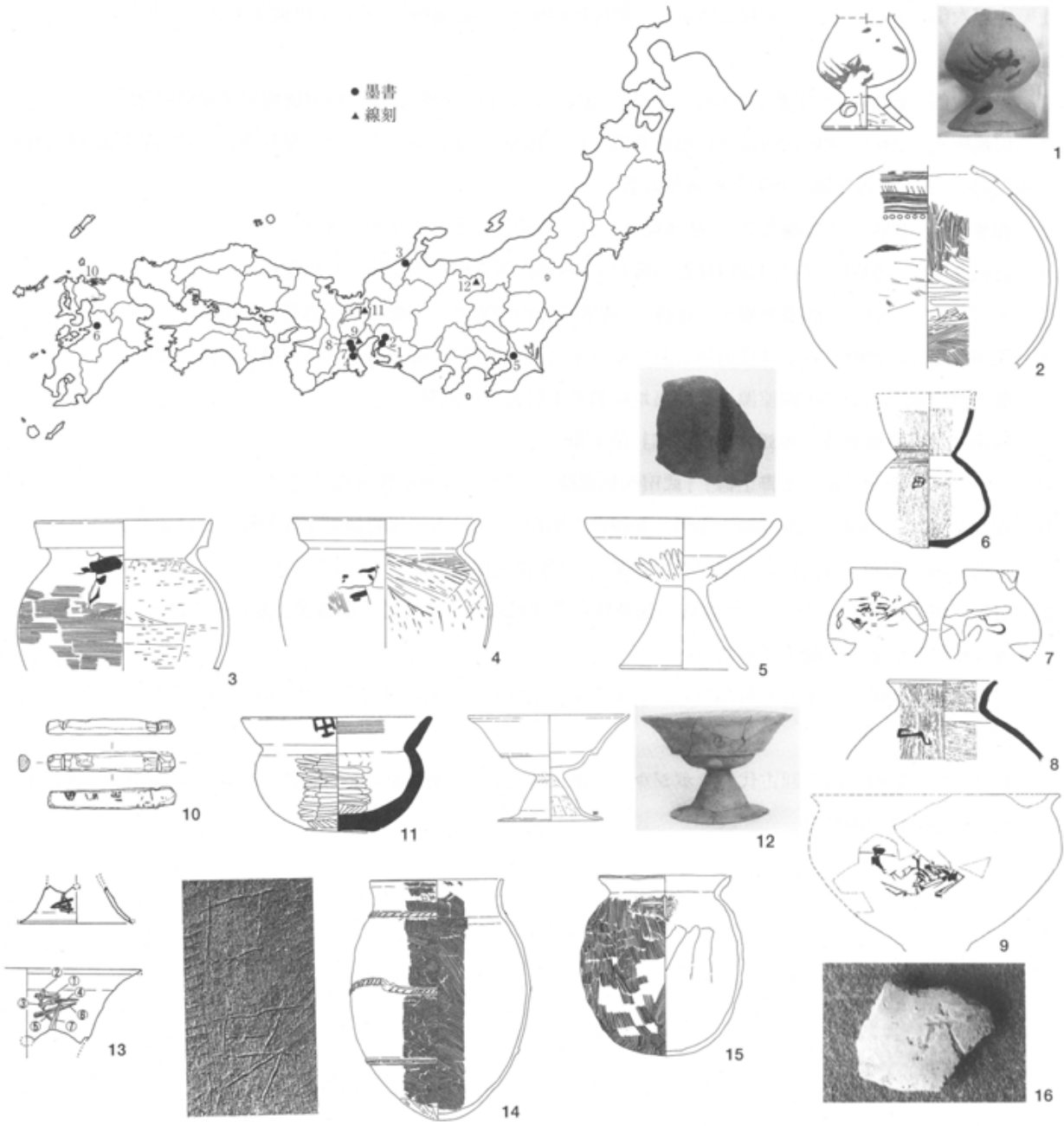
第140図　ひたちなか市武田西塙遺跡墨書土器

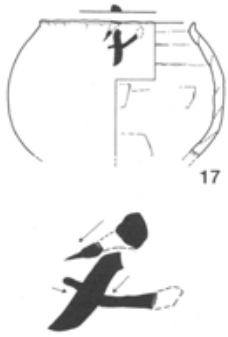
は，東海系のＳ字口縁甕も東海西部から太平洋岸沿いに東に向かい，東京湾に入ってくるとされている。このことから考えると，本遺跡を含む東京湾岸に西からの土器が流入してくる西の拠点として，東海西部を含めた伊勢湾周辺が考えられよう。ただ，伊勢湾周辺から直接江戸川を遡って流山の地に入ってきたかどうかは判断できない。むしろ，東海系・北陸系土器を多量に出土している市原市国分寺台周辺が第１次波及期の拠点となり，２次波及の段階で東京湾を奥に進んでいったと考える方が妥当と思われる。

一方，文字が書かれた土器が在地産であることも重要である。他地域で書かれた土器が入ってきたのではなく，在地の土器に筆を使って文字を書いたことは明らかであり，３世紀後期の本集落内に文房具を有し，文字を理解していた人物が存在していたことを示している。現在までに弥生時代から古墳時代前期の文字資料を出土した遺跡を全国的にみてみると，伊勢湾周辺に６遺跡が集中していることがわかる。他には，熊本・福岡・石川・滋賀・長野県に各１遺跡，そして本遺跡の千葉県１遺跡の合計12遺跡，16例である。墨書土器だけに限定すると，伊勢湾周辺の愛知県で２遺跡，三重県で３遺跡，石川県で１遺跡と本遺跡の，合計７遺跡，12例となり，地域的にさらに限定される。その分布をみると，先述した北陸系・東海系土器の伝播ルートと合致してくる。また，文字として理解されるのは，三重県貝蔵遺跡・片部遺跡の「田」と本遺跡の「久」のみである。

以上のように，地域的に限定されながらも，各地で墨書土器の存在が確認され，今後も増加することが予想されるが，果たして，土器に文字を書くために墨や筆などの文房具を所有しているのであろうか。当時の状況を考えれば，本来は別の目的があったことを想定しなければならない。その解明には，先述した朝鮮半島南部に位置する茶戸里１号墓の存在が重要である。紀元前１世紀頃の墳墓から柄の両端に筆毛のある筆や重さを量る分銅と思われる銅環，削刀としての機能を有する刀子などが出土しており，平川氏は，「銅環はおそらく交易に際して使われたものと思われる」[13]としている。律令期の荷札木簡に使用される筆や刀子を考えれば，当墳墓の被葬者は，交易に携わった人物であると考えられる。

朝鮮半島系の文物が千葉県内のいくつかの遺跡でみられる。日高氏は，松戸市行人台遺跡から出土した朝鮮半島産と考えられる鋳造鉄斧と多孔式甑を例にとり，太平洋沿岸地域の海上交通によって，東京湾沿岸地域から河川交通によって内陸部へ運ばれたのではないかとしている[14]。また，田中氏も，朝鮮半島系の鉄素材の流入経路として，東京湾岸及びその河川沿いを指摘している[15]。一方，三重県の津市から安濃町にかけて，伽那地域に近い石室構造を有する５～６世紀の朝鮮半島系の古墳が密集して築造される。滋賀県大津市でも大陸系の古墳が地域を限定して多数存在する。水野氏は，前者の伊勢周辺の例から，「朝鮮半島南端の人たち－伽那の人たちがこの伊勢津周辺に住みついている」とし，また，「安濃津」は，朝廷にとって関東との往来に際して最も重要な港であり，港湾管理のために朝廷から，文字を知るおそらく渡来系の人々が派遣されたのであろうとしている[16]。先述した北陸系や東海系土器の伝播ルートをあわせて考えると，房総に朝鮮半島系の文物が流入してくる拠点として伊勢湾西岸地域，特に伊勢・安濃周辺が想定されてくる。宮尻遺跡が本格化するⅡ期以降，移住してきた集団の中に文字を理解する渡来系の人物が含まれていたとしても不思議ではなかろう。ただ，伊勢湾周辺から直接入植してきたかどうかは判断する材料を持たない。北陸系土器の第１次波及期の拠点と思われる市原市国分寺台周辺が大きな鍵を握っているのではなかろうか。





遺跡番号	遺物番号	遺跡名	所在地	出土遺構	器種	種別	点数	文字等の内容	時期
1	1・2	鹿乗川流域遺跡群	愛知県安城市	自然流路	壺	墨書	2	不明	2世紀中葉
2	3・4	千田遺跡	石川県金沢市	大溝・包含層	甕	墨書	2	不明	2世紀中葉
3	5	川原遺跡	愛知県豊田市	包含層	高杯	墨書	1	不明	2世紀頃
4	6～9	貝蔵遺跡	三重県一志郡嬉野町	水路堰跡	壺・高杯	墨書	5	「田」他人面・記号	2世紀末～3世紀前半
5	17	市野谷宮尻遺跡	千葉県流山市	竪穴住居跡	無頸壺	墨書	1	「久」または「文」・「父」	3世紀後半
6	10	柳町遺跡	熊本県玉名市	井戸跡	木製鎧留め具	墨書	1	「田」他不明4文字	4世紀初頭
7	11	片部遺跡	三重県一志郡嬉野町	水路跡	壺	墨書	1	「田」または「虫」	4世紀前半
8	12	城之越遺跡	三重県上野市比土	大溝皿層	高杯	墨書	1	記号？	4世紀前半
9	13	大城遺跡	三重県安芸郡安濃町	竪穴住居跡	高杯	線刻	1	「奉」	2世紀中葉
10	14	三雲遺跡	福岡県前原市	溝	甕	線刻	1	「竟(鏡)」	3世紀中葉
11	15	大戌亥遺跡	滋賀県長浜市	祭祀遺構	甕	刻書	1	「卜」	3世紀中葉
12	16	根塚遺跡	長野県下高井郡木島平村	古墳墳丘	壺	線刻	1	「大」	3世紀後半

第141図　弥生～古墳時代前期墨書・刻書資料

注1　赤塚次郎　2001「Ⅲ弥生時代後期から古墳時代初頭」『川原遺跡』　愛知県埋蔵文化財センター

2

3　赤塚次郎　1986「『S字甕』について」『欠山式土器とその前後』　第3回東海埋蔵文化財研究会

4　田嶋明人　1993「北陸南西部の古墳確立期前後の様相」『シンポジウム2　東日本における古墳出現過程の再検討』　日本考古学協会1993年度新潟大会

5　加藤修司　2000「土器編年案」『研究紀要』21　財団法人千葉県文化財センター

6　比田井克仁　2004「受け口状口縁甕の出自」『古墳出現期の土器交流とその原理』

7　米田敏幸　1991「土師器の編年　近畿」『古墳時代の研究6　土師器と須恵器』雄山閣

8　比田井克仁　2001「古墳時代前期における外来土器の展開」『関東における古墳出現期の変革』

9　藤下昌信他　1989『小滝涼源寺』朝夷地区教育委員会・白浜町

10　韓国考古美術研究所　1989『考古学誌』第1輯

11　平川　南　2002「Ⅳ　墨書土器」『武田西塙遺跡』　ひたちなか市教育委員会

12　比田井克仁　2004「土器移動の実例－北陸系土器から－」『古墳出現期の土器交流とその原理』

13　平川　南　2000「古代社会と文字のはじまり」『墨書土器の研究』　吉川弘文館

14　日高　慎　2005「松戸市行人台遺跡の鋳造鉄斧と多孔式甑－東京湾沿岸地域と渡来系文物－」『海と考古学』海交史研究会考古学論集刊行会

15　田中　裕　2005「国家形成初期における水上交通志向の村落群－千葉県印旛沼西部地域を例として－」同上

16　水野正好　1995「第3回古代シンポジウム「海・港・交流」発表要旨」『古代シンポジウム第1回～第4回』三重県嬉野町教育委員会

第３表　竪穴住居跡一覧表

遺構No.	規模 m 長軸×短軸	主軸方位	面積 m^2	壁高 cm 最大～最小	柱穴深さ cm 本数	最大～最小	貯蔵穴	壁溝 cm 幅×深さ	炉	時期区分
001	4.4×4.4	N-43° －E	9.7	44.3～33.4	3	31.4～16.1	1	8.0×6.7	1	Ⅲ
002	5.7×5.2	N-45° －E	15.7	68.8～49.3	4	61.4～43.5	——	——	1	Ⅱ
003	4.0×3.9	N-55° －E	7.8	64.1～55.8	2	63.9～39.6	——	16.0×12.0	1	Ⅱ
004	4.6×4.3	N-74° －E	10.1	31.2～19.3	4	39.2～23.1	——	——	2	Ⅰ
005	5.2×4.8	N-23° －W	12.9	58.9～42.0	4	58.7～29.3	1	——	1	Ⅱ
006	5.9×4.6	N-33° －W	10.5	46.1～18.8	1	32.8	——	14.0×7.0	2	Ⅱ
007	4.2×4.0	N-44° －E	9.6	41.9～28.9		——	——	——	1	Ⅰ
008	4.5×4.2	N-35° －W	9.8	45.2～28.7		——	——	——	1	Ⅱ
009	3.0×2.8	N-45° －W	4.7	——		——	——	——	——	Ⅲ
010	5.2×5.2	N-60° －W	13.7	47.4～36.8	4	72.2～53.0	——	12.0×10.0	1	Ⅰ
011	6.1×5.5	N-34° －W	17.7	68.2～48.0	4	70.1～52.2	——	68.2×48.0	2	Ⅲ
012	4.6×4.6	N-38° －W	11.0	34.6～25.6		——	1	12.0×5.0	1	Ⅳ
013	3.9×3.9	N-34° －E	7.2	47.7～40.9		——	1	14.0×7.0	1	Ⅱ
014	4.4×4.0	N-25° －E	9.7	36.2～28.1		——	——	8.0×2.5	1	Ⅲ
015	4.7×4.2	N-30° －W	10.7	46.4～36.0		——	1	——	1	Ⅱ
016	4.4×4.2	N-45° －E	10.4	20.1～9.3		——	——	7.0×10.0	1	Ⅲ
017	4.1×4.0	N-41° －W	9.0	33.4～22.3		——	——	8.0×2.5	1	Ⅱ
018	4.6×3.6	N-60° －E	10.1	9.1～1.7	2	34.9～26.1	——	——	1	——
019	6.0×5.5	N-55° －E	27.0	44.3～33.6	4	59.0～48.0	1	9.6×10.0	1	Ⅲ
020	4.6×4.2	N-21° －W	16.7	13.8～9.0		——	——	——	1	Ⅱ
021	6.7×6.2	N-26° －W	21.9	34.5～20.4	4	81.5～63.4	1	12.0×8.0	1	Ⅲ
022	5.2×4.5	N-64° －E	12.1	23.5～14.3	2	48.8～40.4	——	17.0×7.0	1	Ⅰ
023	6.0×4.9	N-60.5° －E	17.6	20.9～12.3	4	46.3～10.6	——	11.0×4.0	1	Ⅱ
024	6.3×6.0	N-44° －W	19.6	52.6～33.1	4	69.9～60.6	1	13.0×4.5	1	Ⅲ
025	8.0×6.7	N-34° －W	30.7	28.2～14.7		——	——	——	1	Ⅳ
026	5.4×4.3	N-54° －E	12.5	31.2～22.6		——	1	15.0×3.5	1	Ⅱ
027	6.3×5.7	N-61.5° －E	17.2	69.7～47.3	4	67.8～41.0	1	14.0×6.0	1	Ⅲ
028	6.9×6.4	N-37° －W	24.2	68.7～44.5	4	48.0～39.4	1	——	1	Ⅰ
029	5.2×4.7	N-41° －E	13.2	25.7～21.7	2	20.0～43.5	——	13.0×6.0	1	Ⅳ
030	6.0×5.3	N-43° －W	16.3	60.0～42.0	4	69.0～54.9	1	11.0×2.0	1	Ⅱ
031	3.4×3.6	N-18° －E	6.1	25.2～15.5		——	1	11.0×4.0	1	Ⅳ
032	4.3×4.3	N-57° －E	11.0	23.2～8.6		——	1	——	——	Ⅲ
033	4.6×4.2	N-72.5° －E	10.4	29.5～25.7		——	——	——	——	Ⅱ
034	11.1×9.8	N-24.5° －W	58.7	64.4～43.0	4	100.5～58.2	1	20.0×1.0	1	Ⅱ
035	8.9×8.0	N-77.0° －E	39.5	50.9～42.1	4	63.1～39.4	1	15.0×14.0	1	Ⅱ
036	4.7×4.7	N-36° －W	12.1	29.7～13.6		——	——	——	——	Ⅲ
037	4.1×4.1	N-16° －W	9.7	54.8～37.9	1	17.8	——	——	1	Ⅲ
038	8.6×6.2	N-31.5° －W	28.7	43.0～31.6	4	29.7～15.5	1	15.0×8.0	1	Ⅲ
039	7.7×7.2	N-60.5° －E	24.7	65.7～48.4	4	81.1～55.4	——	23.0×12.0	1	Ⅰ
040	3.9×3.9	N-31.5° －W	8.3	32.7～23.7		——	——	——	——	——
041	5.6×5.4	N-5.0° －W	25.7	31.0～28.0		——	1	——	1	Ⅰ
042	3.9×3.4	N-75.0° －E	11.4	20.9～12.6		——	——	——	——	Ⅳ
043	8.5×7.3	N-61.5° －E	28.8	51.0～60.0	4	39.0～60.1	——	8.0×12.0	1	Ⅱ
044	5.6×5.2	N-220° －W	25.2	65.0～49.0	4	69.9～48.0	——	——	1	Ⅲ
045	4.8×4.1	N-14.8° －W	14.3	48.0～70.0		——	1	18.0×4.0	1	Ⅳ
046	9.9×8.0	N-64.5° －E	32.3	53.0～38.0	4	77.8～47.0	1	10.2×8.0	1	Ⅱ
047	6.6×4.7	N-20.0° －W	22.5	21.0～23.8		——	——	——	——	Ⅲ
048	5.1×4.5	N-18.0° －W	19.8	40.0～32.0		——	——	——	1	Ⅳ
049	4.1×4.0	N-36..0° －W	13.8	43.0～31.6		——	——	——	——	Ⅲ
050	4.5×4.3	N-29.8° －W	15.3	51.0～37.0		——	1	——	1	Ⅱ
051	6.0×4.2	N-21.5° －W	23.1	18.0～10.0		——	——	——	1	Ⅱ
052	6.2×5.5	N-22.2° －W	28.4	32.0～40.0	4	22.9～18.2	——	14.0×4.0	——	Ⅲ
053	7.5×5.9	N-70.0° －E	22.7	62.0～59.0	4	18.0～12.0	1	30.0×8.0	1	Ⅱ
054	6.9×5.5	N-88.5° －E	22.4	36.0～21.0	3	49.1～33.0	——	——	1	Ⅰ
055	3.4×3.2	N-50.2° －W	11.5	10.0～14.0		——	——	——	——	Ⅲ
056	3.1×3.0	N-38.5° －W	11.2	18.0～4.0	3	32.3～18.6	——	——	1	Ⅱ
058	4.3×3.6	N-59.5° －E	14.5	30.0～12.0	4	22.3～6.0	——	——		Ⅱ
059	5.0×4.7	N-58.0° －E	12.5	38.9～18.0		——	——	10.0×6.9	1	Ⅲ
060	4.9×4.8	N-27.0° －W	12.8	42.5～29.8		——	1	——	1	Ⅲ
062	3.9×3.9	N-25.0° －W	6.2	68.4～51.6		——	1	15.0×7.8	1	Ⅳ
063	3.7×3.6	N-11.0° －E	6.1	48.6～31.7		——	1	——	1	Ⅱ
064	4.8×4.6	N-37.0° －W	9.0	33.3～24.1		——	1	——	1	——
065	3.5×3.5	N-28.0° －W	6.0	56.5～49.2	1	36.6	1	12.0×5.3	1	Ⅱ
066	3.6×3.5	N-21.0° －W	6.1	61.4～64.0		——	1	10.0×4.4	1	——
067	3.0×2.9	N-15.0° －W	4.4	46.5～41.5	2	6.8～4.3	1	——	——	Ⅲ
068	4.4×4.2	N-25.0° －W	10.5	13.3～5.7		——	1	——	1	Ⅲ
069	3.7×3.6	N-11.0° －E	6.1	48.6～31.7		——	1	——	——	Ⅲ

071	5.7×4.8	N-60.0° −E	14.6	26.5～11.9		——	1	——	1	Ⅲ
073	6.2×5.5	N-28.0° −W	15.2	68.3～53.0	4	72.4～57.6	1	16.0×6.9	1	Ⅱ
074	5.7×5.4	N-20.0° −W	14.2	53.9～45.0	4	23.8～15.9	1	25.0×7.7	1	Ⅱ
075	5.8×5.5	N-70.0° −E	13.5	39.2～48.2		——	1	27×8.9	1	Ⅱ
076	5.7×5.5	N-19.0° −W	14.7	52.2～46.0	4	30.1～13.8	1	20.0×7.3	1	Ⅲ
077	3.9×3.8	N-35.0° −W	7.1	29.8～21.1	4	37.5～28.8	1	——	——	Ⅱ
078	7.6×7.2	N-71.0° −E	28.1	58.0～40.5	4	84.6～79.5	1	13.0×6.5	1	Ⅱ
079	8.3×7.4	N-73.0° −E	30.7	84.8～49.6		——	1	20.0×17.4	1	Ⅲ
080	8.0×6.8	N-87.0° −E	27.4	91.3～71.0	4	58.9～52.7	1	17.0×13.2	1	Ⅱ
081	7.3×6.8	N-13.0° −W	24.5	70.2～54.0	4	63.5～52.4	1	15.0×11.0	1	Ⅲ
082	7.3×7.1	N-29.0° −W	27.4	55.7～33.8		——	1	15.0×6.6	1	Ⅳ
083	5.6×5.5	N-31.0° −W	12.2	26.0～17.0		——	1	——	——	Ⅱ
085	4.8×4.3	N-22.0° −W	10.8	64.0～43.2	4	50.2～1.4	1	12.0×56.0	1	Ⅰ
086	4.6×4.4	N-30.0° −W	11.8	36.0～17.0		——	1	——	1	Ⅱ
087	4.9×4.6	N-20.0° −W	12.2	49.0～45.0	4	66.0～44.0	1	10.0×5.8	——	Ⅱ
088	5.8×5.0	N-37.0° −W	16.1	56.0～39.0	4	43.0～21.5	1	13.0×6.0	1	Ⅰ
089	4.5×4.1	N-20.0° −W	9.8	62.0～54.0	1	57.6	1	——	1	Ⅱ
090	8.8×—	N-10.0° −W	—	52.8～44.0		——	1	——	——	——
091	8.4×7.2	N-34.0° −W	33.8	64.0～28.0	4	42.6～28.4	1	14.0×15.0	1	Ⅳ
092	8.3×7.1	N-56.0° −E	31.7	77.0～60.0	4	59.5～47.3	1	16.0×17.0	1	Ⅲ
093	4.1×3.8	N-64.0° −E	7.9	28.0～43.0	1	25.0	1	18.0×6.0	1	Ⅲ
094	5.7×5.5	N-13.0° −W	16.3	44.8～34.8		——	1	15.0×11.3	1	——
099	8.9×—	N-74.0° −E	—	56.4～20.6	2	36.2～30.1	1	18.0×14.2	1	Ⅳ

第4表　古墳時代出土土器観察表

挿図番号	遺構番号	器質	器形	遺物番号	口径	底径	器高	遺存度	色調	胎土	調整　内面	調整　外面	備考
18--1	001	土師器	器台	28	7.8	11.9	7.2	95%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	5	8.3	—	(2.5)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	高杯	2, 3, 4, 12, 14, 15, 16, 17, 19, 53, 54, 55, 56, 79, 99, 100, 114	20.0	—	(8.0)	35%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	1, 32, 33, 34, 35, 42	11.6	—	(10.6)	20%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
5		土師器	壺	2, 6, 88, 96, 107	15.8	—	(7.7)	15%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	壺	2, 3, 108, 110, 112, 113	—	4.6	(10.4)	50%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	甕	33	—	5.5	(16.8)	60%	橙褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
8		土師器	甕	1, 2, 3, 4, 7, 49, 51, 64, 69, 70, 76, 80, 81, 82, 83, 84, 86, 89, 90, 91, 92, 93, 95, 98	17.7	6.4	22.3	80%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
9		土師器	甕	25, 27	(18.0)	—	(5.0)	5%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
10		土師器	甑	3, 23, 24, 67, 115	19.4	—	(9.3)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	被熱(XX付着)
11		土師器	甕		—	6.0	(8.5)	40%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱
19--1	002	土師器	器台	1, 6, 44, 45, 71	8.5	12.2	8.5	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	坩	7	—	—	(13.4)	15%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	坩	3, 14, 22, 76	11.2	—	(5.0)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	甕	8, 16, 50	—	—	(26.1)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	甕	8	(17.2)	—	(23.8)	35%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
20--6		土師器	甕	8	(22.3)	—	(20.9)	20%	橙褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
7		土師器	甕	8	(18.9)	—	(20.5)	45%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
8		土師器	甕	7	(17.0)	4.4	19.3	70%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
9		土師器	甕	3, 12, 14, 17, 18, 19, 55, 78, 80, 81	17.6	—	(15.4)	30%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
10		土師器	甕	56, 57, 58, 62	16.8	—	(3.9)	10%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
11		土師器	甕	8	(13.6)	—	(11.6)	20%	赤褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
12		土師器	甕	5	11.7	4.7	13.5	100%	暗褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
13		土師器	甕	54	—	—	(5.2)	30%	暗褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
14		土師器	甕	8	—	11.2	(6.2)	45%	褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
15		土師器	甕	8	—	13.0	(7.8)	40%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
16		土師器	甑	11	19.4	5.0	11.5	95%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
17		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	52	—	—	(1.4)	50%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
21--1	003	土師器	高杯	22	—	—	(3.2)	20%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
2		土師器	壺	17	7.9	2.4	8.3	95%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	被熱(XX付着)
22--1	004	土師器	甕	23, 24	12.8	—	(14.5)	80%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
23--1	005	土師器	器台	15, 16, 17	7.7	(10.0)	7.6	70%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	23	(8.3)	8.8	7.8	80%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
3		土師器	器台	32, 36, 38	—	(8.7)	(7.9)	50%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	器台	88	6.8	—	(5.4)	25%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
5		土師器	器台	85	—	(11.2)	(6.4)	20%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	器台	97	—	(7.0)	(3.3)	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
7		土師器	器台	9, 126, 128, 145	8.8	—	(2.4)	45%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
8		土師器	器台	2, 3, 11, 37, 38, 101, 116, 147	14.0	(16.0)	11.5	60%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
9		土師器	壺	57, 129	(19.8)	—	(6.2)	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
10		土師器	壺	107, 115	(23.6)	—	(7.3)	5%	黄褐色	粗			
11		土師器	壺	3, 34, 35, 36, 45, 46, 47, 99	—	8.0	(15.1)	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	木葉痕
12		土師器	甕	132	(16.5)	—	(6.3)	15%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
13		土師器	甕	65, 134, 136	—	8.5	(6.8)	15%	茶褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	木葉痕
24--14		土師器	甕	2, 3, 5, 6, 44, 48, 49, 52, 53, 54, 55, 56, 58, 59, 60, 63, 72, 73, 76, 81, 92, 95, 96, 106, 112, 113, 114	15.3	—	(22.7)	50%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
15	005	土師器	甕	20	—	(9.7)	(6.8)	15%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
16		土師器	甕	4	—	(11.0)	(7.9)	20%	茶褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
17		土師器	甕	9, 117, 118, 119, 121, 122, 142	13.9	(5.6)	12.2	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	
18		土師器	甕	22, 27, 29	—	7.2	(5.8)	10%	茶褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
19		土師器	甕	2, 5, 68, 71, 78	—	7.3	(4.0)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	
25--1	006	土師器	高杯	1, 6, 27, 29, 30, 31, 32, 33, 63	19.6	—	(7.5)	45%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
2		土師器	高杯	6, 19, 58	—	(13.6)	(3.1)	10%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	壺	16	20.5	—	(8.7)	30%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ	被熱(XX付着)
4		土師器	甕	6, 10, 16, 44, 50, 51, 62	(18.4)	—	(7.2)	10%	褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
5		土師器	甕	6, 8, 52, 65	—	11.4	(7.0)	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	被熱
26--1	007	土師器	鉢	4, 6, 7, 8, 21, 27	10.4	3.0	7.3	85%	赤褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	甕	7, 25, 26	(10.4)	—	(3.3)	5%	褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	甕	15	—	10.0	(8.3)	55%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	
4		土師器	甕	2, 7, 10, 22	—	—	(6.9)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
5		土師器	甕	3, 18	13.6	8.0	20.6	95%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
6		土師器	甕	24	(21.0)	—	(14.2)	25%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
7		土師器	甕	7, 10, 13	11.1	—	(6.5)	10%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
27--1	008	土師器	器台	4, 14	7.8	—	(2.0)	20%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩, 被熱(XX付着)
2		土師器	壺	32	—	3.4	(15.4)	80%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩, 被熱(XX付着)
3		土師器	壺	15	—	7.4	(2.6)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
28--1	009	土師器	甕	1, 8, 10, 11, 12, 16, 17, 18	—	4.4	(13.3)	50%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
29--1	010	土師器	椀	7, 54	(9.6)	(3.6)	(5.5)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ→ ﾐｶﾞｷ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ, ﾅﾃﾞ	被熱
2		土師器	器台	94	(8.0)	—	(1.9)	10%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	94	—	—	(3.5)	20%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	赤彩
4		土師器	器台	73	—	—	(4.7)	20%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	器台	46	—	10.2	(6.4)	50%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	器台	57, 58	—	(12.0)	(7.2)	30%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	器台	75	—	(12.2)	(5.5)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ ﾐｶﾞｷ	
8		土師器	壺	3, 40, 45	7.6	4.0	12.1	90%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
9		土師器	壺	3, 7, 11, 62, 64	11.2	—	(6.0)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	壺	77, 78, 79, 80, 81	15.1	—	(7.7)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
11		土師器	壺	54	—	5.2	(3.4)	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	被熱
12		土師器	甕	92	16.0	—	(9.2)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	被熱
13		土師器	甕	15, 85, 88, 90	(19.8)	—	(11.5)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
14		土師器	甕	3, 7, 63, 64, 66	14.9	—	(15.2)	40%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	被熱
15		土師器	甕	2, 3, 21, 22, 49	14.0	—	(6.0)	5%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾊｹ	

30--16		土師器	壺	30, 33, 35, 38, 43, 71	—	(8.0)	[15.8]	20%	赤褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ミガキ	赤彩, 被熱
17		土師器	甕	3, 6, 11, 47, 68, 69, 70	—	—	[13.6]	15%	褐色	密	ヘラナデ	ハケ	
18		土師器	甕	5, 51, 53, 65, 72	—	—	[7.5]	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ナデ	被熱(XX付着)
19		土師器	甕	48	—	10.2	[7.0]	45%	橙褐色	密	ヘラナデ, ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	被熱
20		土師器	甕	56	—	10.0	[5.5]	45%	褐色	密	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	被熱
21		土師器	甕	19	—	8.2	[6.0]	50%	赤褐色	密	ヘラナデ, ハケ→ナデ	ヘラナデ, ハケ→ナデ	被熱
22		土師器	甕	17	18.8	5.4	14.0	95%	褐色	粗	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ハケ→ヘラナデ, ヘラズリ	被熱
31--1	011	土師器	椀	44	—	2.9	[2.3]	25%	黄褐色	密	ヘラケズリ→ミガキ	ヘラケズリ→ミガキ	
2		土師器	器台	40	(10.2)	—	[3.7]	30%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ, ナデ	ハケ→ミガキ	
3		土師器	器台	41	—	11.6	[5.7]	65%	橙褐色	密	ミガキ, ナデ→ヘラナデ	ナデ→ハケ→ミガキ	
4		土師器	器台	32	—	—	[5.5]	20%	褐色	密	ミガキ, ヘラナデ	ヘラケズリ→ミガキ	
5		土師器	器台	21	—	—	[5.1]	20%	橙褐色	密	ヘラナデ	不明	
6		土師器	壺	37, 38	(11.6)	—	[3.7]	15%	赤褐色	密	ナデ, ミガキ	ナデ, ヘラナデ	赤彩
7		土師器	甕	39	8.6	2.4	7.9	100%	黄褐色	粗	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ハケ→ナデ ヘラケズリ	
8		土師器	甕	11, 25	—	7.5	[5.7]	20%	暗褐色	粗	ヘラケズリ, ヘラナデ→ハケ	ハケ→ヘラナデ	被熱
9		土師器	甕	1, 4, 5	—	6.7	[3.1]	10%	褐色	密	ハケ→ナデ	ナデ→ハケ→ヘラナデ	被熱
10		土師器	手捏ね	15	(4.6)	3.4	3.1	70%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ	
32--1	012	土師器	埦	2	7.7	—	[4.0]	15%	褐色	密	ナデ	ナデ, ミガキ	
2		土師器	器台	19	—	12.8	[6.8]	60%	褐色	密	ヘラナデ, ハケ, ナデ	ミガキ	
33--1	013	土師器	高杯	1, 3, 9, 19, 20	(7.8)	(8.4)	8.0	70%	褐色	密	ナデ→ミガキ, ナデ→ハケ	ケズリ→ミガキ, ナデ	
2		土師器	器台	20	—	(9.6)	[6.0]	30%	褐色	密	ナデ→ハケ, ミガキ	ケズリ→ミガキ	被熱
3		土師器	甕	14	16.3	7.2	33.8	100%	橙褐色	粗	ヘラナデ→ナデ	ケズリ→ナデ	被熱
4		土師器	甕	13	17.2	—	[22.4]	90%	橙褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ→ハケ, ケズリ→ナデ, ナデ	
5		土師器	手捏ね	2	(5.5)	3.0	2.4	50%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ	
34--1	014	土師器	器台	69	8.8	—	[3.0]	45%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ	
2		土師器	器台	5, 70, 71	8.8	—	[2.2]	20%	赤褐色	密	ミガキ	ミガキ	赤彩
3		土師器	高杯	21, 39	(13.7)	—	[4.5]	10%	赤褐色	密	ミガキ	ハケ→ミガキ	赤彩
4		土師器	甕	7, 12, 16, 28, 55, 58, 60, 62, 79	15.0	—	[13.0]	35%	黒褐色	密	ハケ→ナデ, ヘラナデ	ハケ→ナデ	被熱(XX付着)
5		土師器	甕	14, 45, 66, 76	—	10.8	[7.2]	45%	赤褐色	密	ヘラナデ, ハケ	ハケ→ナデ	
6		土師器	甕	43	—	—	[5.2]	20%	赤褐色	密	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	
35--1	015	土師器	高杯	19, 25, 60	23.8	—	[7.4]	55%	橙褐色	密	ハケ→ナデ, ミガキ	ハケ→ナデ, ミガキ, ヘラケズリ	赤彩
2		土師器	壺	14, 19	12.5	4.7	18.5	80%	褐色	粗	ミガキ, ヘラナデ	ハケ→ナデ, ヘラケズリ, ナデ	
3		土師器	甕	16, 18, 22, 26, 42, 43, 44	(12.6)	4.1	11.2	65%	灰褐色	粗	ナデ→ミガキ, ヘラナデ	ナデ→ミガキ, ミガキ	
4		土師器	甕	28, 53	14.3	—	[11.9]	40%	橙褐色	密	ハケ, ナデ, ヘラナデ	ハケ, ナデ	
5		土師器	甕	8, 11, 12, 13, 16, 18, 21, 23, 24, 30, 36, 38, 40, 41, 59	16.0	5.0	15.5	70%	暗褐色	密	ハケ→ナデ, ヘラナデ	ハケ→ナデ, ヘラナデ	被熱(XX付着)
6		土師器	甕	16, 46, 47	13.4	4.2	14.3	65%	褐色	粗	ナデ, ヘラナデ	ヘラケズリ, ナデ	
7		土師器	甕	2	16.1	—	[19.4]	95%	黒褐色	密	ハケ, ナデ, ヘラナデ	ハケ, ナデ, ヘラナデ	被熱
8		土師器	甕	8, 12, 13, 16, 17, 25, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 54, 56	17.8	—	[22.8]	60%	黒褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ハケ→ナデ, ナデ	被熱(XX付着)
9		土師器	甕	60	—	9.6	[5.8]	30%	橙褐色	密	ヘラナデ, ヘラナデ→ナデ	ハケ→ナデ, ヘラナデ	
10		土師器	甕	16	—	10.0	[6.2]	10%	赤褐色	密	ナデ, ハケ	ハケ→ナデ	被熱
11		土師器	甕	12, 37	—	9.2	[6.2]	15%	褐色	粗	ハケ→ナデ, ヘラナデ	ハケ, ハケ→ナデ	
12		土師器	手捏ね	49	—	5.2	[5.3]	75%	褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ハケ→ナデ, ヘラナデ	
36--1	016	土師器	壺	9	—	—	[4.6]	10%	橙褐色	密	ナデ	ナデ	
37--1	017	土師器	器台	1	—	—	[3.3]	15%	灰褐色	密	ナデ	ナデ	
2		土師器	高杯	29, 30, 53	(20.4)	—	[6.6]	15%	橙褐色	密	ナデ→ミガキ	ミガキ→ナデ	
3		土師器	壺	53	(15.0)	—	[5.9]	15%	褐色	粗	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ, ハケ→ミガキ	
4		土師器	壺	15, 22, 23, 31, 34, 35, 39	—	10.4	[7.6]	15%	橙褐色	密	ナデ	ハケ→ナデ	木葉痕
5		土師器	甕	47	—	(6.2)	[4.5]	5%	赤褐色	粗	ヘラナデ, ナデ	ハケ→ナデ	
39--1	019	土師器	高杯	29	14.4	—	[11.7]	65%	赤褐色	密	ミガキ, ハケ→ナデ	ミガキ	
2		土師器	高杯	7	13.8	—	[4.7]	50%	橙褐色	密	ミガキ	ミガキ	被熱
3		土師器	高杯	37	—	11.8	[7.0]	55%	褐色	密	ミガキ, ハケ	ハケ→ヘラナデ	被熱
4		土師器	甕	1, 9, 16	(15.8)	—	[14.2]	10%	赤褐色	密	ミガキ	ハケ→ナデ, ハケ	被熱(XX付着)
5		土師器	甕	2, 6	—	—	[16.8]	40%	黒褐色	密	ミガキ, ハケ→ミガキ	ハケ	
6		土師器	ミニチュア	3	—	4.0	[3.6]	55%	褐色	密	ナデ	ナデ	
40--1	020	土師器	壺	9, 11, 13	(11.2)	—	[5.9]	15%	褐色	—	ミガキ	ハケ→ミガキ	
2		土師器	甕	6	—	(6.0)	[4.5]	20%	褐色	密	ヘラナデ, ハケ→ナデ	ナデ	
41--1	021	土師器	高杯	29	(20.2)	—	[7.3]	30%	褐色	密	ナデ→ミガキ	ナデ→ハケ→ミガキ	被熱
2		土師器	器台	35	9.5	13.7	9.3	100%	褐色	密	ナデ→ミガキ, ナデ→ハケ→ヘラナデ	ナデ→ハケ→ヘラナデ→ミガキ, ナデ→ミガキ	
3		土師器	器台	5, 16	9.0	12.0	8.7	80%	褐色	密	ナデ→ミガキ, ナデ→ハケ→ヘラナデ→ミガキ	ナデ→ヘラケズリ→ミガキ, ナデ→ハケ→ ヘラケズリ→ミガキ	
4		土師器	壺	20, 21	(8.8)	—	[11.5]	60%	褐色	密	ナデ→ハケ→ナデ→ ヘラナデ	ナデ→ハケ→ナデ	被熱
5		土師器	甕	28	11.0	4.4	14.1	70%	赤褐色	粗	ナデ→ハケ→ナデ, ヘラナデ	ナデ→ハケ→ナデ, ナデ	被熱
6		土師器	甕	25	—	7.6	[5.9]	10%	褐色	密	ハケ→ナデ, ハケ	ハケ, ハケ→ナデ	被熱
42--1	022	土師器	器台	148	8.2	—	[5.8]	70%	褐色	密	ミガキ, ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ, ハケ→ミガキ	
2		土師器	器台	23	—	—	[4.9]	10%	黄褐色	密	ミガキ, ヘラナデ	ミガキ	
3		土師器	高杯	11, 14, 106	18.6	10.0	11.9	80%	橙褐色	密	ハケ→ミガキ, ヘラケズリ, ナデ	ミガキ, ヘラケズリ→ミガキ	被熱
4		土師器	壺	11, 16	12.0	—	[6.8]	25%	褐色	密	ナデ→ハケ→ナデ	ハケ→ナデ→ハケ	
5		土師器	壺	8, 9, 68, 73, 76, 86, 89, 98, 130	—	3.8	[7.7]	60%	橙褐色	密	ヘラナデ	ヘラケズリ, ヘラケズリ→ミガキ	被熱
6		土師器	壺	3, 9, 26, 31, 32, 76, 82, 95, 117, 123, 125, 127, 129, 131, 141	—	10.0	[17.1]	35%	赤褐色	粗	ナデ	ミガキ, ヘラケズリ	被熱, 赤彩
7		土師器	壺	1, 4, 5, 46, 50, 56, 111	12.3	3.6	9.8	70%	黄褐色	密	ヘラナデ→ナデ	ナデ→ミガキ, ナデ	被熱
8		土師器	甕	2, 9, 16, 21, 22, 24, 71, 74, 89, 96, 97, 116, 134	17.4	—	[19.8]	40%	橙褐色	密	ナデ→ハケ→ヘラナデ	ハケ→ナデ	被熱
9		土師器	甕	49, 56	—	—	[6.8]	25%	褐色	密	ヘラナデ	ハケ→ヘラケズリ	被熱
10		土師器	甕	11, 12	—	10.0	[6.4]	30%	赤褐色	密	ヘラナデ, ナデ→ヘラナデ	ハケ, ナデ→ハケ	
11		土師器	甕	104, 135	—	10.4	[8.4]	45%	褐色	密	ヘラナデ, ナデ→ハケ	ハケ, ナデ→ハケ	被熱
12		土師器	甕	13	—	10.2	[7.4]	40%	橙褐色	粗	ヘラナデ, ナデ→ハケ, ナデ	ハケ, ヘラナデ→ナデ	被熱
13		土師器	甕	2, 3, 59, 61, 128	—	11.2	[6.7]	20%	橙褐色	密	ヘラナデ, ナデ→ハケ	ヘラケズリ→ナデ, ナデ	
43--14		土師器	甕	1, 8, 29, 30, 66, 73, 75, 123	—	9.6	[23.5]	60%	褐色	密	ハケ→ヘラナデ, ナデ→ハケ	ハケ	被熱
15		土師器	甕	64, 65, 84, 93, 110	17.2	—	[6.6]	10%	褐色	粗	ハケ→ナデ, ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ, ヘラナデ	被熱
16		土師器	甕	5, 16, 33, 34, 46, 149	18.4	—	[5.4]	10%	褐色	密	ナデ→ヘラナデ	ナデ→ヘラナデ	被熱
17		土師器	甑	1, 21, 22, 30, 114, 115	—	6.0	[11.6]	25%	褐色	粗	ヘラナデ	ヘラケズリ→ナデ, ヘラナデ	被熱
44--1	023	土師器	器台	23	—	10.3	[6.1]	50%	褐色	密	ヘラナデ→ハケ→ナデ	ナデ→ヘラケズリ→ミガキ	被熱
45--1	024	土師器	椀	17	7.6	—	5.5	100%	黄褐色	密	ミガキ, ヘラナデ→ミガキ	ミガキ, ヘラナデ	
2		土師器	鉢	140	7.4	2.6	5.1	100%	黄褐色	密	不明	ミガキ, ヘラナデ	
3		土師器	鉢	18	8.5	3.6	7.0	100%	褐色	粗	ナデ, ヘラナデ	ヘラケズリ	

4		土師器	器台	36, 88, 108	8.2	12.4	9.4	85%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ→ ﾐｶﾞｷ	被熱
5		土師器	器台	127, 128, 136, 137, 153	8.4	11.4	7.7	50%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ→ ﾐｶｷ , ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	器台	156	7.6	—	(5.1)	50%	橙褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	器台	13, 16, 63, 66	(9.6)	—	(3.0)	10%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
8		土師器	器台	145	—	11.3	(5.9)	45%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
9		土師器	器台	107	—	(10.9)	(6.4)	45%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	器台	66, 70	—	11.4	(6.1)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
11		土師器	高杯	35, 102, 133, 160	19.4	11.6	13.0	60%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
12		土師器	高杯	13, 41, 46, 58, 60, 110	—	—	(9.4)	50%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ｼｶﾞﾘ→ﾅﾃﾞ ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
13		土師器	壺	5, 6, 7, 83, 89, 96, 97, 98, 99, 100, 134, 146	—	4.0	(13.5)	85%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
14		土師器	甕	29	(9.2)	3.2	7.4	50%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
46－15		土師器	甕	7, 15, 65, 67, 70, 72, 120, 124, 125, 126	12.3	4.4	12.2	70%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾊｹ→ ﾐｶﾞｷ	
16		土師器	甕	101, 148, 152	14.2	—	(11.5)	55%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
17		土師器	甕	31, 69, 71, 79, 80, 81, 123	18.2	—	(20.0)	50%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾊｹ, ｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱
18		土師器	甕	114, 138	15.6	—	(19.5)	60%	黒褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱
19		土師器	甕	34	—	9.4	(7.1)	45%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	
20		土師器	甕	32	—	10.7	(6.9)	40%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
21		土師器	甕	14, 61, 122, 126, 165	—	10.2	(6.5)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
22		土師器	甕	11, 114	—	9.4	(6.8)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	
23		土師器	甕	13, 14, 15, 16, 66, 67, 68	—	10.8	(7.1)	20%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱
24		土師器	甑	154, 155	14.5	5.5	14.1	70%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱
25		土師器	手捏ね	33	3.1	3.2	2.4	100%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
47－1	025	土師器	器台	73	8.6	—	(2.4)	25%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	75	—	14.0	(6.4)	15%	暗赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	66	—	(12.0)	(7.3)	50%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	被熱
4		土師器	器台	22	—	(16.3)	(7.8)	45%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
5		土師器	器台	40	—	(9.6)	(6.4)	60%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱
6		土師器	甕	49, 66, 70, 77	22.8	7.8	26.6	90%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	木葉痕, 被熱(XX付着)
7		土師器	甕	66	(14.2)	—	(7.1)	20%	黒褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	被熱
8		土師器	甕	71, 78, 79	(13.8)	—	(6.3)	20%	褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	被熱(XX付着)
48－1	026	土師器	器台	49	7.5	11.0	5.9	80%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	3, 10, 12	(8.4)	11.6	7.9	45%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	17	10.6	—	(5.5)	20%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	甕	3, 6, 7, 10, 14, 21, 44, 47	—	5.0	(13.5)	45%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
5		土師器	甕	15, 31	(16.8)	—	(7.0)	10%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
6		土師器	甕	53	—	7.4	(12.0)	40%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	木葉痕, 被熱(XX付着)
49－1	027	土師器	壺	4, 5, 16, 20	(7.9)	—	(7.1)	60%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	墨書「久」
2		土師器	器台	2, 3, 8, 22	(15.6)	(14.0)	(15.8)	20%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩, 北陸系
3		土師器	器台	3, 7, 38	—	11.1	(6.2)	85%	暗赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
4		土師器	器台	22	—	—	(5.6)	20%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	高杯	3, 4, 16	—	—	(11.8)	60%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
6		土師器	壺	33, 39, 026-14, 33, 40, 41	16.0	—	(7.0)	45%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
7		土師器	壺	34	—	3.8	(3.2)	5%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
8		土師器	甕	8, 24, 25, 26, 27	16.7	—	(18.7)	70%	黒褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	甕	7, 8, 15, 16, 27, 32, 41	13.3	4.7	16.3	70%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ, ｹｽﾞﾘ	被熱(XX付着)
50－10		土師器	甕	28	(14.0)	—	(8.0)	20%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
11		土師器	甕	19	—	—	(17.5)	30%	橙褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱
12		土師器	壺	5, 20	(12.0)	—	(7.2)	20%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
13		土師器	甕	36	—	6.1	(4.0)	10%	暗褐色	密	ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(XX付着), 木葉痕
14		土師器	甕	8, 42	—	8.9	(6.3)	10%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
15		土師器	甕	21	—	9.5	(5.8)	10%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
51－1	028	土師器	椀	138, 140, 141	9.3	2.2	8.6	80%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
2		土師器	鉢	161	11.0	5.0	7.1	85%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
3		土師器	椀	170	—	4.2	(7.0)	80%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
4		土師器	器台	11, 80	7.9	—	(4.7)	65%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
5		土師器	器台	95	5.5	—	(3.7)	65%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
6		土師器	器台	103	(8.3)	12.3	8.4	85%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	器台	148	—	(12.4)	(7.2)	30%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
8	028	土師器	器台	7, 64	—	12.5	(5.8)	50%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	被熱
9		土師器	器台	107, 110	—	10.5	(5.9)	45%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	器台	69	—	11.2	(4.5)	50%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
11		土師器	器台	98	—	(11.6)	(5.9)	30%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
12		土師器	器台	194	—	—	(5.0)	25%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
13		土師器	器台	70	—	11.5	(6.8)	50%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
14		土師器	器台	31	—	11.1	(5.9)	45%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
15		土師器	高杯	108	—	(9.6)	(6.3)	25%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾊｹ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
16		土師器	高杯	2, 5, 7, 156, 195	(18.3)	10.7	12.0	70%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	
17		土師器	高杯	16, 112, 132	(11.8)	(6.4)	5.8	40%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	
52- 18		土師器	高杯	72	(23.0)	—	(6.0)	30%	橙褐色	密	不明	ﾊｹ	
19		土師器	高杯	14, 90	—	—	(9.6)	40%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
20		土師器	壺	7, 12, 81	(9.0)	—	(6.2)	5%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
21		土師器	壺	6, 14, 101	—	(3.2)	(7.3)	60%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
22		土師器	壺	123	(14.4)	—	(8.0)	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
23		土師器	壺	154, 168, 173	(13.4)	—	(7.3)	10%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
24		土師器	壺	136	13.0	—	(7.3)	20%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
25		土師器	甕	149, 151, 153, 164, 165, 166, 167	17.8	9.2	24.0	65%	暗褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
26		土師器	甕	145	19.9	10.2	27.0	85%	黒褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
27		土師器	甕	171, 176, 187, 189, 190	(16.8)	—	(21.5)	20%	橙褐色	密	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
28		土師器	甕	2, 3, 6, 47, 48, 49, 96, 137, 199	15.6	—	(17.1)	85%	暗褐色	密	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ , ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
29		土師器	甕	2, 3, 50, 51, 58, 59, 63, 137, 183, 198	14.8	4.8	17.0	85%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	
30		土師器	甕	5, 6, 28, 29, 127	(17.2)	—	(15.3)	30%	暗褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	

31		土師器	甕	1, 151	(21. 2)	—	〔18. 2〕	40%	黒褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
32		土師器	甕	2, 3, 56, 199	17. 0	—	〔17. 4〕	65%	黒褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
53--33		土師器	甕	83	—	10. 2	〔7. 6〕	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
34		土師器	甕	11, 66, 100	—	10. 9	〔6. 2〕	15%	褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
35		土師器	甕	41	—	10. 6	〔6. 5〕	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
36		土師器	甕	153, 169	—	11. 5	〔6. 6〕	10%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
37		土師器	甕	104	—	8. 4	〔5. 3〕	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
38		土師器	甕	162	—	11. 0	〔6. 8〕	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
39		土師器	甑	11, 109, 139, 144	21. 2	5. 3	16. 9	70%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
54--1	029	土師器	高杯	1, 2, 3	(14. 4)	—	〔3. 6〕	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	被熱
55--1	030	土師器	器台	6, 261	7. 4	—	〔5. 4〕	60%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	3, 12, 154, 247	—	10. 4	〔5. 5〕	45%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	赤彩
3		土師器	器台	3, 185, 189	—	(10. 6)	〔4. 4〕	30%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
4		土師器	器台	3, 6, 51, 197, 243	—	10. 6	〔5. 0〕	40%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	赤彩
5		土師器	器台	11, 48, 92, 238, 259	—	(15. 0)	〔5. 2〕	30%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	高杯	3, 6, 38, 87, 169, 224, 241, 246	20. 5	—	〔8. 1〕	40%	赤褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
7		土師器	高杯	81, 83	14. 0	—	〔5. 0〕	30%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩, 被熱(ｽｽ付着)
8		土師器	坩	2, 10, 11, 74, 90, 213	(11. 0)	—	〔14. 2〕	40%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
9		土師器	坩	78, 210, 225	(9. 2)	—	〔4. 9〕	15%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	壺	196	(19. 6)	—	〔9. 0〕	15%	灰褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱
11	030	土師器	壺	2, 3, 10, 11, 60, 86, 141, 177, 255	10. 0	—	〔8. 3〕	40%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
12		土師器	壺	114, 132, 138, 159, 255, 256	—	5. 0	〔5. 9〕	30%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｶｽﾞﾘ, ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
13		土師器	壺	1, 2, 11, 12, 41, 75, 102, 142, 210, 211	—	(5. 0)	〔13. 4〕	35%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
56--14		土師器	甕	1, 2, 3, 55, 59, 67, 82, 100, 107, 108, 109, 119, 121, 122, 123, 125, 126, 136, 145, 146, 147, 148, 183, 197, 198, 220, 221, 243	(21. 5)	—	〔28. 7〕	65%	黄褐色	密	ﾍﾗｶｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	被熱
15		土師器	甕	2, 3, 56, 57, 58, 70, 134, 188, 191, 192, 197, 198, 200, 221, 243	17. 4	—	〔23. 4〕	60%	黒褐色	粗	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
16		土師器	甕	2, 3, 11, 12, 38, 43, 93, 96, 112, 113, 140, 150, 160, 166, 167, 205, 210, 215, 219, 223, 224, 236, 240, 241, 244, 246, 247, 248, 255, 264	17. 8	—	〔16. 4〕	55%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
17		土師器	甕	84	—	(10. 4)	〔9. 2〕	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
18		土師器	甕	116, 117	—	(10. 4)	〔6. 5〕	30%	白灰色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	
19		土師器	甕	1	—	(10. 0)	〔5. 7〕	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾊｹ	
57--1	031	土師器	器台	47	7. 9	11. 6	7. 3	90%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	赤彩
2		土師器	器台	1, 2, 8, 10	(7. 4)	11. 0	7. 2	45%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	31, 59	—	(11. 4)	〔7. 2〕	30%	褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
4		土師器	甕	43, 44	(19. 8)	—	〔8. 0〕	10%	褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
5		土師器	甕	4, 45	—	10. 8	〔6. 5〕	45%	赤褐色	粗	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱
6		土師器	甕	42	—	9. 6	〔6. 8〕	35%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	不明	被熱
7		土師器	甕	46	—	8. 6	〔4. 5〕	40%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
58--1	032	土師器	壺	15	16. 6	—	〔6. 6〕	20%	橙褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
59--1	033	土師器	高杯	31, 32, 60	20. 4	—	〔6. 7〕	50%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	被熱
2		土師器	坩	2, 7, 11, 13, 14, 36, 37	(9. 8)	—	〔15. 0〕	30%	褐色	密	ｹｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ, ｹｽﾞﾘ	被熱
3		土師器	鉢	3, 25	—	5. 8	〔4. 7〕	30%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
60--1	034	土師器	坩	2, 5, 74, 75	13. 6	3. 8	7. 4	80%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	被熱
2		土師器	壺	12	—	—	〔6. 6〕	20%	赤褐色	密	ﾍﾗｶｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
3		土師器	坩	14, 35	—	4. 4	〔4. 3〕	40%	赤褐色	密	ﾍﾗｶｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｶｽﾞﾘｰﾅﾃﾞ, ﾍﾗｶｽﾞﾘｰﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	4, 5, 15	7. 1	—	〔5. 4〕	50%	黄褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
5		土師器	器台	67	—	(14. 6)	〔5. 9〕	30%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
6		土師器	器台	1, 17	—	(16. 0)	〔3. 9〕	20%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
7		土師器	器台	85	—	(8. 3)	〔3. 6〕	30%	赤褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
8		土師器	器台	8, 71	—	—	〔6. 4〕	20%	黄褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
9		土師器	器台	1, 2	—	—	〔5. 5〕	30%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	器台	49	—	—	〔5. 6〕	30%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
11		土師器	甕	2, 8, 15	14. 6	—	〔12. 0〕	25%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
61--12		土師器	甕	5	(13. 8)	—	〔4. 0〕	5%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
13		土師器	甕	5, 12, 59, 80	—	9. 2	〔14. 0〕	30%	褐色	密	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	木葉痕
14		土師器	甕	1	—	9. 0	〔5. 8〕	30%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
15		土師器	甕	37	—	9. 8	〔5. 7〕	30%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
16		土師器	甑	30	—	(4. 6)	〔3. 1〕	5%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｶｽﾞﾘ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
17		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	56	—	3. 8	〔3. 4〕	60%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
18		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	69	4. 1	1. 8	3. 8	100%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
19		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	68	3. 4	—	〔3. 6〕	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
20		土師器	壺	36, 38	22. 7	—	〔5. 9〕	15%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	赤彩
62--1	035	土師器	器台	15	8. 0	—	〔4. 0〕	60%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｶｽﾞﾘ, ﾍﾗｶｽﾞﾘ	被熱
2		土師器	器台	44	(7. 4)	—	〔2. 3〕	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	6	—	(11. 0)	〔3. 9〕	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
4		土師器	器台	26	—	—	〔3. 8〕	30%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｶｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱
5	035	土師器	器台	14	—	—	〔2. 5〕	20%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
6		土師器	器台	4, 10	—	(13. 0)	〔4. 2〕	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	器台	10	—	—	〔4. 6〕	30%	灰褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱
8		土師器	高杯	4	21. 4	—	〔6. 8〕	40%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	被熱
9		土師器	高杯	1, 3, 4, 7, 10, 20, 22	20. 3	—	〔7. 1〕	40%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾐｶﾞｷ,	
10		土師器	高杯	13, 35	12. 8	—	〔6. 2〕	70%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾍﾗｶｽﾞﾘｰ→ ﾅﾃﾞ	被熱
11		土師器	高杯	25	13. 9	—	〔5. 1〕	45%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
12		土師器	壺	4, 23, 29, 37, 38	15. 7	—	〔7. 4〕	20%	黄褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱
63--13		土師器	壺	19	—	—	〔8. 2〕	30%	橙褐色	密	不明	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾐｶﾞｷ	
14		土師器	壺	4, 5, 7, 10, 13, 28, 29	(11. 0)	3. 4	10. 3	60%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗｶｽﾞﾘ	
15		土師器	壺	3, 4, 5, 6, 12, 13, 34	12. 7	—	〔11. 5〕	40%	橙褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
16		土師器	甕	17	(14. 6)	—	〔13. 0〕	20%	橙褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
17		土師器	甕	1, 7, 18	15. 0	—	〔19. 9〕	60%	黒褐色	密	ﾊｹｰﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
18		土師器	甕	7, 20	—	11. 4	〔5. 9〕	30%	赤褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
19		土師器	甕	10, 30	—	12. 4	〔7. 1〕	55%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	
20		土師器	鉢	31	9. 6	3. 6	7. 0	80%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
21		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	41	—	5. 8	〔3. 1〕	50%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
64--1	036	土師器	器台	6, 7	8. 1	11. 0	7. 1	90%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
2		土師器	鉢	1	—	5. 4	〔4. 4〕	35%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
3		土師器	甕	1	(16. 0)	—	〔8. 8〕	10%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
4		土師器	甕	8	—	11. 2	〔7. 0〕	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰﾅﾃﾞ	
5		土師器	手捏ね	12	4. 0	—	2. 7	95%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	

65--1	037	土師器	甕	8, 9, 10	17.0	6.0	22.4	90%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
2		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	16	6.0	3.8	6.6	90%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
66--1	038	土師器	器台	50	(6.6)	—	(6.2)	30%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	9, 32	—	(12.4)	(5.1)	25%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	73	(11.4)	4.0	18.7	60%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	8, 9, 10, 12	(8.8)	—	(5.0)	20%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	壺	4, 11, 56	(5.6)	—	(7.6)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
6		土師器	壺	59	—	(3.0)	(3.6)	10%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
7		土師器	壺	51	(26.0)	—	(8.8)	20%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
8		土師器	壺	17, 28	—	9.6	(4.2)	5%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	甕	24	(18.0)	—	(18.0)	20%	黒褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
10		土師器	甕	75	(15.4)	—	(7.4)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
11		土師器	甕	71	—	11.2	(6.9)	15%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
12		土師器	甕	23	—	(8.2)	(5.5)	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
67--1	039	土師器	器台	1	—	—	(4.6)	25%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	3	—	—	(4.1)	25%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	13	—	—	(5.3)	30%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
4		土師器	高杯	4, 8, 9, 10, 12	22.5	11.0	15.0	80%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	高杯	2	—	(18.0)	(4.2)	10%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	壺	2	—	4.6	(9.8)	30%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
7		土師器	壺	5	—	4.0	(2.5)	20%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
8		土師器	甕	14	—	10.8	(6.7)	30%	赤褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	甕	23	—	(10.6)	(5.9)	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
10		土師器	甕	6	—	10.6	(5.8)	50%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
68--1	040	土師器	器台	1, 14, 24	—	(13.4)	(6.5)	30%	暗赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱, 赤彩
2		土師器	器台	1, 2	—	—	(5.4)	25%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱
3		土師器	器台	4, 21	—	—	(5.6)	20%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
4		土師器	高杯	1, 21	—	—	(5.9)	30%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱, 赤彩
69--1	041	土師器	器台	1, 2, 15	(10.5)	11.4	8.7	60%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
2		土師器	器台	14, 19	—	9.8	6.5	5%	橙褐色	密	不明	不明	
3		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	4	—	—	(3.0)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
4		土師器	高杯	2	17.0	—	6.2	10%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	壺	1, 14	—	—	(14.5)	40%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
6		土師器	甕	4	—	(11.0)	(7.3)	25%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
70--1	042	土師器	器台	10	8.4	-	(2.8)	45%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
2		土師器	高杯	18	—	(14.0)	(6.3)	20%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	甕	2, 3, 6, 7, 11, 12	12.8	—	(15.4)	60%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
4		土師器	甕	4, 21, 27	21.2	—	(13.6)	35%	黒褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
71--1	043	土師器	器台	15	—	9.6	(7.1)	50%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	11	—	—	(6.7)	20%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	高杯	7, 8, 12, 18	22.8	—	(8.3)	30%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
4		土師器	壺	2	9.2	—	(5.0)	35%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
5		土師器	壺	1, 4, 5	(17.6)	—	(7.2)	10%	赤褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
6		土師器	壺	4, 14	(9.8)	3.0	(8.0)	10%	褐色	粗	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
7		土師器	甕	3, 16	—	10.4	(6.4)	15%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
8		土師器	甕	6, 7, 8, 9, 18	—	10.4	(6.1)	20%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
9		土師器	甕	17	—	10.6	(10.0)	55%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	
72--1	044	土師器	器台	59	7.8	10.2	7.4	90%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
2		土師器	器台	7, 47	8.2	10.4	8.0	70%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	80, 81, 92	7.3	11.3	8.3	80%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
4		土師器	器台	3, 4, 5, 38, 84, 93	7.8	10.8	7.8	70%	橙褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ	被熱
5		土師器	器台	2, 60, 92	9.8	—	(2.7)	30%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	器台	78	—	9.0	(7.3)	40%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	被熱
7		土師器	器台	75	—	—	(6.4)	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	
8		土師器	高杯	2, 3, 7, 8, 57, 61, 83	21.8	—	6.1	40%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
9		土師器	高杯	7, 8, 92	(20.8)	—	(6.8)	20%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	鉢	1, 46, 89	(20.4)	—	(8.9)	20%	赤褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
11		土師器	壺	8, 92	7.2	—	(6.9)	50%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
73--12		土師器	壺	76	—	—	(16.1)	30%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	被熱
13		土師器	壺	60	12.2	—	(4.9)	20%	褐色	粗	ﾊｹ	ﾊｹ	
14		土師器	壺	80	(16.8)	—	(6.4)	10%	橙褐色	粗	ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
15		土師器	甕	47	(18.0)	—	(18.7)	45%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾊｹｰ→ ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
16		土師器	甕	44	15.7	5.0	14.2	100%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
17		土師器	甕	42, 64, 92	(18.8)	—	(9.8)	15%	橙褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
18		土師器	甕	8, 92	(18.0)	—	(10.0)	20%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
19		土師器	甕	8, 49, 77, 92	23.2	—	(14.7)	35%	黄褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
20		土師器	甕	1, 54, 63, 66, 71, 92	(15.8)	(6.0)	18.2	40%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	木葉痕
21		土師器	甕	49	(17.0)	—	18.1	60%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
22		土師器	甕	45	15.2	10.4	26.3	100%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
23		土師器	甕	94	14.8	10.0	22.6	100%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
74--24		土師器	甕	56, 87	18.7	12.8	8.0	80%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
25		土師器	甕	8, 43	—	8.8	(5.8)	45%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
26		土師器	甕	85, 92	—	12.6	(9.0)	50%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
27		土師器	壺	7	—	5.2	(2.9)	10%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
28		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	53	6.8	4.8	4.3	100%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
29		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	55	5.2	3.6	5.8	95%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
75--1	045	土師器	器台	2	—	—	3.8	10%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱
2		土師器	壺	22	11.2	3.6	8.4	80%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	21	12.8	5.0	20.9	95%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾊｹ →ﾐｶﾞｷ	赤彩
4		土師器	壺	25	15.5	4.4	15.0	90%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	被熱
5		土師器	甕	26	18.4	6.6	21.2	75%	黒褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ	被熱, 木葉痕
6		土師器	甕	20	9.5	4.0	9.6	95%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	被熱
7		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	17	(6.0)	(4.2)	4.1	45%	灰色	密	不明	ﾊｹ	
76--1	046	土師器	高杯	3, 6, 15	—	—	(6.4)	15%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	高杯	27	22.2	—	(8.0)	50%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
3		土師器	壺	3, 16	9.8	—	(9.2)	30%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	甕	6, 18	(8.1)	5.4	11.3	80%	橙褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
5		土師器	甕	23, 24	11.5	—	(11.8)	55%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
6		土師器	甕	28	—	11.8	(7.4)	15%	黄褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
7		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	3	(7.4)	(3.8)	7.4	15%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
77--1	047	土師器	壺	2, 5, 7, 11, 29, 30, 68, 70, 74	(13.9)	—	(14.9)	30%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	被熱
2		土師器	壺	57	20.6	—	(6.8)	10%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	1	(17.2)	—	(7.3)	10%	淡赤褐色	密	ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
4	047	土師器	甕	2, 5, 6, 14, 16, 30, 31, 38, 41, 48, 63, 65, 73	(21.8)	—	(20.5)	20%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
5		土師器	甕	34, 60, 71	(21.4)	—	(6.6)	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
78--1	048	土師器	壺	20, 22	—	—	(5.9)	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
2		土師器	壺	11	(7.8)	(4.0)	7.3	35%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
3		土師器	壺	14	(8.6)	—	(6.8)	5%	褐色	密	不明	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
4		土師器	壺	13, 15	(27.8)	—	(11.0)	15%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)

5		土師器	甕	17	8.6	—	[8.7]	50%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
6		土師器	甕	5, 18	13.0	—	[12.4]	45%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
7		土師器	甕	2, 12	19.0	7.0	26.9	80%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
8		土師器	甕	3, 8, 9	—	11.0	[5.6]	45%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
9		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	6	(4.1)	(2.0)	1.0	25%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
79--1	049	土師器	器台	3	(8.2)	—	[2.3]	25%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
2		土師器	甕	2, 3, 11	12.8	—	[12.0]	30%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
3		土師器	甕	1, 5	—	(9.2)	[5.1]	15%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
4		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	8	(3.6)	2.0	3.8	80%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
80--1	050	土師器	器台	44	7.9	20.7	7.0	100%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩, 被熱
2		土師器	器台	16	—	8.8	[5.4]	10%	赤褐色	粗	ﾅｾ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	壺	29	—	7.4	[14.7]	90%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	34, 39, 42	10.8	—	[7.0]	25%	淡褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
5		土師器	壺	13	11.0	—	[7.3]	25%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
6		土師器	甕	40	11.6	5.9	13.0	90%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	被熱
7		土師器	甕	4, 6, 21, 22	(20.6)	—	[9.3]	15%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｽ	被熱
8		土師器	甕	34, 35, 47	18.0	9.5	25.0	95%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	甕	6, 36, 38, 46	—	9.5	[7.6]	25%	橙褐色	密	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
10		土師器	甕	32	—	10.0	[7.2]	25%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
11		土師器	甕	4, 12	—	17.6	[5.6]	25%	赤褐色	粗	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	被熱
12		土師器	甑	6, 48	—	5.6	[5.0]	20%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱
13		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	31	4.2	(4.3)	4.6	70%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	
81--1	051	土師器	器台	1	—	—	[4.5]	20%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	壺	12	—	2.8	[7.1]	95%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
3		土師器	壺	1	(17.4)	—	[8.2]	15%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
4		土師器	甕	1, 2, 6, 7, 8	—	12.3	[31.2]	65%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
5		土師器	手捏ね	14	—	3.2	[2.4]	50%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
6		土師器	手捏ね	1	—	3.2	2.0	40%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
7		土師器	手捏ね	1	5.3	3.5	2.8	85%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
8		土師器	手捏ね	1	(5.9)	3.5	3.8	65%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	手捏ね	1	5.3	3.5	2.8	85%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
82--1	052	土師器	器台	1, 21	—	(9.0)	[6.4]	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ	
2		土師器	高杯	8	—	15.4	[2.7]	20%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	3, 5, 8, 9	(10.0)	—	[7.1]	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
4		土師器	壺	43, 26M-95-1	(10.8)	—	[12.5]	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ→染線,	
5		土師器	甕	3, 8, 9, 45	(21.2)	—	[6.9]	10%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
6		土師器	甕	21, 42	(17.8)	—	[5.0]	10%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
7		土師器	甕	1, 11, 36	(21.6)	—	[5.7]	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
8		土師器	甕	41	(19.2)	—	[10.3]	20%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
9		土師器	甕	8, 10, 33	(16.8)	—	[9.3]	20%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
10		土師器	甕	27	(10.8)	—	[9.2]	30%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	被熱
11		土師器	甕	1, 2, 3, 6, 7, 8, 9	(11.0)	—	[9.2]	40%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
12		土師器	甕	8	—	10.2	[5.5]	30%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
13		土師器	甕	6	—	5.1	[2.8]	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
14		土師器	手捏ね	1, 6	(7.2)	3.6	4.2	20%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
15		土師器	手捏ね	15	(5.6)	3.2	5.3	30%	褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
16		土師器	手捏ね	14	(4.8)	(3.8)	4.3	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
17		土師器	手捏ね	17	(5.0)	(4.0)	4.1	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
18		土師器	手捏ね	26	—	(4.0)	[3.2]	40%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
19		土師器	手捏ね	28	—	4.3	[2.1]	10%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱
83--1	053	土師器	器台	2, 5, 7, 22, 31, 33	(7.1)	11.2	7.8	65%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ→ﾅﾃﾞ ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	29, 31	—	(11.4)	[4.8]	15%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
3	053	土師器	器台	38	—	—	[4.8]	10%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	8, 9, 36	—	—	[7.9]	15%	橙褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
5		土師器	壺	12, 14, 25, 27, 40	—	7.8	[19.0]	60%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩, 水銀朱, 被熱(ｽｽ付着)
6		土師器	壺	2, 23, 30	—	—	[9.2]	15%	橙褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
7		土師器	壺	28	—	4.4	[11.4]	80%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
8		土師器	壺	19, 20	—	3.8	[7.4]	40%	白灰色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
9		土師器	甕	7, 31	(14.9)	—	[15.2]	25%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	
10		土師器	弥生土器	42	9.2	—	2.4	65%	暗褐色	粗	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
84--1	054	土師器	器台	6, 7	(9.8)	—	[2.8]	10%	黒褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	1	—	—	[5.1]	30%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	27	—	—	[5.2]	30%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	高杯	19	11.6	—	[4.8]	50%	褐色	粗	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	高杯	17	—	(7.4)	[3.9]	35%	橙褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
6		土師器	壺	10, 11, 28	(21.4)	—	[5.0]	10%	橙褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
7		土師器	甕	4, 18	(23.2)	—	[9.0]	15%	褐色	密	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
8		土師器	甕	10, 11, 14, 28	(13.3)	11.4	21.6	80%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
9		弥生	壺	1, 10	—	—	[23.6]	30%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
85--10		土師器	壺	9, 10	—	11.8	[19.3]	40%	黄褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
11		土師器	手捏ね	21	3.8	1.2	2.6	95%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
86--1	055	土師器	器台	1	—	—	[3.9]	15%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	不明	赤彩
2		土師器	甕	6, 8	(19.6)	—	[13.5]	15%	暗褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
87--1	056	土師器	甕	1, 3, 5	—	(8.7)	[11.2]	20%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
2		土師器	甑	3	(16.5)	5.4	12.5	60%	赤褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	甑	3	(16.5)	5.4	12.5	60%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	被熱
88--1	058	土師器	器台	1	—	(12.0)	[4.6]	10%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	赤彩
2		土師器	壺	1, 14, 15	(11.4)	—	[6.2]	10%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	甕	2, 5, 10, 11, 19	(18.8)	—	[4.0]	10%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	被熱
89--1	059	土師器	甕	1, 13, 17	11.2	4.8	13.2	95%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	被熱(ｽｽ付着)
2		土師器	甕	1, 2, 6, 9, 16, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 38, 39, 40, 41, 42	18.8	—	13.5	30%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
3		土師器	甕	7, 48, 49	(18.2)	—	[4.0]	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
90--1	060	土師器	器台	12	—	12.3	[5.9]	60%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	高杯	21	—	20.2	[6.7]	60%	橙褐色	密	ｸｽﾞﾘ→ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	被熱, 赤彩
3		土師器	壺	20	14.8	—	[7.7]	20%	淡褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
4		土師器	甕	21	—	12.8	[7.2]	5%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
91--1	062	土師器	器台	41	—	(12.0)	[6.9]	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	64	—	—	[5.5]	40%	白灰色	密	ﾅﾃﾞ	不明	
3		土師器	甕	1, 2, 8, 46, 47, 48	13.2	—	[6.2]	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
4		土師器	甕	1, 2, 15	—	(11.4)	[6.7]	45%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ →ﾊｹｰ→ ﾐｶﾞｷ	被熱
92--1	063	土師器	高杯	5	20.0	11.0	13.2	100%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
2		土師器	高杯	6	21.2	13.0	14.4	95%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱, 赤彩
3		土師器	高杯	11	20.2	11.4	14.2	80%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱, 赤彩
4		土師器	壺	8	13.4	—	[4.9]	20%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
5		土師器	壺	10	—	4.8	[6.3]	25%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	赤彩
6		土師器	甕	4	12.8	7.6	15.9	90%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	被熱

7		土師器	甕	12	14.1	—	(8.3)	20%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
8		土師器	甕	7, 9	14.7	8.8	22.4	70%	赤褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	被熱
9		土師器	甑	13	19.1	5.6	10.7	90%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱
93--1	065	土師器	器台	1	—	—	(6.1)	20%	淡褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	北陸系
2		土師器	高杯	3	21.5	—	(10.0)	60%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
3		土師器	壺	1, 3	(16.8)	—	(10.4)	20%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
4		土師器	壺	2	—	8.2	(18.5)	50%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
5		土師器	甕	1	(19.4)	—	(11.8)	15%	黒褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	被熱(XX付着)
6		土師器	甕	1	(18.2)	—	(6.6)	10%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹ	被熱(XX付着)
7		土師器	甕	1	(18.3)	—	(6.4)	10%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
94--1	066	土師器	壺	1	—	4.7	(7.1)	30%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	
2	066	土師器	壺	1, 2	—	3.3	(3.4)	5%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	被熱
3		土師器	甕	1	—	(11.1)	(8.9)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
4		土師器	手捏ね	5	—	2.8	(4.1)	70%	赤褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ	赤彩
95--1	067	土師器	鉢	1	(5.4)	2.5	5.4	40%	黄褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	赤彩
2		土師器	鉢	1, 20	(10.3)	3.6	7.2	60%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	赤彩
3		土師器	器台	17	7.3	12.6	7.7	95%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	器台	7	8.6	—	(8.5)	60%	褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ,	
5		土師器	器台	10	—	13.0	(8.9)	60%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ, ﾅﾅﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾅﾞ	
6		土師器	器台	15	—	—	(6.4)	20%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	器台	14	—	—	(4.6)	25%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	被熱
8		土師器	器台	19	—	12.4	(6.7)	60%	黄褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ, ﾅﾅﾞ	
9		土師器	高杯	1, 8	20.8	—	(7.0)	40%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾐｶﾞｷ	被熱
10		土師器	壺	2, 4, 5, 11	20.0	—	(7.8)	20%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅｏ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	被熱
11		土師器	甕	8	11.4	4.0	9.5	90%	橙褐色	粗	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	被熱(XX付着)
12	067	土師器	甕	6	13.6	4.6	11.0	95%	黄褐色	粗	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	
13		土師器	甕	31	12.5	4.6	13.5	60%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
14		土師器	甕	1, 2, 26	(14.4)	4.0	12.0	55%	黄褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
15		土師器	甕	1, 28	(18.0)	—	(5.5)	5%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
16		土師器	甕	8	—	10.8	(15.0)	60%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾊｹ → ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	
17		土師器	甕	1, 2, 4, 25	—	(10.7)	(8.9)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱
18		土師器	甕	1, 13	—	12.4	(7.0)	20%	褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ→ﾊｹ, ﾊｹ	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ →ﾊｹ	被熱
19		土師器	甕	12	—	9.6	(6.1)	20%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ, ﾅﾅﾞ	被熱
96--1	068	土師器	器台	1, 5, 10	6.9	10.6	7.7	75%	褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾅﾞ→ﾊｹ	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾅﾅﾞ, ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	壺	1, 11	(15.2)	—	(8.2)	10%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ→ﾊｹ	被熱, 赤彩
3		土師器	甕	1, 3, 4, 5	19.5	10.4	31.4	70%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾊｹ	被熱
4		土師器	甕	1, 2	(14.2)	—	(5.1)	5%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹ	
5		土師器	壺	1, 5, 7	—	4.0	(7.5)	50%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	被熱
91--5	069	土師器	器台	6	—	(12.2)	(7.2)	30%	褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾊｹ	ﾅﾅﾞ→ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
6		土師器	甕	6	—	—	(6.3)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹ	
97--1	071	土師器	器台	3, 15, 17	(8.4)	10.9	7.3	95%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	器台	23	7.5	9.7	7.9	100%	褐色	粗	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ	
3		土師器	高杯	8	11.8	—	(5.7)	30%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	19	(13.1)	4.7	(7.5)	50%	褐色	密	ﾅﾅﾞ, ｶｽﾞﾘ→ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
5		土師器	壺	25	—	7.4	(11.1)	15%	赤褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ,	被熱, 赤彩, 木葉痕
6		土師器	甕	3, 14, 15, 16, 17	19.2	10.0	31.5	85%	黒褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
7		土師器	甕	2, 3, 20, 21, 22, 24	(14.0)	9.3	23.2	75%	褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
8		土師器	甕	1, 13	—	(9.7)	(8.8)	10%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	被熱
9		土師器	甕	27	—	(10.7)	(7.0)	15%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ→ﾊｹ	被熱
98--1	73	土師器	器台	23, 35, 36, 37, 38, 39, 43	9.9	13.8	8.2	70%	褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	器台	3, 23, 24	—	13.4	(5.2)	35%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾅﾞ	
3		土師器	壺	44	10.4	4.8	16.0	95%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ	被熱
4		土師器	壺	1～14, 17～20, 22, 25～30	14.4	5.2	26.1	80%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	被熱
5		土師器	壺	45, 46, 47, 48	—	10.4	(18.8)	30%	褐色	粗	不明	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
6		土師器	壺	1, 2	(21.2)	—	(6.7)	5%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
99--1	074	土師器	高杯	70, 93	—	13.0	7.7	65%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹ, ﾅﾅﾞ→ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	高杯	6, 8, 53, 60, 67, 68, 69, 70, 72, 77, 92	13.6	19.6	10.5	55%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	高杯	91	20.6	—	(9.7)	60%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	坩	75	—	—	3.2	90%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
5		土師器	壺	5, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 28, 29, 30, 31, 32, 41, 42, 44, 81, 82, 85	—	8.5	(25.6)	50%	黄褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ,	木葉痕
6		土師器	甕	9	9.2	8.4	14.0	95%	黒褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
7		土師器	甑	96	—	4.4	(5.0)	15%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	被熱
100--1	075	土師器	器台	13, 16	8.0	13.4	8.4	95%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	甕	19	11.8	10.0	16.3	100%	褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹ , ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
3		土師器	甕	15	—	10.2	(7.3)	45%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
4		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	14	4.6	—	(2.4)	70%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾅﾞ	
101--1	076	土師器	器台	2, 4	(9.2)	—	(2.8)	10%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	被熱
2		土師器	高杯	7	15.1	—	(5.2)	45%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱
3		土師器	壺	1	19.2	—	(7.0)	10%	黄褐色	密	不明	ﾊｹ	被熱(XX付着)
4		土師器	甕	1	11.4	—	(10.0)	55%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ, ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
5		土師器	甕	6	—	12.0	(8.0)	45%	橙褐色	粗	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	被熱
6		土師器	甕	1	17.6	—	(7.5)	10%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹ	被熱(XX付着)
7		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	4	—	2.0	(4.6)	15%	橙褐色	密	ﾅﾅﾞ	ﾍﾗﾅﾅﾞ, ﾍﾗｹｽﾞﾘ	
102--1	077	土師器	壺	12, 13	8.7	(2.7)	13.0	60%	暗褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	甕	4, 6～8, 10, 14	13.2	7.9	21.9	55%	暗褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾊｹ, ﾊｹ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	被熱(XX付着)
3		土師器	甕	1, 3, 11, 12, 14	15.9	9.2	(27.2)	60%	黒褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ	
4		土師器	甕	12, 13	(17.8)	—	(5.7)	10%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	
103--1	078	土師器	器台	17, 32	8.9	12.8	7.8	95%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾅﾞ	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	壺	35, 38	11.4	3.6	9.7	60%	暗褐色	密	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾅﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾅﾞ	

3		土師器	壺	23, 37	(18.8)	—	[3.6]	5%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
4		土師器	壺	19	—	7.0	[10.5]	35%	暗褐色	密	不明	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	赤彩
5		土師器	甕	15, 18	18.8	5.0	21.0	90%	橙褐色	粗	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
6		土師器	甕	4, 5, 36, 37	(13.6)	—	[11.2]	20%	暗褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
7		土師器	甕	33	—	(9.6)	[6.2]	20%	黒褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
104--1	079	土師器	器台	3, 202	—	(13.2)	[6.3]	25%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	3, 198	—	12.7	[6.4]	30%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	189	—	(11.8)	[5.9]	15%	橙褐色	粗	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
4	079	土師器	器台	3, 6, 26, 135, 159	—	(13.6)	[7.1]	30%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	高杯	253, 265	14.3	(17.5)	12.5	75%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	高杯	68	—	—	[5.5]	40%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	壺	6, 102～104, 138, 270	—	4.2	[13.0]	60%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤彩
105--8		弥生	壺	11, 12, 70, 72, 73, 84, 92, 93, 99	(17.7)	—	[31.2]	60%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
9		土師器	壺	5, 133, 255, 256, 259, 360	15.0	(6.8)	[27.1]	40%	黄褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
10		土師器	壺	2, 3, 178, 181, 182, 187, 190, 197, 198, 199, 200, 201	—	—	[28.5]	65%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
11		土師器	壺	11, 115, 140, 254	—	7.8	[19.8]	30%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
12		土師器	壺	130, 193, 194	(20.2)	—	[6.0]	5%	黄褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
13		土師器	壺	4, 5, 6, 112, 128	—	—	[3.3]	5%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤彩
14		土師器	壺	252	9.2	3.6	9.3	80%	茶褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
15		土師器	壺	2, 3, 6, 150, 163, 230, 209	11.9	—	8.5	70%	黄褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
16		土師器	壺	11, 12, 59, 61	10.6	—	[5.9]	10%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
17		土師器	壺	193	(13.4)	—	[4.3]	5%	黄褐色	密	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
18	079	土師器	壺	31, 54	—	3.4	[5.3]	25%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
19		土師器	甕	85, 91	(17.4)	8.7	23.1	45%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
106--20		土師器	甕	3, 196, 203, 204, 219, 220, 264	17.4	—	[19.5]	40%	黒褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
21		土師器	甕	67	—	11.9	[7.0]	30%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
22		土師器	甕	31, 53	—	(12.1)	[6.9]	20%	赤褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ→ﾊｹ	ﾊｹ	
23		土師器	甕	3, 13, 219, 220, 221	—	8.9	[6.9]	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
24		土師器	甑	101	—	(6.0)	[2.3]	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
25		土師器	手捏ね	32, 31	7.1	3.7	4.3	90%	橙褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
107--1	080	土師器	高杯	174	—	—	[5.1]	25%	褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
2		土師器	高杯	204	—	—	[4.7]	30%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
3		土師器	高杯	82, 64	23	—	[6.8]	30%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
4		土師器	壺	2, 37, 244, 251	—	—	7.2	20%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	赤彩
5		土師器	壺	89, 101, 182	[13]	—	[8.7]	15%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	壺	95	—	—	[8.1]	5%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	
7		土師器	甕	254, 257	7.7	3	10.7	90%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
8		土師器	甕	5	(11.5)	—	[2.2]	5%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
9		土師器	甕	88	—	(5.4)	[1.7]	5%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
108--10		土師器	甕	2, 3, 4, 5, 7, 8, 12, 13, 91, 96, 97, 99, 100, 110, 128, 141, 147, 157, 158, 163, 167, 187, 188, 189, 212, 245, 267	(19)	—	[24.9]	55%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
11		土師器	甕	8, 11, 251, 253, 255, 257, 259, 261	14.4	7.4	19.3	80%	暗褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ, ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
12		土師器	甕	3, 229, 238, 242	(11)	—	[6.5]	15%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
13		土師器	甕	166, 197, 198, 199, 200	—	13	[7.6]	45%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
14		土師器	甕	241	—	8	5.7	25%	褐色	粗	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
15		土師器	甕	7, 8, 114, 115, 116, 149, 196	—	9.8	[7.1]	40%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
16		土師器	甕	227, 240, 250, 267	—	(9.2)	[7.8]	40%	茶褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
109--1	081	土師器	器台	7, 69	—	—	[6.2]	15%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	器台	43	—	—	[6.6]	45%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	33	—	—	[4.1]	40%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
4		土師器	高杯	70	(10.8)	—	[3.7]	25%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	高杯	72	—	—	[7.2]	40%	赤褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
6		土師器	壺	45	14.0	3.0	15.2	85%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	赤彩
7		土師器	壺	14, 15, 32, 49, 51, 67, 77	19.0	—	[10.3]	40%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
8		土師器	壺	88	19.6	—	[8.5]	35%	黄褐色	粗	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	
9		土師器	壺	19, 66	15.7	—	[5.9]	30%	橙褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
110--10		土師器	壺	1, 14, 60, 61, 62, 63	—	8.0	[24.4]	30%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
11		土師器	壺	1, 55	—	6.4	[16.0]	40%	橙褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	木葉痕
12		土師器	壺	25	—	—	[6.7]	15%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	被熱(ｽｽ付着)
13		土師器	甕	1, 14, 52, 58, 54	12.6	—	[13.7]	60%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
14		土師器	甕	14, 58	(11.8)	—	[12.5]	20%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	
15		土師器	甕	59, 1, 14	(12.8)	—	[13.5]	20%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
16		土師器	甕	3, 20, 63	—	(6.0)	[8.0]	15%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
17		土師器	壺	14, 52, 53	—	4.0	[4.7]	10%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ, ﾅﾃﾞ	
18		土師器	甕	24	—	8.7	[5.7]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
19		土師器	甕	90	—	6.9	[5.2]	10%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
20		土師器	甕	101	—	—	[6.9]	20%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
111--1	082	土師器	高杯	22	12.4	—	[5.0]	30%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	甕	17	(18.2)	—	[14.7]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
3		土師器	甕	4, 12	(19.2)	—	[5.5]	5%	黄褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
4		土師器	甕	31, 42, 44	—	12.6	[8.1]	35%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
5	082	土師器	甕	4, 27, 30, 28	—	(11.6)	[6.8]	10%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(ｽｽ付着)
6		土師器	甕	3, 15	—	(11.4)	[5.9]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	被熱(ｽｽ付着)
7		土師器	甕	13, 18, 19	—	(12.0)	[7.0]	20%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
112--1	083	土師器	壺	19	8.5	1.0	5.4	70%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱
2		土師器	器台	23	—	—	[5.0]	20%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	被熱
3		土師器	器台	1	—	—	[4.1]	15%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱
4		土師器	壺	1, 7, 19	(17.4)	—	[5.2]	5%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
5		土師器	手捏ね	10	(5.5)	[4.2]	6.0	70%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾅﾃﾞ	
113--1	085	土師器	鉢	5, 40	—	4.0	[3.3]	5%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	16	7.6	9.9	7.1	100%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	14	7.1	9.5	7.2	95%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
4		土師器	器台	12, 41	8.4	—	[2.7]	35%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾅﾃﾞ	
5		土師器	器台	1, 4	—	(11.0)	[6.0]	20%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	高杯	11	11.8	—	[10.1]	90%	暗褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾓ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
7		土師器	高杯	8	12.1	—	[6.0]	40%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
8		土師器	壺	8	(12.0)	—	[4.0]	5%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	
9		土師器	壺	10	11.6	—	[9.3]	15%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
10		土師器	甕	7	9.5	4.2	9.6	100%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
11		土師器	甕	15	8.9	4.8	9.0	90%	暗褐色	密	ﾐｶﾞｷ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
12		土師器	甕	17, 18, 19, 34	(15.9)	(4.8)	[15.7]	60%	黄褐色	粗	ﾊｹ, ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
13		土師器	甕	33	13.5	4.8	19.2	100%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
14		土師器	甕	3, 4	12.6	6.7	17.3	85%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	

15		土師器	甕	2, 5, 6, 8, 39, 40, 41	13.6	8.7	16.2	80%	赤褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	被熱
16		土師器	甕	13	—	10.0	(7.9)	35%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	
17		土師器	甕	9	—	10.0	(6.5)	50%	茶褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾍﾗﾅd	
114--1	086	土師器	器台	7	—	(11.4)	(7.2)	35%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	高杯	4	—	—	(3.9)	15%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	赤彩
3		土師器	甕	4, 6, 8	11.3	—	(8.8)	70%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
115--1	087	土師器	器台	105, 107	(9.0)	9.7	9.0	75%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
2		土師器	器台	1, 44, 49, 50, 54, 58, 61	—	10.4	(3.4)	25%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	器台	2, 3, 11	—	12.3	(7.4)	40%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	45, 99, 100	—	5.6	(5.7)	15%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
5		土師器	甕	108	(14.0)	—	(14.1)	40%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
6		土師器	甕	106	20.3	10.1	31.3	90%	黒褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗｽﾞﾘｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹ	
7		土師器	手捏ね	68, 75, 77	(4.0)	3.2	4.1	70%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
116--1	088	土師器	鉢	7, 16	19.8	—	(6.3)	15%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗｽﾞﾘ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
2		土師器	壺	9, 11, 12	—	6.8	(4.8)	10%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	甕	13	16.7	4.6	21.6	95%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(XX付着)
4		土師器	甑	16	—	5.8	(3.8)	10%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
117--1	089	土師器	器台	26	—	9.2	(4.4)	50%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
2		土師器	壺	2	—	(4.0)	(1.7)	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	甕	6, 7, 9, 29, 31	12.8	5.3	20.5	80%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
119--1	091	土師器	甕	13	(11.1)	—	(5.2)	15%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
2		土師器	甕	3, 4	(17.4)	—	(4.3)	5%	褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	
3		土師器	甕	3	(18.8)	—	(3.8)	5%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	被熱(XX付着)
120--1	092	土師器	器台	144	7.6	(12.2)	6.3	75%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	器台	10	7.3	—	(1.3)	40%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
3		土師器	器台	68, 156, 171	—	(11.4)	(6.6)	45%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
4		土師器	器台	16	—	11.7	(5.8)	65%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
5		土師器	高杯	12	13.5	—	(11.1)	90%	黄褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	高杯	73, 75, 87, 88, 131	13.0	—	(7.2)	55%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
7		土師器	高杯	2, 3, 5, 89, 92, 95, 101	12.9	—	(4.5)	40%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩
8		土師器	壺	154	10.0	—	5.4	80%	赤褐色	粗	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
9		土師器	壺	8	12.8	2.9	7.4	80%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
121--10		土師器	壺	2, 5, 6, 25, 26, 47, 52, 69, 71, 97, 106, 108, 109, 110, 111, 125, 135	13.2	3.3	13.9	90%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾐｶﾞｷ	赤彩
11		土師器	壺	46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 59, 73, 79, 83, 96	13.8	6.8	16.8	85%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
12		土師器	壺	47, 49, 51, 56, 57, 58, 125, 126	(17.6)	5.0	10.9	60%	黄褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	
13		土師器	壺	2, 5, 7, 20, 21, 24, 30, 66, 99, 102, 106, 133, 134	10.7	—	(10.4)	80%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
14		土師器	壺	3, 5, 30, 68, 91	8.0	3.0	6.4	85%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
15		土師器	壺	77, 84	—	5.0	(6.8)	70%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
16		土師器	壺	38, 43, 44, 53, 55, 62, 118, 121, 128	8.4	2.6	5.9	90%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	
17		土師器	壺	9	(7.0)	4.4	6.6	95%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
18	092	土師器	壺	146	(18.6)	—	(22.0)	30%	赤褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
19		土師器	壺	2, 5, 7, 93, 97, 98, 99, 102, 103, 104, 105, 107, 109, 133, 135, 140, 163, 164, 165, 166, 167	12.2	4.6	15.3	80%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	被熱(XX付着)
20		土師器	甕	2, 46, 48, 49, 51, 52, 54, 77, 79, 82, 118, 124, 125, 136	13.3	5.1	15.3	85%	暗褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
21		土師器	甕	3, 69, 74, 76, 85, 86	(10.8)	4.4	11.3	60%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(XX付着)
22		土師器	甕	2, 3, 5, 6, 7	—	9.0	(29.4)	50%	橙褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘｰ→ﾅﾃﾞ, ﾐｶﾞｷ	
23		土師器	甕	5, 7	14.2	—	(4.3)	10%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	
24		土師器	甕	5	(24.4)	—	(5.7)	5%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
25		土師器	甕	1, 19, 22, 142, 143, 145, 147, 150, 151, 172	19.2	11.5	32.2	70%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	被熱(XX付着)
122--26		土師器	甕	2, 7, 34, 39, 40, 42, 43, 54, 55, 62, 63, 72, 118, 119, 120	13.2	10.5	21.5	65%	暗褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
27		土師器	甕	45, 47, 57, 58, 59, 60, 79, 125, 126	13.9	(10.2)	19.7	60%	暗褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
28		土師器	甕	2, 3, 52, 68, 70, 72, 77, 78, 100	14.3	—	(14.0)	70%	黄褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
29		土師器	甕	141, 142	—	—	(7.9)	30%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
30		土師器	甕	2, 32, 33, 34	(10.6)	8.2	8.7	50%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
31		土師器	甕	15	—	9.6	(6.3)	15%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
32		土師器	甕	59, 80	—	(14.3)	(7.8)	5%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
33		土師器	甕	5, 43, 54, 55	—	11.7	(5.1)	15%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
34		土師器	甕	14	—	11.4	(6.6)	15%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
35		土師器	甕	13	—	10.9	(7.8)	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
36		土師器	甕	23, 27, 67	—	10.0	(6.7)	15%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	
37		土師器	甕	59, 6	—	—	(6.2)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	
123--1	093	土師器	器台	4, 7	—	(11.4)	(5.9)	35%	赤褐色	密	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	壺	4, 16, 28	—	6.2	(2.7)	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
3		土師器	壺	2, 32	—	5.6	(2.2)	5%	褐色	密	不明	不明	
4		土師器	甕	3	(17.0)	—	(3.8)	5%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	
5		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	5, 35	(4.0)	(13.2)	5.9	45%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
6		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	9	(3.3)	3.0	4.1	90%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
7		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	表採	—	4.4	(1.7)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
124--1	094	土師器	器台	4, 16	—	—	(4.1)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
2		土師器	高杯	4, 14, 16	19.4	—	(6.8)	30%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	赤彩, 被熱
3		土師器	壺	2, 11, 22	(12.0)	—	(6.0)	10%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	
4		土師器	壺	4, 18, 20	—	4.3	(12.5)	50%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾐｶﾞｷ	
6		土師器	甕	5	19.8	—	(13.4)	50%	暗褐色	粗	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	
125--1	099	土師器	器台	2, 7	(7.8)	—	(3.0)	15%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤彩
2		土師器	高杯	8, 20, 21, 22, 24, 25, 26, 28, 30	(25.1)	—	(6.2)	20%	橙褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	
3		土師器	壺	1, 7	—	2.6	(2.5)	20%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	
127--1	遺構外	土師器	器台	35-1	(11.1)	(13.9)	10.4	65%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾅﾃﾞ	28-0
2		土師器	器台	99-1	8.0	—	5.2	65%	黒褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	27L-1
3		土師器	器台	15-1	7.8	—	(4.3)	40%	赤褐色	密	ﾐｶﾞｷ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	28N
4		土師器	器台	22-1	(7.6)	—	(1.8)	5%	褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ	27O
5		土師器	器台	20-1	—	10.6	(5.3)	60%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	29N
6		土師器	器台	22-1	—	12.0	(6.8)	10%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	27O
7		土師器	器台	07-1	—	—	(6.7)	50%	褐色	密	ﾍﾗﾅｽﾞﾘ, ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	29N
8		土師器	器台	24-1	—	—	(4.6)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	27N
9		土師器	器台	80-1	—	—	(3.9)	10%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	26N
10		土師器	高杯	32-1	(17.3)	—	(5.5)	20%	橙褐色	密	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	28M
11		土師器	高杯	06-1, 07-1	(19.8)	—	(6.3)	15%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	29N 赤彩
12		土師器	高杯	10-1	(16.4)	—	(5.2)	15%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	29O
13		土師器	高杯	45-1	—	16.2	(5.8)	25%	褐色	粗	ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	28-0
14		土師器	高杯	—	—	—	(8.0)	20%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	不明	27L 赤彩
15		土師器	壺	59-1	(20.0)	9.2	30.8	50%	黄褐色	密	ﾊｹｰ→ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	29M 木葉痕
16		土師器	壺	1	—	—	(11.6)	10%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹｰ→ﾐｶﾞｷ	27N-74
17		土師器	壺	35-1	22.2	—	(4.8)	5%	褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ, ﾊｹｰ→ﾅﾃﾞ	28-0

18		土師器	壺	36-1	18.3	—	[8.6]	30%	黄褐色	密	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ, ﾊｹ	27L
19		土師器	壺	89-1	(14.0)	—	5.6	10%	褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ→ﾐｶﾞｷ	27O 赤彩
20		土師器	壺	27-1	(19.1)	—	[6.1]	5%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27L
21		土師器	壺	35-1	(12.6)	—	[11.8]	15%	褐色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	28O
22		土師器	壺	74-1	10.4	—	[8.5]	50%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
23		土師器	壺	23-1	—	3.8	[8.8]	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	28N
24		土師器	埦	14-1	—	7.4	[3.3]	10%	橙褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	28M
25		土師器	鉢	46-1	—	—	[3.0]	5%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	29N 赤彩
26		土師器	鉢	01-1	—	2.0	[2.5]	30%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	28M
27		土師器	鉢	00-1	(9.0)	—	[4.5]	40%	褐色	粗	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	29M
28		土師器	壺	04-1, 15-1	—	10.6	[9.8]	20%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	29O
128—29		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	16-1	4.9	—	[6.9]	65%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾐｶﾞｷ	27L
30		土師器	甕	74-1	—	—	[7.5]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	27N-74
31		土師器	甕	72-1	—	(10.8)	[6.6]	20%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27M
32		土師器	甕	74-1	—	11.2	[6.9]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ, ﾊｹ	27N-74
33		土師器	甕	37-1	—	(9.5)	[5.5]	5%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	27L
34		土師器	甕	1	—	(8.6)	[4.9]	10%	褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
35		土師器	甕	41-1	—	7.0	[5.0]	30%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ, ﾊｹ	ﾊｹ	27R 被熱(ｽｽ付着)
36		土師器	甕	74-1	—	(8.6)	[6.2]	15%	暗褐色	密	ﾊｹ	ﾊｹ	27N-74
37		土師器	甕	53-1	—	(9.6)	[6.0]	10%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	29O 被熱(ｽｽ付着)
38		土師器	甕	1	(15.0)	—	[12.3]	10%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
39		土師器	甕	14-1	(18.0)	—	[9.0]	10%	褐色	粗	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	28M 被熱
40		土師器	甕	97-1	(11.9)	—	[6.3]	5%	赤褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	28N
41		土師器	甕	74-1	(19.4)	—	[6.7]	5%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
42		土師器	甕	74-1	(20.0)	—	[4.1]	5%	橙褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
43		土師器	壺	74-1	(14.8)	—	[4.8]	5%	黒褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
44		土師器	甕	90-1	(15.4)	—	[3.0]	5%	黄褐色	密	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27M 被熱(ｽｽ付着)
45		土師器	甕	74-1	—	5.2	[13.8]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
46		土師器	甕	74-1	—	7.0	[2.3]	10%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
47		土師器	甕	04-1	—	(5.4)	[2.8]	5%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	28M
48		土師器	瓶	1	(9.5)	—	[4.2]	30%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
49		土師器	手捏ね	1	8.1	3.4	7.0	70%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
50		土師器	手捏ね	1	7.8	4.4	5.9	95%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
51		土師器	手捏ね	1	6.6	3.6	5.0	95%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
52		土師器	手捏ね	1	6.8	3.2	4.5	90%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
53		土師器	手捏ね	1	(6.7)	3.8	4.5	90%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
54		土師器	手捏ね	1	7.6	4.2	4.9	95%	褐色	密	ﾊｹ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
55		土師器	手捏ね	1	6.2	3.2	3.7	95%	黒褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
56		土師器	手捏ね	1	6.1	3.5	4.2	40%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
57		土師器	手捏ね	1	4.9	3.0	4.6	95%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
58		土師器	手捏ね	1	5.3	2.8	4.1	100%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
59		土師器	手捏ね	95-1	(3.8)	2.2	3.5	65%	暗褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	28N
60		土師器	手捏ね	75-1	—	(4.0)	[3.8]	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	27R
61		土師器	手捏ね	1	—	3.8	[3.5]	60%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
62		土師器	手捏ね	1	9.4	4.0	5.3	60%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
63		土師器	手捏ね	1	—	(3.6)	[4.0]	40%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ, ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
64		土師器	手捏ね	1	(5.8)	2.6	7.0	90%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	27N-74
65		土師器	手捏ね	1	(6.0)	—	[2.4]	15%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
66		土師器	手捏ね	1	4.3	3.2	4.7	95%	暗褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
67		土師器	手捏ね	1	5.2	3.4	4.6	100%	黄褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
68		土師器	手捏ね	1	5.4	4.1	5.4	100%	褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
69		土師器	手捏ね	1	—	(3.0)	[5.7]	40%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
70		土師器	手捏ね	1	4.7	3.0	5.8	70%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
71		土師器	手捏ね	1	5.3	3.8	5.8	70%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
72		土師器	手捏ね	1	(6.0)	—	[5.4]	40%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
73		土師器	手捏ね	1	4.2	2.5	5.7	80%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
74		土師器	手捏ね	1	—	3.4	[4.7]	50%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
75		土師器	手捏ね	1	—	3.2	[5.1]	55%	褐色	密	ﾊｹ, ﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N-74
76		土師器	手捏ね	27W-40-1	—	(4.0)	[3.2]	25%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
77		土師器	手捏ね	1	5.4	3.5	4.0	85%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
129—78		土師器	手捏ね	1	(6.4)	2.6	3.4	35%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
79		土師器	手捏ね	73-1, 73	(7.0)	3.4	3.9	55%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ	27N
80		土師器	手捏ね	1	(6.0)	(4.0)	3.3	40%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
81		土師器	手捏ね	1	(6.7)	4.2	3.4	45%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
82		土師器	手捏ね	1	6.8	3.8	3.3	75%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
83		土師器	手捏ね	1	5.9	4.0	3.3	95%	黒色	粗	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
84		土師器	手捏ね	1	—	3.6	[2.4]	50%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
85		土師器	手捏ね	29-1	—	(3.2)	[1.2]	10%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27M
86		土師器	手捏ね	1	(5.9)	—	[4.2]	20%	黄褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
87		土師器	手捏ね	1	5.0	3.1	4.5	100%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
88		土師器	手捏ね	1	4.8	3.2	4.2	80%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
89		土師器	手捏ね	1	4.8	3.4	3.8	95%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
90		土師器	手捏ね	1	—	3.6	[2.9]	50%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
91		土師器	手捏ね	1	—	3.2	[2.5]	45%	暗褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
92		土師器	手捏ね	1	—	3.5	[2.0]	60%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
93		土師器	手捏ね	09-1	—	(4.0)	[2.2]	20%	褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾅﾃﾞ	27M
94		土師器	手捏ね	1	—	4.0	[3.4]	25%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
95		土師器	手捏ね	1	—	3.2	[2.6]	40%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
96		土師器	手捏ね	1	—	3.8	[1.6]	20%	灰褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
97		土師器	手捏ね	1	—	3.8	[2.1]	50%	褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾊｹ→ﾅﾃﾞ	27N-74
98		土師器	手捏ね	1	—	4.0	[1.7]	35%	橙褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	27N-74
99		土師器	手捏ね	1	—	3.0	[1.1]	40%	灰褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
100		土師器	手捏ね	1	—	3.8	[1.8]	50%	橙褐色	密	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
101		土師器	手捏ね	1	—	3.4	[1.5]	15%	黒褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
102		土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	1	—	3.0	[3.1]	70%	黄褐色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	27N-74
130—1		須恵器	杯	No1-1	(11.4)	(7.4)	4.4	20%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
2		須恵器	杯	1	—	—	[4.0]	25%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	灰釉付着
3		須恵器	杯	1	—	(8.0)	[2.7]	20%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
4		須恵器	杯	No1-1, No2-1	—	(7.4)	[2.6]	20%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
5		須恵器	杯	82-1	(14.2)	7.4	5.1	30%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	蓋に転用
6		須恵器	杯	1	(12.0)	—	[3.2]	20%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
7		須恵器	杯	04-1	(12.9)	—	[3.9]	20%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	
8		須恵器	蓋	82-1	10.8	13.6	18.6	100%	灰色	密	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	

写　真　図　版

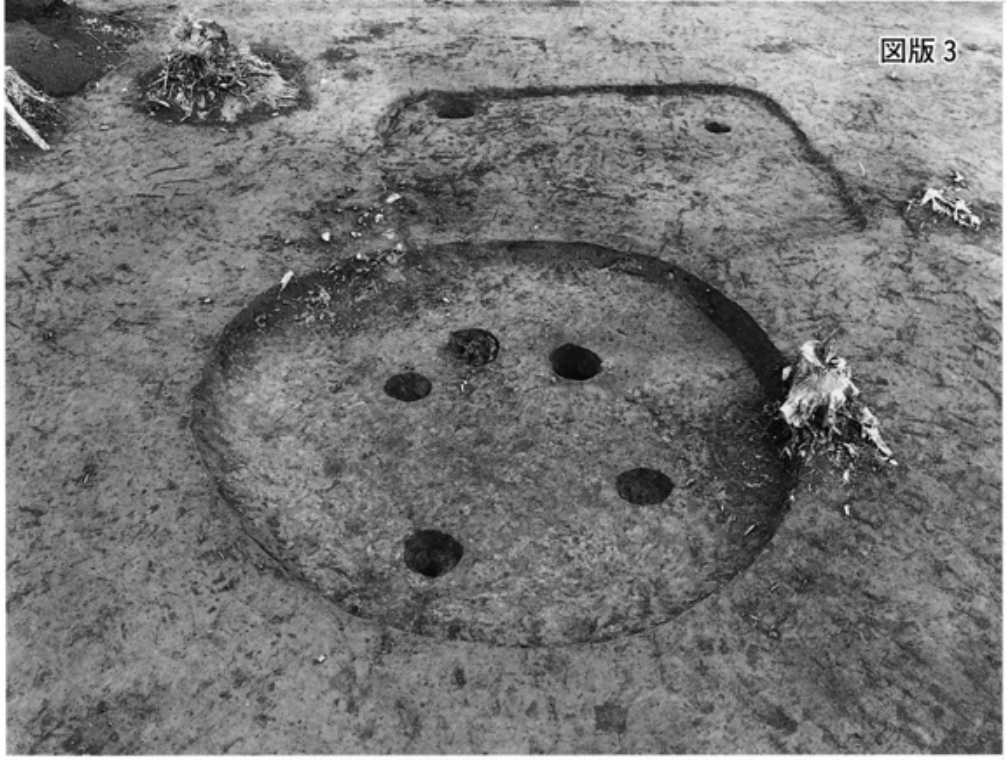
遺跡周辺航空写真 (1/10,000)

図版 2

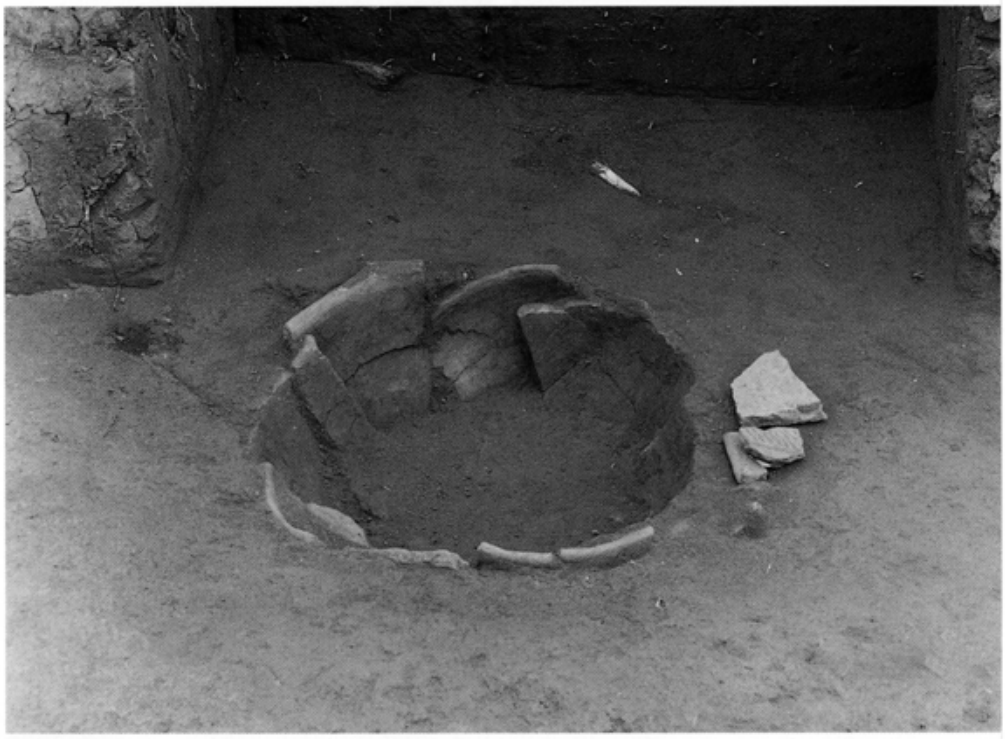
調査前風景

空撮

空撮

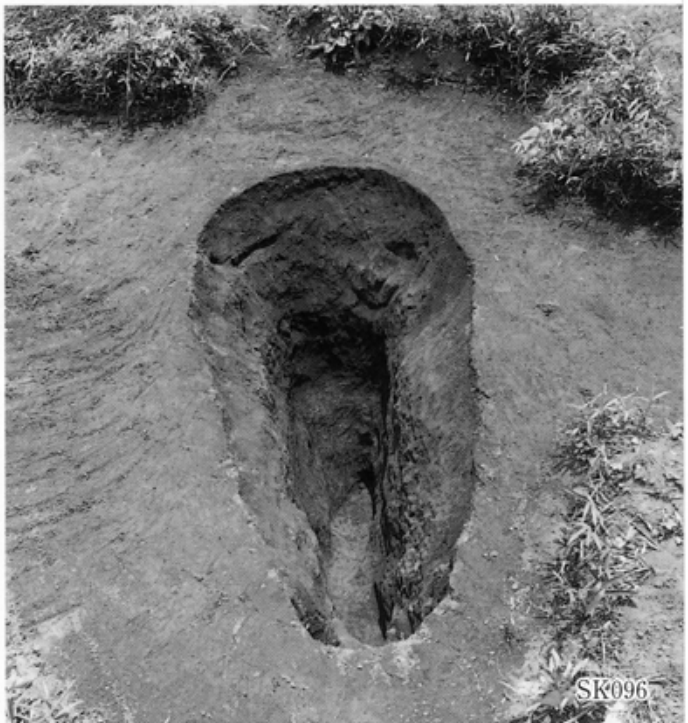


SI064



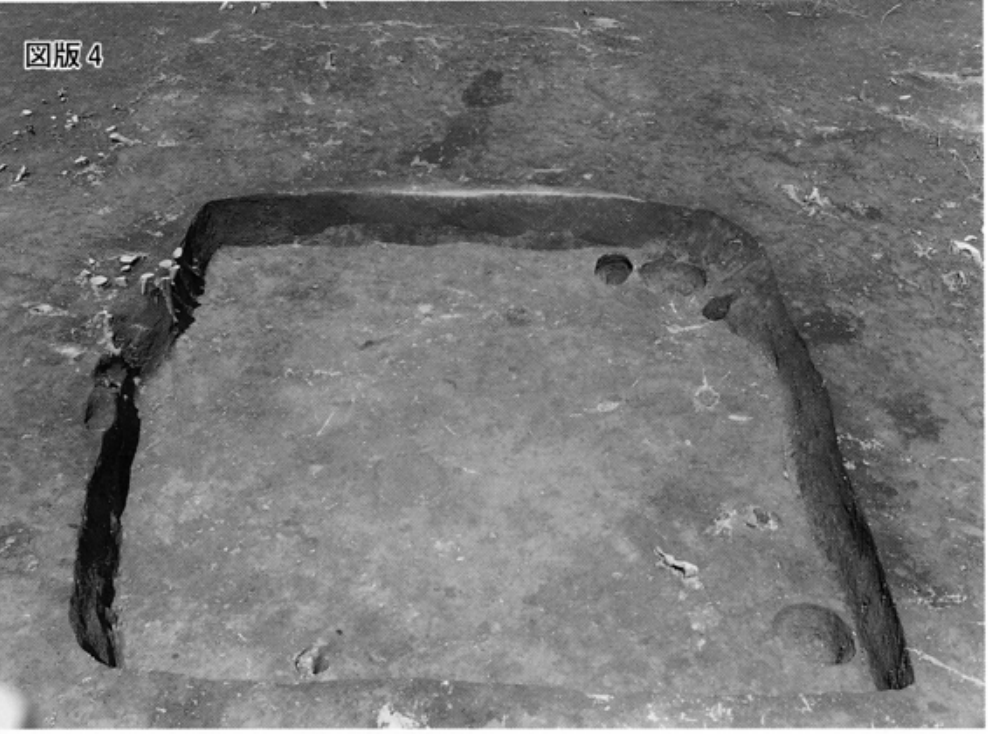
SI098

SK070

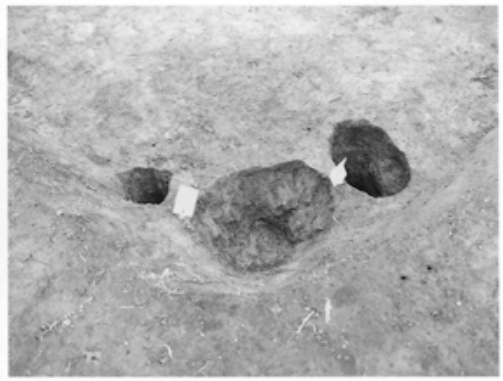


SK096

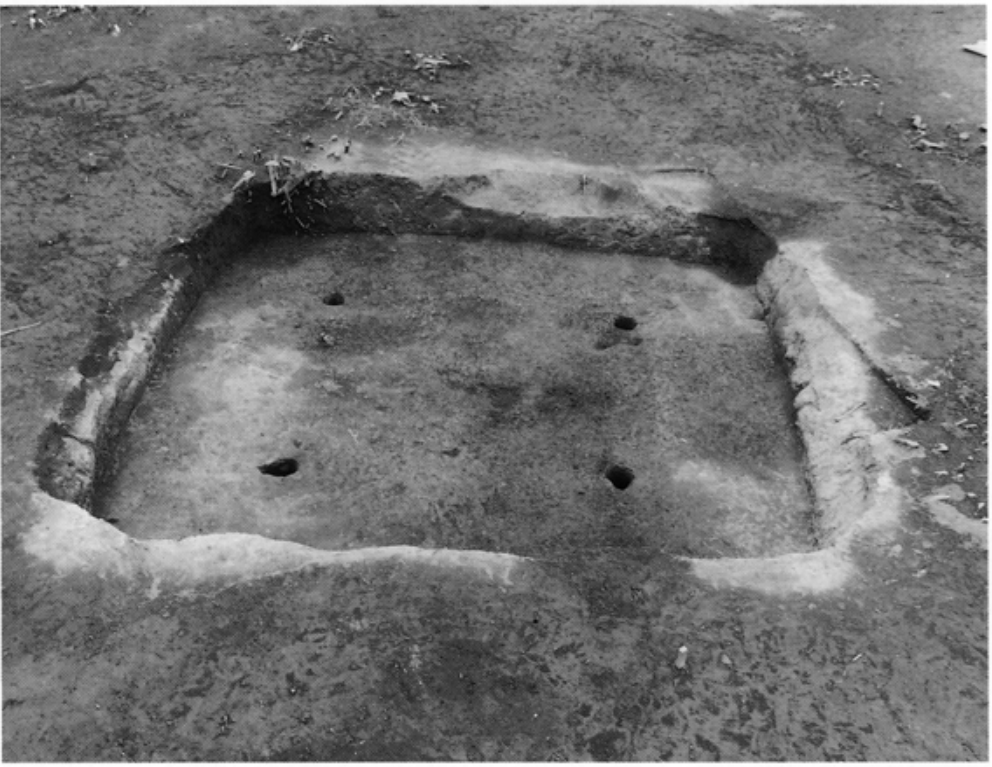
図版4



SI001



（左）SI001遺物出土状況
（右）SI001貯蔵穴

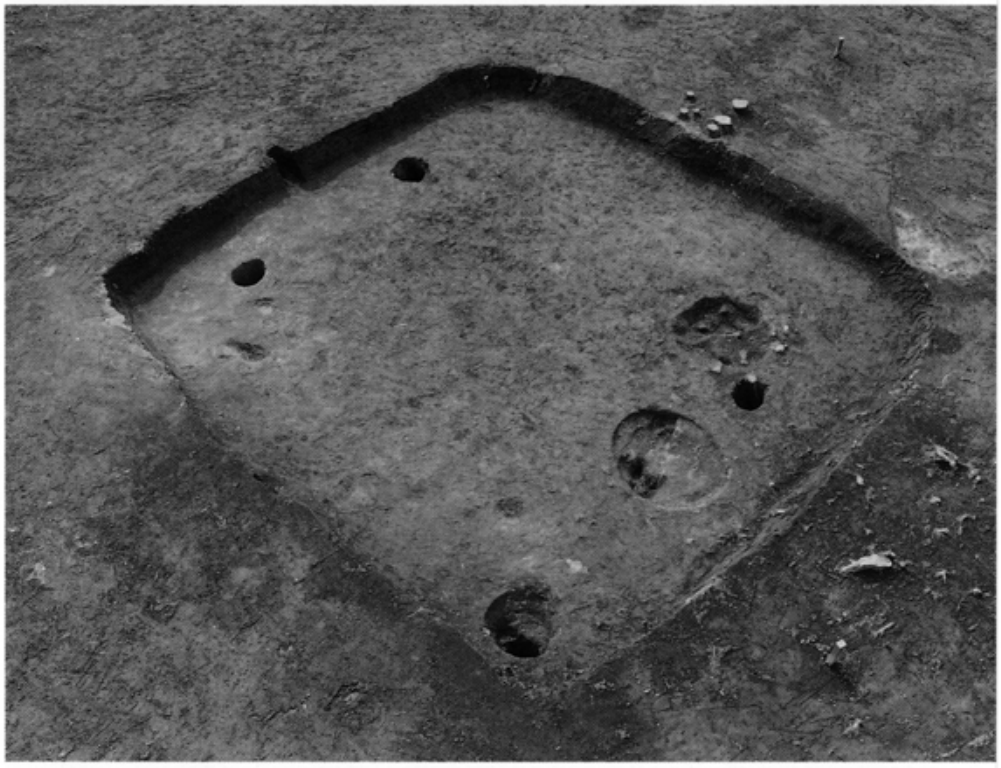


SI002

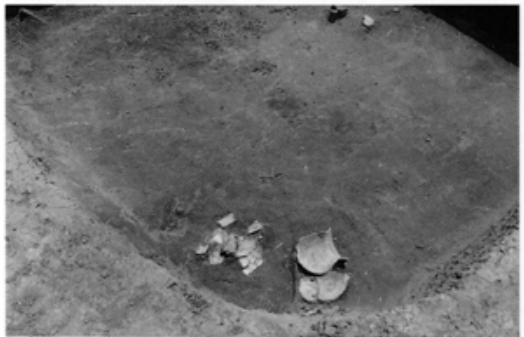
（左）SI002遺物出土状況
（右）SI002出土状況

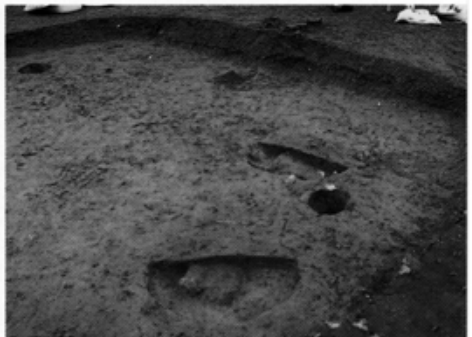
SI003

（左）SI003遺物出土状況
（右）SI003遺物出土状況



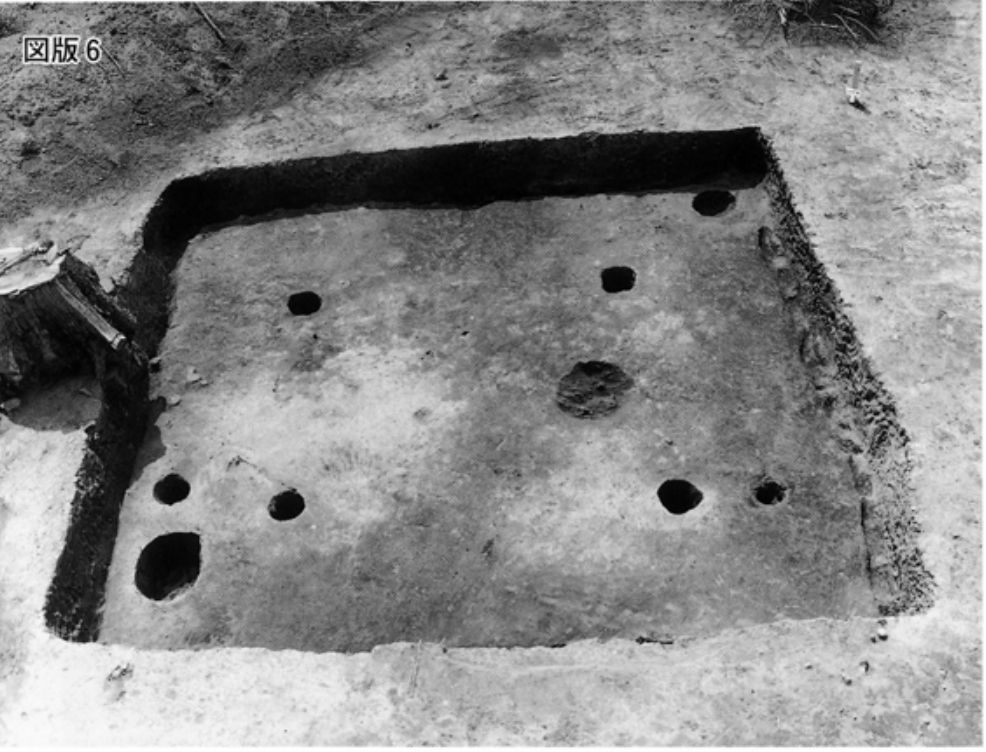
SI004





（左）SI004遺物出土状況
（右）SI004炉セクション

図版6



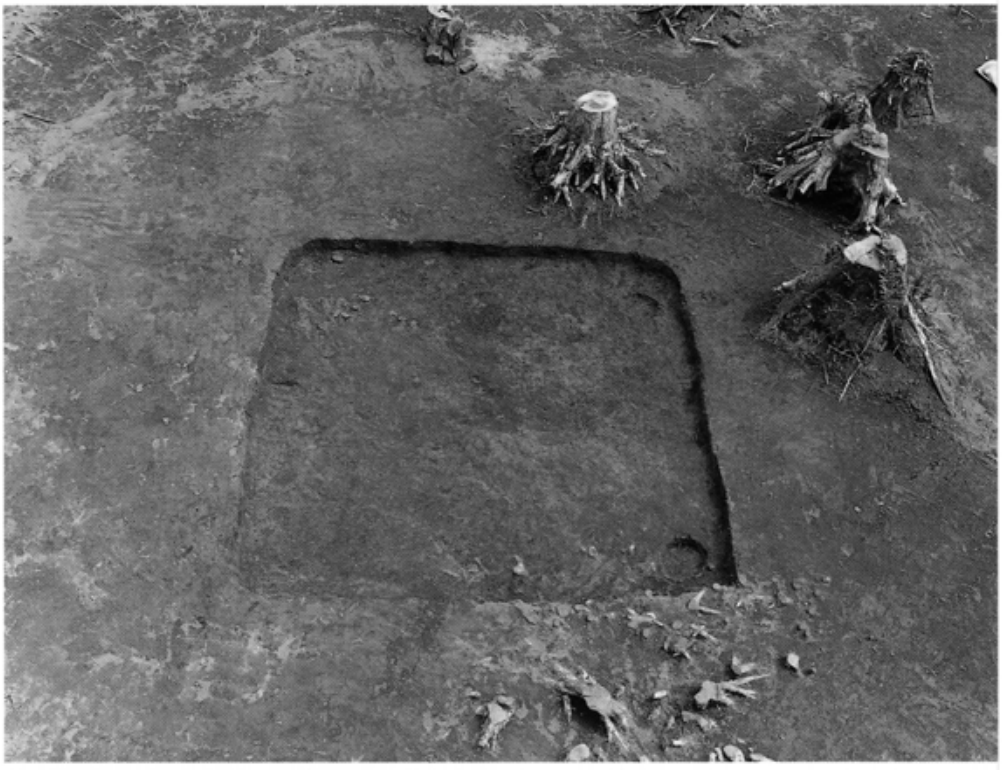
SI005

SI006

SI007

SI008

（左）SI008遺物出土状況
（右）SI008出土土器

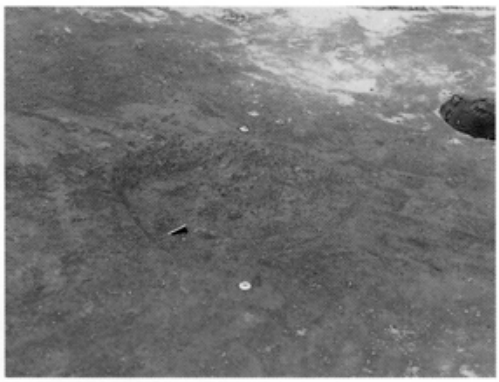


SI009

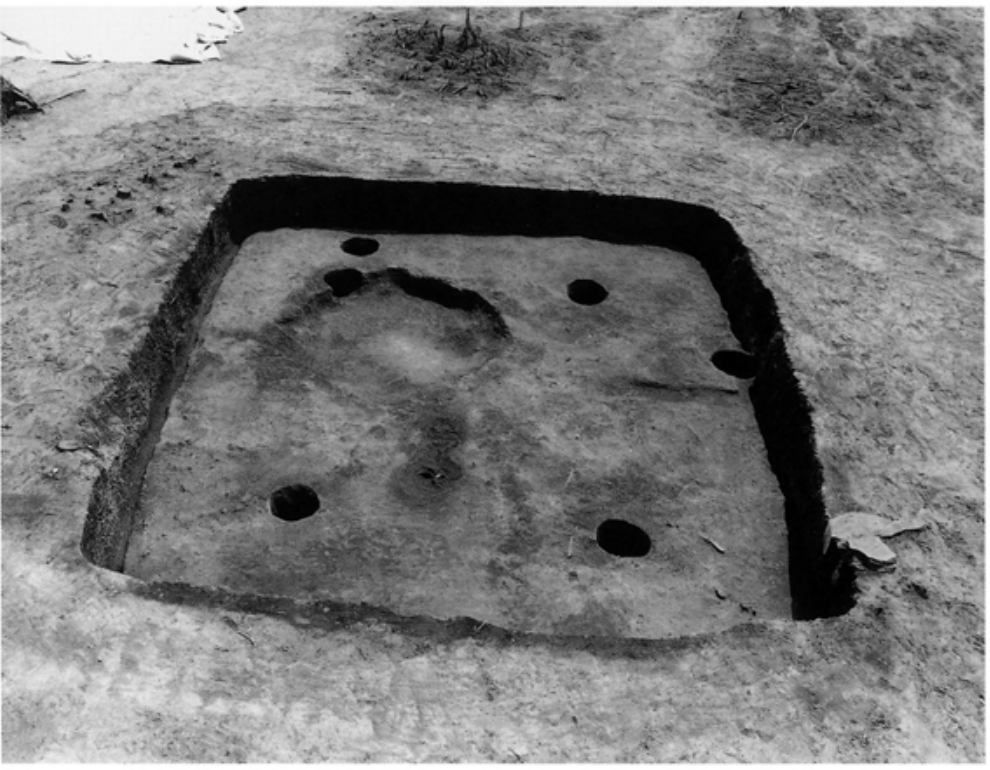
（左）SI010遺物出土状況
（右）SI010出土土器

図版 8

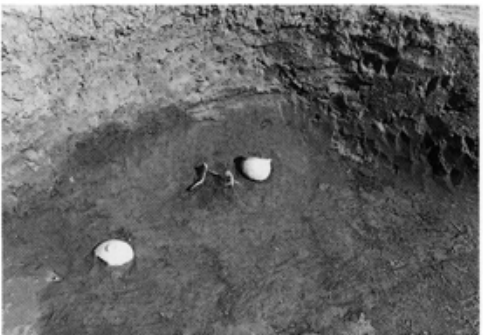
SI010



（左）SI010貯蔵穴内土器
（右）SI010炉



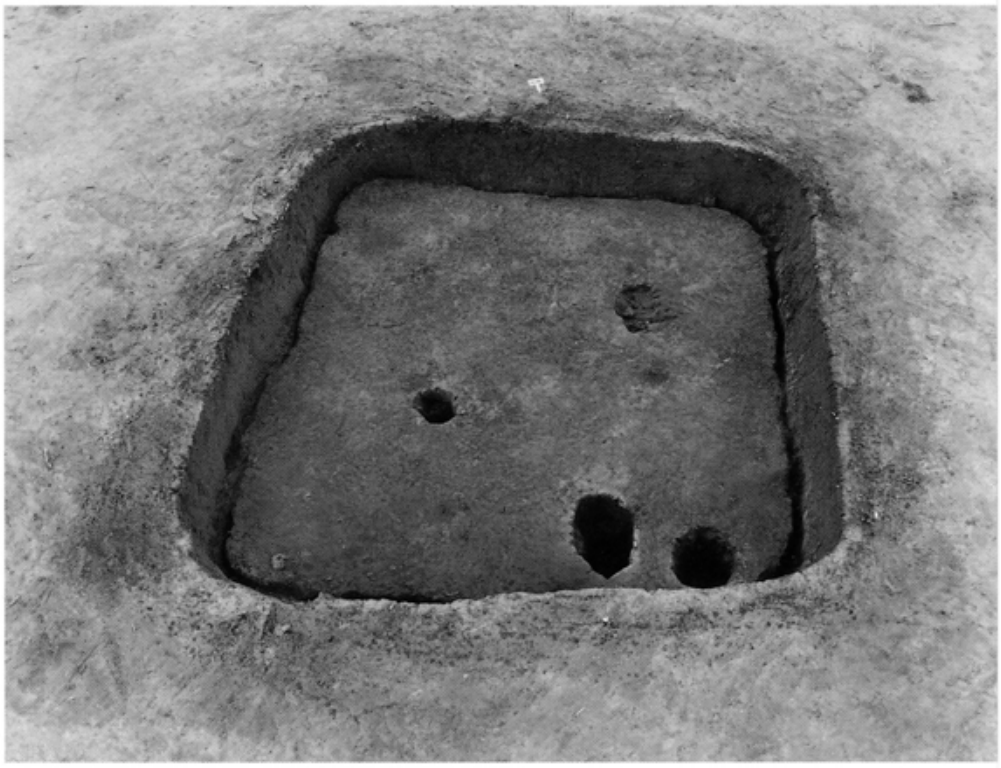
SI011・SK057（土坑）



（左）SI011遺物出土状況
（右）SI011炉

SI012

（左）SI012出土土器
（右）SI012ピット内出土土器



SI013

（左）SI013出土土器
（右）SI013炉

図版10

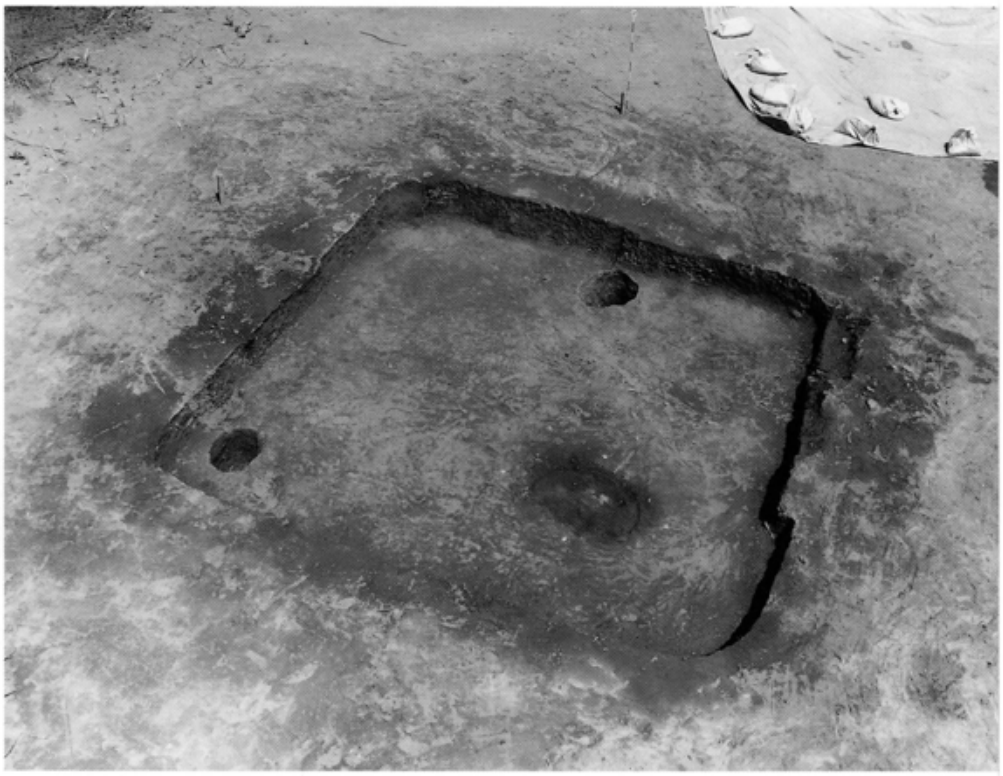
SI014

（左）SI014礫集中
（右）SI015遺物出土状況

SI015

（左）SI015出土土器
（右）SI015出土土器

SI016



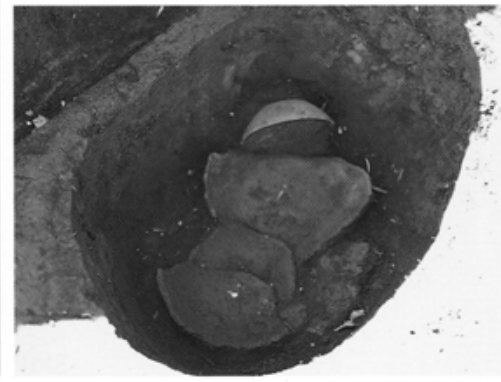
SI017

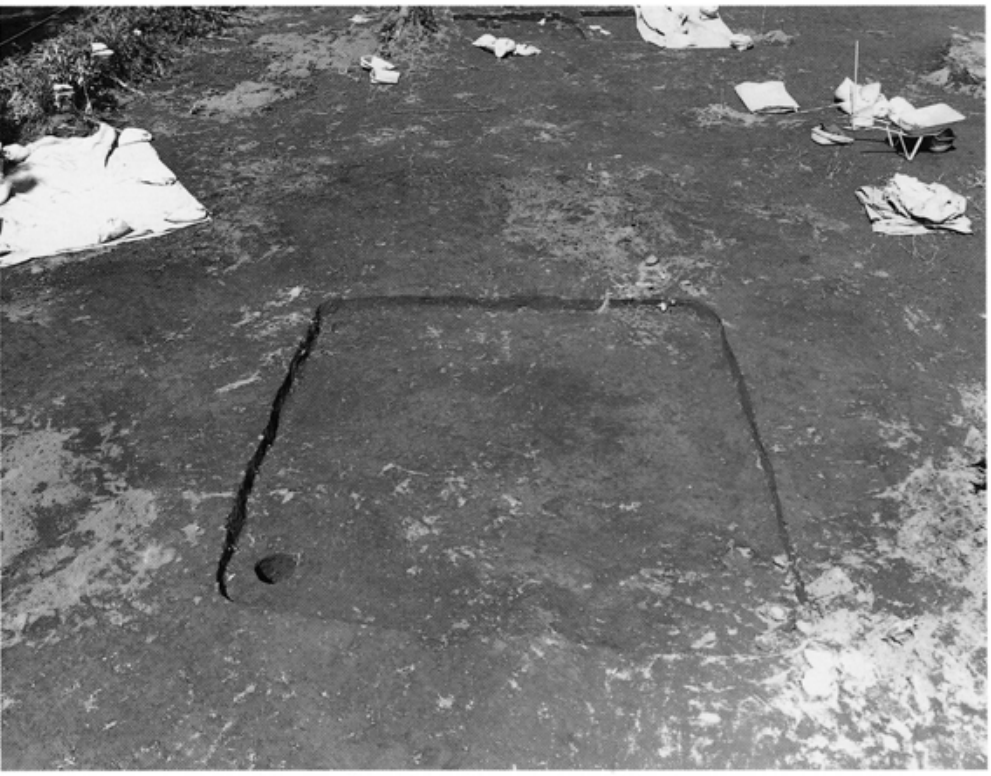
SI017ピット内出土土器

SI018

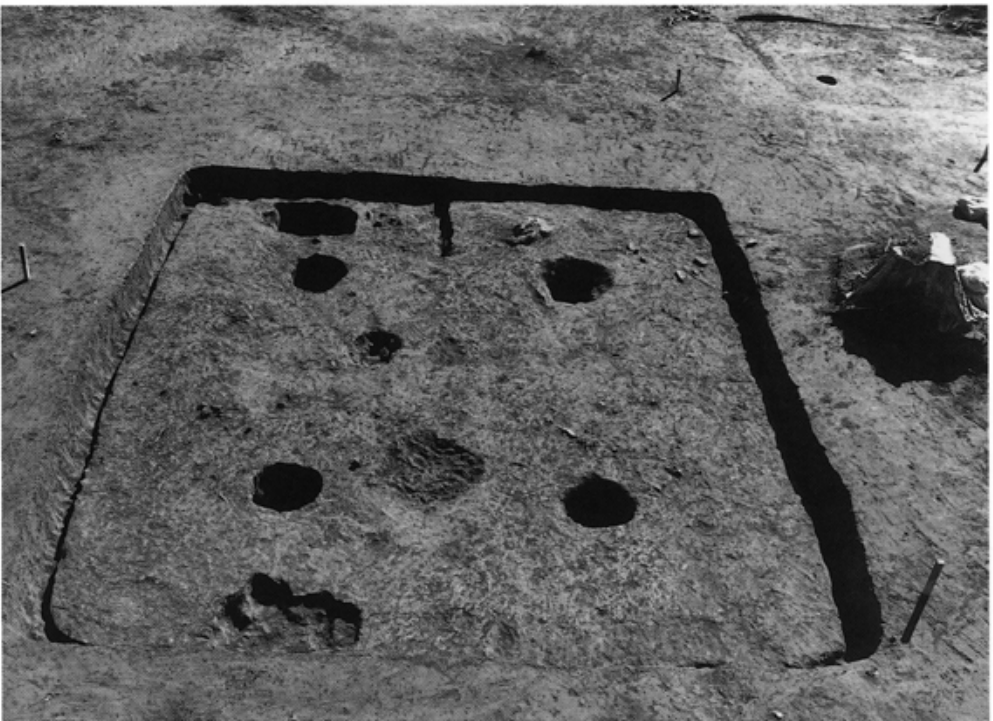
SI019

SI019ピット内出土土器



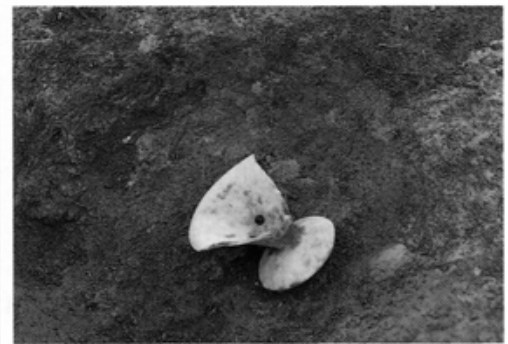


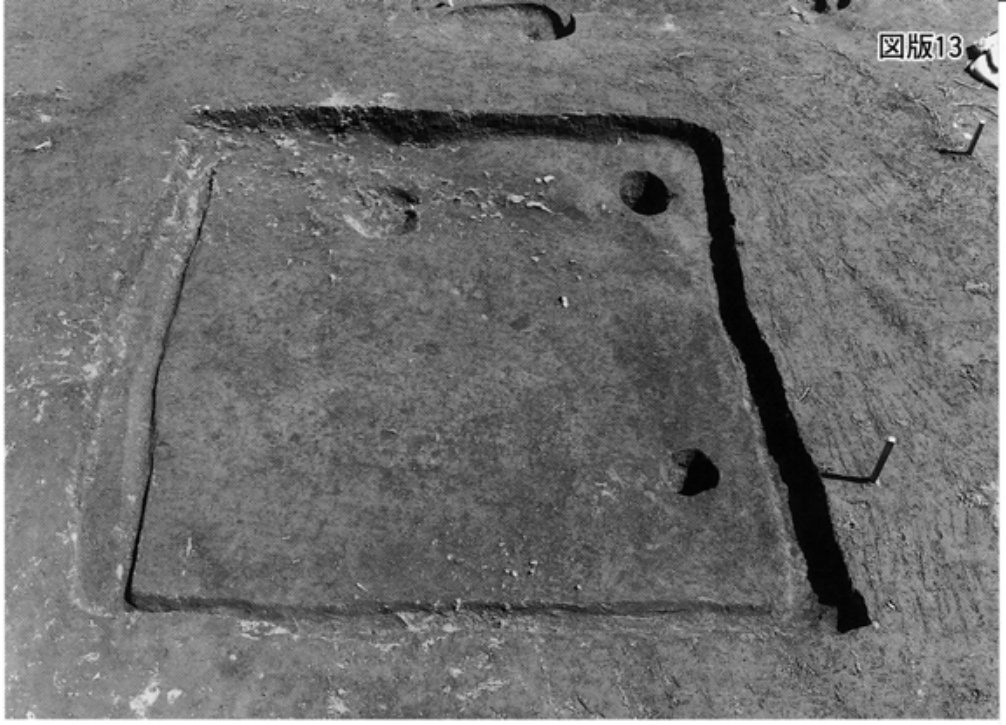
SI020



SI021

SI021ピット内出土土器





SI022

（左）SI022遺物出土状況
（右）SI022出土土器

SI023（住居）　SK061（土坑）

（左）SI024出土土器
（右）SI024遺物出土状況

図版14

SI024

SI025

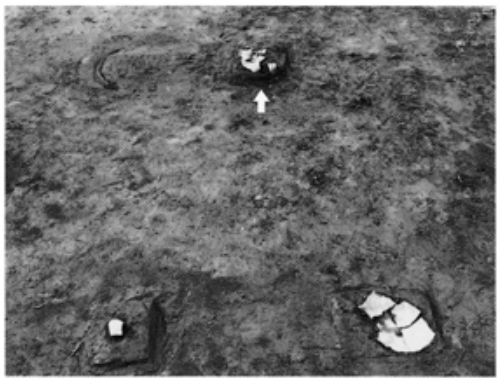
SI025出土土器

SI026

SI026出土土器

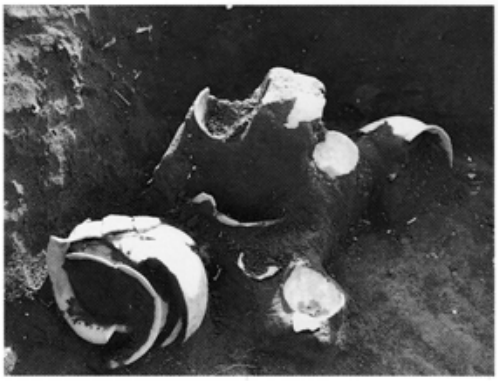
SI027

SI027墨書土器出土状況

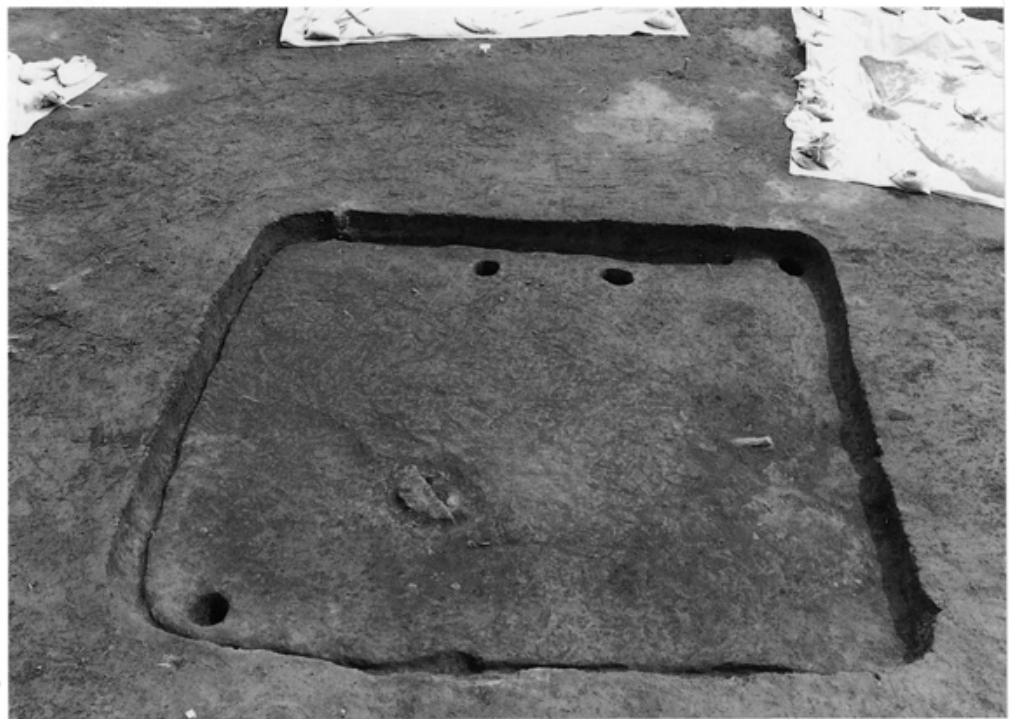


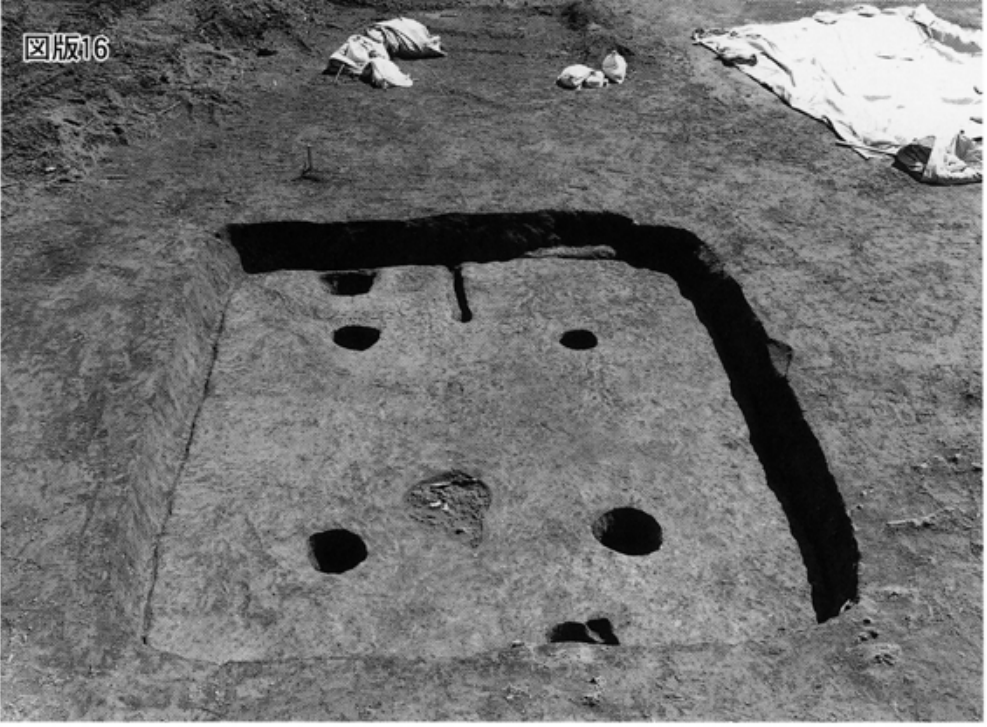
SI028

SI028遺物出土状況



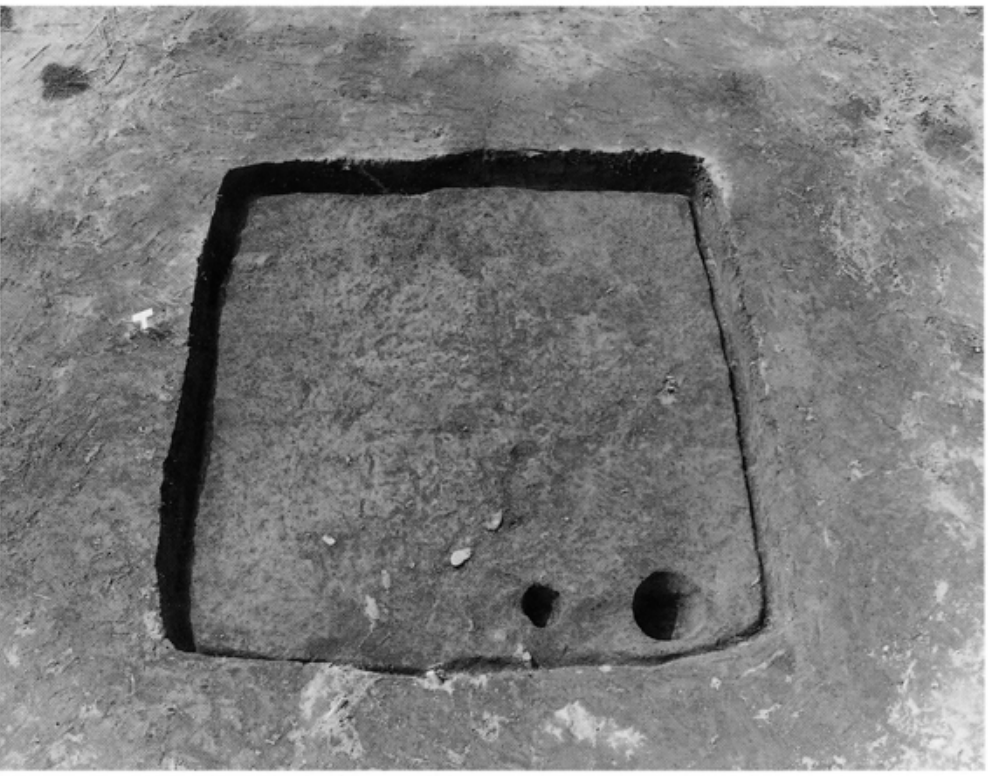
SI029



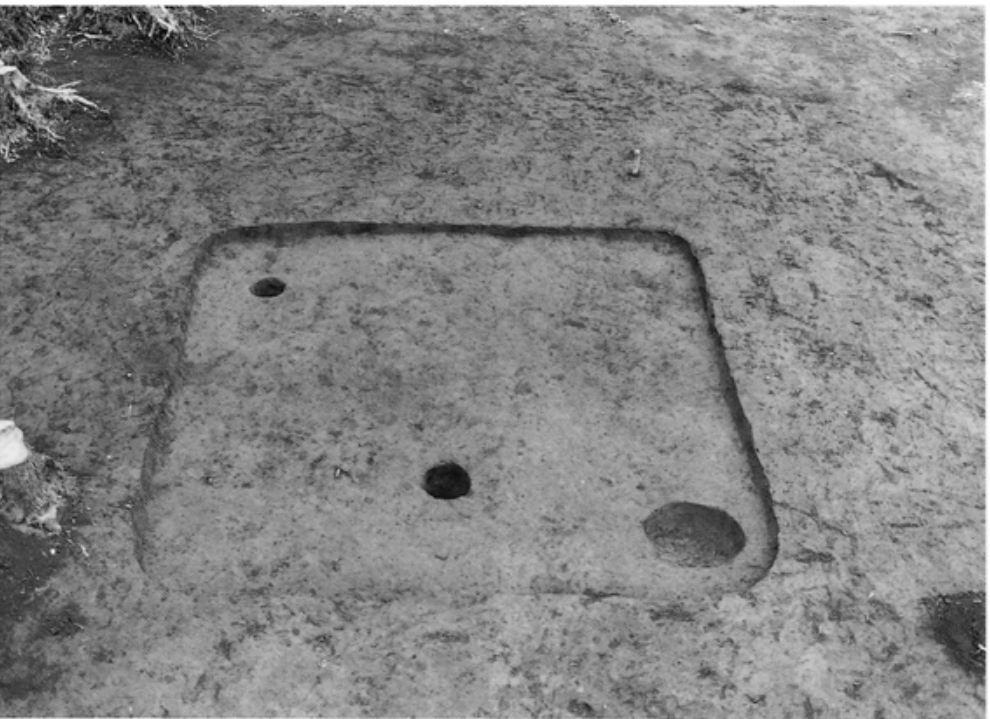


SI030

SI030出土土器



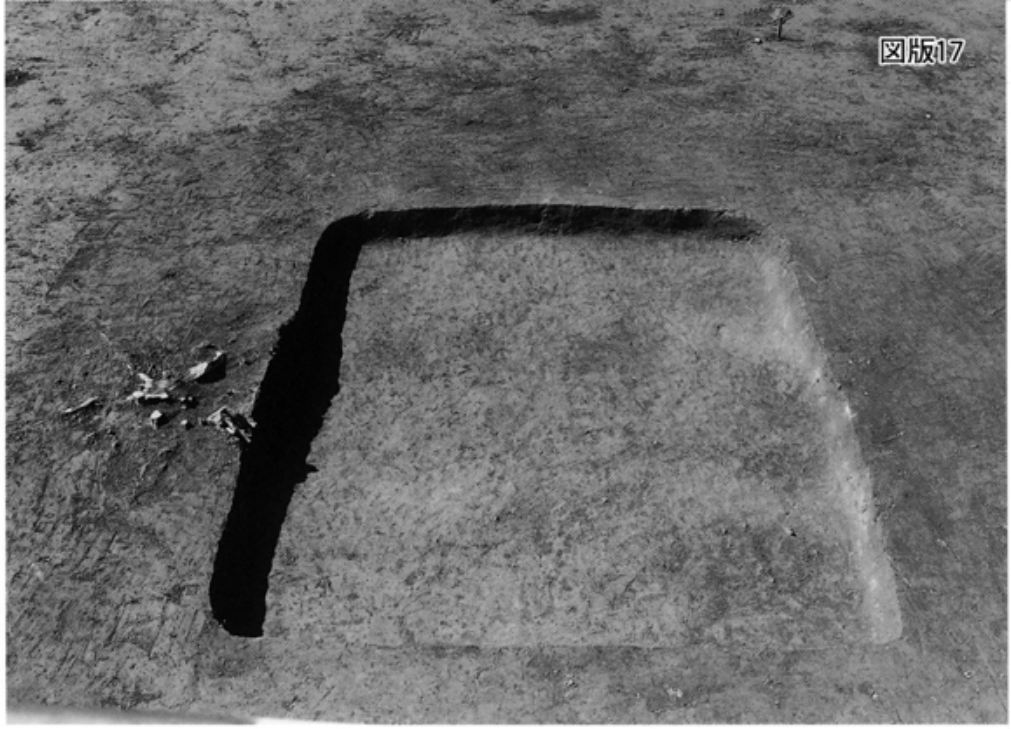
SI031



SI032

SI032出土土器

SI033



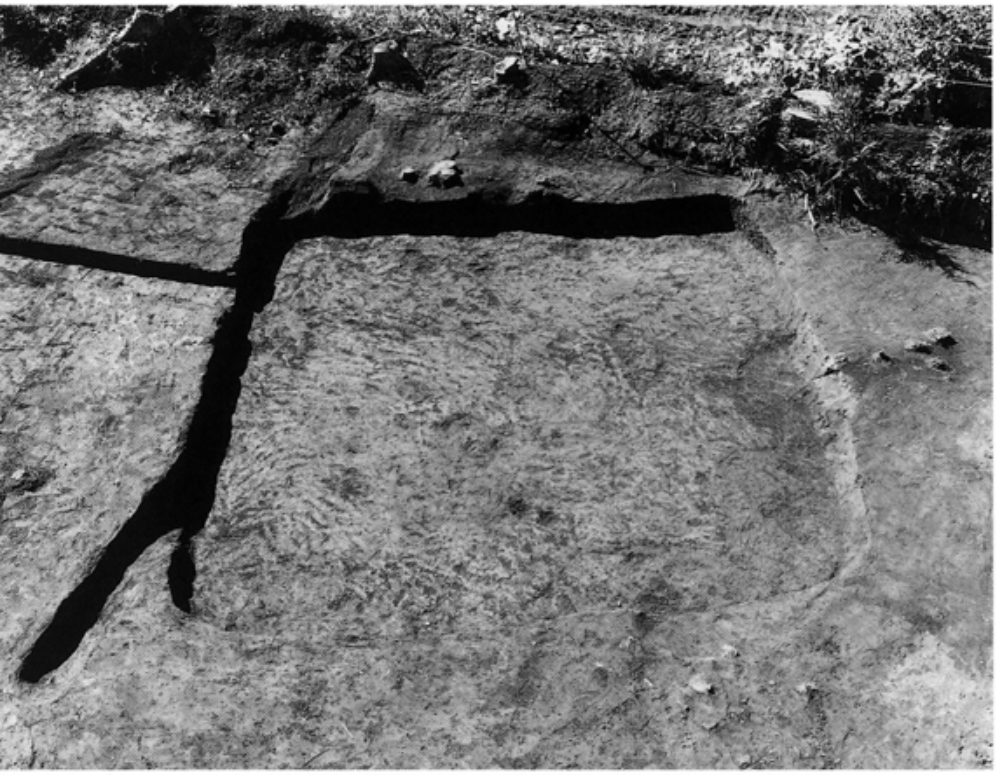
SI033遺物出土状況

SI034

（左）SI034遺物出土遺物
（右）SI034炉

（左）SI034出土土器
（右）SI035出土土器

SI035



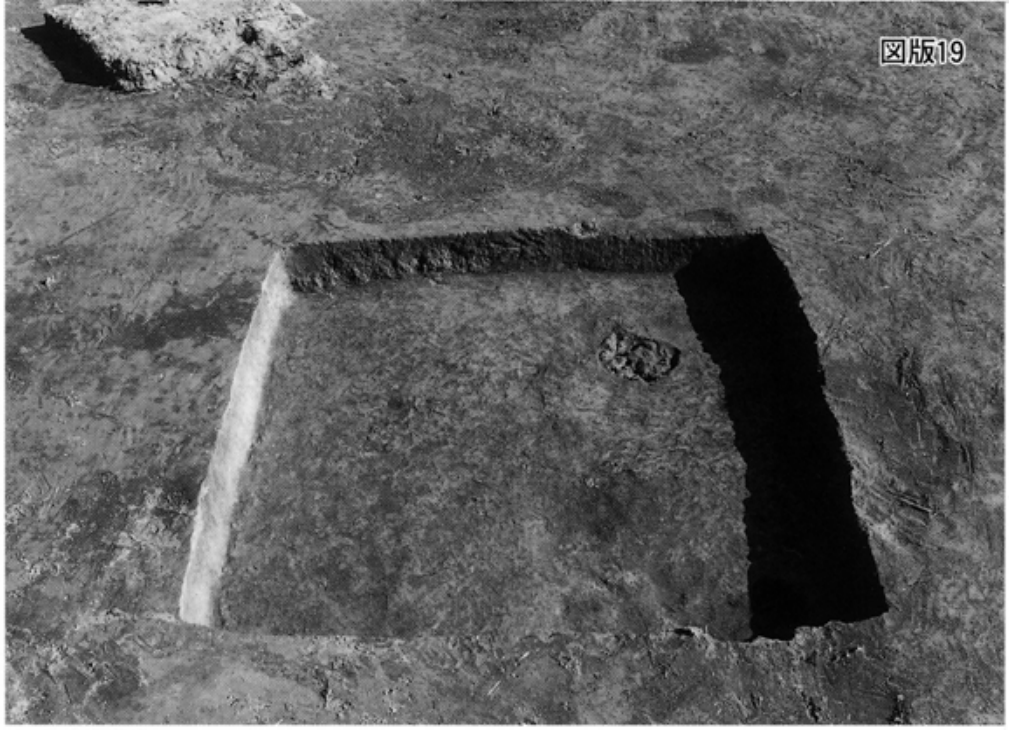
SI036

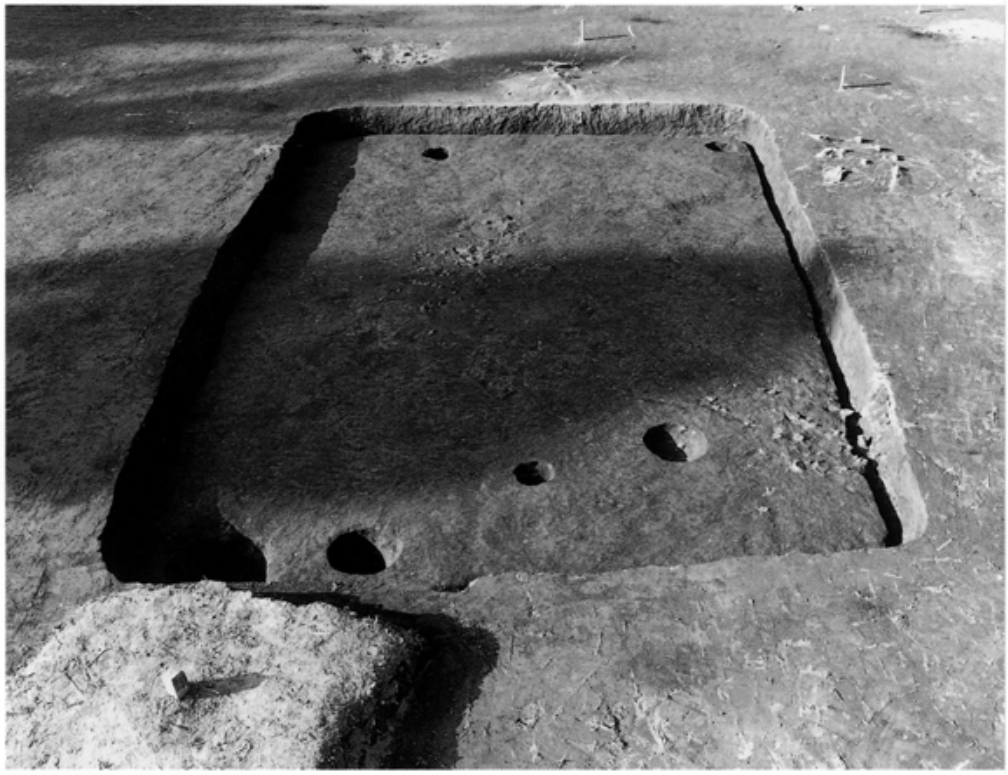
（左）SI036出土土器
（右）SI036出土土器

（左）SI038出土土器
（右）SI038出土土器

SI037

SI037遺物出土状況





SI038

SI039

SI040

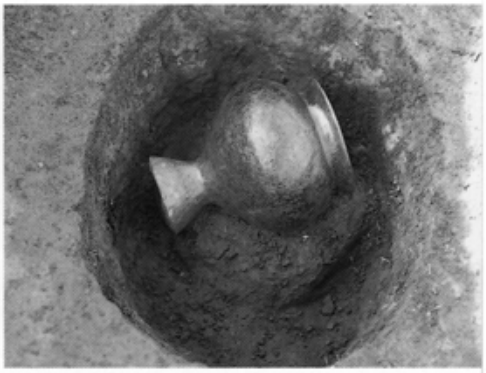
SI041

SI042

SI043

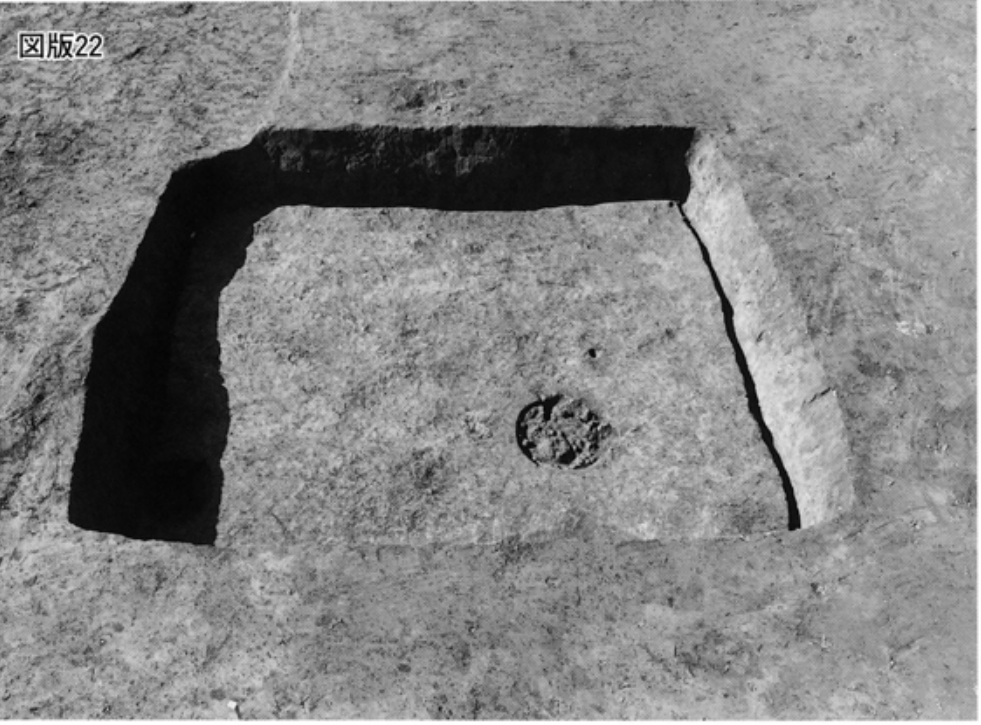
SI043出土土器

SI044



（左）SI044出土土器
（右）SI044ピット内出土土器

（左）SI044出土土器
（右）SI044出土土器



SI045

SI045出土土器

SI046

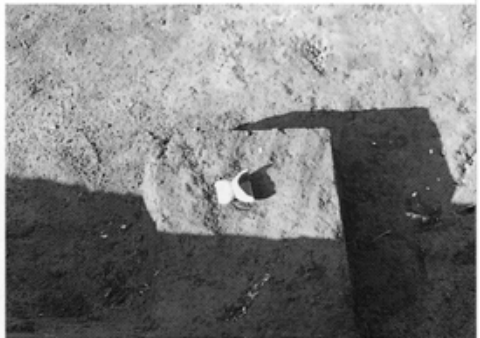
SI046出土土器

SI047

SI048

（左）SI048出土土器
（右）SI048遺物出土状況

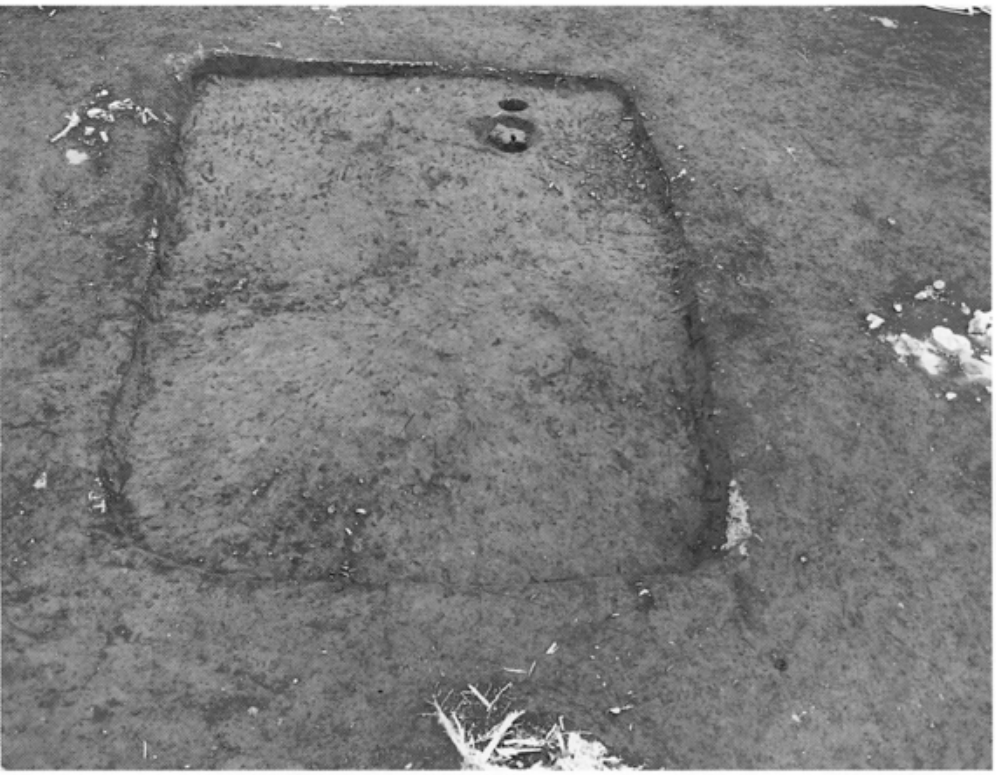
SI049



（左）SI049勾玉出土
（右）SI049出土土器

SI050

SI050出土土器



SI051

SI051遺物出土状況

SI052

SI052出土土器

SI053

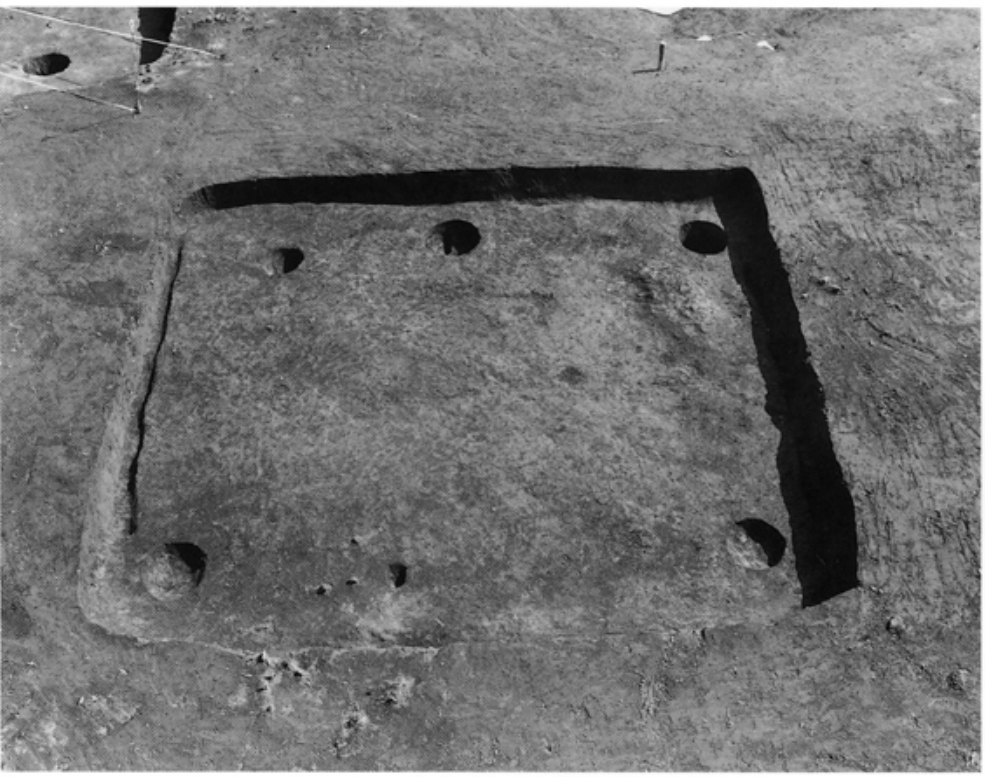
SI053遺物出土状況

SI054

SI054出土土器

SI056

SI058

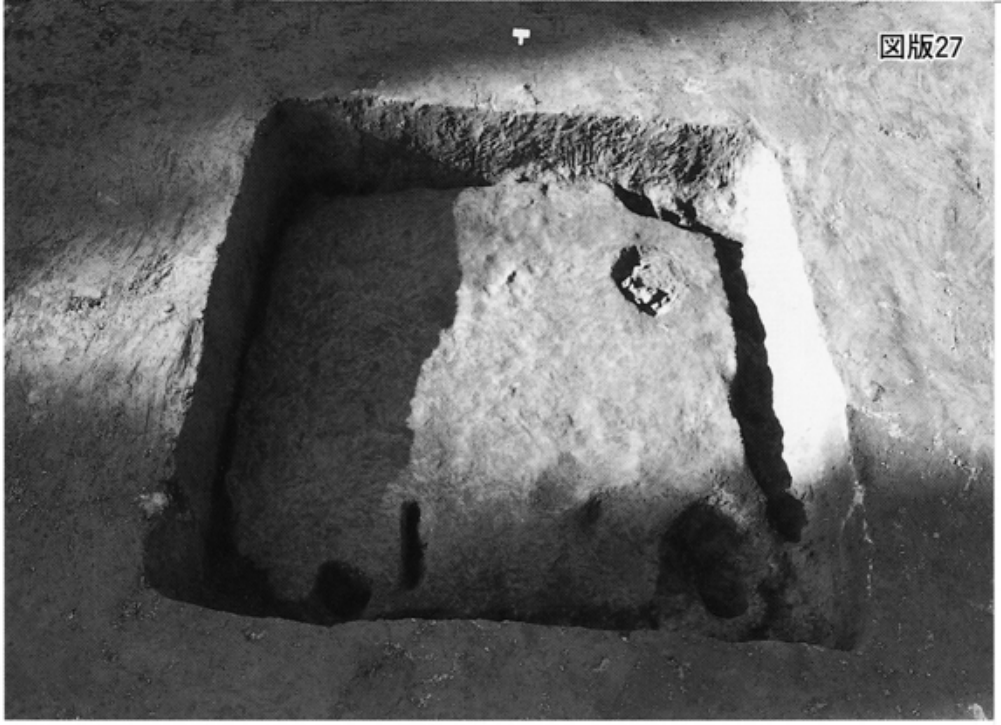


SI059

SI059出土土器

SI060

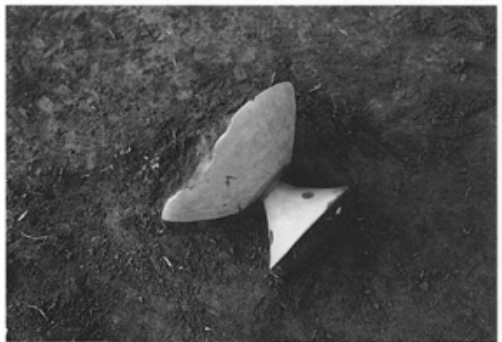
SI060出土土器



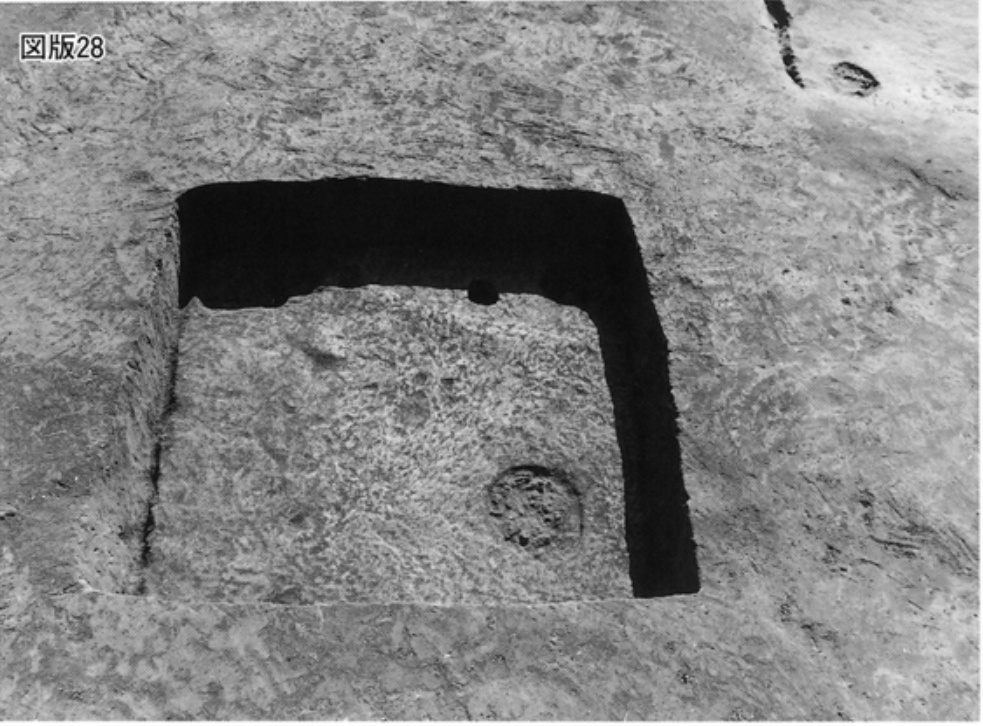
SI062

SI063

（左）SI063ピット内出土土器
（右）SI063出土土器

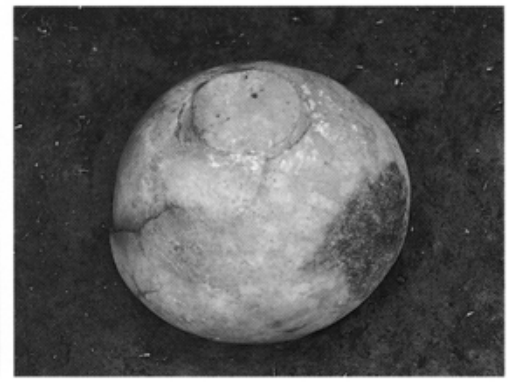


（左）SI063出土土器
（右）SI063遺物出土状況



SI065

SI065出土土器



SI066

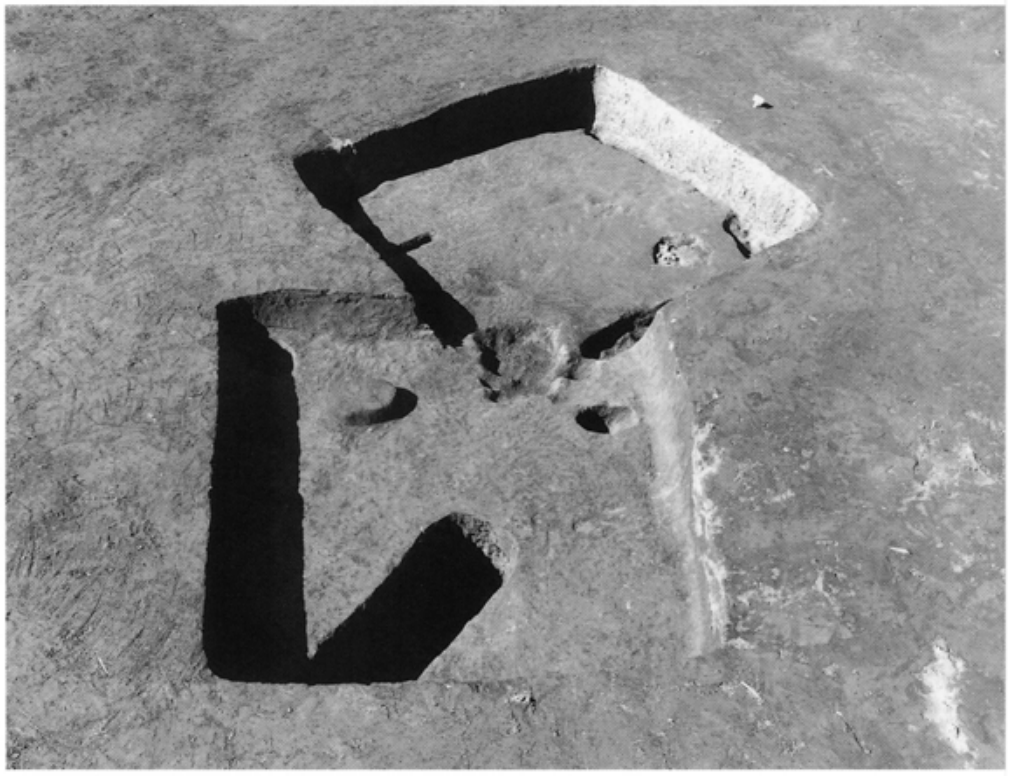
SI067

SI067遺物出土状況

SI068

SI068遺物出土状況

SI069



SI071

（左）SI071遺物出土状況
（右）SI071礫出土

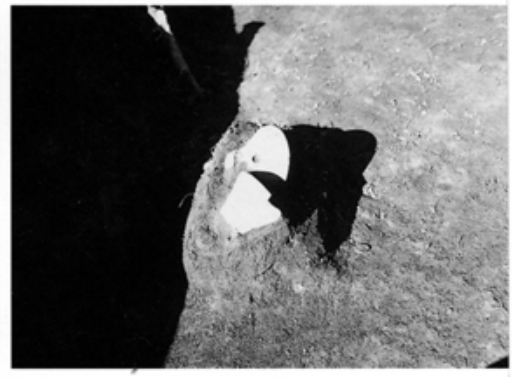
SI073

（左）SI073ピット内出土土器
（右）SI073遺物出土状況

SI074

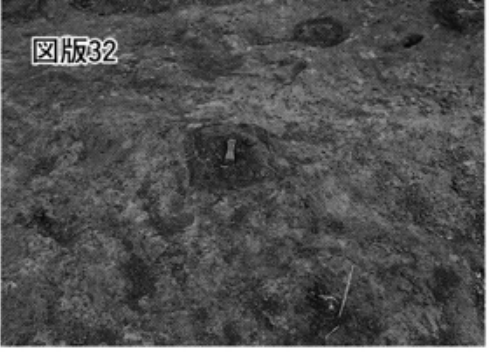
（左）SI074出土土器
（右）SI074出土土器

SI075

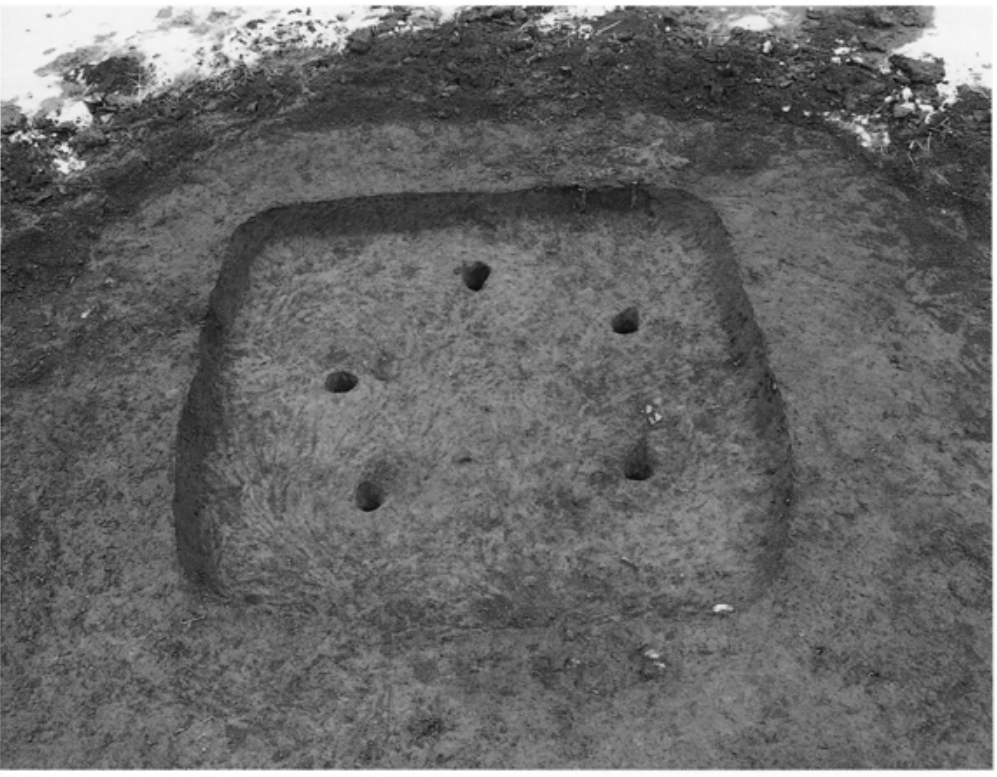


（左）SI075出土土器
（右）SI075出土土器

SI076



（左）SI076出土土器
（右）SI076遺物出土状況



SI077

（左）SI077遺物出土状況
（右）SI077出土土器

SI078

（左）SI078遺物出土状況
（右）SI078出土土器

SI079

（左）SI079遺物出土状況
（右）SI079遺物出土状況

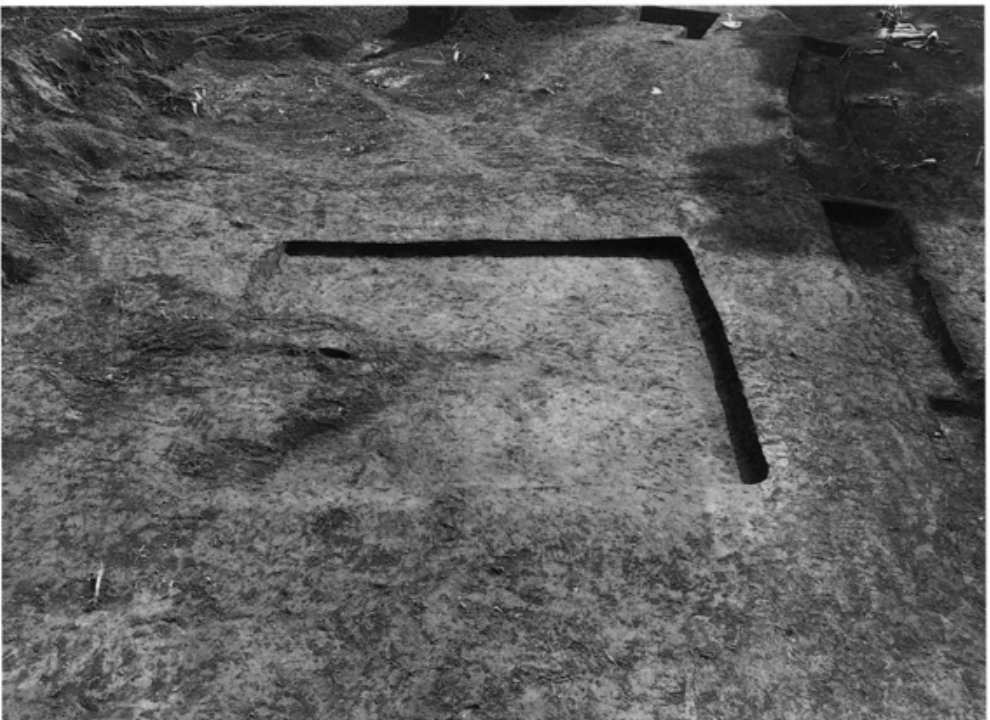
SI080

SI080出土土器

SI081

SI081遺物出土状況

SI082



SI083

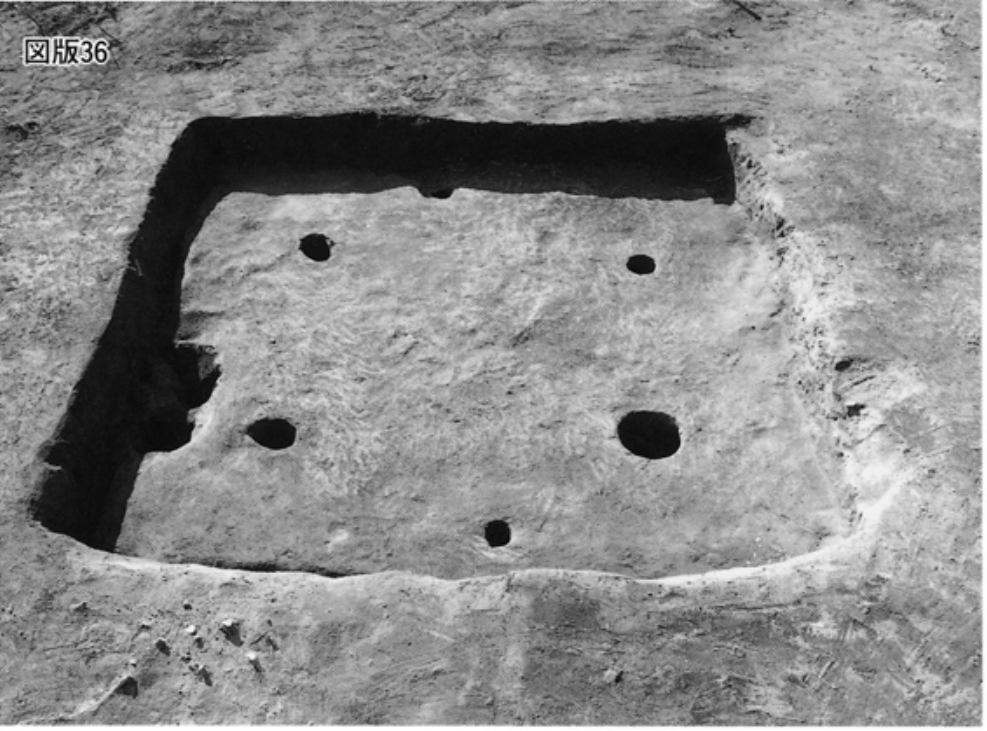
SI085

（左）SI085遺物出土状況
（右）SI085ピット内出土土器

SI086

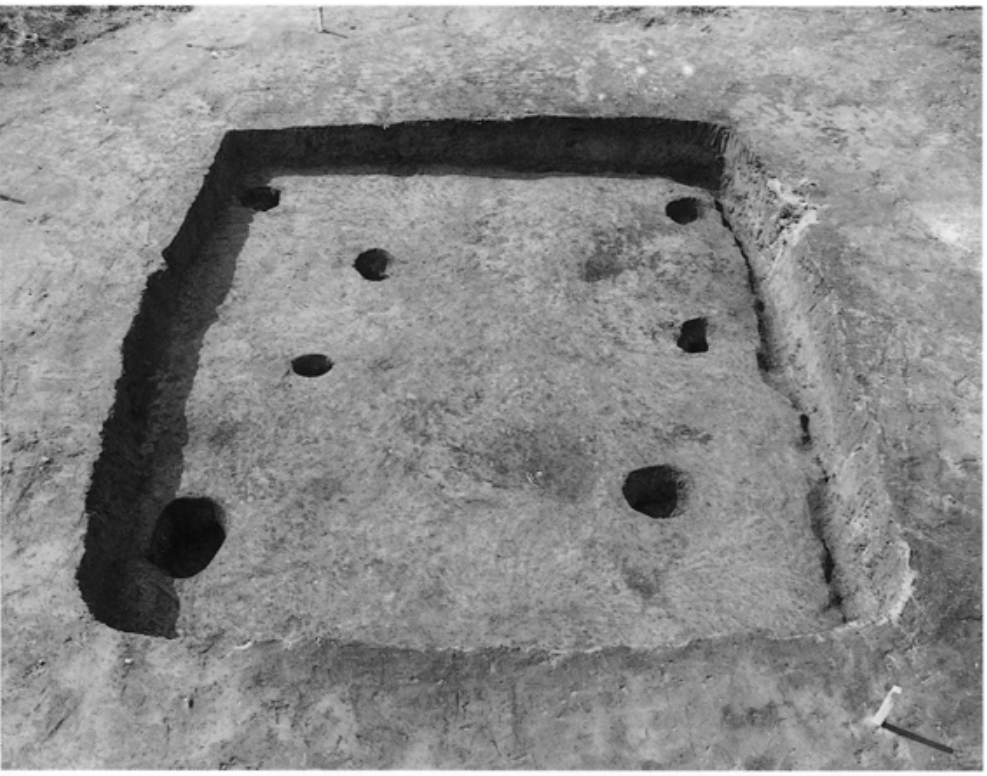
SI086出土土器

（左）SI087出土土器
（右）SI087遺物出土状況



SI087

SI087土製勾玉

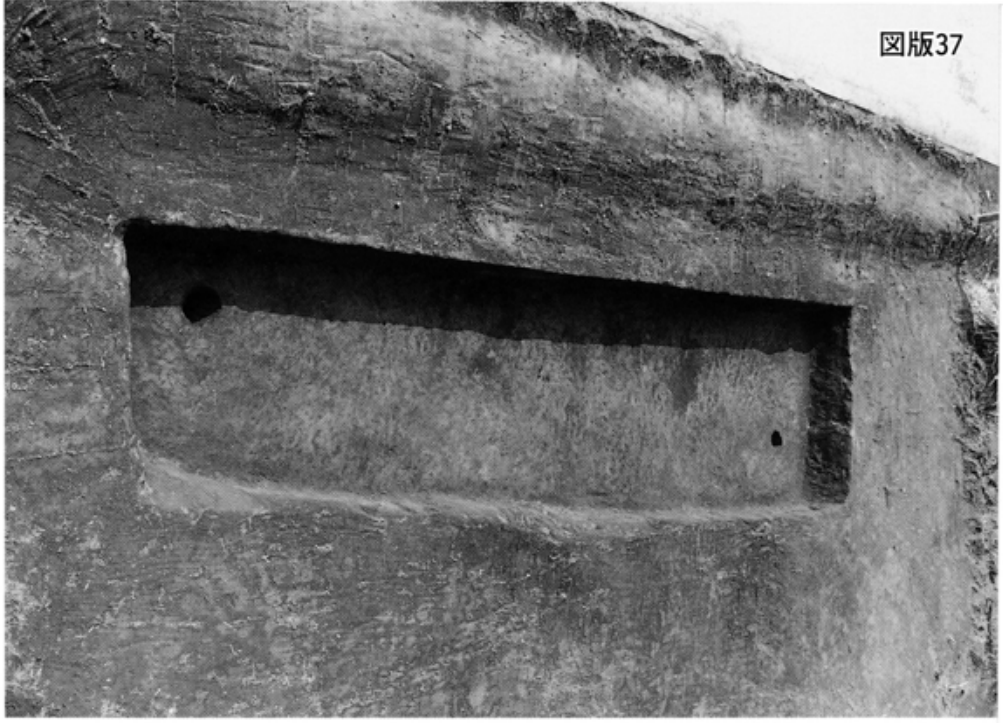


SI088

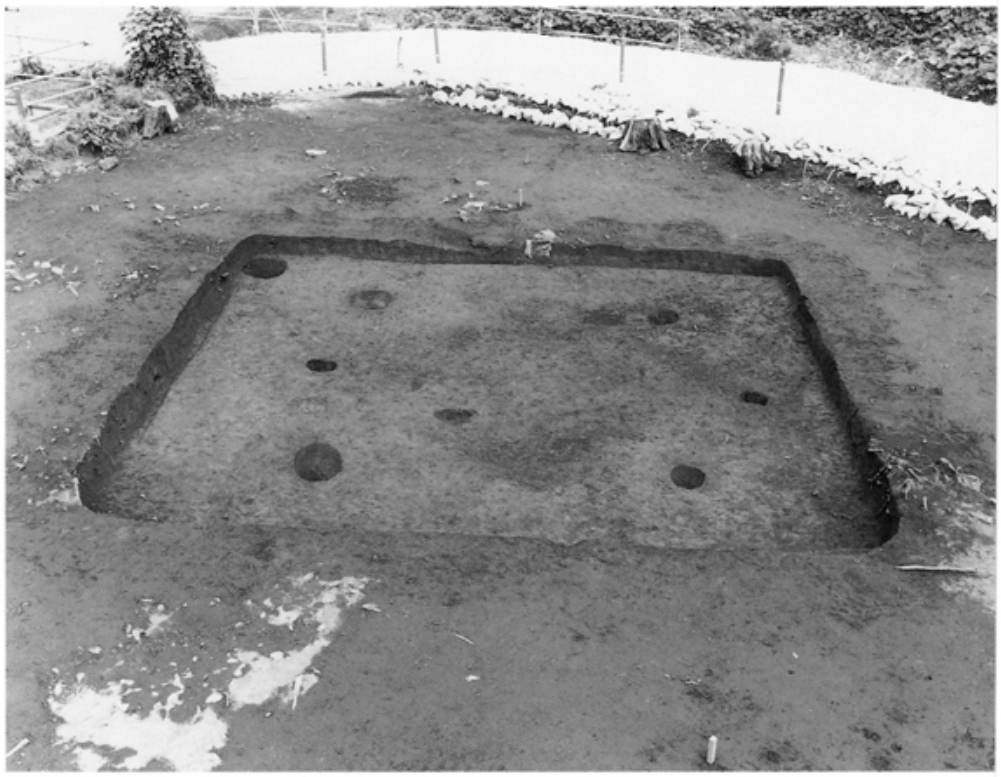
SI088出土土器

SI089

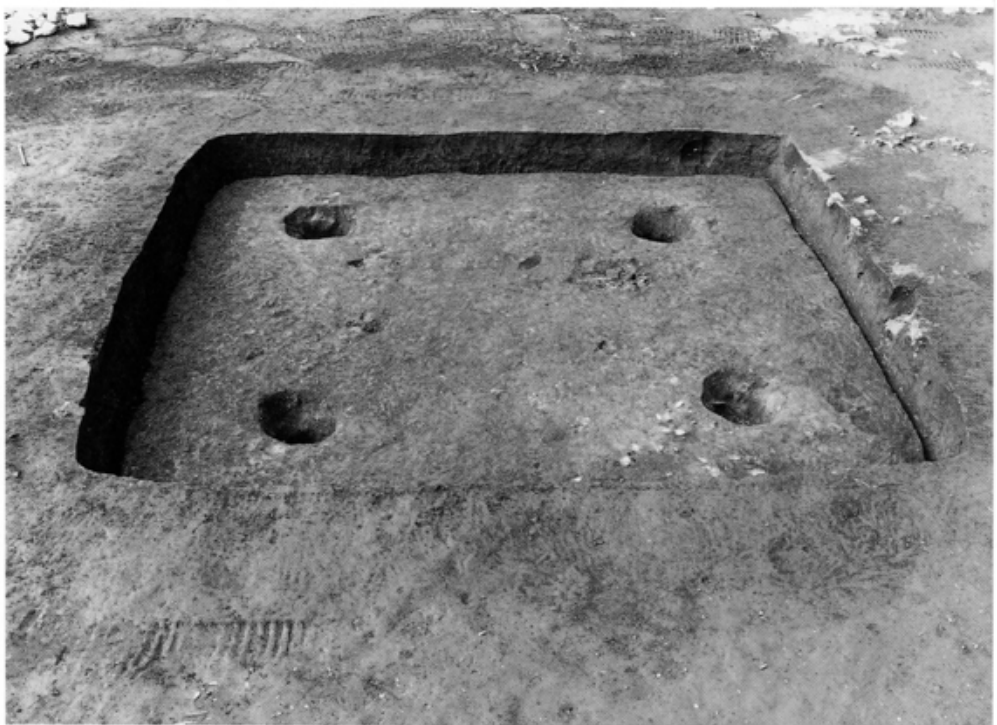
SI089遺物出土状況



SI090

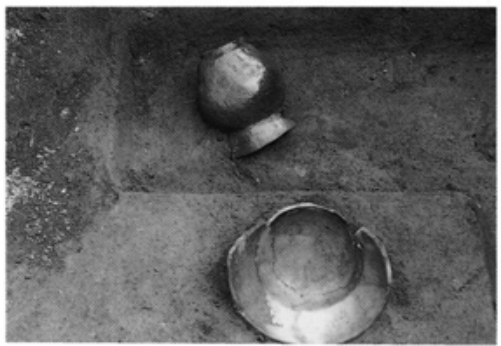


SI091

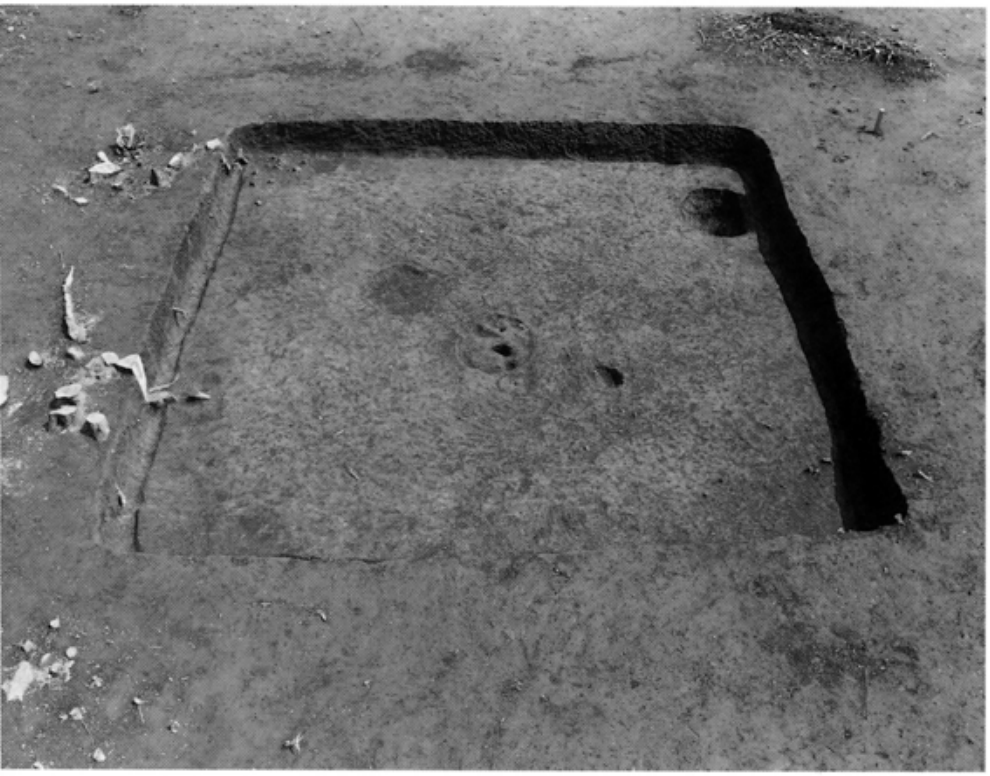


SI092

SI092遺物出土状況



SI093

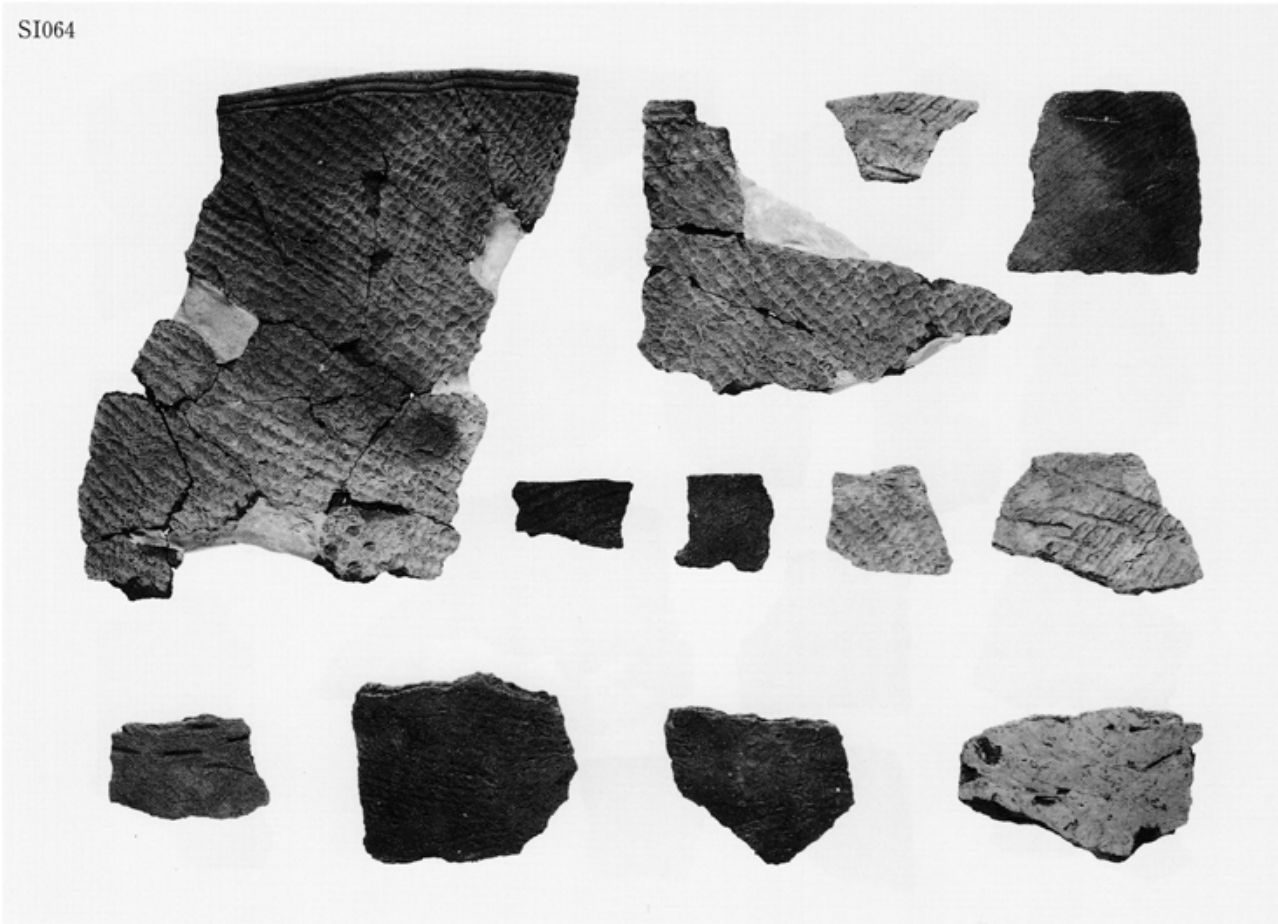


SI094

SI099

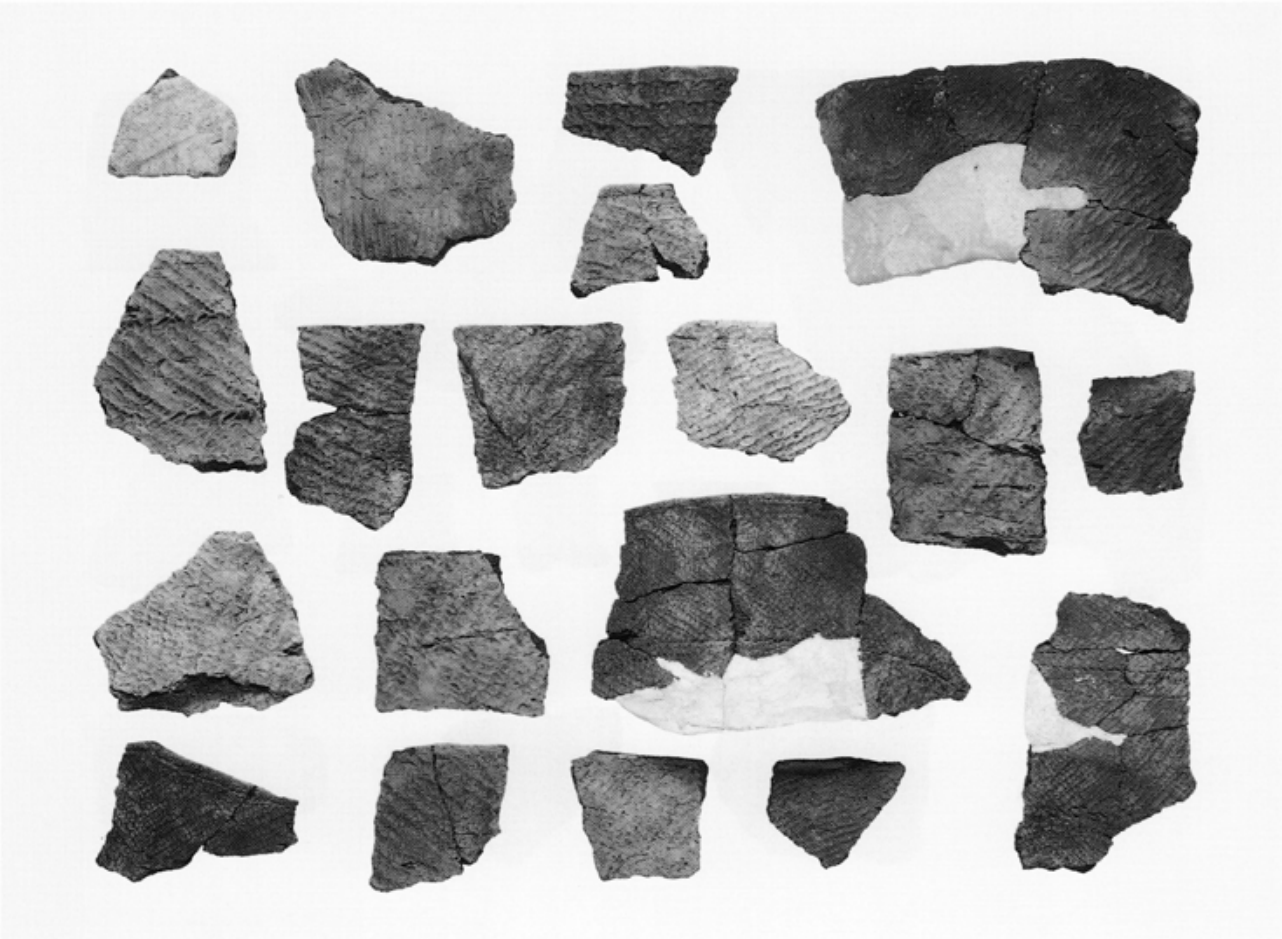
SI099ピット内粘土

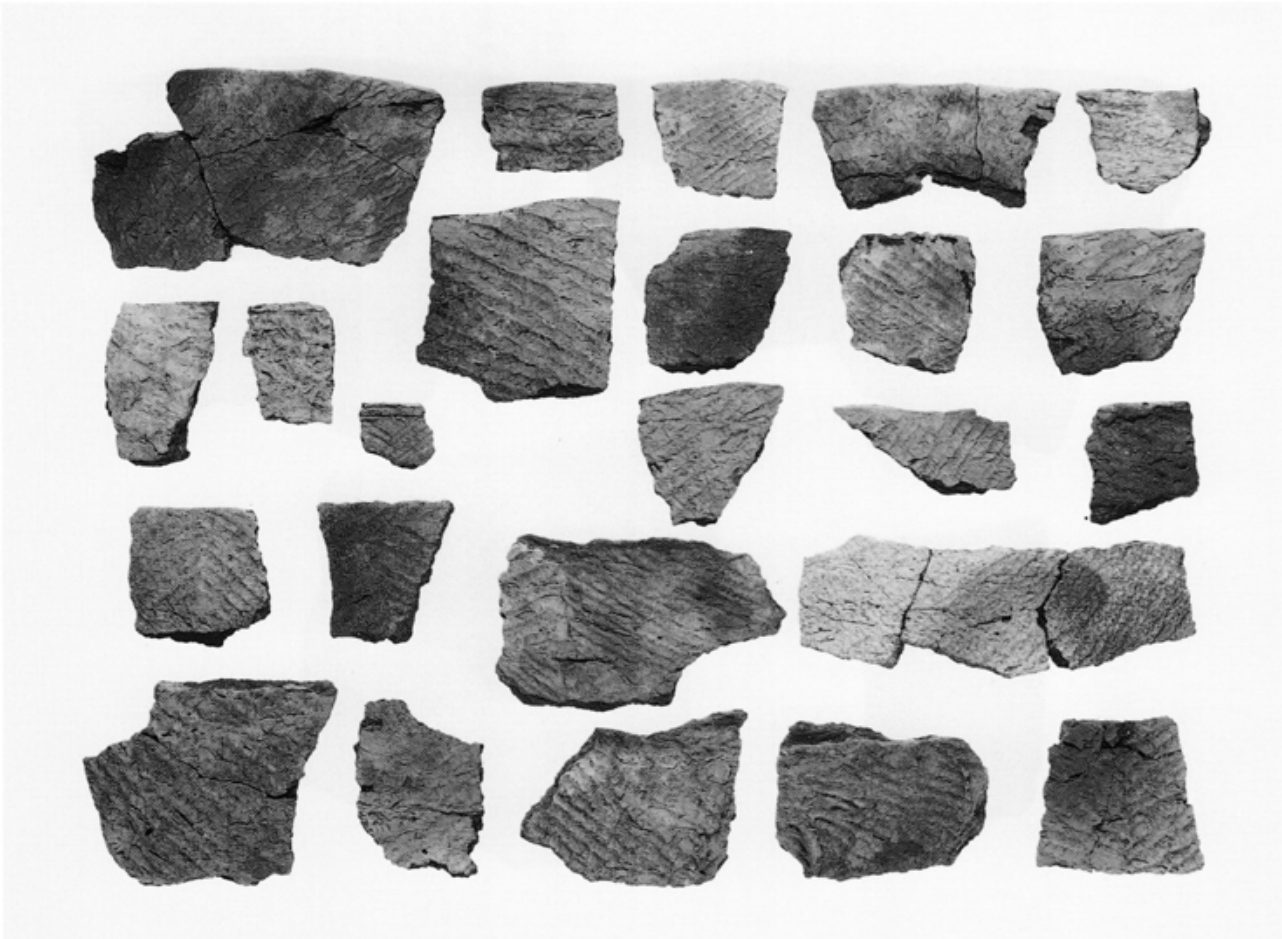
SI064



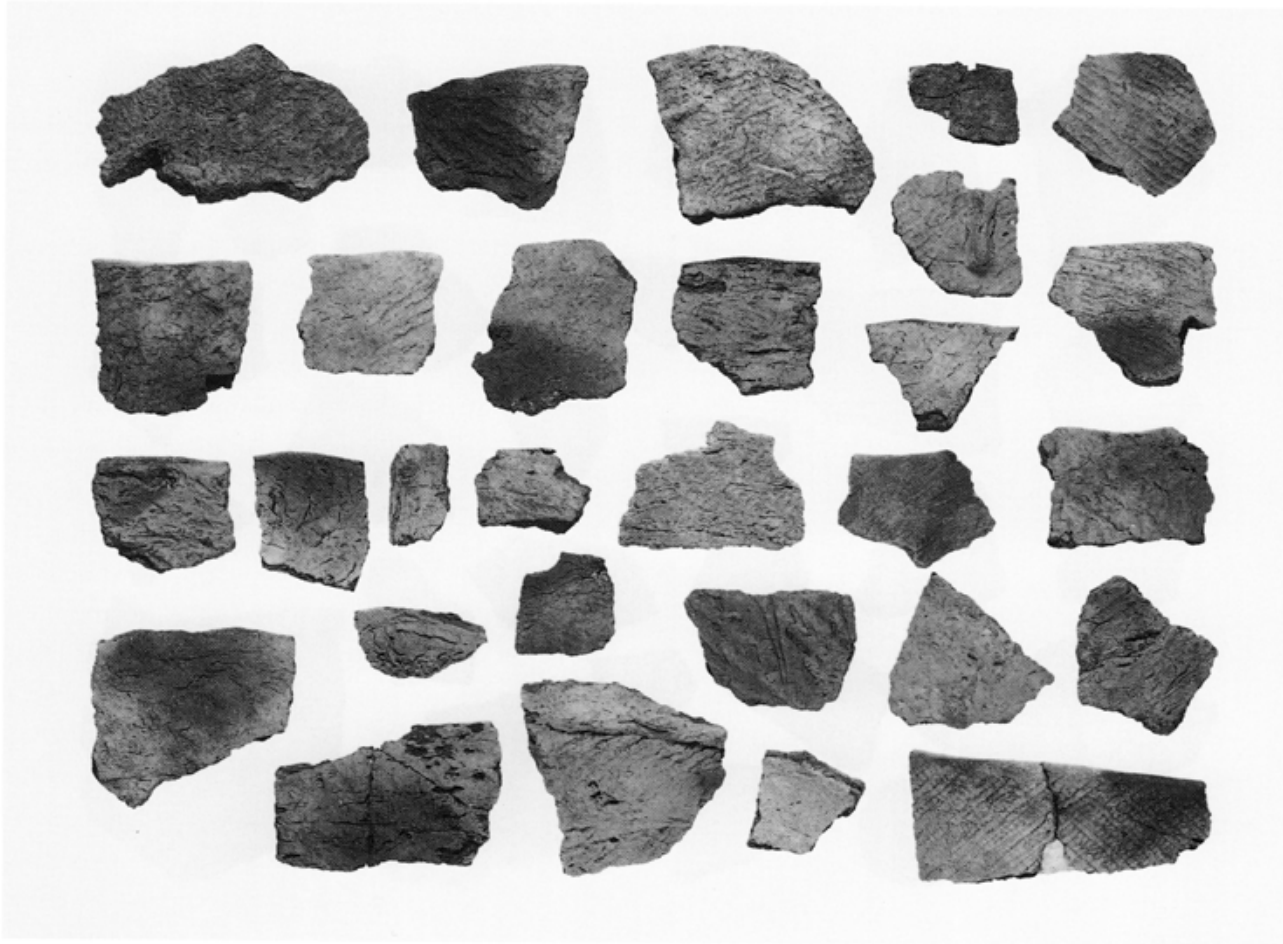
SI098

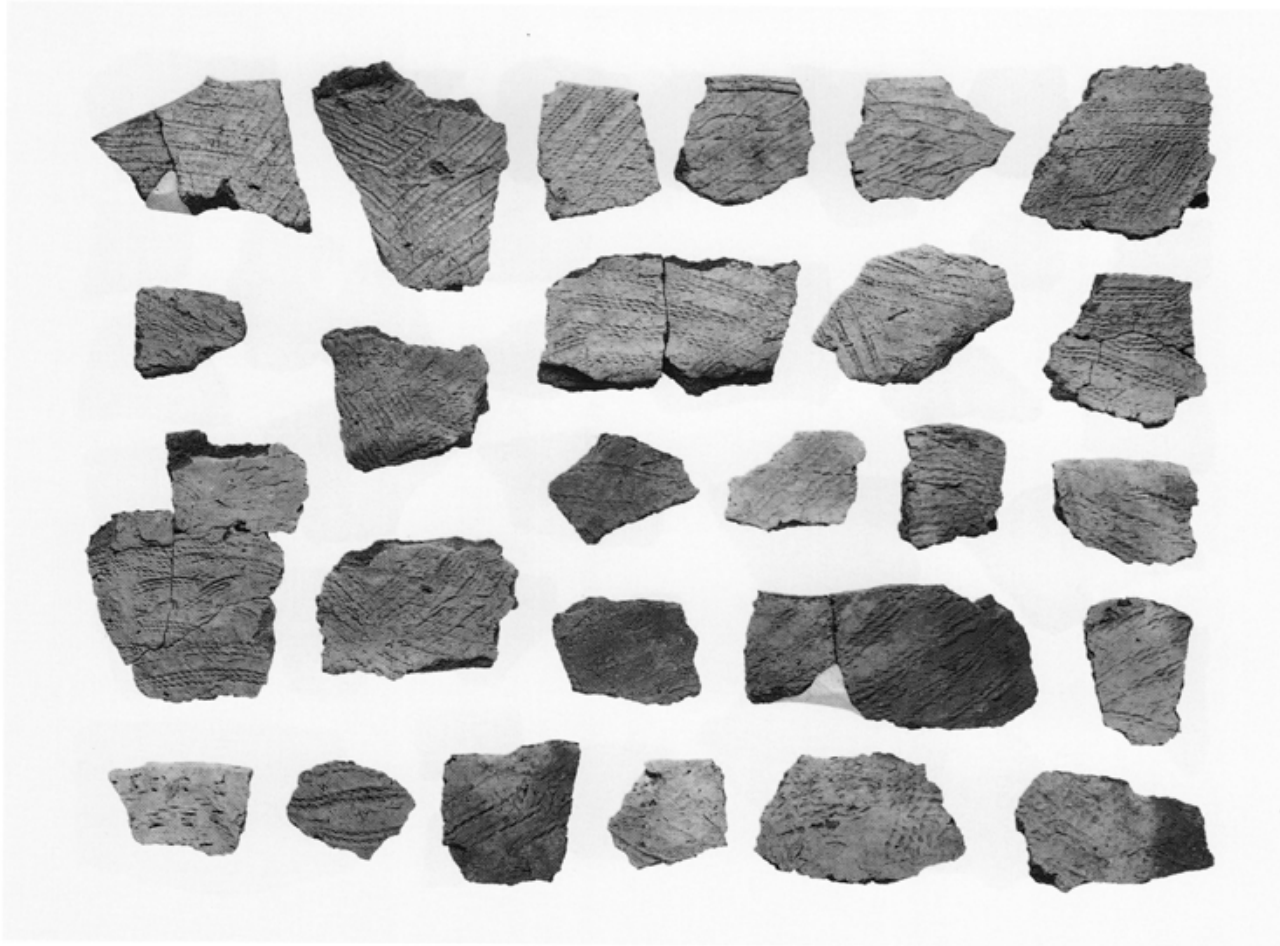
竪穴住居跡出土縄文土器



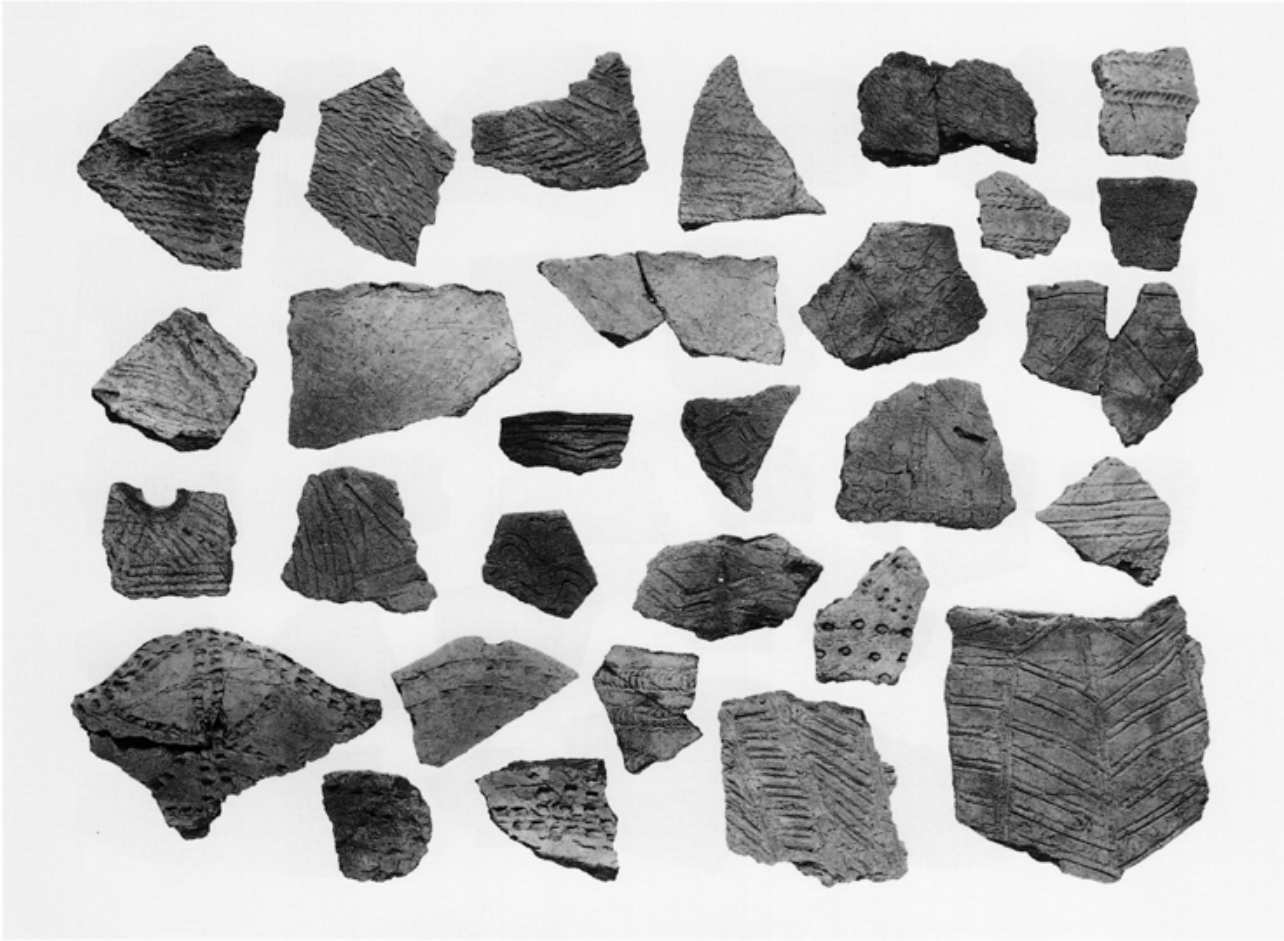


グリッド出土縄文土器（1）

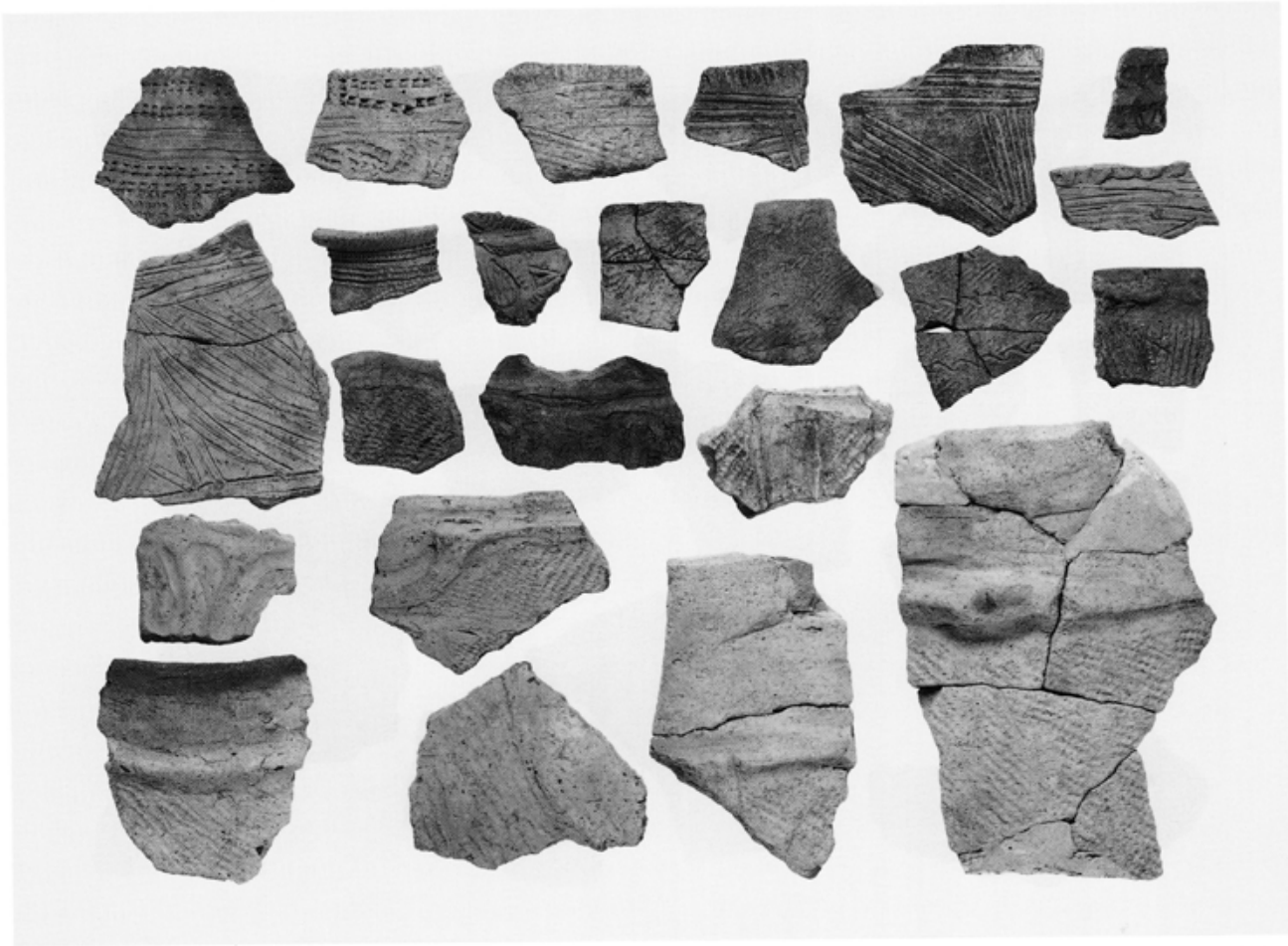


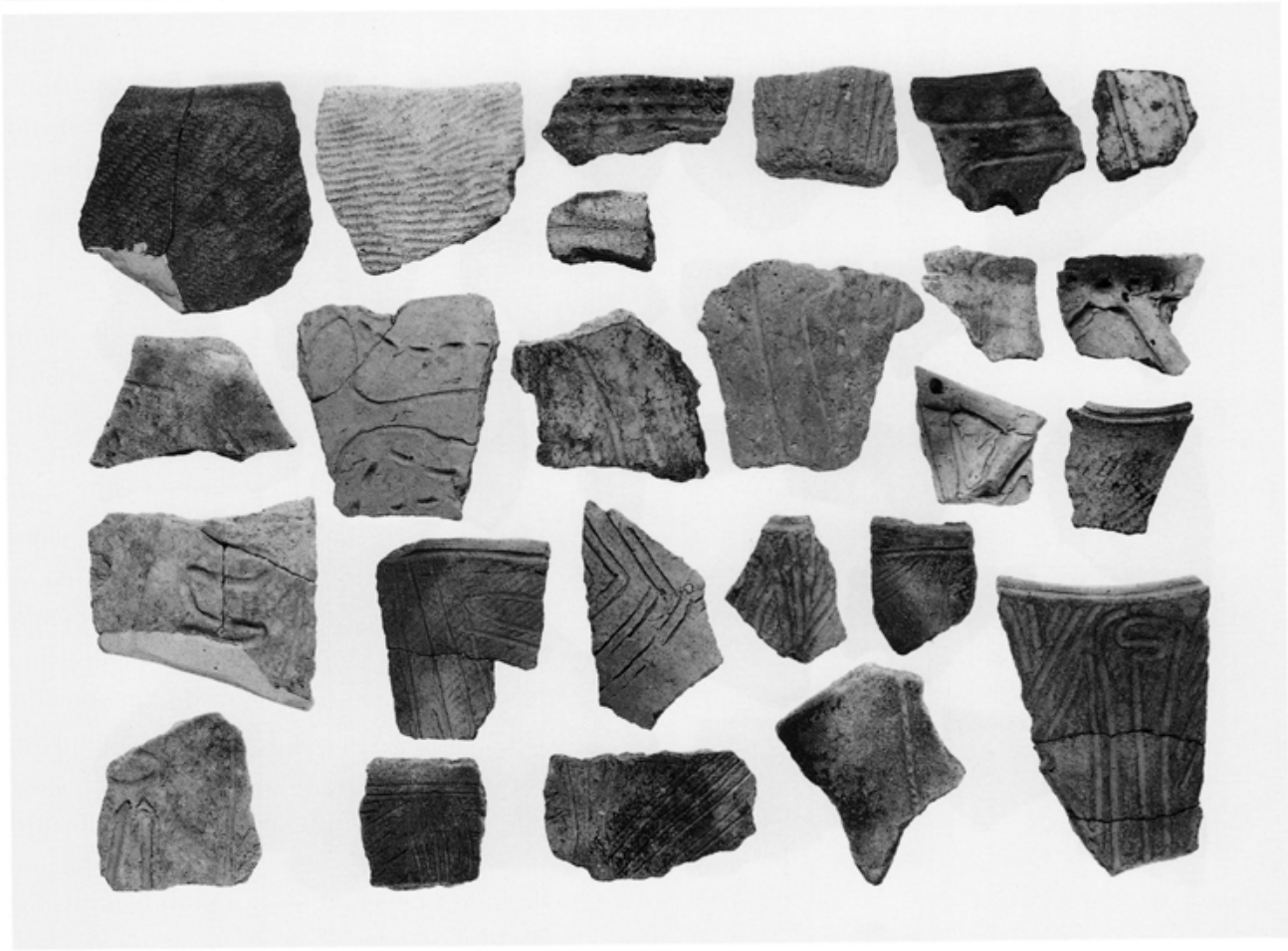


グリッド出土縄文土器（2）

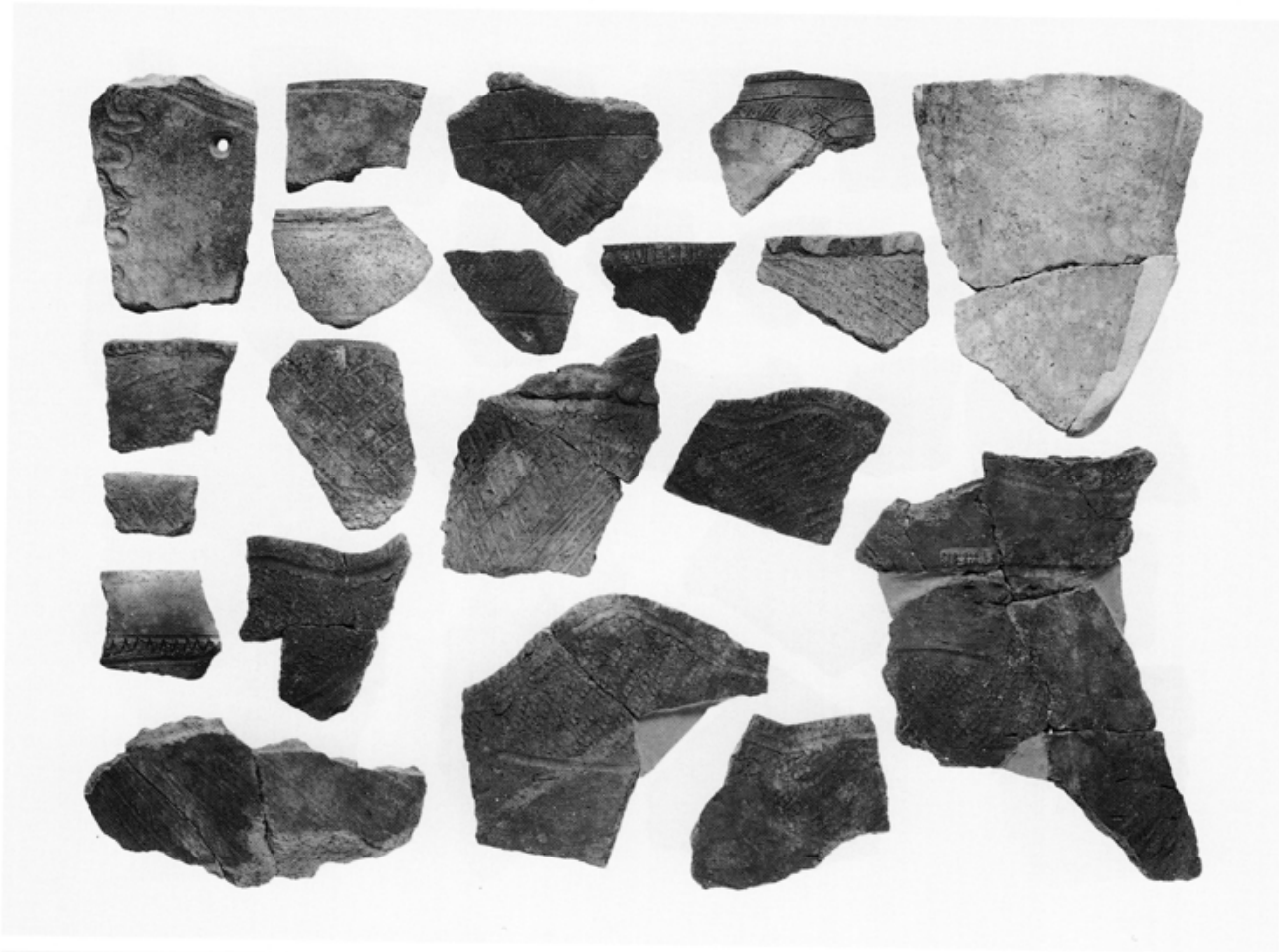


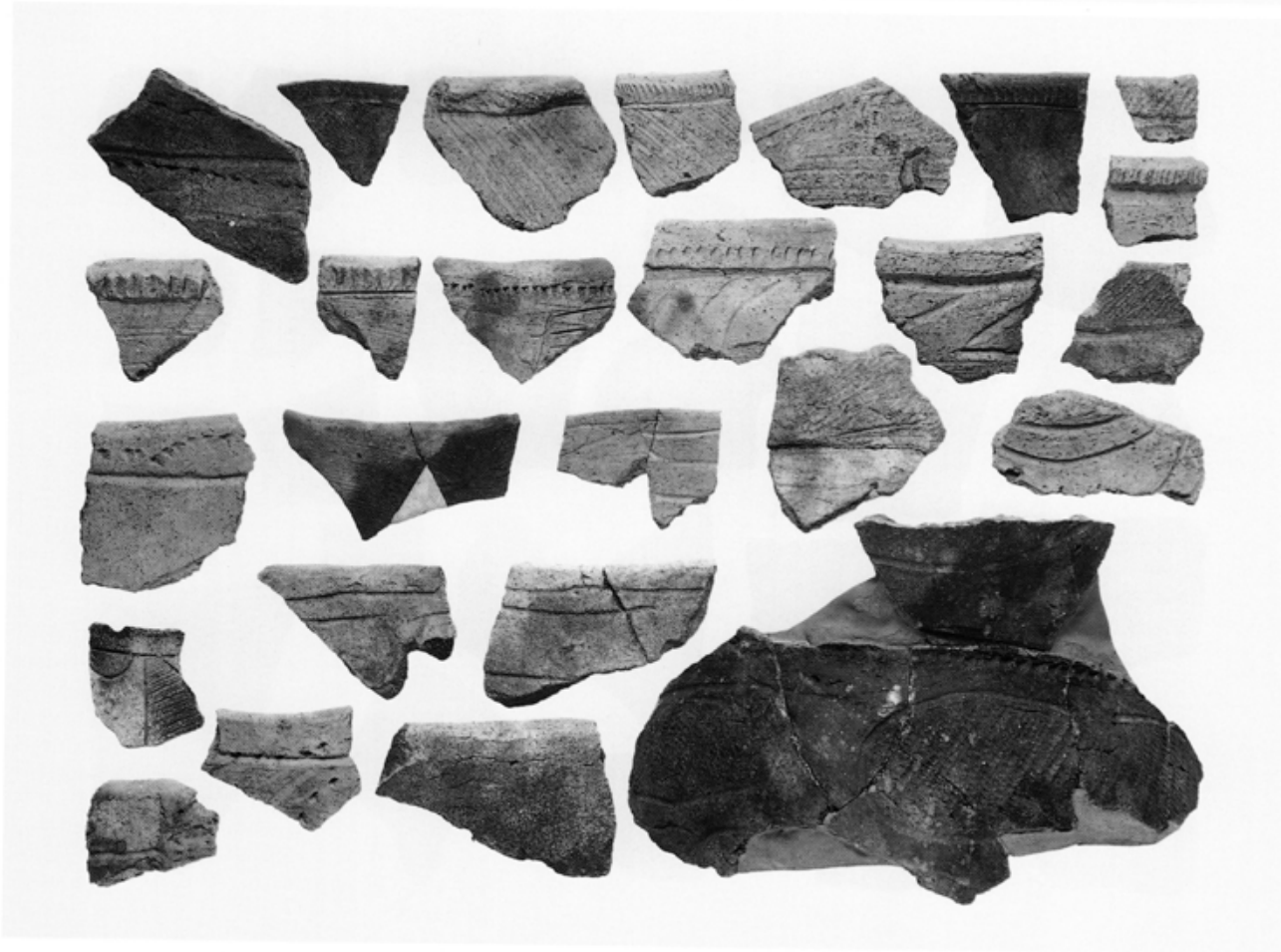
グリッド出土縄文土器（3）



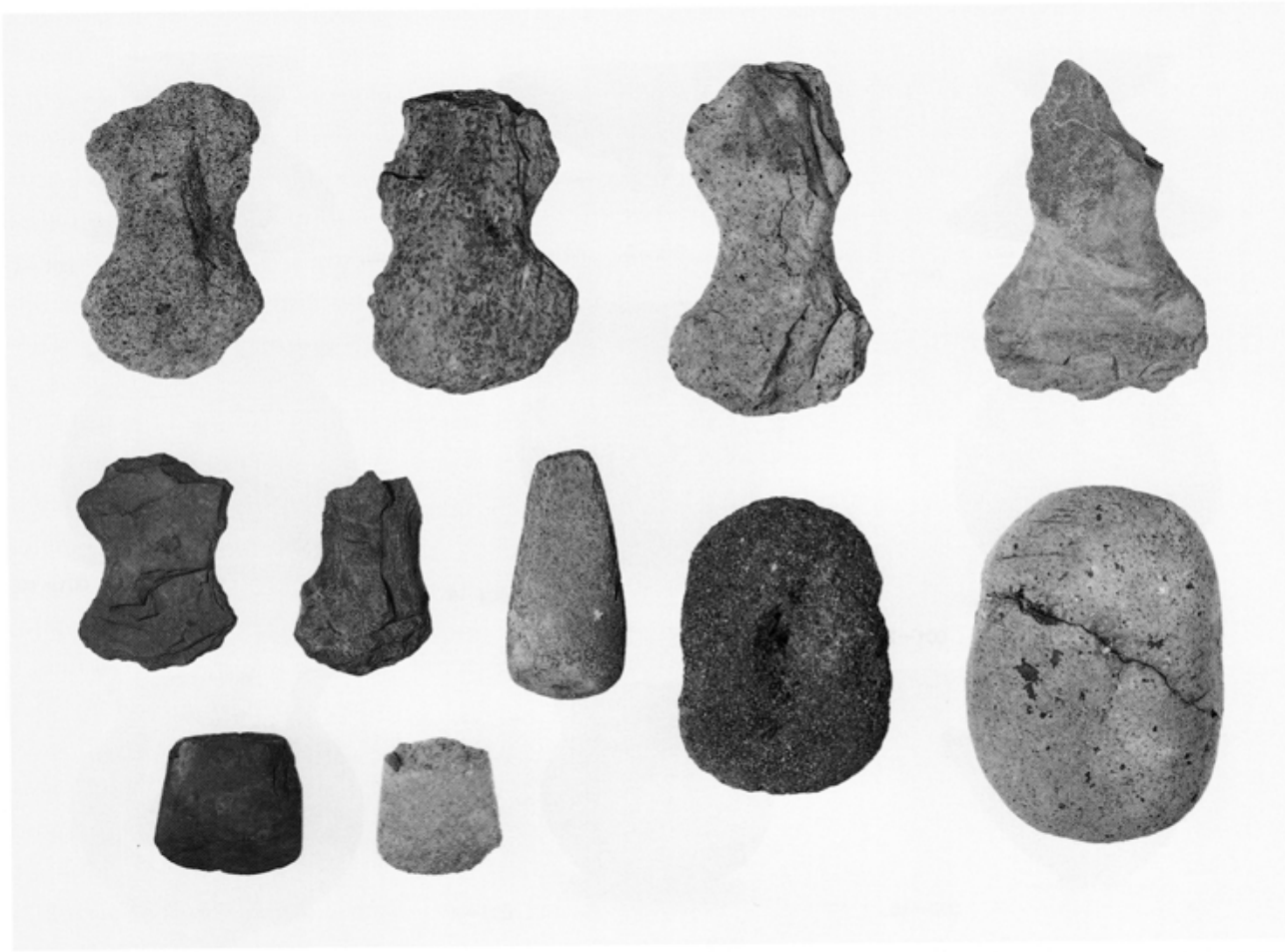


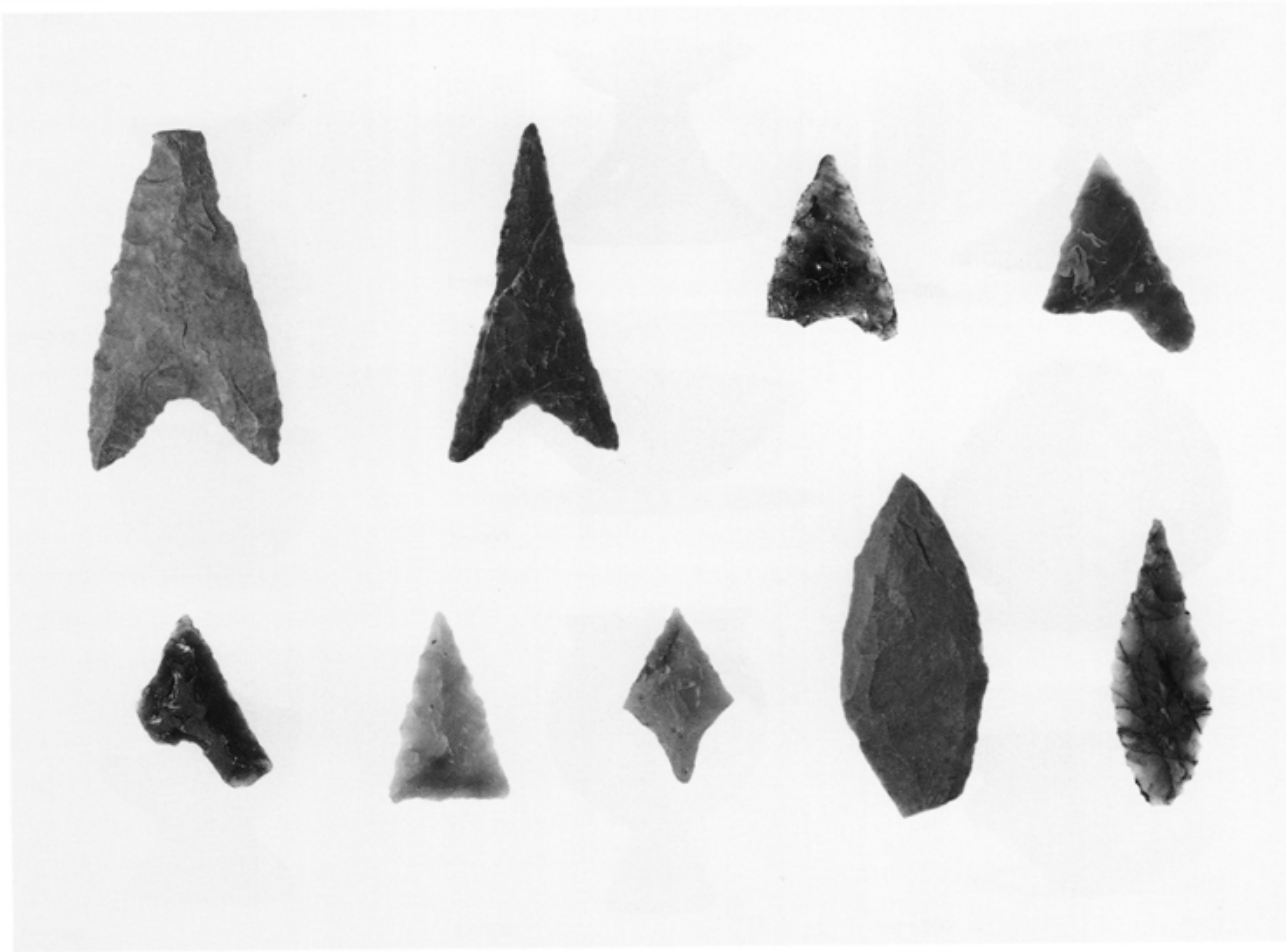
グリッド出土縄文土器（4）





グリッド出土縄文土器（5）





グリッド出土石器

001－1

001－3

001－4

001－7

001－8

001－10

002－16

003－2

004－1

005－8

005－1

005－2

005－11

006－1

007－1

007－6

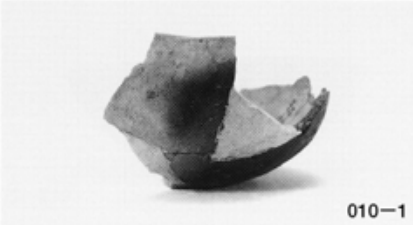
007－5

007－3

竪穴住居跡出土土器（1）

008−2

009−1


010−1

010−5

010−6

010−8

010−22

010−14

010−12

011−3

011−10

011−7

012−2

013−2

013−4

013−3

014−4

014−1

竪穴住居跡出土土器（2）

019−2

019−1

019−5

021−3

022−1

022−8

015−1

019−3

015−6

021−4

022−3

022−14

015−2

015−3

021−2

015−5

022−7

022−17

竪穴住居跡出土土器（3）

023−1

024−1

024−2

024−3

024−4

024−5

024−12

024−9

024−8

024−11

024−14

024−13

024−24

024−15

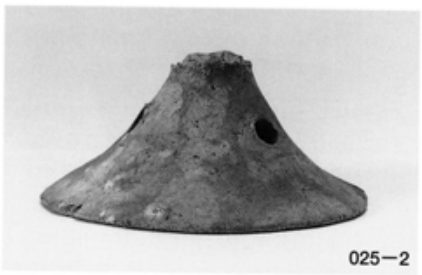
024−18

024−17

024−16

024−25

竪穴住居跡出土土器（4）


025−2

025−4

025−5

025−1

026−1

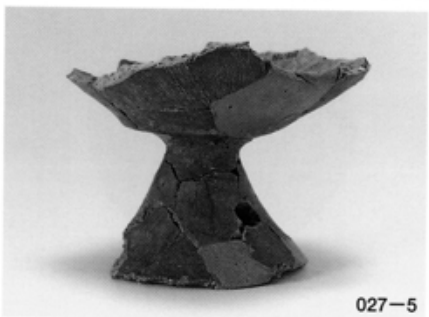
026−2

025−6

026−6

026−4

027−3


027−5

028−4

027−9

027−8

028−5

028−6

028−10

028−11

竪穴住居跡出土土器（5）

028−16

028−17

028−3

028−1

028−21

028−24

028−32

028−39

028−29

028−28

028−30

028−31

028−25

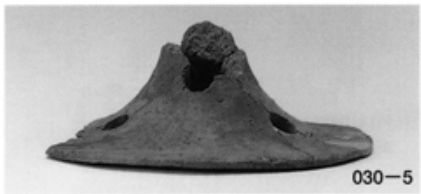
030−6

030−1

030−7

030−2

竪穴住居跡出土土器（6）


030−5

030−15

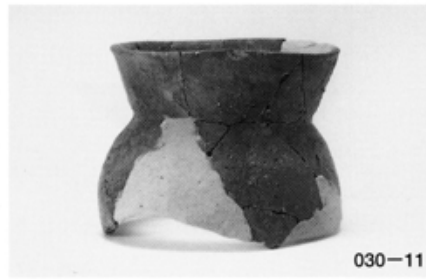
033−2

034−3

034−18

035−10

035−14


030−11

030−14

034−5

034−2

034−19

035−9

035−12

030−16

031−1

033−1

034−1

034−13

035−1

035−20

035−15

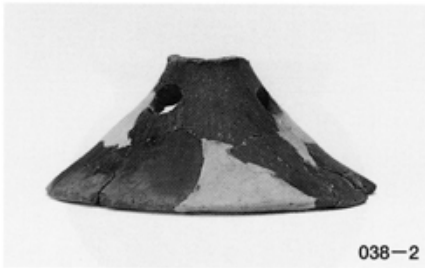
竪穴住居跡出土土器（7）

036−1

036−2

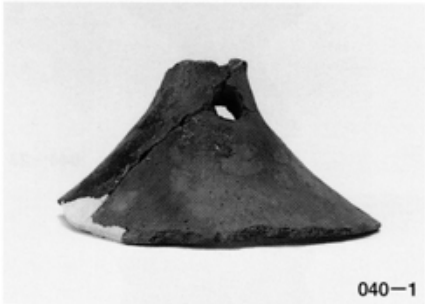
037−2

037−1


038−2

038−3

039−4


040−1

041−1

042−4

042−3

043−1

043−3

043−9

044−1

044−2

044−3

044−4

竪穴住居跡出土土器（8）

044−16

044−18

044−20

044−24

044−23

044−22

044−21

044−29

044−28

044−11

045−3

045−6

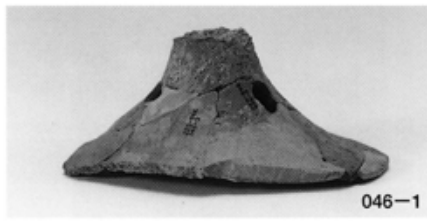
045−5

045−4

045−7

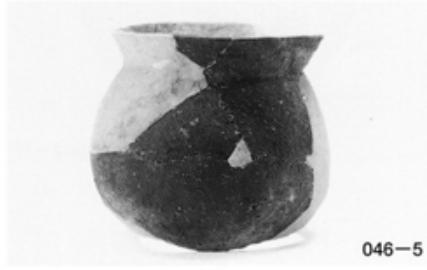
竪穴住居跡出土土器（9）

046−2


046−1

046−3

046−4


046−5

048−5

048−6

048−7

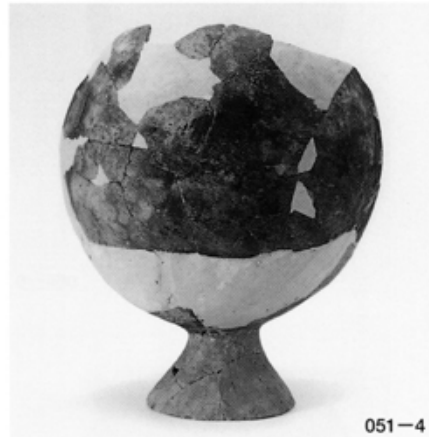
049−4

050−1

050−3

050−8

050−13


051−4

051−2

051−8

051−5

051−9

竪穴住居跡出土土器（10）

052−17

052−15

052−14

052−16

052−18

053−1

053−2

053−7

053−5

054−4

054−8

056−1

054−11

060−1

056−2

059−1

060−2

竪穴住居跡出土土器（11）

063−1

063−2

063−3

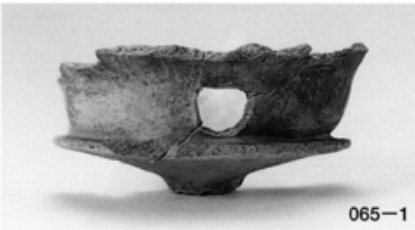
063−6

063−8

063−9

065−4

065−2


065−1

067−2

067−1

066−4

067−4

067−3

067−10

067−5

067−8

067−13

067−11

竪穴住居跡出土土器（12）

067−14

067−12

067−16

068−1

068−5

068−3

069−5

071−4

071−2

071−7

071−6

071−1

073−1

073−4

073−3

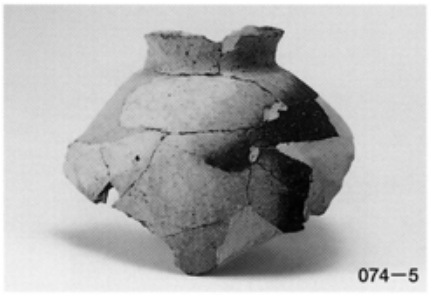
074−2

074−3

074−1

竪穴住居跡出土土器（13）

074−4


074−5

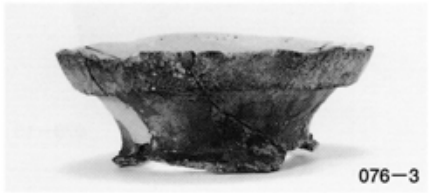
074−6

075−2

075−1

075−4

076−2


076−3

076−4

077−1

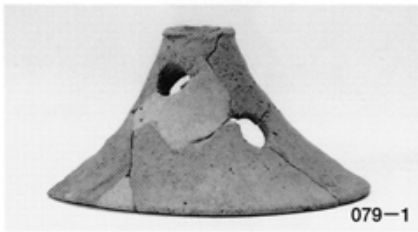
077−2

077−3

078−1

078−2

078−5

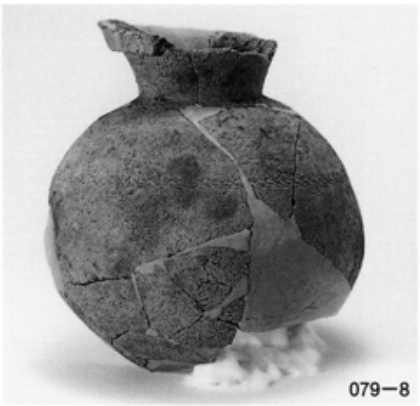

079−1

079−5

079−7

079−2

竪穴住居跡出土土器（14）


079−8

079−9

079−10

079−14

079−15

079−20

079−19

079−11

079−25

080−7

080−10

080−11

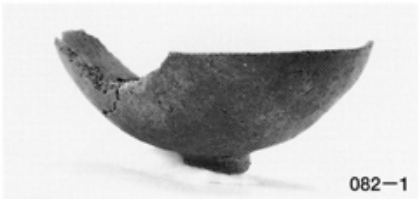
081−2

081−8

081−6

081−13

竪穴住居跡出土土器（15）


082−1

083−1

083−5

085−2

085−3

085−7

085−6

085−11

085−12

085−10

085−14

085−15

085−13

086−1

086−3

087−1

087−5

087−6

竪穴住居跡出土土器（16）

088−3

089−3

089−1

091−1

092−5

092−4

092−6

092−9

092−8

092−12

092−16

092−14

092−13

092−15

092−10

092−17

092−11

092−19

092−20

竪穴住居跡出土土器（17）

092−21

092−30

092−26

092−27

092−25

093−1

093−5

094−5

094−4

093−6

39（27−N）

2（27−L）

18（27−L）

7（27−O）

29（27−L）

49（27N−74）

6（29−N）

竪穴住居跡出土土器（18）・グリッド出土土器（1）

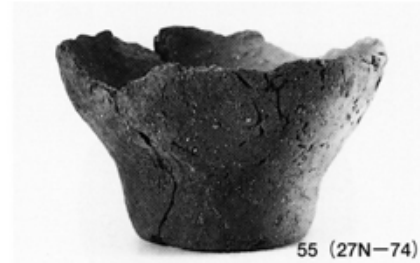
50（27N−74）

51（27N−74）

52（27N−74）

53（27N−74）

54（27N−74）


55（27N−74）

56（27N−74）

58（27N−74）

57（27N−74）

64（27N−74）

62（27N−74）

60（27N）

63（27N−14）

66（27N−74）

67（27N−74）

68（27N−74）

70（27N−74）

71（27N−74）

グリッド出土土器（2）

73（27N−74）

74（27N−74）

75（28N）

79（27N）

87（27N−74）

77（27N−74）

83（27N−74）

88（27N−74）

89（27N−74）

102（27N−74）

8（28−O）

グリッド出土土器（3）

報告書抄録

ふりがな	ながれやましんしがいちちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書1
副書名	市野谷宮尻遺跡
巻次	1
シリーズ名	財団法人千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第545集
編著者名	栗田則久
編集機関	財団法人　千葉県教育振興財団
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　　Tel.043－422－8811
発行年月日	西暦2006年3月24日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
市野谷宮尻遺跡（いちのやみやじりいせき）	流山市西初石5丁目54ほか（ながれやましにしはついし）	12220	046	35度52分17秒	139度55分21秒	20001201～20030227	73,296	土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市野谷宮尻遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代	竪穴住居跡　2軒 陥し穴　2基 竪穴住居跡　90軒 土坑　3基	縄文土器，石斧，石鏃 墨書土器，土師器，土製勾玉，土玉	主に古墳時代前期の竪穴住居で構成される大規模な集落で，全国でも類例の少ない東海系・北陸系土器の出土など，本遺跡の性格を考える上で重要な遺物である。さらに，伊勢湾周辺からの文化の流れも暗示している。

千葉県教育振興財団調査報告第545集

流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書 1

— 流山市市野谷宮尻遺跡 —

平成18年 3 月24日発行

編　　集　　財団法人　千葉県教育振興財団

発　　行　　独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1－3

財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地 2

印　　刷　　株式会社　正　　文　　社
千葉市中央区都町1-10-6